数量公開用図書

設　計	令和8年8月
設計者	
審査者	

工事名称　　なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事

工事場所　　北海道河西郡中札内村上札内328

※注意事項

①本設計書は参考数量として取り扱い、数量の相違については、
各々の判断で入札価格に反映させてください。

□設計説明

１ 工　　期　契約上の着工日から令和１０年９月２１日まで
２ 仕 様 書　別紙「特記仕様書」による。

□設計概要

１ 構造・規模
RC造　３階建て(地上２階、地下１階)
延床面積：3,229.315m2

２ 工事概要
耐震補強工事（新設RC壁、増打RC壁、耐震ｽﾘｯﾄ等）
耐震補強工事に伴う外壁・建具・内装・塗装・環境配慮改修工事
電気設備工事、機械設備工事
【耐震補強箇所】
地下：増打RC壁 2か所
１階：新設RC壁 8か所、増打RC壁 7か所、耐震ｽﾘｯﾄ 2か所
２階：新設RC壁 8か所、増打RC壁 2か所、耐震ｽﾘｯﾄ 6か所
PH階：増打RC壁 2か所

（ 工事価格　　）

工事費内訳 2

名　　称	数　　量	単位	金　　額	備　　考
直接工事費				
建築工事	1	式		
電気設備工事	1	式		
機械設備工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		

工事費内訳 3

名　　称	数　　量	単位	金　　額	備　　考
調査基準価格	1	式		
調査基準価格の100/110	1	式		

名　　称	数　　量	単位	金　　額	備　　考
建築工事	1	式		
電気設備工事	1	式		
機械設備工事	1	式		
計				

建築工事　種目別内訳　5

名　称	数　量	単位	金　額	備　考
管理棟	1	式		
計				

電気設備工事　種目別内訳　6

名　称	数　量	単位	金　額	備　考
管理棟	1	式		
計				

名　称	数　量	単位	金　額	備　考
管理棟	1	式		
計				

建築工事　科目別内訳

管理棟

名　　称	数　量	単位	金　　額	備　　考
直接仮設	1	式		
外壁改修	1	式		
建具改修	1	式		
内装改修	1	式		
塗装改修	1	式		
耐震改修	1	式		
環境配慮改修	1	式		
発生材処理	1	式		
計				

電気設備工事　科目別内訳

管理棟

名　　称	数　量	単位	金　　額	備　　考
改修工事	1	式		
撤去工事	1	式		
発生材処理	1	式		
計				

管理棟

名　称	数　量	単位	金　額	備　考
空気調和設備	1	式		
換気設備	1	式		
衛生器具設備	1	式		
給水設備	1	式		
排水設備	1	式		
給湯設備	1	式		
雨水利用設備	1	式		
撤去工事	1	式		
発生材処理	1	式		
計				

管理棟

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
直接仮設		1	式		
計					
外壁改修	撤去	1	式		
外壁改修	改修	1	式		
計					
建具改修	撤去	1	式		
建具改修	改修	1	式		
計					
内装改修	撤去	1	式		
内装改修	改修	1	式		
計					
塗装改修	改修	1	式		
計					
耐震改修	撤去	1	式		
耐震改修	改修	1	式		

管理棟

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
計					
環境配慮改修	撤去	1	式		
計					
発生材処理	運搬	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

電気設備工事　中科目別内訳

管理棟

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
改修工事	照明コンセント設備	1	式		
改修工事	弱電・火災報知設備	1	式		
計					
撤去工事	撤去(再使用しない)	1	式		
撤去工事	撤去(取外し)	1	式		
撤去工事	再取付	1	式		
計					
発生材処理	運搬	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

機械設備工事　中科目別内訳

管理棟

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
空気調和設備	機器設備	1	式		
空気調和設備	配管設備	1	式		
計					
換気設備	機器設備	1	式		
換気設備	ダクト設備	1	式		
計					
衛生器具設備		1	式		
計					
給水設備		1	式		
計					
排水設備		1	式		
計					
給湯設備		1	式		
計					
雨水利用設備		1	式		

管理棟

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
計					
撤去工事		1	式		
計					
発生材処理	運搬	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

管理棟　直接仮設

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
墨出し		1	建改 式			
養生		1	建改 式			
整理清掃後片付け		1	建改 式			
外部足場		1	建改 式			
内部足場		1	建改 式			
災害防止		1	建改 式			
仮設間仕切		1	建改 式			
仮設材運搬		1	建改 式			
計						

管理棟　外壁改修　撤去

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
床 花崗岩撤去	集積共	0.5	建改 ㎡			
床ﾓﾙﾀﾙ・床人研ぎ 撤去	集積共	0.5	建改 ㎡			
天井合板・ﾎﾞｰﾄﾞ 撤去	一重張り　一般 集積共	4.2	建改 ㎡			
天井ｸﾞﾗｽｳｰﾙ撤去	集積共	4.2	建改 ㎡			
黒土撤去	集積共	1.	建改 m3			
計						

管理棟	外壁改修				改修	
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
壁 ECP板	t60 ﾌﾗｯﾄ 横張り 裏打ち:PF板 t20	17.3	建改 ㎡			
ECP四方取合枠	BB-2 t2.0 W=320+80 折曲加工	4.8	建改 m			
ECP四方取合枠	BB-2 t2.0 W=80+60 折曲加工	3.6	建改 m			
ECP下部通し金物	FB-9×120 ｱﾝｶｰM10 @900共	3.6	建改 m			
壁 ｱﾙﾐﾊﾟﾈﾙ	BB-2 t2.0 折曲加工	2.9	建改 ㎡			
ｱﾙﾐ水切	BB-2 t2.0 W=65+40 折曲加工	3.6	建改 m			
ECP下部樹脂ﾓﾙﾀﾙ 塗	W=150	3.6	建改 m			
硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付 （面吹付）	難燃級 ﾉﾝﾌﾛﾝ仕様　壁面　密度30kg/m3 厚 40mm	48.7	建改 ㎡			
壁 不燃現場吹付材	t10	48.7	建改 ㎡			
複層塗材 E	ｺﾝｸﾘｰﾄ面　ゆず肌状 ﾛｰﾗｰ塗り ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費(C-1)共	34.2	建改 ㎡			
天井 石綿ｾﾒﾝﾄ板	t6.0 目透し張り	4.2	建改 ㎡			
天井 ｸﾞﾗｽｳｰﾙ敷込み	16K t200	4.2	建改 ㎡			
軽量鉄骨天井下地	25形(屋外) ふところ1.0m未満 下地張りなし @300 ｲﾝｻｰﾄ別途	4.2	建改 ㎡			
黒土埋戻し		1.	建改 m3			
各種ｼｰﾘﾝｸﾞ		1	建改 式			

管理棟	外壁改修				改修	
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
計						

管理棟	建具改修			撤去		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
建具周囲はつり	RC 15cm 集積共	4.8	建改 m			
AP1 ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ撤去	W8730×H2800 集積共	1.	建改 か所			
AP2 ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ撤去	W5880+2880×H2800 集積共	1.	建改 か所			
AP3 ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ撤去	W3420+2670×H2800 集積共	1.	建改 か所			
SD1 片開きﾌﾗｯｼｭ戸	W800×H2000 枠共 集積共	1.	建改 か所			
SD2 両開きﾌﾗｯｼｭ戸撤去	W1600×H2000 枠共 集積共	1.	建改 か所			
SD3 両開きﾌﾗｯｼｭ戸	W4000×H3235 枠共 集積共	1.	建改 か所			
SD6 片開きﾌﾗｯｼｭ戸撤去	W600×H1800 枠共 集積共	2.	建改 か所			
SD16 片開きﾌﾗｯｼｭ防火戸撤去	W1845×H2885 枠共 集積共	1.	建改 か所			
SD18 片開きﾌﾗｯｼｭ戸撤去	W800×H2000 枠共 集積共	1.	建改 か所			
SD19 両開きﾌﾗｯｼｭ戸撤去	W1600×H2000 枠共 集積共	1.	建改 か所			
SF2 防煙ﾀﾚ壁撤去	W1815×H950 枠共 集積共	2.	建改 か所			
SW2 外倒し排煙窓+嵌め殺し窓撤去	W3600×H2250 枠共 集積共	2.	建改 か所			
WD1 片開きﾌﾗｯｼｭ戸撤去	W800×H2000 枠共 集積共	1.	建改 か所			
WD2 片開きﾌﾗｯｼｭ戸撤去	W800×H2000 枠共 集積共	1.	建改 か所			

管理棟	建具改修			撤去		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
WD3 親子開きﾌﾗｯｼｭ戸撤去	W1200×H2000 枠共 集積共	1.	建改 か所			
WS1 引違い障子撤去	W1700×H2338 枠共 集積共	1.	建改 か所			
WS2 連引違い障子撤去	W2580×H2338 枠共 集積共	1.	建改 か所			
F1 引違い襖戸撤去	W1747.5×H1800 枠共 集積共	1.	建改 か所			
F1' 引違い襖戸撤去	W1712.5×H1800 枠共 集積共	1.	建改 か所			
F2 3本引違い襖戸撤去	W2665×H1800 枠共 集積共	1.	建改 か所			
F3 2連引違い襖戸撤去	W3500×H1800 枠共 集積共	1.	建改 か所			
ｶﾞﾗｽ撤去	集積共	39.	建改 ㎡			
計						

管理棟	建具改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
(ｱﾙﾐ製建具)						
AW101 外開き窓	BB-1 W850×H800	2.	建改 か所			
AW102 はめ殺し窓	BB-1 W850×H800	2.	建改 か所			
小計						
(鋼製建具)						
SD101 片開きﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ	扉内ｳﾚﾀﾝﾎﾞｰﾄﾞ充填 W650×H1095 室名書込共	2.	建改 か所			
SD102 片開きﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ	SAT(断熱) 扉内ｳﾚﾀﾝﾎﾞｰﾄﾞ充填 W650×H1095 室名書込共	2.	建改 か所			
SD103 片開きﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ	特定防火設備 SAT(防音) 扉内ﾛｯｸｳｰﾙ充填 W600×H1295 室名書込共	2.	建改 か所			
SD104 片開きﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ	扉内ｳﾚﾀﾝﾎﾞｰﾄﾞ充填 W700×H2000	1.	建改 か所			
SD105 両開きﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ	特定防火設備 AT(防音) 扉内ﾛｯｸｳｰﾙ充填 W2250×H2625	1.	建改 か所			
SD106 片開きﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ(くぐり戸付)	特定防火設備 W1835×H2875	1.	建改 か所			
SD107 両開きﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ	特定防火設備 W1600×H2000	1.	建改 か所			
小計						
(軽量鋼製建具)						
LD101 片開きﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ	W800×H2000	1.	建改 か所			

管理棟	建具改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
LD102 片開きﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ	W800×H2000	1.	建改 か所			
LD103 親子開きﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ	W1200×H2000	3.	建改 か所			
LD104a 親子開きﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ	W1200×H2000	1.	建改 か所			
LD104b 親子開きﾌﾗｯｼｭﾄﾞｱ	W1200×H2000	1.	建改 か所			
LD105 三方枠	W1300×H2000	1.	建改 か所			
小計						
(木製建具)						
WD101 引違い戸	樹脂化粧ｼｰﾄ　枠共 W1745×H2000	1.	建改 か所			
WD102 折れ戸	樹脂化粧ｼｰﾄ　枠共 W800×H2000	1.	建改 か所			
WD103 折れ戸	樹脂化粧ｼｰﾄ　枠共 W1620×H2000	1.	建改 か所			
WD104 折れ戸	樹脂化粧ｼｰﾄ　枠共 W1255×H2000	1.	建改 か所			
小計						
(ｶﾞﾗｽ)						
複層ｶﾞﾗｽ	FL5+A12+FL5 2.00m2以下	2.7	建改 ㎡			
ｶﾞﾗｽとめ(ｼｰﾘﾝｸﾞ)	ｼﾘｺﾝ　1成分形 SR-1	13.2	建改 m			

管理棟	建具改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
小計						
（その他）						
ＤＰ塗り	鋼製建具面　1級 錆止共	95.9	建改 ㎡			
建具周囲防水 ﾓﾙﾀﾙ充填	外部建具	30.	建改 m			
建具周囲 ﾓﾙﾀﾙ充填	内部建具	60.	建改 m			
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 変成ｼﾘｺｰﾝ系(MS-2) 10×10	30.	建改 m			
小計						
計						

管理棟	内装改修			撤去		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ｶｯﾀｰ入れ	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 厚さ20～30㎜	64.1	建改 m			
ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	無筋　ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｶ 集積共	9.5	建改 m3			
ｶｯﾀｰ入れ	ﾓﾙﾀﾙ面　厚さ20～30㎜	205.	建改 m			
床ﾓﾙﾀﾙ・床人研ぎ 撤去	集積共	118.	建改 ㎡			
ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ撤去	石綿含有 集積共	47.5	建改 ㎡			
ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ撤去	石綿含有 集積共	48.	建改 ㎡			
ｶｰﾍﾟｯﾄ撤去	集積共	2.	建改 ㎡			
花崗岩撤去	集積共	26.5	建改 ㎡			
畳撤去	一畳 集積共	14.	建改 枚			
床・縁甲板 ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ撤去	集積共	4.6	建改 ㎡			
床下地板撤去	集積共	7.4	建改 ㎡			
床組撤去	ころばし 集積共	12.	建改 ㎡			
床PP板撤去	集積共	22.	建改 ㎡			
ﾋﾞﾆﾙ幅木撤去	石綿含有 集積共	45.4	建改 m			
木製幅木撤去	石綿含有 集積共	8.3	建改 m			

管理棟	内装改修					撤去
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ｽﾃﾝﾚｽ幅木撤去	集積共	43.1	建改 m			
ｶｯﾀｰ入れ	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ	2.4	建改 m			
CB撤去	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｶ 集積共	3.4	建改 m3			
ｶｯﾀｰ入れ	ﾓﾙﾀﾙ面　厚さ20～30mm	2.4	建改 m			
壁ﾀｲﾙ撤去	下地ﾓﾙﾀﾙ共 集積共	19.	建改 m2			
壁ｸﾛｽ撤去	集積共	161.	建改 m2			
壁合板･ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	一重張り 一般　集積共	368.	建改 m2			
壁合板･ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	一重張り 石綿含有 集積共	194.	建改 m2			
壁合板･ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	二重張り 一般　集積共	41.8	建改 m2			
壁下地撤去	集積共	397.	建改 m2			
天井合板･ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	一重張り 一般 集積共	42.4	建改 m2			
天井合板･ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	一重張り 石綿含有 集積共	78.6	建改 m2			
天井合板･ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	二重張り 一般 集積共	224.	建改 m2			
天井下地撤去	集積共	273.	建改 m2			
天井 ｸﾞﾗｽｳｰﾙ撤去	集積共	36.2	建改 m2			

管理棟	内装改修					撤去
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ撤去	集積共	1.	建改 m			
階段ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ撤去	集積共	1.2	建改 m			
ﾌﾟﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ撤去	ｱﾙﾐ W120×H80×L4000 集積共	2.	建改 か所			
湯沸室 流し台撤去	L=1500 集積共	1.	建改 か所			
湯沸室 ｺﾝﾛ台撤去	L=600 集積共	1.	建改 か所			
湯沸室 吊戸棚撤去	W1500×D380×H600 集積共	1.	建改 か所			
湯沸室 水切棚撤去	ｽﾃﾝﾚｽ L=1200 集積共	1.	建改 か所			
湯沸室 ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞ撤去	W=600 集積共	1.	建改 か所			
湯沸室 ﾗｲﾆﾝｸﾞ笠木撤去	L=1800 集積共	1.	建改 か所			
便所 鏡撤去	集積共	5.8	建改 m2			
便所 自立型BOX撤去	集積共	1.	建改 か所			
便所 照明ﾎﾞｯｸｽ撤去	W1900×D300×H200 集積共	2.	建改 か所			
便所 洗面ｶｳﾝﾀｰ撤去	W1800×D600 集積共	1.	建改 か所			
ﾎｰﾙ 下足棚撤去	W3600×D350×H1350 集積共	1.	建改 か所			
ﾛｯｶｰ室 木製棚撤去	W1800×D500×H2600 集積共	1.	建改 か所			

管理棟	内装改修			撤去		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
廊下 木製棚撤去	W1800×D600×H2900 集積共	1.	建改 か所			
資料室 ｻｯｼ方立取合 仕切り壁撤去	ｱﾙﾐ W710×H1840 集積共	1.	建改 か所			
資料室 ﾍﾟﾘｶﾊﾞｰ撤去	W5200×D600×H1000 集積共	1.	建改 か所			
資料室 ﾍﾟﾘｶﾊﾞｰ撤去	W5700×D600×H1000 集積共	1.	建改 か所			
計						

管理棟	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
(床)						
床 ｳﾚﾀﾝ系塗床	t2.0 ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ工法	12.6	建改 ㎡			
床 ｳﾚﾀﾝ系塗床	t2.0 ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ工法 既存除去共	1.7	建改 ㎡			
床　防塵塗装	ｴﾎﾟｷｼ樹脂系　　防滑仕上げ 着色	0.8	建改 ㎡			
床 塗膜防水	Y-2 ｹﾚﾝ清掃共	2.3	建改 ㎡			
立上り 塗膜防水	Y-2 ｹﾚﾝ清掃共	1.5	建改 ㎡			
ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ	無 地 厚さ2.5 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄFS 一般床 熱溶接工法 -	20.6	建改 ㎡			
ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ	無 地 厚さ2.5 複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄFS 一般床 熱溶接工法　ｹﾚﾝ・清掃共	21.	建改 ㎡			
ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	厚さ2.0 ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙKT 一般床 -	9.3	建改 ㎡			
ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	厚さ2.0 ｺﾝﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙKT 一般床　ｹﾚﾝ・清掃共	25.4	建改 ㎡			
床ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ	総厚6.5 500角 1種ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ 一般事務室用	25.4	建改 ㎡			
床 花崗岩	t25 ｼﾞｪｯﾄﾊﾞｰﾅｰ仕上	0.3	建改 ㎡			
床 花崗岩	t25 本磨き	14.1	建改 ㎡			
天然木化粧複合 ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ張り	C種 厚さ12 なら	1.1	建改 ㎡			
床 合板張り	ｼﾅﾍﾞﾆﾔ t9	3.	建改 ㎡			

管理棟	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
床 下地合板張り	t12	28.5	建改 ㎡			
床 二重床下地	H=150	28.5	建改 ㎡			
床 際根太		35.3	建改 m			
床ﾓﾙﾀﾙ塗り	金ごて ﾋﾞﾆﾙ系床材下地 厚28	41.3	建改 ㎡			
床ﾓﾙﾀﾙ塗	金ごて ﾋﾞﾆﾙ系床材下地 厚77.5	3.9	建改 ㎡			
床ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し 仕上げ	金ごて 直均し仕上げ	1.6	建改 ㎡			
床ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し 仕上げ	金ごて 塗床下地	13.4	建改 ㎡			
無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	帯広地区　　呼び強度18 ｽﾗﾝﾌﾟ15cm	5.2	建改 m3			
ﾎｰﾙ 上り框	花崗岩 300×180 本磨き	1.	建改 か所			
側溝ﾓﾙﾀﾙ塗り	金ごて 糸幅200	19.2	建改 m			
階段ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ	ｽﾃﾝﾚｽ製(硬質ｺﾞﾑﾀｲﾔ入れ式)後付 -	0.7	建改 m			
小計						
(幅木・壁)						
ﾋﾞﾆﾙ幅木	高さ60	145.	建改 m			
木製幅木	H=60 ｳｫｰﾙﾅｯﾄ練付材	9.6	建改 m			

管理棟	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ｽﾃﾝﾚｽ幅木	H=60 t2.0 HL仕上	66.6	建改 m			
雑巾摺		8.5	建改 m			
壁 ﾋﾞﾆﾙｸﾛｽ張り	ﾎﾞｰﾄﾞ面 素地B種共	268.	建改 ㎡			
壁 石調ﾃﾞｻﾞｲﾝ吹付	ｺﾝｸﾘｰﾄ面	93.7	建改 ㎡			
壁 石調ﾃﾞｻﾞｲﾝ吹付	鉄鋼面	1.1	建改 ㎡			
壁 化粧ﾊﾟﾈﾙ	亜鉛ﾒｯｷ鋼板 焼付塗装 芯材:石膏ﾎﾞｰﾄﾞt12.5 目地ｶﾊﾞｰ仕様 直貼り式	9.	建改 ㎡			
壁 着色ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ	t4 ｼﾞｮｲﾅｰ併用	26.7	建改 ㎡			
壁 不燃化粧合板	ｳｫｰﾙﾅｯﾄ 接着張り	41.7	建改 ㎡			
壁 JTB	t12.5	306.	建改 ㎡			
壁 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ 張り(GB-R)	厚12.5　不燃 鋼製､木､ﾎﾞｰﾄﾞ下地 下地張り -　　-	50.7	建改 ㎡			
壁 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ 張り(GB-R)	厚12.5　不燃 鋼製､木､ﾎﾞｰﾄﾞ下地 突付け -　　-	24.	建改 ㎡			
壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞ せっこうﾎﾞｰﾄﾞ 張り(GB-S)	厚12.5　不燃 鋼製､木､ﾎﾞｰﾄﾞ下地 下地張り -　　-	1.6	建改 ㎡			
壁 ｼｰｼﾞﾝｸﾞ せっこうﾎﾞｰﾄﾞ 張り(GB-S)	厚12.5　不燃 RC､CB直張り　　下地張り -　　-	19.5	建改 ㎡			
壁 石綿ｾﾒﾝﾄ板	t6 目透し張り	196.	建改 ㎡			
壁 石綿ｾﾒﾝﾄ板	t6 目透し張り 直張り	51.9	建改 ㎡			

管理棟	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
壁 耐水合板	t12	5.6	建改 ㎡			
壁 複層塗材E	ｺﾝｸﾘｰﾄ面　ゆず肌状 ﾛｰﾗｰ塗り ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費(C-1)共	116.	建改 ㎡			
壁 複層塗材E	ｾﾒﾝﾄ板面 ゆず肌状 ﾛｰﾗｰ塗り ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費(E)共	185.	建改 ㎡			
壁 幕板ﾊﾟﾈﾙ	ﾎﾞﾝﾃﾞ鋼板 t1.6 折曲加工	1.1	建改 ㎡			
壁 不燃現場吹付材	t10	94.8	建改 ㎡			
硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付 （面吹付）	難燃級 ﾉﾝﾌﾛﾝ仕様　壁面　密度30kg/m3 厚 40mm	294.	建改 ㎡			
壁 ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ板	厚さ50　打込み	0.5	建改 ㎡			
壁 ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音材	96K ｶﾞﾗｽｸﾛｽ仕上 t25	4.5	建改 ㎡			
壁 ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音材	96K ｶﾞﾗｽｸﾛｽ仕上 t50	15.8	建改 ㎡			
器材庫 壁見切	ｽﾃﾝﾚｽ 75×25 t1.5 折曲加工 HL	3.8	建改 m			
軽量鉄骨壁下地	65形 下地張りなし @300	517.	建改 ㎡			
軽量鉄骨壁下地	65形 下地張りあり @450	29.9	建改 ㎡			
軽量鉄骨壁下地	90形 下地張りなし @300	36.9	建改 ㎡			
軽量鉄骨壁 開口部補強		1	建改 式			
耐火間仕切	W=140 LGS=90 GB-Ft12.5+12.5 二重張り 両面 1時間耐火仕様	55.1	建改 ㎡			

管理棟	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
耐火間仕切四周処理		54.8	建改 m			
耐火間仕切壁 開口部補強		1	建改 式			
小計						
（天井）						
天井　ﾛｯｸｳｰﾙ 化粧吸音板張り (DR)	凹凸内部用 厚19　不燃 下張GB-NC　厚 9.5共	65.9	建改 ㎡			
天井　ﾛｯｸｳｰﾙ 化粧吸音板張り (DR)	ﾌﾗｯﾄ内部用 厚 9　不燃 下張GB-NC　厚 9.5共	148.	建改 ㎡			
天井 ｽﾀｯﾌﾟﾙ仕上		8.7	建改 ㎡			
天井 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ 張り(GB-R)	厚 9.5　準不燃 継目処理	0.8	建改 ㎡			
天井 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ 張り(GB-R)	厚 9.5　準不燃 突付け	3.	建改 ㎡			
天井 石綿ｾﾒﾝﾄ板	t6.0 目透し張り	51.9	建改 ㎡			
天井 不燃現場吹付材	t10	3.	建改 ㎡			
硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ吹付 （面吹付）	難燃級 ﾉﾝﾌﾛﾝ仕様　天井面　密度30kg/m3 厚 40mm	18.	建改 ㎡			
天井 ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音材	96K t50 ｶﾞﾗｽｸﾛｽ仕上	3.6	建改 ㎡			
天井ｸﾞﾗｽｳｰﾙ敷込み	16K t200	14.4	建改 ㎡			
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りあり @360 ｲﾝｻｰﾄ別途	171.	建改 ㎡			

管理棟	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りなし @300 ｲﾝｻｰﾄ別途	55.6	建改 ㎡			
軽量鉄骨天井 開口部補強		1	建改 式			
天井廻縁	塩化ﾋﾞﾆﾙ製	260.	建改 m			
天井点検口	一般ﾀｲﾌﾟ ｱﾙﾐ製 内外枠共額縁 450角	2.	建改 か所			
小計						
(その他)						
室名札	ｱｸﾘﾙ製 ｼﾙｸ印刷　平付け型 50×250	8.	建改 か所			
ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ	W=100 枠共	0.8	建改 m			
床目地棒	ｽﾃﾝﾚｽ製 3×9	1.8	建改 m			
ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ	ｱﾙﾐ BB-1 120×80 ﾌﾞﾗｹｯﾄ共	3.4	建改 m			
便所(女) 照明ﾎﾞｯｸｽ	W1390×D300×H200	1.	建改 か所			
便所(男) 照明ﾎﾞｯｸｽ	W1900×D300×H200	1.	建改 か所			
ﾎｰﾙ ｱﾙﾐﾙｰﾊﾞｰ・BOX 一部切り詰め	L=500	1.	建改 か所			
便所(女) 洗面ｶｳﾝﾀｰ	W1390×D600×H1000	1.	建改 か所			
便所(女) 鏡	t5 W1390×H1700	1.	建改 か所			

管理棟	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
便所(男) 鏡	t5 W1900×H1700	1.	建改 か所			
ﾎｰﾙ 下足棚	W3600×D350×H1350	1.	建改 か所			
ﾚｼﾞｽﾀｰ	φ75 ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ L=480 SUSｶﾞﾗﾘ・防虫網・つなぎﾊﾟｲﾌﾟ共	6.	建改 か所			
ﾚｼﾞｽﾀｰ	φ75 ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ L=530 SUSｶﾞﾗﾘ・防虫網・つなぎﾊﾟｲﾌﾟ共	4.	建改 か所			
石材化粧目地	花崗岩 40×60	8.2	建改 m			
各種ｼｰﾘﾝｸﾞ		1	建改 式			
会議室 曲面黒板 取外し・再取付	W3600×H1200	1.	建改 か所			
会議室 ｽｸﾘｰﾝﾎﾞｯｸｽ 取外し・再取付	W150×H150×L2700	1.	建改 か所			
会議室 電動ｽｸﾘｰﾝﾎﾞｯｸｽ 取外し・再取付	W200×H200×L2900	1.	建改 か所			
工作室 木製棚 取外し・再取付		1.	建改 か所			
身障者便所 ｽﾃﾝﾚｽ手摺 取外し・再取付		1.	建改 か所			
身障者便所 傾斜鏡 取外し・再取付		1.	建改 か所			
池棟 EXP.Jｶﾊﾞｰ 取外し・再取付	L=4000	1.	建改 か所			
天井 既存石綿板 取外し・再取付	W2700×D900	1.	建改 か所			
便所(男) 洗面ｶｳﾝﾀｰ 取外し・再取付		1.	建改 か所			

管理棟	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
廊下(1) 天井ﾙｰﾊﾞｰ 取外し･再取付	W5300×D600	2.	建改 か所			
小計						
計						

管理棟	塗装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
DP塗	ｾﾒﾝﾄ板面 一般 素地共	17.3	建改 ㎡			
EP-G塗	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 一般　防ｶﾋﾞ剤入 素地共	25.1	建改 ㎡			
EP塗	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 一般　防ｶﾋﾞ剤入 素地共	14.	建改 ㎡			
EP塗	ｾﾒﾝﾄ板面 一般　防ｶﾋﾞ剤入 素地共	60.3	建改 ㎡			
EP塗	ﾎﾞｰﾄﾞ面 一般　防ｶﾋﾞ剤入 素地共	89.5	建改 ㎡			
NAD塗	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 一般 素地共	3.9	建改 ㎡			
EP塗	ｾﾒﾝﾄ板面 見上げ　防ｶﾋﾞ剤入 素地共	20.3	建改 ㎡			
EP塗	ﾎﾞｰﾄﾞ面 見上げ　防ｶﾋﾞ剤入 素地共	0.8	建改 ㎡			
NAD塗	ｾﾒﾝﾄ板面 見上げ 素地共	27.1	建改 ㎡			
計						

管理棟	耐震改修					撤去
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ｶｯﾀｰ入れ	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 厚さ20～30mm	483.	建改 m			
ｺﾝｸﾘｰﾄはつり	壁面 t20 集積共	31.4	建改 ㎡			
ｺﾝｸﾘｰﾄはつり	壁面 t50 集積共	13.	建改 ㎡			
ｺﾝｸﾘｰﾄはつり	壁面 t80 集積共	3.5	建改 ㎡			
ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	鉄筋切断共 ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｶ 集積共	33.9	建改 m3			
床ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	鉄筋はつり出し ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｶ 集積共	10.2	建改 m3			
計						

管理棟	耐震改修					改修
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
鉄筋						
異形鉄筋(SD295)	帯広 径10 20t～50t	0.9	建改 t			
異形鉄筋(SD295)	帯広 径13 20t～50t	3.9	建改 t			
異形鉄筋(SD295)	帯広 径16 20t～50t	19.	建改 t			
異形鉄筋(SD345)	帯広 径19 20t～50t	9.3	建改 t			
異形鉄筋(SD345)	帯広 径22 20t～50t	12.4	建改 t			
異形鉄筋(SD345)	帯広 径25 20t～50t	0.8	建改 t			
鉄筋ｽﾗｯﾌﾟ控除		1	建改 式			
鉄筋加工組立	耐震改修用 －　－	44.6	建改 t			
ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋	φ6 @50 径75	53.7	建改 m			
ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋	φ6 @50 径100	166.	建改 m			
ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋	φ6 @50 径150	176.	建改 m			
ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋	φ9 @50 径200	362.	建改 m			
既存鉄筋溶接	D10 片面10d	328.	建改 か所			
鉄筋運搬費	10ｔ車 30km程度	44.6	建改 t			

管理棟		耐震改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考	
ｼｱｺﾈｸﾀｰ	D13 横向き	1,090.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D13 下向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付	69.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D13 横向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付	96.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D13 上向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付	61.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D13 上向き L=10da+L1+5Da ﾅｯﾄ無	28.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D16 下向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付	376.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D16 横向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付	800.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D16 上向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付	376.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D16 上向き L=10da+L1+5Da ﾅｯﾄ無	6.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D19 下向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付	995.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D19 下向き L=10da+L1+5Da ﾅｯﾄ無	8.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D19 横向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付	1,098.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D19 上向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付	983.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D19 上向き L=10da+L1+5Da ﾅｯﾄ無	12.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D22 下向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付	881.	建改 本				

管理棟		耐震改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考	
あと施工ｱﾝｶｰ	D22 下向き L=10da+L1+5Da ﾅｯﾄ無	63.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D22 横向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付	1,008.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D22 横向き L=10da+L1+5Da ﾅｯﾄ無	32.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D22 上向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付	851.	建改 本				
あと施工ｱﾝｶｰ	D25 下向き L=10da+L1+5Da ﾅｯﾄ無	24.	建改 本				
丸柱 あと施工ｱﾝｶｰ	D13 横向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付 注入式 工場曲げ加工	102.	建改 本				
丸柱 あと施工ｱﾝｶｰ	D16 横向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付 注入式 工場曲げ加工	8.	建改 本				
丸柱 あと施工ｱﾝｶｰ	D16 横向き L=10da+L1+5Da ﾅｯﾄ無 注入式 工場曲げ加工	6.	建改 本				
丸柱 あと施工ｱﾝｶｰ	D19 横向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付 注入式 工場曲げ加工	114.	建改 本				
丸柱 あと施工ｱﾝｶｰ	D22 横向き L=7da+20da ﾅｯﾄ付 注入式 工場曲げ加工	116.	建改 本				
丸柱 あと施工ｱﾝｶｰ	D22 横向き L=10da+L1+5Da ﾅｯﾄ無 注入式 工場曲げ加工	3.	建改 本				
鉄筋探査	STEP1 下向き	1,108.	建改 か所				
鉄筋探査	STEP1 横向き	1,884.	建改 か所				
鉄筋探査	STEP1 上向き	1,185.	建改 か所				
鉄筋探査	STEP2 下向き	816.	建改 か所				

管理棟		耐震改修			改修	
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
鉄筋探査	STEP2 横向き	1,484.	建改 か所			
鉄筋探査	STEP2 上向き	772.	建改 か所			
鉄筋探査	STEP3 下向き	492.	建改 か所			
鉄筋探査	STEP3 横向き	1,105.	建改 か所			
鉄筋探査	STEP3 上向き	360.	建改 か所			
小計						
ｺﾝｸﾘｰﾄ						
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ (十勝総合振興局)	帯広地区　　呼び強度21 ｽﾗﾝﾌﾟ 18cm	270.	建改 m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間		1	建改 式			
ﾎﾟﾝﾌﾟ圧送		1	建改 式			
構造体強度補正		1	建改 式			
冬期保温料	帯広建設管理部 帯広地区 -	172.	建改 m3			
無収縮モルタル	注入　試験費共　Fc=30	15.	建改 m3			
壁既存打継面 目荒らし	床面	67.6	建改 ㎡			
壁既存打継面 目荒らし	柱面	104.	建改 ㎡			

管理棟		耐震改修			改修	
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
壁既存打継面 目荒らし	壁面	289.	建改 ㎡			
壁既存打継面 目荒らし	天井面	75.1	建改 ㎡			
小計						
型枠						
型枠	普通合板型枠 耐震改修用　　地上軸部 -	782.	建改 ㎡			
型枠	打放合板型枠B種 耐震改修用　　地上軸部 -	313.	建改 ㎡			
型枠運搬費	10ｔ車 30km程度 往復	1,095.	建改 ㎡			
打放し面補修	B 種 ｺｰﾝ処理　部分目違いばらい	313.	建改 ㎡			
ｸﾞﾗｳﾄ材注入用型枠	片面	113.	建改 m			
ｸﾞﾗｳﾄ材注入用型枠	両面	88.	建改 m			
耐震ｽﾘｯﾄ	垂直 全貫通型 壁厚150 耐火型 防水　ｽﾘｯﾄ厚30	21.	建改 m			
耐震ｽﾘｯﾄ	垂直 全貫通型 壁厚180 耐火型 防水　ｽﾘｯﾄ厚30	3.5	建改 m			
紙ｽﾘｰﾌﾞ	φ90 L=320	2.	建改 か所			
紙ｽﾘｰﾌﾞ	φ75 L=320	1.	建改 か所			
小計						

管理棟	耐震改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
計						

管理棟	環境配慮改修			撤去		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
床 塗床撤去	ｱｽﾍﾞｽﾄ含有 仮設共 集塵装置付ﾃﾞｨｽｸｸﾞﾗｲﾝﾀﾞ、防塵養生、消耗品費、前後清掃、梱包、集積を含む	13.5	建改 ㎡			
壁 吹付材撤去	ｱｽﾍﾞｽﾄ含有 仮設共 環境配慮型剥離剤、防塵養生、消耗品費、前後清掃、梱包、集積を含む	122.	建改 ㎡			
壁 PF複合板撤去	ｱｽﾍﾞｽﾄ含有 仮設共 防塵養生、消耗品費、前後清掃、梱包、集積を含む	133.	建改 ㎡			
天井 PF複合板撤去	ｱｽﾍﾞｽﾄ含有 仮設共 防塵養生、消耗品費、前後清掃、梱包、集積を含む	14.7	建改 ㎡			
計						

管理棟	発生材処理			運搬		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ｺﾝｸﾘｰﾄ類 集積、積込み	機 械	63.2	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間無し 11.5km以下	55.2	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　ｺﾝｸﾘｰﾄ二次製品(ﾌﾞﾛｯｸ) DID区間無し 60.0km以下	3.4	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　ｺﾝｸﾘｰﾄ類(ﾓﾙﾀﾙ) DID区間無し 11.5km以下	4.6	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　石材 DID区間無し 60.0km以下	0.7	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　陶磁器類 DID区間無し 11.0km以下	1.1	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　木材類 DID区間無し 11.0km以下	7.3	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　石こうﾎﾞｰﾄﾞ類(JTB含む) DID区間無し 27.5km以下	5.6	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　ｶﾞﾗｽ DID区間無し 11.0km以下	0.4	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　ｸﾞﾗｽｳｰﾙ DID区間無し 16.0km以下	9.3	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　ﾛｰﾙｶｰﾍﾟｯﾄ DID区間無し 60.0km以下	0.1	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　PF板 DID区間無し 16.0km以下	8.8	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　ｸﾛｽ DID区間無し 60.0km以下	0.3	建改 m3			

管理棟	発生材処理			運搬		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　岩綿吸音材 DID区間無し 60.0km以下	2.8	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　混合廃棄物 DID区間無し 60.0km以下	4.9	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ(非飛散性AS含有) DID区間無し 60.0km以下	0.1	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ・幅木(非飛散性AS含有) DID区間無し 60.0km以下	0.1	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　吹付材(非飛散性AS含有) DID区間無し 60.0km以下	3.6	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　複合板(非飛散性AS含有) DID区間無し 60.0km以下	9.3	建改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　ｾﾒﾝﾄ板(非飛散性AS含有) DID区間無し 60.0km以下	1.5	建改 m3			
撤去積込機械運搬		1	建改 式			
計						

管理棟	発生材処理			処分		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
発生材処分費 (中間処理)	無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	127.	建処 t			
発生材処分費 (中間処理)	ｺﾝｸﾘｰﾄ二次製品 (ﾌﾞﾛｯｸ) :ｶﾞﾗｽ・陶器くず	5.	建処 t			
発生材処分費 (中間処理)	ｺﾝｸﾘｰﾄ類(ﾓﾙﾀﾙ):がれき類	9.1	建処 t			
発生材処分費 (最終処理)	石材	1.	建処 t			
発生材処分費 (最終処理)	陶磁器類	1.4	建処 t			
発生材処分費 (中間処理)	木材類	3.1	建処 t			
発生材処分費 (中間処理)	石こうﾎﾞｰﾄﾞ類(JTB含む)	2.6	建処 t			
発生材処分費 (最終処理)	ｶﾞﾗｽ	0.5	建処 t			
発生材処分費 (最終処理)	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ	0.3	建処 t			
発生材処分費 (中間処理)	ﾛｰﾙｶｰﾍﾟｯﾄ	0.01	建処 t			
発生材処分費 (最終処理)	PF板	0.2	建処 t			
発生材処分費 (中間処理)	ｸﾛｽ	0.5	建処 t			
発生材処分費 (中間処理)	岩綿吸音材	0.8	建処 t			
発生材処分費 (最終処理)	混合廃棄物	0.2	建処 t			
発生材処分費 (最終処理)	ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ(非飛散性AS含有)	0.02	建処 t			

管理棟	発生材処理			処分		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
発生材処分費 (最終処理)	ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ・幅木(非飛散性AS含有)	0.2	建処 t			
発生材処分費 (最終処理)	吹付材(非飛散性AS含有)	0.2	建処 t			
発生材処分費 (最終処理)	複合板(非飛散性AS含有)	0.2	建処 t			
発生材処分費 (最終処理)	ｾﾒﾝﾄ板(非飛散性AS含有)	0.8	建処 t			
循環税相当額	税率　－	5.	建処 t			
計						

管理棟	改修工事					照明コンセント設備
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ねじなし電線管(E)	露出配管　19mm	61.4	電改 m			
ねじなし電線管(E)	露出配管　25mm	17.9	電改 m			
合成樹脂製可とう電線管（PF単層）	隠ぺい・埋込配管 16mm	5.7	電改 m			
合成樹脂製可とう電線管（PF単層）	隠ぺい・埋込配管 22mm	46.9	電改 m			
合成樹脂製可とう電線管（PF単層）	隠ぺい・埋込配管 28mm	3.	電改 m			
1種金属線ぴ(MM1)	A型(25.4mm)	2.6	電改 m			
1種金属線ぴ(MM1)	B型(40.4mm)	32.8	電改 m			
600V耐燃性ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ絶縁電線(EM-IE)	2.0mm	305.	電改 m			
600Vﾎﾞﾘｴﾁﾚﾝ絶縁耐燃性ﾎﾞﾘｴﾁﾚﾝｼｰｽｹｰﾌﾞﾙ平形 EM-EEF	1.6mm- 2C ﾋﾟｯﾄ・天井	20.6	電改 m			
600Vﾎﾞﾘｴﾁﾚﾝ絶縁耐燃性ﾎﾞﾘｴﾁﾚﾝｼｰｽｹｰﾌﾞﾙ平形 EM-EEF	2.0mm- 2C ﾋﾟｯﾄ・天井	311.	電改 m			
600Vﾎﾞﾘｴﾁﾚﾝ絶縁耐燃性ﾎﾞﾘｴﾁﾚﾝｼｰｽｹｰﾌﾞﾙ平形 EM-EEF	2.0mm- 3C ﾋﾟｯﾄ・天井	45.8	電改 m			
EM-CEE-Sｹｰﾌﾞﾙ	1.25mm2- 2C 管内	1.8	電改 m			
EM-CEE-Sｹｰﾌﾞﾙ	1.25mm2- 2C ﾋﾟｯﾄ・天井	14.	電改 m			
EM-AEｹｰﾌﾞﾙ	0.9 mm- 2C ﾋﾟｯﾄ・天井	5.9	電改 m			
EM-AEｹｰﾌﾞﾙ	0.9 mm- 4C ﾋﾟｯﾄ・天井	21.3	電改 m			

管理棟	改修工事					照明コンセント設備
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
EM-AEｹｰﾌﾞﾙ	0.9 mm- 5P ﾋﾟｯﾄ・天井	14.7	電改 m			
合成樹脂製ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ(ｶﾊﾞｰ付)	中四角 浅型　D44	28.	電改 個			
合成樹脂製ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ(ｶﾊﾞｰ付)	中四角 深型　D54	6.	電改 個			
合成樹脂製ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ(ｶﾊﾞｰ付)	埋込 1個用	11.	電改 個			
合成樹脂製ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ(ｶﾊﾞｰ付)	埋込 2個用	1.	電改 個			
露出ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ	19(E19,16) 1個用1方出	14.	電改 個			
丸形露出ﾎﾞｯｸｽ	19(E19,16) 1方出	1.	電改 個			
丸形露出ﾎﾞｯｸｽ	19(E19,16) 2方出	1.	電改 個			
丸形露出ﾎﾞｯｸｽ	19(E19,16) 3方出	2.	電改 個			
1種金属線ぴ(MM1)附属品	A型(25.4mm) ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ	1.	電改 個			
1種金属線ぴ(MM1)附属品	B型(40.4mm) ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ	16.	電改 個			
1種金属線ぴ(MM1)附属品	A型(25.4mm) 2個用ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ	2.	電改 個			
1種金属線ぴ(MM1)附属品	B型(40.4mm) 1個用ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ	15.	電改 個			
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽSS形（錆止め塗装）	150×150×100	8.	電改 個			
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽSS形（錆止め塗装）	200×200×100	1.	電改 個			

管理棟	改修工事			照明コンセント設備		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ﾀﾝﾌﾟﾗｽｲｯﾁ (金属ﾌﾟﾚｰﾄ付)	1P 15A ×1　ﾈｰﾑ付 -　-　-	1.	電改 個			
ﾀﾝﾌﾟﾗｽｲｯﾁ (金属ﾌﾟﾚｰﾄ付)	1P 15A ×2　ﾈｰﾑ付 -　-　-	1.	電改 個			
ﾀﾝﾌﾟﾗｽｲｯﾁ (金属ﾌﾟﾚｰﾄ付)	1P L 15A ×1　ﾈｰﾑ付 -　-　-	1.	電改 個			
ﾘﾓｺﾝｽｲｯﾁ (金属ﾌﾟﾚｰﾄ付)	1回路用	1.	電改 個			
LED照明器具	LSS9　-4 -37　LN	2.	電改 個			
LED照明器具	LSS15　-4 -80　LX	2.	電改 個			
非常灯	K1-LRS11-1	2.	電改 個			
誘導灯	ST1-FBF 22 -　- C　-	2.	電改 個			
誘導灯	ST1-FSF 23 -　- C　-	1.	電改 個			
誘導灯	SH1-FSF 20 -　- C　-	1.	電改 個			
ﾌﾗｯｼｭﾌﾟﾚｰﾄ (樹脂製)	角型 ﾌﾞﾗﾝｸ	1.	電改 個			
機械はつり(ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口)	200mm程度　32mm	4.	電改 か所			
計						

管理棟	改修工事			弱電・火災報知設備		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ねじなし電線管 (E)	露出配管　19mm	13.6	電改 m			
耐衝撃性 硬質ﾋﾞﾆﾙ管(HIVE)	露出配管　16mm	1.7	電改 m			
合成樹脂製可とう 電線管 (PF単層)	隠ぺい・埋込配管 16mm	56.5	電改 m			
1種金属線ぴ(MM1)	A型(25.4mm)	5.3	電改 m			
1種金属線ぴ(MM1)	B型(40.4mm)	5.	電改 m			
EM-AEｹｰﾌﾞﾙ	0.9 mm-　4C 管内	13.6	電改 m			
EM-AEｹｰﾌﾞﾙ	0.9 mm-　4C ﾋﾟｯﾄ・天井	19.2	電改 m			
EM-AEｹｰﾌﾞﾙ	1.2 mm-　2C 管内	18.1	電改 m			
EM-AEｹｰﾌﾞﾙ	1.2 mm-　2C ﾋﾟｯﾄ・天井	113.	電改 m			
EM-AEｹｰﾌﾞﾙ	1.2 mm-　3C 管内	3.8	電改 m			
EM-AEｹｰﾌﾞﾙ	1.2 mm-　3C ﾋﾟｯﾄ・天井	12.3	電改 m			
EM-EBTｹｰﾌﾞﾙ	0.4mm-　2P 管内	74.1	電改 m			
EM-EBTｹｰﾌﾞﾙ	0.4mm-　2P ﾋﾟｯﾄ・天井	83.	電改 m			
EM同軸ｹｰﾌﾞﾙ	EM-5C-2E　管内	24.4	電改 m			
EM同軸ｹｰﾌﾞﾙ	EM-5C-2E　ﾋﾟｯﾄ・天井	77.1	電改 m			

管理棟	改修工事			弱電・火災報知設備		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
EM-MEESｹｰﾌﾞﾙ	0.75mm2- 2C ﾋﾟｯﾄ・天井	16.6	電改 m			
合成樹脂製ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ(ｶﾊﾞｰ付)	中四角 浅型　D44	20.	電改 個			
合成樹脂製ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ(ｶﾊﾞｰ付)	中四角 深型　D54	6.	電改 個			
丸形露出ﾎﾞｯｸｽ	19(E19,16) 1方出	8.	電改 個			
1種金属線ぴ(MM1)附属品	A型(25.4mm) ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ	4.	電改 個			
1種金属線ぴ(MM1)附属品	B型(40.4mm) ｺｰﾅｰﾎﾞｯｸｽ	1.	電改 個			
1種金属線ぴ(MM1)附属品	A型(25.4mm) 1個用ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ	4.	電改 個			
1種金属線ぴ(MM1)附属品	B型(40.4mm) 1個用ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ	1.	電改 個			
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽSS-V形(硬質ビニル)	150×150×100	1.	電改 個			
ﾌﾗｯｼｭﾌﾟﾚｰﾄ(金属製)	角型 ﾌﾞﾗﾝｸ	3.	電改 個			
光電式煙感知器	2種 非蓄積型 露出	9.	電改 個			
機械はつり(ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口)	200mm程度　32mm	2.	電改 か所			
計						

管理棟	撤去工事			撤去(再使用しない)		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ねじなし電線管撤去	(E19) 再使用しない	9.1	電改 m			
ねじなし電線管撤去	(E25) 再使用しない	3.9	電改 m			
600V絶縁電線撤去	1.2mm　× 1本 再使用しない	12.8	電改 m			
600V絶縁電線撤去	2.0mm　× 1本 再使用しない	917.	電改 m			
制御ｹｰﾌﾞﾙ撤去	CVV-S 1.25sq-2C　管内	15.9	電改 m			
警報用ｹｰﾌﾞﾙ撤去	AE 0.9-4C　管内	21.5	電改 m			
警報用ｹｰﾌﾞﾙ撤去	AE 0.9-5P　管内	13.3	電改 m			
警報用ｹｰﾌﾞﾙ撤去	AE 1.2-2C　管内	130.	電改 m			
警報用ｹｰﾌﾞﾙ撤去	AE 1.2-3C　管内	16.6	電改 m			
電子ﾎﾞﾀﾝｹｰﾌﾞﾙ撤去	EBT 0.4-2P　管内	191.	電改 m			
同軸ｹｰﾌﾞﾙ撤去	5C-2V　管内	93.	電改 m			
ﾏｲｸﾛﾎﾝ用ｺｰﾄﾞ撤去	MVVS 0.75sq-2C　管内	12.2	電改 m			
位置ﾎﾞｯｸｽ　撤去	再使用しない	3.	電改 個			
蛍光灯器具撤去	露出形　FL 20W　×2 再使用しない	1.	電改 個			
蛍光灯器具撤去	露出形　FL 20W　×5 再使用しない	1.	電改 個			

管理棟	撤去工事					撤去(再使用しない)
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
蛍光灯器具 撤去	露出形　FL 40W　×1 再使用しない	1.	電改 個			
蛍光灯器具 撤去	埋込形　FL 40W　×1 再使用しない	1.	電改 個			
白熱灯器具 撤去	ﾌﾞﾗｹｯﾄﾗｲﾄ　再使用しない	1.	電改 個			
白熱灯器具 撤去	ｼｰﾘﾝｸﾞﾗｲﾄ　再使用しない	1.	電改 個			
誘導灯撤去	FL10W	1.	電改 個			
ｽｲｯﾁ撤去	1P15A×1　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	2.	電改 個			
ｽｲｯﾁ撤去	1P15A×2　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			
ﾘﾓｺﾝｽｲｯﾁ撤去	2L　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			
感知器撤去	定温式　1種　露出	1.	電改 個			
計						

管理棟	撤去工事					撤去(取外し)
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
蛍光灯器具 取外し	露出形　FL 20W　×2 再使用する	1.	電改 個			
蛍光灯器具 取外し	埋込形　FL 40W　×2 再使用する	11.	電改 個			
蛍光灯器具 取外し	埋込形　FL 40W　×3 再使用する	10.	電改 個			
蛍光灯器具 取外し	埋込形　FL 40W　×4 再使用する	4.	電改 個			
白熱灯器具 取外し	埋込灯　再使用する	14.	電改 個			
白熱灯器具 取外し	ｽﾎﾟｯﾄﾗｲﾄ　再使用する	1.	電改 個			
白熱灯器具 取外し	ﾌﾞﾗｹｯﾄﾗｲﾄ　再使用する	2.	電改 個			
蛍光灯器具 取外し	埋込形　FL 40W　×2 再使用する	2.	電改 個			
白熱灯器具 取外し	埋込灯　再使用する	6.	電改 個			
誘導灯取外し	FL10W	4.	電改 個			
ｽｲｯﾁ取外し	1P15A×1　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	3.	電改 個			
ﾘﾓｺﾝｽｲｯﾁ取外し	1L　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	2.	電改 個			
ﾘﾓｺﾝｽｲｯﾁ取外し	3L　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			
ﾘﾓｺﾝｽｲｯﾁ取外し	4L　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	3.	電改 個			
ﾘﾓｺﾝｽｲｯﾁ取外し	6L　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			

管理棟	撤去工事			撤去(取外し)		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
電動ﾌﾟﾗｲﾝﾄﾞｽｲｯﾁ 取外し	金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	3.	電改 個			
電動ｽｸﾘｰﾝｽｲｯﾁ 取外し	金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			
空調換気扇ｽｲｯﾁ 取外し	金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	2.	電改 個			
給気ﾌｧﾝｽｲｯﾁ 取外し	金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			
外調機ｽｲｯﾁ 取外し	金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			
ｺﾝｾﾝﾄ取外し	2P15A×1　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	5.	電改 個			
ｺﾝｾﾝﾄ取外し	2P15A×1　接地付　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	2.	電改 個			
ｺﾝｾﾝﾄ取外し	2P15A×2　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	32.	電改 個			
ｺﾝｾﾝﾄ取外し	2P15A×2　接地端子付 金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	6.	電改 個			
ｺﾝｾﾝﾄ取外し	2P15A×1　防雨ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			
ﾌﾗｯｼｭﾌﾟﾚｰﾄ取外し	金属製	2.	電改 個			
弱電接続盤 取外し		1.	電改 面			
電話機取外し		3.	電改 個			
ｽﾋﾟｰｶｰ取外し	天井埋込型	5.	電改 個			
ｽﾋﾟｰｶｰ取外し	壁掛型	4.	電改 個			

管理棟	撤去工事			撤去(取外し)		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ｱﾝﾃﾅｰﾀｰ取外し	金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	3.	電改 個			
ﾏｲｸｼﾞｬｯｸ取外し	金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			
ﾃﾚﾋﾞ機器盤 取外し		1.	電改 面			
ﾃﾚﾋﾞｼﾞｬｯｸ取外し	ﾃﾚﾋﾞｼﾞｬｯｸ×2　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	4.	電改 個			
子時計取外し	ｱﾅﾛｸﾞ式　壁掛型	2.	電改 個			
煙感知器取外し	2種　露出	15.	電改 個			
煙感知器取外し	3種　露出	8.	電改 個			
定温式感知器 取外し	1種　防水　露出	1.	電改 個			
計						

管理棟	撤去工事			再取付		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
蛍光灯再取付	FL20W×2　露出型	1.	電改 個			
蛍光灯再取付	FL40W×2　埋込型	11.	電改 個			
蛍光灯再取付	FL40W×3　埋込型	10.	電改 個			
蛍光灯再取付	FL40W×4　埋込型	4.	電改 個			
非常用白熱灯器具(施工費)	埋込形 JE9～30W,I40W	14.	電改 個			
ｽﾎﾟｯﾄﾗｲﾄ再取付		1.	電改 個			
ﾌﾞﾗｹｯﾄ再取付		2.	電改 個			
蛍光灯(非常用)再取付	FL40W×2　埋込型	2.	電改 個			
非常灯再取付	埋込型	6.	電改 個			
誘導灯再取付	FL10W	4.	電改 個			
ｽｲｯﾁ再取付	1P15A×1　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	3.	電改 個			
ﾘﾓｺﾝｽｲｯﾁ再取付	1L　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	2.	電改 個			
ﾘﾓｺﾝｽｲｯﾁ再取付	3L　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			
ﾘﾓｺﾝｽｲｯﾁ再取付	4L　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	3.	電改 個			
ﾘﾓｺﾝｽｲｯﾁ再取付	6L　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			

管理棟	撤去工事			再取付		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
電動ﾌﾟﾗｲﾝﾄﾞｽｲｯﾁ再取付	金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	3.	電改 個			
電動ｽｸﾘｰﾝｽｲｯﾁ再取付	金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			
空調換気扇ｽｲｯﾁ再取付	金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	2.	電改 個			
給気ﾌｧﾝｽｲｯﾁ再取付	金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			
外調機ｽｲｯﾁ再取付	金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			
ｺﾝｾﾝﾄ再取付	2P15A×1　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	5.	電改 個			
ｺﾝｾﾝﾄ再取付	2P15A×1　接地付　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	2.	電改 個			
ｺﾝｾﾝﾄ再取付	2P15A×2　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	32.	電改 個			
ｺﾝｾﾝﾄ再取付	2P15A×2　接地端子付 金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	6.	電改 個			
ｺﾝｾﾝﾄ再取付	2P15A×1　防雨ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			
ﾌﾗｯｼｭﾌﾟﾚｰﾄ再取付	金属製	2.	電改 個			
弱電接続盤再取付		1.	電改 面			
電話機再取付		3.	電改 個			
ｽﾋﾟｰｶｰ再取付	天井埋込型	5.	電改 個			
ｽﾋﾟｰｶｰ再取付	壁掛型	4.	電改 個			

管理棟	撤去工事					再取付
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ｱｯﾃﾈｰﾀｰ再取付	金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	3.	電改 個			
ﾏｲｸｼﾞｬｯｸ再取付	金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	1.	電改 個			
ﾃﾚﾋﾞ機器盤再取付		1.	電改 面			
ﾃﾚﾋﾞｼﾞｬｯｸ再取付	ﾃﾚﾋﾞｼﾞｬｯｸ×2　金属ﾌﾟﾚｰﾄ付	4.	電改 個			
子時計再取付	ｱﾅﾛｸﾞ式　壁掛型	2.	電改 個			
煙感知器再取付	2種　露出	15.	電改 個			
煙感知器再取付	3種　露出	8.	電改 個			
定温式感知器 再取付	1種　防水　露出	1.	電改 個			
計						

管理棟	発生材処理					運搬
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.1	電改 m3			
発生材積込み	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類 人力	0.1	電改 m3			
発生材積込み	蛍光管類 人力	0.1	電改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間無し 11.0km以下	0.1	電改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類 DID区間無し 60.0km以下	0.1	電改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　蛍光管類 DID区間無し 60.0km以下	0.1	電改 m3			
計						

電気設備工事　細目別内訳

管理棟	発生材処理			処分		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
発生材処分費 (中間処理)	無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	0.1	電処 t			
発生材処分費 (最終処理)	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	0.1	電処 t			
発生材処分費 (中間処理)	蛍光管類	1	電処 式			
循環税相当額	税率　－	0.1	電処 t			
計						

機械設備工事　細目別内訳

管理棟	空気調和設備			機器設備		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ﾌｧﾝｺﾝﾍﾞｸﾀｰ FVF-10	床置露出形 鋼板製･温水用 暖房能力:4.6kW 温水量:7.0L/min 1φ×100V×0.05kW	1.	機改 台			
ﾌｧﾝｺﾝﾍﾞｸﾀｰ FVF-11	床置露出形 鋼板製･温水用 暖房能力:8.9kW 温水量:13.9L/min 1φ×100V×0.06kW	1.	機改 台			
ﾌｧﾝｺﾝﾍﾞｸﾀｰ FVC-3 (取外し･再取付)	天井露出形 鋼板製･温水用 暖房能力:3.7kW 温水量:5.3L/min	2.	機改 台			
ﾌｧﾝｺﾝﾍﾞｸﾀｰ FVC-9 (取外し･再取付)	床置露出形 鋼板製･温水用 暖房能力:7.2kW 温水量:10.3L/min	1.	機改 台			
温水ﾊﾟﾈﾙﾋｰﾀｰ PH (取外し･再取付)	壁掛形 鋼板製･温水用 暖房能力:0.5kW 温水量:0.7L/min	1.	機改 台			
青銅ﾎﾞｰﾙ弁	10K(ねじ) 20A	4.	機改 個			
電気配管配線		1	機改 式			
計						

管理棟	空気調和設備					配管設備
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
油送配管用 支持架台 (取外し・再取付)	SGP管　20A用	8.	機改 個			
冷温水・配管用 炭素鋼鋼管(白) 改修	ねじ接合 屋内一般　20A	19.	機改 m			
青銅仕切弁	5K(ねじ)　20A	4.	機改 個			
青銅仕切弁	5K(ねじ)　20A	2.	機改 個			
保温		1	機改 式			
はつり補修		1	機改 式			
計						

管理棟	換気設備					機器設備
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
天井換気扇 (取外し・再取付)		2.	機改 台			
斜流ﾌｧﾝ (取外し・再取付)	No.3	1.	機改 台			
加熱コイル (取外し・再取付)		1.	機改 個			
計						

管理棟	換気設備			ダクト設備		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ｱﾝｸﾞﾙﾌﾗﾝｼﾞ工法ﾀﾞｸﾄ(低圧ﾀﾞｸﾄ)	ｲﾝｻｰﾄ無 0.5mm(～450mm)	29.	機改 ㎡			
ｱﾝｸﾞﾙﾌﾗﾝｼﾞ工法ﾀﾞｸﾄ(低圧ﾀﾞｸﾄ)	ｲﾝｻｰﾄ無 0.6mm(451～750mm)	28.	機改 ㎡			
吹出口(取外し･再取付)	VL-S　1500L	1.	機改 個			
吹出口(取外し･再取付)	VL-S　2100L	1.	機改 個			
吹出口(取外し･再取付)	VHS　400×150　ｱﾙﾐ製	1.	機改 個			
吹出口(取外し･再取付)	ﾉｽﾞﾙ　200φ	2.	機改 個			
吸込口(取外し･再取付)	GVS　600×300　ｱﾙﾐ製	1.	機改 個			
制気口ボックス類		1	機改 式			
保温		1	機改 式			
あと施工アンカー		1	機改 式			
計						

管理棟	衛生器具設備					
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
洗面器 TOTO:L532同等品 LIXIL:L-2295同等品	ｱﾝﾀﾞｰｶｳﾝﾀｰ式洗面器,ｼﾝｸﾞﾙﾚﾊﾞｰ混合水栓,水石鹸入れ,Pﾄﾗｯﾌﾟ,他付属金具共	2.	機改 組			
ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾙﾀﾞｰ(取外し･再取付)	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製	2.	機改 個			
洗面器(取外し･再取付)		2.	機改 組			
身障者便所手洗器取外し･再取付		1.	機改 か所			
計						

管理棟　給水設備

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
給水・塩ﾋﾞﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管(SGP-VB)改修	ねじ接合　機械室・便所 20A	5.	機改 m			
保温		1	機改 式			
計						

管理棟　排水設備

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
排水・配管用炭素鋼鋼管(白)改修	ねじ接合 機械室・便所　40A	2.	機改 m			
排水・配管用炭素鋼鋼管(白)改修	ねじ接合 機械室・便所　50A	2.	機改 m			
排水・配管用炭素鋼鋼管(白)改修	ねじ接合 機械室・便所　32A	2.	機改 m			
床上掃除口(非防水形)	COA　50A	1.	機改 個			
保温		1	機改 式			
計						

管理棟		給湯設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
電気温水器 (取外し･再取付)		1.	機改 台			
給湯・耐熱性硬質塩ﾋﾞﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管(管端防食)改修	ねじ接合　機械室・便所 20A	3.	機改 m			
給湯・耐熱性硬質塩ﾋﾞﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管(管端防食)改修	ねじ接合　機械室・便所 32A	3.	機改 m			
保温		1	機改 式			
計						

管理棟		雨水利用設備				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
排水・配管用炭素鋼鋼管(白)改修	ねじ接合 機械室・便所　32A	10.	機改 m			
排水管 保温	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 天井内,ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 100A	10.	機改 m			
計						

管理棟	撤去工事					
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
機器類撤去		1	機改 式			
ダクト類撤去		1	機改 式			
配管類撤去		1	機改 式			
プラグ	20A	1.	機改 個			
プラグ	40A	1.	機改 個			
プラグ	20A	1.	機改 個			
穴埋補修		1	機改 式			
ｱｽﾍﾞｽﾄ撤去	ﾌﾗﾝｼﾞ両端部切断 77か所 保護具･集積･清掃･報告 書作成共	1	機改 式			
計						

管理棟	発生材処理			運搬		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
発生材積込み	保温材(ｸﾞﾗｽｳｰﾙ) 人力	1.	機改 m3			
発生材積込み	陶器類 人力	0.1	機改 m3			
発生材積込み	ﾀﾞｸﾄﾊﾞｯｷﾝ(非飛散性AS含有) 人力	1.	機改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　保温材(ｸﾞﾗｽｳｰﾙ) DID区間無し 16.0km以下	1.	機改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　陶器類 DID区間無し 11.0km以下	0.1	機改 m3			
撤去材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　2t積級 人力積込　ﾀﾞｸﾄﾊﾞｯｷﾝ(非飛散性AS含有) DID区間無し 60.0km以下	1.	機改 m3			
計						

管理棟	発生材処理			処分		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
発生材処分費 (最終処理)	保温材(ｸﾞﾗｽｳｰﾙ)	0.1	機処 t			
発生材処分費 (最終処理)	陶器類 人力	0.1	機処 t			
発生材処分費 (最終処理)	ﾀﾞｸﾄﾊﾞｯｷﾝ(非飛散性AS含有)	0.1	機処 t			
循環税相当額	税率　－	0.3	機処 t			
計						

管理棟		直接仮設				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
墨出し		1	式			
墨出し(外壁改修)	ﾀｲﾙ・ﾓﾙﾀﾙ塗替等 一般	58.3	㎡			
墨出し(内部改修)	複合改修	366.	㎡			
計						
養生		1	式			
養生(外壁改修)		34.4	㎡			
養生(内部改修)	複合改修	366.	㎡			
養生(内部改修)	搬出入路部分	757.	㎡			
計						

管理棟		直接仮設				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
整理清掃後片付け		1	式			
整理清掃後片付け(外壁改修)		34.4	㎡			
整理清掃後片付け(内部改修)	複合改修	366.	㎡			
整理清掃後片付け(内部改修)	搬出入路部分	757.	㎡			
計						
外部足場		1	式			
STEP2 枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠600 500布枠 12m未満 存置日数:120日	189.	㎡			
STEP2 安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 存置日数:120日	44.2	m			
計						

管理棟		直接仮設				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
内部足場		1	式			
STEP1 内部枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠600 500布枠 12m未満 存置日数:120日	496.	㎡			
STEP2 内部枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠600 500布枠 12m未満 存置日数:120日	310.	㎡			
STEP3 内部枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠600 500布枠 12m未満 存置日数:120日	200.	㎡			
STEP1 内部単管本足場	10m未満 存置日数:120日	17.5	㎡			
STEP2 内部単管本足場	10m未満 存置日数:120日	53.4	㎡			
STEP1 内部安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 存置日数:120日	136.	m			
STEP1 内部安全手すり	単管本足場用 存置日数:120日	9.7	m			
STEP2 内部安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 存置日数:120日	82.5	m			
STEP2 内部安全手すり	単管本足場用 存置日数:120日	17.8	m			
STEP3 内部安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 存置日数:120日	50.5	m			
計						

管理棟		直接仮設				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
災害防止		1	式			
STEP2 養生ｼｰﾄ張り	防炎Ｉ類 存置日数:120日	189.	㎡			
STEP2 養生ｼｰﾄ張り (仮設間仕切用)	防炎Ｉ類 存置日数:120日	90.4	㎡			
計						
仮設間仕切		1	式			
STEP1 仮設間仕切	B種(片面) 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ 軽鉄下地共	374.	㎡			
STEP2 仮設間仕切	B種(片面) 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ 軽鉄下地共	346.	㎡			
STEP3 仮設間仕切	B種(片面) 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ 軽鉄下地共	237.	㎡			
仮設間仕切部片開き戸	木製	43.	か所			
計						

管理棟		直接仮設				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
仮設材運搬		1	式			
仮設材運搬 (枠組本足場) (手すり先行方式)	建枠幅600	500.	㎡			
仮設材運搬 (単管本足場)		53.4	㎡			
仮設材運搬 (安全てすり)	枠組本足場用(手すり先行方式)	136.	m			
仮設材運搬 (安全てすり)	単管本足場用	17.8	m			
仮設材運搬 (ｼｰﾄ･ﾈｯﾄ類)		280.	㎡			
計						

管理棟		外壁改修		改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
各種ｼｰﾘﾝｸﾞ		1	式			
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部　変成ｼﾘｺｰﾝ系(MS-2) 15×10	16.8	m			
計						

管理棟	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
軽量鉄骨壁 開口部補強		1	式			
軽量鉄骨壁 開口部補強	65形 扉等三方補強 900×2000mm程度	4.	か所			
軽量鉄骨壁 開口部補強	65形 扉等三方補強 1200×2000mm程度	7.	か所			
軽量鉄骨壁 開口部補強	65形 扉等三方補強 1800×2000mm程度	4.	か所			
軽量鉄骨壁 開口部補強	65形 ﾀﾞｸﾄ等四方補強 450× 900mm程度	6.	か所			
計						
耐火間仕切壁 開口部補強		1	式			
軽量鉄骨壁 開口部補強	90形 扉等三方補強 1200×2000mm程度	3.	か所			
計						
軽量鉄骨天井 開口部補強		1	式			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) 450× 450mm程度 ﾎﾞｰﾄﾞ等切込み共	2.	か所			
計						

管理棟	内装改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
各種ｼｰﾘﾝｸﾞ		1	式			
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 変成ｼﾘｺｰﾝ系(MS-2) 30×10	22.5	m			
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 変成ｼﾘｺｰﾝ系(MS-2) 10×10	18.2	m			
計						

管理棟	耐震改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
鉄筋ｽｸﾗｯﾌﾟ控除		1	式			
鉄筋ｽｸﾗｯﾌﾟ控除		1.3	t			
計						

管理棟	耐震改修			改修		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間		1	式			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	STEP1-B1階 躯体　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設 50m3/回未満　S15～S18 標準階高 圧送費､基本料別途	16.	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	STEP1-1階 躯体　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設 50～100m3/回　S15～S18 標準階高 圧送費､基本料別途	61.	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	STEP1-2階 躯体　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設 50m3/回未満　S15～S18 標準階高 圧送費､基本料別途	34.	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	STEP2-1階 躯体　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設 50m3/回未満　S15～S18 標準階高 圧送費､基本料別途	44.	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	STEP2-2階 躯体　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設 50m3/回未満　S15～S18 標準階高 圧送費､基本料別途	40.	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	STEP2-PH階 躯体　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設 50m3/回未満　S15～S18 標準階高 圧送費､基本料別途	14.	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	STEP3-1階 躯体　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設 50m3/回未満　S15～S18 標準階高 圧送費､基本料別途	49.	m3			

管理棟		耐震改修			改修	
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間		1	式			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	STEP3-2階 躯体　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設 50m3/回未満　S15～S18 標準階高 圧送費､基本料別途	12.	m3			
計						
ﾎﾟﾝﾌﾟ圧送		1	式			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ圧送(基準単価)	STEP1-1階 50m3/回を超える 基本料金別途加算	11.	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ圧送基本料金(基準単価)	50m3/回を超える	1.	回			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ圧送基本料金(基準単価)	50m3/回以下	7.	回			
計						

管理棟		耐震改修			改修	
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
構造体強度補正		1	式			
構造体強度補正	STEP1-B1階 +6N	16.	m3			
構造体強度補正	STEP1-1階 +6N	61.	m3			
構造体強度補正	STEP1-2階 +6N	34.	m3			
構造体強度補正	STEP2-1階 +3N	44.	m3			
構造体強度補正	STEP2-2階 +3N	40.	m3			
構造体強度補正	STEP2-PH階 +3N	14.	m3			
構造体強度補正	STEP3-1階 +6N	49.	m3			
構造体強度補正	STEP3-2階 +6N	12.	m3			
計						

建築工事　別紙明細

管理棟	発生材処理			運搬		
名　　称	摘　　要	数　　量	単位	単　　価	金　　額	備　　考
撤去積込機械運搬		1	式			
とりこわし機械運搬 (ﾍﾞｰｽﾏｼﾝ,ﾊﾞｯｸﾎｳ)	排出ｶﾞｽ対策型 油圧式ｸﾛｰﾗ型0.8m3	1.	往復			
計						

機械設備工事　別紙明細

管理棟	空気調和設備			機器設備		
名　　称	摘　　要	数　　量	単位	単　　価	金　　額	備　　考
電気配管配線		1	式			
EM-CEEｹｰﾌﾞﾙ	1.25mm2- 5C 管内	9.	m			
1種金属線ぴ(MM1)	A型(25.4mm)	9.	m			
ﾙｰﾑｻｰﾓｽﾀｯﾄﾞ (取外し・再取付)		2.	個			
ﾋｭｰﾐﾃﾞｨｽﾀｯﾄﾞ (ｻｰﾓｹｰｽ) (取外し・再取付)		1.	個			
空調用ﾘﾓｺﾝｽｲｯﾁ (取外し・再取付)		1.	個			
計						

管理棟	空気調和設備			配管設備		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
保温		1	式			
温水管 保温	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 機械室,書庫,倉庫 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 20A	16.	m			
温水管 保温	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 天井内,ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 20A	4.	m			
計						
はつり補修		1	式			
機械はつり(ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞｶｯﾀｰによる配管用貫通口)	100～150㎜ 100㎜	1.	か所			
計						

管理棟	換気設備			ダクト設備		
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
制気口ボックス類		1	式			
ﾁｬﾝﾊﾞｰ (低圧用)	ｲﾝｻｰﾄ無 1.0㎜(1501～2200㎜)	2.	㎡			
ﾁｬﾝﾊﾞｰ (低圧用)	ｲﾝｻｰﾄ無 1.2㎜(2201㎜～)	3.	㎡			
計						
保温		1	式			
消音内貼り	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ　消音ﾁｬﾝﾊﾞｰ ｶﾞﾗｽｸﾛｽ　保温厚25	12.	㎡			
計						
あと施工アンカー		1	式			
金属拡張ｱﾝｶｰ (めねじｱﾝｶｰ)	径 M10 本体打込式　上向打(天井)	20.	本			
計						

機械設備工事　別紙明細　93

管理棟		給水設備				
名　　称	摘　　要	数　　量	単位	単　　価	金　　額	備　　考
保温		1	式			
給水管 保温	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 天井内,ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 20A	5.	m			
計						

機械設備工事　別紙明細　94

管理棟		排水設備				
名　　称	摘　　要	数　　量	単位	単　　価	金　　額	備　　考
保温		1	式			
排水管 保温	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 天井内,ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 40A	2.	m			
排水管 保温	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 天井内,ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 50A	2.	m			
計						

管理棟　給湯設備

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
保温		1	式			
給湯管 保温	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 天井内,ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 20A	3.	m			
給湯管 保温	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 天井内,ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 32A	3.	m			
計						

機械設備工事　別紙明細　96

管理棟　撤去工事

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
機器類撤去		1	式			
ﾌｧﾝｺﾝﾍﾞｸﾀｰ FVF-5　撤去	床置隠蔽形 鋼板製･温水用 暖房能力:5.0kW 温水量:8.7L/min BAV20×2	1.	台			
ﾌｧﾝｺﾝﾍﾞｸﾀｰ FVF-6　撤去	床置隠蔽形 鋼板製･温水用 暖房能力:8.2kW 温水量:11.9L/min BAV20×2	1.	台			
ﾌｧﾝｺﾝﾍﾞｸﾀｰ用ｺﾝﾄﾛｰﾙｽｲｯﾁ　撤去		1.	個			
ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞﾌｧﾝ(排気)　FE-24　撤去	深形 390m3/h×60Pa SUS製深形フード	1.	台			
洗面器 L-525C　撤去	ｱﾝﾀﾞｰｶｳﾝﾀｰ用洗面器,2ﾊﾝﾄﾞﾙ混合水栓,Pﾄﾗｯﾌﾟ,水石鹸入れ,他付属金具共	2.	組			
混合水栓　撤去	壁付ｼﾝｸﾞﾙﾚﾊﾞｰ混合水栓	1.	個			
計						

管理棟　撤去工事

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ダクト類撤去		1	式			
長方形ﾀﾞｸﾄ撤去	亜鉛鉄板 0.5mm 再使用しない	36.	㎡			
長方形ﾀﾞｸﾄ撤去	亜鉛鉄板 0.6mm 再使用しない	3.	㎡			
消音内貼り撤去	ﾛｯｸｳｰﾙ・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 消音ﾁｬﾝﾊﾞｰ 保温厚25 再使用しない	11.	㎡			
ｽﾊﾟｲﾗﾙﾀﾞｸﾄ(低圧、高圧1､2ﾀﾞｸﾄ)撤去	150mm　再使用しない	14.	m			
ｽﾊﾟｲﾗﾙﾀﾞｸﾄ保温撤去(32K)	ﾛｯｸｳｰﾙ・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 屋内隠ぺい､ﾀﾞｸﾄｼｬﾌﾄ内 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ　再使用しない	7.	㎡			
長方形ﾀﾞｸﾄ撤去	亜鉛鉄板 1.0mm 再使用しない	2.	㎡			
長方形ﾀﾞｸﾄ撤去	亜鉛鉄板 1.2mm 再使用しない	3.	㎡			
計						

管理棟　撤去工事

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
配管類撤去		1	式			
温水･配管用炭素鋼鋼管(白)　撤去	SGP　屋内一般　20A	20.	m			
温水管 保温撤去	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 機械室,書庫,倉庫 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 20A 再使用しない	13.	m			
給水･塩ビライニング鋼管　撤去	SGP-VB　屋内一般　20A	3.	m			
給水･塩ビライニング鋼管　撤去	SGP-VB　機械便所　20A	5.	m			
給水管 保温撤去	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 天井内,ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 20A 再使用しない	8.	m			
排水･配管用炭素鋼鋼管(白)　撤去	SGP　屋内一般　40A	1.	m			
排水･配管用炭素鋼鋼管(白)　撤去	SGP　機械便所　40A	2.	m			
排水･配管用炭素鋼鋼管(白)　撤去	SGP　機械便所　50A	2.	m			
排水管 保温撤去	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 天井内,ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 40A 再使用しない	3.	m			
排水管 保温撤去	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 天井内,ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 50A 再使用しない	2.	m			
通気･配管用炭素鋼鋼管(白)　撤去	SGP　機械便所　32A	2.	m			
雨水･配管用炭素鋼鋼管(白)　撤去	SGP　屋内一般　100A	10.	m			
排水管 保温撤去	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 天井内,ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 100A 再使用しない	7.	m			
給湯･耐熱性ライニング鋼管　撤去	HTLP　屋内一般　20A	4.	m			

管理棟		撤去工事				
名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
配管類撤去		1	式			
給湯･耐熱性ライニング鋼管　撤去	HTLP　機械便所　20A	3.	m			
給湯･耐熱性ライニング鋼管　撤去	HTLP　機械便所　32A	3.	m			
給湯管 保温撤去	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 天井内,ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 20A 再使用しない	7.	m			
給湯管 保温撤去	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 天井内,ﾊﾟｲﾌﾟｼｬﾌﾄ内 ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 32A 再使用しない	3.	m			
ガス･配管用炭素鋼鋼管(白)　撤去	SGP　屋内一般　20A	1.	m			
計						
穴埋補修		1	式			
ﾓﾙﾀﾙ	普 通	0.1	㎡			
型枠	一般用	0.2	㎡			
計						

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ運転 (油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型)	25t吊り　ｵﾍﾟﾚｰﾀ付き　賃料 標準	29.	建改共 日			
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ運転 (油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型)	16t吊り　ｵﾍﾟﾚｰﾀ付き　賃料 標準	9.	建改共 日			
揚重機運搬費		1	建改共 式			
除雪費	現場事務所･資材置場分 人力除雪 1年目･2年目含む	1	建改共 式			
快適トイレ	国土交通省「快適トイレ」 標準仕様１及び２を満たすもの 男女各１基	48.	建改共 基・月			
リース料	遠隔臨場用現場端末	24.	建改共 月			
システム使用料	遠隔臨場	24.	建改共 月			
情報共有システム 初期登録料		1	建改共 式			
情報共有システム 月額利用料		24.	建改共 月			
計						

名　称	摘　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　考
揚重機運搬費		1	式			
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ(油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型)分解部品運搬		2.	往復			
計						

なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事

特記仕様書

令和　8 年 5 月

十勝中部広域水道企業団

● 共通事項特記仕様書
　　Ⅰ　　工事概要及び範囲
　　Ⅱ　　各　工　事

　● 第１章　　一般共通事項

○ 新営工事特記仕様書
　○ 第２章　　仮　設　工　事
　○ 第３章　　土　工　事
　○ 第４章　　地　業　工　事
　○ 第５章　　鉄　筋　工　事
　○ 第６章　　コンクリート工事
　○ 第７章　　鉄　骨　工　事
　○ 第８章　　ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事
　○ 第９章　　防　水　工　事
　○ 第10章　　石　工　事
　○ 第11章　　タイル工事
　○ 第12章　　木　工　事
　○ 第13章　　屋根工事及びとい工事
　○ 第14章　　金　属　工　事
　○ 第15章　　左　官　工　事
　○ 第16章　　建　具　工　事
　○ 第17章　　カーテンウォール
　○ 第18章　　塗　装　工　事
　○ 第19章　　内　装　工　事
　○ 第20章　　ユニット及びその他工事
　○ 第21章　　そ　の　他

● 改修工事特記仕様書
　● 第２章　　仮　設　工　事
　● 第３章　　防水改修工事
　● 第４章　　外壁改修工事
　● 第５章　　建具改修工事
　● 第６章　　内装改修工事
　● 第７章　　塗装改修工事
　● 第８章　　耐震改修工事
　● 第９章　　環境配慮改修工事
　○ 第10章　　屋　根　工　事
　● 第11章　　そ　の　他

○ 建具工事特記仕様書
　○ 第２章　　建　具　工　事

○ 共通事項特記仕様書

Ⅰ　工事概要及び範囲

Ⅱ　各　工　事

● 第１章　一般共通事項

● 機械設備工事特記仕様書

- ● 工　事　概　要
- ● 機械設備共通事項
- ○ 空気調和設備
- ● 暖　房　設　備
- ○ 冷　房　設　備
- ● 換　気　設　備
- ○ 排　煙　設　備
- ○ 給　油　設　備
- ○ 自動制御設備
- ● 給　水　設　備
- ● 排　水　設　備
- ● 給　湯　設　備
- ● 衛　生　器　具
- ○ 消　火　設　備
- ○ ガ　ス　設　備
- ○ 厨　房　機　器
- ● 環境配慮改修工事
- ○ そ　の　他

○ 共通事項特記仕様書

Ⅰ　工事概要及び範囲

Ⅱ　各　工　事

● 第１章　一般共通事項

● 電気設備工事特記仕様書

- ● 工　事　概　要
- ● 電気設備共通事項
- ● 電力設備工事
- ○ 発電設備工事
- ○ 通信・情報設備工事
- ○ 映像・音響設備工事
- ○ 構内配電線路設備・構内通信線路設備
- ○ 環境配慮改修工事
- ● 機器取り付け高さ

Ⅰ　工事概要及び範囲

1. 工 事 場 所　　北海道河西郡中札内村上札内328

2. 工 事 範 囲　　※　下記●は、工事対象範囲を示す。

	名　　称	構造種別・階数	数　量	単位	備　考
●	管理棟	RC造 地下1階地上2階建	3,229.315	㎡	耐震補強工事
○					
○					
○					

3. 建設工事に係る資材の再資源化に関する法律の対象の有無　　● 有　　○ 無

4. 指定部分工事

(1) 工事範囲

(2) 指定工期　　契約締結の翌日から　　令和　　年　　月　　日まで

5. 別 途 工 事

6. 施 工 区 分（分離発注の場合のみ記入）

※　下記●は、工事対象範囲を示す。

工種 / 項目	建築	電気	暖房	衛生	備　考
躯体の設備配管用のｽﾘｰﾌﾞ、箱抜等及びﾓﾙﾀﾙ等の充填		○	○	○	補強は建築
上記の補強	○				
設備機器用天井、壁、床下地の開口及び開口補強	○				埋込電灯、ｽﾋﾟｰｶｰ、ﾌｧﾝ等
設備機器用天井、壁、床仕上材の切込		○	○	○	補強は建築
設備用天井、床点検口	○				
防火戸用煙感知器、自動閉鎖装置		○			
設備機器用基礎	○	○	○	○	
ﾊﾞﾙｺﾆｰ・ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ等　排水金物	○			○	配管は衛生
流し台、ﾕﾆｯﾄﾊﾞｽの排水ﾄﾗｯﾌﾟ	○				接続は衛生
木製建具枠の取付け	○				建具枠のﾚｰﾙの欠込は建築
換気扇等取付枠	○	○	○	○	
同上　防雪フード	○		○		
外壁面入排気ガラリ及び防風板	○		○		
水道検針盤		○	○	○	
灯油集中盤への配線接続		○	○	○	

Ⅱ　各　工　事

1.　図面(閲覧用設計書を含む)及びこの特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書　令和7年版（各工事編）」（以下「標準仕様書」という。）、「公共建築改修工事標準仕様書　令和7年版（各工事編）」（以下「改修標準仕様書」という。）、「公共建築木造工事標準仕様書　令和7年版」、「建築物解体工事共通仕様書　令和4年版」（以下「解体共通仕様書」という。）及び「北海道建設部土木工事共通仕様書（令和7年10月版）」による。

2. 特記事項の適用については次による。

(1) 章は●印を、項目は ▶ 印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は●印の付いたものを適用する。

・●印の付かない場合は、＊印をつけたものを適用する。

・●印と (＊) 印が付いた場合は、共に適用する。

(3) 特記事項に記載の（　）内表示番号は、標準仕様書の該当項目、該当図又は該当表を示す。

3. この特記仕様書に施工部位の記載のないものは図面によるものとする。

4. 本工事における工事監理業務委託の予定の有無　　○ 有　　＊ 無

5. 関係法令等

(1)　受注者は、工事の施工に当たり、周辺環境の保全に努めるとともに適用を受ける関係法令等を遵守し、必要に応じて次の関係法令等に従い手続き等を行い、適切に施工すること。

・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（以下「廃棄物処理法」という。）
・ 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（以下「建設リサイクル法」という。）
・ 資源の有効な利用の促進に関する法律（以下「資源有効利用促進法」という。）
・ ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別処置法（以下「ＰＣＢ特別措置法」という。）
・ 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律（以下「フロン回収破壊法」という。）
・ ダイオキシン類対策特別措置法
・ 労働安全衛生法
・ 大気汚染防止法
・ 騒音規制法
・ 振動規制法
・ 水質汚濁防止法
・ 石綿障害予防規則
・ 特定化学物質障害予防規則
・ 建築基準法
・ 環境基本法
・ 土壌汚染対策法
・ 建設副産物適正処理推進要綱

(2)　受注者は、「建設工事公衆災害防止対策要綱　建築工事等編」及び「建築物の解体工事における外壁の崩落等による公衆災害防止対策に関するガイドライン」を遵守し、災害防止に努めること。

6. 工事に係る留意事項及び施工条件は、次のとおりとする。

稼働中の浄水場内における工事のため、工事工程・仮設計画・作業動線等は、
事前に監督員及び施設管理者と協議すること。

● 第 1 章 一般共通事項

項　　目	特　　記　　事　　項
▶ 1. 地元材等の優先使用	本工事に使用する主要資材は、地元資材及び道産資材、北海道認定リサイクル製品を使用するよう努めること。（木材及び木材製品は除く。）
▶ 2. 環境への配慮	受注者は本工事において、次の(1)から(4)を遵守すること。 (1) 化学物質を放散させる建築材料等（※１） 本工事に使用する建築材料等は、測定対象化学物質を含有していないものを基本とし、安全データシート（ＳＤＳ）や成分組成表により確認を行うほか、次のｱ. からｳ. を満たすものとする。 ｱ. ホルムアルデヒド放散建築材料に指定されている材料は、ＪＩＳ又はＪＡＳに定められたＦ☆☆☆☆を使用する。ただし、Ｆ☆☆☆☆の材料がない場合は監督員と協議すること。 ｲ. 接着剤は、フタル酸ジーｎ－ブチル及びフタル酸ジー２－エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用している環境対応型（配慮型）のものとする。 ｳ. 家具、建具類及び二次製品は、測定対象化学物質を含有しないか含有が極めて少ないものとする。 ※１　化学物質を放散する建築材料等 合板／木質系フローリング／構造用パネル／集成材／単板積層材／ＭＤＦ／パーティクルボード／その他の木質建材／ユリア樹脂板／壁紙／保温材／緩衝材／断熱材／接着剤／塗料／仕上材料／表面処理用木材保存（防腐・防蟻）剤 (2) 環境物品等の調達 本工事の資材等に係る環境物品等の調達は、北海道グリーン購入基本方針に基づく現行の環境物品等調達方針により行うよう努める。 上記における同調達方針として、資材（材料及び機材を含む）のこん包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮したものを優先的に選択・使用するよう努めること。 (3) 工事中の留意事項 ｱ. 換気の励行 工事期間中は、室内や足場内等の通風、換気を十分に行い、室内に放散された化学物質を室外に放出させること。 ｲ. 施設利用者にシックハウスを発症した場合の措置 工事期間中に当該施設利用者がシックハウス症候群となった場合は、監督員に速やかに報告するとともに、監督員、施設管理者と連携を図りながら原因究明に努めること。 また、施設管理者へ建築材料等の情報提供やＶＯＣ測定を行うなど監督員と協議の上、必要な措置を行うこと。 (4) 室内空気中の化学物質の濃度測定 室内空気中の化学物質の濃度を測定し、厚生労働省の指針値以下であることを確認の上、報告すること。 【測定対象化学物質の種類及び指針値】

測定対象化学物質	厚生労働省の指針値（２５℃の場合）
ホルムアルデヒド	０．０８ｐｐｍ　（　１００μｇ/㎥）
トルエン	０．０７ｐｐｍ　（　２６０μｇ/㎥）
キシレン	０．０５ｐｐｍ　（　２００μｇ/㎥）
エチルベンゼン	０．０８５ｐｐｍ　（　３７０μｇ/㎥）
スチレン	０．０５ｐｐｍ　（　２２０μｇ/㎥）
ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝ	０．０４ｐｐｍ　（　２４０μｇ/㎥）

※ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝは文部科学省大正建築物のみ適用

		濃度測定　○ 行う　● 行わない 測定箇所　（　　）箇所　※測定する位置は、図示による。 測定回数　＊ １回　○ ２回 測定時期　※ 測定を行う時期は、監督員の指示による。 測定方式 拡散法（パッシブ方式）又は厚生労働省が示す標準的な測定方法（アクティブ方式）により実施すること。 分析方法　厚生労働省の示している分析方法による。 測定時の平均室温が２０度に満たない場合は、厚生労働省が示す温度、湿度による補正（ホルムアルデヒド）を行うこと。
▶	3. 地域材の優先使用	本工事に使用する木材又は木材を原料とする資材を使用する場合は、地元（管内）木材を優先的に使用することとし、使用した材料の種別、産地等を監督員に報告すること。
▶	4. 合法木材の使用	木材又は木材を原料とする資材を使用する場合は、間伐材や合法性の証明された材を使用すること。 また、木材の合法性の証明は、「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」（平成１８年２月林野庁）に準拠し、資材納入業者から証明を受けるとともに、証明書類を工事完了年度から起算して５年間保存すること。
▶	5. 特別な材料の工法	設計図書等に指定されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。
▶	6. 品質計画	建築基準法に定められた区分等 ・ 風　　速（ Ｖｏ＝　30　ｍ／ｓ） ・ 地表面粗度区分（ ○ Ⅰ　○ Ⅱ　● Ⅲ　○ Ⅳ　） ・ 垂 直 積 雪 量（　150　cm）
▶	7. 工事写真	工程写真は、営繕工事写真撮影要領　令和5年版（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課）による。 デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について」（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課）による。 完成写真は、監督員と協議すること。
▶	8. 技能士	(1)　技能士の適用は次の職種とし、従事する技能士の氏名・職種及び資格を記載した書面により監督員に報告すること。 ただし、作業の軽微なものは、監督員との協議により省略することができる。 なお、施工計画書等の記載事項や添付資料（資格証明等）により、選定技能士の内容が確認できる場合は「技能者選定通知書」の提出を省略できる。 ＜職種＞ 型枠施工・鉄筋施工・防水施工・内装仕上げ施工・サッシ施工・ガラス施工・表装・塗装・建築板金・石材施工・建築大工・とび・左官・ブロック建築・タイル張り・エーエルシーパネル施工・カーテンウォール施工・造園・樹脂接着剤注入施工・コンクリート圧送施工・冷凍空気調和機器施工・配管・熱絶縁施工・枠組壁建築、厨房設備施工、自動ドア施工、バルコニー施工、ウェルポイント施工、建具製作、畳製作 (2)　技能士は、職業能力開発促進法による１級、２級若しくは単一等級の資格を有し、地域技能士会の発行する資格証明書、又は技能検定合格書の写し、或いは技能士手帳の写しを上記（１）の書面に添付すること。

		(3)　技能士は、適用する工事作業中、１名以上の者が自ら作業するとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。
▶	9. 施工中の安全確保及び環境保全等	受注者は、標準仕様書に定められた安全確保及び環境保全等のほか、特に次の事項に留意し、工事現場の事故防止に努めること。 (1)　労働者の安全衛生教育の徹底すること。 (2)　工事現場の安全パトロールの励行すること。 (3)　建設機械器具などの危害防止処置を徹底すること。 (4)　第三者に災害を及ぼしてはならない。 (5)　公害防止に努めること。 (6)　公道の汚染防止に努めること。 (7)　善良な管理者の注意をもってしても、災害又は公害の発生の恐れがある場合の処置は、監督員と協議すること。
▶	10. 交通安全管理	受注者は､工事の施工中の交通事故防止のため交通安全管理に努め､次の事項を遵守すること。 (1)　工事施工中の安全管理（交通誘導員の配置日及び人数を含む）について、工事着手に先立ち作成する総合施工計画書で計画すること。 なお、計画は資材搬出入運行路線・点検体制・その他車両運行に係る安全対策等について道路管理者等関係機関と十分な事前協議を行い、以後も常に連絡を密にとりながら適切な処置を講じること。 (2)　常に下請負人も含め工事施工中の交通安全管理状況の把握に努め、管理状況を適宜監督員に報告すること。 (3)　工事に関連して交通事故が発生したときは、速やかに監督員に連絡した後、書面により報告すること。 (4)　運搬には、許可業者を選定するなどして、過積載又は過労運転等に伴う交通事故防止に努めること。 (5)　建設機械（ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞｰ,ﾊﾞｯｸﾎｳ等）は、排出ガス対策型を使用し、かつ、低騒音・低振動型の車両を使用すること。
▶	11. 工事完成時の提出図書等	工事が完成した時は、帯広市営繕工事現場管理要領により、書類を整理のうえ、イージーキャビネット（Ａ４版）に収納し提出すること。完成図の製本は専門業者によるものとする。 (1) 完成図　＊ 作成する　○ 作成しない ・ 縮小版製本（Ａ３二つ折り）　○ ２部　● ３部 ・ １００%製本　● １部 ・ 別途工事分完成図について　○ まとめる　○ まとめない ・ 電子データ（完成図JWW・PDF）（完成写真ＰＤＦ）ＣＤ－Ｒ等による提出 ・ 設計原図の貸与　＊ 有り　○ 無し ・ ＣＡＤデータの貸与　＊ 有り　○ 無し (2) 保全に関する資料（提出部数　＊ １部　○ ＿＿部） (3) 保守に関する指導案内書（機器取扱説明書） 各設備の機能が十分発揮しうるよう、主要機器を含めた装置の取扱説明及び保守についての事項を記載したものとする。 指導案内書　A4判ｶﾗｰを標準　２部(住宅営繕課１＋施設１) 同上データ　ＣＤ－Ｒ等による　１式 (4) その他、必要とする書類については、監督員の指示による。
▶	12. 高度技術・創意工夫	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する事項について工事完了時までに所定の様式により提出することができる。
▷	13. 電力基本料金	本受電から引渡しまでの電力基本料金　○ 本工事　○ 別途

▶ 14. 発生材の処理等

発生材の処理等は、「建設リサイクル法」、「資源有効利用促進法」、「廃棄物処理法」等の関係法令及び「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理すること。

処分を行った場合は、処分数量の確認のため、その施設の許可書等（写し）、受入伝票又はマニフェスト伝票等（写し）を監督員に提示すること。
なお、工事完成書類としてマニフェスト伝票等（写し）の提出は求めない。
明示している処分場所については、受入可能な施設のうち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設としているが、処理施設場所を指定するものではない。

受注者の提示する処理施設と積算上の処理施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。

ただし、異なる処理施設となった理由が受注者の責によるものでないと判断される場合は、設計変更の対象として扱う。

(1) 発生材のうち、引き渡しを要する範囲は次による。監督員の指示する方法及び位置に堆積、整理し所定の発生材報告書により監督員に報告すること。

引き渡しを要する範囲： 有価金属

(2) 受注者が処分する有価物の範囲は次による。

有価物の範囲：

なお、有価物は、次の登録又は許可業者で処分すること。

ｱ. 廃棄物再生事業者登録（知事登録）

ｲ. 金属くず商許可業者（警察許可）

また、処分を行った場合は、その施設の許可書（写し）と受入伝票又はマニュフェスト伝票等、及び許可書等の写しを監督員に提出すること。

(3) 特別管理産業廃棄物

種　類	
処理方法	
処分場所	受入先：
	片道運搬距離　（　km）
種　類	
処理方法	
処分場所	受入先：
	片道運搬距離　（　km）

(4) 再資源化を図るもの（特定建設資材廃棄物）

種　類	コンクリート塊
場所	受入先：　㈲中札内運輸
	片道運搬距離　（ 9.7 km）
種　類	アスファルト・コンクリート塊
場所	受入先：
	片道運搬距離　（　km）
種　類	建設発生木材
場所	受入先：　㈲中札内運輸
	片道運搬距離　（ 9.7 km）

※ 設計上、特定建設資材廃棄物は発生しない場合で、受注者の都合により実際に特定建設資材を発生させ、廃棄物として処分する場合は、当該特定建設資材廃棄物の再資源化等実施方法の確定後に、監督員の確認を受けること。

(5)　再資源化を図るもの（特定建設資材廃棄物以外）

種　　類	
処理区分	○ 縮減　　○ 現場で使用
場所	受入先：
	片道運搬距離　　（　　km）

(6)　その他の発生材

種　　類	モルタル
処理区分	● 中間処理　　○ 最終処分
処分場所	受入先：　㈲中札内運輸
	片道運搬距離　　（　9.7　km）
種　　類	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ、ﾛｰﾙｶｰﾍﾟｯﾄ、ｸﾛｽ、岩綿吸音材、蛍光管類
処理区分	● 中間処理　　○ 最終処分
処分場所	受入先：　㈱北海道エコシス
	片道運搬距離　　（　45.3　km）
種　　類	石材、混合廃棄物、ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ・ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ・幅木・吹付材・複合板（AS含有）
処理区分	○ 中間処理　　● 最終処分
処分場所	受入先：　㈱北海道エコシス
	片道運搬距離　　（　52.1　km）
種　　類	石膏ボード類（JTB含む）
処理区分	● 中間処理　　○ 最終処分
処分場所	受入先：　㈱藤徳産業
	片道運搬距離　　（　19.4　km）
種　　類	陶器くず、ガラス
処理区分	○ 中間処理　　● 最終処分
処分場所	受入先：　㈲中札内運輸
	片道運搬距離　　（　9.7　km）
種　　類	グラスウール
処理区分	○ 中間処理　　● 最終処分
処分場所	受入先：　㈱ティーワイ
	片道運搬距離　　（　14.9　km）
種　　類	ＰＦ板
処理区分	○ 中間処理　　● 最終処分
処分場所	受入先：　大玄工業㈱
	片道運搬距離　　（　12.1　km）
種　　類	セメント板（AS含有）
処理区分	○ 中間処理　　● 最終処分
処分場所	受入先：　中島興業㈱
	片道運搬距離　　（　55.9　km）
種　　類	廃プラスチック類
処理区分	○ 中間処理　　● 最終処分
処分場所	受入先：　㈱五十嵐興業
	片道運搬距離　　（　33.0　km）

(7)　建設廃棄物の収集・運搬は、産業廃棄物収集運搬業の許可を受けた者とすること。

当該運搬車には、次に掲げる表示を行い、環境省令で定める書面を備え付けること。

産業廃棄物収集運搬車
業 者 名　　（ ○ ○ ○ ○ ○ ）
許可番号　　× × × × ×

(8)　「建設リサイクル法」対象工事及び「資源有効利用促進法」で定められた次の資材の搬入、副産物の搬出がある工事は、工事着手時に再生資源利用・利用促進計画書を提出し、提出時にその内容を説明するとともに、書面又は映像（デジタルサイネージ）により工事現場の見やすい場所へ掲示し、可能な限りインターネット

の利用により公表するよう努めなければならない。
　また、工事完了時に再生資源利用・利用促進実施書を提出し、監督員から請求があった時は、当該実施状況を報告すること。

資源有効利用促進法で定められた一定規模以上の工事
（次表の一つでも該当するもの）

・ 再生資源利用計画書

次のような建築資材を搬入する工事

土　　砂	５００ ㎥以上
砕　　石	５００ｔ 以上
加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	２００ｔ 以上

・ 再生資源利用促進計画書

次のような指定副資産物を搬出する建設工事

土　　砂	５００ ㎥以上
コンクリート塊 ｱｽﾌｧﾙﾄ・ｺﾝｸﾘｰﾄ塊 建設発生木材	合計 ２００ｔ 以上

▷ 15. 特殊な建築副産物

(1) 施工調査計画

特殊な建設副産物の施工調査は、次による。　(7.1.3)

なお、分析調査の結果、設計図書と異なる場合は、監督員と協議すること。

ｱ.　使用状況について、設計図書及び目視により製造所名、製造年、型式、種類、数量等を調査する。

ｲ. 分析調査

○ 行う　　○ 行わない

▷ 16. 特殊な建設副産物の回収及び処分

特殊な建設副産物の回収及び処分は、次による。　(7.3.1)

(1) フロン

ｱ. 冷媒

関係法令等に従い、登録受けた回収業者。

処理区分	＊ 回収
場所	業者名等：
	住　　所：
	片道運搬距離　　（　　km）

ｲ. 建材用断熱材フロン

処理区分	＊ 焼却
場所	業者名等：
	住　　所：
	片道運搬距離　　（　　km）

(2) ハロン

ハロン消火設備のハロン容器は、ハロン消火設備設置業者等に処理を委託。

処理区分	＊ 処理
場所	業者名等：
	住　　所：
	片道運搬距離　　（　　km）

(3) イオン化式感知器

製造業者に処理を委託。

処理区分	＊ 処理
場所	業者名等：
	住　　所：
	片道運搬距離　　（　　km）

(4) 六ふっ化硫黄ガス

製造業者に回収を委託。

種類	○ 絶縁開閉器　○ 絶縁変圧器等の受変電機器
処理区分	＊ 処理
場所	業者名等：
	住　　所：
	片道運搬距離　　（　　km）

(5) ＰＦＯＳ（ペルフルオロ（オクタン－１－スルホン酸））

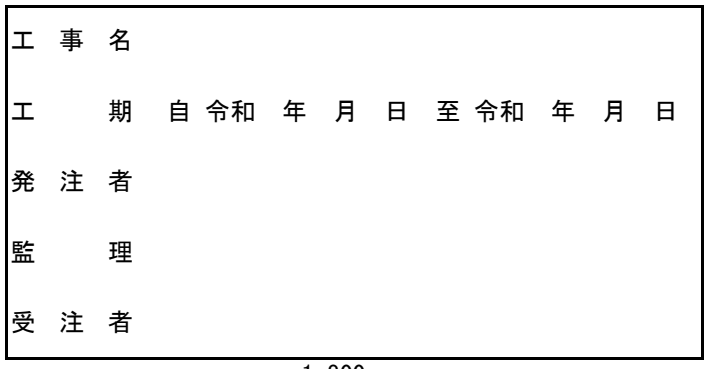
種類	○ 泡消火剤　○ その他（　　）
処理区分	○ 中間処理　○ 最終処分
場所	業者名等：
	住　　所：
	片道運搬距離　　（　　km）

(6) その他の特殊な建設副産物

種類	○
処理区分	○ 処理　○ その他の処理方法（　　）
場所	業者名等：
	住　　所：
	片道運搬距離　　（　　km）

▶	17. 北海道循環資源利用促進税	本工事で発生する産業廃棄物が、道内の最終処分場に直接搬入される場合、又は中間処理場に搬入される場合でも残さ等が発生し、最終処分場に搬出される場合は、循環税が課税されるので適正に処理すること。
▷	18. 自主施工期間の施工条件	自主施工期間中は、低温時施工により品質管理上支障の起こす恐れのない工種は、これを積極的に活用できる。 ただし、支障の起こす恐れのある次の工種は、工法等を監督員と十分協議の上、施工するものとする。 ＜工種＞　コンクリート・屋外防水・屋上防水・タイル・左官・塗装・緑化工事その他これに類する工事
▷	19. 防寒養生	防寒養生は、次の範囲とする。 (1) 養生期間　　令和　年　月　日から令和　年　月　日まで ただし、上記期間外において品質確保の観点から防寒養生の実施が必要となる期間については設計変更できるものとする。 なお、寒中コンクリートの適用期間については、建築工事監理指針第6章第11節　表6.11.1による。 (2) 養生方法 ｱ. 仮囲　　〇 上家仮囲　　〇 側 仮 囲 ｲ. 採暖　　〇 外部採暖　　〇 内部採暖
▶	20. 季節労働者などの雇用	工事施工に際しては、職業安定機関と密接な連携を図り、季節労働者などの雇用の拡大に努めること。
▶	21. 火災保険等	工事着手から完成引渡までの間を契約金額に相当する保険等に加入するものとし、取扱いは次による。 (1) 付保する保険 工事の内容により、火災保険、建設工事保険、組立保険等の１以上の保険を付保する。 なお、受注者自ら上記の保険に追加して付する特約等については、これを妨げるものではない。 (2) 保険金 原則として請負代金額とする。 (3) 保険の期間 保険の加入期間は原則として工事着手日から完成引渡しまでの間とする。 工事着手日　～　実際の工事のための準備工事（現場事務所等の建設又は測量を開始すること）の初日をいう。 完成引渡し　～　工期に１４日追加した日とする。 (4) 対象外工事 次に掲げる工事は、対象外工事として保険を付さない事ができる。 (ｱ) 解体、撤去、分解又は片づけ工事 (ｲ) 外構工事 (5) 保険契約の変更 保険契約締結後に請負代金額の変更又は工期延長等があった場合は、相応の保険契約を変更しなければならない。 (6) 保険証券等の提出 保険契約を締結（変更を含む）した場合は、当該保険証券等の写しを工事着手の前に、監督員へ提出しなければならない。 (7) 協議 この取扱いにより難い事項については、必要に応じて受注者は、発注者と協議するものとする。

▶	22. 法定外の労災保険の付保	本工事の受注者は、下記に従い、法定外の労災保険に付さなければならない。 (1)　この特記仕様書における「法定外の労災保険」とは、従業員等が業務上の災害によって身体の障害（後遺障害、死亡を含む）を被った場合に、法定労災保険の給付に上乗せして雇用者が従業員等又はその遺族に支払う金額に対し、保険会社が雇用者に保険金を支払うことを定める契約をいう。 (2)　受注者は、本工事の契約工期を包含する保険期間による「法定外の労災保険」（以下「法定外労災保険」という。）を締結しなければならない。本工事に係る契約締結時において「法定外労災保険」の契約を締結していない場合は、工事着工の前に「法定外労災保険」を締結すること。 (3)　受注者は「法定外労災保険」の保険証券の写し又は加入証明書の原本を工事着手の前に、監督員へ提出しなければならない。 (4)　契約書第23条に基づき本工事の工期を変更したことにより、工期が「法定外労災保険」の保険適用外に及んだ場合、受注者は速やかに変更後の工期による保険期間の変更又は保険の追加契約を行い、変更又は追加して契約した「法定外労災保険」の保険証券の写し又は加入証明書の原本を監督員へ提出しなければならない。 (5)　本工事で求める「法定外労災保険」については、保険契約に定める保険金額の多寡や特約の有無等の契約内容は問わず、保険契約の事実のみを求めるものとする。
▶	23. 現場環境改善	魅力ある建設工事を推進するため、工事現場の環境改善に努めること。
▶	24. 快適トイレの設置	本工事は、「快適トイレ設置工事」の対象工事である。 (1) 受注者が当該工事の現場に仮設トイレを設置する場合は、建設現場を男女ともに働きやすい職場環境へと改善することを目的に、快適トイレの設置を検討すること。 (2) 快適トイレとは、次のｱ.及びｲ.の各項目を全て満たすものとする。ｳ.については必須ではないが、装備していればより快適になると思われる項目なので、設置を検討すること。 ｱ. 快適トイレに求める標準仕様 (ｱ) 洋式（洋風）便器 (ｲ) 水洗機能（簡易水洗、し尿処理装置付き含む） (ｳ) 臭い逆流防止機能（フラッパー機能：必要に応じて消臭剤等活用し臭い対策を取ること） (ｴ) 容易に開かない施錠機能（二重ロック等：二重ロックの備えがなくても容易に開かないことを製造者が説明出来るもの） (ｵ) 照明設備（電源がなくても良いもの） (ｶ) 衣類掛け等のフック付、又は荷物置き場設備機能（耐荷重５kg以上） ｲ. 快適トイレとして活用するために備える付属品 (ｱ) 現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示 (ｲ) 周囲からトイレの入口が直接見えない工夫 (ｳ) サニタリーボックス (ｴ) 鏡付きの洗面台 (ｵ) 便座除菌シート等の衛生用品 ｳ. 推奨する仕様、付属品 (ｱ) 便房内寸法900×900㎜ 以上（半畳程度以上） (ｲ) 擬音装置 (ｳ) 着替え台 (ｴ) フラッパー機能の多重化

		(ｵ) 窓など室内温度の調整が可能な設備 (ｶ) 小物置き場等（トイレットペーパー予備置き場） (3) 快適トイレの設置にあたっては、次に留意すること。 ｱ. 男女別で１基ずつ設置することを原則とする。ただし、女性が現場にいない場合はこの限りではない。 なお、設計変更数量の上限は、男女別で１基ずつ２基／現場まで、一体型で１基／現場までとする。 ｲ. 具体的な実施内容や設置時期については、工事着手前の施工計画書提出時に、(2)の項目を満たすことを確認できる資料（見積書を含む）を監督員に提出し、規格・設置基数等の詳細について、協議のうえ決定すること。 ｳ. 手配が困難な場合は、監督員と協議のうえ設置しないことができる。
▶	25. 建設業退職金共済制度	工事現場には「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示すること。
▶	26. 工事標識	受注者は、着工後速やかに公衆の見やすい場所に工事標識を掲示すること。  注１ 黒文字・丸ゴシック　カラー鉄板（白）タルキ下地
▶	27. 工事実績情報の登録	受注者は、受注時、変更時及び完了時に(１０日以内)工事実績情報システム（ＣＯＲＩＮＳ）に基づき、「工事カルテ」を作成し、監督員の確認を受けた後に、（財）日本建設情報総合センターに登録申請しなければならない（ただし、請負代金額５００万円以上２，５００万円未満の工事については、受注時のみ登録するものとする。）。また、同センター発行の「工事カルテ受領書」の写しを監督員に提出しなければならない。（対象工事：請負代金額５００万円以上の全工事）
▶	28. 施工体制台帳の整備	建設業法に基づく施工体制台帳を作成し、施工管理体制に関する事項を監督員に提出しなければならない。また、公衆の見やすい場所に施工体系図を掲示すること。
▶	29. 共同企業体編成表の提出	本工事を共同企業体で受注した場合は、契約締結後５日以内に共同企業体編成表作成のうえ監督員に提出しなければならない。
▶	30. 完成施設事後調査実施	帯広市工事請負契約に定める「契約不適合責任」期間内に、完成施設事後調査実施方針に基づき下記調査を行う。 ○ 一次調査　　※ 一次調査及び二次調査
▶	31. 暴力団員等による不当介入を受けた場合の対応	(1) 受注者は、暴力団員等による不当要求又は工事（業務）妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、断固としてこれを拒否しなければならない。 また、不当介入があった時点で速やかに警察に通報するとともに、捜査上必要な協力を行わなければならない。 (2) 受注者は、前記により警察へ通報を行った際には、速やかにその内容を監督員に報告しなければならない。

	(3)　受注者は、暴力団員等による不当介入を受けたことにより、工程に遅れが生じる等の被害が発生した場合は、監督員と協議するものとする。
▶ 32. 特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律への対応	受注者は、「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」に基づき、保険への加入又は保証金の供託を行うこと。
▶ 33. 週休2日工事	(1)　本工事は、完全週休２日（土日）及び月単位の週休２日工事の対象工事であり、当初予定価格は月単位の週休２日以上の達成を前提とした経費の補正を行っている。 (2)　受注者は、週休２日による施工を希望する場合、契約後、発注者と協議を行い、協議が整った場合に完全週休２日（土日）及び月単位の週休２日による施工を行うこととする。 なお、月単位の週休２日が達成できない場合においても、通期の週休２日による施工を行わなければならない。 (3)　完全週休２日（土日）とは、対象期間内の全ての週において、土日に現場閉所されている状態をいう。土日に加えて、受注者自らが土日以外にも現場閉所することは可能とする。受注者の責によらず、土日に施工を行わざるを得ない場合は、事前に協議した上で、土日に代わる現場閉所日を指定するものとする。 月単位の週休２日とは、対象期間の全ての月において、４週８休以上（現場閉所日数（降雨、降雪等による予定外の現場閉所日を含む。）の割合（以下「現場閉所率」という。）が28.5%（８日／28日）以上の水準に達する状態）の現場閉所がされている状態をいう。ただし、暦上の土曜日・日曜日の閉所では現場閉所率が28.5%に満たない月は、その月の土曜日・日曜日の合計日数以上の閉所を行っている場合に、達成しているものとみなす。 通期の週休２日とは、対象期間の全体を通した期間において、土日・祝日にかかわらず、４週８休以上の現場閉所がされている状態をいう。 対象期間は、工事着手日（現場に継続的に常駐した最初の日）から工事完成日（各種仮設物を撤去し、現場の清掃を完了した日）までの期間をいう。なお、年末年始６日間、夏期休暇３日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間（受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間等）は含まない。 契約後、週休２日の対象期間としていた期間において、受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間が生じる場合は、受発注者間で協議し、現場閉所による週休２日の対象外とする作業と期間を決定するものとする。 (4)　現場閉所とは、巡回パトロール、保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場が閉所された状態をいう。なお、降雨、降雪などによる予定外の現場閉所日についても現場閉所日に含めるものとする。 (5)　週休２日の確保の取組みは、将来の担い手確保、入職しやすい環境づくりを目指すものであることから、週休２日による施工を実施する受注者は、その趣旨に沿った休日の取得に努めるものとする。 (6) 週休２日の実施の確認方法は、次によるものとする。 ・ 受注者は、週休２日の計画工程表を施工計画書に添付し発注者へ提出する。 ・ 受注者は、実施結果を発注者へ報告する。 (7)　発注者が必要に応じ週休２日の実施状況の聞き取り等を行う場合には、受注者は協力するものとする。

		(8)　補正の対象となる経費は、労務費（工事費の積算に用いる複合単価、市場単価及び物価資料の掲載価格（材工単価）の労務費）及び現場管理費とし、現場閉所の達成状況の結果、完全週休２日（土日）を達成した場合は、増額の設計変更を行い、月単位の週休２日に満たない場合は、減額の設計変更を行う。 　なお、その他労務費分が明らかとなっていない単価等については補正の対象としない。 (9)　週休２日工事について、受注者を対象としたアンケート調査の依頼があった場合は協力するものとする。 (10)　週休２日の実施計画書提出後、当該工事の全体工期に影響はでないものの、一部の施工内容・箇所に変更があり、工期内での期限を設ける必要がある場合は、対象期間外とできる場合があるので、受発注者間協議を行うこと。 (11)　その他の事項については、帯広市週休２日工事実施要領によるものとする。
▶	34. 主任技術者又は監理技術者の専任を要しない期間	請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。 なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、受注者が申し出た日とし、工事工程表、総合施工計画書、工事指示・協議書のいずれかで示すこと。 不明な点については、監督員と協議すること。
▶	35. 電子納品、情報共有システムの活用	本工事は、電子納品、情報共有システム活用の対象工事である。活用にあたっては、監督員と協議の上、「営繕工事電子納品要領」（平成24年３月12日付け国営施第25号）及び「電子納品運用ガイドライン」に基づき、情報共有システムを活用し、完成図書を電子納品すること。

● 第２章　仮 設 工 事

記載のない限り1.1.1等の3つの数字は、公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)の章･節･項を示す

項　目	特　記　事　項
▶ 1. 騒音･粉じん等の対策	(1) 防音パネル (2.1.3) ○ 設ける （設置範囲:図示）　＊ 設けない (2) 防塵用シート ● 設ける （設置範囲:電気室、発電機室）＊ 設けない (3) 壁つなぎ処理(高性能真空掃除機併用) ○ 適用する　○ 適用しない
▶ 2. 足場等	(1) 内部足場　○ 脚立足場　● 枠組足場　● 単管足場 (2.2.1) (2) 外部足場　● 設置する 足場を設ける場合には、「「手すり先行工法等に関するガイドライン」について」(厚生労働省令和5年12月改定)の「(別紙)手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、全ての作業床について手すり、中桟及び幅木の機能を有するものを設置しなければならない。 (3) 災害防止 (2.2.1) ○ 工事用ｼｰﾄ(ﾒｯｼｭ)　(○ 防炎Ⅰ類　○ 防炎Ⅱ類) ● 工事用ｼｰﾄ(帆布製)　(● 防炎Ⅰ類　○ 防炎Ⅱ類) ○ 養生防護棚　○ 金網張　○ 金網式養生枠 (4) 材料、撤去材等の運搬方法 (表2.2.1) ○ A種(二本構リフト等)　○ B種(トラッククレーン等)　○ C種(既存EV利用) ○ D種(既存階段)　○ E種(登り桟橋等)
▶ 3. 養生	(1) 既存部分･既存家具･既存設備等の養生 (2.3.1) ＊ 行わない　● 行う 養生方法　＊ ビニルシート　○ ＿＿＿＿＿＿ (2) 既存ブラインド、カーテン等の養生及び保管場所等 ＊ 行わない　● 行う 養生の方法　＊ ビニルシート　○ ＿＿＿＿＿＿ 保管場所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ (3) 固定された備品、机･ロッカー等の移動 ＊ 行わない　○ 行う 移動場所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
▶ 4. 仮設間仕切り	(1) 仮設間仕切りの種別 (2.3.2)(表2.3.1)

種別	下　地	材　質	充填材	塗　装
○ A種	○ 木下地	＊ せっこうボード(＊ 9.5 ○)	厚さ　mm	○ 片面
● B種	＊ 軽量鉄骨	○ 合板　(＊ 9.0 ○)	―	＊ 無し
＊ C種	○ 単管下地	○ 全面シート	―	―
仮設扉	＊ 木製扉	＊ 合板張り程度	―	―
	○ 鋼製扉	○ 片面フラッシュ程度	―	

	(2) 設置箇所　＊ 図示
▶ 5. 監督員事務所及び備品等	(1) 監督員事務所 (2.4.1) ● 設ける　＊ 設けない (＊ 10㎡　● 20㎡　○ 35㎡　○ 65㎡　○ 100㎡)程度 (2) 設備、備品等は監督員との協議による。
▶ 6. 工事用便所	＊ 設ける　○ 設けない
▶ 7. 工事用水	構内既存の施設　● 利用できる(　＊ 有償　○ 無償) ＊ 利用できない
▶ 8. 工事用電力	構内既存の施設　○ 利用できる(　＊ 有償　○ 無償) ＊ 利用できない
▷ 9. 指定仮設	＊ 仮設計画図による。

▷ 10. 交通誘導警備員	建設機械及び車両等の出入りの際には、出入口に交通誘導警備員を配置し、一般通行者及び一般車両の安全を確保すること。 なお、配置位置及び交通誘導警備員の区分は、次による。 配置位置　＊ 図示　　警備員詰所（　○ 設ける　　＊ 設けない　） 表 工事現場の位置と交通誘導警備員区分

工事現場の出入り口を設ける道路（路線）	交通誘導警備員区分
市街地（DID）内の路線	交通誘導警備員A
北海道（各方面）公安委員会告示による認定路線	
上記以外の路線	交通誘導警備員B

市街地内の路線及び認定路線の場合は、交通誘導警備業務を行う場所ごとに交通誘導警備員Aを1人以上配置する。

交通誘導警備員Aを配置できない場合で、やむを得ず受注者自らが交通誘導を行う場合は、監督員と協議すること。

▶ 11. 清掃員　建設機械及び車両等の出入りの際には、適宜作業員を配置し、敷地外の道路等を泥等で汚した場合には、速やかに清掃を行うこと。

● 第 3 章　防水改修工事

項　目	特　記　事　項	
▶ 1. 降雨等に対する養生方法	(1) 3.1.3(5)(ｱ)～(ｳ)による。	(3.1.3)
▷ 2. ルーフドレン回りの処理	(1) 改修用ドレン （P0AS、P0ASI、P0D、P0DI、P0S、P0SI、P0X工法の場合） ＊ 設ける　　○ 設けない	(3.2.5)
▷ 3. 既存下地の処理	(1) 補修箇所の形状、長さ、数量等　　＊ 図示	(3.2.6)
	(2) P0S工法及びP0SI工法（機械的固定工法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処理 ＊ 3.2.6による ○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	(3.2.6)
	(3) 架台回り等の取付け部及び防水層末端部等の納まり部の処理 ＊ 図示　　○ 監督員と協議	(3.2.6)
▷ 4. 既存防水層表面の仕上げ塗装	＊ 除去する　　○ 除去しない （M4AS、M4ASI、M4C、M4DI、L4X工法の場合）	(3.2.6)
▷ 5. 断熱材	各断熱工法で使用する断熱材は、ノンフロン仕様とする。	
▷ 6. アスファルト防水	(1) 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ＊ 表3.3.3から表3.3.9による ○ 図示	(3.3.2)
	(2) 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ＊ 表3.3.3、表3.3.4、表3.3.8及び表3.3.9による ○ 図示	(3.3.2)
	(3) 押え金物の材質及び形状寸法 材質:　＊ アルミニウム製　　○ ＿＿＿＿＿＿ 形状:　＊ L−30×15×2.0㎜程度　　○ ＿＿＿＿＿＿	(3.3.2)
	(4) 屋根保護防水断熱工法の断熱材の種類及び厚さ:	(3.3.2)

種類	厚さ(㎜)
＊ JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく 押出法ポリスチレンフォーム断熱材　3種bA（スキン層付き）	○ 30 ○ 50 ○ 100

(5) 屋根露出防水断熱工法の断熱材の種類及び厚さ (3.3.2)

種類	厚さ(mm)
＊ JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく次の発泡プラスチック断熱材 ○ ビーズ法ポリスチレンフォーム (JIS記号 ＿＿＿＿ ・スキン層等の区分 ＿＿＿＿) ○ 押出法ポリスチレンフォーム (JIS記号 ・スキン層等の区分)	○ 30 ○ 50 ○ 100
○ 硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号又は2号で透湿係数を除く JIS A 9521の規格に準ずるもの	

(6) 絶縁用シート (3.3.2)

ｱ. 屋根保護防水密着工法又は屋根保護防水絶縁工法

＊ ポリエチレンフィルム 厚0.15mm以上又はフラットヤーンクロス(70g/㎡程度)

○ ＿＿＿＿＿＿

ｲ. 屋根保護防水密着断熱工法又は屋根保護防水絶縁断熱工法

＊ フラットヤーンクロス(70g/㎡程度) ○ ＿＿＿＿＿＿

(7) 保護コンクリート (3.3.2)(8.11.1)

ｱ. コンクリートの種類 ＊ 普通コンクリート ○

ｲ. 設計基準強度(Fc) ＊ 18N/㎟ ○ ＿＿＿＿ N/㎟

ｳ. スランプ ＊ 15cm ○ 18cm

(8) 立上り部の保護材料 (3.3.2)

○ コンクリート ○ れんが ○ モルタル押え(屋内) ○ 乾式保護材

製造所の仕様による

(9) 種別及び工程 (3.1.4)(表3.1.1)(3.3.3)(表3.3.3～10)

施工部位	工　法	種　別	立上り部における保護工法
	○ P1B	○ B-1 ＊ B-2 (表3.3.3)	工法: ○ 図示 ○ ＿＿＿＿
	○ P1BI	○ BI-1 ＊ BI-2 (表3.3.4)	
	○ P2AI	○ AI-1 ＊ AI-2 ○ AI-3 (表3.3.5)	
	○ P2A	○ A-1 ＊ A-2 ○ A-3 (表3.3.6)	
施工部位	工　法	種　別	仕上塗料
	○ M4C	○ C-1 ＊ C-2 ○ C-3 ○ C-4 (表3.3.7)	種類: ○ ＿＿＿＿ ＊ 製造所の仕様による
	○ M3D ○ P0D	○ D-1 ＊ D-2 (表3.3.8)	使用量: ○ ＿＿＿＿
	○ P0DI ○ M3DI ○ M4DI	○ DI-1 ＊ DI-2 (表3.3.9)	＊ 製造所の仕様による
施工部位	工　法	種　別	保護層
	○ P1E ○ P2E	○ E-1 ＊ E-2 ○ E-1☆ (表3.3.10) (☆は表3.3.10の工程3を行う場合) ＊ 貯水槽、浴槽等の常時水に接する部位 ○	○ 設ける(図示) ○ 設けない

(10) 立上り部への断熱材及び絶縁用シートの設置(P1BI、P2AI工法の場合)　(表3.3.4～3.3.5)
○ 設置する　○ 設置しない
(11) 立上り部等の既存防水層及び保護層の撤去
＊ 表3.1.1による　○ 行わない
(12) 脱気装置の種類及び設置数量
(M3D、P0D、P0DI、M3DI、M4DI工法の場合)
＊ アスファルトルーフィング類の製造所の指定による
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿
(13) 屋根露出防水絶縁断熱工法におけるルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置　(3.3.4)
＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿＿＿
(14) 平場の保護コンクリートの厚さ　(3.3.5)(表8.1.5)
ｱ. こて仕上げ
＊ 80㎜以上　○ ＿＿＿＿
床面の仕上り平たんさ　○ a種　○ b種　○ c種
ｲ. 床タイル張り等仕上げ
＊ 60㎜以上　○ ＿＿＿＿
保護層等の屋上排水溝　(3.3.5)
(15) ○ 設けない　○ 設ける(図示)

▷ 7. 改質アスファルトシート防水

(1) 種別及び工程　(3.1.4)(表3.1.1)(3.4.2～3)(表3.4.1～3)

施工部位	工法	種別	材質	仕上塗材
	○ M4AS (表3.4.1)	○ AS-T1 ○ AS-T2 ○ AS-J2	＊ R種	＊ シルバー
	○ M3AS ○ P0AS (表3.4.2)	○ AS-T3 ○ AS-T4 ○ AS-J1 ○ AS-J3 ☆		
	○ M3ASI ○ M4ASI ○ P0ASI (表3.4.3)	○ ASI-T1 ○ ASI-J1	○ N種	○ カラー

☆AS-J3はP0AS工法の場合のみ

(2) 仕上塗料の種類及び使用量　(表3.4.1～3)
ｱ. 種類
＊ 改質アスファルトシートの製造所の仕様による
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿
ｲ. 使用量
＊ 改質アスファルトシートの製造所の仕様による
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿
(3) 改質アスファルトシートの種類及び厚さ　(3.4.2)
＊ 表3.4.1から表3.4.3による
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿
(4) 粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ　(3.4.2)
＊ 表3.4.1から表3.4.3による
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿
(5) 押え金物の材質及び形状寸法　(3.4.2)
ｱ. 材質　＊ アルミニウム製　○ ＿＿＿＿＿＿
ｲ. 形状　＊ L-30×15×2.0㎜程度　○ ＿＿＿＿＿＿

(6) 断熱材 (3.4.2)

種類	厚さ(mm)
＊ JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく次の発泡プラスチック断熱材 ○ ビーズ法ポリスチレンフォーム (JIS記号　　・スキン層等の区分　　) ○ 押出法ポリスチレンフォーム (JIS記号　　・スキン層等の区分　　)	○ 30 ○ 50 ○ 100
○ 硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号又は2号で透湿係数を除くJIS A 9521の規格に準ずるもの	

(7) M3AS、P0AS、M3ASI、M4ASI、P0ASI工法の脱気装置の種類及び設置数量 (3.4.3)

＊ 改質アスファルトシートの製造所の指定による

○ ＿＿＿＿＿＿

(8) M3ASI、M4ASI、P0ASI工法における防湿用シートの設置 (3.4.3)

○ 設ける　　○ 設けない

▷ 8. 合成高分子系ルーフィングシート防水

(1) 種別及び工程 (3.1.4)(表3.1.1)(3.5.2～4)(表3.5.1～3)

施工部位	工法	種別	厚さ(mm)		仕上塗材
	○ P0S	○ S-F1	＊ 1.2	○	＊ シルバー
		○ S-F2	＊ 2.0	○ 1.5	○ カラー
	○ S4S	○ S-M1	＊ 1.5	○	＊ シルバー
	(表3.5.1)	○ S-M2	＊ 2.0	○ 1.5	○ カラー
	○ P0SI	○ SI-F1	＊ 1.2	○	＊ シルバー
		○ SI-F2	＊ 1.5	○	○ カラー
	○ S4SI	○ SI-M1	＊ 1.5	○	＊ シルバー
	(表3.5.2)	○ SI-M2	＊ 1.5	○	○ カラー
	○ S3S	○ S-F1	＊ 1.2	○	＊ シルバー
	(表3.5.1)	○ S-F2	＊ 2.0	○ 1.5	○ カラー
	○ S3SI	○ SI-F1	＊ 1.2	○	＊ シルバー
	(表3.5.2)	○ SI-F2	＊ 1.5	○	○ カラー
	○ M4S	○ S-M1	＊ 1.5	○	＊ シルバー
	(表3.5.1)	○ S-M2	＊ 2.0	○ 1.5	○ カラー
	○ M4SI	○ SI-M1	＊ 1.5	○	＊ シルバー
	(表3.5.2)	○ SI-M2	＊ 1.5	○	○ カラー
	○ P1S	○ S-C1	＊ 1.0	○	
	(表3.5.3)				

(2) 既存防水層(立上り部等)の撤去(P0S(機械), P0SI(機械), M4S, M4SI, S4S(機械), S4SI(機械)の場合) (3.1.4)

＊ ルーフィング類の製造所の仕様による　　○ 行わない

(3) ルーフィングシート(JIS A 6008)の種類及び厚さ (3.5.2)

＊ 表3.5.1～表3.5.3による

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(4) 固定金具の材質、形状及び寸法 (3.5.2)

材質　＊ 防錆処理した鋼板　＊ ステンレス鋼板

＊ 片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

形状及び寸法　＊ 厚さ0.4mm以上　○

(5) 絶縁用シート及び可塑剤移行防止用シートの材質 (3.5.2)

＊ 発泡ポリエチレンシート　○ ＿＿＿＿＿＿

(6) 脱気装置の種類及び設置数量 (3.5.3)

＊ ルーフィングシートの製造所の仕様による(P0S工法、P0SI工法、S4S工法及びS4SI工法)

＊ ルーフィングシートの製造所の指定による(S3S工法及びS3SI工法)

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(7) 断熱材の種類及び厚さ (3.5.2)

ｱ. 機械的固定工法(JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材)

種類	厚さ(mm)
＊ ビーズ法ポリスチレンフォーム (JIS記号　　・スキン層等の区分　　)	○ 30 ○ 50 ○ 100
＊ 押出法ポリスチレンフォーム (JIS記号　　・スキン層等の区分　　)	
○ 硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号で透湿係数を除くJIS A 9521の規格に準ずるもの	

ｲ. 接着工法(JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材)

種類	厚さ(mm)
＊ ビーズ法ポリスチレンフォーム (JIS記号　　・スキン層等の区分　　)	○ 30 ○ 50 ○ 100
＊ 押出法ポリスチレンフォーム (JIS記号　　・スキン層等の区分　　)	
○ 硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号で透湿係数を除くJIS A 9521の規格に準ずるもの	
○ 密度及び熱伝導率がJIS A 9521に準ずるﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材	

(8) 仕上塗料の種類及び使用量 (表3.5.1～2)

ｱ. 種類　＊ 非歩行用仕様(S-F1及びS-M1)　○ ＿＿＿＿＿＿

ｲ. 使用量

＊ ルーフィングシートの製造所の仕様による

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(9) SI-M1及びSI-M2の防湿用ﾌｨﾙﾑの設置 (表3.5.2)

＊ 図示　○ ＿＿＿＿

(10) S-C1の工程4の保護モルタルの塗厚 (表3.5.3)

＊ 図示　○ ＿＿mm

(11) プレキャストコンクリート下地の場合の目地処理(接着工法) (3.5.4)

＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿

(12) プレキャストコンクリート下地の入隅部の増張り(S-F1又はSI-F1の場合) (3.5.4)

＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿

(13) 一般部のルーフィングシートの張付け(機械式固定工法の場合) (3.5.4)

建築基準法に基づく風圧力に対応した工法

＊ 適用する　○ 適用しない

(14) 立上り部の保護モルタルの塗厚(屋内保護密着工法の場合) (3.5.4)

＊ 図示　○　　mm

▷ 9. 塗膜防水

(1) ウレタンゴム系高伸長形塗膜防水の種別及び工程 (3.1.4)(表3.1.1)(3.6.3)(表3.6.1)

施工箇所	工法	種別	脱気装置の種類及び設置数量	仕上塗材
	○ P0X	＊ X-1 ○ X-2	＊ 主材料の製造所の仕様による ○	＊ シルバー ○ カラー
	○ L4X	○ X-1 ＊ X-2		

仕上塗料の種類及び使用量 (表3.6.1)

ｱ. 種類 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ｲ. 使用量　＊ 主材料の製造所の仕様による　○ ＿＿＿＿＿＿

(2) ウレタンゴム系高強度形塗膜防水の種別及び工程 (3.1.4)(表3.1.1)(3.6.3)(表3.6.2)

施工箇所	工法	種別	脱気装置の種類及び設置数量	仕上塗材
	○ P0X	＊ X-1H ○ X-2H	＊ 主材料の製造所の仕様による ○	＊ シルバー ○ カラー
	○ L4X	○ X-1H ＊ X-2H		

仕上塗料の種類及び使用量 (表3.6.1)

ア. 種類 ＿＿＿＿＿＿＿＿

イ. 使用量 ＊ 主材料の製造所の仕様による ○ ＿＿＿＿＿＿

(3) ゴムアスファルト系塗膜防水工法の種別及び工程 (3.1.4)(表3.1.1)(3.6.3)(表3.6.3)

施工箇所	工法	種別	工程5(保護層の仕様)
	○ P1Y ○ P2Y	＊ Y-2	○ 保護コンクリート ○ 保護モルタル

▶ 10. シーリング

(1) 改修工法等 (3.1.4)(表3.1.2)

施工箇所	改修工法
	シーリング充填工法
	シーリング再充填工法
	拡幅シーリング再充填工法
図　示	標準仕様書 表9.7.1新設工法

(2) シーリング材の種類及び施工箇所 (3.7.2)

下表以外は、表3.7.1による

種類	施工箇所	シーリング表面の仕上塗装
図　示	図　示	● あり　○ なし
		○ あり　○ なし

(3) シーリング材の目地寸法 ＊ 図示 (3.7.3)

(4) 接着性試験 (3.7.8)

＊ 行う (＊ 簡易接着性試験 ○ 引張接着性試験)

○ 行わない

▷ 11. とい

(1) といその他の材種: (3.8.2)(表3.8.1)

○ 配管用鋼管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管 ○ ＿＿＿＿＿＿

(2) とい受金物及び足金物の材種、形状及び取付け間隔 (3.8.2)(表3.8.2)

＊ 表3.8.2による ○ ＿＿＿＿＿＿

ア. 多雪区域の場合の軒どいの取付間隔(0.5m以下)

○ 適用する ○ 適用しない

(3) 防露材のホルムアルデヒド放散量 (3.8.2)

＊ F☆☆☆☆ ○ ＿＿＿＿＿＿

(4) 既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法 (3.8.3)

＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿

(5) 鋼管製といの防露巻き (3.8.3)

＊ 表3.8.4による ○ ＿＿＿＿＿＿

(6) たてどい受金物の取付け ＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿ (3.8.3)

(7) ルーフドレンの取付け工法 (3.8.3)

＊ 水はけよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

▷ 12. アルミニウム製笠木

(1) 部材の種類 (3.9.2)(表3.9.1)

○ 押出250形 ○ 押出300形 ○ 押出350形 ○ その他(図示)

(2) 板材折曲げ形の笠木本体幅及び板厚 (3.9.2)

○ 笠木本体幅 ＿＿＿ mm 板厚 ＊ 2.0mm ○ ＿＿＿ mm

(3) 表面処理の種別 (3.9.2)(表5.2.2)

○ AB-1種 ○ AB-2種 ○ AC-1種 ○ AC-2種

○ BA-1種 ○ BA-2種 ○ BB-1種 ○ BB-2種

○ BC-1種 ○ BC-2種 ○ C種

(4) 既存笠木等の撤去及び新規アルミニウム製笠木の下地補修工法 (3.9.3)
＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

(5) 板材折曲げ形の取付方法: (3.9.3)
＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

(6) 笠木の固定金具の工法等: (3.9.3)
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 ＊ 適用する ○ 適用しない

▷ 13. 保証
(1) 防水工事の保証期間は、(＊ 10年 ○ ＿＿＿ 年)

▷ 14. 環境配慮
(1) 環境対応低煙低臭型防水工事用ｱｽﾌｧﾙﾄや改良型無煙がま等の標準仕様書に規定されていない防水材料及び設備を用いる場合は、監督員と協議すること。

● 第４章 外壁改修工事

▷ 1. ひび割れ部改修

(1) コンクリート打放し仕上げ外壁 (4.1.4)(4.2.4～4.2.7)

ひび割れ幅	工 法	材 料	注入(口)間隔	注入量
0.2㎜以上 1.0㎜以下	＊ 自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ○ 手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ○ 機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	＊ ｴﾎﾟｷｼ樹脂 JIS A 6024	＊ 200～300 ○	○ 130 ○
○ 1.0㎜を超える ○	○ シール工法 ○ Uカットシール材充填工法 ○ ダイレクトシール工法(同等品) ○	○ パテ状エポキシ樹脂 ○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 ＊ 1成分形又は2成分形ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない		

(2) モルタル塗り仕上げ外壁 (4.1.4)(4.3.5～4.3.8)

ひび割れ幅	工 法	材 料	注入(口)間隔	注入量
0.2㎜以上 1.0㎜以下	＊ 自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ○ 手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ○ 機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	＊ ｴﾎﾟｷｼ樹脂 JIS A 6024	＊ 200～300 ○	○ 130 ○
○ 1.0㎜を超える ○	○ シール工法 ○ Uカットシール材充填工法 ○ ダイレクトシール工法(同等品) ○	○ パテ状エポキシ樹脂 ○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 ＊ 1成分形又は2成分形ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない		

(3) タイル張り仕上げ外壁 (4.1.4)(4.4.2)(4.4.5)(4.4.6)

ひび割れ幅	工 法	材 料	注入(口)間隔	注入量
0.2㎜以上 1.0㎜以下	＊ 自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ○ 手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法 ○ 機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	＊ ｴﾎﾟｷｼ樹脂 JIS A 6024	＊ 200～300 ○	○ 130 ○
○ 1.0㎜を超える ○	○ シール工法 ○ Uカットシール材充填工法 ○ ダイレクトシール工法(同等品) ○	○ パテ状エポキシ樹脂 ○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シーリング材の種類 ＊ 1成分形又は2成分形ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない		

(4) 樹脂注入工法のひび割れ部の注入状況の確認方法 (4.2.5)

＊ 行わない

○ 行う(コア抜取り)

抜取り個数 ＊ 長さ500mごと及びその端数につき1個

○ ＿＿＿＿

補修方法 ＊ 図示 ○ ＿＿＿＿

▷ 2. 欠損部改修

(1) コンクリート打放し仕上げ外壁 (4.1.4)(4.2.8)

工 法	材 料
＊ 充填工法	○ ポリマーセメントモルタル
○	○ エポキシ樹脂モルタル

(2) モルタル塗り仕上げ外壁 (4.1.4)(4.3.5)(4.3.10)

工 法	材 料
○ 充填工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル
○ モルタル塗替え工法	○ 既調合材料 ＿＿＿＿ ○ 現場調合材料(4.3.5による) ○ 仕上げ厚又は全塗厚が25㎜を超える場合の処i ＊ 図示 ○ モルタル塗替え工法の既製目地材 ○ 使用する(形状) ○ 使用しない

(3) タイル張り仕上げ外壁 (4.1.4)(4.4.5)

工 法	張付け材料
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系 目地詰め ○ 行う ○ 行わない
○ タイル張替え工法	○ 一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系 ○ 既調合モルタル

▷ 3. 浮き部改修

(1) モルタル塗り仕上げ外壁 (4.1.4)(4.3.9～16)

	改修工法の種類	アンカーピンの本数(本/㎡)		注入口の箇所数(箇所/㎡)		注入量
		一般部	指定部	一般部	指定部	(mL/箇所)
○	アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	＊ 16 ○	＊ 25 ○	—	—	＊ 25 ○
○	アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	＊ 13 ○	＊ 20 ○	＊ 12 ○	＊ 20 ○	＊ 25 ○
○	アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	＊ 13 ○	＊ 20 ○	＊ 12 ○	＊ 20 ○	＊ 50 ○
○	注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	＊ 9 ○	＊ 16 ○	—	—	＊ 25 ○
○	注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 25 ○
○	注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 50 ○
○	充填工法	＊ ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル				
○	モルタル塗替え工法	4.3.10による				

(2) タイル張り仕上げ外壁 (4.1.4)(4.4.7～15)

	改修工法の種類	アンカーピンの本数（本/㎡）		注入口の箇所数（箇所/㎡）		注入量
		一般部	指定部	一般部	指定部	(mL/箇所)
○	アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	＊ 16 ○	＊ 25 ○	—	—	＊ 25 ○
○	アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	＊ 13 ○	＊ 20 ○	＊ 12 ○	＊ 20 ○	＊ 25 ○
○	アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	＊ 13 ○	＊ 20 ○	＊ 12 ○	＊ 20 ○	＊ 50 ○
○	注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	＊ 9 ○	＊ 16 ○	—	—	＊ 25 ○
○	注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 25 ○
○	注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 9 ○	＊ 16 ○	＊ 50 ○
○	注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法	○ （本/枚）	○ （本/枚）	—	—	＊ 25 ○
○	タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル				
○	タイル張替え工法	○ 一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系				

(3) アンカーピンの材質等 (4.3.5)

＊ ステンレス鋼（SUS304）呼び径4㎜（丸棒）全ネジ切り加工

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(4) 注入口付アンカーピンの材質等 (4.3.5)

＊ ステンレス鋼（SUS304） 外径6㎜程度

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

▷ 4. タイル張り仕上げ外壁

(1) 再生材利用タイルの使用

○ 使用する ○ 使用しない

(2) 目地改修工法の種類 (4.1.4)

○ 目地ひび割れ部改修工法 ○ 伸縮調整目地改修工法

(3) タイルの形状、寸法等 (4.4.5)

形状寸法	うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性	工　法
	施釉	無釉	有	無	標	特	有	無		
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

施工部位図示とする。

(4) 見本焼、試験施工 (4.4.8)

見本焼 ○ 行う ＊ 行わない

試験張り ○ 行う ＊ 行わない

(5) タイル張替え工法における伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 (4.4.8)
＊ 表4.4.2による ○ 図示
(6) シーリング材の目地寸法 ＊ 図示 (4.4.8)
(7) 外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験 (4.4.8)
＊ 行わない ○ 行う
(8) 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理 (4.4.8)
＊ 目荒し工法(4.3.10(3)(ｳ)及び(ｴ)による)
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿
(9) セメントモルタルによるタイル張りの工法 (4.4.8)
ｱ. 外装タイル
○ 密着張り ○ 改良圧着張り
ｲ. ユニットタイル
○ マスク張り ○ モザイクタイル張り
(10) 有機系接着剤によるタイル張りのシーリング材(JIS A 5758)の種類 (4.4.5)
ｱ. 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地
＊ ポリウレタン系シーリング材 ○ ＿＿＿＿＿＿
ｲ. 伸縮調整目地その他の目地
＊ 変成シリコーン系シーリング材 ○ ＿＿＿＿＿＿
(11) タイル張り替え工法 (4.4.8)
ｱ. 伸縮調整目地改修工法における伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置
＊ 表4.4.2による ○ ＿＿＿＿＿＿
ｲ. タイルの種類及び工法
○ 外装タイル ○ ユニットタイル

▷ 5. 塗り仕上げ外壁等の改修

(1) 仕上塗材の種類(呼び名)、仕上げの形状及び工法 (4.1.5)(4.5.2)(表4.5.1)

施工部位	種類	呼び名	仕上げの形状	工法

(2) 複層仕上塗材及び可とう形改修塗材の耐候性等 (4.5.2)
ｱ. 耐候性 ＊ 耐候形3種 ○
ｲ. 溶媒 ＊ 水系 ○ 溶剤系 ○ 弱溶剤系
ｳ. 樹脂 ＊ アクリル系 ○ シリカ系 ○ ＿＿＿＿＿＿
ｴ. 外観 ＊ つやあり ○ つやなし ○ メタリック
(3) 既存塗膜等の除去、下地調整の工法 (4.5.4)(表4.5.4.～4.5.7)
○ 高圧水洗工法(50MPa程度の温水による洗浄(はく離剤を使わない。))
○ サンダー工法
○ 水洗い工法
＊ 塗膜はく離剤工法後、高圧水洗(10～15MPa)洗浄
(4) 下地調整 ＊ 下地調整塗材 ○ ポリマーセメントモルタル ○ 防水型仕上塗主材(4.5.4)
(5) 各工法の処理範囲 ＊ 既存仕上げ面全体 ○ 図示 (4.5.4)

▷ 6. マスチック塗材塗り

(4.1.5)(4.6.2)(表4.6.1)

施工部位	塗材	仕上材塗	防火性	仕上げの種類
	○ A ○ C	○ あり ○ なし	○ あり ○ なし	

▶ 7. 外壁用塗膜防水材

(1) 外壁用塗膜防水材の仕上げの形状及び工法: (4.1.5)(4.7.2)(表4.7.1)

施工部位	仕上の形状	工法	下地挙動緩衝材	耐候性
	○ 凹凸状　○ 凸部処理 ○	吹付け	○ 適用	○ 3種 ○
外壁	● ゆず肌状　○ さざ波状 ○	ローラー	○ 適用	○ 3種 ○

模様材の種類

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

＊ 外壁用塗膜防水材の製造所の仕様による

外壁用仕上塗材の種類

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

＊ 外壁用塗膜防水材の製造所の仕様による

(2) コンクリート面及びモルタル面のひび割れ部、欠損部及び浮き部の処置 (4.7.3)

○ 下地挙動緩衝材を用いる　＊ 下地挙動緩衝材を用いない

● 呼称:弾性吹付タイル

水性アクリルゴム系塗膜防水　既存:東亜合成㈱製品又は同等品

トップコート : フッ素樹脂(2回塗)

※既存塗膜状況確認の上 トップコート等選定の事

※周囲塗膜補修部位(W=100程度)は原則トップコートのみ補修とする。

● 第５章　建具改修工事

▶ 1. 改修工法

(1) ○ かぶせ工法　● 撤去工法 (5.1.3)

両方適用の場合の区分は、図示

(2) 新規に建具を設置する場合 (5.1.3)

壁部分の開口の開け方、新規建具周囲の補修工法並びに範囲

＊ 図示

▶ 2. 防火戸

(1) 防火戸の適用 (5.1.4)

● 適用する (適用箇所:　＊ 建具表による　○　　)

○ 適用しない

(2) ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動: (5.1.4)

＊ 建具表による　○ ＿＿＿＿

▶ 3. 見本の製作等

(1) 建具見本の製作　＊ 行わない　○ 行う(建具表により指定する。) (5.1.5)

(2) 特殊な建具の仮組　＊ 行わない　○ 行う(建具表により指定する。)

▶ 4. 取付け調整等

(1) ブラインドボックス等の再使用　＊ 行わない　○ 行う(建具表により指定する。) (5.1.6)

(2) 防犯建物部品　＊ 適用する　○ 適用しない (5.1.7)

▶ 5. アルミニウム製建具

(1) 外部に面するアルミニウム製建具の性能等級等 (5.2.2)(表5.2.1)

種　別	＊ A種	○ B種	○ C種
枠の見込寸法(㎜)	＊ 70 ● 100	＊ 70 ○ 100	○
耐風圧性	S-4	S-5	S-6
気密性	A-3		A-4
水密性	W-4		W-5

(2) 防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性能の等級　＊ 図示

(3) 断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級　＊ 図示

(4) 外部に面するアルミニウム製建具の断熱性能による等級

種　類	枠見込寸法(mm)	断熱性能による等級
引き違い	○ 70	○
引き違い	○ 100	○
開　き	○ 70	○
開　き	○ 100	○
ＦＩＸ	○ 70	○
	○ 100	

(5) アルミニウム製建具の表面処理 (5.2.4)(表5.2.2)

ア. 外部に面する建具

(ア) 種別　● BB-1種　○ BB-2種

(イ) 着色　● 標準色　○ 特注色

(　○ ブラウン系　○ ブラック　○ ステンカラー　○　　)

イ. 屋内の建具

(ア) 種別　○ BC-1種　○ BC-2種

(イ) 着色　○ 標準色　○ 特注色

(　○ ブラウン系　○ ブラック　○ ステンカラー　○　　)

(6) ステンレス製のくつずりの仕上げ　＊ HL　○ ＿＿＿＿ (5.2.4)

(7) 結露水の処理方法 (5.2.4)

＊ 図示　○ 水貯め式　○ 排水式　○ ＿＿＿＿

(8) 水切り板、ぜん板等の加工組立　＊ 図示　○ ＿＿＿＿ (5.2.5)

(9) 網戸等を設置する場合の防虫網の材質 (5.2.3)

○ ガラス繊維入り合成樹脂製　＊ 合成樹脂製　○ ステンレス(SUS316)

(10) 線径　＊ 0.25mm以上　○ ＿＿＿mm以上

(11) 網目　＊ 16～18ﾒｯｼｭ　○ ＿＿＿ﾒｯｼｭ

▷ 6. 樹脂製建具

(1) 外部に面する樹脂製建具の性能等級等 (5.3.2)(表5.3.1)

種　別	○ A種	○ B種	○ C種
枠の見込み寸法(mm)	＊ 建具表による ○	＊ 建具表による ○	＊ 建具表による ○
耐 風 圧 性	S-4	S-5	S-6
気　密　性	A-4		
水　密　性	W-4	W-5	

(2) 防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性能の等級 (5.3.2)

○ T-1　○ T-2

(3) 断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級 (5.3.2)(表5.3.2)

＊ 外部に面する樹脂製建具の断熱性の等級

○ 適用する(　○ H-4　○ H-5　○ H-6　○ H-7　○ H-8)

○ 適用しない

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(4) ガラス:　＊ 複層ガラス　○ 単板ガラス　○ 三重ガラス (5.3.3)

(5) 表面色　○ 標準色　○ 特注色 (5.3.4)

(6) ステンレス製のくつずりの仕上げ　＊ HL　○ ＿＿＿＿ (5.3.4)

(7) 水切り板、ぜん板等の加工組立 (5.3.5)(5.2.5)

＊ 図示　○ ＿＿＿＿

(8) 外部に面する建具の日射熱取得性の等級 (5.3.2)

○ N-1　○ N-2　○ N-3

▶ 7. 鋼製建具

(1) 簡易気密型ドアセット (5.4.2)(表5.4.1)

○ 適用する　● 適用しない

(2) 耐風圧性(外部) (5.4.2)(表5.2.1)

● S-4　○ S-5　○ S-6

(3) 防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性能の等級 (5.4.2)(5.2.2)

＊ 図示

(4) 断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級 (5.4.2)(5.2.2)
＊ 図示
(5) 耐震ドアとする場合の面内変形追随性の等級 (5.4.2)
＊ 図示
(6) くつずりの材料 ＊ ステンレス鋼板 ○ _____ (5.4.3)
(7) 鋼板類の厚さ ＊ 表5.4.2による ○ 図示 (5.4.4)

▶ 8. 鋼製軽量建具
(1) 簡易気密型ドアセット (5.5.2)
○ 適用する(A-3) ● 適用しない
(2) 防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性能の等級 (5.5.2)(5.2.2)
＊ 図示
(3) 断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級 (5.5.2)(5.2.2)
＊ 図示
(4) 耐震ドアとする場合の面内変形追随性の等級 (5.5.2)
＊ 図示
(5) 鋼板類 (5.5.3)
○ 亜鉛めっき鋼板 ○ ビニル被覆鋼板 ○ カラー鋼板
○ ステンレス鋼板
(6) 召合せ、縦小口包み板等の材質 (5.5.3)
○ ｽﾃﾝﾚｽ鋼板 ＊ 鋼板 ○ アルミニウム合金押出形材
(7) 鋼板類の厚さ ＊ 表5.5.1による ○ 図示 (5.5.4)

▷ 9. ステンレス製建具
(1) 簡易気密型ドアセット (5.6.2)
○ 適用する ○ 適用しない
(2) 耐風圧性(外部) ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (5.6.2)
(3) 耐震ドアとする場合の面内変形追随性の等級 (5.6.2)
＊ 図示
(4) ステンレス鋼板 (5.6.3)
○ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1 ○ _____
(5) 表面仕上げ ＊ HL ○ 鏡面 (5.6.4)
(6) 曲げ加工 ＊ 普通曲げ ○ 角出し曲げ (5.6.5)

▶ 10. 木製建具
(1) 建具材の含水率の種別 ＊ A種 ○ B種 (5.7.2)(表5.7.1)
(2) フラッシュ戸の表面材の合板の種類 (5.7.2)(表5.7.2)

合板の種類	表面材の品質等
● 普通合板	接着の程度 ＊ 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○ 板面の品質 ＊ 広葉樹1等 ○
○ 天然木化粧合板	接着の程度 ＊ 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○
○ 特殊加工化粧合板	接着の程度 ＊ 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○
○ ミディアムデンシティファイバーボード(MDF)	表裏面の状態による区分 (　　) 曲げ強さによる区分 (　　) 耐水性による区分 (　　) 難燃性による区分 (　　)

かまち戸の材料
かまち樹種 _____
鏡板樹種 _____
ふすまの材料 (表5.7.3)
種別 ○ Ⅰ型 ○ Ⅱ型
上張り(押入等の裏側以外)
○ 鳥の子 ○ 新鳥の子又はビニル紙程度

	枠及びくつずりの材料 ＊ 図示 接着剤のホルムアルデヒド放散量 (表5.7.4) ＊ F☆☆☆☆ ○ 表面板の厚さ (5.7.3)(表5.7.6) ＊ 表5.7.6 ○ ＿＿＿＿＿＿ 見込み寸法 (㎜) (表5.7.7) かまち戸 ＊ 36 ○ ＿＿ ふすま ＊ 19.5 ○ ＿＿ 戸ぶすま ＊ 30 ○ ＿＿ 紙張り障子 ＊ 30 ○ ＿＿ (3) 工法 (5.7.4)(表5.7.8)(表5.7.10) 引戸の召合せかまちをいんろう付き ○ 適用する ○ 適用しない ふすまの縁の仕上げ ○ 塗り縁 ○ 生地縁(素地) ○ 生地縁(ウレタンクリヤー塗装)
▶ 11. 建具用金物	(1) 材質、形状及び寸法 (5.8.2)(表5.8.1～表5.8.5) ア. 金物の種類及び見え掛り部の材質: ＊ 建具表による 建具表で指示のない建具金物は、表5.8.1による。 イ. 金属製建具、樹脂製建具及び木製建具に使用する丁番: ＊ 表5.8.2～4による ○ ＿＿＿＿＿＿ ウ. 木製建具に使用する戸車及びレール: ＊ 表5.8.5による ○ ＿＿＿＿＿＿ (2) 取付け施工 (5.8.3) 取っ手類の取付け高さ(床仕上げ面からの高さ) ＊ 建具表による ○ 建具製造所の仕様による (3) マスターキー (5.8.4) ○ 製作する ＊ 製作しない ● 既存のマスターキーに合わせる (4) 鍵 ＊ 3本1組(室名札付) ○ ＿＿＿＿＿＿ (5.8.4) (5) 鍵箱(仕様は監督員と協議) ○ 無し ○ 有り (5.8.4)
▷ 12. 自動ドア開閉装置	(1) 引き戸用駆動装置の性能 (5.9.2)(表5.9.1) ○ SSLD-1 ○ SSLD-2 ○ DSLD-1 ○ DSLD-2 防錆の適用 ○ 適用する ○ 適用しない (2) 車椅子使用者用便房出入口に設置される引き戸用駆動装置の性能 (5.9.2) ＊ 表5.9.2による ○ 図示 防錆の適用 ○ 適用する ○ 適用しない (3) 引き戸用検出装置の性能 (5.9.2) ＊ 表5.9.3による ○ 図示 防錆の適用 ○ 適用する ○ 適用しない (4) 戸の開閉方式は、建具表による。 (5.9.2) (5) 引き戸用検出装置の種類 (5.9.2)(表5.9.4) ＊ 光線(反射)センサー ○ 熱線センサー ○ その他 ＿＿＿＿＿＿ タッチスイッチの種類 ○ 無線式タッチスイッチ ○ 光線式タッチスイッチ 車椅子使用者用便房用操作スイッチの種類 ○ 大形(開・閉)押しボタンスイッチ ○ 非接触スイッチ (6) 凍結防止措置 ＊ 行う(適用箇所は建具表による) ○ 行わない (5.9.2)
▷ 13. 自閉式上吊り引戸装置	(1) 性能等 (5.10.3) ＊ 表5.10.1による ○ ＿＿＿＿＿＿
▷ 14. 重量シャッター	(1) シャッターの種類 (5.11.2) ○ 管理用シャッター ○ 外壁用防火シャッター ○ 屋内用防火シャッター ○ 防煙シャッター (2) 耐風圧強度 (5.11.2) 管理用シャッター ＿＿＿＿ Pa 外壁用防火シャッター ＿＿＿＿ Pa

(3) 開閉方式 (5.11.2 表5.11.1)
＊ 電動式(手動併用) ○ 手動式
(4) 安全装置 (5.11.2)
ｱ. 急降下制動装置等の設置箇所 ＊ 図示
ｲ. 障害物感知装置の設置設置箇所 ＊ 図示
ｳ. 煙感知器連動機構若しくは熱感知器連動機構又は手動閉鎖装置により閉鎖する屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターに設ける装置
＊ 危害防止装置
○ 可動座板式
危害防止装置又は可動座板式は「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」(昭和48年12月28日 建設省告示第2563号)に定める基準に適合するもの
設置箇所 ＊ 図示
(5) シャッターケース(管理用シャッター) (5.11.2)
○ 設ける ○ 設けない
(6) 注意喚起装置
○ 音声発生装置 ○ 注意灯の設置
○ シャッターへの危険表示 ○ シャッターの下降位置の表示
(7) 吹雪止め 吹き込み防止用サイドシール(3方)を設ける
(8) 鋼板の種類及びめっきの付着量 (5.11.3)
種類 ○ JIS G 3302 ○ JIS G 3312
付着量 ＊ Z12又はF12 ○ _____
(9) ガイドレール及びまぐさ、外部に面する箇所に用いる場合の座板又は座板カバー及びスイッチボックス類のふた
ステンレス鋼板
○ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1 ○ _____

▷ 15. 軽量シャッター
(1) 開閉形式による種類 ＊ 手動式 ○ 電動式(手動併用) (5.12.2)(表5.12.1)
(2) 耐風圧強度 _____ Pa (5.12.2)
(3) 安全装置(電動式シャッター) (5.12.2)
急降下停止装置
○ 設ける ○ 設けない
(4) スラットの材質の種類 (5.12.3)
○ JIS G 3312
めっき付着量 ＊ Z06又はF06 ○ _____
○ JIS G 3322
めっき付着量 ＊ AZ90 ○ _____
(5) スラットの種類 ○ インターロッキング形 ○ オーバーラッピング形 (5.12.4)

▷ 16. オーバーヘッドドア (5.13.2･3)

セクション材料による区分	耐風圧区分	開閉方式による区分	収納形式による区分
＊ スチールタイプ	○ 125	＊ バランス式	○ スタンダード形
○ アルミニウムタイプ	○ 100	○ チェーン式	○ ローヘッド形
○ ファイバーグラスタイプ	○ 75	○ 電動式	○ ハイリフト形
○	○ 50		○ バーチカル形

障害物感知装置の設置(電動式)
設置箇所 ＊ 図示
ガイドレールに使用する材料
＊ 溶融亜鉛めっき鋼板 ○ ステンレス鋼板
○ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1

▶ 17. ガラス

(1) ガラスの種類及び厚さは建具表による。 (5.14.2)

(2) ガラス留め材(防火戸以外)

該当	建具の種類	材　　種
○	アルミニウム製建具	＊ シーリング材　○ 建築用ガスケット
●	鋼 製 建 具	＊ シーリング材
○	ステンレス製建具	＊ シーリング材
●	鋼製軽量建具	＊ シーリング材
○	木 製 建 具	＊ 押縁
○	樹脂製建具	＊ 建築用ガスケット

(3) 板ガラスをはめ込む溝の大きさ (5.14.3)
＊ 建具の製造所の仕様による　○ 図示

(4) ガラス用フィルム(JIS A 5759)の性能　＊ 図示

▷ 18. ガラスブロック積み

(1) 表面形状、呼び寸法及び厚さ　＊ 図示 (5.14.5)

(2) 壁用金属枠、補強材　＊ 図示 (5.14.5)

(3) 力骨の材質、寸法、形状 (5.14.5)
＊ ステンレス鋼(SUS304)、径5.5㎜のはしご形状複筋及び単筋
○ 図示

(4) 化粧目地モルタル　色 ＿＿＿＿＿＿ (5.14.5)

(5) シーリングの種類　＊ 図示 (5.14.5)

(6) 金属製化粧カバーの材質、寸法、形状 (5.14.5)
＊ 図示

(7) 建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 (5.14.5)
＊ 適用する　○ 適用しない

(8) ガラスブロックの目地幅の寸法 (5.14.5)
ア. 平積み　＊ 8㎜以上15㎜以下　○ ＿＿＿＿
イ. 曲面積み　＊ 曲率半径をｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸの幅寸法の10倍以上とし、外側15㎜以下、内側6㎜以上
○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(9) 伸縮調整目地の位置 (5.14.5)
＊ 6m以下ごとに幅10～25㎜　○ 図示

(10) 目地部の横力骨の納まり (5.14.5)
＊ ガラスブロック製造所の仕様　○ 図示

● 第 6 章　内装改修工事

項　　目	特　　記　　事　　項
▶ 1. 他の部位との取合い等	(1) 既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲 (6.1.3) ＊ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ● 図示による (2) 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ＊ 壁面より両側600㎜程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ● 図示による (3) 既存天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修 ＊ 既存のまま ○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
▶ 2. 既存床の撤去及び下地補修	(1) 浮き、欠損部等による下地モルタルの撤去 (6.2.2) ＊ 図示　○ ＿＿＿＿ (2) 合成樹脂塗床材の除去等 ○ 機械的除去工法　● 目荒し工法 (3) 改修後の床の清掃範囲 ＊ 改修端部より1m程度　○ ＿＿＿＿

▶ 3. 既存壁の撤去及び下地補修

(1) 間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 (6.3.2)

＊ モルタル塗替え工法(4.3.10)のモルタル塗り

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

▷ 4. 木下地等

(1) 表面仕上げ(見え掛り面) (6.5.1)

＊ プレーナー加工仕上げ程度　○ 超自動機械かんな　○ サンダー等

(2) 木材の含水率 (6.5.2)(表6.5.1)

ｱ.

部位	種別		備考
下地材	＊ A種(15%以下)	○ B種(20%以下)	全断面の平均の推定値
造作材	＊ A種(15%以下)	○ B種(18%以下)	

ｲ. ホルムアルデヒド放散量　＊ F☆☆☆☆　○ ＿＿＿＿＿＿

(3) 製材 (6.5.2)

ｱ. JAS 1083-5による下地用製材

施工箇所	等級	寸法(mm)	保存処理	含水率
	＊2級 ○		○ 防腐　○ 防虫 ○ 防ぎ　○	＊ A種 ○ B種
	＊2級 ○		○ 防腐　○ 防虫 ○ 防ぎ　○	＊ A種 ○ B種
	＊2級 ○		○ 防腐　○ 防虫 ○ 防ぎ　○	＊ A種 ○ B種

ｲ. JAS 1083-2による造作用製材

施工箇所	等級	寸法(mm)	保存処理	含水率
見え掛り面	＊ 上小節 ○		○ 防腐　○ 防虫 ○ 防ぎ　○	＊ A種 ○ B種
見え掛り面以外	○ 上小節 ＊ 小節		○ 防腐　○ 防虫 ○ 防ぎ　○	＊ A種 ○ B種

ｳ. JAS 1083-6による広葉樹製材

施工箇所	等級	寸法(mm)	保存処理	含水率
	＊1等 ○		○ 防腐　○ 防虫 ○ 防ぎ　○	＊ 10%以下 ○
	＊1等 ○		○ 防腐　○ 防虫 ○ 防ぎ　○	＊ 10%以下 ○
	＊1等 ○		○ 防腐　○ 防虫 ○ 防ぎ　○	＊ 10%以下 ○

ｴ. JAS 1083(製材)以外の製材 (6.5.2)(表6.5.2)

施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	含水率
		＊ A種 ○ B種	○ 適用する ○ 適用しない	＊ A種 ○ B種
		＊ A種 ○ B種	○ 適用する ○ 適用しない	＊ A種 ○ B種
		＊ A種 ○ B種	○ 適用する ○ 適用しない	＊ A種 ○ B種

(4) JAS乾燥認定工場から出荷された木材は、出荷証明書を、その他の工場から出荷された木材は、北海道林産物検査会が発行する検査証明書を提出すること。

(5) カラマツの使用範囲は、束・母屋・土台・大引きとする。

(6) 造作用集成材等 (6.5.2)

ｱ.「集成材の日本農林規格」による造作用集成材等

施工箇所	品名	樹種	見付け材面	寸法(mm)	見付け材面の品質
			面		＊ 1等 ○ 2等
			面		＊ 1等 ○ 2等

イ.「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種	厚さ(mm)	見付け材面	寸法(mm)	見付け材面の品質
		化粧薄板: 芯材:		面 面		＊ 1等 ○ 2等 ＊ 1等 ○ 2等
		化粧薄板: 芯材:		面 面		＊ 1等 ○ 2等 ＊ 1等 ○ 2等

ウ.「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材等

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率
			＊ 1等 ○ 2等	＊ 15%以下 ○
			＊ 1等 ○ 2等	＊ 15%以下 ○

エ.「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率
	化粧薄板: 芯材:			＊ 1等 ○ 2等 ＊ 1等 ○ 2等	＊ 15%以下 ○
	化粧薄板: 芯材:			＊ 1等 ○ 2等 ＊ 1等 ○ 2等	＊ 15%以下 ○

(7) 造作用単板積層材 (6.5.2)

ア. JAS 0701の造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質(化粧加工)	防虫処理
			○ 有り [加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工] ○ 無し (等級:)	○ 適用する ○ 適用しない
			○ 有り [加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工] ○ 無し (等級:)	○ 適用する ○ 適用しない

イ. JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質(化粧加工)	含水率	防虫処理
		○ 有り [加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工] ○ 無し ( )	＊ 14% 以下 ○	○ 適用する ○ 適用しない
		○ 有り [加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工] ○ 無し ( )	＊ 14% 以下 ○	○ 適用する ○ 適用しない

ウ. JAS 3079による直交集成板

施工箇所	品名	樹種	寸法(mm)	強度等級	種別	接着性能
	○ 異等級構成 ○ 同一等級構成	○ ○	○ ○	○ 目視1等 ○ 目視2等	○ A種 ○ B種	○ A ○ B ○ C
	○ 異等級構成 ○ 同一等級構成	○ ○	○ ○	○ 目視1等 ○ 目視2等	○ A種 ○ B種	○ A ○ B ○ C

(8) 合板等 (6.5.2)

ｱ.「合板の日本農林規格」による普通合板

施工箇所	品名	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理
		＊ 5.5 ○		＊ 1類 ○ 2類	広葉樹 ＊ 2等 ○ 1等 針葉樹 ＊ C-D ○	○ 適用する ○ 適用しない
		＊ 5.5 ○		＊ 1類 ○ 2類	広葉樹 ＊ 2等 ○ 1等 針葉樹 ＊ C-D ○	○ 適用する ○ 適用しない

ｲ.「合板の日本農林規格」による構造用合板

施工箇所	品名	厚さ(mm)	単板の樹種名	保存処理	板面の品質	等級	接着の程度	防虫処理	強度等級
		＊ 12.0 ○	○ ○	○ ○	＊ C-D ○	＊ 2級 ○ 1級	○ 特類 ＊ 1類	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ( ) ○ 適用しない
		＊ 12.0 ○	○ ○	○ ○	＊ C-D ○	＊ 2級 ○ 1級	○ 特類 ＊ 1類	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ( ) ○ 適用しない

ｳ.「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	品名	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理
		○ 12.0 ○	○ ○	○ 特類 ＊ 1類	○ 適用する ○ 適用しない
		○ 12.0 ○	○ ○	○ 特類 ＊ 1類	○ 適用する ○ 適用しない

ｴ.「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理
	○	○	○ 1類 ○ 2類	○ 適用する ○ 適用しない
	○		○ 1類 ○ 2類	○ 適用する ○ 適用しない

ｵ.「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	品名	単板の樹種名	化粧加工の方法	表面性能	厚さ(mm)	接着の程度	防虫処理
		○	○ ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ○ ﾌﾟﾘﾝﾄ ○ 塗装等 ○	○	○	○	○ 適用する ○ 適用しない
		○	○ ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ○ ﾌﾟﾘﾝﾄ ○ 塗装等 ○	○	○	○	○ 適用する ○ 適用しない

カ. JIS A 5908によるパーティクルボード

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	厚さ(mm)
		＊ 13タイプ ○	○ 耐水性1(Mタイプ) ○ 耐水性2(Pタイプ)	＊ 15 ○
		＊ 13タイプ ○	○ 耐水性1(Mタイプ) ○ 耐水性2(Pタイプ)	＊ 15 ○

キ. JAS 0360による構造用パネル

施工箇所	品名	厚さ(mm)

ク. JIS A 5905によるミディアムデンシティーファイバーボード(MDF) (6.5.2)

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)

(9) 接合具等 (6.5.3)

ア. 釘等

造作材の化粧面の釘打ち ＊ 隠し釘打ち ○ _____

イ. 諸金物

形状、寸法及び材質 ＊ 表6.5.3～表6.5.5による ○ 図示

ウ. 接着剤

ホルムアルデヒド放散量 ＊ F☆☆☆☆ ○ _____

(10) 木れんがの接着工法に使用する接着剤 (6.5.4)

ホルムアルデヒド放散量 ＊ F☆☆☆☆ ○ _____

(11) 防腐・防蟻処理 (6.5.5)

ア. 表面処理用防腐剤は監督員の承諾するものとする。

イ. 防腐・防蟻処理が不要な樹種による製材及び集成材

適用部位 (　　)

ウ. 薬剤の加圧注入処理等による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
	○ K2 ○ K3 ○ K4
	○ K2 ○ K3 ○ K4

エ. 薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	薬剤の種類	処理の方法
	○ JIS K 1571に適合する表面処理用木材保存剤又は同等品	＊ 薬剤の製造所の仕様による ○
	○ JIS K 1571付属書Aに基づく表面処理用木材保存剤 種類:(　　)	＊ 薬剤の製造所の仕様による ○
	○	＊ 薬剤の製造所の仕様による ○

オ. 薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理

適用部材 (　　)

カ. 合板等の加圧注入処理等による防腐・防蟻処理

適用部材 (　　)

保存処理の性能区分 ＊ K3 ○ _____

キ. 不燃処理木材等

○ 不燃材料 ○ 準不燃材料 ○ 難燃材料

(12) 鉄筋コンクリート造等の内部間仕切軸組及び床組 (6.5.6)

ｱ. 間仕切軸組に用いる木材

＊ 杉又は松 ○

ｲ. 床組に用いる木材

＊ 杉又は松 ○

(13) 窓、出入口その他に用いる木材 (6.5.7)

ｱ. 吊元枠、水掛りの下枠及び敷居 ＊ ひのき ○

ｲ. その他 ＊ 杉又は松 ○

(14) 縁甲板及び上がりがまちに用いる木材 (6.5.8)

＊ ひのき ○

(15) 壁及び天井下地に用いる木材 (6.5.9)

＊ 杉又は松 ○

▶ 5. 軽量鉄骨天井下地

(1) 材料 (6.6.2)(表6.6.1)

ｱ. 野縁等の種類

施工部位		野縁等の種類
屋内	図示	＊ 19形
		○ 25形
屋外		○ 19形
	図示	＊ 25形

(2) 形式及び寸法 (6.6.3)(表6.6.2)

ｱ. 野縁受け、つりボルト及びインサートの間隔

屋内	＊ 900㎜程度 周辺部の端から150㎜以内
屋外	○

ｲ. 野縁の間隔

屋内	＊ 表6.6.2による
屋外	○

(3) 工法 (6.6.4)

ｱ. 既存の埋込みインサートを使用する場合

つりボルトの引張試験

箇所数	確認する強度
＊ 3箇所(当該階) ○	＊ 400N程度 ○

ｲ. あと施工アンカーの施工後の確認

○ 実施する(引張試験) ＊ 6.6.4(1)(ｳ)による

○ 実施しない

(4) 開口補強(つりボルトの間隔が900㎜を超える場合) (6.6.4)

補強方法 ＊ 図示 ○ _____

(5) 天井ふところが3.0mを超えるの場合 (6.6.4)

補強方法 ＊ 図示 ○ _____

(6) 天井下地材における耐震性を考慮した補強 (6.6.4)

補強箇所 ＊ 図示

補強方法 ＊ 図示

(7) 屋外の軒、ピロティ等の天井における耐風圧性を考慮した補強 (6.6.4)

補強箇所 ＊ 図示

補強方法 ＊ 図示

▶ 6. 軽量鉄骨壁下地

(1) スタッド、ランナ等の種類 (6.7.3)(表6.7.1)

施工部位	スタッドの高さによる区分	種類
	高さ2.7m以下	＊ 50形 ○
図示	高さ4.5m以下(片面含)	＊ 65形 ○
図示	高さ4.0m超～4.5m以下	＊ 90形 ○
	高さ4.5m超～5.0m以下	＊ 100形 ○

(2) スタッドの高さが5.0mを超える場合: ＊ 図示 (6.7.3)(表6.7.1)

▶ 7. ビニル床シート，ビニル床タイル及びゴム床タイル張り

(3) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 (6.7.4)

＊ 6.7.4による　　○ 図示

(1) 材料 (6.8.2)(6.8.3)

ｱ. ビニル床シート（JIS A 5705）

施工箇所	種類の記号	色柄	厚さ(mm)	工法
	＊ FS ○	○ ﾏｰﾌﾞﾙ ● ﾌﾟﾚｰﾝ	＊ 2.0 ● 2.5	○ 突付け ＊ 熱溶接
	＊ FS ○	○ ﾏｰﾌﾞﾙ ○ ﾌﾟﾚｰﾝ	＊ 2.0 ○	○ 突付け ＊ 熱溶接

ｲ. ビニル床タイル（JIS A 5705） (6.8.2)

施工箇所	種類の記号	色柄	寸法(mm)	厚さ(mm)
	＊ KT ○	○ ﾏｰﾌﾞﾙ ● ﾌﾟﾚｰﾝ	● 300×300 ○ 450×450	＊ 2.0 ○
	＊ KT ○	○ ﾏｰﾌﾞﾙ ○ ﾌﾟﾚｰﾝ	○ 300×300 ○ 450×450	＊ 2.0 ○

ｳ. 特殊機能床材 (6.8.2)

(ｱ) 帯電防止床シート

施工箇所	種類	性能	厚さ(mm)

(ｲ) 帯電防止床タイル

施工箇所	種類	性能	寸法(mm)	厚さ(mm)
			×	
			×	

(ｳ) 視覚障害者用床タイル (6.8.2)

区分	施工箇所	種類	形状
屋外		○ 塩化ビニル系 ○ レジンコンクリート系 ○ 磁器質タイル	○ ○
屋内		○ 塩化ビニル系 ○ 磁器質タイル	○ ○

※ 色は周囲の床材と識別しやすいものとする

(ｴ) 耐動荷重性床シート (6.8.2)

施工箇所	種類	厚さ(mm)

(ｵ) 防滑性床シート (6.8.2)

施工箇所	種類	厚さ(mm)

(ｶ) 防滑性床タイル (6.8.2)

施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)
		×	
		×	

ｴ. ビニル幅木 (6.8.2)

材質の種類　＊ 軟質　　○ 硬質

厚さ(mm)　＊ 1.5以上　　○ ＿＿＿＿

高さ(mm)　＊ 60　　○ 75　　○ 100

ｵ. ゴム床タイル (6.8.2)

色柄　○ ＿＿＿＿

種類　○ 単層品　　○ 積層品

厚さ(mm)　○ 3.0　○ 4.0　○ 5.0　○ 6.0　○ 9.0

寸法(mm)　○ ＿＿＿＿

ヵ. 接着剤 (6.8.2)

(ｱ) ホルムアルデヒド放散量 ＊ F☆☆☆☆ ○

(ｲ) 施工箇所の下地が、セメント系及び木質系以外の場合 (表6.8.1)(表6.8.2)

施工箇所 ○ ＿＿＿＿＿＿

主成分による区分 ○ ＿＿＿＿＿＿

(ｳ) モルタル塗り下地、セルフレベリング材塗り下地及び木下地以外の下地の工法 (6.8.3)

工法 ○ ＿＿＿＿＿＿

▶ 8. カーペット敷き

(1) 織じゅうたん(JIS L 4404) (6.9.2)(6.9.3)(表6.9.1)(表6.9.2)

種別	織り方	ﾊﾟｲﾙの形状	色柄	ﾊﾟｲﾙ糸の種類	帯電性
○ A種 ○ B種 ○ C種	○ ウィルトン ○ フェイストゥフェイス ○ ｱｷｽﾐﾝｽﾀｰ	○ ループ ○ カット ○ 併用	＊ 模様のない無地 ○	A種の場合 そ毛糸 B種、C種の場合 紡毛糸	○ 適用する 性能 ＊ 人体帯電圧3.0kv以下 ○ ○ 適用しない

接合方法 ＊ ヒートボンド工法 ○ つづり縫い

(2) タフテッドカーペット(JIS L 4405) (6.9.2)(6.9.3)(表6.9.1)(表6.9.2)

パイルの形状	パイル長(mm)	工法	帯電性
○ ループ ○ カット ○ 併用		○ 全面接着工法 ○ グリッパー工法	○ 適用する 性能 ＊ 人体帯電圧3.0kv以下 ○ ○ 適用しない

(3) タイルカーペット(JIS L 4406) (6.9.2)

種類	パイルの形状	寸法	総厚さ
＊ 第一種 ○ 第二種	＊ ループ ○ カット ○ 併用	＊ 500mm角 ○	＊ 6.5mm ○

(4) 下敷き材 ＊ 第2種2号 ○ ＿＿＿＿＿＿ (6.9.2)

＊ 呼び厚さ8mm ○ ＿＿＿＿＿＿

(5) 見切り、押え金物の材質、種類、形状 ＊ 図示 (6.9.2)

(6) 接着剤 (6.9.2)

ホルムアルデヒド放散量 ＊ F☆☆☆☆ ○ ＿＿＿＿＿＿

(7) タイルカーペットの敷き方 (6.9.3)

平場 ＊ 市松敷き ○ 模様流し ○ ＿＿＿＿＿＿

階段部分 ＊ 模様流し ○ 市松敷き ○ ＿＿＿＿＿＿

● ニードルパンチカーペット ｱ3～6mm程度(既存同等品)

▷ 9. 合成樹脂塗床

(1) 弾性ウレタン樹脂系塗床 (6.10.2)(6.10.3)(表6.10.4)

施 工 部 位	仕上げの種類	厚さ(mm)
	＊ 平滑 ○ 防滑 ○ つや消し	
	＊ 平滑 ○ 防滑 ○ つや消し	

(2) エポキシ樹脂系塗床 (6.10.2)(6.10.3)(表6.10.2,5～7)

施 工 部 位	工法	仕上げの種類	厚さ(mm)
	○ 薄膜流しのべ ○ 厚膜流しのべ ○ 樹脂モルタル	○ 平滑 ○ 防滑	
	○ 薄膜流しのべ ○ 厚膜流しのべ ○ 樹脂モルタル	○ 平滑 ○ 防滑	

(3) 塗床材のホルムアルデヒド放散量 (6.10.2)

＊ F☆☆☆☆ ○

▶ 10. フローリング張り

(1) 単層フローリング (6.11.2～7)(表6.11.1)(表6.11.3)(表6.11.5)

品名	樹種	工法	厚さ(mm)	仕上げ塗装
○ フローリング ボード1等	＊ なら ○	○ 釘留め（根太張り） ○ 釘留め（直張り） ○ 接着	○ ＿＿＿ mm ○ 図示	○ 塗装品 ○ 無塗装品
○ フローリング ブロック1等	○ なら ○	○ 接着	○ ＿＿＿ mm ○ 図示	○ 塗装品 ○ 無塗装品

(2) 複合フローリング (6.11.2～7)(表6.11.2)(表6.11.4)(表6.11.6)

樹種	種別	工法	厚さ(mm)	仕上げ塗装
＊ なら ○ さくら ○ ひのき、まつ	○ A種 ○ B種 ＊ C種	● 釘留め（根太張り） ○ 釘留め（直張り） ○ 接着	○ ＿＿＿ mm ● 図示	● 塗装品 ○ 無塗装品

(3) 特殊フローリング

品 名	表面材の樹種	仕上げ塗装
○ 屋内体育館アリーナ床(JIS A 6519)	＊ なら	
○ 柔剣道場の床(JIS A 6519)	＊ なら	

※ 塗装の凡例

素 地：素地のまま　　W：生地のまま、ワックス塗り

OSW：オイルステインワックス塗り(オイルステイン2回、ワックス1回)

UCB：ウレタン樹脂ワニス塗りB種(2回塗り)

(4) フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 (6.11.2)

＊ F☆☆☆☆ ○ ＿＿＿＿＿

(5) 接着工法におけるフローリング裏面の不陸緩衝材 (6.11.5)

＊ 合成樹脂発泡ｼｰﾄ ○ ＿＿＿＿＿

(6) 現場塗装仕上げ (6.11.6)

○ 適用する　　○ 適用しない

適用する施工箇所　○ 図示

下地調整　○ する　○ しない

塗装の種類　＊ ウレタン樹脂ワニス塗り

○ オイルステインの上、ワックス塗り

○ 生地のままワックス塗り

▷ 11. 畳敷き

(1) 普通畳の種別 (6.12.2)

○ A種　○ B種　○ C種　＊ D種

A種の場合の畳表　○ JS　○ J1

C種の場合の畳床　○ PS-C20　○ PS-C25　○ PS-C30

D種の場合の畳床　○ KT-Ⅰ　○ KT-Ⅱ　＊ KT-Ⅲ

○ KT-K　○ KT-N

(2) 衝撃緩和型畳　畳表　○ C1　○ C2 (6.12.2)

(3) 柔道畳
畳床は、JIS A 5901(畳床)の2級品とし、畳表は、柔道用レザー表地(裏地ビニロン使用)とする。

▶ 12. せっこうボード, その他ボード及び合板張り

(1) せっこうボード及びその他のボードの種類、厚さ (6.13.2)
＊ 図示

(2) 合板類、MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 (6.13.2)
＊ F☆☆☆☆ ○ ＿＿＿＿＿＿

(3) 普通合板の規格 (6.13.2)

品名	単板の樹種名	厚さ(mm)	板面の品質	防虫処理
○	○ ラワン ○ シナ ○	＊ 5.5mm ○	(広葉樹) ＊ 2等以上 (針葉樹) ＊ C-D以上 ○	＊ 適用する ○ 適用しない ラワン材及びならを使用する場合 ＊ 性能区分 K1

(4) 天然木化粧合板(不燃)の規格 (6.13.2)

化粧板の単板樹種名	厚さ(mm)	防虫処理
● ｳｫｰﾙﾅｯﾄ	● 6mm	＊ 適用する ○ 適用しない ラワン材及びならを使用する場合 ＊ 性能区分 K1

(5) 特殊加工化粧合板の規格 (6.13.2)

品目	厚さ(mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
○ メラミン化粧合板 ○ ポリエステル化粧合板 ○ プリント合板 ○ 塩化ビニル化粧合板 ○	○	○ 1類 ○ 2類	○	○ オーバーレイ ○ プリント ○ 塗装等	＊ 適用する ○ 適用しない ラワン材及びならを使用する場合 ＊ 性能区分 K1

(6) 天井のボード(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合 (6.13.3)
＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿

(7) 合板の張付けの種別 ○ A種 ＊ B種 (6.13.3)

(8) せっこうボードの目地工法の種類 (6.13.3)(表6.13.5)
＊ 突付け工法
○ ベベルエッジ ○ スクェアエッジ
○ 継目処理工法
○ テーパエッジ ○ ベベルエッジ
○ 目透し工法
○ ベベルエッジ ○ スクェアエッジ

▶ 13. 壁紙張り

(1) 材料 (6.14.2)
壁紙の施工部位・種類・防火性能
＊ 図示

(2) 壁紙及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ＊ F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(3) 素地ごしらえの種別 (6.14.3)(表6.14.1～3)

モルタル・せっこうプラスター面	＊ B種	○ A種
コンクリート面	＊ B種	○ A種
せっこうボード面及びけい酸カルシウム板面	＊ B種	○ A種

▶ 14. モルタル塗り

(1) 材料 (6.15.3)
○ 現場調合材料 ● 既調合材料

(2) 既製目地材 (6.15.3)
○ 設ける
施工箇所(＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿)
形状 (＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿)
● 設けない

(3) 下地処理 (6.15.5)

壁面の仕上げ厚又は全塗厚が25㎜を超える場合の処理

処理方法 ＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿

(4) 床の目地 (6.15.6)

○ 設ける(種類 ＊ 押し目地 ○ ＿＿＿＿＿＿)

＊ 目地割2㎡程度、最大目地間隔3m程度

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

○ 設けない

▷ 15. タイル張り

(1) 伸縮目地の位置 (6.16.2)

床タイル ＊ 縦・横とも4m以内ごと ○ 図示

床タイル以外 ＊ 図示 ○ ＿＿＿＿＿＿

(2) セメントモルタルによるタイル張り (6.16.2)(6.16.3)

再生材利用タイルの使用 ＊ 使用する ○ 使用しない

施工箇所	タイルの形状、寸法(㎜)	吸水率による区分	うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性
			施釉	無釉	有	無	標準	特注	有	無	
	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○

試験張り ○ 行う ○ 行わない

見本焼き ○ 行う ○ 行わない

既調合モルタル ＊ 既調合モルタルの製造所の仕様による

○ ＿＿＿＿＿＿

下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理の方法

＊ 目荒し工法

○ ＿＿＿＿＿＿

(3) 壁タイル張り (6.16.3)

タイルの種類	タイルの大きさ	工 法
○ 内装タイル	○ 小口平 ○ 二丁掛 ○ 100角	○ 密着張り ○ 改良圧着張り
○ ユニットタイル (内装タイル以外)	○ 50二丁以下	○ マスク張り ○ モザイクタイル張り

(4) 有機系接着剤によるタイル張り (6.16.2)(6.16.4)

再生材利用タイルの使用 ＊ 使用する ○ 使用しない

施工箇所	タイルの形状、寸法(㎜)	吸水率による区分	うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性
			施釉	無釉	有	無	標準	特注	有	無	
	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○

試験張り ○ 行う ＊ 行わない

見本焼き ○ 行う ＊ 行わない

接着剤のホルムアルデヒド放散量 ＊ F☆☆☆☆ ○ ＿＿＿＿＿＿

▷ 16. セルフレベリング材塗り

(6.17.2)(6.17.3)

施工箇所	種 類	塗 厚
	○ せっこう系 ○ セメント系	○ 10 ㎜ ○ ㎜
	○ せっこう系 ○ セメント系	○ 10 ㎜ ○ ㎜

● 第 7 章　塗装改修工事

項　目	特　記　事　項
▶ 1. 材料	(1) 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量　(7.1.3) ＊ F☆☆☆☆　○ ＿＿＿＿＿＿
▶ 2. 下地調整	(1) 塗替えでRB種の場合の既存塗膜の除去範囲　(7.2.1～7) ＊ 劣化部分は除去し、活膜部分は残す ○ ＿＿＿＿＿＿ (2) 下地調整種別　(7.2.2～7)

下地の種類	種別 塗替え	ひび割れ部の補修
木部	不透明塗料塗りの場合　＊ RB種 ○ RA種　○ RB種　○ RC種	―
鉄鋼面	○ RA種　＊ RB種　○ RC種	―
亜鉛めっき鋼面	○ RA種　＊ RB種　○ RC種	―
モルタル面及び プラスター面	○ RA種　＊ RB種　○ RC種	○ 適用する ○ 適用しない
コンクリート面、 ALCパネル面	○ RA種　＊ RB種　○ RC種	○ 適用する ○ 適用しない
コンクリート面、 (DP)	○ RA種　○ RB種　○ RC種	○ 適用する ○ 適用しない
押出成形 セメント板面	○ RA種　○ RB種　○ RC種	○ 適用する ○ 適用しない
せっこうボード面 及びその他ボード面	○ RA種　＊ RB種　○ RC種	―

▶ 3. 素地ごしらえ　素地ごしらえ種別　(7.3.2～7)

下地の種類	種別
木部	不透明塗料塗りの場合 ＊ A種　○ B種 透明塗料塗りの場合 ○ A種　＊ B種
鉄鋼面	○ A種　○ B種　＊ C種
鉄鋼面(DP)	○ A種　＊ B種　○ C種
亜鉛めっき鋼面	● A種　○ B種
モルタル面及び プラスター面	○ A種　＊ B種
コンクリート面、 ALCパネル面	○ A種　＊ B種
コンクリート面(DP)	○ A種　○ B種
押出成形 セメント板面	● A種　○ B種
せっこうボード面 及びその他ボード面	○ A種　＊ B種

▶ 4. 錆止め塗料塗り

(7.4.2～3)

素地面	改修塗り仕様	錆止め塗料種別	錆止め塗料塗り種別				
鉄鋼面	SOP	＊ As種 ○	新規	見え掛り部分	＊ A種	○ B種	○ C種
				見え隠れ部分	○ A種	＊ B種	○ C種
			塗替え		○ A種	○ B種	＊ C種
	DP	○ Cs種 ○ Ds種	新規		＊ A種	○ B種	○ C種
			塗替え		○ A種	○ B種	○ C種
	EP-G	○ As種 ＊ Bs種	新規	見え掛り部分	＊ A種	○ B種	○ C種
				見え隠れ部分	○ A種	＊ B種	○ C種
			塗替え		○ A種	○ B種	＊ C種
亜鉛めっき鋼面	SOP	○ Az種 ＊ Bz種	新規		○ A種	＊ B種	○ C種
			塗替え		○ A種	○ B種	＊ C種
	SOP(鋼製建具等)	＊ Az種 ○ Bz種	新規		＊ A種	○ B種	○ C種
			塗替え		○ A種	○ B種	＊ C種
	DP	＊ Bz種	―				
	EP-G	＊ Cz種	新規		○ A種	＊ B種	○ C種
			塗替え		○ A種	○ B種	＊ C種
	EP-G(鋼製建具等)	＊ Cz種	新規		＊ A種	○ B種	○ C種
			塗替え		○ A種	○ B種	＊ C種

▶ 5. 塗料塗り

(7.5.2～7.13.2)

種類	塗装面		新規	塗替え
合成樹脂調合ペイント(SOP)	木部屋外		＊ A種 ○ B種	○ A種 ＊ B種 ○ C種
	木部屋内		○ A種 ＊ B種	○ A種 ＊ B種 ○ C種
	鉄鋼面		○ A種 ○ B種	○ A種 ＊ B種 ○ C種
	亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	○ A種 ＊ B種	＊ A種 ○ B種 ○ C種
		その他	○ A種 ＊ B種	○ A種 ＊ B種 ○ C種
クリヤラッカー(CL)	木部屋内		○ A種 ＊ B種	○ A種 ＊ B種
			A種の場合の工程2の適用 ○ 適用する ○ 適用しない ○ 溶剤形ステイン ○ オイルステイン	
アクリル樹脂系非水分散形塗料(NAD)	コンクリート面		○ A種 ＊ B種	○ A種 ＊ B種
	モルタル面		○ A種 ＊ B種	○ A種 ＊ B種
	押出成形セメント板面		○ A種 ＊ B種	○ A種 ＊ B種
耐候性塗料(DP)	鉄鋼面		上塗り塗料 ○ A種	○ B種
	亜鉛めっき鋼面		上塗り塗料 ● A種	○ B種
	コンクリート面及び押出成形セメント板面		＊ A-1種 ● B-1種 ○ C-1種	○ A-1種 ○ A-2種 ○ B-1種 ○ B-2種 ○ C-1種 ○ C-2種
つや有合成樹脂エマルションペイント(EP-G)	コンクリート面、押出成形セメント板面、モルタル面、せっこうプラスター面、せっこうボード面、その他ボード面		○ A種 ＊ B種	○ A種 ＊ B種 ○ C種 B種又はC種の場合は工程1の下塗りをしみ止めシーラーとする
	木部屋内		＊ A種 ○ B種	○ A種 ＊ B種 ○ C種
	屋内鉄鋼面		○ A種 ＊ B種	○ A種 ＊ B種 ○ C種
	亜鉛めっき鋼面		＊ A種	＊ A種 ○ B種

合成樹脂エマルションペイント（EP）	コンクリート面、押出成形セメント板面、モルタル面、せっこうプラスター面、せっこうボード面、その他ボード面	○ A種　＊ B種	○ A種　＊ B種　○ C種 B種又はC種の場合は工程1の下塗りをしみ止めシーラーとする
ウレタン樹脂ワニス（UC）	木部屋内	○ A種　＊ B種 工程1の着色の適用　○ 適用する　○ 適用しない ○ 油性顔料着色剤　○ 溶剤形顔料着色剤	○ A種　＊ B種
ピグメントステイン	木部屋内	7.12.2による	
木材保護塗料（WP）	木部屋外	○ A種　＊ B種	○ A種　＊ B種

● 第 8 章　耐震改修工事（構造図を優先する）

項　目	特　記　事　項
▶ 1. コンクリートの種類	(1) コンクリートの類別　(8.1.3)(表8.1.1) ＊ Ⅰ類　○ Ⅱ類 ※ JIS認定表示工場で、かつ、(社)コンクリート工学協会から認定されたコンクリート主任技士又はコンクリート技士あるいはこれらと同等以上の技術者が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場（全国品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等）から選定することとし、これにより難い場合は監督員と協議すること。 (2) 建築基準法第37条第二号の規定に基づき国土交通大臣の認定を受けたコンクリート　(8.1.3) ○ 適用する　適用箇所　＊ 図示　○ _____ ○ 適用しない (3) 気乾単位容積質量による種類　(8.1.3) ＊ 普通コンクリート　○ 軽量コンクリート
▶ 2. コンクリートの品質	(1) コンクリートの強度　(8.1.4) 設計基準強度(Fc)の値は次のとおりとする。 ○ 18N/㎟　施工部位：_____ ● 21N/㎟　施工部位：躯体 ○ ___N/㎟　施工部位：_____ (2) コンクリートの荷卸し地点におけるスランプ　(8.1.4) ｱ. 基礎、基礎梁、土間スラブ　○ 18cm　○ 15cm ｲ. 柱、梁、スラブ、壁　＊ 18cm (3) 合板せき板を用いる場合のコンクリートの打放し仕上げ　(8.1.4) 種別　○ A種　＊ B種　○ C種 適用箇所　＊ 図示 (4) コンクリート仕上りの平たんさ　(8.1.4) 種別　○ a種　● b種　○ c種 適用箇所　＊ 図示
▷ 3. 鉄骨製作工場	(1) 鉄骨製作工場の加工能力　(8.1.5) 建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 ○ S　○ H　○ M　○ R　○ J　以上とする

(2) 鉄骨製作工場における施工管理技術者の配置 (8.1.6)

＊ 配置する　○ 配置しない

▶ 4. 鉄筋の種類

鉄筋の規格 (8.2.1)

＊ JIS G 3112規格品

○ 建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたせん断補強筋

鉄筋の種類の記号

● SD295　(D 16以下　～ D ＿＿＿)

● SD345　(D 19以上　～ D ＿＿＿)

○ SD ＿＿＿　(D ＿＿＿　～ D ＿＿＿)

▷ 5. 溶接金網

鉄線の形状、網目寸法及び鉄線の径 (8.2.2)

鉄線の形状　○ レギュラー溶接金網　○ デザイン溶接金網　○

編目寸法　○ 100×100㎜　○ 150×150㎜

鉄線の径　○ 4㎜　○ 5㎜　○ 6㎜　○

▶ 6. あと施工アンカー

(1) あと施工アンカーの仕様 (8.2.4)

○ 金属系アンカー

引張耐力 ＿＿＿kN/本　せん断耐力 ＿＿＿kN/本

アンカー本体の径及び埋込み長さ　＊ 図示

セット方式　＊ 本体打込み式改良型　○ ＿＿＿＿＿＿

接合筋の種類、径及び長さ　＊ 図示

＊ 接着系アンカー

引張耐力 図示 kN/本　せん断耐力 ＿＿＿kN/本

アンカーの種類　(＊) カプセル方式の回転･打撃式　● 注入形

接着剤の品質　＊ 有機系　○ 無機系

アンカー筋の径及び埋込み長さ　＊ 図示

アンカー筋の種類　● 図示

アンカー筋の新設壁内への定着の長さ　＊ 図示

(2) あと施工アンカーの性能確認試験 (8.2.4)

● 適用する　図示

○ 適用しない

▶ 7. コンクリートの材料及び調合（セメント）

(1) セメントの種類 (8.2.5)(表8.2.3)

＊ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種

○ ＿＿＿＿＿＿

(2) 高炉セメントB種の適用箇所　○ ＿＿＿＿＿＿ (8.2.5)

(3) フライアッシュセメントB種の適用箇所　○ ＿＿＿＿＿＿

▶ 8. コンクリートの材料及び調合（骨材）

(1) フェロニッケルスラグ骨材、銅スラグ細骨材及び電気炉酸化スラグ骨材 (8.2.5)

○ 使用する　＊ 使用しない

(2) 普通エコセメントを使用するコンクリートに再生骨材Hの使用 (8.2.5)

○ 使用する　＊ 使用しない

(3) JIS A 5308 附属書JAに規定する骨材の種類のアルカリシリカ反応性による区分 (8.2.5)

＊ A　○ B

※ 試験機関は、公的機関又はこれに準ずる機関（大学、都道府県の試験機関、公益法人である民間試験機関、中小企業近代化促進法又は中小企業近代化資金助成法に基づく構造改善計画等によって設立された共同試験場、その他信頼に値する機関）であること。

▶ 9. 混和材料

(1) 混和材料の適用 (8.2.5)

○ 適用する　● 適用しない

(2) 混和剤の種類 (8.2.5)

＊ 8.2.5(4)(ｱ)による　○ ＿＿＿＿＿＿

(3) 混和材の種類 (8.2.5)

＊ 8.2.5(4)(ｲ)による　○ ＿＿＿＿＿＿

▶ 10. コンクリートの調合

(1) 構造体強度補正値（S）（N/㎟） (8.2.5)(表8.2.4)

● 3N　● 6N　※表8.2.4による。

適用箇所　＊ 図示

(2) 8.2.5(5)(イ)(f)①～③以外の混和材料 (8.2.5)

○ 使用する

使用箇所 ＊ 図示

使用方法及び使用量

＊ 関係資料を提出し、監督員の承諾を受ける

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

○ 使用しない

▶ 11. 構造体用ﾓﾙﾀﾙの材料及び調合

(1) モルタルの圧縮強度 ● 図示 (8.2.6)

(2) モルタルのフロー値 ● 図示

▶ 12. 型枠の材料

(1) せき板の材料 ＊ 合板 ○ ＿＿＿＿ (8.2.7)

(2) 合板の厚さ ＊ 12㎜ ○ ＿＿＿＿

(3) スリーブに用いる材料 (8.2.7)(表8.2.6)

● 材種 紙 ○ 規格等 ＿＿＿＿

▷ 13. 鋼材

鋼材の種類、形状及び寸法 (8.2.8)(表8.2.7)

該当	規格番号	規格名称等	種類の記号	形状	寸法
○				＊ 図示	＊ 図示
○				＊ 図示	＊ 図示
○				＊ 図示	＊ 図示
○				＊ 図示	＊ 図示

▷ 14. 高力ボルト

(1) 高力ボルトの種類

○ トルシア形高力ボルト ○ JIS形高力ボルト ○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト

(2) 高力ボルトの寸法

ねじの呼び ○ M12 ○ M16 ○ M20 ○ M22 ○ M24

▷ 15. 溶接材料

溶接棒等及びガスシールドアーク溶接以外の溶接材料 (8.2.10)

○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

▷ 16. スタッド

スタッド(JIS B 1198(頭付きスタッド))の種類等 ＊ 図示 (8.2.11)

▷ 17. 柱底均しモルタル

＊ 無収縮モルタル ○ ＿＿＿＿ (8.2.12)

▷ 18. 連続繊維シート及び含浸接着樹脂等

(1) 材料 (8.2.13)

○ 炭素繊維 ○ アラミド繊維 ○

(2) 工法 図示

(3) 引張強度(含浸硬化後)

＿＿＿＿ N/㎟

(4) ヤング係数(含浸硬化後)

N/㎟

▷ 19. 鋼材の材料試験等

板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験(JIS G 0901) (8.2.14)

○ 行う ○ 行わない

▷ 20. 基礎工事に用いる材料

(1) 砂利 (8.2.15)

○ 再生クラッシャラン ○ 切込砂利 ○ 切込砕石

(2) 砂

○ シルト ○ 山砂 ○ 川砂 ○ 砕砂

(3) 捨コンクリート地業

コンクリートの種別Ⅰ類・Ⅱ類以外の場合 ＊ 図示

(4) 杭材料及び継手 ＊ 図示

▶ 21. 鉄筋の加工及び組立

(1) 鉄筋の折曲げ形状及び寸法 (8.3.2)

90° 未満の折曲げの内法直径(D) SD295A、SD295B、SD345、SD390 SD390は( )を適用

D16以下 ＊ 4d(5d)以上 ○

D19～D25 ＊ 6d(6d)以上 ○

D29～D38 ＊ 8d(8d)以上 ○

(2) 鉄筋の継手の方法等 (8.3.4)

部位	継手の方法	呼び径(mm)
柱及び梁主筋	● ガス圧接　○ 機械式継手 ○ 溶接継手　○ 重ね継手	
耐力壁の鉄筋	● 重ね継手　○	
基礎、耐圧スラブ、土圧壁	○ 重ね継手　○ ガス圧接	
上記以外 (　　)	○ 重ね継手　○	

(3) 鉄筋の継手の位置　＊ 図示 (8.3.4)

(4) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ (8.3.4)

＊ 40d(軽量コンクリートの場合は50d)又は表8.3.2の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値

● 図示

(5) 先組み工法等で、柱及び梁の主筋のうち、隣り合う継手を同一箇所に設ける場合の継手の位置 (8.3.4)

＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿

(6) 鉄筋の定着の長さ (8.3.4)

＊ 表8.3.4による　● 図示 ＿＿＿＿＿＿

(7) 仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、表8.3.4のフックありの定着の長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法 (8.3.4)

○ 図示　＊ 図8.3.3による

(8) 機械式定着工法 (8.3.4)

○ 適用する

適用箇所　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿

種類　○ 摩擦圧接接合　○ 螺合グラウト固定　○ 嵌合グラウト固定

○ 適用しない

(9) 帯筋組立の形、継手及び定着　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿ (8.3.4)

▶ 22. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ (8.3.5)

＊ 表8.3.6による　● 図示

▶ 23. 壁の配筋及び補強

壁の配筋及び壁開口部の補強 (8.3.7)

＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿

▶ 24. ガス圧接

圧接部の確認試験(超音波探傷試験) (8.3.8)

＊ 行う(全圧接部)　○ ＿＿＿＿＿＿＿＿

▷ 25. 機械式継手

(1) 適用箇所　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿ (8.4.2)

(2) 性能　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿

(3) 種類

○ ねじ式鉄筋継手　(　○ トルク方式　○ グラウト方式　○ ナットグラウト方式　)

○ 端部ねじ加工継手

○ 鋼管圧着継手

○ 充填継手　(　○ モルタル充填継手　○ 溶融金属充填継手　)

○ 併用継手

(4) 鉄筋相互のあき　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿

(5) 施工完了後の継手部の試験

○ 外観試験　○ 超音波測定試験

(6) 不合格となった場合の措置

外観試験　＊ 8.4.2(5)(a)～(c)　○ ＿＿＿＿＿＿

超音波測定試験　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿

▶ 26. 溶接継手

(1) 適用箇所　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿ (8.4.3)

(2) 性能　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿

(3) 工法　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿

(4) 鉄筋相互のあき　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿

(5) 施工完了後の溶接部の試験

○ 外観試験　○ 超音波探傷試験

▶ 27. 型枠工事	(1) 外部に面するコンクリートの打増し厚さ	(8.7.8)
	＊ 図示　　○ ＿＿＿＿＿＿	
	(2) シアコネクタをセパレーターとして使用	(8.7.8)
	○ 使用する　○ 使用しない	
	(3) 普通エコセメントの場合の最小存置期間　＊ 図示	
▷ 28. 軽量コンクリート	(1) 軽量コンクリートの適用	(8.9.1)
	○ なし　○ あり（適用箇所 ＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿）	
	(2) 種類　○ 1種　○ 2種	(8.9.2)
	(3) 気乾単位容積質量　○ ＿＿＿t/㎥	
	(4) スランプ　＊ 21cm　○ ＿＿＿＿＿＿	
▷ 29. 暑中コンクリート	(1) スランプ　＊ 21cm　○ ＿＿＿＿＿＿	(8.10.2)
	(2) 構造体強度補正値（S）　＊ 6N/㎟　○ ＿＿＿＿＿＿	
▶ 30. 無筋コンクリート	(1) コンクリートの種類	(8.11.1)
	＊ 普通コンクリート　○ ＿＿＿＿＿＿	
	(2) 設計基準強度(Fc)の値は次のとおりとする。	
	＊ 18N/㎟　施工部位：図示	
	○ ＿＿N/㎟　施工部位：＿＿＿＿＿＿	
	(3) スランプ　● 15cm　○ 図示＿＿＿＿＿＿	
	(4) 表8.1.1以外のコンクリートの適用	
	○ 適用する　適用箇所 ＿＿＿＿＿＿	
▶ 31. あと施工アンカー工事	(1) 埋込み配管等の探査方法	(8.12.4)
	＊ 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う	
	○ はつり出しによる	
	(2) 確認試験　＊ 行う　引張試験機による引張試験	(8.12.7)
	確認強度　図示＿＿kN	
	○ 行わない	
	※1ロット及び試験の箇所数は8.12.7(ｱ)、(ｲ)による	
▷ 32. 鉄骨工作	(1) 高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等	(8.13.2)
	○ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿	
	(2) ボルト孔	(8.13.8)
	＊ ねじの呼び径+1.0㎜　○ ＿＿＿＿＿＿	
	(3) 仮組の実施	(8.13.10)
	＊ 行わない　○ 行う（仮組を行う範囲：　＊ 図示　○　　）	
▷ 33. 高力ボルト接合	(1) 高力ボルト接合のすべり試験	(8.14.2)
	＊ 行わない　○ 行う（試験方法：○ すべり係数試験　○ すべり耐力試験）	
	(2) JIS形高力ボルト本締め	
	ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合のナット回転量	(8.14.7)
	○ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿	
▷ 34. 溶接接合	(1) 技能資格者の技量付加試験	(8.15.3)
	＊ 行わない　○ 行う（試験要領 ＊ 図示　○　　）	
	(2) 開先の形状　＊ 図示　○	(8.15.4)
	(3) 鋼製エンドタブを切断する場合の適用箇所	(8.15.7)
	ｱ. 切断箇所及び切断範囲　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿	
	ｲ. 鋼製エンドタブを切断する場合の切断面の仕上げ	
	＊ グラインダーにより、粗さ100μmRz程度以下及びノッチ深さ1㎜程度以下	
	○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	
	(4) 完全溶込み溶接	
	低応力高サイクル疲労を受ける部位　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿	
	(5) スカラップの形状　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿	

		(6) 溶接部の試験 (8.15.12) ア. 外観試験　試験方法等　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿ ○ 平12建告第1464号第二号に関する試験 ○ JASS 6付則6[鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験 イ. 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ○ 適用する　○ 適用しない
▷ 35.	鉄骨の錆止め塗装	(1) 塗装の範囲及び種別 (8.17.2) ア. 耐火被覆材の接着する面の塗装 ○ 適用しない　○ 適用する 塗装の範囲　＊ 図示　○ ＿＿＿＿ イ. 耐火被覆材の接着する面以外の塗装 ○ 適用しない　○ 適用する （塗装の範囲　＊ 8.17.2(1)(ア)～(オ)以外　○ ＿＿＿＿） ウ. 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内面の錆止め塗料の種別 (8.17.4) ＊ 表7.4.1のAs種　○ ＿＿＿＿ エ 耐火被覆材が接着する面に塗装する場合の錆止め塗料の種別 ＊ 図示　○ ＿＿＿＿
▷ 36.	耐火被覆	(1) 種類　＊ 耐火材吹付け　○ 耐火板張り　○ 耐火材巻付け (8.18.2) ○ ラス張りモルタル塗り　○ 耐火塗料等 (2) 材料及び工法等 (8.18.2) ○ 図示　○ ＿＿＿＿ (3) 耐火性能 (8.18.3) ○ 30分耐火　○ 1時間耐火　○ ＿＿＿＿
▷ 37.	溶融亜鉛めっき工法	高力ボルト接合 摩擦面の処理方法 (8.20.5) ○ ブラスト処理(表面粗度50μmRz以上) ○ りん酸塩処理 ○ ＿＿＿＿
▶ 38.	現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	(1) 既存仕上げ等の撤去範囲 (8.21.2) ＊ 最小限の範囲　● 図示 (2) 設備機器、配管等の撤去及び移設　＊ 図示 (3) 既存構造体の撤去範囲、はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置　＊ 図示 (4) 打継ぎ面となる範囲の目荒らしの程度 (8.21.3) ● 平均深さ5㎜　○ 平均深さ10㎜　○ 図示 (5) 鉄筋の加工及び組立　割裂補強筋 (8.21.6) 形状　● スパイラル筋　○ ＿＿＿＿ 種類　● SR235又はSWM-P　○ ＿＿＿＿ (6) コンクリートの打込み (8.21.8) ● 流込み工法　● 圧入工法 (7) 既存構造体との取合い　処理方法 (8.21.9) ＊ グラウト材注入　○ 図示 (8) 仕上げ (8.21.10) ＊ 図示　○ ＿＿＿＿
▷ 39.	鉄骨ブレースの設置工事 柱補強工事 連続繊維補強工事 耐震スリット新設工事 免震改修工事 制振改修工事 土工事及地業工事	＊ 特記事項は図示

● 第９章　環境配慮改修工事

項　目	特　記　事　項
▶ 1. 石綿含有建材の除去工事	(1) 事前調査　(9.1.1) 調査範囲 ・ 全ての材料について、設計図書等の書面調査及び現地での目視調査 ・ 調査結果報告書で確認 ・ 対象建築物の新築工事の着工日が平成18年9月1日以降であることを設計図書等で確認 既存の設計図書　＊ 貸与　○ 無 石綿含有建材の調査報告書　＊ 貸与　○ 無 分析結果　● 石綿含有　○ 石綿非含有 分析調査　● 適用する　○ 適用しない 適用する場合の調査範囲　● 撤去・改修部の全て 建材中の石綿含有率の分析方法について（基発0821002号、最終改正令和3年12月22日基発1222第17号）による。 なお、分析調査は厚生労働大臣が定めた必要な知識及び技能を有する者が行うものとする。 事前調査の結果、設計図書等と異なる場合は、監督員と協議する。 調査結果を監督員に説明するとともに関係法令等に基づき官公署へ報告を行うこと。 (2) 石綿含有建材除去後の仕上げ　● 図示 (3) 石綿粉じん濃度測定　＊ 行う　● 行わない 測定方法　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿ 測定時期　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿ 測定場所　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿ 測定箇所数　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿ (4) 石綿含有吹付け材の除去　(9.1.3) ア 除去方法 ＊ 石綿含有吹付け材を粉じん飛散抑制剤等により湿潤化した後に除去する。 ○ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ イ 除去した石綿含有吹付材等の梱包 飛散防止措置　＊ 湿潤化　○ 固形化 ウ 除去した石綿含有吹付け材等の処分方法 処理区分　＊ 最終処分（管理型）　○ 中間処理　（ ○ 無害化　○ 溶融） 場　所　第1章　発生材の処理等による (5) 石綿含有保温材等の除去　(9.1.4) ア 除去方法　○ 切断又は破砕　○ 手ばらし イ 除去工法（煙突用断熱材は除く）　＊ 湿潤化後手ばらし　○ ウ 煙突用断熱材の除去　＊ 図示 エ 除去した石綿含有保温材等の処分方法 処理区分　＊ 最終処分　○ 中間処理　○ 場　所　第1章　発生材の処理等による (6) 石綿含有成形板等の除去　(9.1.5) ア 石綿含有成形板の種類　＊ 図示 イ 石綿粉じん飛散防止の養生　＊ 行う　○ 行わない ウ 除去した石綿含有成形板等の処分方法 処理区分　＊ 最終処分（ ＊ 安定型 ○ 管理型）○ 中間処理 （ ○ 無害化　○ 溶融 ） 場　所　第1章　発生材の処理等による (7) 石綿含有仕上塗材の除去　(9.1.6) ア 除去工法　＊ 図示 イ 除去した石綿含有成形板等の処分方法 処理区分　＊ 最終処分（ ＊ 安定型 ○ 管理型）○ 中間処理 （ ○ 無害化　○ 溶融 ） 場　所　第1章　発生材の処理等による

▷ 2. 外断熱改修工事

材料 (9.2.2)

○ グラスウール　○ ロックウール
○ グラスウールボード　○ ロックウールボード
○ ビーズ法ポリスチレンフォーム　○ 押出法ポリスチレンフォーム
○ 硬質ポリウレタンフォーム　○ ポリエチレンフォーム
○ フェノールフォーム　○ 吹込み用グラスウール
○ 吹込み用ロックウール　○ 吹込み用セルロースファイバー
○ 吹付け硬質ポリウレタンフォーム

性能　＊ 図示

厚さ ＿＿ mm

外装材の種類、防火性能　＊ 図示

既存外壁の処置 (9.2.3)

仕上げ材撤去　○ 行う　○ 行わない

下地面の清掃　○ 行う(＿＿＿＿＿＿)　○ 行わない

下地欠損部の改修　○ 行う　(工法　＊ 図示)　○ 行わない

建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 (9.2.4)

＊ 適用する　工法:＿＿＿＿＿＿　○ 適用しない

不陸等の下地調整　○ ＿＿＿＿＿＿　○ 図示

断熱材の施工　○ ＿＿＿＿＿＿　○ 図示

外装材の施工　○ ＿＿＿＿＿＿　○ 図示

通気層の有無及び厚さ　＊ 図示

外装材の外壁への取付け　＊ 図示

▶ 3. 断熱・防露改修工事

(1) 材料 (9.3.2)(9.3.3)(9.3.4)

適用	断熱材	種類		厚さ(mm)
○	ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		○ 1号 ○ 2号 ○ 3号 ○ 4号	
○	押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキンなし)	○ 1種b ○ 2種b ○ 3種a ○ 3種b	○ A ○ B ○ C ○ D	
○	硬質ウレタンフォーム断熱材	○ 1種 ○ 2種	○ 1号 ○ 2号 ○ 3号 ○ 4号	
○	ポリエチレンフォーム断熱材	○ 1種 ○ 2種 ○ 3種	○ 1号 ○ 2号	
○	フェノールフォーム断熱材	○ 1種1号 ○ 1種2号 ○ 1種3号 ○ 2種1号 ○ 2種2号 ○ 2種3号 ○ 3種1号	○ AⅠ ○ AⅡ ○ BⅠ ○ BⅡ ○ CⅠ ○ CⅡ ○ DⅠ ○ DⅡ ○ EⅠ ○ EⅡ	

フェノールフォーム断熱材のホルムアルデヒド放散量

＊ F☆☆☆☆　○ ＿＿＿＿＿＿

(2) 断熱材現場発泡工法 (9.3.2)

ア 開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量

＊ F☆☆☆☆　○ ＿＿＿＿＿＿

イ 種類　● A種1　○ A種1H

ウ 吹付厚さ(mm)　● 図示＿＿＿＿

(3) 断熱材後張り工法 (9.3.4)

ア 断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネルの使用

○ 適用する　(パネルの仕様　＊ 図示　○ ＿＿＿＿＿＿)

○ 適用しない

イ 接着剤のホルムアルデヒド放散量

＊ F☆☆☆☆　○ ＿＿＿＿＿＿

	ｳ 張り付け工法 ○ 後張りした断熱材に直接ボードの張り付け ○ 断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル	
▷ 4. 屋上緑化改修工事	特記事項　　＊ 図示	(9.4.2～4)

○ 第10章　屋 根 工 事

● 第11章　そ の 他

項　目	特　記　事　項	
▷ 1. 埋戻し及び盛土	○ A種　＊ B種　○ C種　○ D種 C種の場合（建設発生土受入量 ＿＿＿ ㎥） （発生場所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）	(標仕3.2.3)
▷ 2. 建設発生土の処理	○ 場外搬出　（約 ＿＿＿ km） （搬出場所 住所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ） （管　理　者 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ） 捨て土均し（ ○ 有り　○ 無し ） ○ 構内敷均し　○ 構内指示の場所に堆積（図示による）	(標仕3.2.5)
▷ 3. 棟番号	＊ 図示	
▶ 4. 換気口	室内　＊ 図示 床下　＊ 図示	
▷ 5. ﾊﾞﾙｺﾆｰ排水、ドレンパイプ	(1) ○ 図面	
▷ 6. 連絡板	BL規格品　　○ 6戸用　○ ＿＿＿ 戸用	
▷ 7. 家屋段階調査	次のそれぞれの工事終了後、家屋の調査を行うこと。 ○ 杭工事　○ 基礎工事　○ 躯体工事　○ ＿＿＿＿＿＿ 調査は「補償コンサルタント登録規程（昭和59年9月21日建設省告示第1341号）」による事業損失部門に登録している業者に調査させること。 調査箇所は、当該敷地に隣接する敷地の家屋とする。 調査戸数 ＿＿＿ 戸 調査内容は、監督員と協議すること。	
▷ 8. 概数等発注	(1) 次に示した項目の工事数量は概数であり、必要に応じて設計変更するものとする。 なお、設計に対して過大な出来高数量に変更するものではないことに留意すること。 ・ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ・ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ・ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ・ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ (2) この工事においては、設計変更図書の作成（設計変更図面の作成及び工事数量の算出）を受注者に行わせることがある。 (3) 概数として取り扱っている事項の施工に当たっては、施工前に監督員と協議すること。 なお、数量の確認ができない場合を除き、施工前に数量を確定すること。 (4) 概数として示した仮設工の工事数量は、標準的な工法により算出したものであるため、取り合い等によって新たに必要となる項目についても概数として取り扱うことがある。 (5) 概数として示した数量に対する確定数量に係る根拠資料は工期末30日前までに監督員に提出することを原則とする。 なお、これによりがたい場合は速やかに監督員と協議すること。	

▶ 9.階段滑り止め

(1)材種　＊ ステンレス製
(2)取付け工法 ○ 埋込み工法　＊ 接着工ｼ接着工法
(3)巾　○ 30㎜　● 35㎜　○ 40㎜
（外部） ＊ 屋外仕様はﾋﾞﾆｰﾙﾀｲﾔ無し
（内部） ＊　ステンレス製及び黄銅製のものはビニールタイヤ入りとする。

▶ 10.黒板及びﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ

(1)黒板

区分	種類	色	形式
＊ 焼付け ○	○ 鋼製黒板 ○ ほうろう黒板	＊ 緑 ○	○ 平面 ○ 曲面

※ｱﾙﾐ製枠、ﾁｮｰｸ溝、ﾁｮｰｸ入れ、ﾁｮｰｸ粉入れ付き
標準仕様書20.2.8によるほか、優良道産品認定品も可とする。

▶ 11.表示

(1)　● 室名札　（ ● ｱｸﾘﾙ板 平付型 50*250程度 ）

▶ 12.ブラインド

(1) ブラインドの形式　● 横形　○ 縦形
(2) 種類及び開閉方式等　＊ 図示による

▶ 13.点検口

施工部位	種	寸 法（㎜）	鍵
天井	● アルミニウム製	● 450×450	○ あり
	○ 木製	○ 600×600	● なし
床下	○ アルミニウム製	○ 450×450	○ あり
	○ 木製	○ 600×600	○ なし
	○	○ 450×450	○ あり
		○ 600×600	○ なし

※　床下点検口は裏面ウレタン発泡とする。

▶ 14.幕板パネル

● ボンデ鋼板 ｧ1.6折曲加工の上 石調デザイン吹付
下地鋼材：C-100*50*25*2.3程度(既存同等又は既存再利用)

● 工 事 概 要

項　　目	特　　記　　事　　項

▶ 1. 工事種目

名　　称	新　設	改　修	摘　　要
空気調和設備工事※	○　一式	○　一式	
暖房設備工事※	○　一式	●　一式	
冷房設備工事※	○　一式	○　一式	
換気設備工事	○　一式	●　一式	
排煙設備工事	○　一式	○　一式	
給油設備工事	○　一式	○　一式	
自動制御設備工事	○　一式	●　一式	
屋外給水設備工事	○　一式	○　一式	
屋内給水設備工事	○　一式	●　一式	
屋外排水設備工事	○　一式	○　一式	
屋内排水設備工事	○　一式	●　一式	
屋内給湯設備工事	○　一式	○　一式	
衛生器具設備工事	○　一式	●　一式	
消火設備工事	○　一式	○　一式	
屋外ガス設備工事	○　一式	○　一式	
屋内ガス設備工事	○　一式	○　一式	
厨房機器設備工事	○　一式	○　一式	
環境配慮改修工事	○　一式	○　一式	
	○　一式	○　一式	

※ 種目は●印を付したものを適用する
※ 空気調和設備工事とは、空調機等を設置し暖冷房を行う工事をいう
※ 暖房設備工事とは、直暖や個別暖房のみの工事をいう
※ 冷房設備工事とは、個別冷房のみの工事をいう

● 機械設備共通事項

項　　目	特　　記　　事　　項

▶ 1. 配管
　1) 配管材料

管　　種		施工区分																		
		冷温水	冷却水	蒸気	温水	給油		冷媒	給水		給湯	排水		通気	消火		ガス		雨水
●	配管用炭素鋼鋼管(白)				●								●	●				●	●
○	〃　(黒)																		
○	圧力配管用炭素鋼鋼管(黒)																		
○	塩ビライニング鋼管(ＶＡ)																		
●	〃　(ＶＢ)									●									
○	排水用塩ビライニング鋼管																		
●	耐熱性塩ビライニング鋼管										●								
○	外面被覆鋼管																		
○	ナイロンコーティング鋼管																		
○	ステンレス鋼管																		
○	銅管(M)																		

○	保温付被覆銅管																		
○	被覆銅管																		
○	ビニル管(ＶＰ)																		
○	〃 (ＶＵ)																		
○	樹脂管																		
○	耐火二層管																		
○	ポリエチレン管																		
○	合成樹脂製可とう電線管																		
○	鉛管																		
○	コンクリート管																		
○	鋳鉄管																		
○	耐衝撃性ポリ塩化ビニル管																		
○	内外面塩ビライニング鋼管(VD)																		
○	灯油用被覆銅管																		
○																			
○																			
○																			

※ 該当項目に●印をつける

２列書きになっている部分は左側屋外配管、右側屋内配管とする

2) 弁類

水道直圧及び高置タンクまでは1Mpaとし、他は各種配管の水圧検査圧力値を超える最高許容圧力を有するバルブとする

水抜栓は水道管理者指定品とする

3) 試験

配管途中若しくは隠ぺい、埋戻し前又は配管完了後の塗装又は被覆施工前に行う

圧力値、保持時間は、標準仕様書第２編 2.9.2から2.9.5による

試験終了後、報告書を監督員に提出すること

4) ねじ加工

○ 転造ねじ加工 （ 蒸気還水管 ）

丸ニップルは使用禁止とする、やむを得ない場合は角ニップルとする

5) ステンレス鋼管継手の種類

種類		冷温水	冷却水	温水	給水	給湯	消火	備考
○	プレス							ダブルプレス
○	拡管式							
○	溶接							
○	ハウジング継手							
○	ねじ込み継手							

6) 埋設配管

防食処理　○ 土中
○ ペトロラタム系防食テープ　（　　）
○ プチルゴム系絶縁テープ　（　　）
○ コンクリート内
○ プラスチックテープ　（　　）

地中埋設標・埋設表示テープ・屋外配管埋設深さ

	地中埋設標		埋設表示ﾃｰﾌﾟ		屋外配管埋設深さ		
					車両道路	道路以外	凍結深度
給水配管	○	要	○	要	GL－ ｍ以上	GL－ ｍ以上	GL－ ｍ以上
	○	不要	○	不要			
ガス配管	○	要	○	要	GL-0.6m 以上	GL-0.3m 以上	
	○	不要	○	不要			
油 配 管	○	要	○	要	GL-0.6m 以上	GL-0.3m 以上	
	○	不要	○	不要			

※都市ガス配管は供給事業者の指定する深さとする

要の場合、地中埋設標は図示する箇所、埋設表示テープは屋外埋設配管部分に適用する

7) 溶接部の検査

○ 目視検査　○ 非破壊検査（溶接部の種類：　　）
（検査の種類　：　　）
（配管種別　　：　　）
（使用圧力　　：　　）
（抜き取り率　：　　）

詳細は標準仕様書の当該事項による

8) 配管洗浄

○ 冷温水管　○ 給水管　（ ○ 1次側　○ 2次側 ）
○ 冷却水管　○ 給湯管　○ 受水タンク　○ 高置タンク
○ 貯湯タンク　○ 給湯用膨張タンク

高周波洗浄もしくは同等以上の方法による

飲料水管の場合は、端末において遊離残留塩素が0.2mg/L以上検出されるまで消毒を行う

▶ 2. 保温

標準仕様書第２編３．１．４及び５のうち保温材及び外装材は次による

断熱材は、特定フロン、代替フロン等、オゾン層を破壊する物質を含有していないこと

1) 配管

保温材　● グラスウール　（　　）
○ ロックウール　（　　）
○ ポリスチレンフォーム　（　　）

外装材 ｲ) 屋内露出
● 合成樹脂製カバー　（　　）
○ アルミガラスクロス　（　　）
○ その他（　　）（　　）

ﾛ) 機械室・書庫・倉庫
○ アルミガラスクロス　（　　）
○ その他（　　）（　　）

ﾊ) 天井内・パイプシャフト内及び空隙壁中
● アルミガラスクロス　（　　）
○ その他（　　）（　　）

	ﾆ) 床下・暗渠内 ○ 着色アルミガラスクロス　（　　） ○ アルマット　（　　） ○ 保温なし（　　） ○ その他（　　） ﾎ) その他 ○ その他（　　）（　　） ○ その他（　　）（　　） ○ その他（　　）（　　） ○ その他（　　）（　　）
2) バルブ等	保温材　● グラスウール　（　　） ○ ロックウール　（　　） ○ ポリスチレンフォーム　（　　） 外装材　● ステンレス鋼板 ○ 溶融アルミニウム亜鉛鉄板 ○ カラー亜鉛鉄板 ○ その他（　　）（　　）
3) ダクト	外気取入用ダクト及び排気用ダクトは保温を行う 保温材　● グラスウール　（　　） ○ ロックウール　（　　） ○ ポリスチレンフォーム　（　　） ○ その他　（　　） 外装材 ｲ) 屋内露出 ○ 合成樹脂製カバー　○ カラー亜鉛鉄板 ○ 溶融アルミニウムー亜鉛鉄板　○ ステンレス鋼板 ○ アルミガラスクロス　○ その他（　　） ﾛ) 機械室・書庫・倉庫 ○ アルミガラスクロス　○ カラー亜鉛鉄板 ○ 溶融アルミニウムー亜鉛鉄板　○ ステンレス鋼板 ○ 合成樹脂製カバー　○ その他（　　） ﾊ) 天井内・パイプシャフト内及び空隙壁中 ● アルミガラスクロス ○ その他（　　） ﾆ) 外気取入用ダクト及び排気用ダクト ○ アルミガラスクロス ○ その他（　　） 範囲　ｲ) 外気取入用ダクト　○ 全て ﾛ) 排気用ダクト　○ 全て ○ その他（　外壁より1.5m以内　） ﾊ) その他 ○ その他（　　）（　　） ○ その他（　　）（　　） ○ その他（　　）（　　） ○ その他（　　）（　　）

4) 機器類

○ 冷温水ヘッダー　○ 冷水ヘッダー　○ 冷温水タンク
○ 冷水タンク　○ 温水タンク　○ 蒸気ヘッダー
○ 温水ヘッダー　○ 熱交換器　○ 還水タンク
○ 膨張タンク

保温材　○ グラスウール　○ ロックウール
○ その他（　　）

外装材　○ カラー亜鉛鉄板　○ 溶融アルミニウム一亜鉛鉄板
○ ステンレス鋼板　○ その他（　　）

5) 冷媒被覆銅管

	液管	ｶﾞｽ管	結露の恐れあり（　　）
被覆厚			

6) 煙道
排気筒

保温材　○ ロックウール　○ その他（　　）
外装材　○ カラー亜鉛鉄板　○ 溶融アルミニウム一亜鉛鉄板
○ ステンレス鋼板　○ その他（　　）

7) 消音内貼り

施工方法は標準仕様書の当該事項による
施工個所は図示したダクト及びチャンバー類とする
使用材料　○ グラスウール　○ その他（　　）
厚さ　○ 25㎜　○ 50㎜
消音内貼チャンバーの寸法は外法寸法とする
ラス押え　○ 有（　　）　○ 無

▷ 3. 塗装

イ. 屋内露出は、室内環境対応･配慮形塗料又は水性系塗料の合成樹脂調合ペイントとする。 但し煙道、煙突は耐熱塗装とする

ロ. 裸管　○ 合成樹脂調合ペイント ○ アルミニウムペイント
・蒸気管　機械室内は、アルミニウムペイント
居室及び隠ぺいは、さび止めペイント

ハ. 支持金物及び架台類
○ 合成樹脂調合ペイント ○ アルミニウムペイント

ニ. ダクト　＊ 合成樹脂調合ペイント

ホ. その他　○ アルミニウムペイント　○ 調合ペイント

▷ 4. ﾀﾞｸﾄ及びﾀﾞｸﾄ付属品

1) ダクト

方式　○ 低圧　○ 高圧１　○ 高圧２
○ その他（　　）

工法　○ アングルフランジ　（　　）
○ コーナーボルト　（　　）
（ ○ 共板フランジ　○ スライドオンフランジ ）
○ 差し込み

種別　○ 鉄板　（　　）
○ スパイラルダクト　（　　）
○ 硬質塩化ビニル管（ＶＵ）　（　　）
○ 矩形（アングルダクト工法）　（　　）
○ その他　（　　）

2) チャンバー等

イ. 外壁に面するガラリに直接取付けるチャンバー、ホッパーには排水を設ける

ロ. シーリングディフューザーには下記の接続ボックスを設ける
ｲ) ネック径200φ以下　：400×400×250H
ﾛ) 〃　200φをこえるもの：500×500×300H

ハ. 線状吹出口には、下記の接続ボックスを設ける
ｲ) BL-S、BL-D　：２００×（長さ＋１００）×３００H
ﾛ) BL-T、BL-K　：２５０×（長さ＋１００）×３００H

ニ. 天井付制気口には、特記なき場合(制気口寸法＋１００)×２５０Hの接続ボックスを設ける

3) 防雪フード	イ. 材質　ステンレス鋼板製　○ SUS430 ○ SUS304 ○ その他（　　） ロ. 板厚　（　　）mm
4) 排気フード	イ. 幕板　○ 本工事　ステンレス鋼板製　○ SUS430 ○ SUS304 ○ 別途工事　○ （　　）mm
5) セルフード	○ 丸形フード　○ 防風形フード　○ その他（　　） 材質　○ ステンレス製 ○ アルミニウム製 ○ その他（　　）
6) 風量測定口	取付箇所　1．特記した風量調整ダンパーの上流又は下流 2．送排風機、空調機に近接した風道の部分 3．外気取入風道の部分 4．その他指定部分
▷ 5. 制気口	
1) 吹出口・吸込口	材質　○ 樹脂製(　　) ○ 鋼板製 ○ アルミニウム材製 ○ その他（　　）
▶ 6. 貫通部の処理	
1) 穴埋補修	穴埋補修は無収縮モルタル又はロックウール保温材で補修する なお、ロックウール保温材の場合は脱落防止の措置を施す
2) 防火区画の処理	イ. 不燃材料の配管で貫通する場合は、その隙間をモルタル又はロックウール保温材で埋める ロ. 不燃材料以外の配管で貫通する場合は、建築基準法令に適合する工法とする ハ. スパンドレルについてセルフードは抵触しない事
▷ 7. 吊り及び支持	イ. インサート金物は、吊りボルトに対し、適正なサイズのものを選定する ロ. 断熱材使用箇所におけるインサート金物は、断熱インサート金物とする ハ. 吊り用ボルトは、ピット内及び床下は被覆全ねじ又はステンレス鋼（SUS304）とする径は標準仕様書（第２編 第２章の2.6.3）による
▷ 8. スリーブ	イ. 標準仕様書（第２編 第２章の2.2.27）による ロ. 外壁の地中部分で水密を要する部分のスリーブ 「貫通させる配管の外径より40㎜程度大きなものを採用すること」 ※つば付き鋼管スリーブ ○ 非加硫ブチルゴム系止水材（使用部位：　　）
▷ 9. はつり及び穴あけ（改修工事等）	既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴あけは、原則として、ダイヤモンドカッターによる 口径は、原則として管の外径（保温されるものにあっては保温材の厚さを含む）より20㎜程度大きなものとする

▶ 10. インサート及びアンカー

改修工事において、既存のインサート及びアンカーボルトは、原則として、使用しない。やむを得ず既存のインサート及びアンカーを再使用する場合は、状態及び強度を確認し、十分に清掃を行ってから使用する。
また、引張強度の確認試験については、監督員と協議する

機器の固定
アンカーの耐震計算を行う機器等
＊ 監督員と協議する
○ 無し
確認試験
イ. あと施工アンカーの性能確認試験　○ 行う　＊ 行わない
ロ. あと施工アンカーの施工後確認試験
＊ 行う　確認強度は監督員と協議する
○ 行わない

▷ 11. 耐震措置

「建築設備耐震設計・施工指針２０１４年版」（日本建築センター発行）及び「道有施設（建築物）の総合耐震計画基準及び同解説」に基づき、耐震施工を行う

○ 一般の施設　○ 特定の施設　○ 甲類　○ 乙類

（1）局部震度法による建築設備機器（水槽類を除く）の設計用標準水平震度（Ks）

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階屋上及び塔屋	2.0	1.5	1.5	1.0
	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(1.5)
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
	(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.0)
1階及び地下階	1.0	0.6	0.6	0.4
	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(0.6)

（注）（ ）内の数値は防振支持機器の場合に適用する

（2）局部震度法による水槽類の設計用標準水平震度（Ks）

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要水槽	一般水槽	重要水槽	一般水槽
上層階屋上及び塔屋	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
1階及び地下階	1.5	1.0	1.0	0.6

重要機器は、次のいづれかに該当するものをいう。また、一般機器とは、重要機器以外をいう

イ. 災害応急対策活動に必要な施設等において、施設目的に応じた活動を行うために必要な設備機器

ロ. 危険物を貯蔵又は使用する施設において、危険物による被害を防止するための設備機器

ハ. 避難、消火等の防災機能を果たす設備機器

ニ. 火災、水害、避難の障害等の二次災害を引き起こす恐れのある設備機器

ホ.その他これらに類する機器

重要水槽とは重要機器として扱う水槽類、一般水槽とは一般機器として扱う水槽類を示す

また、水槽類にはオイルタンク等を含む

(2)　あと施工アンカーの場合は、監督員と事前協議の上使用することとし、施工後の確認試験は次による。

①施工されたアンカーの固着状況を確認する試験（現場非破壊検査）とする。

②試験箇所、試験荷重等を記載した試験計画書を、試験前に監督員に提出する。

③引抜試験装置は、油圧式加力装置、レンチ式加力装置等とする。

▷ 12. 総合試運転調整等

○ 風量調整　　○ 水量調整　　○ 室内外空気の温度
○ 室内外空気の湿度　　○ 室内気流及びじんあいの測定
○ 騒音の測定　　○ 飲料水の水質の測定

総合試運転調整完了後、機器等の運転状態の記録及び系統ごとに各測定結果をまとめた測定報告書を監督員に提出する

測定報告書には、測定器名、測定日時及び測定者名を記入し、測定点を示した図面を添付する

▶ 13. 仮設工事

1) 工事用水

構内既存の施設　● 利用できる（　＊ 有償　○ 無償　）
＊ 利用できない

2) 工事用電力

構内既存の施設　○ 利用できる（　＊ 有償　○ 無償　）
＊ 利用できない

3) 足場

別契約の関係請負者の定置する足場、桟橋の類は、無償で使用できる

4) 交通誘導警備員

建設機械及び車両等の出入りの際には、出入口に交通誘導警備員を配置し、一般通行者及び一般車両の安全を確保すること

なお、配置位置及び交通誘導警備員の区分は、次による

配置位置：図面による

警備員詰所：（ ○ 設ける　　● 設けない）

表　工事現場の位置と交通誘導警備員区分

工事現場の出入り口を設ける道路（路線）	交通誘導警備員区分
市街地（DID）内の路線	交通誘導警備員A
北海道（各方面）公安委員会告示による認定路線	
上記以外の路線	交通誘導警備員B

市街地内の路線及び認定路線の場合は、交通誘導警備業務を行う場所ごとに交通誘導警備員Aを１人以上配置する。

交通誘導警備員Aを配置できない場合で、やむを得ず受注者自らが交通誘導を行う場合は、監督員と協議すること。

5) 指定仮設

＊ なし　　○ 本工事（仮設計画図による）

▷ 14. 土工事

1) 管周囲の保護　＊ 山砂の類　○ 良質土　○ その他

2) 埋戻し土　＊ 掘削土の良質土　○ 山砂の類

3) 建設発生土等の処理　場外搬出　（ 約　　km　捨て場所　　）
（捨て場所住所：　　）
（管　理　者：　　）
捨て土均し（ ○ 有り　○ 無し）
○ 構内敷均し　○ 構内指示の場所に堆積（図示による）
○ 構外敷均し
○ 処理費（　＊ 有償　○ 無償　）

4) 山留め施工　○ 有り　（ 工法：　　）　○ 無し

▷ 15. 地業工事

1) 砂利地業　＊ 再生クラッシャラン　○ 切込砂利　○ 切込砕石
砂利地業の厚さ　＊ １００mm以上
○　　mm （　　）
JIS A5001（道路用砕石） C-40程度

▷ 16. コンクリート工事

1) コンクリート強度　機器類基礎等のコンクリート強度、鉄筋

強　度	○ 16N/mm2	○ 18N/mm2	○ 21N/mm2
スランプ	cm	cm	cm
施工箇所			

鉄筋種別	異形鉄筋　○ ＳＤ295　○ ＳＤ345　○ ＳＤ390
補強筋	壁開口部　○ 基準配筋による　○ 構造図面による 床開口部　○ 基準配筋による　○ 構造図面による そ の 他　○ 基準配筋による　○ 構造図面による

▷ 17. はつり工事

はつり作業を行う場合は、埋込配管及び主鉄筋への損傷、じんあい処置等について注意して行う。

なお、埋設物の調査は下記による

○ 放射線透過検査　○ 左記以外の電磁波検査など

▷ 18. 使用機材

使用する機材は「北海道建設部建築局建築整備課 令和8年度版 設備機材等指定名簿」及び本仕様書のメーカーリストによる

○ メーカーリスト

機　器　名	指　定　製　造　所			

▷ 19. 型番等

図面中の機器表等の型番は参考型番とし、同等品以上とする

○　空気調和設備

●　暖　房　設　備

項　　目	特　　記　　事　　項
▷ 1. エネルギー源	○ 重油　○ 灯油　○ ガス(都市ガスの場合　○ 低圧　○ 中圧) ○ 電気　○ その他（　　）
▷ 2. 暖房方式	○ 蒸気　○ 温水　○ 温風　○ 電気　○ 遠赤外線 ○ 放射　○ その他（　　）
▷ 3. 主要熱源機器及び付属機器	図内機器表による　容量等の表示、機器類の能力、容量等（電動機出力は除く）は、原則として表示された数値以上とする
▷ 4. ばい煙濃度計	○ 設けない　　○ 設ける
▷ 5. 煤じん量測定口	○ 設けない ○ 設ける　（煙道直線部に100φ以上のフランジ蓋止とする　）
▶ 6. 放熱器等	種別　○ 鋳鉄製放熱器　　○ パネルヒーター ○ ファンコイルユニット　　○ ヒートポンプユニット ● ファンコンベクター　　○ ユニットヒーター ○ パッケージエアコン　　○ ＦＦ暖房機 ○ 電気ヒーター　　○ 遠赤外線暖房機 ○ コンベクター　　○ ベースボードヒーター ○ 床暖房　　（ ○ 温水　○ 電気　） ○ ロードヒーティング　（ ○ 温水　○ 電気　） ○ その他（　　）

○　冷　房　設　備

●　換　気　設　備

項　　目	特　　記　　事　　項
▶ 1. 換気方式	○ 中央式　　● 局所式 ○ １種　　○ ２種　　● ３種
▶ 2. 主要換気設備	○ ユニット型空気調和機　　○ 熱交換形換気扇 ○ ダクト式機械換気　　● 換気扇 ○ その他（　　）
▷ 3. 制御方式	イ．熱交換換気扇 給気ファン停止　○ 無　＊ 0℃ ○ 5℃ ○ 10℃
▷ 4. 換気扇スイッチ	○ 別途工事　　○ 本工事　　○ 図示による
	FF

○　排　煙　設　備

○　給　油　設　備

○　自動制御設備

● 給 水 設 備

項　　目	特　　記　　事　　項
▷ 1. 給水方式	○ 水道直結直圧方式 ○ 水道直結増圧方式 ○ ポンプ直送方式　（ ○ 上水　○ 井水 ） ○ 高置タンク方式　（ ○ 上水　○ 井水 ）
▷ 2. 屋外給水引き込み管	既設配水管（ ○ 分水新設　○ 既設分水以降接続 ） 既設敷地内給水引き込み管　（ ○ 分水新設　○ 既設分水以降接続 ） 配水管新設（ ○ 負担金　○ 専用　○ 布設替 ）
▷ 3. 量水器	○ 借受品　○ 新品購入（水道管理者指定品）
▷ 4. 量水器桝	○ 水道管理者指定品　○ 図内規格品
▷ 5. 量水器集中検針盤 計装工事区分	＊ 集中検針盤から量水器までの計装配管配線は本工事 ○ その他（　　）
▷ 6. 量水器集中検針盤 試験調整工事区分	＊ 集中検針盤から量水器までの通信状況確認は本工事 ○ その他（　　）
▷ 7. 受水タンク	イ. ○ 上水用（　　）　○ 本工事　○ 別途工事 ロ. ○ 井水用（　　）　○ 本工事　○ 別途工事 ハ. 制御方法　フロートレススイッチ ボールタップ・定水位調整弁 その他（　　） ニ. 警 報　○ 満水　○ 減水　○ 低水位遮断　○ 故障
▷ 8. 給水装置	イ. 給水ポンプ ○ 揚水用ポンプ ○ 床置型　○ 水中型 ○ 水道用直結加圧形ポンプユニット ○ 小形給水ポンプユニット ○ 床置型　○ 水中型 ○ 吐出し圧力一定制御　○ 末端圧力推定制御 ○ その他（　　） ロ. 圧力タンク ○ 自動空気補給式 ○ 隔膜式 ○ その他（　　） ハ. 高置タンク　○ ＦＲＰ製（　　） ○ そ の 他（　　） ニ. 制御方法　○ フロートレススイッチ ○ 圧力スイッチ ○ その他（　　） ホ. 警 報 ○ 満水　○ 減水　○ 低水位遮断　○ 故障
▶ 9. その他	●（ 図示による　　）

● 排 水 設 備

項　　目	特　　記　　事　　項
▶ 1. 排水方式	イ. 汚水　○ 自然流下　○ 強制排水 ロ. 雑排水　● 自然流下　○ 強制排水 ハ. 雨水　● 自然流下　○ 強制排水
▷ 2. 排水方法	イ. 汚水　○ 下水道接続 ○ 地下浸透　○ （　　） ロ. 雑排水 ○ 下水道接続 ○ 地下浸透　○ （　　） ハ. 雨水　○ 下水道接続 ○ 地下浸透　○ （　　）
▷ 3. 排水桝及び蓋	イ. インバート桝 ○ ｺﾝｸﾘｰﾄ桝 ○ 角型　○ 丸型　○ 市販コンクリート管　○ 現場打 ○ 塩ビ桝【 蓋　○ 塩ビ　　○ T8 】 ○ その他（　　市・町・村・型） ロ. ため桝 ○ ｺﾝｸﾘｰﾄ桝 ○ 角型　○ 丸型　○ 市販コンクリート管　○ 現場打 ○ 塩ビ桝【 蓋　○ 塩ビ　　○ T8 】 ○ その他（　　市・町・村・型） ハ. 蓋 ○ 鋳鉄製（　○ 耐重　○ 重量　○ 軽量 ） ○ コンクリート製 ○ その他（　　市・町・村・型）
▷ 3. 浄化槽設備	イ. 方式　○ 長時間ばっ気 ○ 回転板接触 ○ 接触ばっ気方式 ○ その他（　　） ロ. 形式　○ 現場施工型　○ ユニット型 処理対象　○ 汚水　○ 雑排水 ○ その他（　　） 処理水量（　　㎥/日 ）　（　　）人槽 放流水水質（ ＢＯＤ　　ppm ） ハ. ブロアー設置場所 ○ 機械室内　○ 浄化槽内 ○ その他（　　） その他　設置浄化槽型式決定後直ちに施工承諾申請図及び計算書を監督員へ提出すること
▷ 4. 清掃消毒	イ. 作業方法 ・洗浄吐出圧力７mPa、吐出量２５～７０ℓ/minで清掃 清掃後、消毒剤にて消毒洗浄する ○ 屋内雑排水管　○ 汚水管 ○ 大便器 ○ 小便器 ○ 洗面器 ○ 掃除流し　○ 事務室流し ○ 厨房流し　○ グリ-ストラップ ・洗浄吐出圧力７mPa、吐出量４０～７０ℓ/minで清掃 清掃後、消毒剤にて消毒洗浄する ○ 屋外排水管　○ 排水桝 ・洗浄吐出圧力７mPa、吐出量４０～７０ℓ/minで清掃 ○ ルーフドレン管 ロ. 消毒剤

▷ 5. その他	・次亜塩素酸ナトリウム溶液　濃度　100mg/ℓ 換気ドレン、水抜ドレン、バルコニードレン及び耐火二層管は保温を施さない

● 給 湯 設 備

項　　目	特　　記　　事　　項
▶ 1. 給湯方式	○ 給湯ボイラー （ ○ 単独　　○ 暖房併設 ） ○ 熱交換器　　○ 貯湯タンク ○ ガス湯沸器 （ ○ 貯湯式　　○ 瞬間式　　○ 別途ﾘｰｽ品対応 ） ○ 電気湯沸器 （ ○ 貯湯式　　○ 瞬間式 ） ○ 潜熱回収型ガス給湯暖房機（リース） ● その他（　電気温水器　　）

● 衛 生 器 具

項　　目	特　　記　　事　　項
▶ 1. 衛生器具及び付属機器	● 図内器具表による

○ 消 火 設 備

○ ガ ス 設 備

○ 厨 房 機 器

● 環境配慮改修工事

項　　目	特　　記　　事　　項
▶ 1. 石綿含有建材の除去工事	改修工事標準仕様書（建築工事編）第９章及び以下による。 施工調査　(9.1.1) 建材の石綿含有調査は、次による。 施工調査の結果を書面により監督員へ報告する。 施工調査の結果、設計図書等と異なる場合は、監督員と協議する。 (1) 調査範囲　(9.1.1) ● 分析調査 調査部位　撤去・改修部位の全て ○ 分析調査済：含有建材等は図面による。 分析結果　○ 石綿含有　○ 石綿非含有 分析方法は、JIS A1481「建材製品中のアスベスト含有率測定法」とする。 ● 既存の石綿含有建材の調査報告書の貸与 ● 貸　与　○ 無 (2) 分析方法　(9.1.1) ＊ JIS A 1481-2（建材製品中の含有率測定方法－第２部：試料採取及び石綿含有の有無を判定するための定性分析方法）とする。 ○ _____ (3) 石綿含有建材除去後の仕上げ　○ 図示　(9.1.1) (4) 石綿粉じん濃度測定　＊ 行う　● 行わない　(9.1.1) 測定方法　○ 図示　○ _____ 測定時期　○ 図示　○ _____ 測定場所　○ 図示　○ _____ 測定箇所数　○ 図示　○ _____
▶ 2. 除去工事共通事項	(1) 処理を行う吹付け材の種類及び処理方法 種類 _____ 処理方法　＊ 除去　○ 封じ込め　○ 囲い込み （処理を行う範囲は図示） (2) 処理を行う保温材等の種類及び処理方法 種類 _____ 処理方法　＊ 除去　○ 封じ込め　○ 囲い込み （処理を行う範囲は図示）
▷ 3. 石綿含有吹付け材の除去等	(1) 石綿含有吹付け材の除去方法　(9.1.3) ＊ 改修標準仕様書9.1.3(2)(ｱ)による ○ _____ (2) 除去した石綿含有吹付材等の飛散防止措置及び梱包　(9.1.1 9.1.3) ① 飛散防止措置　＊ 湿潤化　○ 固形化 ② 梱包　＊ 密封処理(二重袋梱包)　○ _____

	(3) 除去した石綿含有吹付材等の処分方法 (9.1.3) ○ 埋め立て処分 ＊ 管理型最終処分場 場所：＿＿＿＿＿＿ ○ ＿＿＿＿＿＿ 場所：＿＿＿＿＿＿ ○ 中間処理 ＊ 無害化処理施設 場所：＿＿＿＿＿＿ ○ ＿＿＿＿＿＿ 場所：＿＿＿＿＿＿
▶ 4. 石綿含有保温材等の除去	(1) 石綿含有保温材等の除去方法 (9.1.4) 種類：ダクトフランジ 除去方法 ● 切断又は破砕 ○ 手ばらし ○ 切断 ○ 作業場の隔離 ○ 本体搬出 種類： 除去方法 ○ 切断又は破砕 ○ 手ばらし ○ 切断 ○ 作業場の隔離 ○ 本体搬出 (2) 作業場の隔離 ＊ 行う ○ 行わない (9.1.4)
▷ 5. 石綿含有成形板等の除去	(1) 石綿含有成形板の種類 (9.1.5) 種類 ＿＿＿＿＿＿ 種類 ＿＿＿＿＿＿ 種類 ＿＿＿＿＿＿ (2) 石綿含有せっこうボードの石綿含有吹付材等の処分 (9.1.5) ○ 埋め立て処分 ＊ 安定型最終処分場 場所 ＿＿＿＿＿＿ (3) 石綿含有せっこうボードを除く石綿含有吹付材等の処分 (9.1.5) ○ 埋め立て処分 ＊ 安定型最終処分場 場所 ＿＿＿＿＿＿ ○ ＿＿＿＿＿＿ 場所 ＿＿＿＿＿＿ ○ 中間処理 ＊ 無害化処理施設 場所 ＿＿＿＿＿＿ ○ ＿＿＿＿＿＿ 場所 ＿＿＿＿＿＿

○ その他

● 工 事 概 要

項　　目	特　　記　　事　　項
▶ 1. 電気工作物の種類	○　一般用電気工作物　● 事業用電気工作物(自家用電気工作物)
▶ 2. 工事種目	

【一般建物】

名　　称	新　営	改　修	施工の範囲	備　考
電灯設備	○　一式	●　一式	● 配管　● 配線　● 器具付	
動力設備	○　一式	●　一式	● 配管　● 配線　● 器具付	
電熱設備	○　一式	○　一式	○ 配管　○ 配線　○ 器具付	
雷保護設備	○　一式	○　一式		
受変電設備	○　一式	○　一式		
電力貯蔵設備	○　一式	○　一式		
発電設備	○　一式	○　一式		
構内情報通信網設備	○　一式	○　一式	○ 配管　○ 配線　○ 器具付	
構内交換設備	○　一式	●　一式	● 配管　● 配線　● 器具付	
情報表示設備	○　一式	○　一式	○ 配管　○ 配線　○ 器具付	
映像音響設備	○　一式	○　一式	○ 配管　○ 配線　○ 器具付	
拡声設備	○　一式	●　一式	● 配管　● 配線　● 器具付	
誘導支援設備	○　一式	○　一式	○ 配管　○ 配線　○ 器具付	
テレビ共同受信設備	○　一式	●　一式	● 配管　● 配線　● 器具付	
監視カメラ設備	○　一式	○　一式	○ 配管　○ 配線　○ 器具付	
火災報知設備	○　一式	●　一式	● 配管　● 配線　● 器具付	
中央監視制御設備	○　一式	○　一式	○ 配管　○ 配線　○ 器具付	
防犯入退室管理設備	○　一式	○　一式	○ 配管　○ 配線　○ 器具付	
構内配電線路設備	○　一式	○　一式	○ 配管　○ 配線　○ 器具付	
構内通信線路設備	○　一式	○　一式	○ 配管　○ 配線　○ 器具付	

▶ 3. 設備概要

本工事対象建築物の設備概要は下記のとおりとする。

なお、改修工事にあっては改修工事後の設備概要を示し、本工事の対象となっていない設備については記載していない。

引込（電力）　○ 架空　○ 地中

引込（通信）　○ 架空　○ 地中

受電方式　○ 低圧受電（○ 電灯　○ 動力）

○ 高圧受電　＿＿＿ＫＶ

受電設備　○ 非常電源専用受電設備

○ 屋内　○ 屋外

○ キュービクル式　○ 高圧スイッチギア

変圧器　単相　計　＿＿＿ＫＶＡ

三相　計　＿＿＿ＫＶＡ

自家発電装置　種別　○ ディーゼル機関

○ ガス機関

○ ガスタービン機関

発電機出力　＿＿＿ＫＶＡ

燃料　○ 軽油　○ Ａ重油
○ 灯油　○ ガス

その他発電装置　○ 燃料電池発電装置
○ 太陽光発電装置
○ 風力発電装置

直流電源装置　○ 鉛蓄電池　○ ＣＳ形
○ ＰＳ形
○ ＭＳＥ形
○ 長寿命ＭＳＥ形
○ ＨＳＥ形
○ アルカリ蓄電池　○ ポケット式
○ 焼結式
○ 焼結式シール形

直流電源装置の用途　○ 受変電機器制御電源　○ 非常用照明

ＵＰＳ装置　○ 常時インバータ給電方式簡易形
○ 常時インバータ給電方式
○ ラインインタラクティブ方式
○ 常時商用給電方式
停電補償時間　＿＿＿分
ＵＰＳ装置の用途（　　）

照明制御装置　○ 人感センサ
○ 明るさセンサ　○ タイマ
○ その他（　　）

幹線設備　電灯　○ 単相２線式１００Ｖ　５０Ｈｚ
● 単相３線式２００／１００Ｖ　５０Ｈｚ
動力　● 三相３線式２００Ｖ　５０Ｈｚ
電熱設備　ロードヒーティング　○ 単相１００Ｖ
○ 単相２００Ｖ
○ 三相２００Ｖ
フロアヒーティング　○ 単相１００Ｖ
○ 単相２００Ｖ
○ 三相２００Ｖ

雷保護設備　受雷部　○ 突針
○ 水平導体又はメッシュ導体
引き下げ導線システム
○ 引下げ導線
○ 構造体利用引下げ導線

構内情報通信網設備
インタフェース　○ 100BASE-TX　○ 1000BASE-T
○ その他（　　）

機器　○ Ｌ２スイッチ　○ Ｌ３スイッチ
○ ルーター　○ メディアコンバーター
○ その他（　　）

構内交換設備

回線種別　○ アナログ　○ ＩＮＳ
○ 専用線　○ 光

交換装置　○ ＰＢＸ　○ ＩＰ－ＰＢＸ
○ ＶｏＩＰサーバー　○ クラウド

実装数／容量数　局線数　／
内線数　／

電話機　● 一般形　○ 多機能形
○ 停電用　○ ＩＰ電話機

電源装置　停電補償時間　分

情報表示設備　○ マルチサイン装置
○ 出退表示装置
○ 時刻表示装置　出力回線数　回線

映像音響設備　○ 有　○ 無

拡声設備　○ Ｈｉ形増幅器　増幅器容量　Ｗ
● 一般放送用　○ 非常放送用　○ 一般非常兼用
○ 遠隔操作器　箇所

誘導支援設備　○ 音声誘導装置　○ インターホン
その他機器　○ テレビインターホン
○ 外部受付用インターホン
○ トイレ等呼出装置
○ 受付呼出装置

テレビ共同受信設備　アンテナ　● ＵＨＦ
○ ＢＳ・１１０°ＣＳ
○ ＣＳ
○ その他（AM・FM）

火災報知設備

(1) 自動火災報知設備

受信機　形　級　回線
○ 単独盤　○ 複合盤
○ 壁掛形　○ 自立形

副受信機　台　回線
○ 自動試験機能　○ 遠隔試験機能
○ ＧＰ型３級受信機（住戸内）

発信機　形　級　○ 組込形　○ 露出形

警報ベル　○ 露出形　○ 組込形

総合盤　○ 単独（ ○ 露出　○ 埋込）
○ 消火栓箱組込形　（消火栓箱は別途工事）

(2) 自動閉鎖設備

自動閉鎖装置連動制御器　○ 単独盤　○ 複合盤

(3) 非常警報設備
○ 一体型　○ 複合型
○ その他（　○ 非常ベル　○ 表示灯　○ 起動装置）

(4) ガス漏れ警報設備　（機械設備のガス漏れ警報設備に係わる工事）
○ 電気設備工事で設置　○ 機械設備工事で設置
施工の範囲　○ 配管　○ 配線
○ 基台（警報機は別途）
○ 器具付け
基台は警報出力接点付き、アダプター付きとする。
ガス種別　○ ＬＰＧ　○ 都市ガス

中央監視装置　○ 警報盤
○ 簡易型監視制御装置
○ 監視制御装置

防犯入退室管理設備
○ センサ　○ マグネットスイッチ
○ バイブレーションスイッチ
○ パッシブセンサ
○ 制御部　○ キースイッチ
○ 暗証番号入力装置
○ 磁気カード
○ ＩＣカード
○ 機器類は施設管理者リース品である。

共用灯設備
電気方式
単相２線式（　○ １００Ｖ　○ ２００Ｖ）　５０Ｈｚ
照明制御装置　○ 人感センサー　○ 明るさセンサ
○ タイマ

外灯設備　○ 架空　○ 地中
ポール種別　○ 鋼製塗装　○ アルミ
○ 溶融亜鉛メッキ塗装　○ 溶融亜鉛ﾒｯｷﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ粉体塗装
○ 埋込式　○ ベースプレート式
ランプ　○ ＬＥＤ
○ その他　（　　）

点滅方式
○ 自動式　（　○ 自動点滅器　○ タイマ　）
○ 手動式

電波障害防除設備
施工方法　○ 架空配線式　○ 地中配線式
○ アンテナ対策　○ ＣＡＴＶ
受信点　○ 当該施設のテレビアンテナより分岐
○ 新設
○ 既設電波障害防除施設より分岐

● 電気設備共通事項

項　　目	特　　記　　事　　項
▶ 1. 電気保安技術者	電気主任技術者を補佐し、監督員の承諾を受け電気工作物の保安業務を行う電気保安技術者をおくこと。
▶ 2. 諸手続	本工事の施工に必要な官公署その他への手続きは、受注者が代行し速やかに行い、費用は全て受注者の負担とする。
▶ 3. 試運転調整	この工事に必要な試運転調整の費用は全て受注者の負担とする。
▷ 4. 指定仮設	＊ なし　　○ 本工事（仮設計画図による）
▶ 5. 足場及び橋類	別契約の関係受注者の定置する足場、桟橋の類は、無償で使用できる。
▷ 6. 交通誘導警備員	建設機械及び車両等の出入りの際には、出入口に交通誘導警備員を配置し、一般通行者及び一般車両の安全を図ること。 なお、交通誘導警備員の区分、配置位置及び設置日数は、次による。 区分：　○ 交通誘導警備員A　○ 交通誘導警備員B 位置：図面による。　　設置日数：＿＿＿＿＿＿ 警備員詰所：（ ○ 設ける　　○ 設けない） 表　工事現場の位置と交通誘導警備員区分の考え方 工事現場の出入り口を設ける道路（路線）：交通誘導警備員区分 市街地（DID）内の路線：交通誘導警備員A 北海道（各方面）公安委員会告示による認定路線：交通誘導警備員A 上記以外の路線：交通誘導警備員B 市街地内の路線及び認定路線の場合は、交通誘導警備業務を行う場所ごとに交通誘導警備員Aを１人以上配置する。 交通誘導警備員Aを配置できない場合で、やむを得ず受注者自らが交通誘導を行う場合は監督員と協議すること。
▶ 7. 工事用電力水等	
1) 工事用水	構内既存の施設　● 利用できる（　＊ 有償　　○ 無償　） ＊ 利用できない
2) 工事用電力	構内既存の施設　○ 利用できる（　＊ 有償　　○ 無償　） ＊ 利用できない
▶ 8. 使用機材等	使用する機材は「北海道建設部建築局建築整備課 令和８年度版 設備機材等指定名簿」を参考とする。
▷ 9. 製品の検査	次の機器は原則、監督員及び検査職員立会のもとに工場検査を行うこと。また、検査機器は出来高対象とする。 （ 対象機器：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ）
▶ 10. 参考図	図中参考図の寸法は概略寸法とする。
▶ 11. 発生材の処理	共通事項特記仕様書による。
▷ 12. 小型2次電池の処理	ＪＢＲＣの回収システムを利用すること。
▷ 13. イオン化式感知器の処理	共通事項特記仕様書　第１章　16による。
▷ 14. PCBを含む機器類	発生材にPCBを含む機器類がある場合は、PCBが飛散、流失、地下への浸透等がないよう適切な容器に収め、適切な場所に保管する。 保管場所・容器については、監督員の指示による。

▷ 15. 概数等発注

(1) 次に示した項目の工事数量は概数であり、必要に応じて設計変更するものとする。

なお、設計に対して過大な出来高数量に変更するものではないことに留意すること

ｱ. 閲覧用設計書細目別内訳又は別紙明細の備考欄に「概数」又は「概」と表示された項目

ｲ. 次の項目

・ ＿＿＿

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要水槽	一般水槽	重要水槽	一般水槽
上層階 屋上及び塔屋	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
1階及び 地下階	1.5	1.0	1.0	0.6

重要機器は、次のいずれかに該当するものをいう。また、一般機器とは重要機器以外をいう。

イ. 災害応急対策活動に必要な施設等において、施設目的に応じた活動を行うために必要な設備機器

ロ. 危険物を貯蔵又は使用する施設において、危険物による被害を防止するための設備機器

ハ. 避難、消火等の防災機能を果たす設備機器

ニ. 火災、水害、避難の障害等の二次災害を引き起こす恐れのある設備機器

ホ. その他これらに類する機器

重要水槽とは重要機器として扱う水槽類、一般水槽とは一般機器として扱う水槽類を示す
また、水槽類にはオイルタンク等を含む

(2)　あと施工アンカーの場合は、監督員と事前協議の上使用することとし、施工後の確認試験は次による。

①施工されたアンカーの固着状況を確認する試験（現場非破壊検査）とする。

②試験箇所、試験荷重等を記載した試験計画書を、試験前に監督員に提出する。

③引抜試験装置は、油圧式加力装置、レンチ式加力装置等とする。

▷ 17. 防災電源（非常電源）　次の設備は防災電源（非常電源）として関係法令等に適合したものであること。

○ キュービクル等　○ 蓄電池　○ 発電装置

▷ 18. 配分電盤・端子盤類　図中に特記がある場合、及び住戸内を除き「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）令和７年版」を適用する。

▷ 19. 塗装工事　金属管の塗装箇所　＊ 無し
○ 有り（　　）

▶ 20. 電線及びケーブル
1)環境配慮形を使用することを原則とする。
2)アルミケーブルを使用する際は監督員と協議すること。
3)高圧架橋ポリエチレンケーブル
○ Ｅ－Ｅタイプ（押出成形）　○ Ｅ－Ｔタイプ（テープ巻）

▷ 21. 直線接続材(低圧)　標準仕様書に記載のあるほか下記による。
＊ ＪＣＡＡ Ａ１０２　＊ ＪＣＡＡ Ｋ１１０１

▷ 22. 直線接続材(高圧)　標準仕様書に記載のあるほか下記による。
＊ ＪＣＡＡ Ａ３０５

▷ 23. 端末処理材(低圧)　標準仕様書に記載のあるほか下記による。
＊ ＪＣＡＡ Ｋ１１０１

▷ 24. 端末処理材(高圧)　標準仕様書に記載のあるほか下記による。
＊ ＪＣＡＡ Ｋ１３０１

▶ 25. 位置ボックス　図面に特記がある場合を除き標準仕様書の使用区分による。
○ 気密処理を行う。

▶ 26. 配線器具用プレート	図中に特記がない場合は下記による。 住戸内　○ 合成樹脂製 その他　○ アルミ合金製　○ 合成樹脂製 ○ ステンレス製　○ ネジ止め
▷ 27. フロアプレート	床ボックスに取付のもの（二重床を除く）は水平高低調整形プレートを用いる。
▶ 28. つりボルト	床下ピット等の湿気のある場所に使用するつりボルトは亜鉛メッキ又はステンレス製とする。
▶ 29. ボルト・ナット等	屋外又はそれに類する場所で使用するボルト、ナット等は亜鉛メッキ又はステンレス製とする。
▶ 30. プルボックス	天井内隠蔽部分及び高所取付のプルボックスの蓋に用いるビスは脱落防止ビスとする。
▶ 31. 結露防止	(1)　断熱材は可能な限り欠損させないこと。ただしこれによりがたい場合は、同等以上の処理を行う。 (2)　断熱処理箇所に使用するインサートは断熱インサートとする。
▷ 32. 呼び線	長さ１ｍ以上の通線を行わない配管には、導入線（樹脂被覆鉄線等）を挿入する。
▷ 33. はつり工事	はつり作業を行う場合は、事前調査を入念に行い、埋込配管及び主鉄筋への損傷、じんあい処置等について注意して行うこと。 作業実施日時を施設管理者と共有し、施工場所の設備機能は、原則として停止すること。 電動器具を用いて、はつり工事を行う場合は、金属センサードラム等から電源を供給すること。 イ．埋設物の探査方法 ＊ 電磁波検査など ○ 放射線透過検査 対象ヶ所、躯体厚さ、フィルムサイズは図示による。 ロ．設備機能の停止に伴う代替措置 影響範囲　（　　） 代替措置　（　　） 放射線透過検査を行う場合は、労働安全衛生法等に定めるところによるほか、次による。 作業主任者は、エックス線作業主任者の資格を有する者とし、資格を証明する資料を監督職員に提出する。 放射線照射量は最小限のものとし、照射中は人体に影響のない程度まで照射器より離れる。また、作業者以外の立入り禁止措置を講ずる。 露出時間は、コンクリート厚さ等により、適宜調整する。 付近にフィルム、磁気ディスク等放射線の影響を受けるものの有無を確認する。 躯体の墨出しは、表裏でズレがないよう措置を講ずる。
▷ 34. その他	(1) ＭＣＣＢ回路とＥＬＣＢ回路に施工する接地は別接地とする。

● 電力設備工事

<table>
<tr><th>項　　目</th><th>特　　記　　事　　項</th></tr>
<tr><td>▷ 1. フロアコンセント</td><td>床：　○ アップ形　　○ プラグ収納形
○ 上下可動形　　○ ハイテンションアウトレット
床（ＯＡフロア）：　○ アップ形　　○ プラグ収納形
○ ハーネス式
材質：　○ アルミ合金　　○ 銅合金　　○ 樹脂
床（ステージ）：　○ プラグ収納形（アルミ合金鋳物プレート製）</td></tr>
<tr><td>▶ 2. タンブラスイッチ</td><td>● 大角形連用　　○ ワイドハンドル形</td></tr>
<tr><td>▷ 3. コンセント</td><td>特殊コンセントは表示及びプラグ付きとする。
○ 大角形連用　　○ ワイド形　　○ 単一形</td></tr>
<tr><td>▷ 4. 住戸内分電盤</td><td>住戸内の分電盤は、樹脂製とし、主幹ブレーカーは中性線欠相保護機能付漏電遮断器とする。</td></tr>
<tr><td>▷ 5. インバータ装置の規約効率</td><td>三相可変速電動機用インバーター装置の規約効率は、原則として下表の数値以上とする。
<table>
<tr><td>電動機出力(kW)</td><td>0.4</td><td>0.75</td><td>1.5</td><td>2.2</td><td>3.7</td><td>5.5</td><td>7.5</td></tr>
<tr><td>ｲﾝﾊﾞｰﾀ効率(%)</td><td>86.0</td><td>88.5</td><td>92</td><td>93</td><td>94.0</td><td>94</td><td>94.5</td></tr>
</table>
<table>
<tr><td>電動機出力(kW)</td><td>11</td><td>15</td><td>18.5</td><td>22</td><td>30</td><td>37</td><td>45</td></tr>
<tr><td>ｲﾝﾊﾞｰﾀ効率(%)</td><td>94.5</td><td>95.0</td><td>95.5</td><td>95.5</td><td>95.5</td><td>95.5</td><td>95.5</td></tr>
</table>
※１）　電動機の供給電圧は２００Ｖ又は４００Ｖ
※２）　規約効率は、JEM-TR 245「汎用インバータの規約効率の算出方法」により計算した損失を用い算出した効率とする。ただし、リアクトルを設けた場合にあっても、上記規約効率を満たすものとする。
※３）　規約効率は、JIS C 4212「高効率低圧三相かご形誘導電動機」の定格電圧200V、IP4X、6 極、50Hzの電動機を 駆動したときの値とする。</td></tr>
<tr><td>▷ 6. 雷保護設備適用規格</td><td>○ ＪＩＳ Ａ ４２０１：２００３
保護レベル　○ Ⅰ　○ Ⅱ　○ Ⅲ　○ Ⅳ
○ ＪＩＳ Ａ ４２０１：１９９２</td></tr>
<tr><td>▷ 7. 幹線</td><td>○ プレハブケーブル　　○ ＥＭ－ＣＥＴケーブル　　○ ＩＥ</td></tr>
<tr><td>▷ 8. 接地極</td><td>(1)　Ａ種・Ｂ種・Ｃ種接地は銅板（900×900×1.5ｔ）とし、それ以外の接地は銅又は銅覆鋼製接地棒とする。
(2)　接地極上端の埋設深さは、凍結深度以上とする。ただし、凍結深度０．７５ｍ未満の場合は、埋設深さを０．７５ｍとする。</td></tr>
<tr><td>▷ 9. 接地極埋設標</td><td>形状は、140H×90W×1.0ｔとし、文字は刻記、腐食加工とし、設置者名は「帯広市」とする。
○ 黄銅製　　○ ステンレス製</td></tr>
<tr><td>▷ 10. 分電盤等の予備配管</td><td>予備の配線用遮断器が４個以下の場合は、（PF22）相当を１本以上、５個以上の場合は、（PF22）相当を２本以上を二重天井内まで立ち上げるものとする。ただし、シャフト内は適用しない。</td></tr>
<tr><td>▷ 11. 電動機等への接続</td><td>別途工事の電動機等への配線接続は本工事とする。</td></tr>
<tr><td>▷ 12. 住戸内の屋内配管及びボックス</td><td>○ 内装プレハブ　（該当箇所の配管及びボックスについて、専門業者と協議すること。）
○ 内装在来工法</td></tr>
<tr><td>▷ 13. 一般照明の照度測定</td><td>JIS C 7612「照度測定方法」に準拠し、照度測定を行うこととし、測定箇所については、監督員と協議の上決定すること。</td></tr>
</table>

○	発電設備工事

○	通信・情報設備工事

○	映像・音響設備工事

○	構内配電線路設備 構内通信線路設備

○	環境配慮改修工事

●	機器取り付け高さ

項　　目	特　　記　　事　　項

▶ 1. 機器の取付高さは図示のほか下記を標準とする。

【一般建物／公営住宅】

	名　　称	測　　定	取 付 高 （mm）
共電通力	取引用計器	地上～窓中心	１，８００～２，０００
	引込開閉器	床上～中心	１，８００
電灯	分電盤	床上～中心	１，５００（上端１，９００以下）
	スイッチ	〃	１，１５０
	スイッチ（公住）※	〃	１，１００
	コンセント（一般）	〃	４００ （帯広市独自で改定）
	〃　（和室）	〃	２００
	〃　（台上）	台上～中心	１５０
	〃　（土間）	床上～中心	６００～１，３００（帯広市独自で改定）
	コンセント（公住）※	〃	４００
	〃（冷蔵庫用）（公住）※	床上～中心	１，８００
	〃（給湯器・洗面台用）（公住）※	〃	１，３００
	ブラケット（一般）	〃	２，１００～２，５００
	〃　（踊場）	〃	２，５００
	〃　（鏡上）	鏡上端～中心	１５０
動力	壁掛形制御盤	床上～中心	１，５００（上端１，９００以下）
	開閉器箱	〃	１，５００
	操作スイッチ	〃	１，３００
	操作スイッチ（公住）※	〃	１，１００
電話	端子盤	床上～下端	３００ （帯広市独自で改定）
	保安器箱	床上～中心	１，５００（上端１，９００以下）
	壁付位置ボックス	〃	４００ （帯広市独自で改定）
	〃　（和室）	〃	２００
	壁付位置ボックス（公住）※	〃	４００
	壁付インターホン	〃	１，１５０
	壁付位置ボックス	〃	１，１５０
	〃　（和室）	〃	２００
	壁付インターホン（公住）※	〃	１，１００
	壁付位置ボックス（公住）※	〃	１，１００
時計拡声	壁掛形親時計	床上～中心	１，５００（上端１，９００以下）
	子時計	〃	２，３００
	壁掛形スピーカ	〃	２，３００
	アッテネーター	〃	１，１５０

表示	表示盤	床上～中心	２，３００
	表示盤（公住）※	〃	１，３００
	壁付発信器	〃	１，１５０
	壁付発信器（公住）※	〃	１，１００
	ベル･ブザー･チャイム	〃	２，３００
	壁付ボタン		１，１５０
	多目的便所呼出ボタン	〃	４００・８５０　（帯広市独自で改定）
共同受信テレビ	分配器箱	床上～上端	１，５００（上端１，９００以下）
	テレビアウトレット	床上～中心	４００　（帯広市独自で改定）
	〃　（和室）	〃	２００
	テレビアウトレット（公住）※	〃	４００
	収容箱	床上～上端	１，５００（上端１，９００以下）
火災報知	受信機・副受信機	床上～中心	１，３００（帯広市独自で改定）
	受信機（公住）※	床上～操作盤	８００～１，５００
	総合盤	〃	１，３００
	発信機	〃	１，３００
	電鈴	〃	２，３００
	表示灯	〃	２，１００（帯広市独自で改定）

なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事

実 施 設 計 図

（　建築・建築機械・建築電気　）

令和6年度

十勝中部広域水道企業団

株式会社日水コン

十 勝 中 部 広 域 水 道 用 水 供 給 事 業

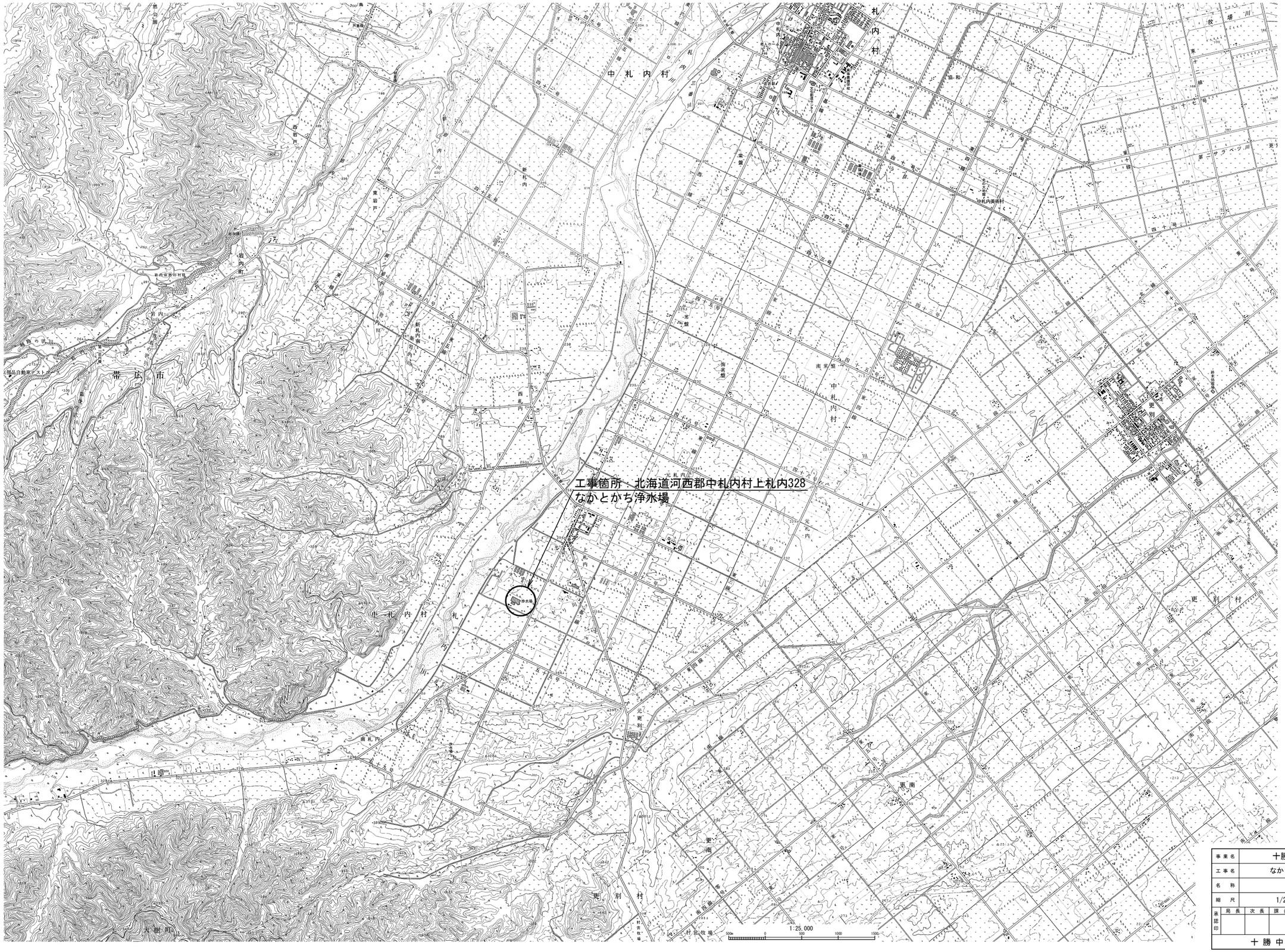
なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事

意匠図

図 番	図 面 名 称	縮 尺	図 番	図 面 名 称	縮 尺
-	共通事項特記仕様書	NONE	A-34	K1-E、K1-10(1)(改修前)	1/50
-	建築改修特記仕様書	NONE	A-35	K1-E、K1-10(2)(改修後)	1/50
1	位置図	1/25,000	A-36	K1-E、K1-10(3)(改修前・後)	1/50
2	浄水場 一般平面図	1/1,000	A-37	K2-A(1)(改修前)	1/50
A-1	Ｂ１階平面図(改修前)	1/100	A-38	K2-A(2)(改修後)	1/50
A-2	Ｂ１階平面図(改修後)	1/100	A-39	K2-B、K2-D、K2-3(1)(改修前)	1/50
A-3	１階平面図(改修前)	1/100	A-40	K2-B、K2-D、K2-3(2)(改修後)	1/50
A-4	１階平面図(改修後)	1/100	A-41	K2-B、K2-D、K2-3(3)(改修前・後)	1/50
A-5	２階平面図(改修前)	1/100	A-42	K2-F、K2-H、K2-1、K2-2、K2-4、K2-5(1)(改修前)	1/50
A-6	２階平面図(改修後)	1/100	A-43	K2-F、K2-H、K2-1、K2-2、K2-4、K2-5(2)(改修後)	1/50
A-7	ＰＨ・Ｒ階平面図(改修前)	1/100	A-44	K3-A、K3-B(1)(改修前)	1/50
A-8	ＰＨ・Ｒ階平面図(改修後)	1/100	A-45	K3-A、K3-B(2)(改修後)	1/50
A-9	立面図(1) (改修前)	1/100	A-46	K1-9、K2-C、-E、-G、-I、-K、-6(1)(改修後)	1/50
A-10	立面図(1) (改修後)	1/100	A-47	K1-9、K2-C、-E、-G、-I、-K、-6(2)(改修後)	1/50
A-11	立面図(2) (改修前)	1/100	A-48	雑詳細図(1)	1/5
A-12	立面図(2) (改修後)	1/100	A-49	雑詳細図(2)	1/5、1/20
A-13	断面図(1) (改修前)	1/100	A-50	雑詳細図(3)	1/5、1/20
A-14	断面図(1) (改修後)	1/100	A-51	雑詳細図(4)	1/10、1/20
A-15	断面図(2) (改修前)	1/100	A-52	雑詳細図(5)	1/5、1/10
A-16	断面図(2) (改修後)	1/100	A-53	雑詳細図(6)	1/20、1/30
A-17	一般共通事項	1/5、1/10	A-54	１階天井伏図(改修後)	1/100
A-18	KB1-A(改修前・後)	1/50	A-55	２階天井伏図(改修後)	1/100
A-19	KB1-B(改修前・後)	1/50	A-56	建具表(1)	1/50
A-20	K1-A、K1-1、K1-5(1)(改修前)	1/50	A-57	建具表(2)	1/50
A-21	K1-A、K1-1、K1-5(2)(改修後)	1/50	A-58	工区案１　Ｂ１階仮設間仕切（参考図）	1/100
A-22	K1-B、K1-2(1)(改修前)	1/50	A-59	工区案１　１階仮設間仕切（参考図）	1/100
A-23	K1-B、K1-2(2)(改修後)	1/50	A-60	工区案１　２階仮設間仕切（参考図）	1/100
A-24	K1-B、K1-2(3)(改修前・後)	1/50	A-61	工区案２　１階仮設間仕切（参考図）	1/100
A-25	K1-C、K1-D、K1-6(1)(改修前)	1/50	A-62	工区案２　２階仮設間仕切（参考図）	1/100
A-26	K1-C、K1-D、K1-6(2)(改修後)	1/50	A-63	工区案３　１階仮設間仕切（参考図）	1/100
A-27	K1-C、K1-D、K1-6(3)(改修前・後)	1/50	A-64	工区案３　２階仮設間仕切（参考図）	1/100
A-28	K1-F、K1-7(1)(改修前)	1/50	A-65	工区案３　ＰＨ階仮設間仕切（参考図）	1/100
A-29	K1-F、K1-7(2)(改修後)	1/50	A-66	Ｂ１階平面図(改修後)法チェック図	1/100
A-30	K1-3、K1-4、K1-8(1)(改修前)	1/50	A-67	１階平面図(改修後)法チェック図	1/100
A-31	K1-3、K1-4、K1-8(2)(改修後)	1/50	A-68	２階平面図(改修後)法チェック図	1/100
A-32	K1-G(1)(改修前)	1/50	A-69	ＰＨ階平面図(改修後)法チェック図	1/100
A-33	K1-G(2)(改修後)	1/50			

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団

位　置　図　（出典：国土地理院）



事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名　称	位　置　図							
縮　尺	1/25,000						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図　番	1
十勝中部広域水道企業団								

N

工事範囲　：管理棟

構造・規模：RC造　地下１階 地上２階　ＰＨ階、延床面積:3,229.315㎡

各階床面積

PH階：　252.662㎡

2階　：1,313.130㎡

1階　：1,381.619㎡

B1階：　281.904㎡

K-1 K-2 K-3 K-4 K-5 K-6 K-7 K-8 K-9 K-10 K-12 K-13 K-14 K-15 K-16 K-17 K-19 K-22

池 棟（２系）

池 棟 （１系）

管理本館

浄水池

池 棟
（３系）
（将来）

排水排泥池

天日乾燥ろ床

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18)

薬品注入棟

緊急備蓄材庫

管理住宅

工事現場事務所・駐車場 位置

水の資料館

公衆トイレ

54号

街灯

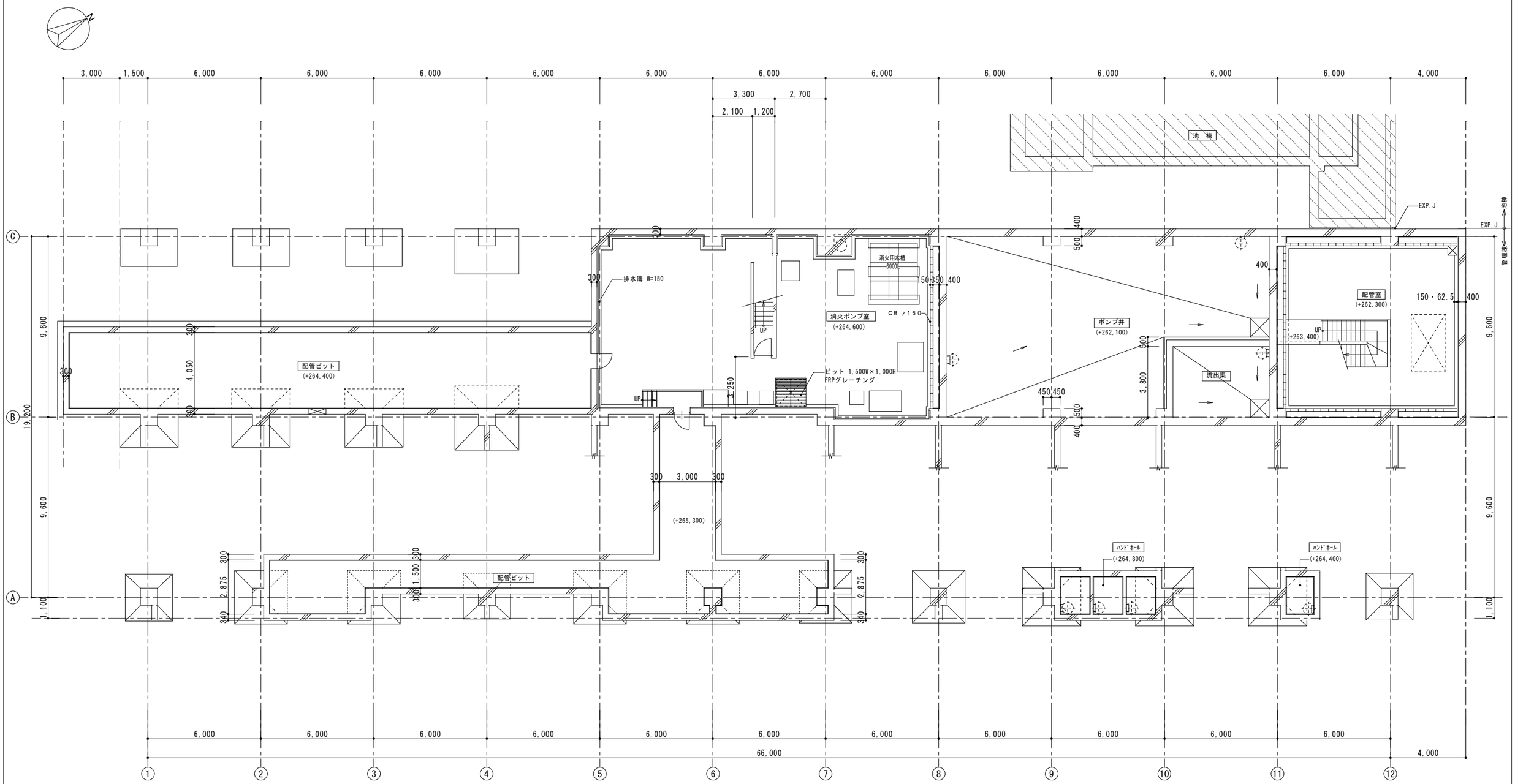
揚水井
No.1

揚水井
No.2

揚水井
No.3

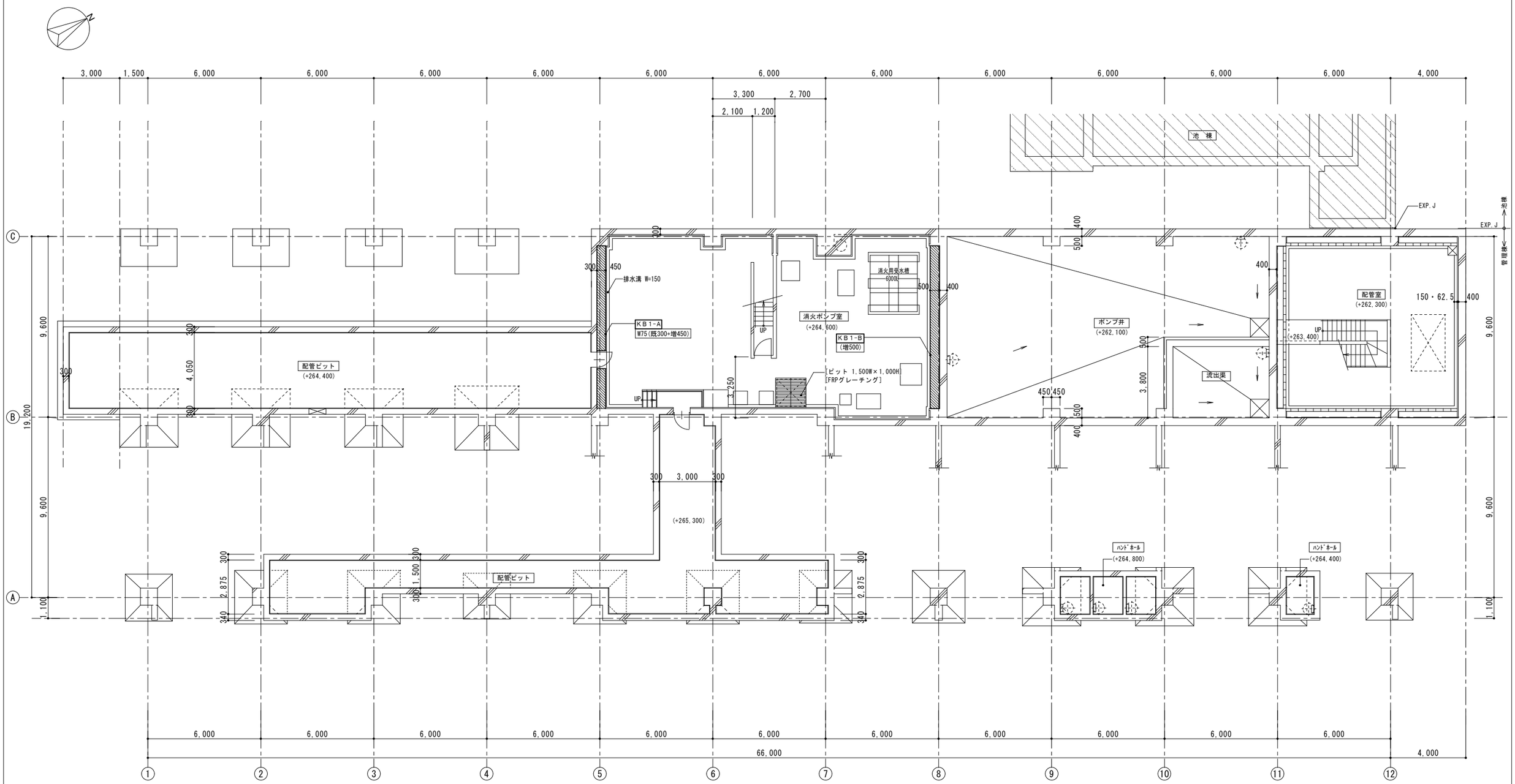
変電設備
屋外高圧キュービクル

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業								
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事								
名称	浄水場 一般平面図								
縮尺	1/1,000						製作年月日		
承認印	局長		次長		課長		係長	係	設計番号	
									図番	2
十勝中部広域水道企業団									



B階平面図（改修前）

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	B１階平面図（改修前）							
縮尺	A1:1/100						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	A-1
十勝中部広域水道企業団								



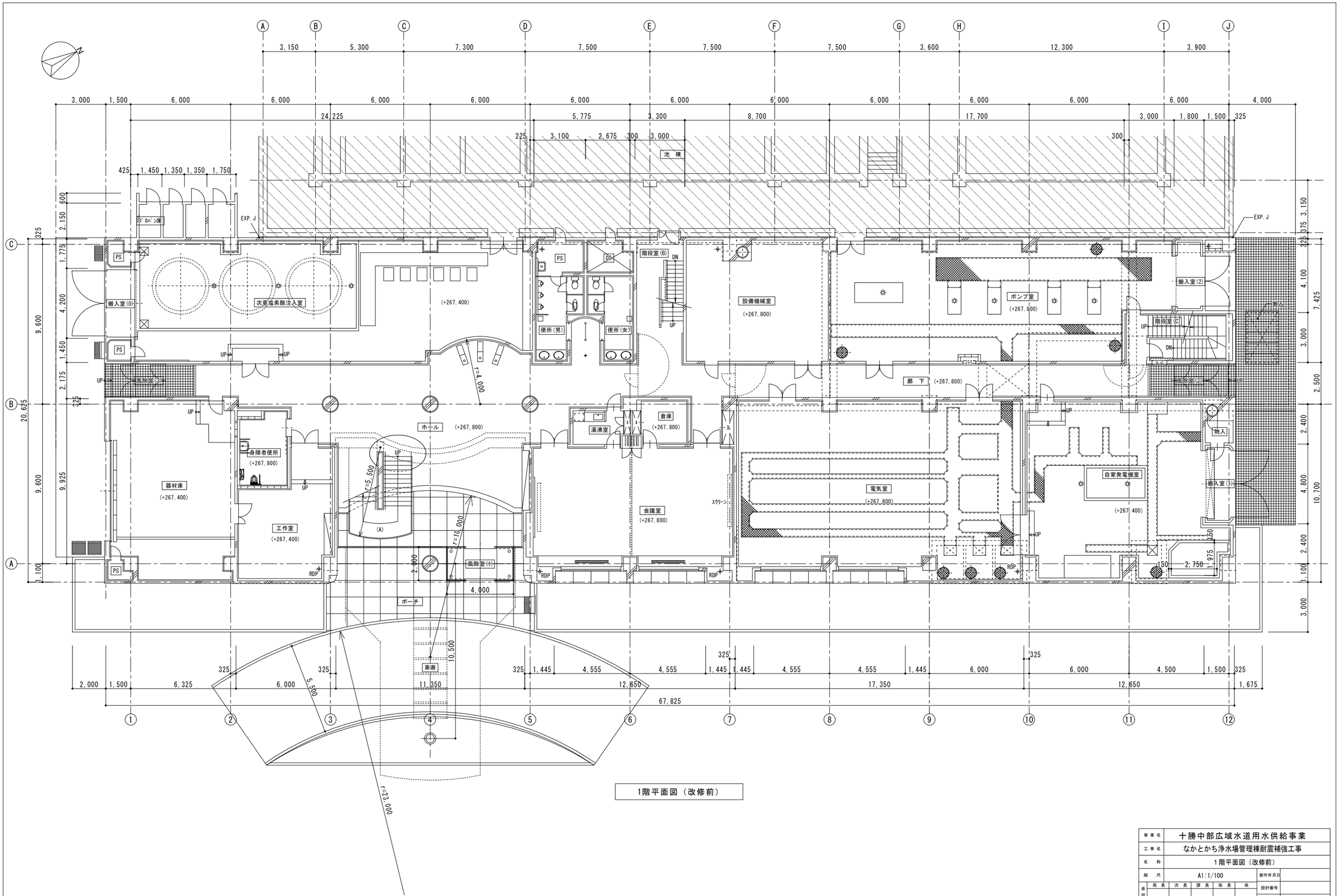
B階平面図（改修後）

凡 例

- [　　]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
- K＊－＊ は耐震改修部位符号を示す。
- W75(既300+増450) 既存RC壁 ァ300＋増打RC壁 ァ450＝総厚750mmを示す
- 新W40 新設RC壁W40＝400mmを示す。
- 躯体補強部位を示す。
- ※/※ 新設建具を示す。

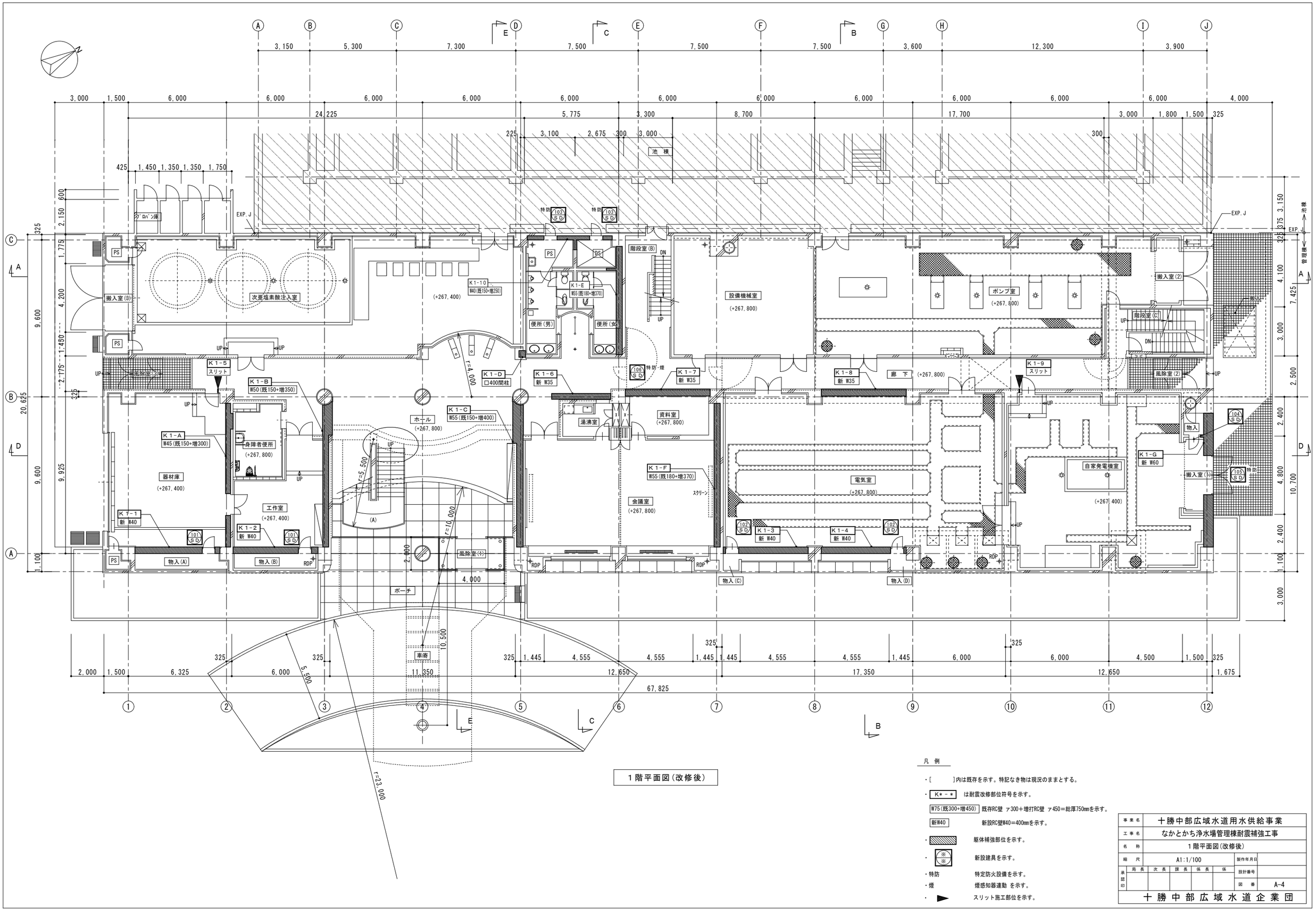
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	B１階平面図(改修後)						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-2

十勝中部広域水道企業団



1階平面図（改修前）

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	1階平面図（改修前）							
縮尺	A1:1/100						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	A-3
十勝中部広域水道企業団								



1階平面図(改修後)

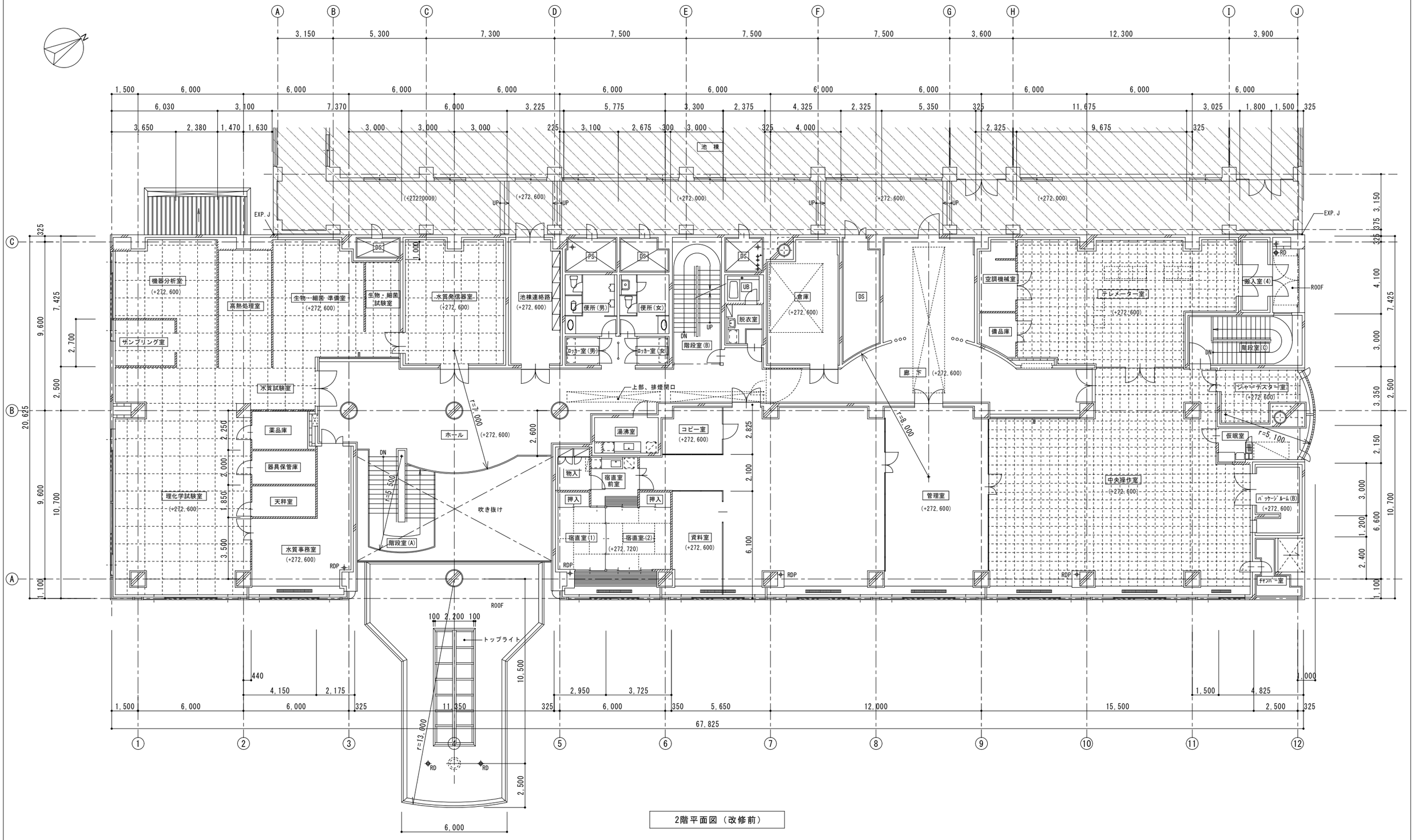
凡 例

- [ ]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
- K＊－＊ は耐震改修部位符号を示す。
- W75(既300+増450) 既存RC壁 ァ300＋増打RC壁 ァ450＝総厚750mmを示す。
- 新W40 新設RC壁W40＝400mmを示す。
- 躯体補強部位を示す。
- ※ 新設建具を示す。
- 特防 特定防火設備を示す。
- 煙 煙感知器連動 を示す。
- スリット施工部位を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	1階平面図(改修後)
縮尺	A1:1/100
製作年月日	
設計番号	
図番	A-4

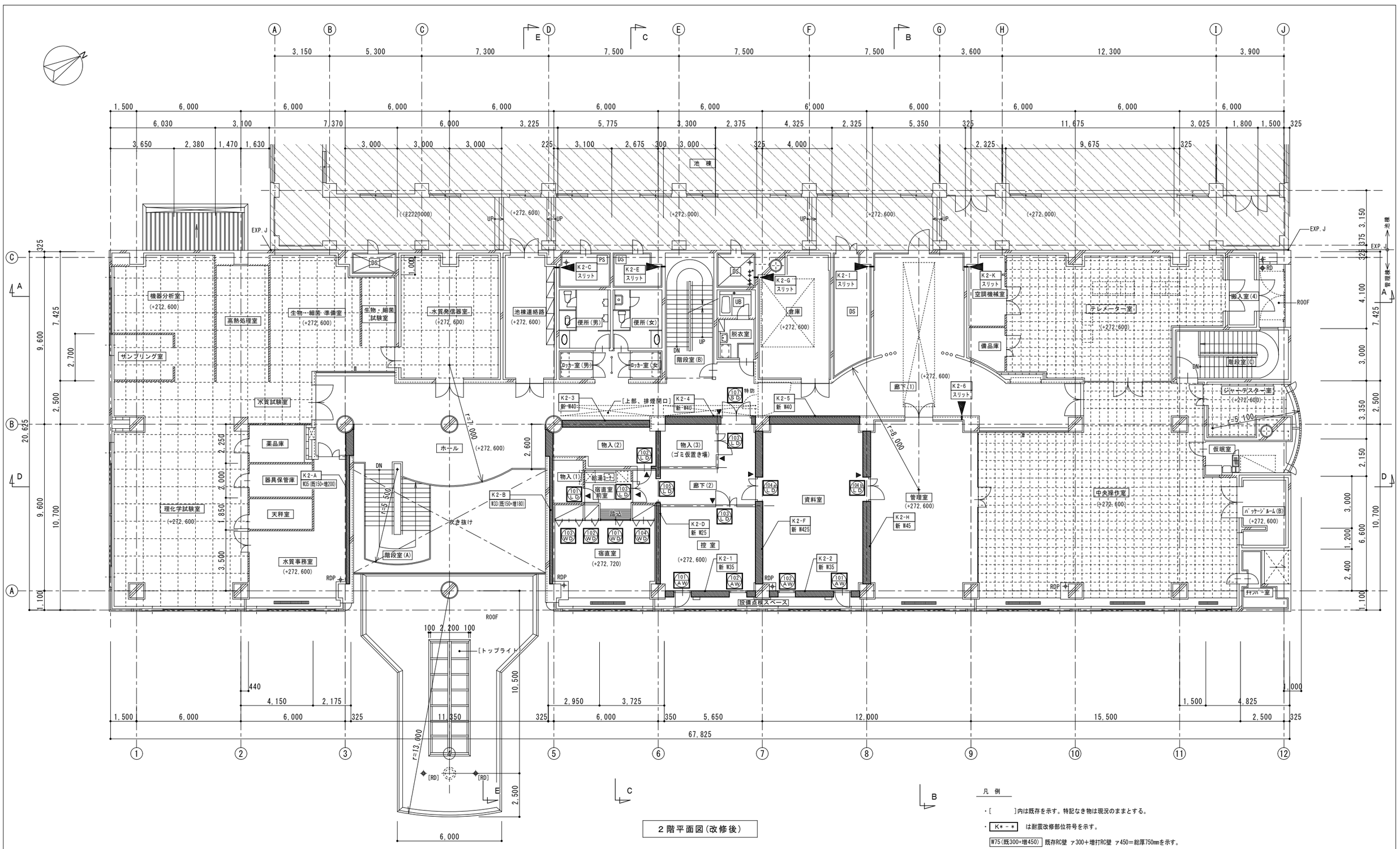
承認印	局長	次長	課長	係長	係

十勝中部広域水道企業団



2階平面図（改修前）

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	2階平面図（改修前）							
縮尺	A1:1/100						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	A-5
十勝中部広域水道企業団								



2階平面図(改修後)

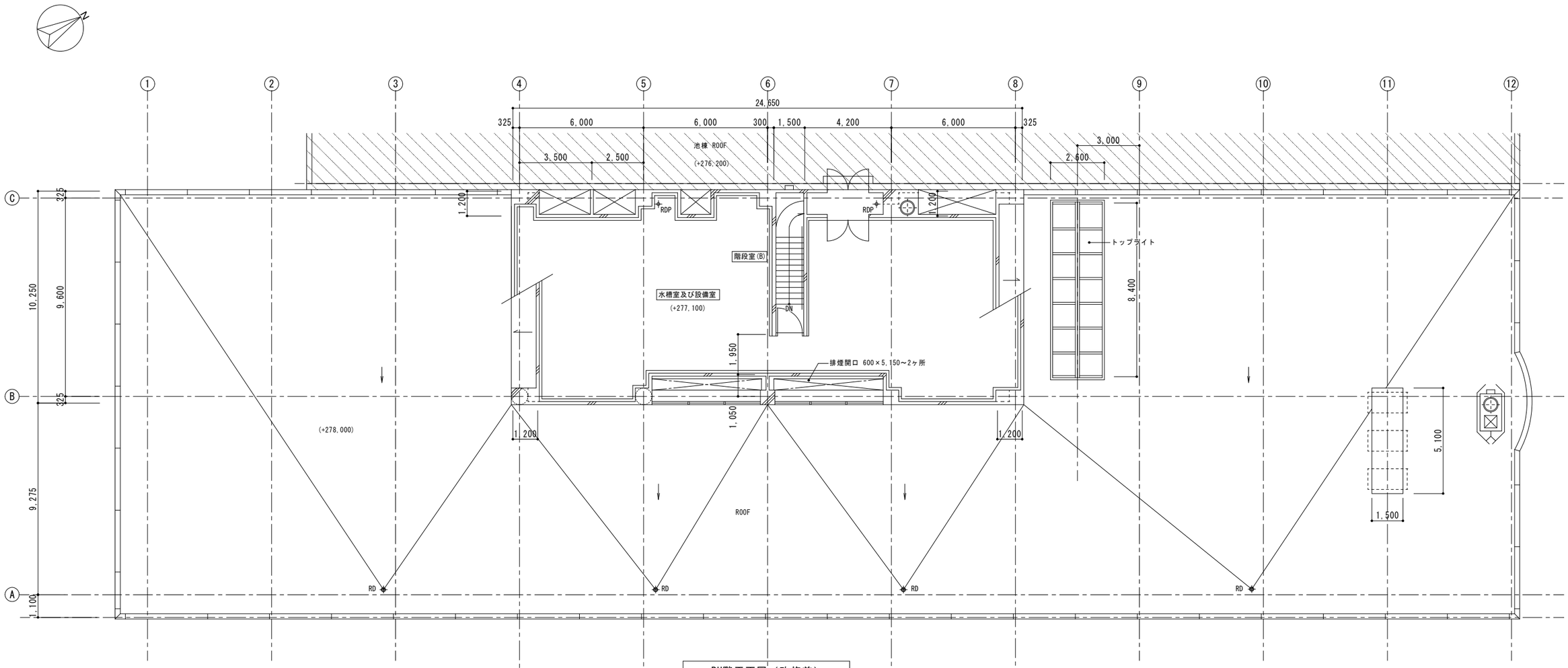
凡 例

- [ ] 内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
- K＊－＊ は耐震改修部位符号を示す。
- W75(既300+増450) 既存RC壁 ァ300＋増打RC壁 ァ450＝総厚750mmを示す。
- 新W40 新設RC壁W40＝400mmを示す。
- 躯体補強部位を示す。
- ※ 新設建具を示す。
- 特防 特定防火設備を示す。
- 煙 煙感知器連動 を示す。
- スリット施工部位を示す。
- 室名札(ステンレス製)

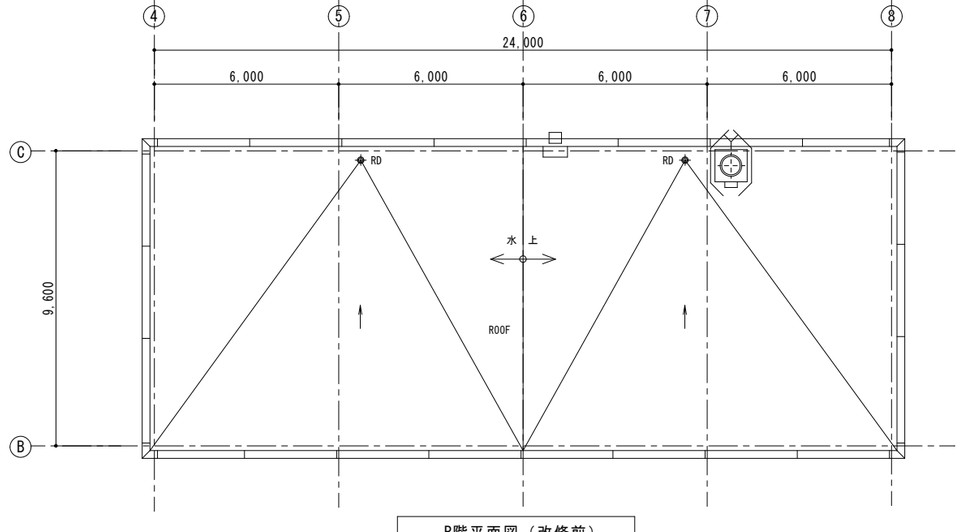
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	2階平面図(改修後)
縮尺	A1:1/100
製作年月日	
設計番号	
図番	A-6

承認印: 局長 / 次長 / 課長 / 係長 / 係

十勝中部広域水道企業団

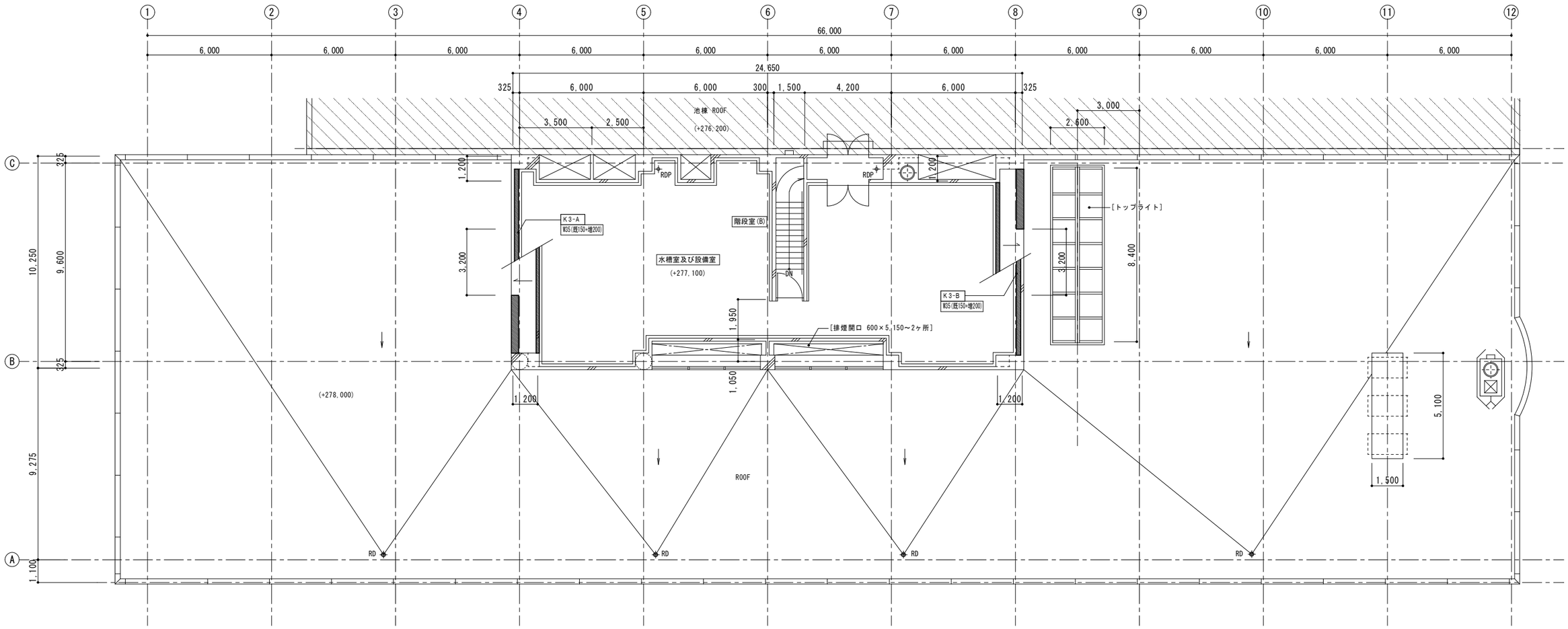


PH階平面図（改修前）

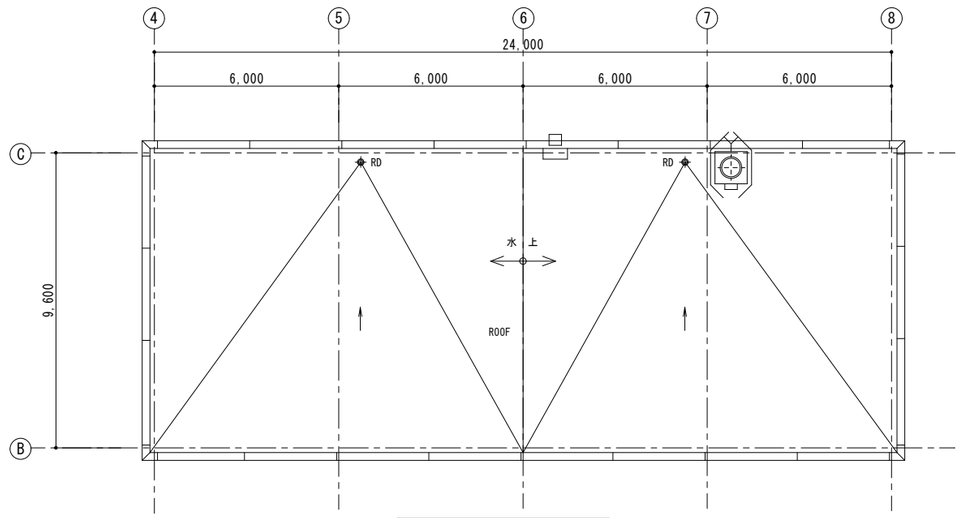


R階平面図（改修前）

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	PH階・R階平面図（改修前）						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-7
十勝中部広域水道企業団							



ＰＨ階平面図(改修後)



Ｒ階平面図(改修後)

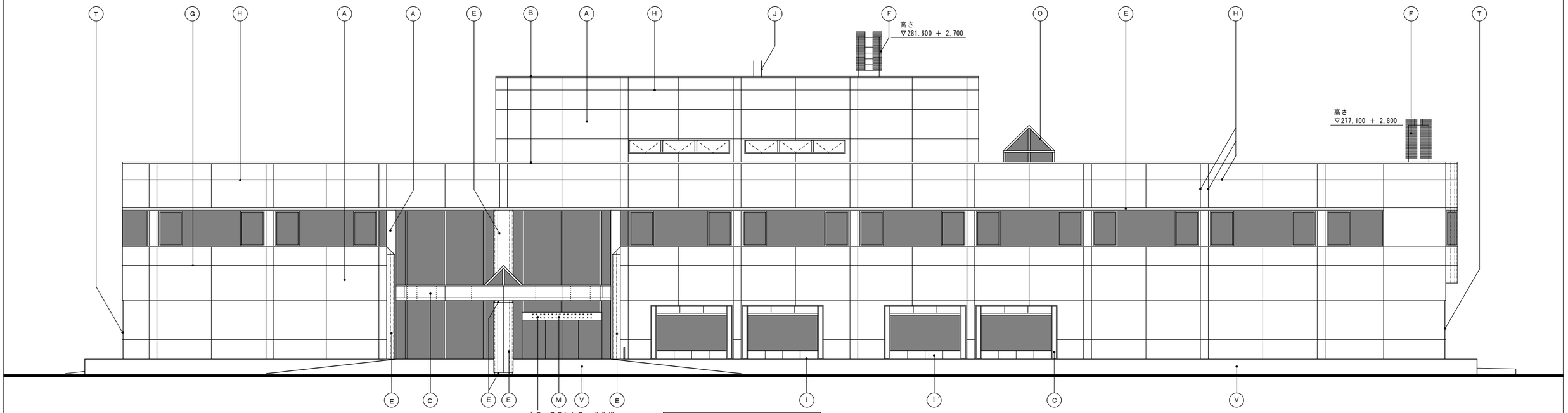
凡 例

- [　　]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
- K＊－＊ は耐震改修部位符号を示す。
- W75(既300+増450) 既存RC壁 ァ300＋増打RC壁 ァ450＝総厚750mmを示す
- 新W40 新設RC壁W40＝400mmを示す。
- 躯体補強部位を示す。
- ※ 新設建具を示す。

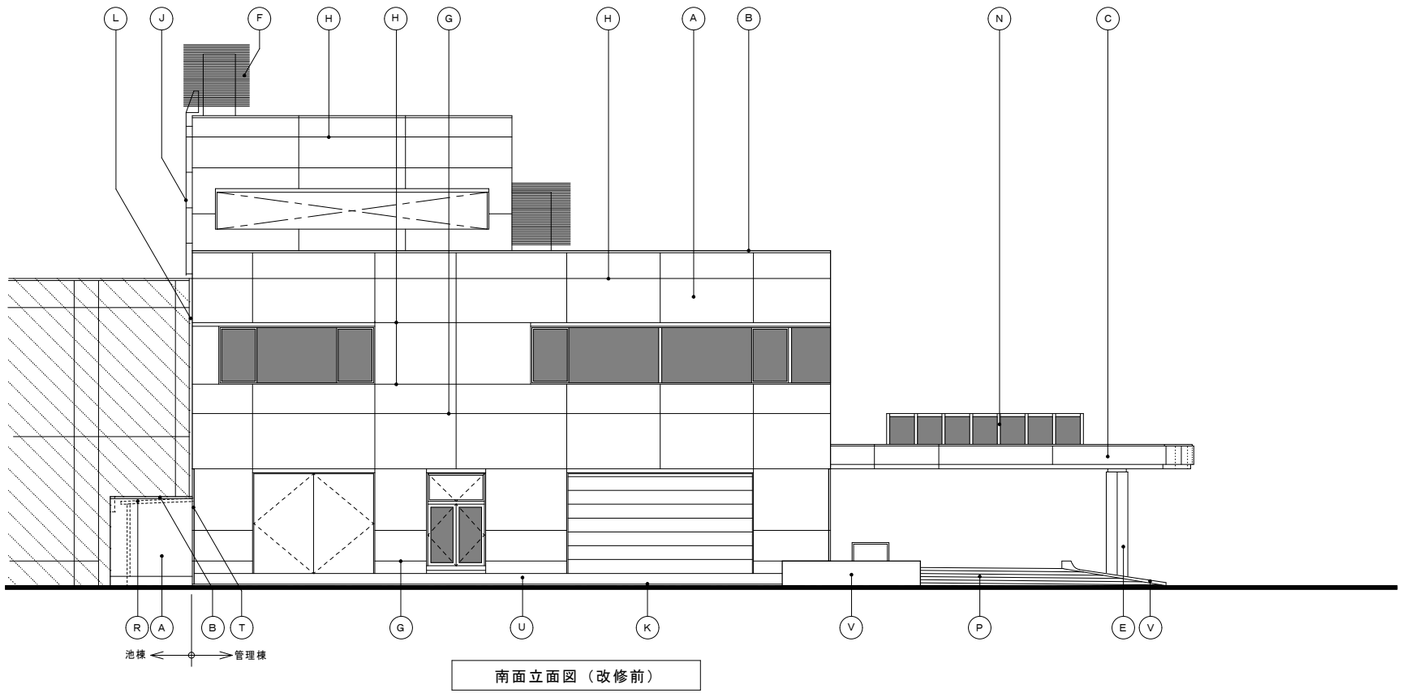
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	ＰＨ・Ｒ階平面図(改修後)						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-8

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団

A	コンクリート打放し(打増 ァ40) 目地切仕上 弾性吹付けタイル～トップコート仕上	B	笠木：アルミ製押出型材 二次電解着色	C	アルミ ァ2.0 折り曲げ加工(二次電解着色)			D		E	ステンレスカラー ＨＬ	F	アルミ既製押出型材 二次電解着色
G	打継目地：40×30 二成分系変性シリコンシーリング 充填 10×10	H	化粧目地： 30×30 タテ・ヨコ共通	I	花崗岩本磨き ァ25	I'	花崗岩本磨き ァ20	J	ステンレスタラップ：W400(φ34,φ22) ＨＬ サイドポール付	K	L-40×40×3 打込 SUS304 ＨＬ	L	エキスパンション ジョイントカバー（アルミ既製）
M	館名文字：ステンレス切抜文字 カラー ＨＬ仕上	N	アルミ型材トップライト：二次電解着色仕上（PW ァ6.8ガラス）	O	排煙トップライト(断熱仕様)：アルミ型材 二次電解着色仕上			P	磁器質タイル貼 150□	Q	磁器質ノンスリップタイル貼 150□	R	丸馳折版Ｉ型 フッ素樹脂鋼板 ァ0.8
T	出隅 ：化粧面木 60×60	U	コンクリート金コテ(A種)	V	コンクリート打放し 石調デザイン塗装吹付								



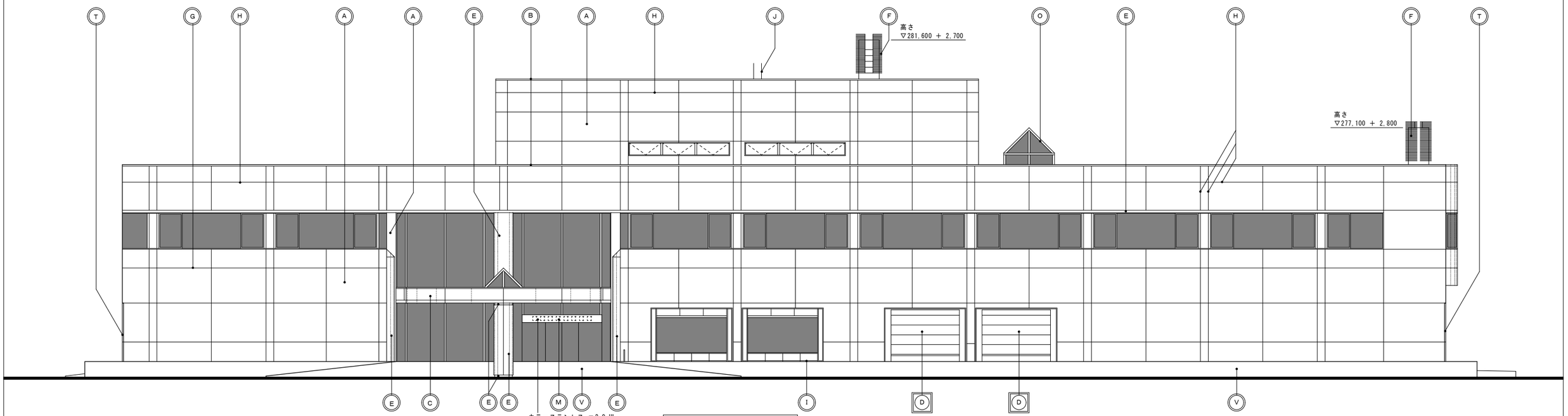
東面立面図（改修前）



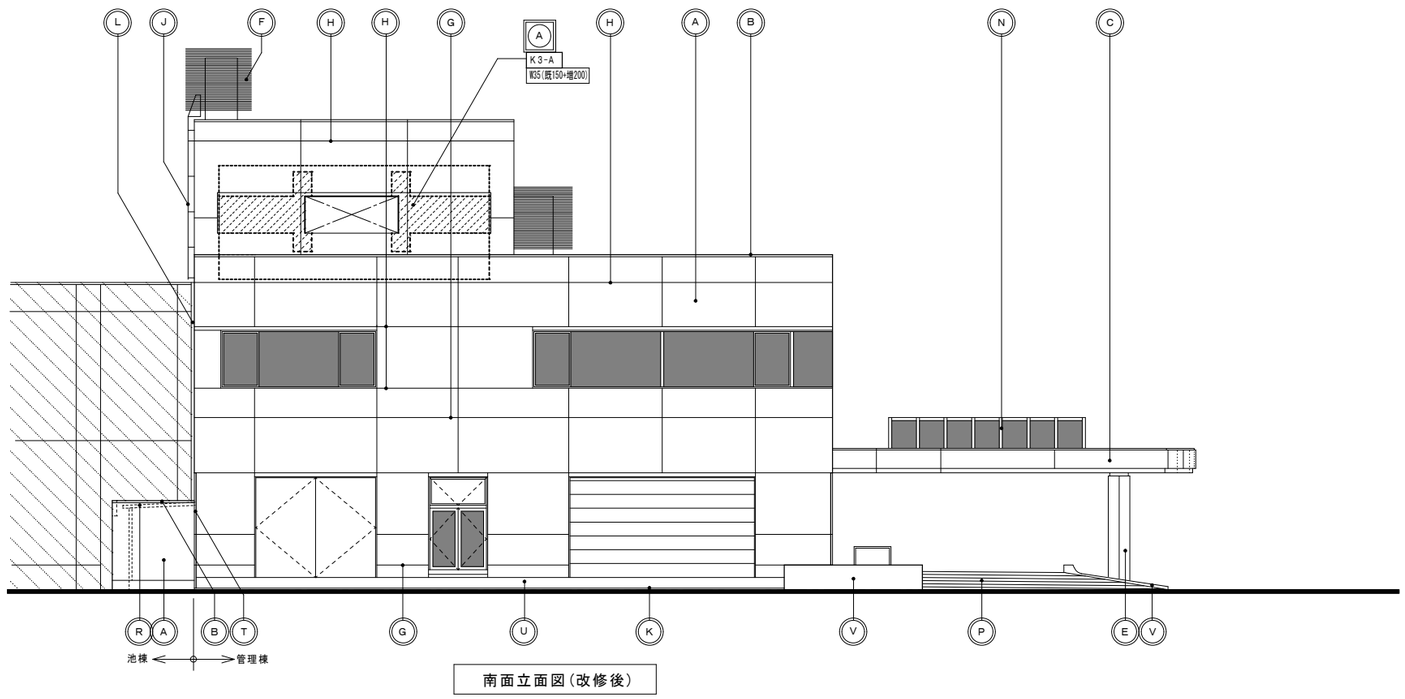
南面立面図（改修前）

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	立面図(1)（改修前）						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-9
十勝中部広域水道企業団							

A	コンクリート打放し(打増 ァ40) 目地切仕上 弾性吹付けタイル～トップコート仕上	B	笠木：アルミ製押出型材 二次電解着色	C	アルミ ァ2.0 折り曲げ加工(二次電解着色)			D	ECP ァ60横張の上 ＤＰ塗 (B-1種：ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ樹脂塗装)、ｱﾙﾐ製四方枠付	E	ステンレスカラー ＨＬ	F	アルミ既製押出型材 二次電解着色
G	打継目地：40×30 二成分系変性シリコンシーリング 充填 10×10	H	化粧目地： 30×30 タテ・ヨコ共通	I	花崗岩本磨き ァ25	I'	花崗岩本磨き ァ20	J	ステンレスタラップ：W400(φ34, φ22) ＨＬ サイドポール付	K	L-40×40×3 打込 SUS304 ＨＬ	L	エキスパンション ジョイントカバー（アルミ既製）
M	館名文字：ステンレス切抜文字 カラー ＨＬ仕上	N	アルミ型材トップライト：二次電解着色仕上 (PW ァ6.8ガラス)	O	排煙トップライト(断熱仕様)：アルミ型材 二次電解着色仕上			P	磁器質タイル貼 150□	Q	磁器質ノンスリップタイル貼 150□	R	丸馳折版Ⅰ型 フッ素樹脂鋼板 ァ0.8
T	出隅 ：化粧面木 60×60	U	コンクリート金コテ(A種)	V	コンクリート打放し 石調デザイン塗装吹付								



東面立面図(改修後)



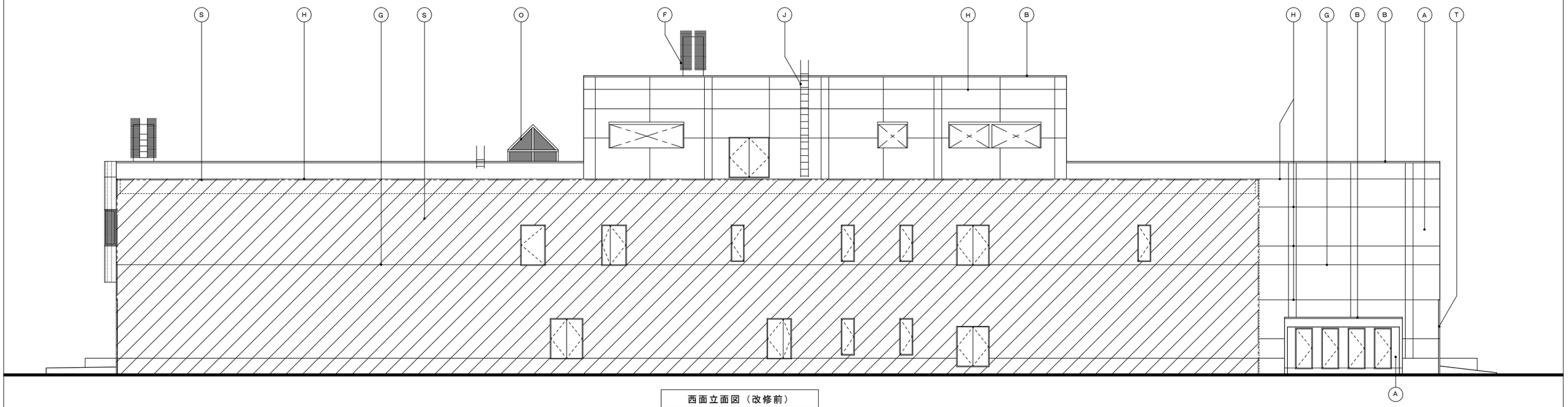
南面立面図(改修後)

凡 例

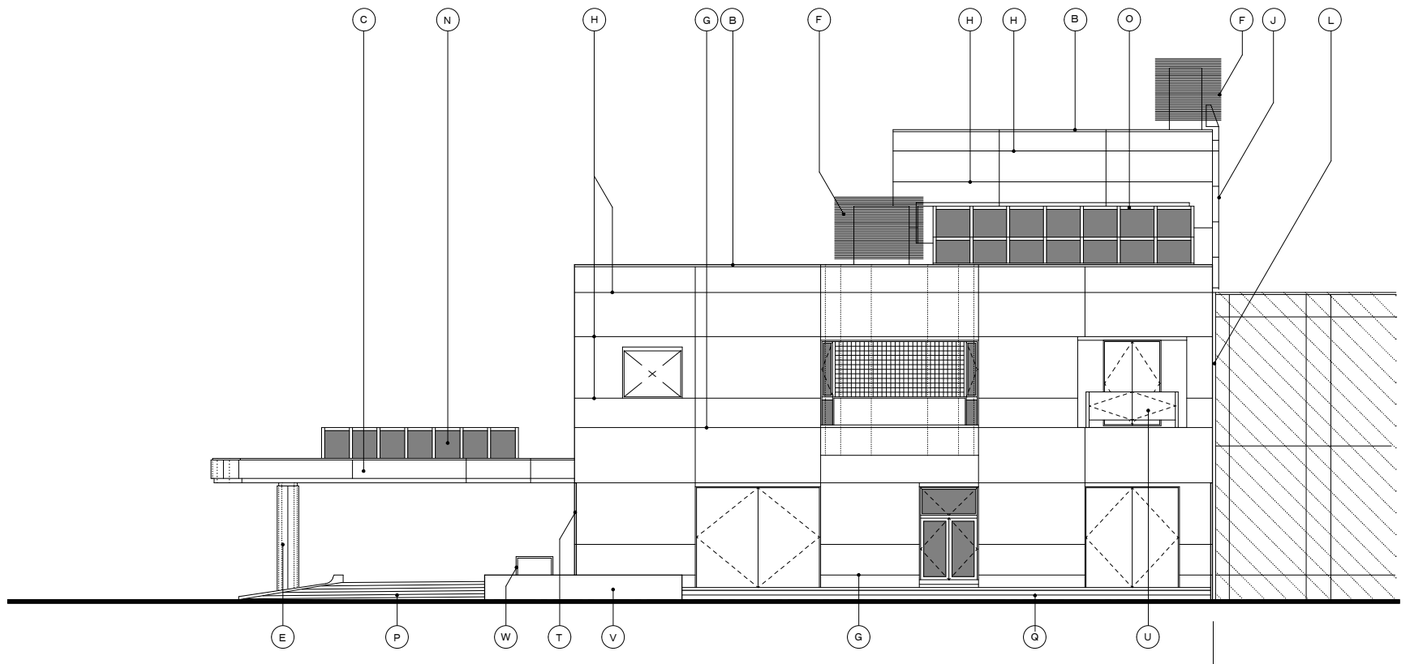
- 内符号は、特記なき限り既存仕上（現況のまま）を示す。
- 内符号は、改修仕上を示す。
- K＊－＊ は耐震改修部位符号を示す。
- 耐震壁補強範囲を示す。
- 躯体新設(外壁露出)面を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業								
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事								
名 称	立面図(1) (改修後)								
縮 尺	A1:1/100						製作年月日		
承認印	局 長	次 長	課 長	係 長	係		設計番号		
							図 番	A-10	
十勝中部広域水道企業団									

A	コンクリート打放し(打増 ァ40) 目地切仕上 弾性吹付けタイル～トップコート仕上	B	笠木：アルミ製押出型材 二次電解着色	C	アルミ ァ2.0 折り曲げ加工(二次電解着色)	D		E	ステンレスカラー ＨＬ	F	アルミ既製押出型材 二次電解着色
G	打継目地：40×30 二成分系変性シリコンシーリング 充填 10×10	H	化粧目地： 30×30 タテ・ヨコ共通	I	花崗岩本磨き ァ25	J	ステンレスタラップ：W400(φ34,φ22) ＨＬ サイドポール付	K	L-40×40×3 打込 SUS304 ＨＬ	L	エキスパンション ジョイントカバー（アルミ既製）
M	館名文字：ステンレス切抜文字 カラー ＨＬ仕上	N	アルミ型材トップライト：二次電解着色仕上 (PW ァ6.8ガラス)	O	排煙トップライト(断熱仕様)：アルミ型材 二次電解着色仕上	P	磁器質タイル貼 150□	Q	磁器質ノンスリップタイル貼 150□	R	丸馳折版Ｉ型 フッ素樹脂鋼板 ァ0.8
S	池棟に接する部分～EXP.J コンクリート打放し 目地切仕上(但し池棟壁として仕上有り)	U	PL-1.6 フラッシュドア Ｖトップ	V	コンクリート打放し 石調デザイン塗装吹付						
T	出隅 ：化粧面木 60×60	W	ステンレスパイプ：φ50 ＨＬ								



西面立面図（改修前）

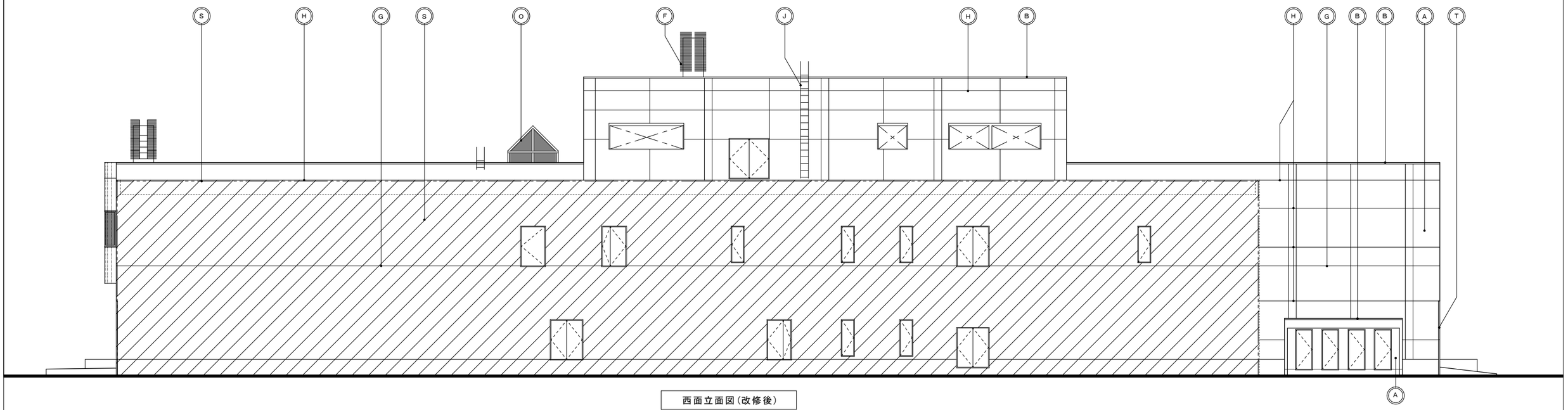


北面立面図（改修前）

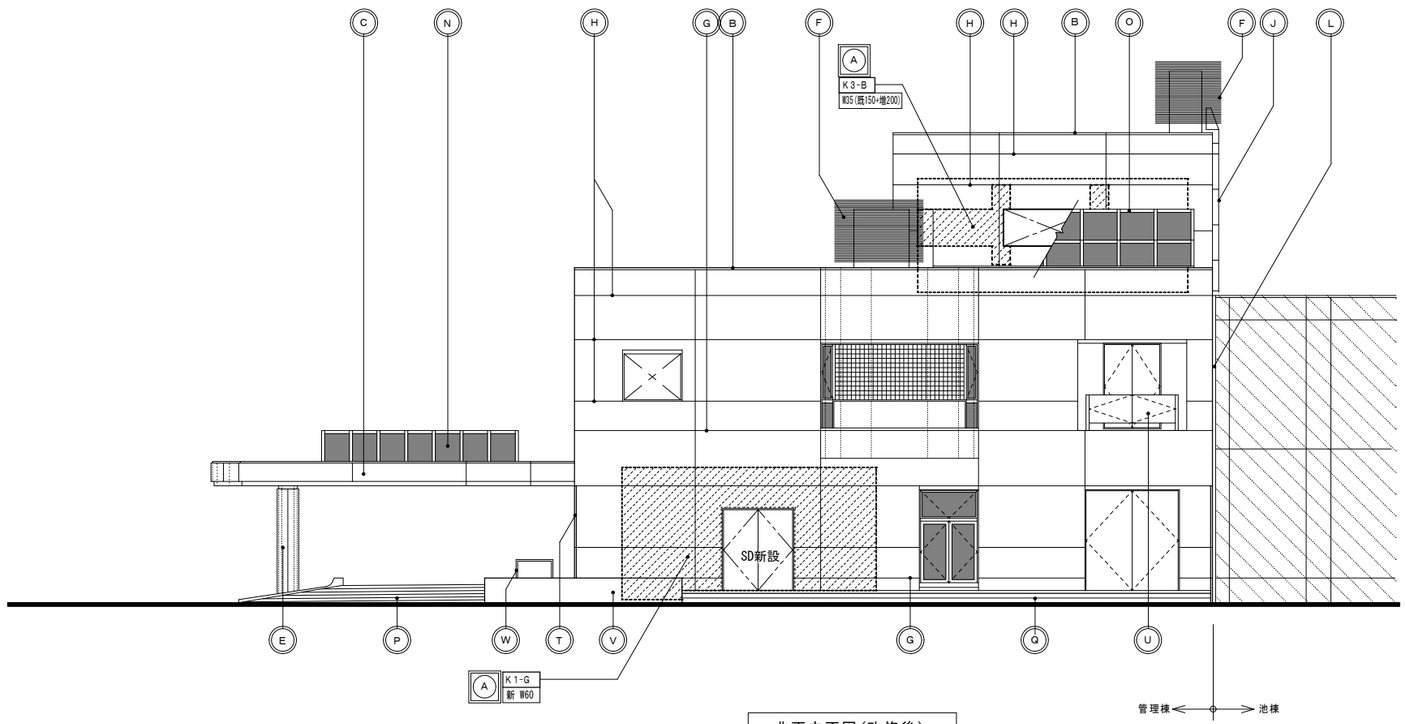
管理棟 ⟷ 池棟

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	立面図(2)（改修前）						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-11
十勝中部広域水道企業団							

A	コンクリート打放し(打増 ァ40) 目地切仕上 弾性吹付けタイル～トップコート仕上	B	笠木：アルミ製押出型材 二次電解着色	C	アルミ ァ2.0 折り曲げ加工(二次電解着色)	D		E	ステンレスカラー ＨＬ	F	アルミ既製押出型材 二次電解着色
G	打継目地：40×30 二成分系変性シリコンシーリング 充填 10×10	H	化粧目地： 30×30 タテ・ヨコ共通	I	花崗岩本磨き ァ25	J	ステンレスタラップ：W400(φ34,φ22) ＨＬ サイドポール付	K	L-40×40×3 打込 SUS304 ＨＬ	L	エキスパンション ジョイントカバー（アルミ既製）
M	館名文字：ステンレス切抜文字 カラー ＨＬ仕上	N	アルミ型材トップライト：二次電解着色仕上 (PW ァ6.8ガラス)	O	排煙トップライト(断熱仕様)：アルミ型材 二次電解着色仕上	P	磁器質タイル貼 150□	Q	磁器質ノンスリップタイル貼 150□	R	丸馳折版Ⅰ型 フッ素樹脂鋼板 ァ0.8
S	池棟に接する部分～EXP.J コンクリート打放し 目地切仕上(但し池棟壁として仕上有り)	U	PL-1.6 フラッシュドア Ｖトップ	V	コンクリート打放し 石調デザイン塗装吹付						
T	出隅 ：化粧面木 60×60	W	ステンレスパイプ：φ50 ＨＬ								



西面立面図(改修後)

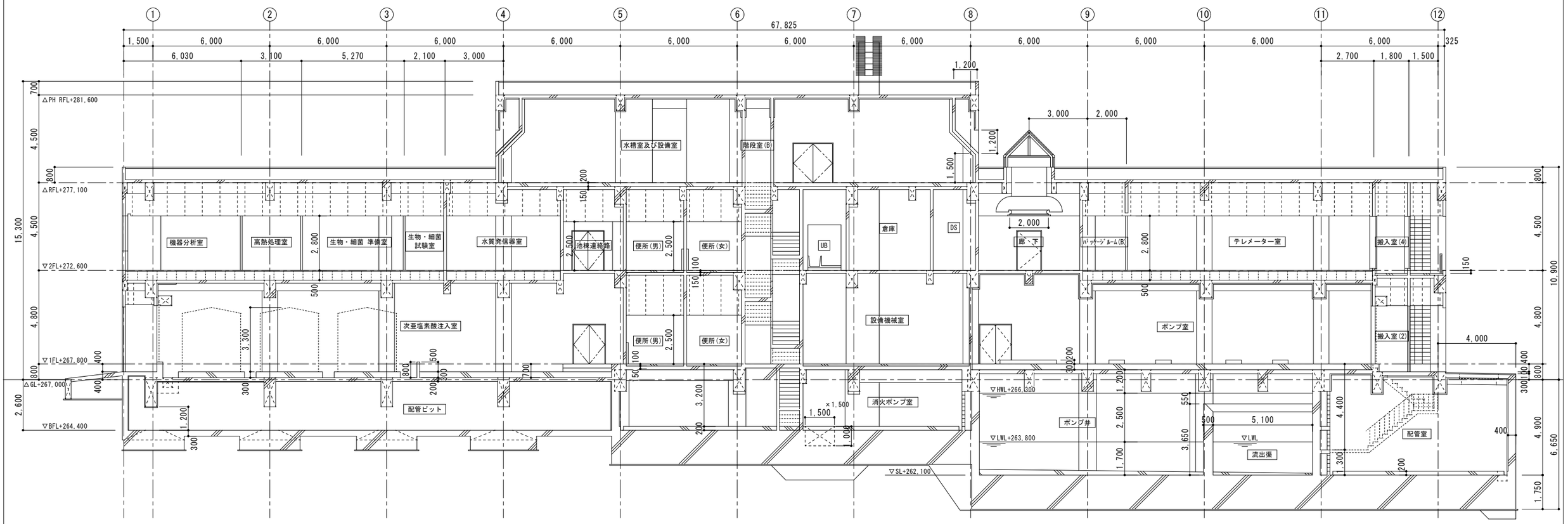


北面立面図(改修後)

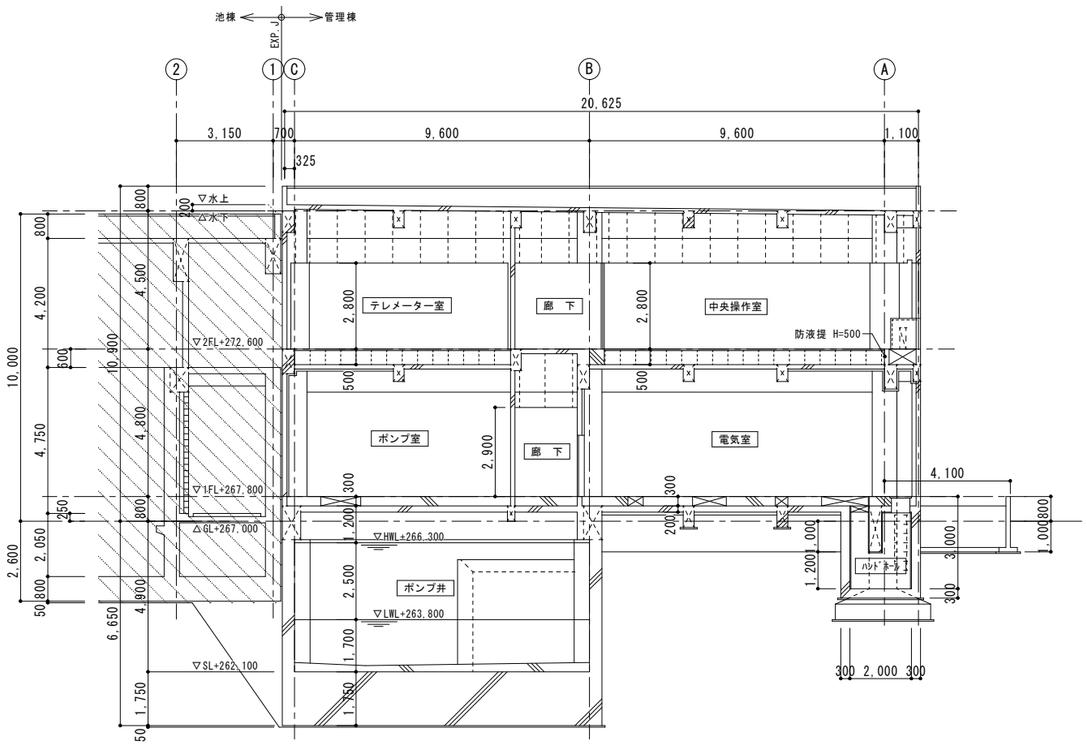
凡 例

- 内符号は、特記なき限り既存仕上（現況のまま）を示す。
- 内符号は、改修仕上を示す。
- K＊－＊ は耐震改修部位符号を示す。
- 耐震壁補強範囲を示す。
- 躯体新設(外壁露出)面を示す。

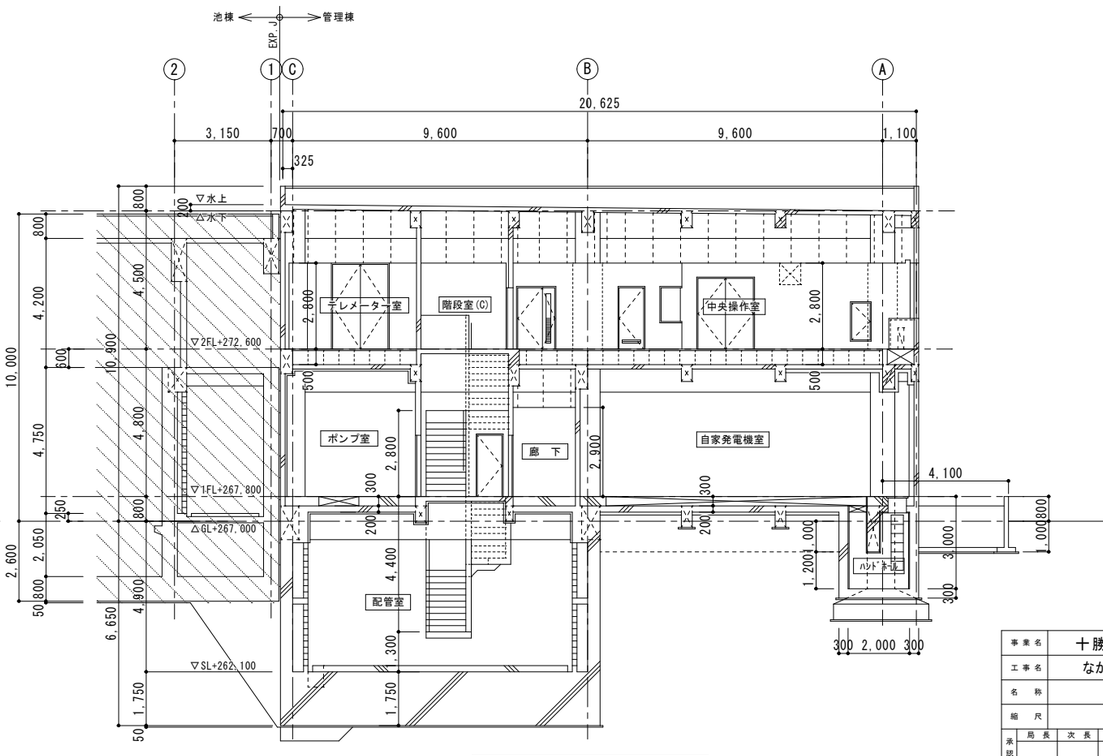
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	立面図(2) (改修後)						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-12
十勝中部広域水道企業団							



A-A断面図（改修前）

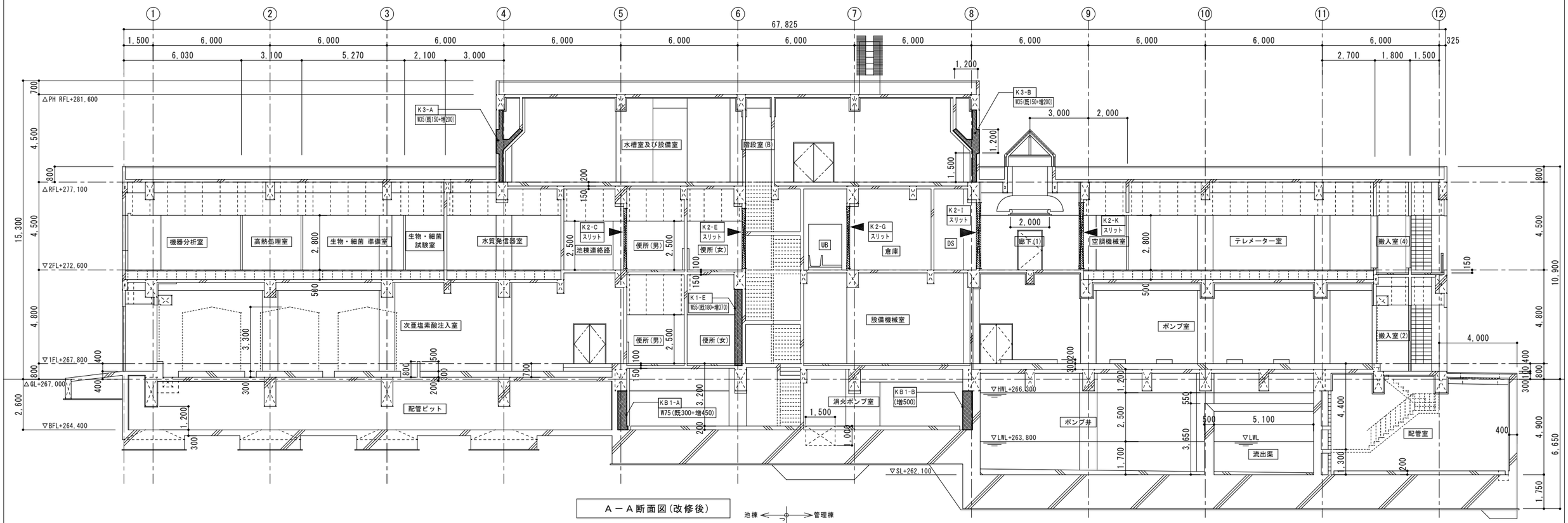


B-B断面図（改修前）

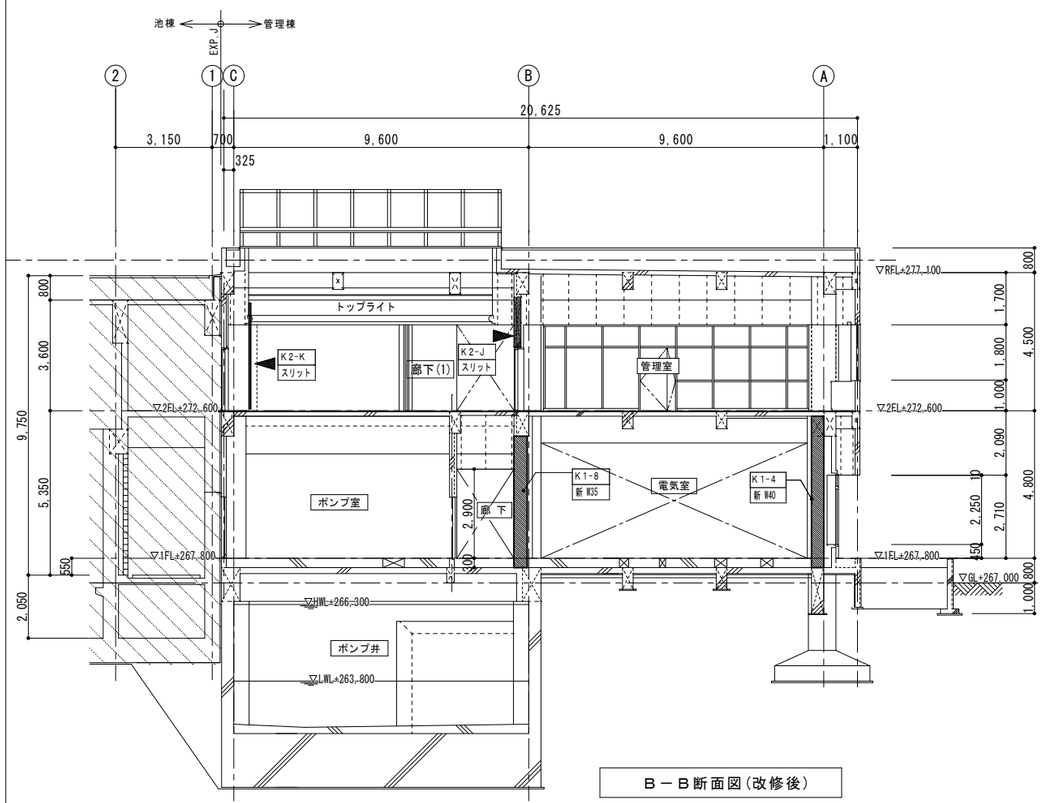


B-B断面図（改修前）

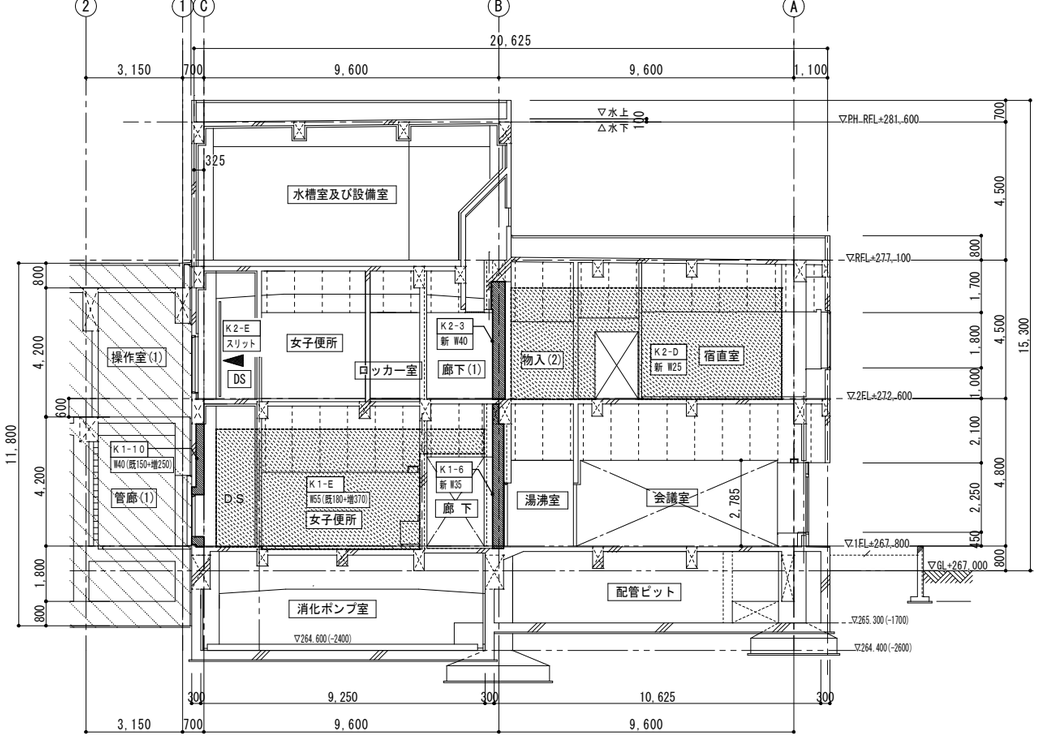
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	断面図(1)（改修前）						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-13
十勝中部広域水道企業団							



A－A断面図(改修後)



B－B断面図(改修後)



C－C断面図(改修後)

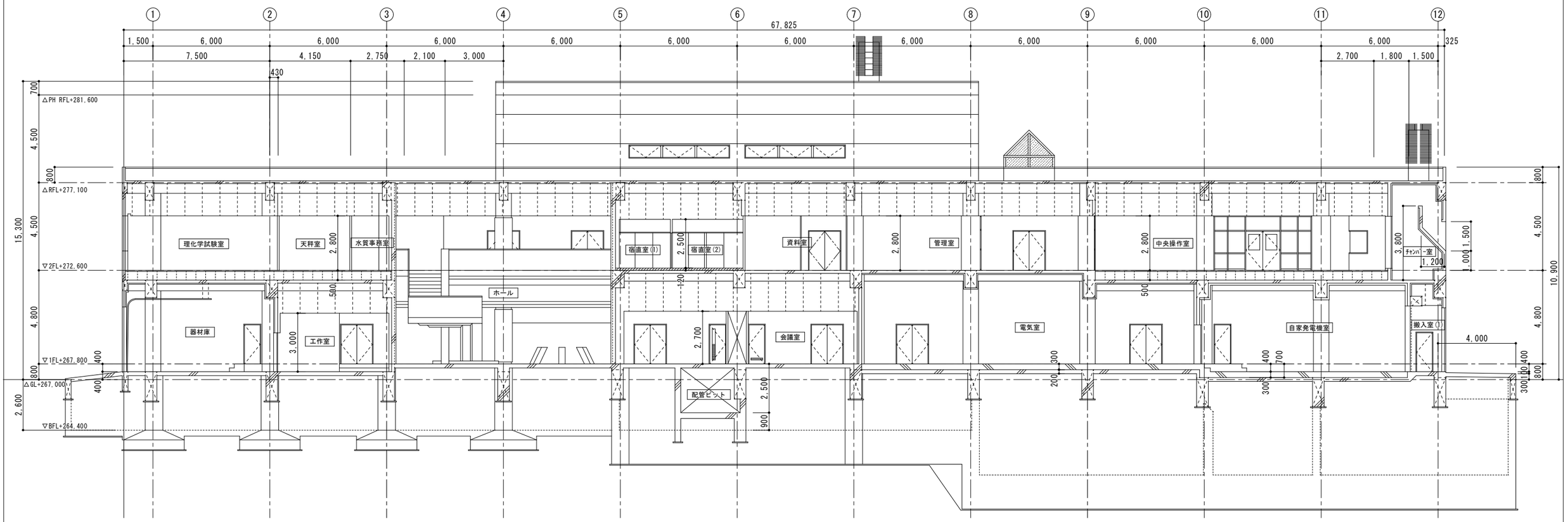
凡例

- [　　]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
- K＊－＊　は耐震改修部位符号を示す。
- W75(既300+増450)　既存RC壁 ァ300＋増打RC壁 ァ450＝総厚750mmを示す。
- 新W40　新設RC壁W40＝400mmを示す。
- 躯体補強部位断面を示す。
- 躯体補強部位正面を示す。
- スリット施工部位を示す。

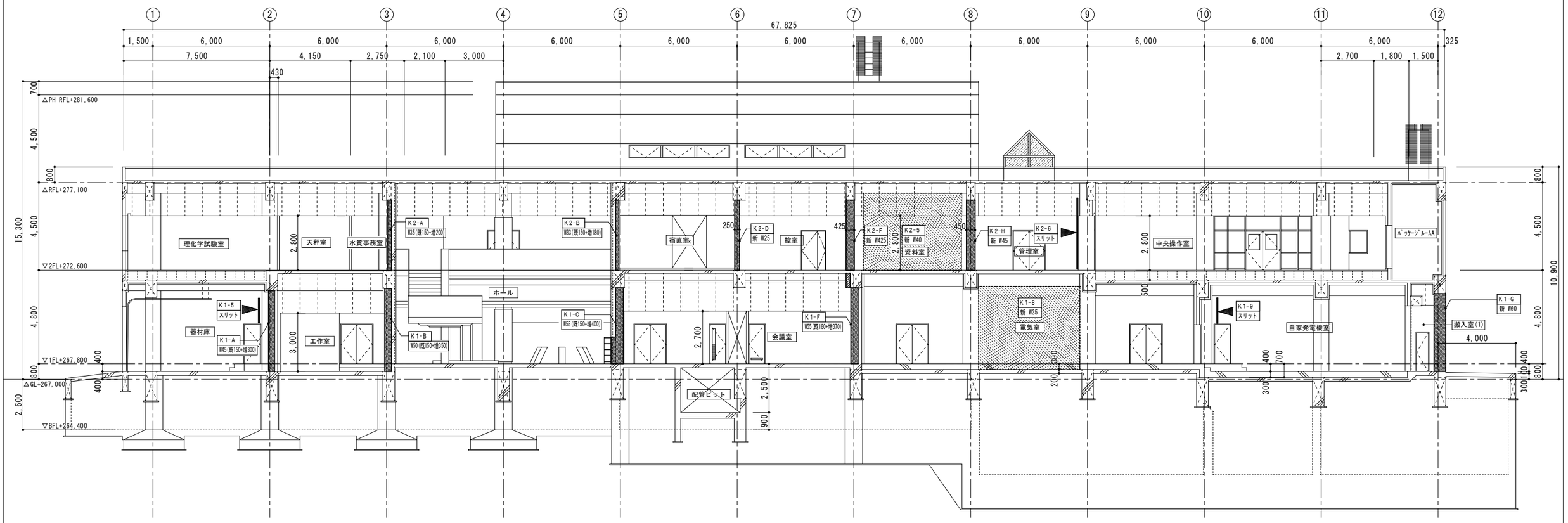
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	断面図(1)(改修後)
縮尺	A1:1/100
製作年月日	
設計番号	
図番	A-14

承認印	局長	次長	課長	係長	係

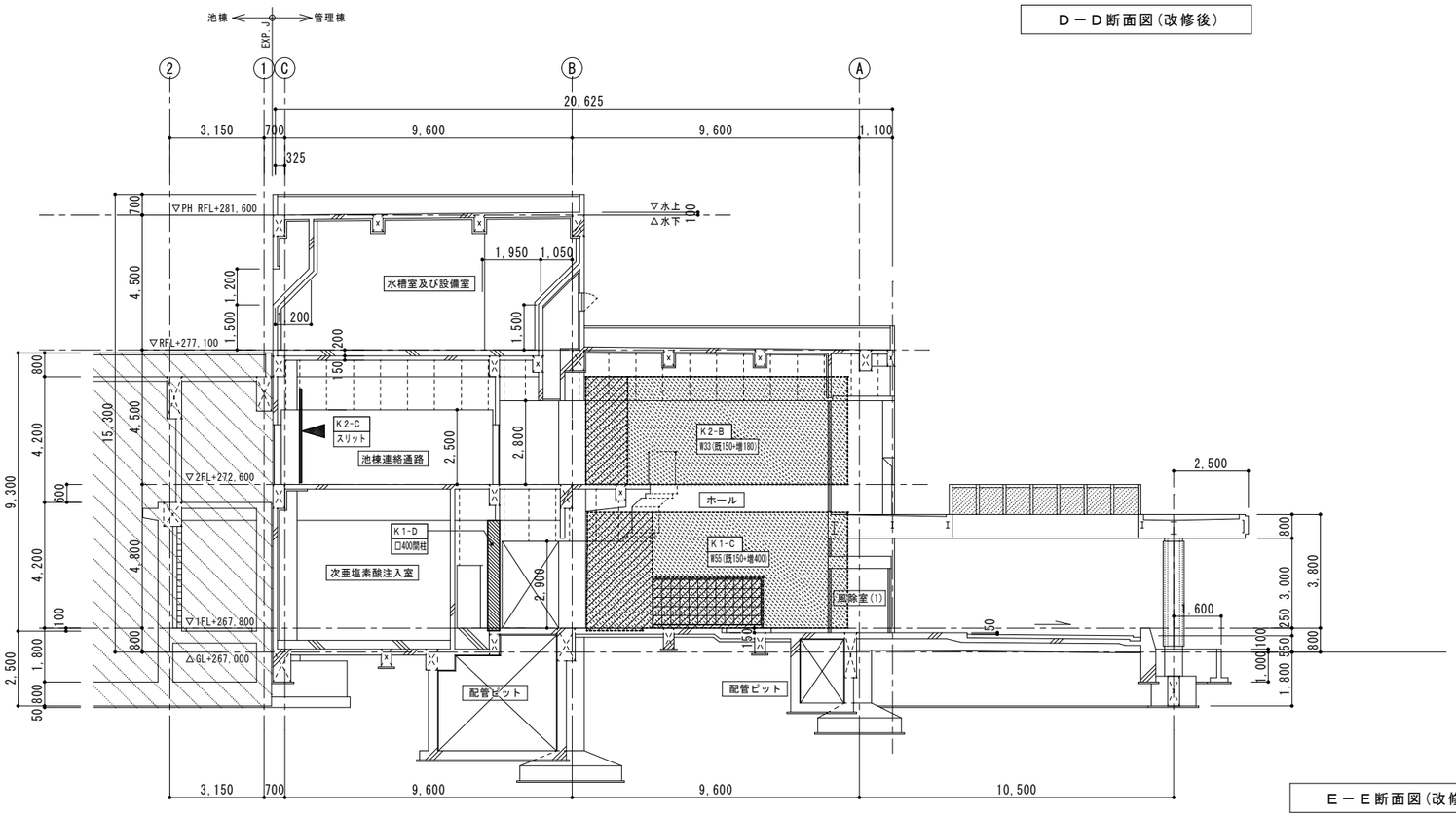
十勝中部広域水道企業団



事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名　称	断面図(2)（改修前）							
縮　尺	A1:1/100						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図　番	A-15
十勝中部広域水道企業団								



D－D断面図(改修後)



E－E断面図(改修後)

凡 例

- [　　]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
- K＊－＊　は耐震改修部位符号を示す。
- W75(既300+増450)　既存RC壁 ァ300＋増打RC壁 ァ450＝総厚750mmを示す。
- 新W40　新設RC壁W40＝400mmを示す。
- 躯体補強部位断面を示す。
- 躯体補強部位正面を示す。
- スリット施工部位を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	断面図(2)(改修後)							
縮尺	A1:1/100						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	A-16

十勝中部広域水道企業団

共通事項

・本図は既存設計図書及び現地目視調査によるものとするが、目視不可部分の下地材サイズ・ピッチ等は、「建築工事標準詳細図」及び一般刊行物等による標準的仕様により想定作図されたものであり、詳細は現地状況確認の上、調整の事。

凡　例

・[　　]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
・K＊－＊　は耐震改修部位符号を示す。
・W75(既300+増450)　既存RC壁 ｱ300＋増打RC壁 ｱ450＝総厚750㎜を示す
・新W40　新設RC壁W40＝400㎜を示す。
・□　□　は撤去及び改修概要を示す。
・斜線部及び網掛部は撤去及び改修範囲を示す。主たる表示を以下に示す。
・仕上類の撤去及び改修範囲
・躯体類の撤去及び改修範囲（表面仕上無し）
・躯体類の撤去及び改修範囲（表面仕上あり・床面では下地モルタル等）
・躯体及び仕上類撤去範囲の内、断面表示部
・※/※　既存建具符号を示す。（新設時設計図書符号による）
・※/※ 撤去　撤去建具を示す。
・※/※ 新設　新設建具を示す。
・○　内符号の仕上は、「既存」、「既存再取付」、「復旧」の何れかを示し、何れかは、図中特記による。
・○　内符号は、新規の改修仕上を示す。
・躯体カッター入れを示す。
・モルタル類カッター入れを示す。
・仕上類(薄物)カッター入れを示す。(参考)
・-------　打継部:目あらし部分を示す。
・シーリング位置を示す。(10×10)等数値はシーリング寸法を示す。特記無き物は MS-2とする。
・仕上類撤去又は切替の境界部を示す。
・新設壁・増打壁共、特記なき限り既存躯体との接合面は既存躯体側を目あらしとする。
・既存再取付：　既存仕上材等を一時取外し、改修時再利用。
・復旧　：　既存同等仕上材等を新規に設置。(既存同等に仕上回復)
・GB・JTB等既存石膏ボード類の復旧は
既存9㎜厚→現行9.5㎜厚、既存12㎜厚→現行12.5㎜厚と読み替える。
・既存がＶＰ塗またはＵＥ塗面に接続する新規仕上部位はＮＡＤ塗を標準とする。
・天井及び壁仕上撤去・改修面において、ＥＰ等塗装仕上げの場合は
接続部周囲W=100程度まで塗装補修を見込む。
・EP、EP-Gは、全て防カビ剤入りとする。
・天井仕上改修部の廻り縁新設部は、天井伏図による。
・既存石綿セメント板ｱ6の改修仕上は、フレキシブルボードｱ6に読み替える。

※本図中、新規仕上の認定番号は、以下の同等品以上とする。
尚、ビニルクロス貼は、全て不燃認定品とする。

・壁：ＪＴＢ ｱ12.5（NM-8619同等品以上）
・天井：ＧＢ ｱ9.5捨張（NM-0441同等品以上）
ＤＲ ｱ9（NM-8599同等品以上）
・壁・天井：不燃現場吹付材ｱ10（NM-3894同等品以上）
・耐火間仕切壁：1時間耐火構造　国土交通大臣認定
(FP060NP-0483(1) 同等品以上)

アスベスト含有建材について

本工事における仕上材等の撤去・処分方法について、アスベスト含有が確認された建材は以下とする。

※アスベストの含有が確認された建材においては適切な養生・撤去・処分を設計上見込む物とする。

■今回調査建材

階	室　名	部　位	建材名	石綿含有の有無		建材ﾚﾍﾞﾙ
1F	器材庫	床	ﾊｰﾄﾞﾅｰ塗布	○	なし	
			上記下地調整材	●	ｸﾘｿﾀｲﾙ含有	3
2F	コピー室・資料室	床	ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ	○	なし	
			上記 接着剤	●	ｸﾘｿﾀｲﾙ含有	3
1F	工作室・倉庫	床	モルタル	○	なし	
1F	ホール	壁	石調デザイン吹付	○	なし	
			上記下地調整材	●	ｸﾘｿﾀｲﾙ含有	3
2F	ホール	壁	弾性吹付タイル	○	なし	
			上記下地調整材	●	ｸﾘｿﾀｲﾙ含有	3
2F	ロッカー室	壁	ＪＴＢ	○	なし	
1F	作業員控室	壁	石膏ボード12㎜	○	なし	
1F	工作室	壁	石綿セメント板	●	ｸﾘｿﾀｲﾙ含有	3
1F	ＰＳ・ＤＳ	壁	PF複合板(ｽﾚｰﾄ)	●	ｸﾘｿﾀｲﾙ含有	3
			上記 接着剤	○	なし	
			PF複合板(ﾎﾞﾘｽﾃﾚﾝﾌｫｰﾑ)	○	なし	
BF	消火ポンプ室	壁	防水シーラー	○	なし	
			上記下地調整材	●	ｸﾘｿﾀｲﾙ含有	3
2F	管理室	壁	ビニルクロス1	○	なし	
			ビニルクロス2	○	なし	
2F	宿直室	壁	ビニルクロス3	○	なし	
1F･2F	ホール・作業員控室	天井	ＤＲ(岩綿吸音板)	○	なし	
1F	会議室	天井	ＤＲ(岩綿吸音板)リブ付	○	なし	
PH	水槽室及び設備室	梁型	軽量骨材吹付	○	なし	

■既往調査建材

部　位	建材名
外壁	弾性吹付タイル

■みなし建材　未調査部位だが「みなし含有建材」として取り扱うもの

部　位	建材名
床	長尺塩ビシート
床	ビニル床タイル(ホモジニアス系共)
巾木	ビニル巾木
巾木	ウォールナット練付材
巾木	ササラ巾木
壁	難燃化粧合板(ウォールナット)
天井	木目化粧石膏ボード

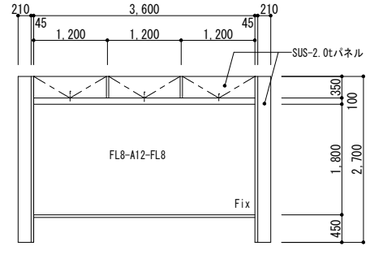
既存建具リスト

※本工事にて撤去対象の建具を示す。符号は新築時設計図書による。建具配置は各詳細図(改修前)を参照。

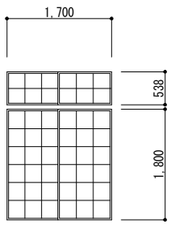
階	既存建具符号	室　名	型　式	内法寸法	材　種	ガラス等	扉見込(枠見込)	ヶ所	備考
1F	ＳＤ－１	搬入室(1)横 物入	鋼製 片開きフラッシュ戸	800Ｗ×2,000Ｈ	スチール　1.6ｔ		４０(１００)	1	
	ＳＤ－３	搬入室(1)	鋼製 両開きフラッシュ戸	4,000Ｗ×3,235Ｈ	スチール　1.6ｔ		８０(１８０)	1	
	ＳＤ－６	ＰＳ・ＤＳ	鋼製 片開きフラッシュ戸	600Ｗ×1,800Ｈ	スチール　1.6ｔ		４０(１００)	2	
	ＳＤ－１６	廊下	鋼製 片開きフラッシュ防火戸	1,845Ｗ×2,885Ｈ	スチール　1.6ｔ		４０(１００)	1	随時閉鎖型防火戸
	ＳＤ－１８	湯沸室	鋼製 片開きフラッシュ戸	800Ｗ×2,000Ｈ	スチール　1.6ｔ		４０(１００)	1	
	ＳＤ－１９	会議室	鋼製 両開きフラッシュ戸	1,600Ｗ×2,000Ｈ	スチール　1.6ｔ		４０(１００)	1	
	ＳＦ－２	ホール	電動式防煙垂れ壁	1,815Ｗ×　950Ｈ	防煙ガラスクロス		鋼板製収納BOX	2	ｽﾃﾝﾚｽｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙH＝950
	ＳＷ－２	電気室	外倒し排煙窓+両袖パネル付 嵌メ殺シ窓	4,110Ｗ×2,700Ｈ	ステンレス　2.0ｔ	FL8-A12-FL8	４０(１００)	1	
2F	ＳＤ－２'	管理室	鋼製 両開きフラッシュ戸	800Ｗ×2,000Ｈ	スチール　1.6ｔ		４０(１００)	1	
	ＷＤ－１	湯沸室	木製 片開きフラッシュ戸	800Ｗ×2,000Ｈ	シナベニヤ　ＯＰ	型板ｶﾞﾗｽ ｱ4：150Ｗ×800Ｈ	４０(１００)	1	
	ＷＤ－２	ロッカー室	木製 片開きフラッシュ戸	800Ｗ×2,000Ｈ	シナベニヤ　ＯＰ		４０(１００)	1	
	ＷＤ－３	宿直室前室	木製 親子開きフラッシュ戸	1,200Ｗ×2,000Ｈ	シナベニヤ　ＯＰ	型板ｶﾞﾗｽ ｱ4：150Ｗ×800Ｈ	４０(１００)	1	
	Ｆ－１	宿直室	木製 引違イ襖戸	1,747.5Ｗ×1,800Ｈ	スプルス		３０	1	両面鳥の子紙貼
	Ｆ－１'	宿直室	木製 引違イ襖戸	1,712.5Ｗ×1,800Ｈ	スプルス		３０	1	両面鳥の子紙貼
	Ｆ－２	宿直室	木製 ３本引違イ襖戸	2,665Ｗ×1,800Ｈ	スプルス		３０	1	両面鳥の子紙貼
	Ｆ－３	宿直室	木製 ２連引違イ襖戸	3,500Ｗ×1,800Ｈ	スプルス		３０	1	両面鳥の子紙貼
	ＷＳ－１	宿直室	木製 引違イ障子(ランマ障子付)	1,700Ｗ×1,800+538Ｈ	スプルス	和紙(うんりゅう)	３０	1	
	ＷＳ－２	宿直室	木製 ２連引違イ障子(ランマ障子付)	2,580Ｗ×1,800+538Ｈ	スプルス	和紙(うんりゅう)	３０	1	
	ＡＰ－１	管理室	アルミ製パーティション 親子開きドア付	8,730Ｗ×2,800Ｈ	アルミ押出型材	型板ｶﾞﾗｽ ｱ4(ﾗﾝﾏH=700全幅) 型板ｶﾞﾗｽ ｱ4(ﾄﾞｱ部:500Ｗ×700Ｈ)	５０	1	パネル・ドア：アルミ1.0t(ﾍﾟｰﾊﾟｰﾆｶﾑｺｱ)
	ＡＰ－２	資料室	アルミ製パーティション 1,200Ｗ開口(ﾄﾞｱ無し)	2,880+5,880Ｗ(Ｌ型) ×2,800Ｈ	アルミ押出型材	ﾗﾝﾏ解放(ｶﾞﾗｽ無し)H=700全幅 中段：型板ｶﾞﾗｽ ｱ4(1,100Ｈ)	５０	1	パネル・ドア：アルミ1.0t(ﾍﾟｰﾊﾟｰﾆｶﾑｺｱ)
	ＡＰ－３	コピー室	アルミ製パーティション 900Ｗ開口(ﾄﾞｱ無し)	3,420+2,670Ｗ(Ｌ型) ×2,800Ｈ	アルミ押出型材	ﾗﾝﾏ解放(ｶﾞﾗｽ無し)H=700全幅 中段：型板ｶﾞﾗｽ ｱ4(1,100Ｈ)	５０	1	パネル・ドア：アルミ1.0t(ﾍﾟｰﾊﾟｰﾆｶﾑｺｱ)

※参考姿図（その他平面形状・姿図は各詳細図(改修前)参照）

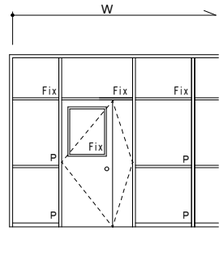
ＳＷ－２



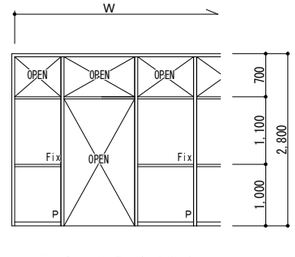
ＷＳ－１



ＡＰ－１ (略図)



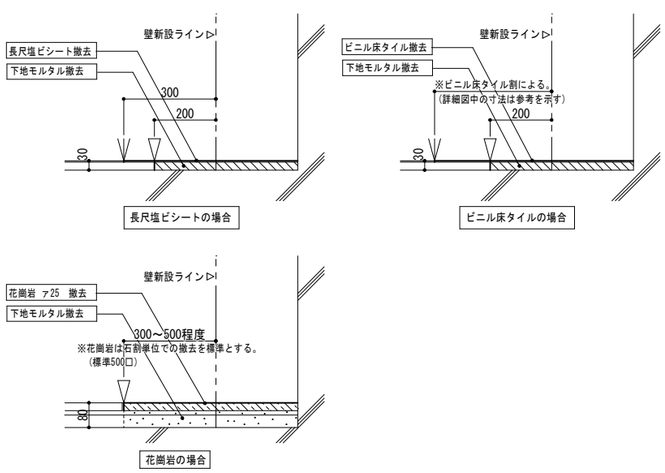
ＡＰ－２・３ (略図)



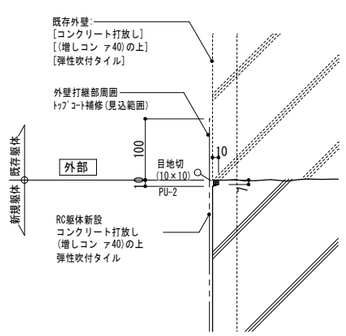
Fixは嵌メ殺シ、Ｐはパネルを示す。

各部共通仕様

新設壁周囲の撤去標準範囲

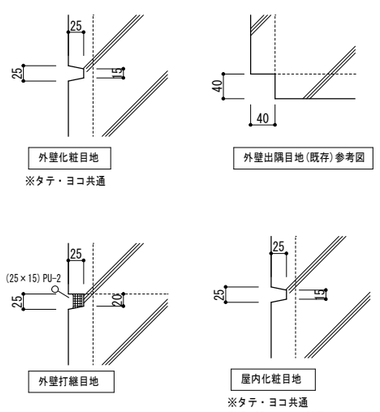


外壁面躯体打継部標準

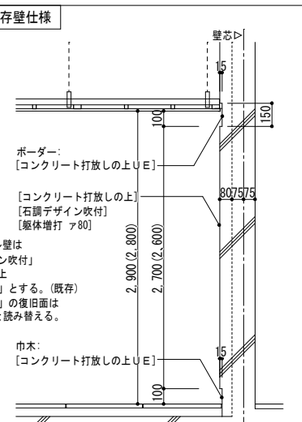


既存目地標準

本図は参考とし、躯体打設により旧躯体と連続する壁面は現地確認の上調整の事。



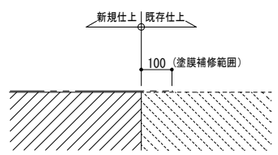
ホール・廊下 既存壁仕様



※2F廊下(1)・ホール壁は
一部「石調デザイン吹付」
その他は目地切の上
「弾性吹付タイル」とする。(既存)
「弾性吹付タイル」の復旧面は
「複層塗材(E)」と読み替える。

※図は1階ホール・廊下を示す。(　)内は2階ホールを示す。
※仕上復旧時：ＵＥ部分の塗装はＮＡＤと読み替える。

塗装類補修範囲

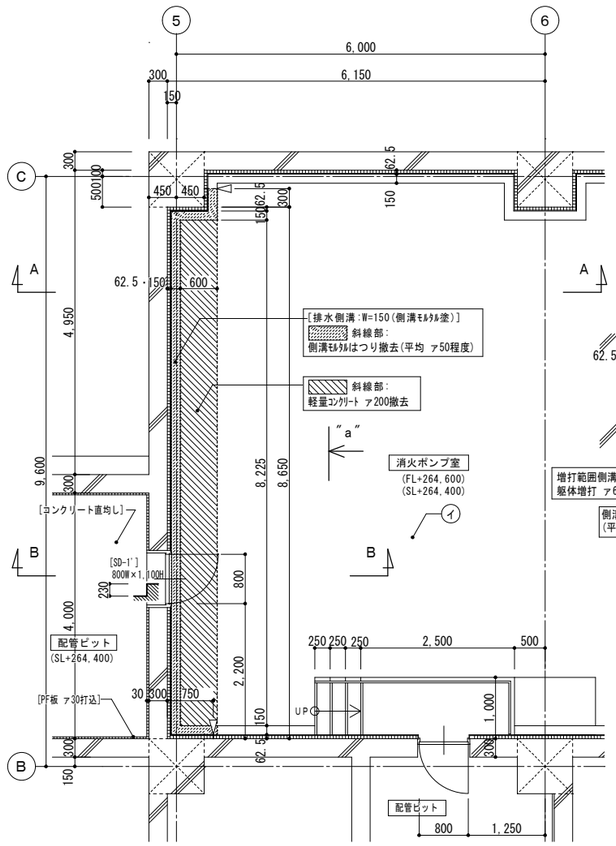


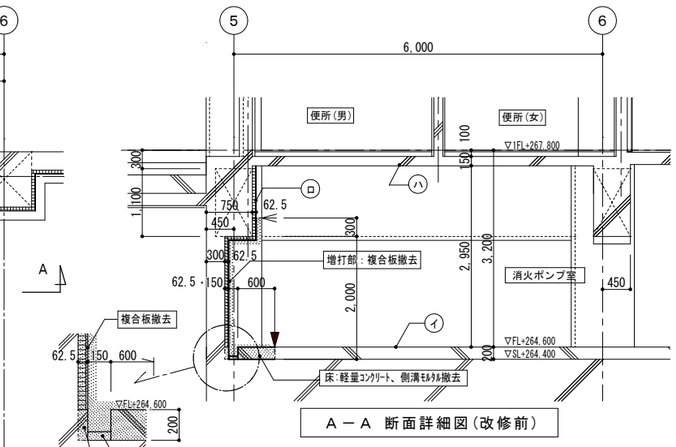
※室内床及び壁打継部において
表面仕上が塗装類(ＥＰ・ＶＰ・ＮＡＤ・ウレタン系塗床等)
の場合はW=100程度を補修範囲として見込む。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名　称	一般共通事項						
縮　尺	A1:1/5、1/10					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図　番	A-17

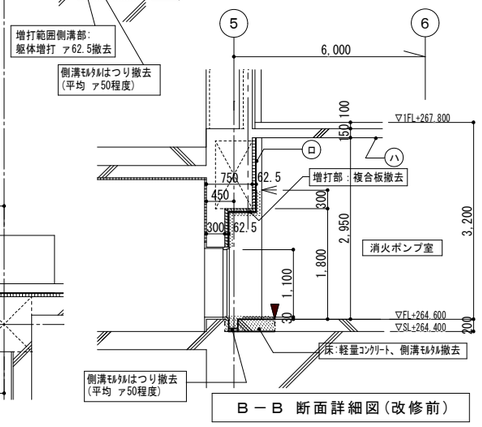
十勝中部広域水道企業団

KB1－A　B1階 5通り　B－C通り間(改修前)



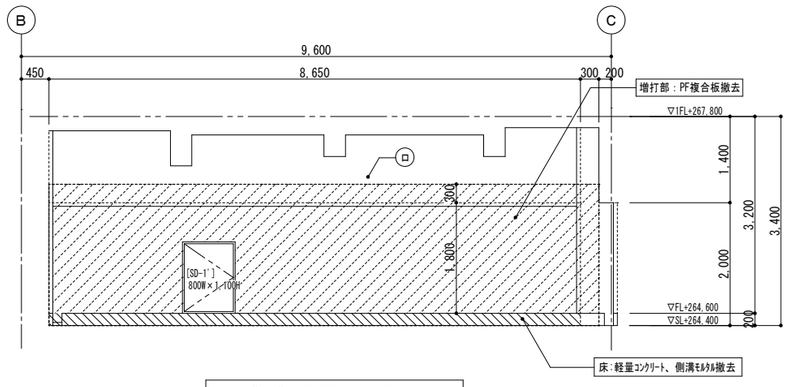


A－A 断面詳細図(改修前)



B－B 断面詳細図(改修前)

B1階 5－6通 B－C間　平面詳細図(改修前)

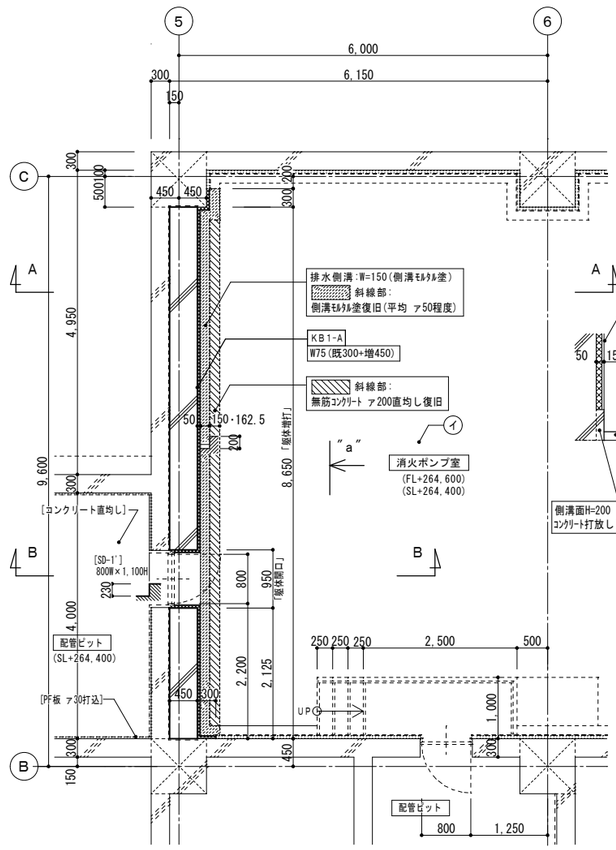


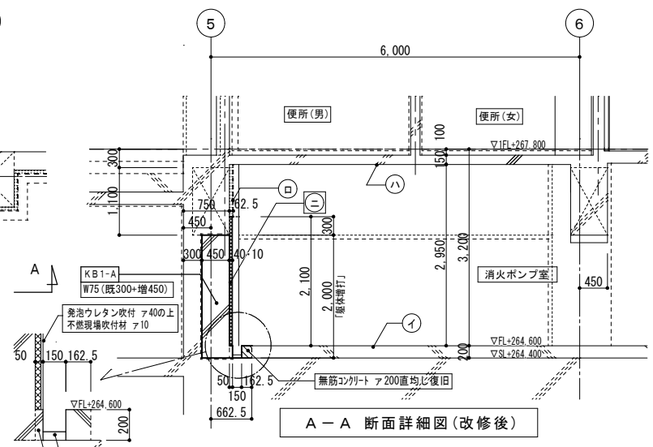
″a″－展開図(改修前)

消火ポンプ室（既存仕上） 直天井

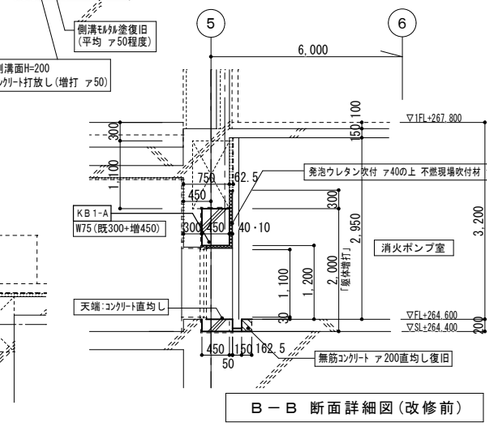
部位	符号	仕　上
床	(イ)	軽量コンクリート ｱ200直均し
巾木	—	————
壁	(ロ)	PF複合板 ｱ62.5打込　防水シーラー吹付
天井	(ハ)	コンクリート打放し
備考		[排水側溝:W=150]内：一部側溝ﾓﾙﾀﾙはつり撤去

KB1－A　B1階 5通り　B－C通り間(改修後)



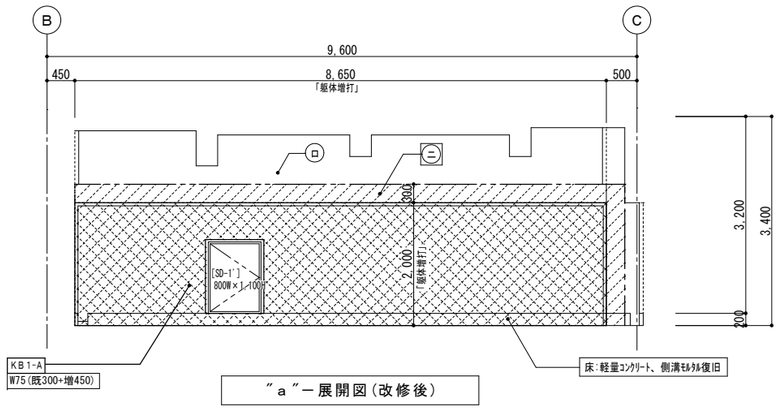


A－A 断面詳細図(改修後)



B－B 断面詳細図(改修前)

B1階 5－6通 B－C間　平面詳細図(改修後)



″a″－展開図(改修後)

消火ポンプ室（既存・改修仕上） 直天井

部位	符号	仕　上
床	(イ)	軽量コンクリート ｱ200直均し
巾木	—	————
壁	(ロ)	PF複合板 ｱ62.5打込　防水シーラー吹付
	(ニ)	複合板撤去部・壁増打部: 発泡ｳﾚﾀﾝ吹付 ｱ40の上 不燃現場吹付材 ｱ10
天井	(ハ)	コンクリート打放し
備考		排水側溝:W=150新設：側溝ﾓﾙﾀﾙ塗復旧(平均 ｱ50程度) 側溝面:H=200　ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し(増打 ｱ50)

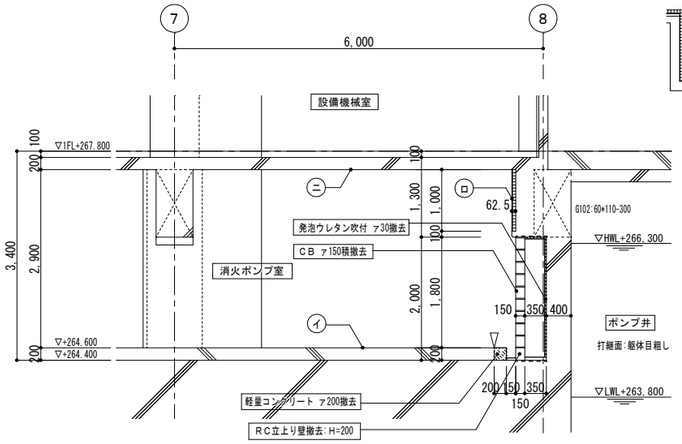
【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

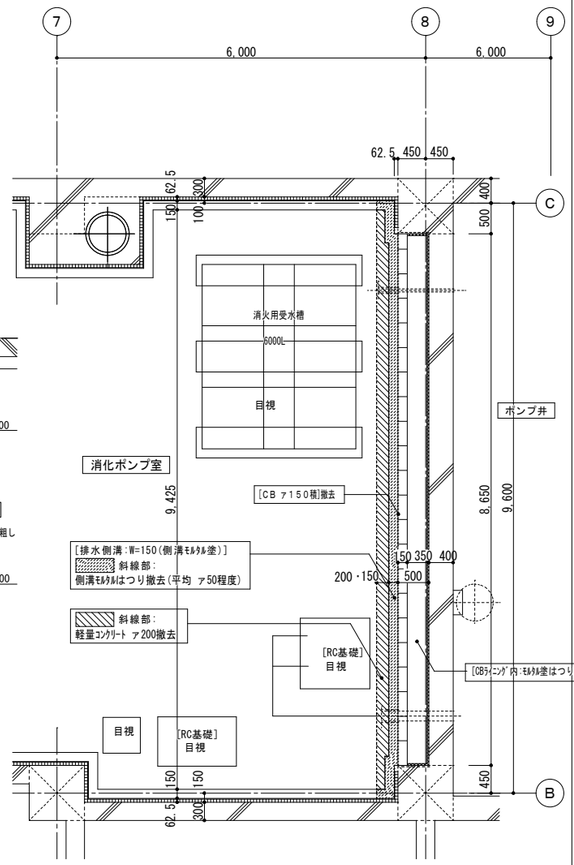
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名　称	KB1-A(改修前・後)							
縮　尺	A1:1/50						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図　番	A-18
十勝中部広域水道企業団								

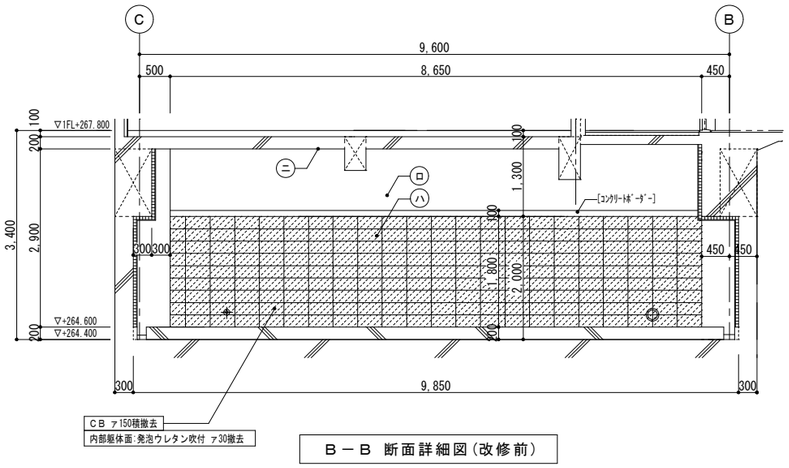
KB1－B　B1階 8通り　B－C通り間(改修前)



A－A 断面詳細図(改修前)



B１階 ７－８通 Ｂ－Ｃ通間　平面詳細図(改修前)

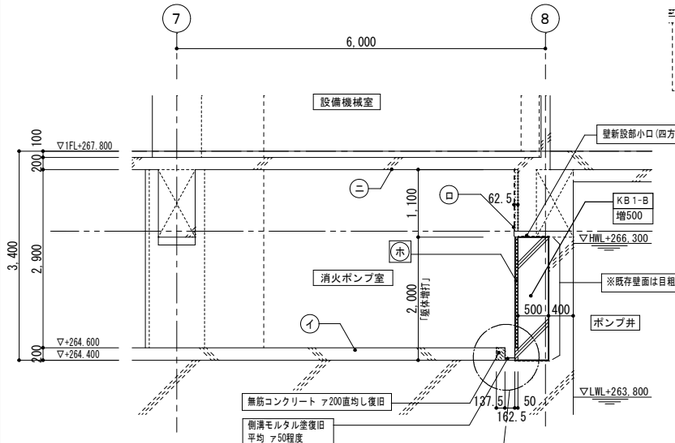


B－B 断面詳細図(改修前)

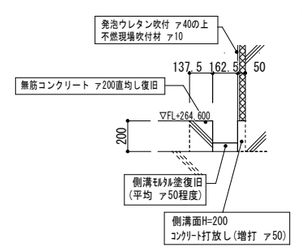
消火ポンプ室（既存仕上） 直天井

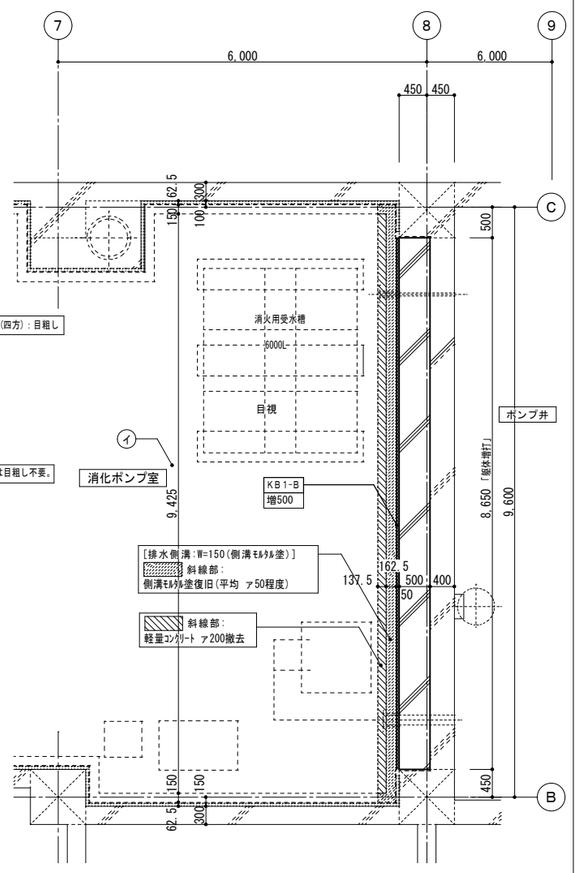
部位	符号	仕　上
床	(イ)	軽量コンクリート ァ200直均し
巾木	—	————
壁	(ロ)	PF複合板 ァ62.5打込　防水シーラー吹付
	(ハ)	CB ァ150化粧目地積
天井	(ニ)	コンクリート打放し
備考		[排水側溝:W=150]内：一部側溝ﾓﾙﾀﾙはつり撤去

KB1－B　B1階 8通り　B－C通り間(改修後)

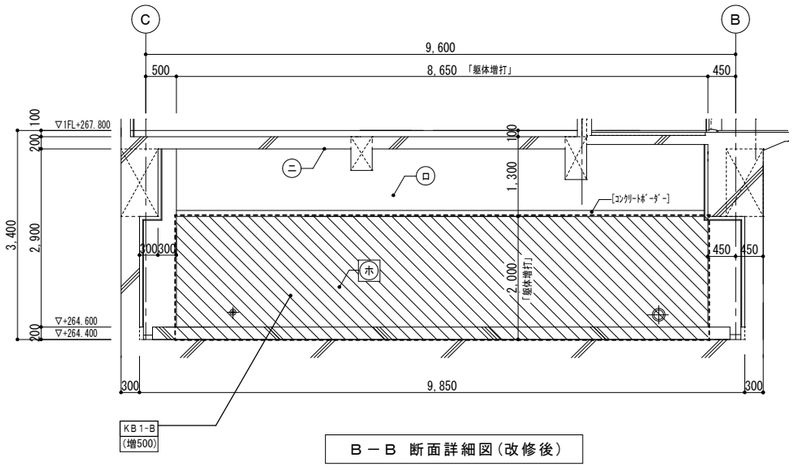


A－A 断面詳細図(改修後)





B１階 ７－８通 Ｂ－Ｃ通間　平面詳細図(改修後)



B－B 断面詳細図(改修後)

消火ポンプ室（既存・改修仕上） 直天井

部位	符号	仕　上
床	(イ)	軽量コンクリート ァ200直均し
巾木	—	————
壁	(ロ)	PF複合板 ァ62.5打込　防水シーラー吹付
	(ホ)	複合板撤去部・壁増打部: 発泡ウレタン吹付 ァ40の上 不燃現場吹付材 ァ10
天井	(ニ)	コンクリート打放し
備考		排水側溝:W=150新設：側溝ﾓﾙﾀﾙ塗復旧(平均 ァ50程度) 側溝面:H=200　ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し(増打 ァ50) ※本増打壁は、構造的に既存壁とのー体化はしていない。

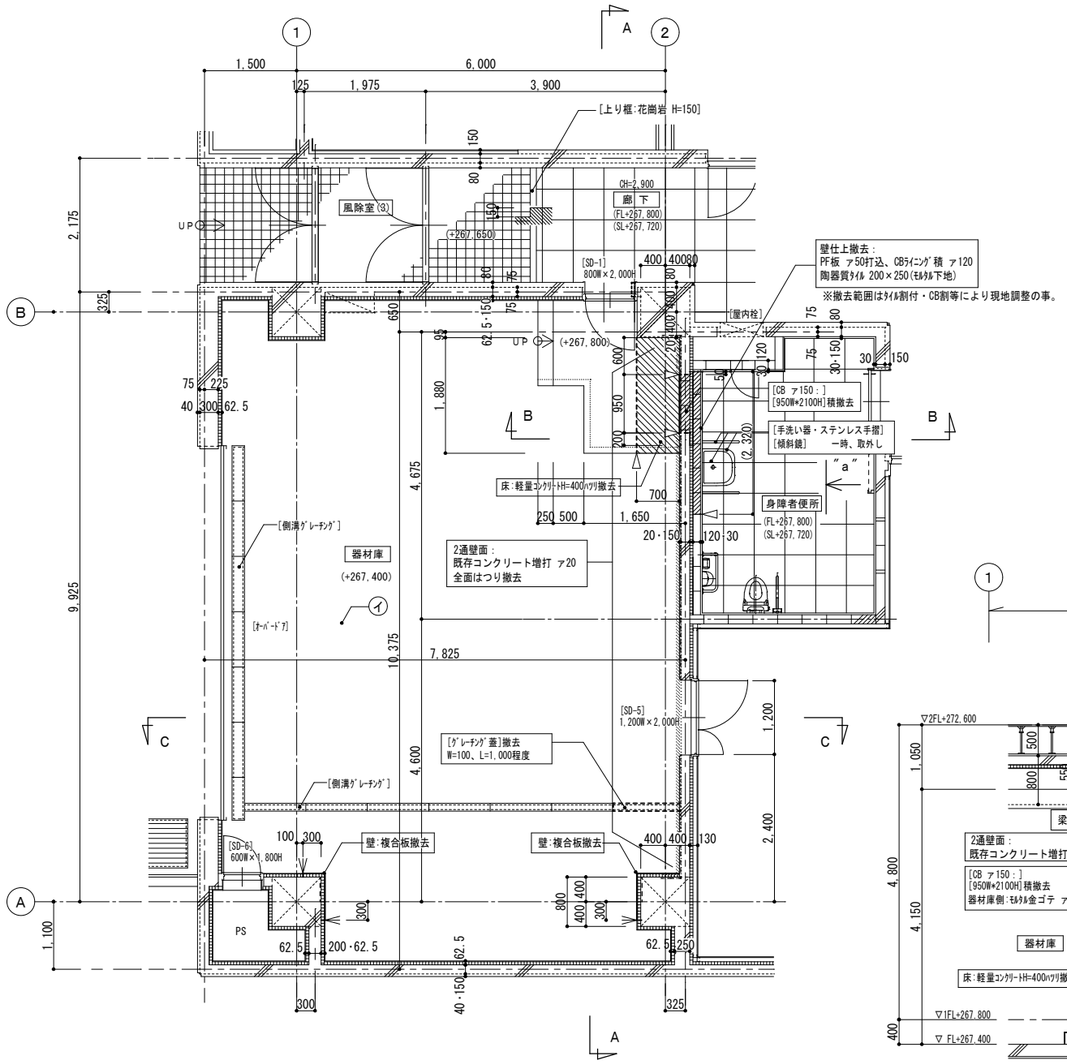
【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

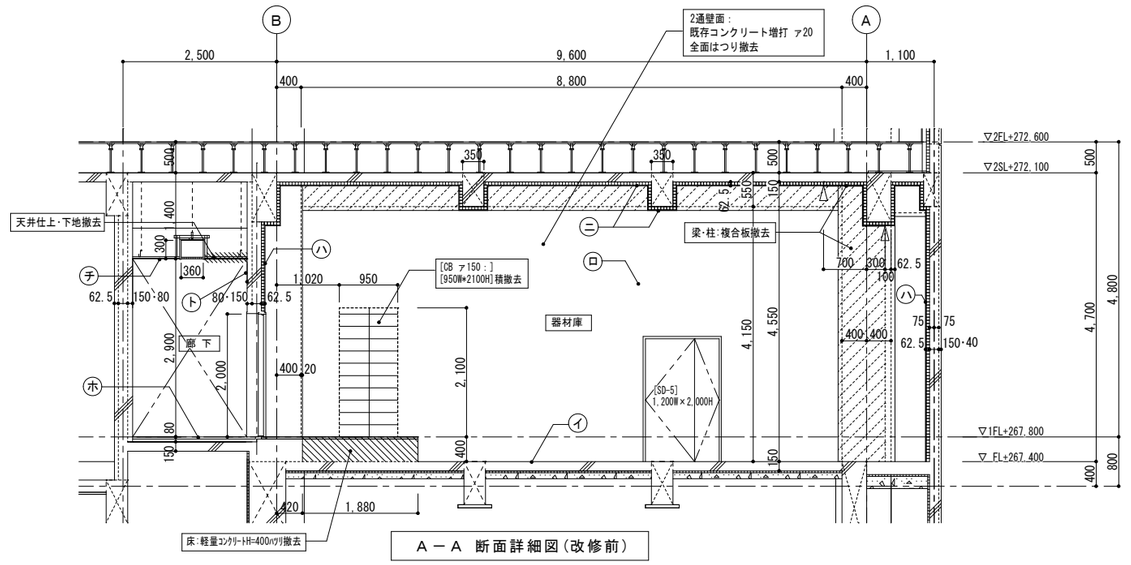
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名　称	KB1-B(改修前・後)						
縮　尺	A1:1/50					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図　番	A-19
十勝中部広域水道企業団							

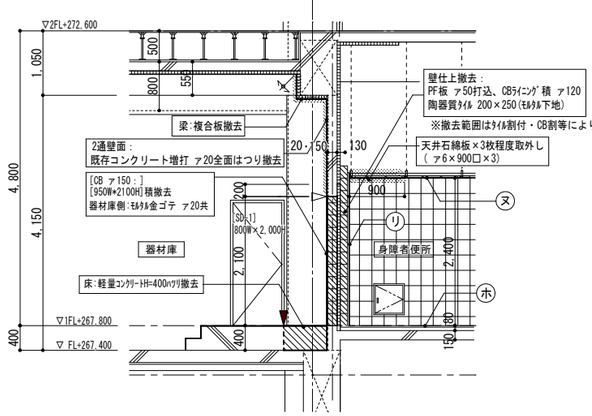
K１－A	１階　２通り　A－B通り間(改修前)	K１－１	１階　A通り　１－２通り間(改修前)	K１－５	１階　B通り　２通り側(改修前)



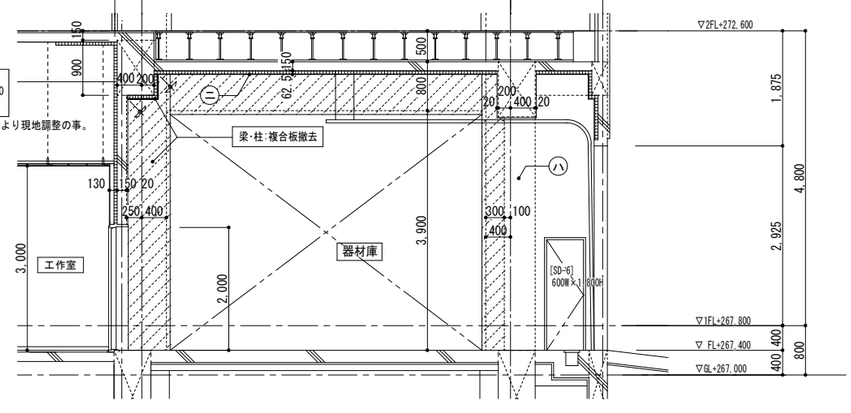
１階　１－２通　A－B通間　平面詳細図(改修前)



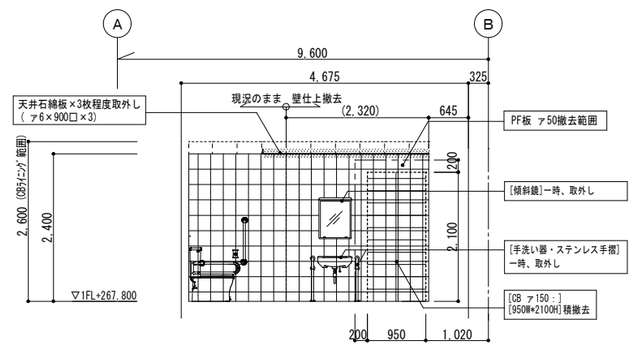
Ａ－Ａ　断面詳細図(改修前)



Ｂ－Ｂ　断面詳細図(改修前)



Ｃ－Ｃ　断面詳細図(改修前)



"ａ"ー展開図(改修前)

※壁撤去詳細位置は、タイル割付・CB割付確認の上調整とする。

器材庫(既存仕上)　直天井

部位	符号	仕　上
床	(イ)	コンクリート直均し　ハードナー塗布 防塵処理 階段部：軽量コンクリート ァ400直均し　防塵塗装
巾木	―	――――
壁	(ロ)	コンクリート打放し(増ﾝ ァ20)の上 弾性吹付タイル
	(ハ)	ＰＦ複合板 ァ62.5打込の上 弾性吹付タイル
天井	(ニ)	ＰＦ複合板 ァ62.5打込の上 弾性吹付タイル
備考		ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋撤去　W=100、L=1,000程度 2通壁改修部:軽量コンクリート階段部　一部撤去 2通壁面：既存コンクリート増打 ァ20全面はつり撤去

廊 下(既存仕上)　CH=2,900

部位	符号	仕　上
床	(ホ)	花崗岩 ァ25 本磨き (モルタル下地)
巾木 ﾎﾞｰﾀﾞｰ	(ヘ)	H=100　コンクリート打放し ＵＥ
壁	(ト)	コンクリート打放しの上 石調デザイン吹付
天井	(チ)	ＧＢ ァ9捨張、ＤＲ ァ19(リブ)　ＬＧＳ下地

身障者便所(既存仕上)　CH=2,400

部位	符号	仕　上
床	(ホ)	花崗岩 ァ25 本磨き(モルタル下地)
巾木	―	――――
壁	(リ)	陶器質タイル200×250貼(ﾓﾙﾀﾙ下地) 2通面:PF板 ァ50打込の上 CB ァ120ﾗｲﾆﾝｸﾞ積下地
天井	(ヌ)	石綿セメント板 ァ6　スチップル仕上
備考		手洗い器、ステンレス手摺、傾斜鏡:一時取外し

【注記】

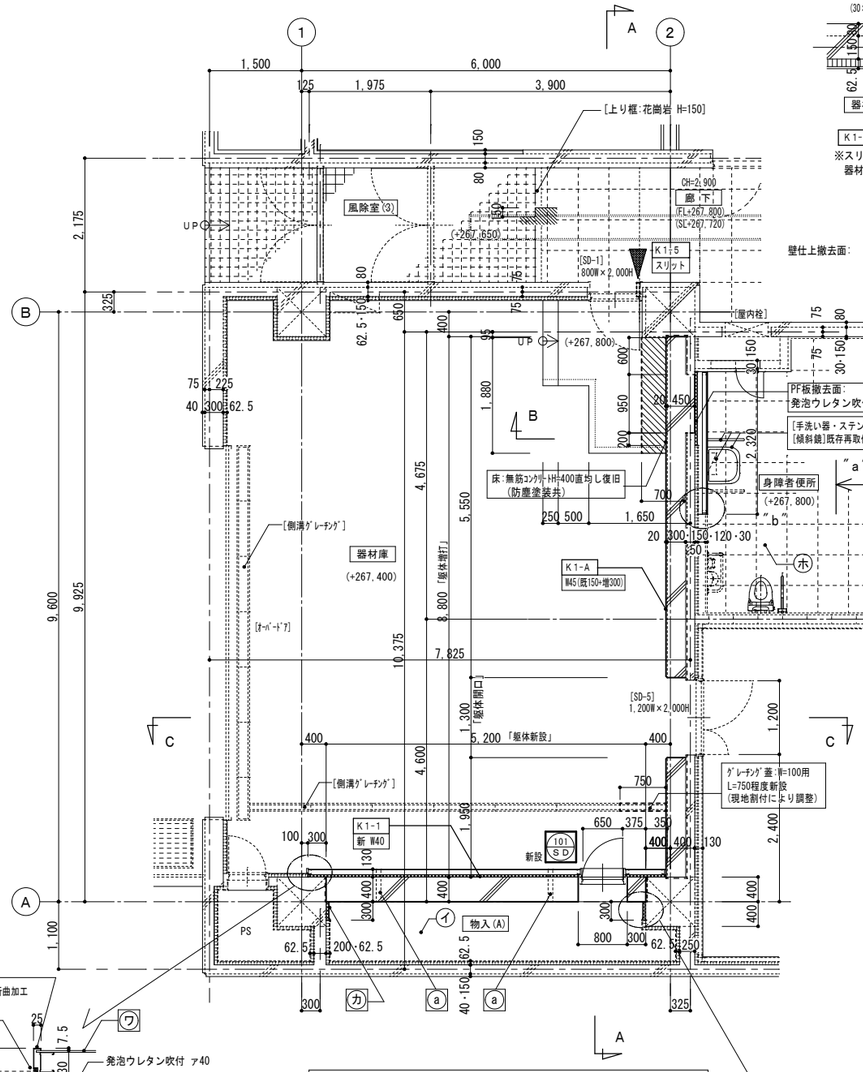
・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名　称	K1-A、K1-1、K1-5(1)(改修前)					
縮　尺	A1:1/50				製作年月日	
決認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号
						図　番　A-20

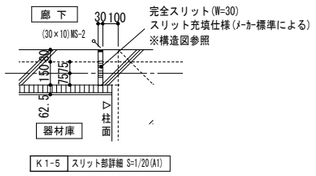
十勝中部広域水道企業団

K１－A	１階　２通り　Ａ－Ｂ通り間(改修後)	K１－１	１階　Ａ通り　１－２通り間(改修後)	K１－５	１階　Ｂ通り　２通り側(改修後)



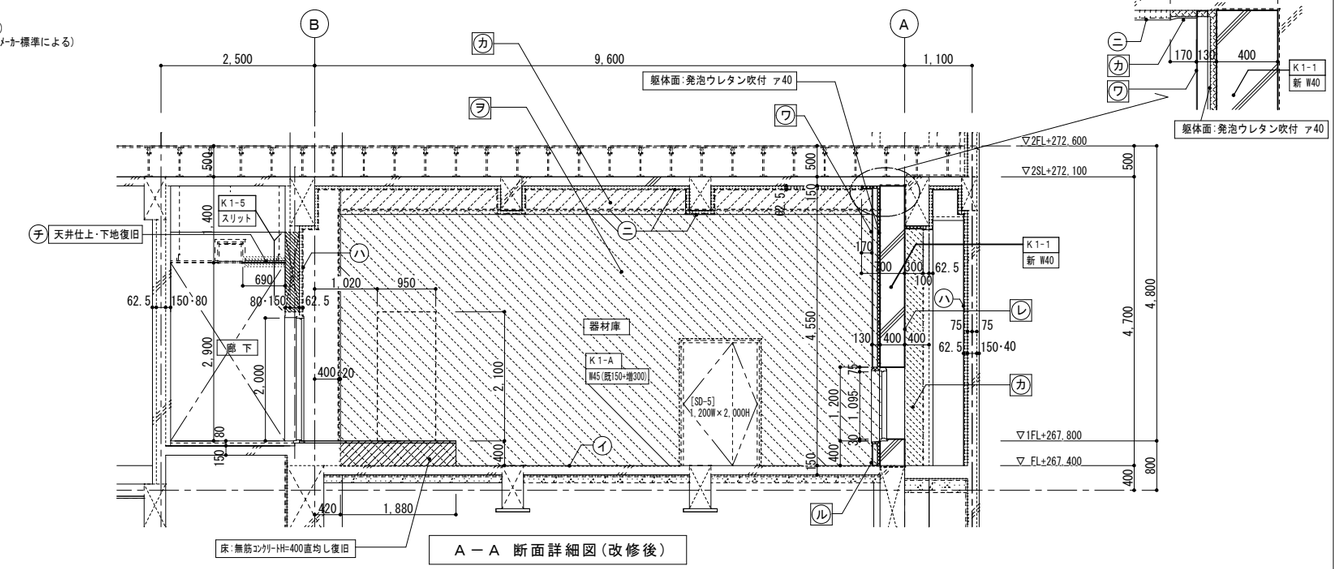
１階　１－２通　Ａ－Ｂ通間　平面詳細図(改修後)

壁見切 詳細図 S=1/10(A1)

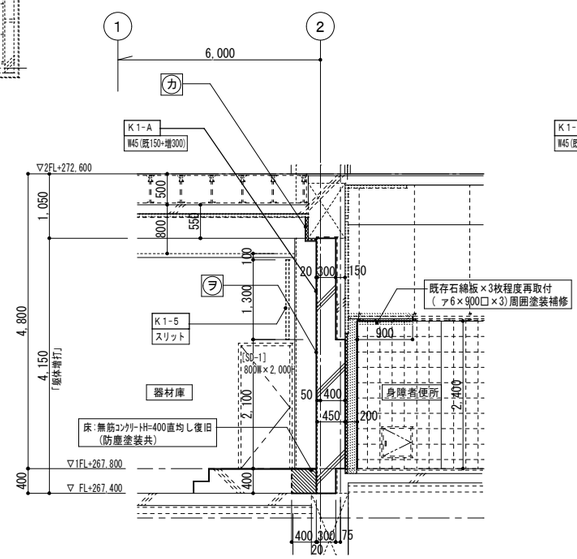


K1-5　スリット部詳細 S=1/20(A1)

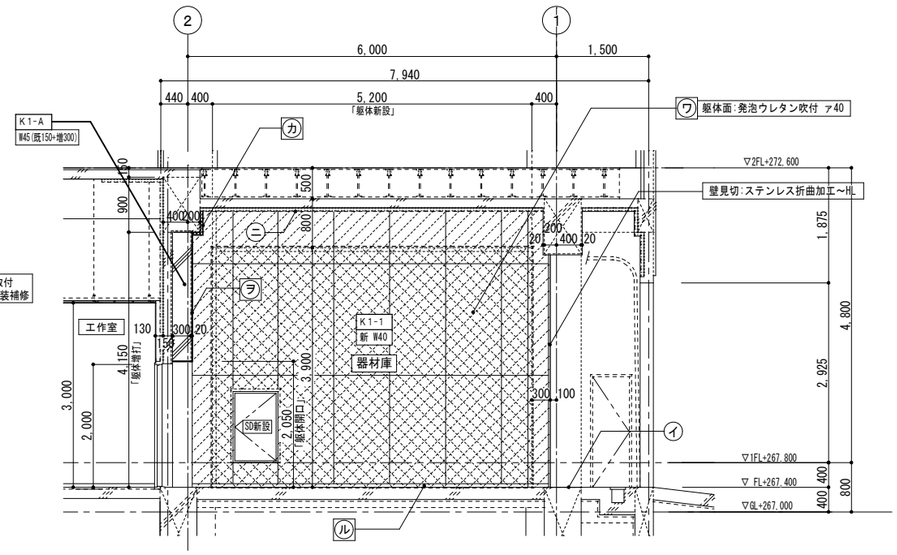
※スリット施工は廊下側からとし、
器材庫側複合板仕上は現況のままとする。



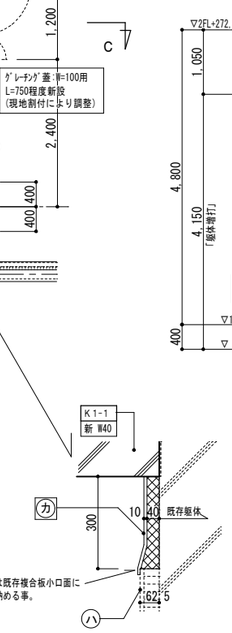
Ａ－Ａ 断面詳細図(改修後)

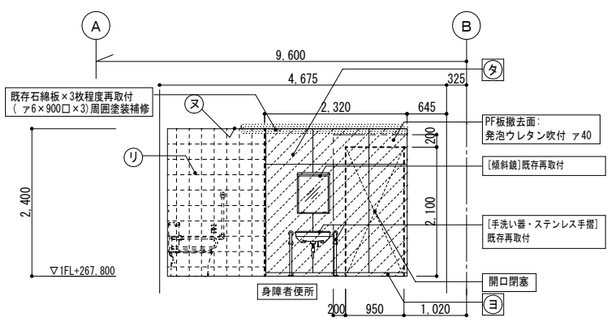


Ｂ－Ｂ 断面詳細図(改修後)

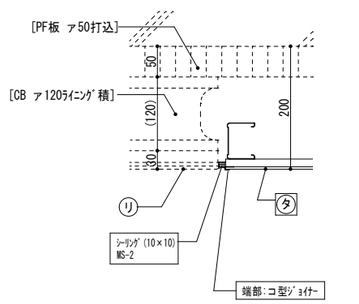


Ｃ－Ｃ 断面詳細図(改修後)





"ａ"－展開図(改修後)



"ｂ"－壁仕上取合い詳細図　S=1/5(A1)

器材庫(既存・改修仕上)　直天井

部位	符号	仕　上
床	(イ)	コンクリート直均し　ハードナー塗布 防塵処理 階段部：無筋コンクリート ｱ400直均し　防塵塗装
巾木	―	―
	(ル)	H=60　ステンレス巾木　ｱ2.0 HL
壁	(ロ)	コンクリート打放し(増ｺﾝ ｱ20)の上 弾性吹付タイル
	(ハ)	ＰＦ複合板 ｱ62.5打込の上 弾性吹付タイル
	(ヲ)	コンクリート打放し(増ｺﾝ ｱ20)の上 複層塗材(E)
	(ワ)	石綿セメント板 ｱ6 目透し張の上 複層塗材(E)　ＬＧＳ下地
天井	(ニ)	ＰＦ複合板 ｱ62.5打込の上 弾性吹付タイル
備考		K1-1新設壁LGS内面：発泡ウレタン吹付 ｱ40 壁仕上端部：壁見切(ｽﾃﾝﾚｽ ｱ1.5折曲加工)～HL ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋:W=100用 L=750程度新設
	(カ)	複合板撤去露出面：発泡ウレタン吹付 ｱ40の上 不燃現場吹付材 ｱ10

廊 下(既存・改修仕上)　CH=2,900

部位	符号	仕　上
床	(ホ)	花崗岩 ｱ25 本磨き　(モルタル下地)
巾木 ﾎﾞｰﾀﾞｰ	(ヘ)	H=100　コンクリート打放し ＵＥ
壁	(ト)	コンクリート打放しの上 石調デザイン吹付
天井	(チ)	ＧＢ ｱ9捨張、ＤＲ ｱ19(リブ)　ＬＧＳ下地

身障者便所(既存・改修仕上)　CH=2,400

部位	符号	仕　上
床	(ホ)	花崗岩 ｱ25 本磨き(モルタル下地)
巾木	―	―
	(ヨ)	ビニル巾木　H=60
壁	(リ)	陶器質タイル200×250貼(ﾓﾙﾀﾙ下地) 2通面:PF板 ｱ50打込の上 CB ｱ120ﾗｲﾆﾝｸﾞ積下地
	(タ)	耐水合板 ｱ12下地 着色ｱﾙｷﾝﾌﾟﾛｯｸﾄﾞ ｱ4(ｼﾞｮｲﾅｰ併用) ＬＧＳ下地
天井	(ヌ)	石綿セメント板 ｱ6　スチップル仕上
備考		身障者便所:[手洗い器・ステンレス手摺・傾斜鏡]既存再取付 PF板撤去部LGS内面：発泡ウレタン吹付 ｱ40

物入(A)(既存「器材庫」)(既存・改修仕上)　直天井

部位	符号	仕　上
床	(イ)	コンクリート直均し　ハードナー塗布 防塵処理
巾木	―	―
壁	(ハ)	ＰＦ複合板 ｱ62.5打込の上 弾性吹付タイル
	(レ)	新設躯体面:コンクリート打放し
天井	(ニ)	ＰＦ複合板 ｱ62.5打込の上 弾性吹付タイル
備考	(カ)	複合板撤去露出面：発泡ウレタン吹付 ｱ40の上 不燃現場吹付材 ｱ10
	(a)	レジスター・ガラリ (DET-26)

【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

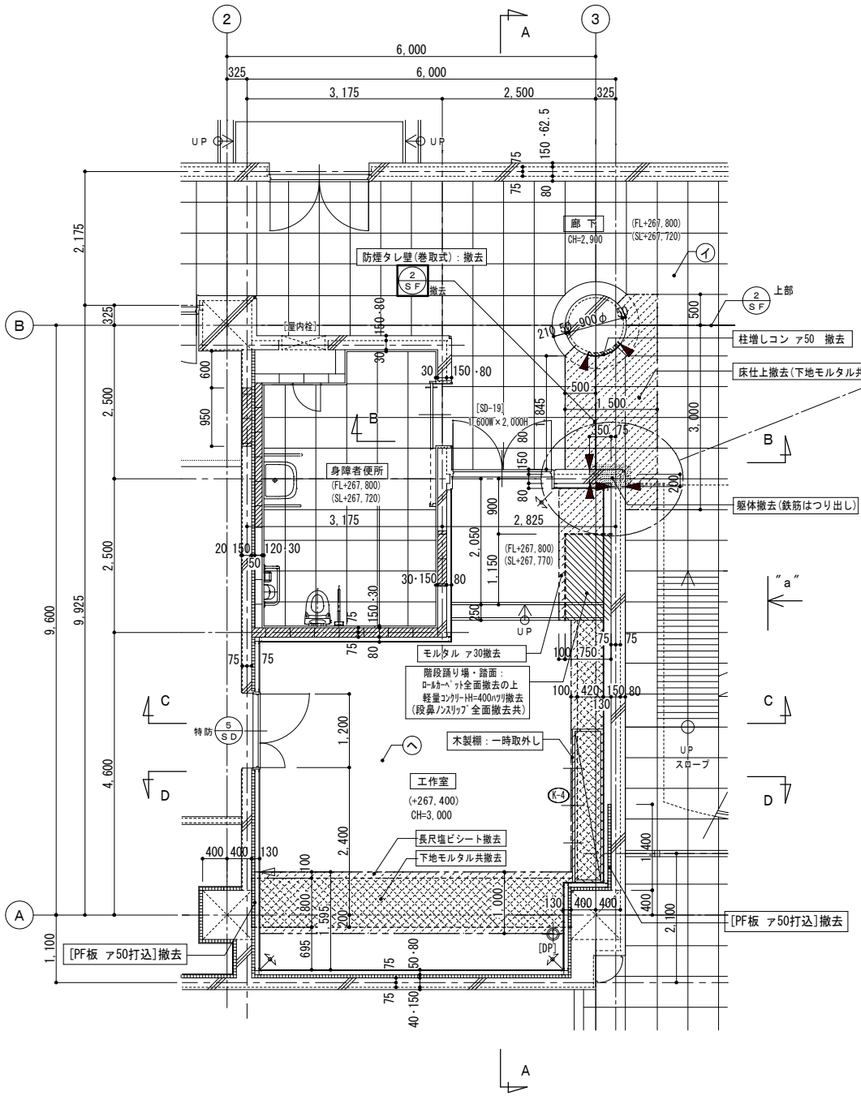
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名　称	K1-A、K1-1、K1-5(2)(改修後)
縮　尺	A1:1/50
製作年月日	
設計番号	
図　番	A-21

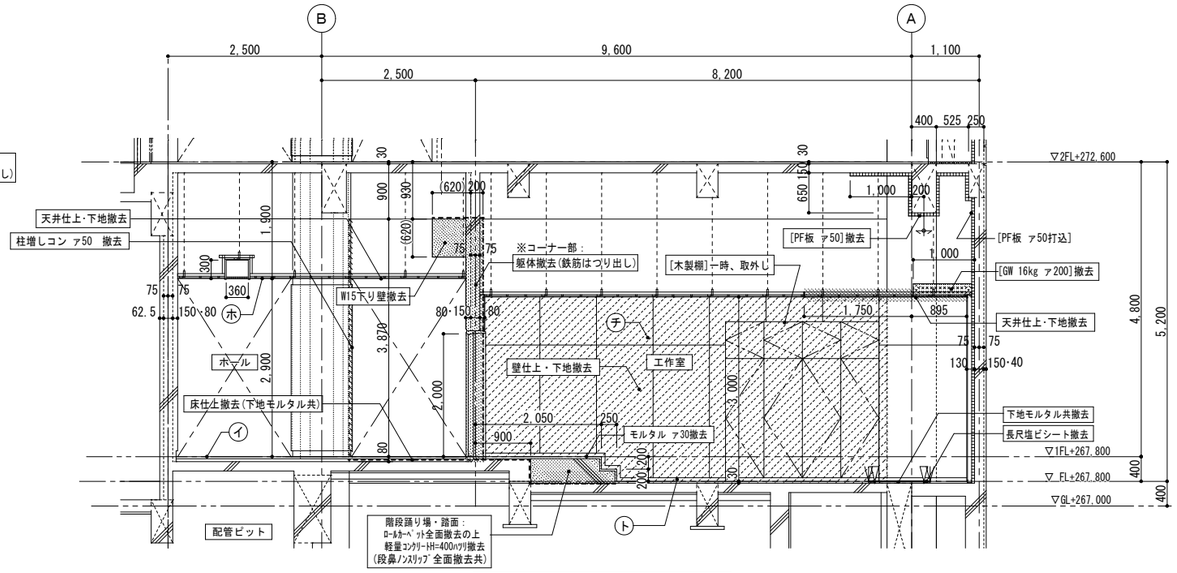
承認印	局長	次長	課長	係長	係

十勝中部広域水道企業団

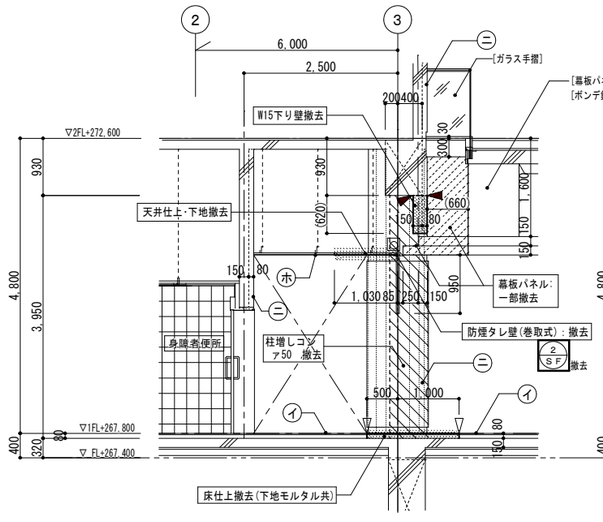
K１－B	１階　３通り　Ａ－Ｂ通り間(改修前)	K１－２	１階　Ａ通り　２－３通り間(改修前)



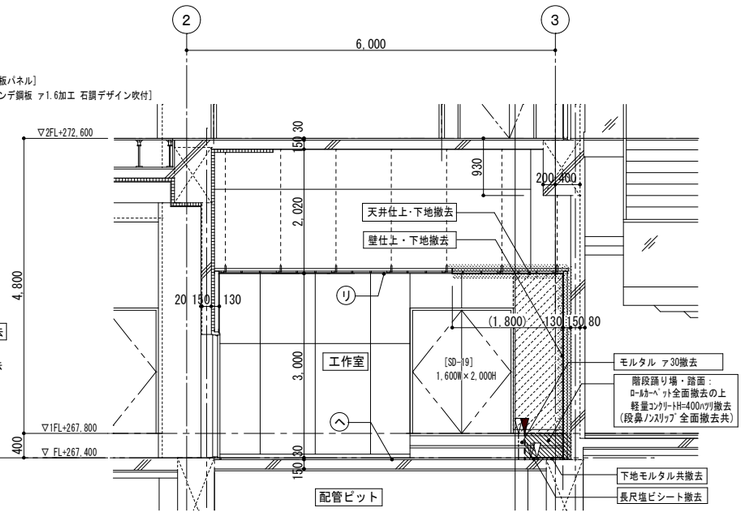
１階　２－３通　Ａ－Ｂ間　平面詳細図(改修前)



Ａ－Ａ　断面詳細図(改修前)



Ｂ－Ｂ　断面詳細図(改修前)



Ｃ－Ｃ　断面詳細図(改修前)

ホール(既存仕上)　CH=2,900、7,600

部位	符号	仕　上
床	(イ)	花崗岩 ァ25 本磨き （モルタル下地）
	(ロ)	花崗岩 ァ25 ｼﾞｪｯﾄﾊﾞｰﾅｰ仕上 （モルタル下地）
巾木 ﾎﾞｰﾀﾞｰ	(ハ)	H=100 コンクリート打放し ＵＥ
壁	(ニ)	コンクリート打放しの上 石調デザイン吹付
天井	(ホ)	ＧＢ ァ9捨張、ＤＲ ァ19(リブ) ＬＧＳ下地

工作室(既存仕上)　CH=3,000

部位	符号	仕　上
床	(ヘ)	長尺塩ビシート ァ2.5(モルタル下地)
巾木	(ト)	H=60 ステンレス巾木 ァ2.0 HL
壁	(チ)	石綿セメント板 ァ6 目透し貼 ＥＰ(ＬＧＳ下地)
天井	(リ)	石綿セメント板 ァ6 目透し貼 ＥＰ(ＬＧＳ下地)
備考	入口階段部：一部軽量コンクリート ァ400直均し の上 全面モルタル金ゴテ ァ30 ﾛｰﾙｶｰﾍﾟｯﾄ数き 段鼻：ノンスリップ W=40 (タイヤ入)　※一部撤去 (K-4) 既存木製棚：一時取外し(移設) 一部:天井上GW 16kg ァ200撤去	

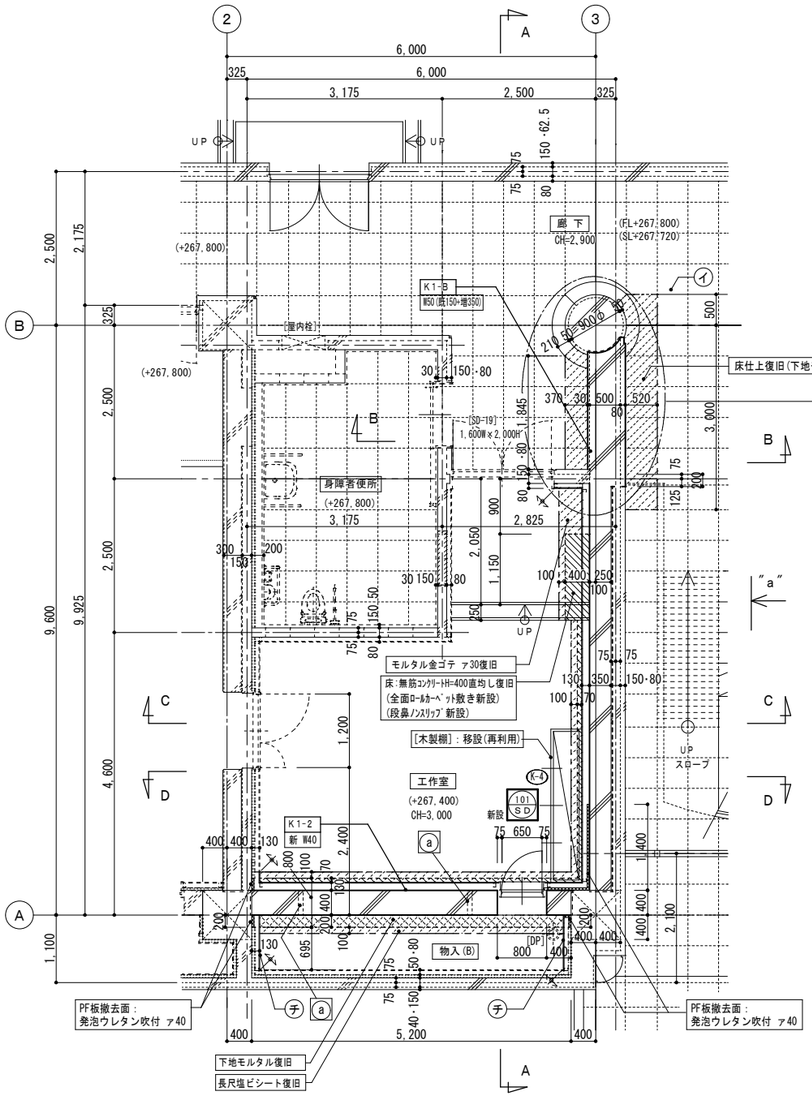
【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

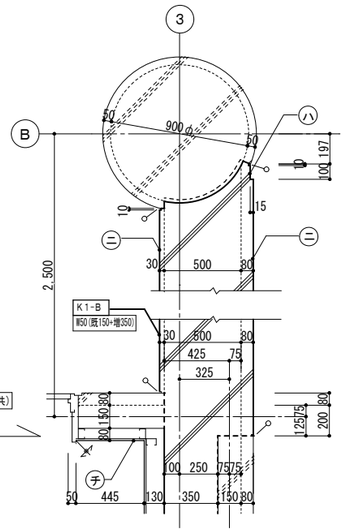
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名　称	K1-B、K1-2(1)(改修前)						
縮　尺	A1:1/50					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図　番	A-22
十勝中部広域水道企業団							

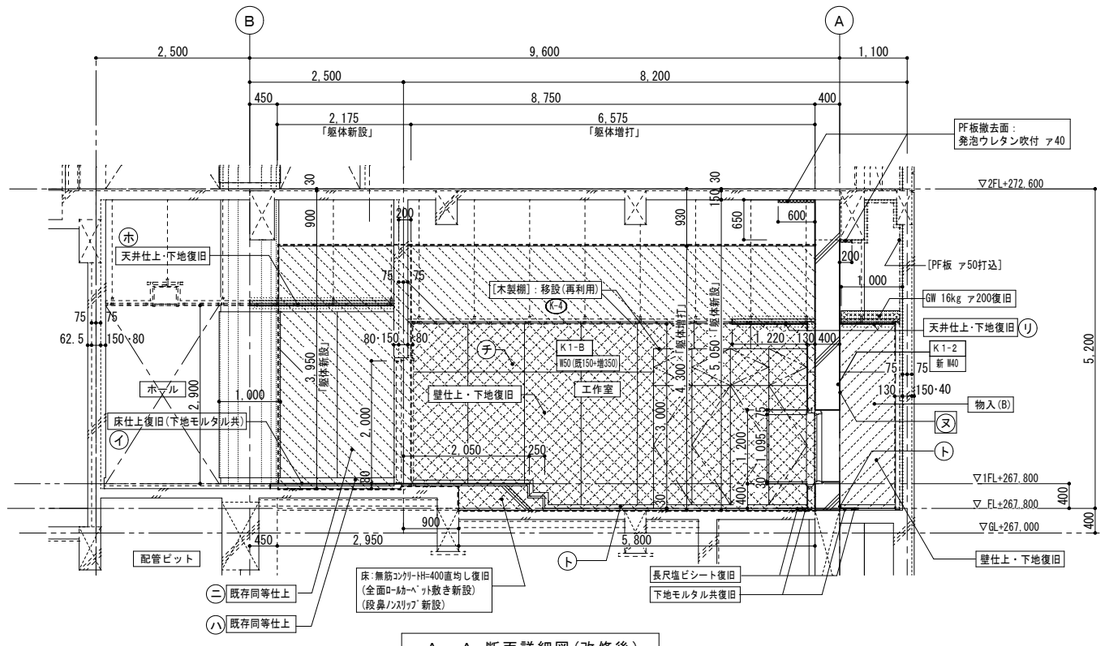
K１－B	１階　３通り　Ａ－Ｂ通り間(改修後)	K１－２	１階　Ａ通り　２－３通り間(改修後)



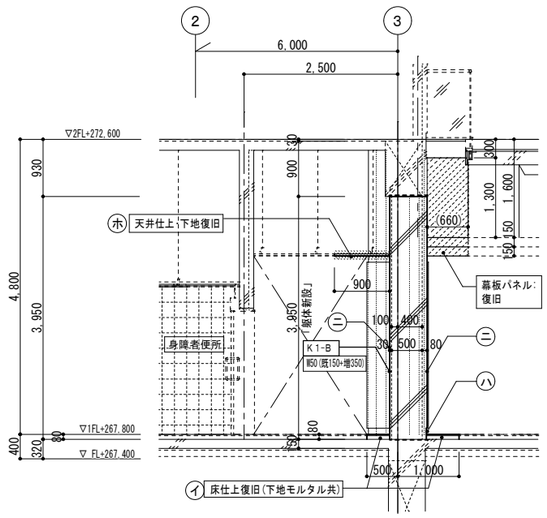
１階　２－３通　Ａ－Ｂ間　平面詳細図(改修後)



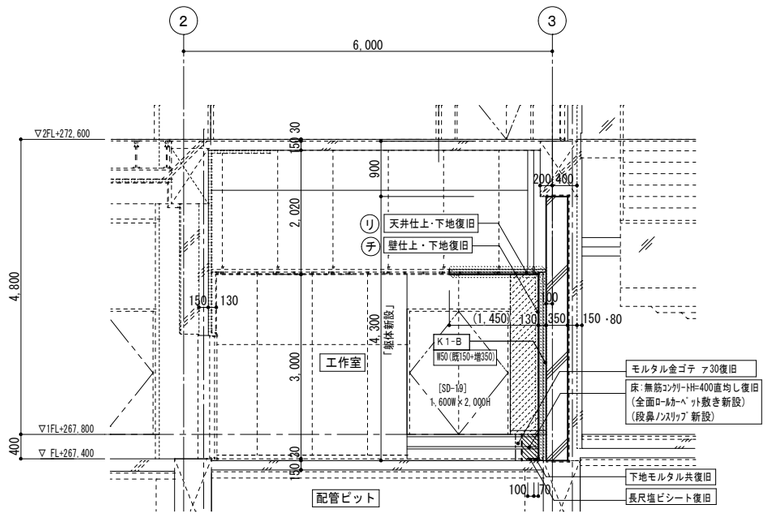
※ シーリング(10×10)PU-2を示す。



Ａ－Ａ　断面詳細図(改修後)



Ｂ－Ｂ　断面詳細図(改修後)



Ｃ－Ｃ　断面詳細図(改修後)

ホール(既存・改修仕上)　CH=2,900、7,600

部位	符号	仕　上
床	(イ)	花崗岩 ァ25 本磨き　(モルタル下地)
	(ロ)	花崗岩 ァ25 ｼﾞｪｯﾄﾊﾞｰﾅｰ仕上　(モルタル下地)
巾木 ﾎﾞｰﾀﾞｰ	(ハ)	H=100　コンクリート打放し ＵＥ ※改修はＮＡＤ
壁	(ニ)	コンクリート打放しの上 石調デザイン吹付
天井	(ホ)	ＧＢ ァ9捨張、ＤＲ ァ19(リブ)　ＬＧＳ下地

工作室(既存・改修仕上)　CH＝3,000

部位	符号	仕　上
床	(ヘ)	長尺塩ビシート ァ2.5(モルタル下地)
巾木	(ト)	H=60　ステンレス巾木　ァ2.0 HL
壁	(チ)	石綿セメント板 ァ6 目透し貼　ＥＰ(ＬＧＳ下地)
天井	(リ)	石綿セメント板 ァ6 目透し貼　ＥＰ(ＬＧＳ下地)
備考	入口階段部：一部軽量コンクリート ァ400直均し の上 全面モルタル金ゴテ ァ30 ﾛｰﾙｶｰﾍﾟｯﾄ敷き 段鼻：ノンスリップ W=40 (タイヤ入)　※復旧	
	(K-4) 既存木製棚：(移設)再利用	

物入(B)(既存「工作室」)(既存・改修仕上)　CH=3,000

部位	符号	仕　上
床	(イ)	長尺塩ビシート ァ2.5(モルタル下地)
巾木	(ト)	H=60　ステンレス巾木　ァ2.0 HL
壁	(チ)	石綿セメント板 ァ6 目透し貼　ＥＰ(ＬＧＳ下地)
	(ヌ)	新設躯体面:コンクリート打放し　ＥＰ
天井	(リ)	石綿セメント板 ァ6 目透し貼　ＥＰ(ＬＧＳ下地)
備考		天井上:GW　16kg ァ200復旧
	(a)	レジスター・ガラリ (DET-26)

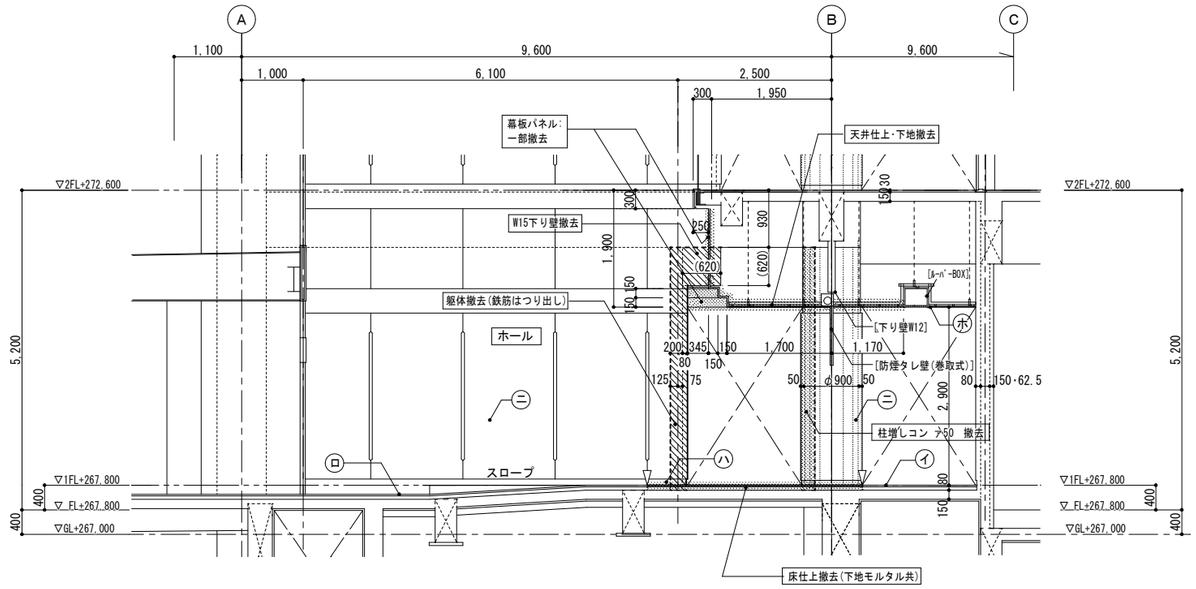
【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

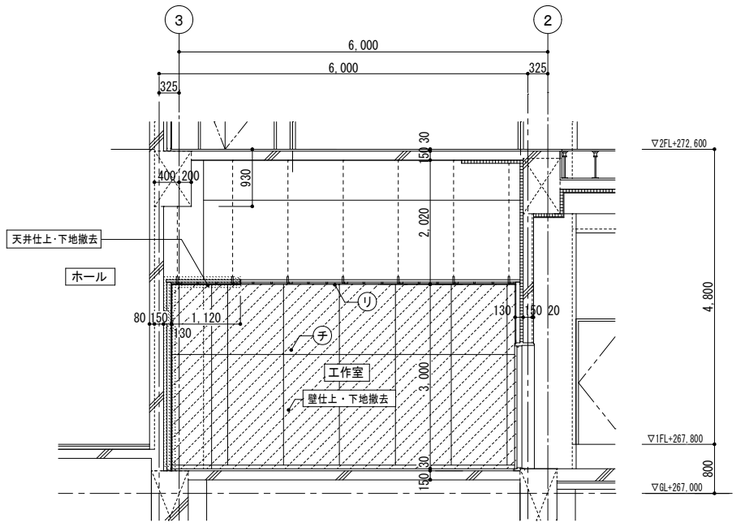
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名　称	K1-B、K1-2(2)(改修後)							
縮　尺	A1:1/50						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図　番	A-23
十勝中部広域水道企業団								

K１－B	１階　３通り　Ａ－Ｂ通り間(改修前)	K１－２	１階　Ａ通り　２－３通り間(改修前)



"ａ"－展開図(改修前)



Ｄ－Ｄ 断面詳細図(改修前)

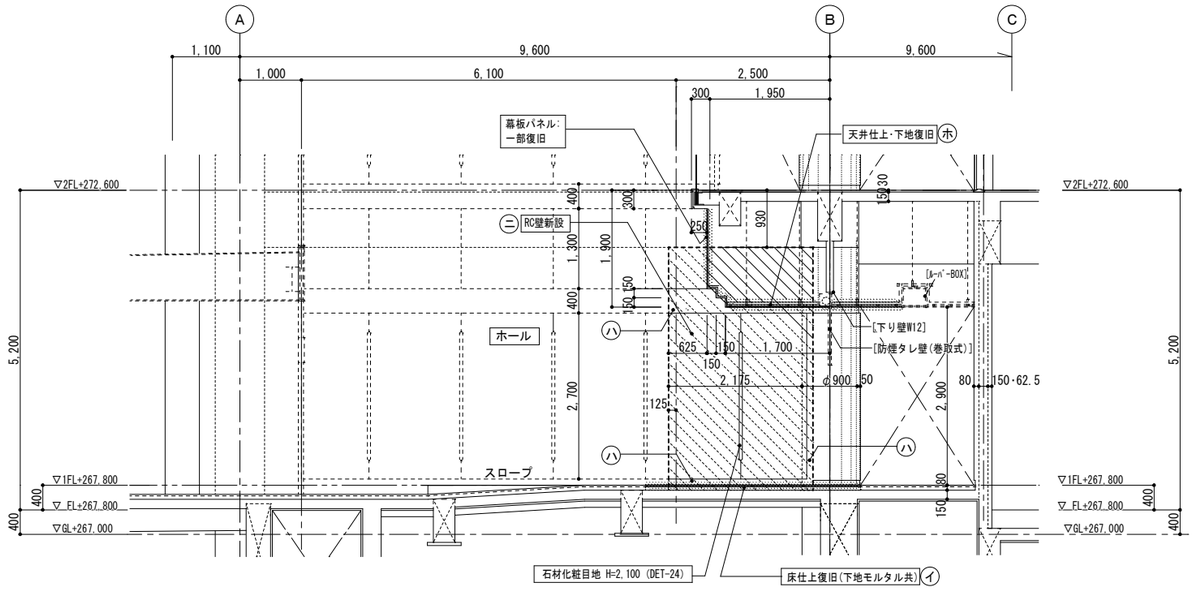
ホール(既存仕上)　CH=2,900、7,600

部位	符号	仕　上
床	イ	花崗岩 ｱ25 本磨き （モルタル下地）
	ロ	花崗岩 ｱ25 ｼﾞｪｯﾄﾊﾞｰﾅｰ仕上 （モルタル下地）
巾木ﾎﾞｰﾀﾞｰ	ハ	H=100 コンクリート打放し ＵＥ
壁	ニ	コンクリート打放しの上 石調デザイン吹付
天井	ホ	ＧＢ ｱ9捨張、ＤＲ ｱ19(リブ) ＬＧＳ下地

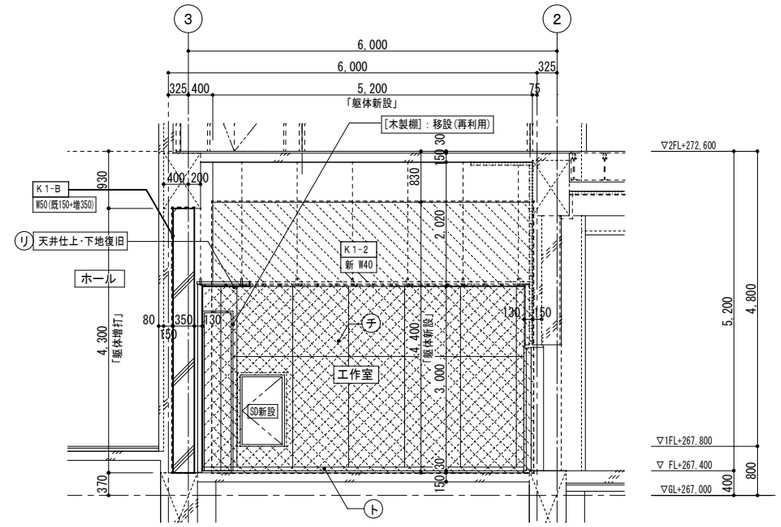
工作室(既存仕上)　CH＝3,000

部位	符号	仕　上
床	ヘ	長尺塩ビシート ｱ2.5(モルタル下地)
巾木	ト	H=60 ステンレス巾木 ｱ2.0 HL
壁	チ	石綿セメント板 ｱ6 目透し貼 ＥＰ(ＬＧＳ下地)
天井	リ	石綿セメント板 ｱ6 目透し貼 ＥＰ(ＬＧＳ下地)
備考	入口階段部：一部軽量コンクリート ｱ400直均し の上 全面モルタル金ゴテ ｱ30 ﾛｰﾙｶｰﾍﾟｯﾄ敷き 段鼻：ノンスリップ W=40（タイヤ入） ※一部撤去 K-4 既存木製棚：一時取外し(移設) 一部:天井上GW 16kg ｱ200撤去	

K１－B	１階　３通り　Ａ－Ｂ通り間(改修後)	K１－２	１階　Ａ通り　２－３通り間(改修後)



"ａ"－展開図(改修後)



Ｄ－Ｄ 断面詳細図(改修後)

ホール(既存・改修仕上)　CH=2,900、7,600

部位	符号	仕　上
床	イ	花崗岩 ｱ25 本磨き （モルタル下地）
	ロ	花崗岩 ｱ25 ｼﾞｪｯﾄﾊﾞｰﾅｰ仕上 （モルタル下地）
巾木ﾎﾞｰﾀﾞｰ	ハ	H=100 コンクリート打放し ＵＥ ※改修はＮＡＤ
壁	ニ	コンクリート打放しの上 石調デザイン吹付
天井	ホ	ＧＢ ｱ9.5捨張、ＤＲ ｱ19(リブ) ＬＧＳ下地

工作室(既存・改修仕上)　CH＝3,000

部位	符号	仕　上
床	ヘ	長尺塩ビシート ｱ2.5(モルタル下地)
巾木	ト	H=60 ステンレス巾木 ｱ2.0 HL
壁	チ	石綿セメント板 ｱ6 目透し貼 ＥＰ(ＬＧＳ下地)
天井	リ	石綿セメント板 ｱ6 目透し貼 ＥＰ(ＬＧＳ下地)
備考	入口階段部：一部軽量コンクリート ｱ400直均し の上 全面モルタル金ゴテ ｱ30 ﾛｰﾙｶｰﾍﾟｯﾄ敷き 段鼻：ノンスリップ W=40（タイヤ入） ※復旧 K-4 既存木製棚：(移設)再利用	

【注記】

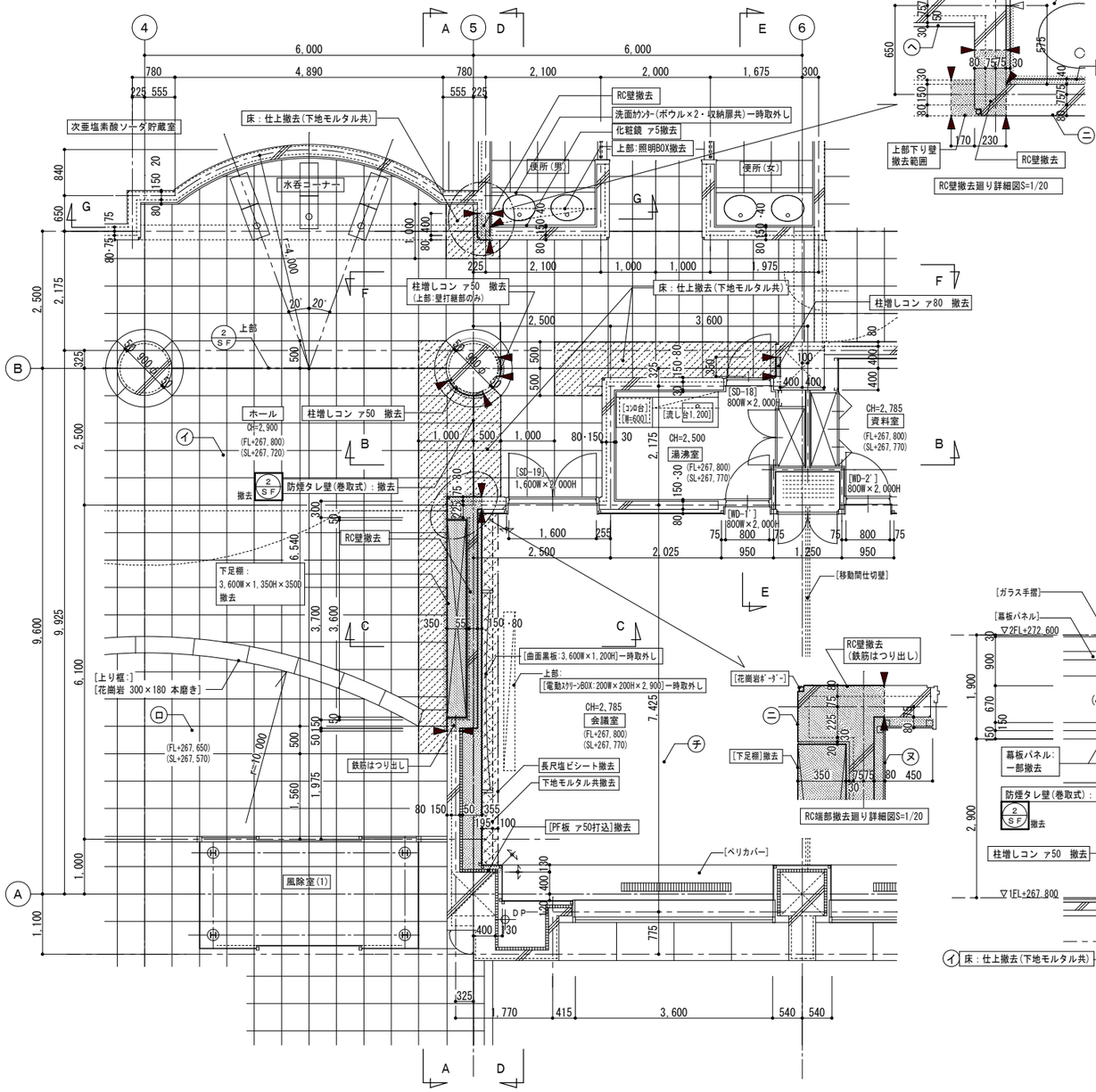
・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

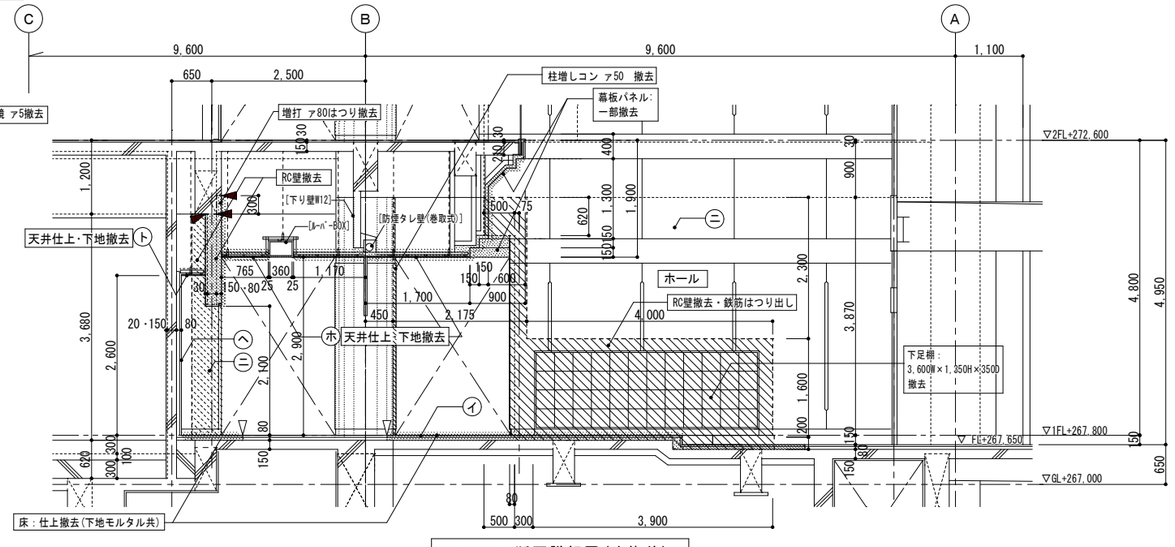
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名　称	K1-B、K1-2(3)(改修前・後)						
縮　尺	A1:1/50					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図　番	A-24

十勝中部広域水道企業団

K1－C	1階 5通り A－B通り間(改修前)	K1－D	1階 5通り A－B通り間(改修前)	K1－6	1階 B通り 5－6通り間(改修前)



1階 5－6通 A－B間 平面詳細図(改修前)



A－A 断面詳細図(改修前)

B－B 断面詳細図(改修前)

C－C 断面詳細図(改修前)

RC壁撤去廻り詳細図S=1/20

ホール・廊下(既存仕上) CH=2,900、7,600

部位	符号	仕上
床	(イ)	花崗岩 ｱ25 本磨き (モルタル下地)
	(ロ)	花崗岩 ｱ25 ｼﾞｪｯﾄﾊﾞｰﾅｰ仕上 (モルタル下地)
巾木ﾎﾞｰﾀﾞｰ	(ハ)	H=100 コンクリート打放し UE
壁	(ニ)	コンクリート打放しの上 石調デザイン吹付
天井	(ホ)	GB ｱ9捨張、DR ｱ19(リブ) LGS下地
備考		下足棚:3,600W×1,350H×350D 撤去 幕板パネル::一部撤去 上り框:花崗岩 300×180本磨き 一部撤去 天井照明ボックス:ｱﾙﾐﾙｰﾊﾞｰW360×25H

水呑コーナー(既存仕上) CH=2,600

部位	符号	仕上
床	(イ)	花崗岩 ｱ25 本磨き (モルタル下地)
巾木	—	————
壁	(ヘ)	デザインタイル貼 (モルタル下地)
天井	(ト)	GB ｱ9捨張、ダークミラー ｱ5 マット貼 LGS下地
備考		水呑器(RC躯体 花崗岩 ｱ20貼)×3台

会議室(既存仕上) CH=2,785

部位	符号	仕上
床	(チ)	長尺塩ビシート ｱ2.5(モルタル下地)
巾木	(リ)	H=60 ウォールナット練付材
壁	(ヌ)	GB ｱ12下地 難燃化粧合板(ウォールナット) 接着貼(目透し) 木下地組
天井	(ホ)	GB ｱ9捨張、DR ｱ19(リブ) LGS下地
備考		曲面黒板(3,600W×1200H) 一時取外し 電動ｽﾗｲﾝBOX(埋込型:200W×200H×2,900) 一時取外し

湯沸室(既存仕上) CH=2,500

部位	符号	仕上
床	(チ)	長尺塩ビシート ｱ2.5(モルタル下地)
巾木	—	————
壁	(ル)	磁器質タイル貼 100□ (モルタル下地)
天井	(ヲ)	石綿セメント板 ｱ6 目透し貼 VP(LGS下地)
備考		流し台:L=1,500 レンジフード:W=600 コンロ台:L=600 吊戸棚:L=1,200×600H×380D 水切棚:ｽﾃﾝﾚｽL=900 1段 ライニング笠木:W=100、L=1,500

便所(男)(既存仕上) CH=2,400

部位	符号	仕上
床	(ワ)	花崗岩 ｱ25 本磨き (モルタル下地) 塗膜防水下地
巾木	—	————
壁	(カ)	陶器質タイル 100×200 (モルタル下地)
天井	(ヨ)	石綿セメント板 ｱ6 スチップル仕上(LGS下地)
備考		洗面ｶｳﾝﾀｰ(ボウル×2・収納扉共)一時取外し 化粧鏡 ｱ5撤去 照明BOX撤去

【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

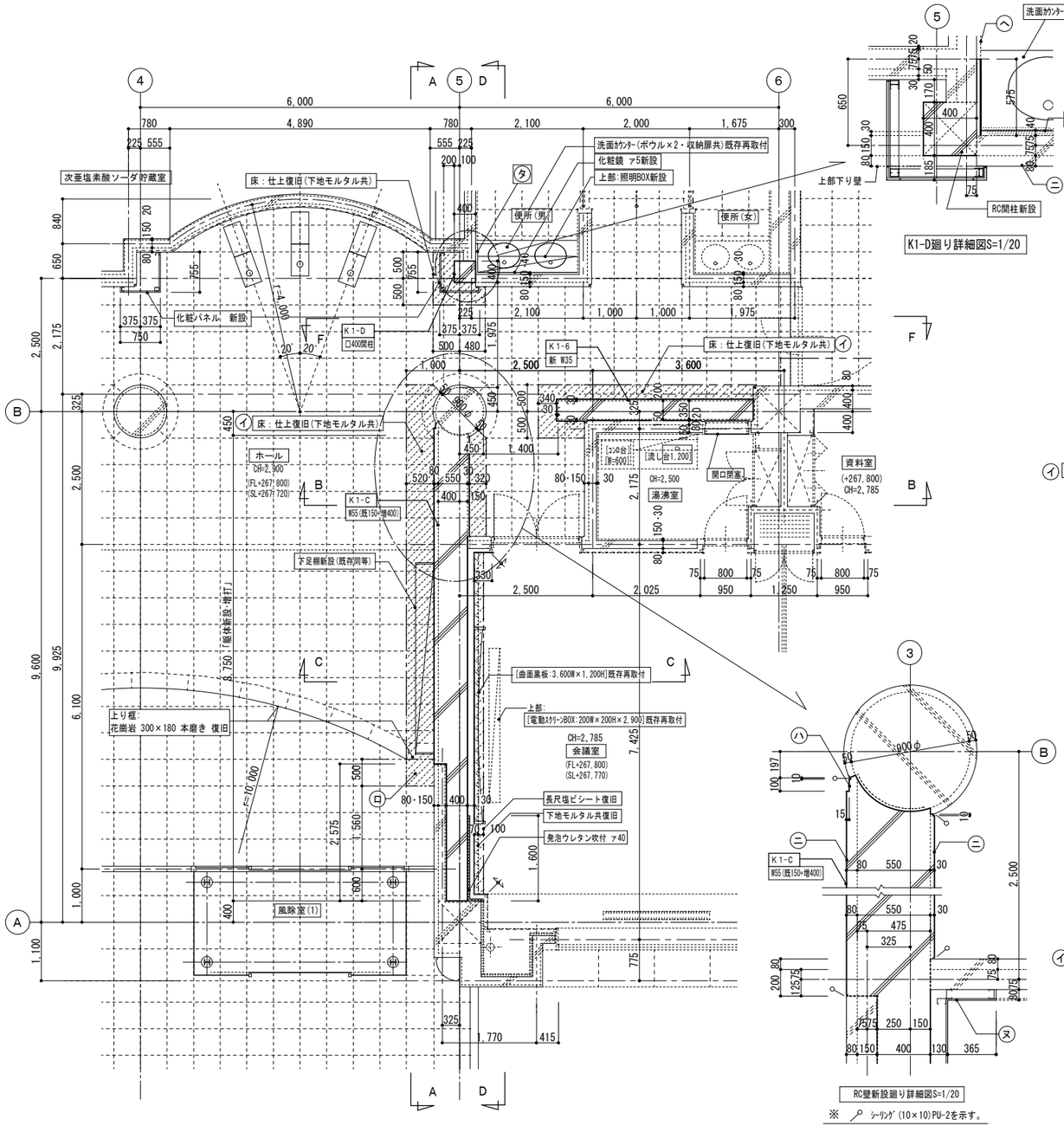
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	K1-C、K1-D、K1-6(1)(改修前)
縮尺	A1:1/50
製作年月日	
設計番号	
図番	A-25

承認印	局長	次長	課長	係長	係

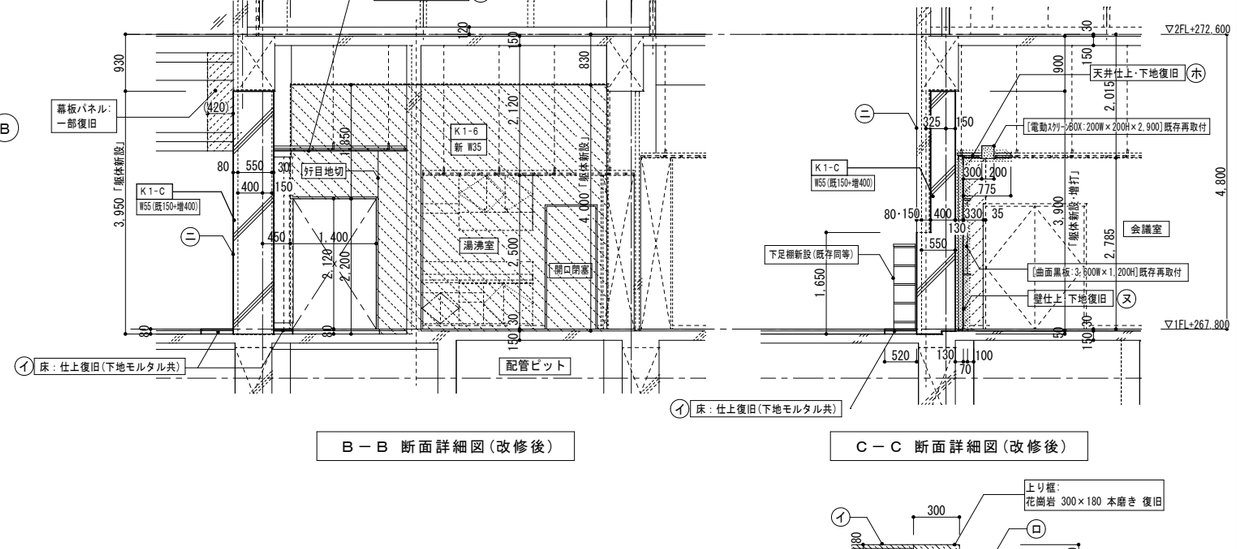
十勝中部広域水道企業団

K１－C	１階　５通り　Ａ－Ｂ通り間(改修後)	K１－D	１階　５通り　Ａ－Ｂ通り間(改修後)	K１－6	１階　Ｂ通り　５－６通り間(改修後)



K1-D廻り詳細図S=1/20

Ａ－Ａ 断面詳細図(改修後)



Ｂ－Ｂ 断面詳細図(改修後)

Ｃ－Ｃ 断面詳細図(改修後)

※ ｼｰﾘﾝｸﾞ(10×10)PU-2を示す。

１階　５－６通　Ａ－Ｂ間　平面詳細図(改修後)

ホール・廊下(既存・改修仕上)　CH=2,900、7,600

部位	符号	仕　上
床	(イ)	花崗岩 ｱ25 本磨き　(モルタル下地)
	(ロ)	花崗岩 ｱ25 ｼﾞｪｯﾄﾊﾞｰﾅｰ仕上　(モルタル下地)
巾木 ﾎﾞｰﾀﾞｰ	(ハ)	H=100　コンクリート打放し ＮＡＤ
壁	(ニ)	コンクリート打放しの上 石調デザイン吹付
天井	(ホ)	ＧＢ ｱ9.5捨張、ＤＲ ｱ19(リブ)　ＬＧＳ下地
備考		下足棚:3,600W×1,350H×350D　新設(既存同等) 幕板パネル:復旧 上り框:花崗岩 300×180本磨き　復旧 化粧パネル　新設 天井照明ボックス:ｱﾙﾐﾙｰﾊﾞｰW360×25H

水呑コーナー(既存・改修仕上)　CH=2,600

部位	符号	仕　上
床	(イ)	花崗岩 ｱ25 本磨き　(モルタル下地)
巾木	―	――――
壁	(ヘ)	デザインタイル貼　(モルタル下地)
天井	(ト)	ＧＢ ｱ9.5捨張、ダークミラー ｱ5 マット貼 ＬＧＳ下地
備考		水呑器(RC躯体　花崗岩 ｱ20貼)×3台

会議室(既存・改修仕上)　CH=2,785

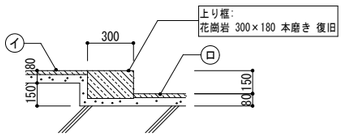
部位	符号	仕　上
床	(チ)	長尺塩ビシート ｱ2.5(モルタル下地)
巾木	(リ)	H=60　ウォールナット練付材
壁	(ヌ)	ＧＢ ｱ12.5下地　難燃化粧合板(ウォールナット) 接着貼(目透し)　ＬＧＳ下地
天井	(ホ)	ＧＢ ｱ9.5捨張、ＤＲ ｱ19(リブ)　ＬＧＳ下地
備考		曲面黒板(3,600W×1200H)　一時取外し 電動ｽｸﾘｰﾝBOX(埋込型:200W×200H×2,900)　一時取外し

湯沸室(既存・改修仕上)　CH=2,500

部位	符号	仕　上
床	(チ)	長尺塩ビシート ｱ2.5(モルタル下地)
巾木	―	――――
壁	(ル)	磁器質タイル貼　100□　(モルタル下地)
天井	(ヲ)	石綿セメント板 ｱ6 目透し貼　ＶＰ(ＬＧＳ下地)
備考		流し台：L=1,500　　レンジフード：W=600 コンロ台:L=600 吊戸棚:L=1,200×600H×380D 水切棚：ｽﾃﾝﾚｽL=900 1段 ライニング笠木:W=100、L=1,500

便所(男)(既存・改修仕上) CH=2,400

部位	符号	仕　上
床	(ワ)	花崗岩 ｱ25 本磨き　(モルタル下地) 塗膜防水下地
巾木	―	――――
壁	(カ)	陶器質タイル　100×200　(モルタル下地)
	(タ)	GB-S ｱ12.5捨張(直張り)　着色ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ ｱ4 (ｼﾞｮｲﾅｰ併用)
天井	(ヨ)	石綿セメント板 ｱ6　スチップル仕上　(ＬＧＳ下地)
備考		洗面ｶｳﾝﾀｰ(ボウル×2・収納扉共)既存再取付 化粧鏡 ｱ5新設 照明BOX新設



【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

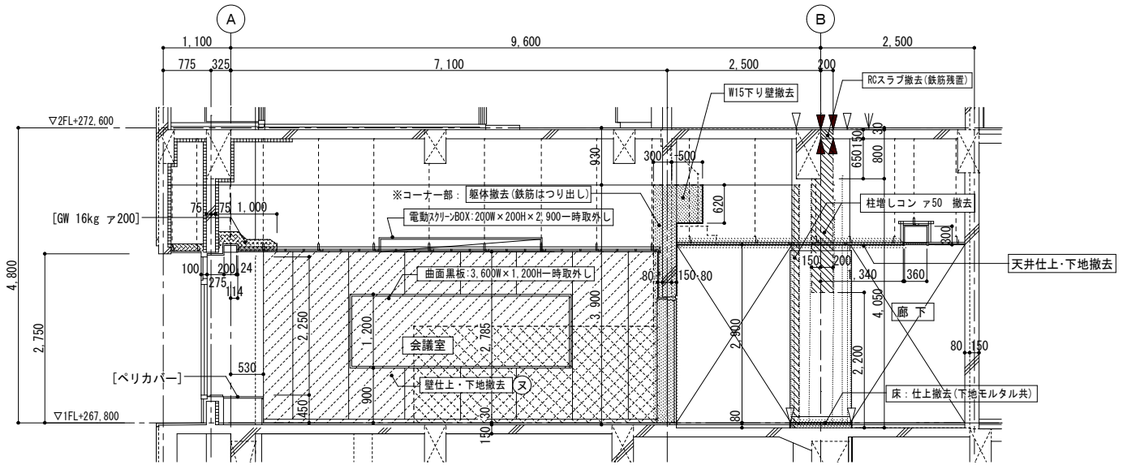
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名　称	K1-C、K1-D、K1-6(2)(改修後)
縮　尺	A1:1/50
製作年月日	
設計番号	
図　番	A-26

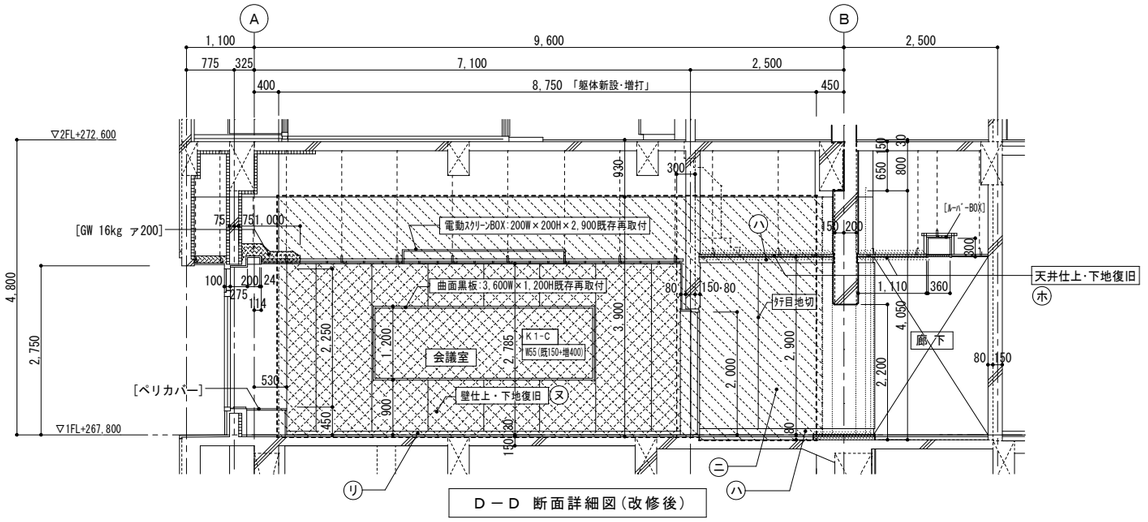
承認印	局長	次長	課長	係長	係

十勝中部広域水道企業団

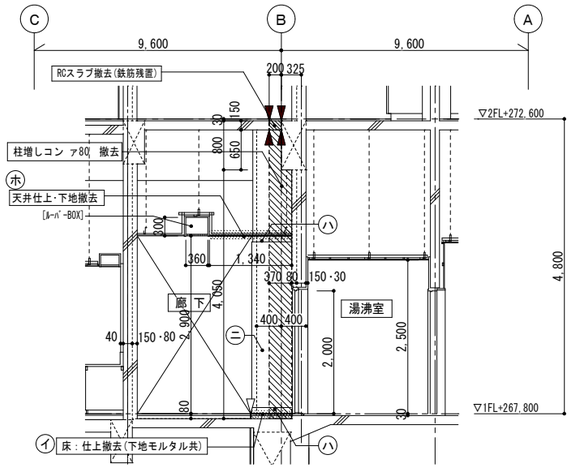
K１－C	１階 ５通り Ａ－Ｂ通り間(改修前)	K１－６	１階 Ｂ通り ５－６通り間(改修前)
K１－D	１階 ５通り Ａ－Ｂ通り間(改修前)		



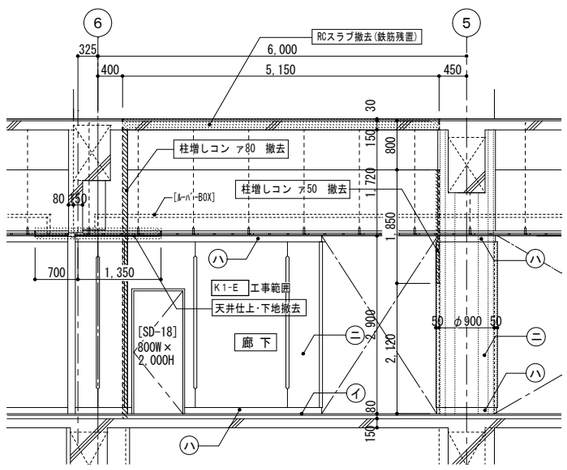
Ｄ－Ｄ 断面詳細図(改修前)



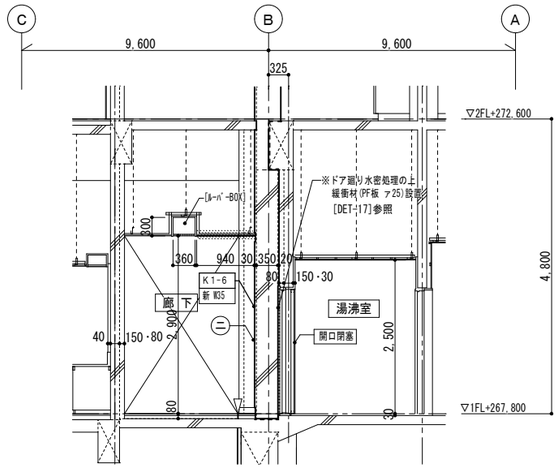
Ｄ－Ｄ 断面詳細図(改修後)



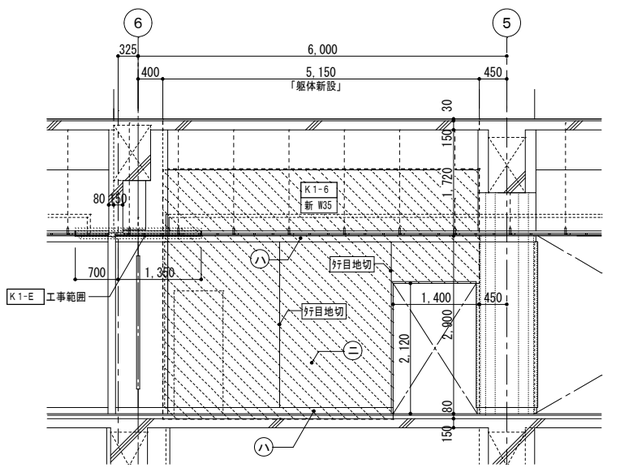
Ｅ－Ｅ 断面詳細図(改修前)



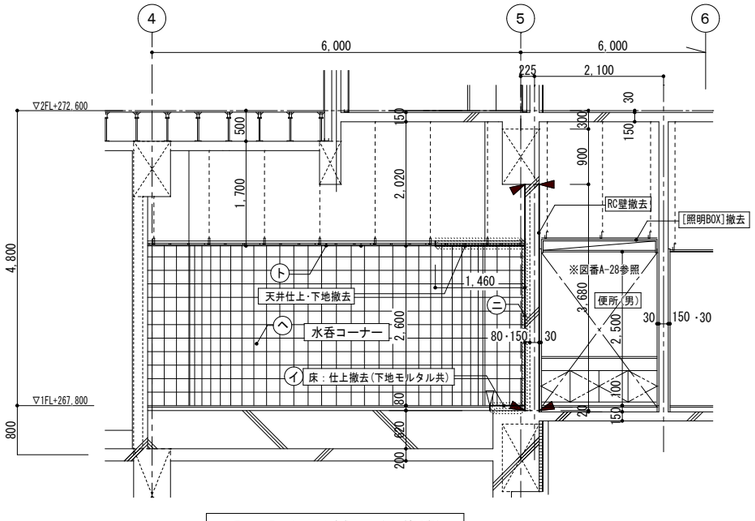
Ｆ－Ｆ 断面詳細図(改修前)



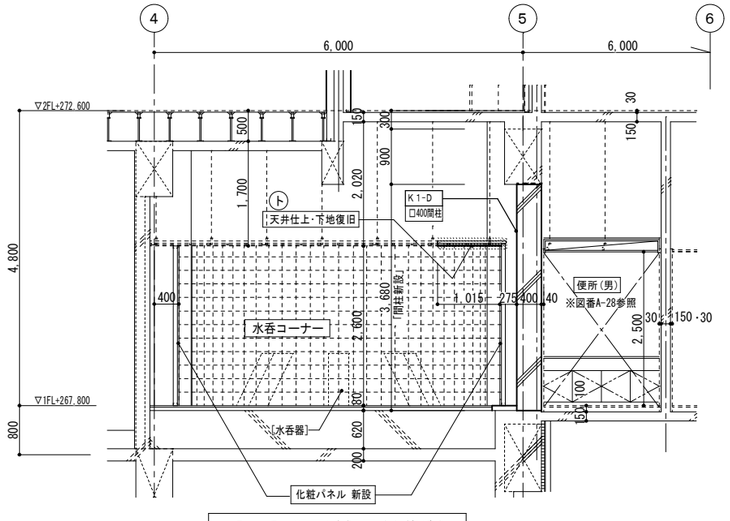
Ｅ－Ｅ 断面詳細図(改修後)



Ｆ－Ｆ 断面詳細図(改修後)



Ｇ－Ｇ 断面詳細図(改修前)



Ｇ－Ｇ 断面詳細図(改修後)

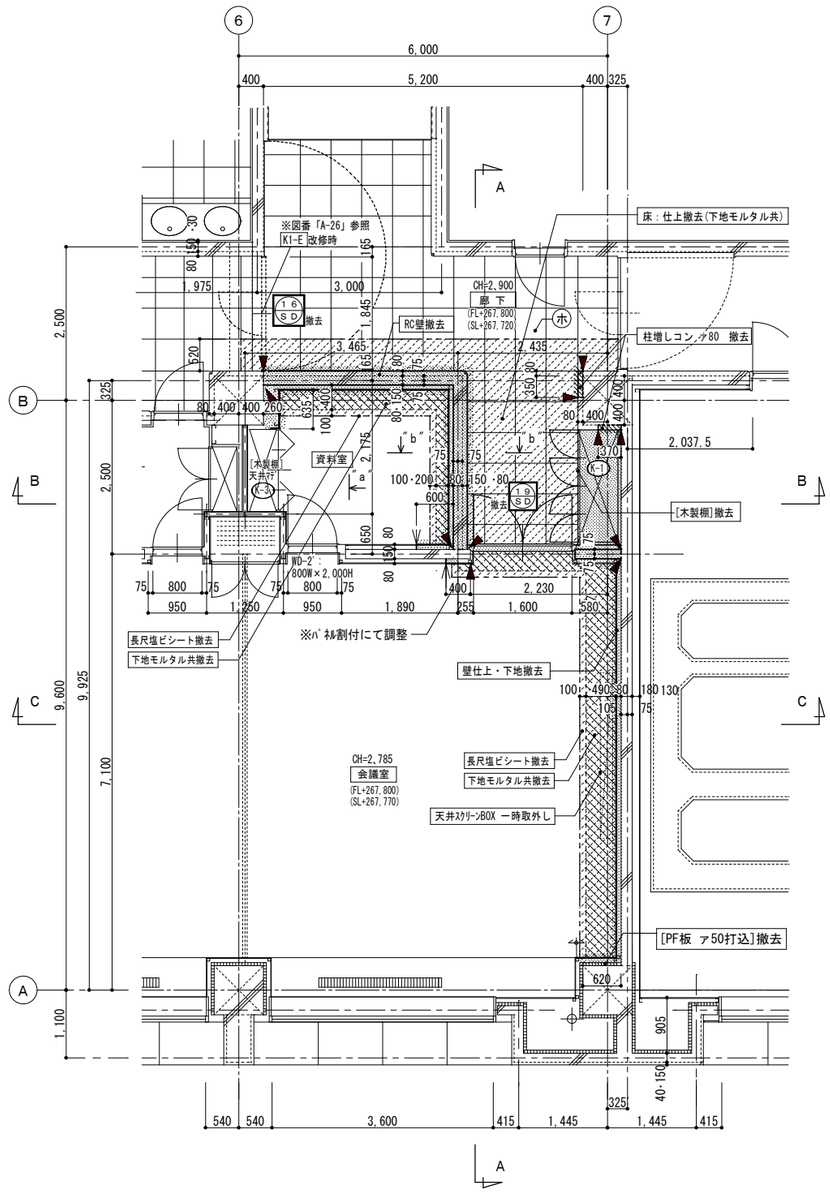
【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

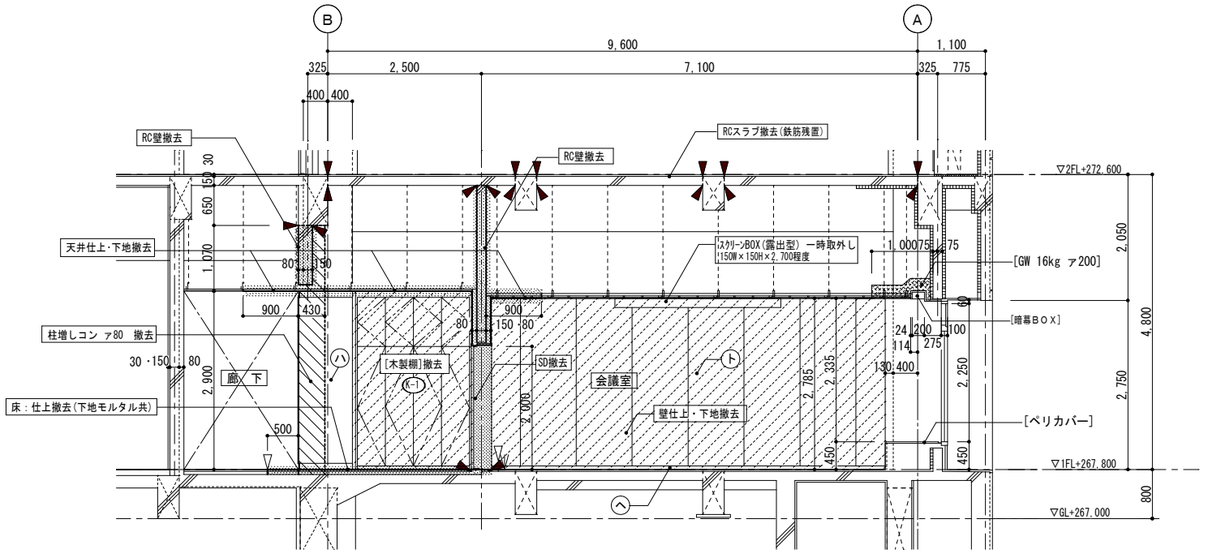
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	K1-C、K1-D、K1-6 (3) (改修前・後)							
縮尺	A1:1/50						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	A-27
十勝中部広域水道企業団								

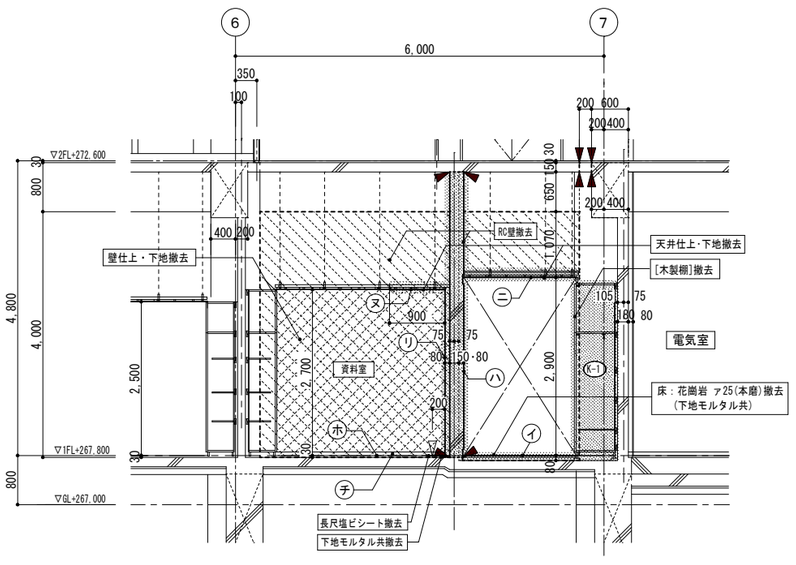
K1－F	1階 7通り A－B通り間(改修前)	K1－7	1階 B通り 6－7通り間(改修前)



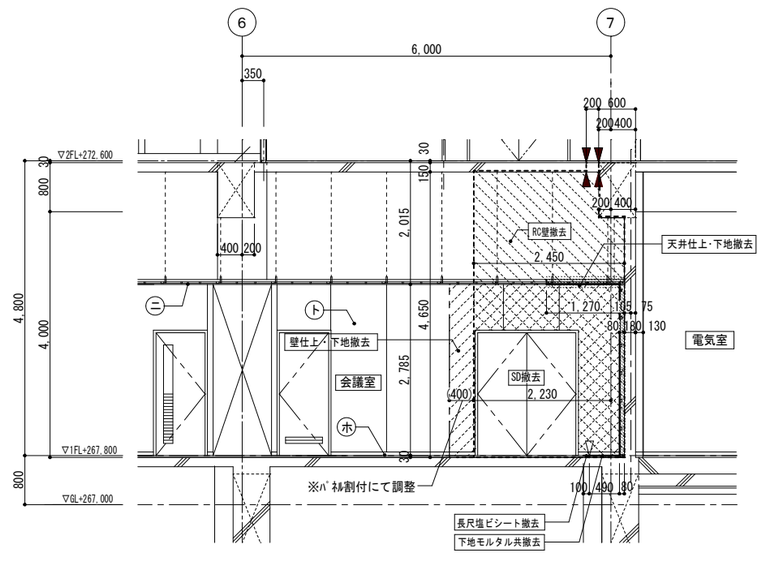
1階 6－7通 A－B通間 平面詳細図(改修前)



Ａ－Ａ 断面詳細図(改修前)



Ｂ－Ｂ 断面詳細図(改修前)



Ｃ－Ｃ 断面詳細図(改修前)

廊 下(既存仕上) CH=2,900

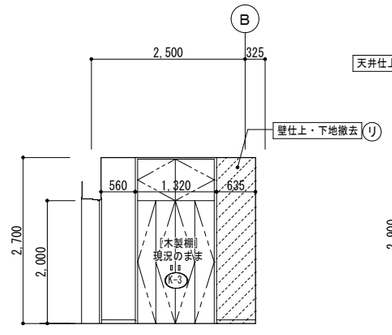
部位	符号	仕 上
床	(イ)	花崗岩 ァ25 本磨き (モルタル下地)
巾木 ﾎﾞｰﾀﾞｰ	(ロ)	H=100 コンクリート打放し UE
壁	(ハ)	コンクリート打放しの上 石調デザイン吹付
天井	(ニ)	GB ァ9捨張、DR ァ19(リブ) LGS下地
備考	(K-1) 木製棚撤去	

会議室(既存仕上) CH=2,785

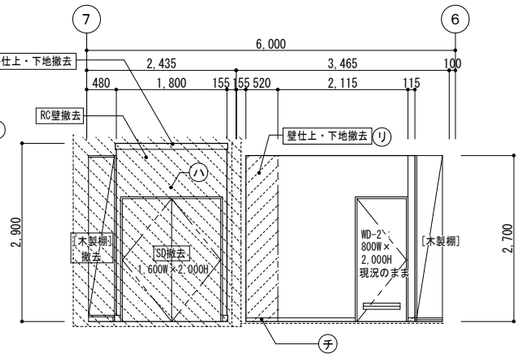
部位	符号	仕 上
床	(ホ)	長尺塩ビシート ァ2.5(モルタル下地)
巾木	(ヘ)	H=60 ウォールナット練付材
壁	(ト)	GB ァ12下地 難燃化粧合板(ウォールナット) 接着貼(目透し) 木下地組
天井	(ニ)	GB ァ9捨張、DR ァ19(リブ) LGS下地
備考	ｽｸﾘｰﾝBOX(露出型:150W×150H×2,700) 一時取外し	

資料室(既存仕上) CH=2,700

部位	符号	仕 上
床	(ホ)	長尺塩ビシート ァ2.5(モルタル下地)
巾木	(チ)	H=60 ビニール巾木
壁	(リ)	ＪＴＢ ァ12 ＥＰ ＬＧＳ下地
天井	(ヌ)	石綿セメント板 ァ6 目透し張 ＶＰ



ａ″－展開図(改修前)



ｂ″－展開図(改修前)

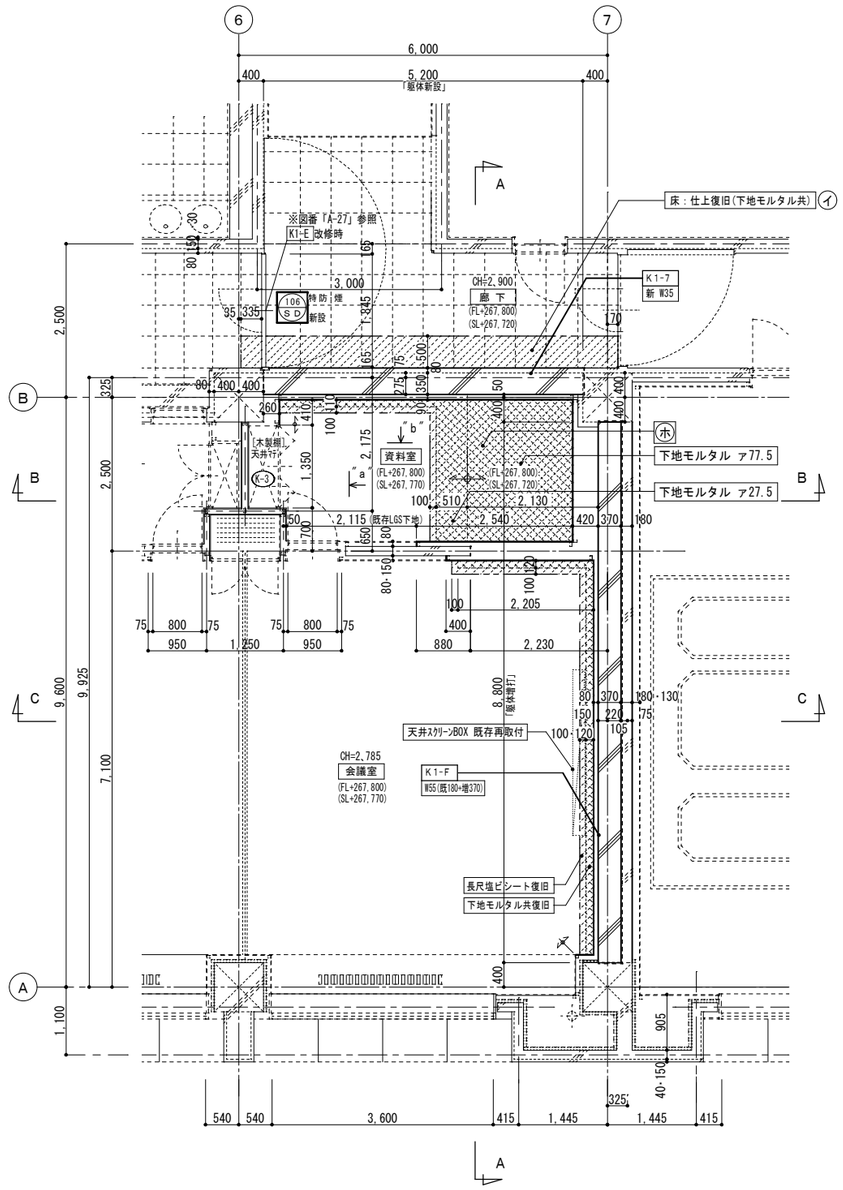
【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

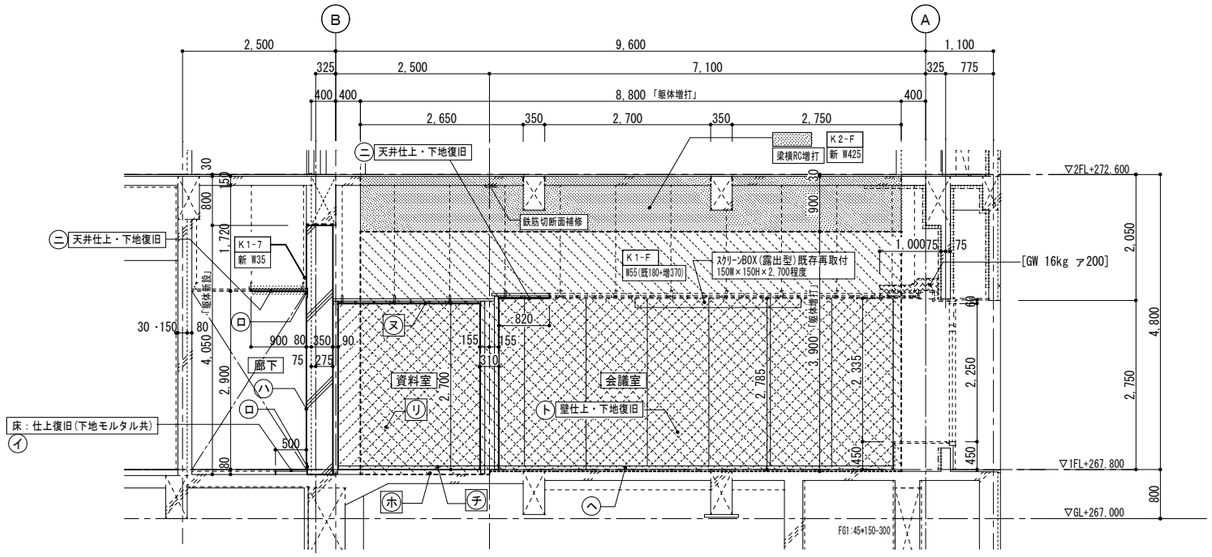
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業		
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事		
名称	K1-F、K1-7(1)(改修前)		
縮尺	A1:1/50	製作年月日	
承認印	局長 / 次長 / 課長 / 係長 / 係	設計番号	
		図番	A-28
十勝中部広域水道企業団			

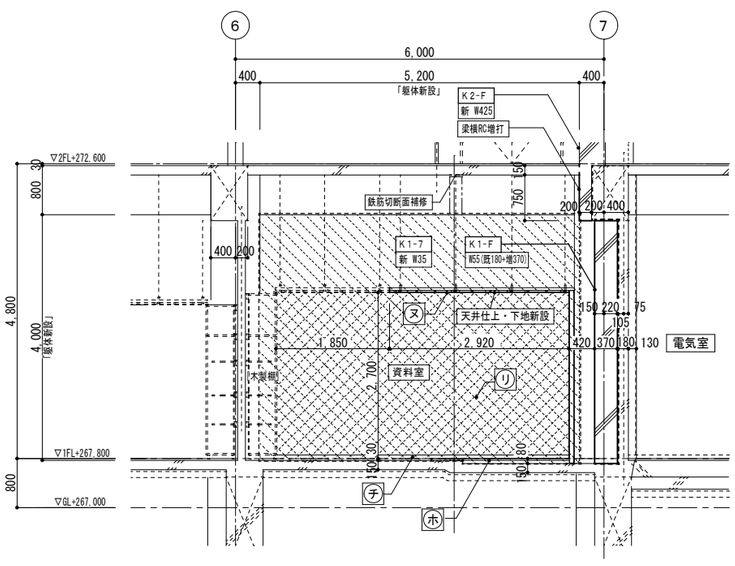
K１－F	１階　７通り　Ａ－Ｂ通り間(改修後)	K１－７	１階　Ｂ通り　６－７通り間(改修後)



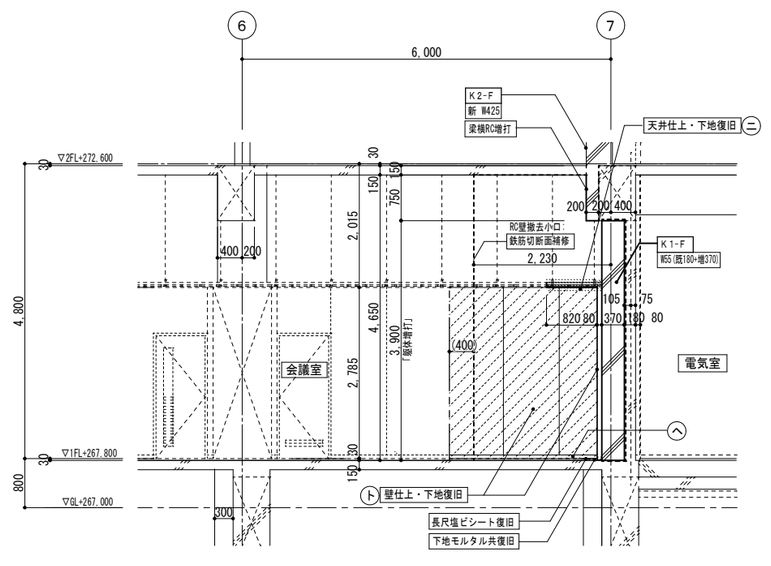
１階　６－7通　Ａ－Ｂ通間　平面詳細図(改修後)



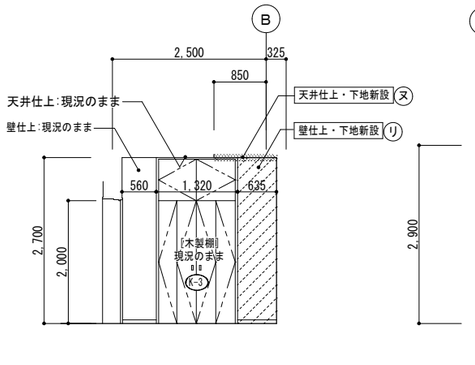
Ａ－Ａ　断面詳細図(改修後)



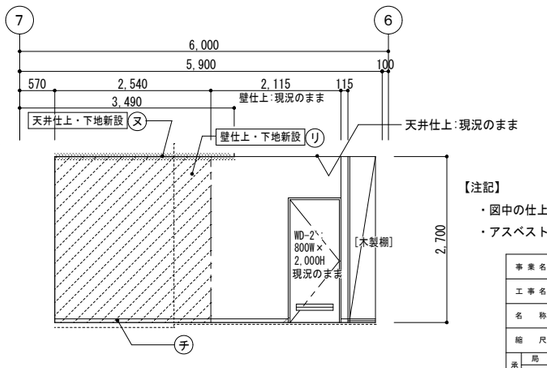
Ｂ－Ｂ　断面詳細図(改修後)



Ｃ－Ｃ　断面詳細図(改修後)



ａ″－展開図(改修前)



ｂ″－展開図(改修前)

廊 下(既存・改修仕上)　CH=2,900

部位	符号	仕　上
床	イ	花崗岩 ァ25 本磨き (モルタル下地)
巾木 ﾎﾞｰﾀﾞｰ	ロ	H=100　コンクリート打放し ＮＡＤ
壁	ハ	コンクリート打放しの上 石調デザイン吹付
天井	ニ	ＧＢ ァ9.5捨張、ＤＲ ァ19(リブ)　ＬＧＳ下地

会議室(既存・改修仕上)　CH=2,785

部位	符号	仕　上
床	ホ	長尺塩ビシート ァ2.5(モルタル下地)
巾木	ヘ	H=60　ウォールナット練付材
壁	ト	ＧＢ ァ12.5下地　不燃化粧合板(ウォールナット)接着貼(目透し)　ＬＧＳ下地
天井	ニ	ＧＢ ァ9.5捨張、ＤＲ ァ19(リブ)　ＬＧＳ下地
備考		ｽｸﾘｰﾝBOX(露出型:150W×150H×2,700)　既存再取付

資料室(改修仕上)　CH=2,700

部位	符号	仕　上
床	ヌ	長尺塩ビシート ァ2.5(既存モルタル下地) (一部:モルタル金ゴテ新設 ァ27.5、 ァ77.5)
巾木	チ	H=60　ビニール巾木
壁	リ	ＪＴＢ ァ12.5　ＥＰ　ＬＧＳ下地
天井	ヌ	石綿セメント板 ァ6　目透し張　ＮＡＤ　ＬＧＳ下地

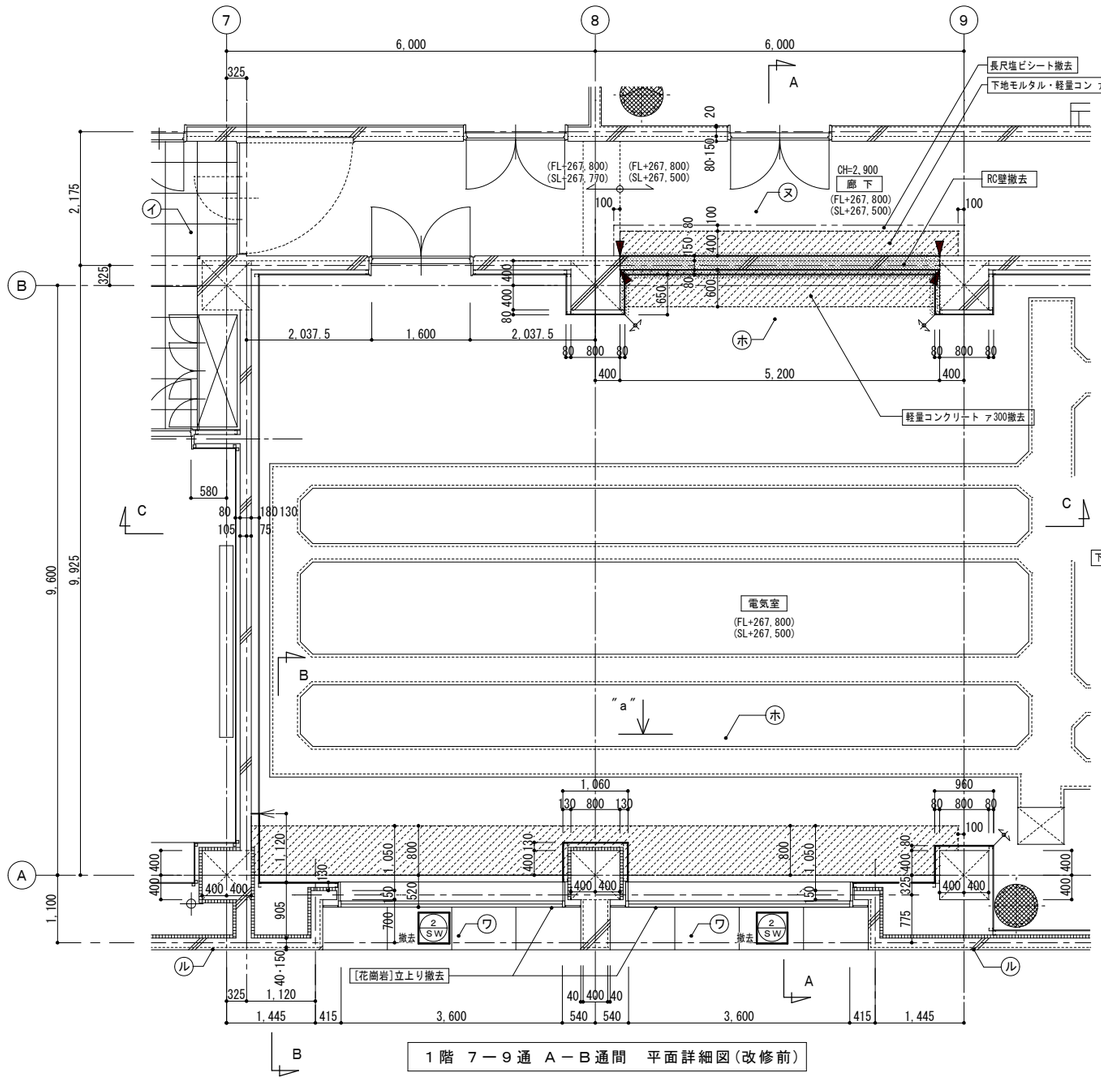
【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

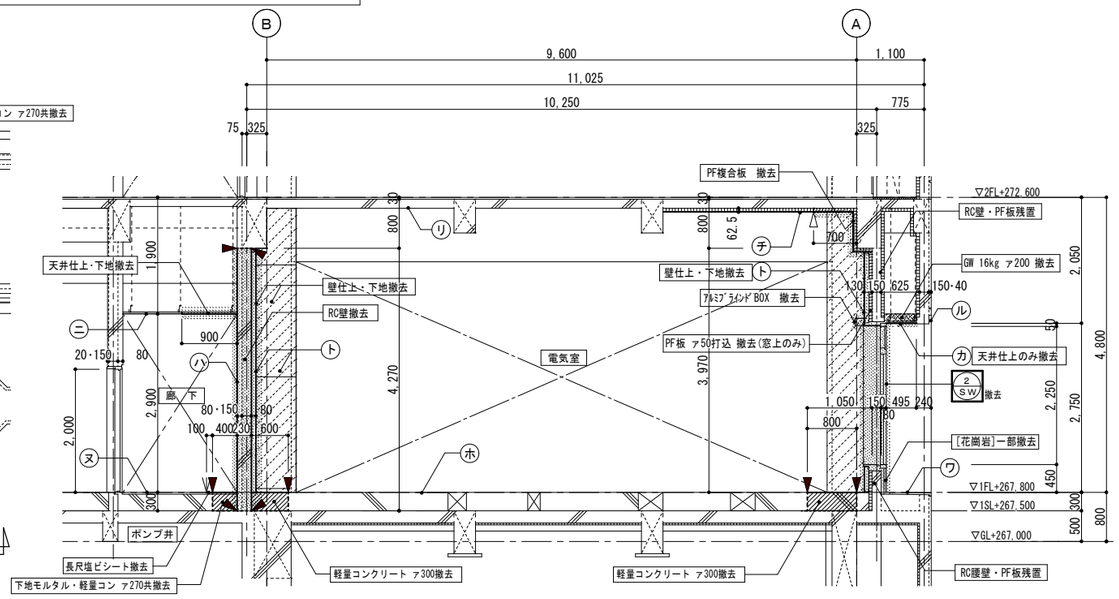
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名　称	K1-F、K1-7(2)(改修後)						
縮　尺	A1:1/50					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図　番	A-29
十勝中部広域水道企業団							

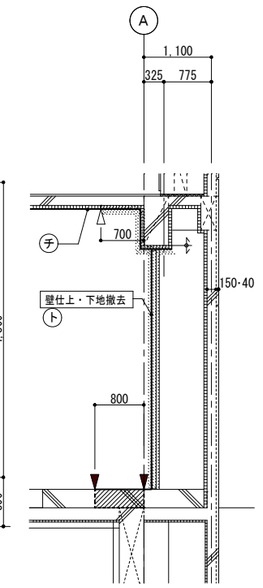
K１－３	１階 Ａ通り ７－８通り間(改修前)	K１－４	１階 Ａ通り ８－９通り間(改修前)	K１－８	１階 Ｂ通り ８－９通り間(改修前)



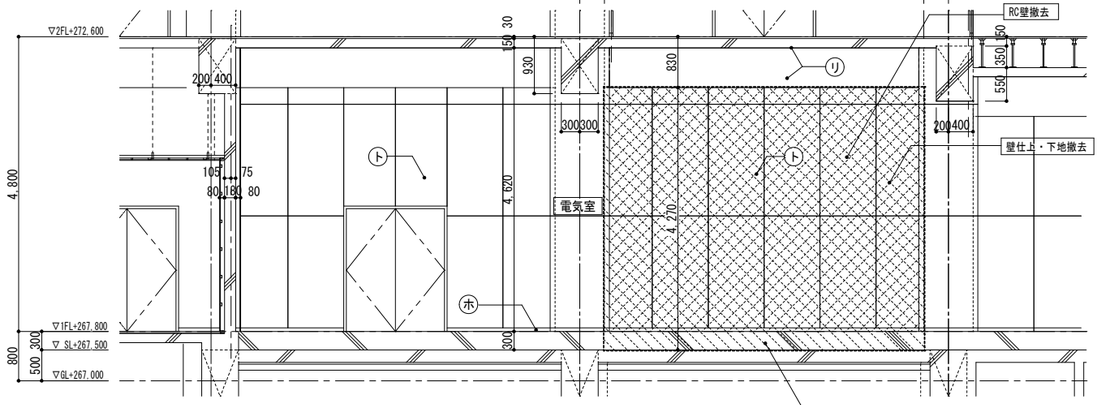
１階 ７－９通 Ａ－Ｂ通間 平面詳細図(改修前)



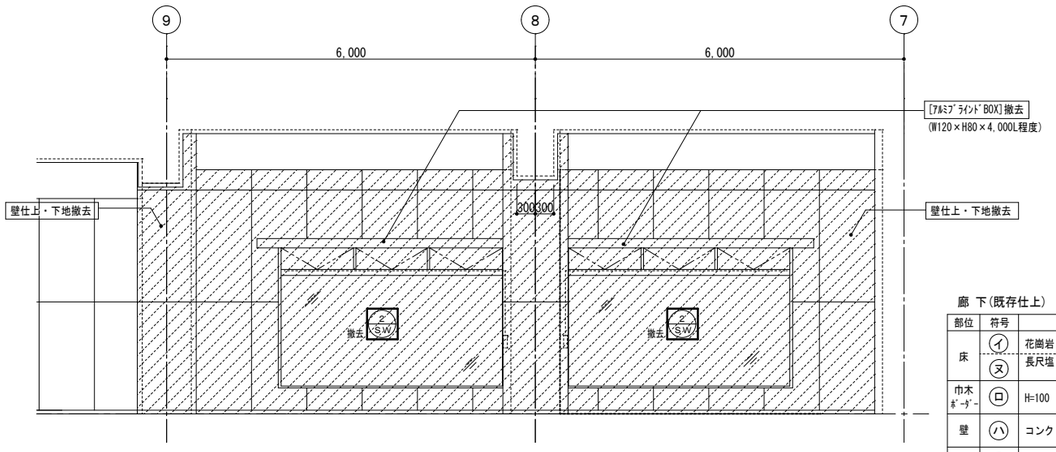
Ａ－Ａ 断面詳細図(改修前)



Ｂ－Ｂ 断面詳細図(改修前)



Ｃ－Ｃ 断面詳細図(改修前)



"ａ"－展開図(改修前)

廊 下(既存仕上) CH=2,900

部位	符号	仕 上
床	イ	花崗岩 ァ25 本磨き (モルタル下地)
	ヌ	長尺塩ビシート ァ2.5(モルタル下地) 軽量コンクリート ァ270直均し下地
巾木 ﾎﾞｰﾀﾞｰ	ロ	H=100 コンクリート打放し ＵＥ
壁	ハ	コンクリート打放しの上 弾性吹付タイル
天井	ニ	ＧＢ ァ9捨張、ＤＲ ァ19(リブ) ＬＧＳ下地

電気室(既存仕上) 直天井

部位	符号	仕 上
床	ホ	軽量コンクリート ァ300直均し ウレタン系塗床 ァ2.0(ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ工法)
巾木	ヘ	H=60 ステンレス巾木 ァ2.0 HL
壁	ト	石綿セメント板 ァ6 弾性吹付タイル (ＬＧＳ下地)
天井	チ	ＰＦ複合板 ァ62.5打込の上 軽量骨材吹付 ァ5
	リ	コンクリート打放しの上 軽量骨材吹付 ァ5

外部(既存仕上)

部位	符号	仕 上
外壁	ル	コンクリート打放し目地切仕上 弾性吹付タイル
腰壁	ヲ	コンクリート打放し
腰壁天端	ワ	花崗岩 ァ25 本磨き (モルタル下地)
軒天	カ	石綿セメント板 ァ6 目透シ貼 ＶＰ (ＬＧＳ下地)
備考		腰壁天端：花崗岩 一部撤去 GW 16kg ァ200撤去

【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

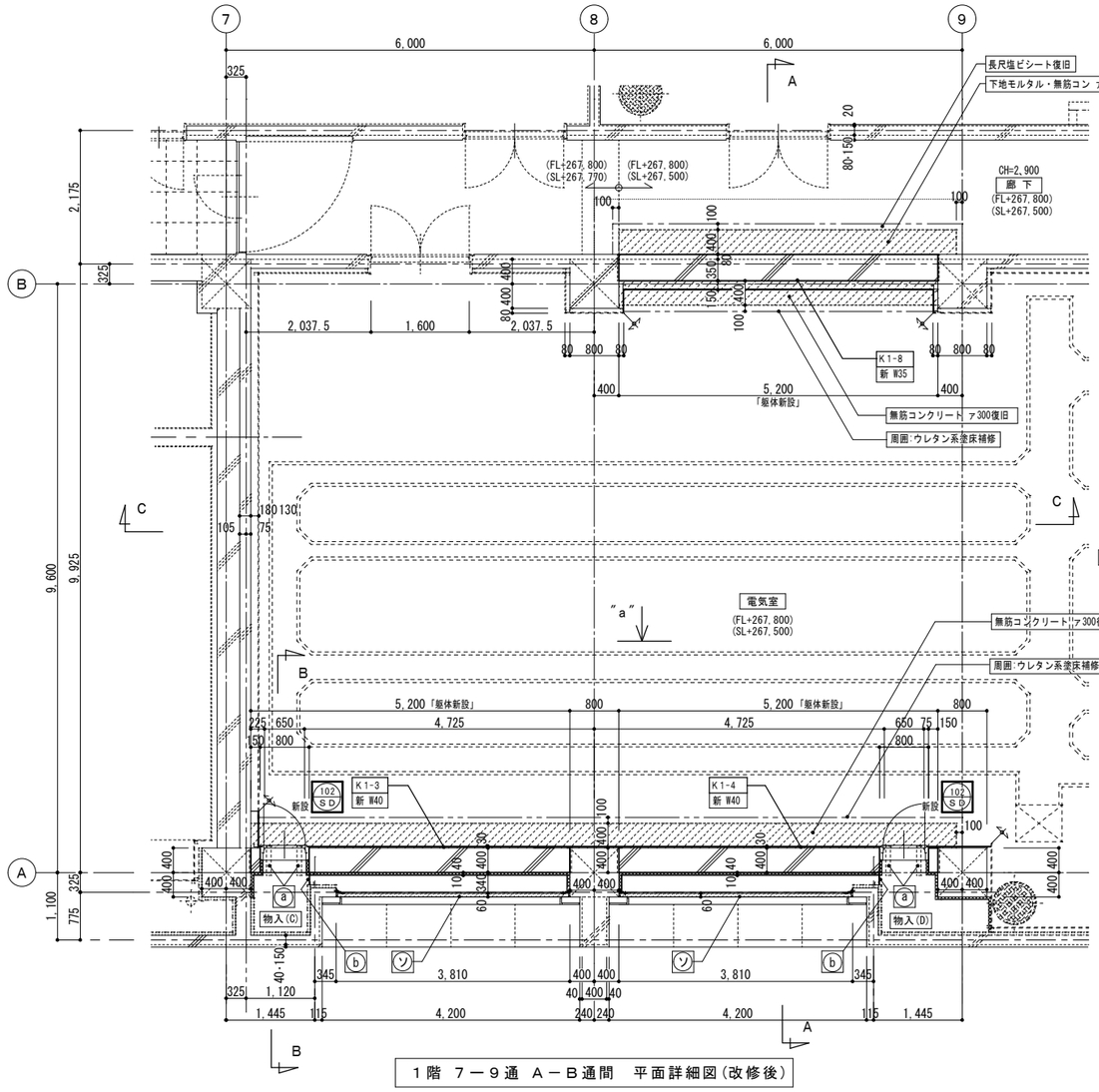
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名 称	K1-3、K1-4、K1-8(1)(改修前)
縮 尺	A1:1/50
製作年月日	
設計番号	
図 番	A-30

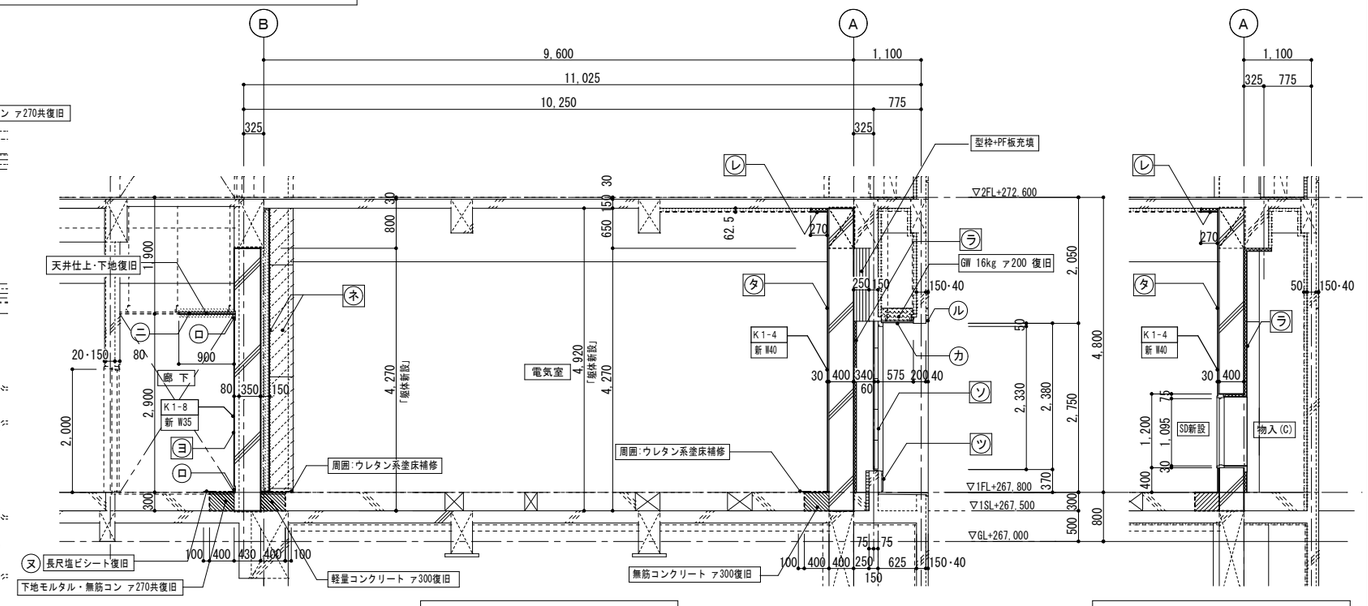
承認印	局長	次長	課長	係長	係

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団

K１－３	１階　Ａ通り　７－８通り間(改修後)	K１－４	１階　Ａ通り　８－９通り間(改修後)	K１－８	１階　Ｂ通り　８－９通り間(改修後)



１階　７－９通　Ａ－Ｂ通間　平面詳細図(改修後)



Ａ－Ａ　断面詳細図(改修後)

Ｂ－Ｂ　断面詳細図(改修後)

Ｃ－Ｃ　断面詳細図(改修後)

"ａ"ー展開図(改修後)

廊 下(既存・改修仕上)　CH=2,900

部位	符号	仕　上
床	(イ)	花崗岩 ァ25 本磨き (モルタル下地)
	(ヌ)	長尺塩ビシート ァ2.5(モルタル下地) 軽量コンクリート ァ270直均し下地
巾木 ガーダー	(ロ)	H=100　コンクリート打放し ＵＥ　※改修はＮＡＤ
壁	(ハ)	コンクリート打放しの上 弾性吹付タイル
	(ヨ)	コンクリート打放しの上 複層塗材(Ｅ)
天井	(ニ)	ＧＢ ァ9捨張、ＤＲ ァ19(リブ)　ＬＧＳ下地

※軽量コンクリート撤去部は無筋コンクリートにて復旧とする。
※巾木ＵＥ塗部分の改修はＮＡＤ塗とする。
※軒天ＶＰ塗部分の改修はＮＡＤ塗とする。

電気室(既存・改修仕上)　直天井

部位	符号	仕　上
床	(ホ)	軽量コンクリート ァ300直均し ウレタン系塗床 ァ2.0(ノンスリップ 工法)
巾木	(ヘ)	H=60　ステンレス巾木　ァ2.0 HL
壁	(ト)	石綿セメント板 ァ6 弾性吹付タイル　(ＬＧＳ下地)
	(タ)	石綿セメント板 ァ6 複層塗材(Ｅ)　(直張りLGS下地)
	(ネ)	石綿セメント板 ァ6 複層塗材(Ｅ)　(LGS65型下地)
天井	(チ)	ＰＦ複合板 ァ62.5打込の上 軽量骨材吹付 ァ5
	(リ)	コンクリート打放しの上 軽量骨材吹付 ァ5
	(レ)	撤去部：発泡ウレタン吹付 ァ40の上 不燃現場吹付 ァ10

外部(既存・改修仕上)

部位	符号	仕　上
外壁	(ル)	コンクリート打放し目地切仕上 弾性吹付タイル
	(ソ)	ECP(フラット) ァ60(PF板 ァ20裏打品)横張の上 ＤＰ塗 (B-1種：アクリルシリコン樹脂塗装)
	(ツ)	水切＋四方枠：アルミパネル折曲加工(BB-2)
腰壁	(ヲ)	コンクリート打放し
腰壁 天端	(ワ)	花崗岩 ァ25 本磨き　(モルタル下地)
軒天	(カ)	石綿セメント板 ァ6 目透シ貼　ＶＰ　(ＬＧＳ下地) ※改修はＮＡＤ
備考		アルミ製水切　新設 GW 16kg ァ200復旧

物入(C)・(D)※既存「電気室」(既存・改修仕上)　直天井

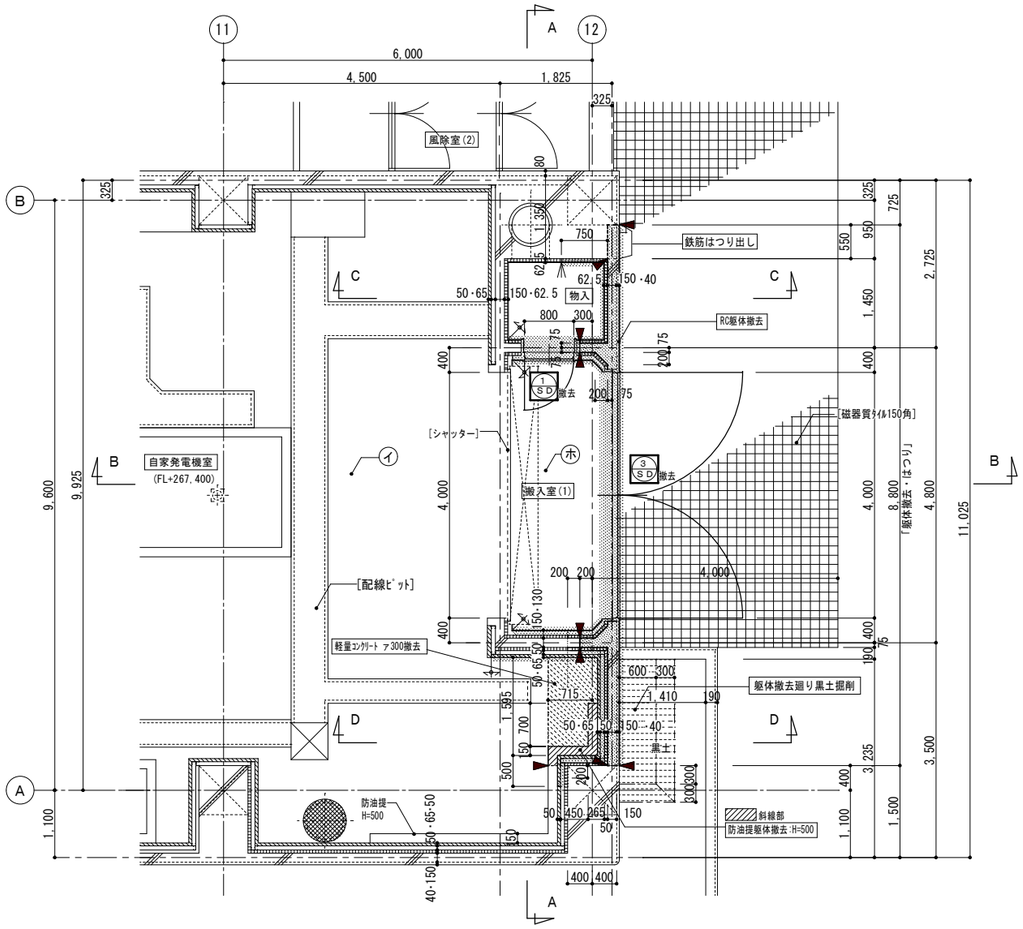
部位	符号	仕　上
床	(エ)	無筋コンクリート ァ300直均し
巾木	—	————
壁	(ナ)	外壁面:既存PF板 ァ50打込　現し
	(ラ)	電気室側：発泡ウレタン吹付 ァ40の上 不燃現場吹付 ァ10
	(ム)	ECP面：PF板裏打　現し
	(b)	石綿セメント板 ァ6 素地　突付貼　(LGS65型下地)
天井	(ウ)	天井・梁面:既存PF板 ァ50打込　現し
	(レ)	撤去部：発泡ウレタン吹付 ァ40の上 不燃現場吹付 ァ10
備考	(a)	レジスター・ガラリ (DET-26)

【注記】
・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

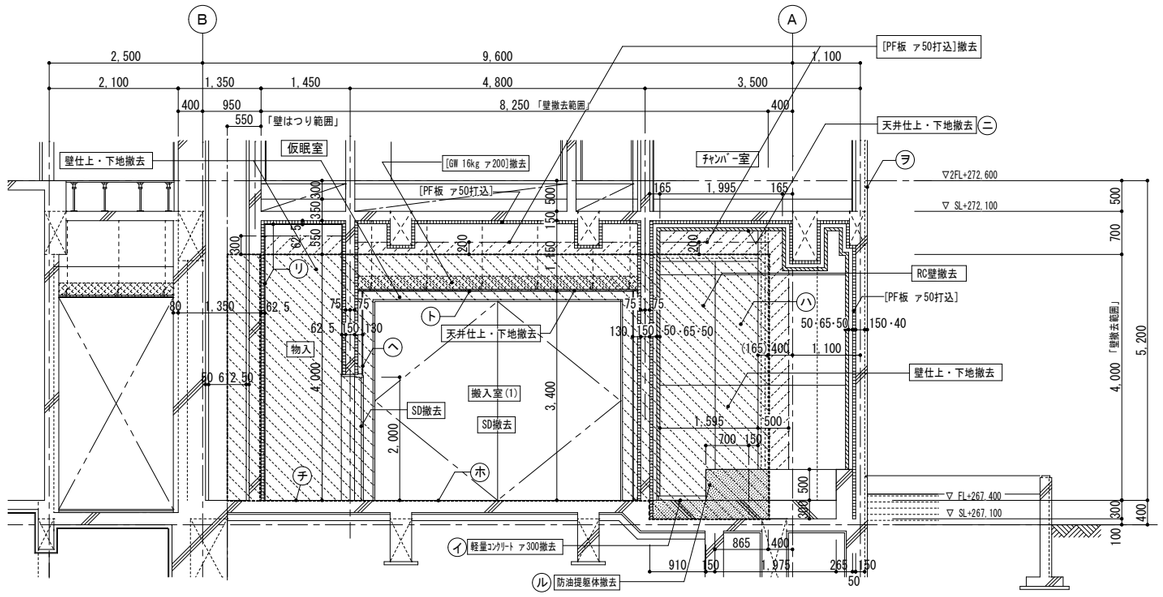
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業								
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事								
名　称	K1-3、K1-4、K1-8(2)(改修後)								
縮　尺	A1:1/50							製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係			設計番号	
								図　番	A-31

十勝中部広域水道企業団

K１－G	１階 12通り　Ａ－Ｂ通り間(改修前)



１階 11－12通 Ａ－Ｂ通間　平面詳細図(改修前)



Ａ－Ａ 断面詳細図(改修前)

外部(既存仕上)

部位	符号	仕　上
外壁	ヲ	コンクリート打放し目地切仕上 弾性吹付タイル
腰壁	ワ	コンクリート打放し

自家発電機室(既存仕上)　直天井

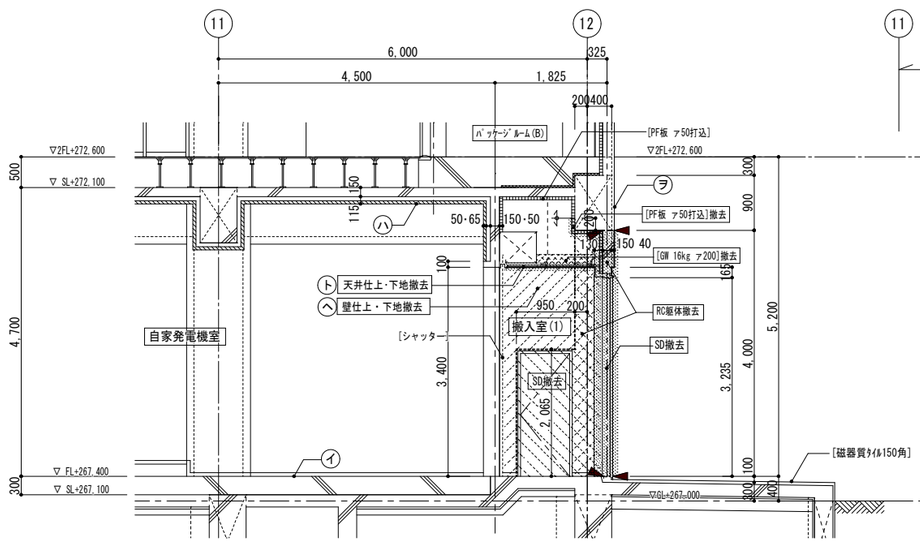
部位	符号	仕　上
床	イ	軽量コンクリート ｱ300直均し ウレタン系塗床 ｱ2.0(ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ工法)
巾木	ロ	H=60　ステンレス巾木　ｱ2.0 HL
壁	ハ	グラスウール吸音材(96K)ガラスクロス仕上 ｱ50 (ＬＧＳ下地)
天井	ニ	グラスウール吸音材(96K)ガラスクロス仕上 ｱ50 (ＬＧＳ下地)
防液提	ル	立上り：壁打放し・天端直均しの上 ウレタン系塗床 ｱ2.0

搬入室(1)(既存仕上)　CH=3,400

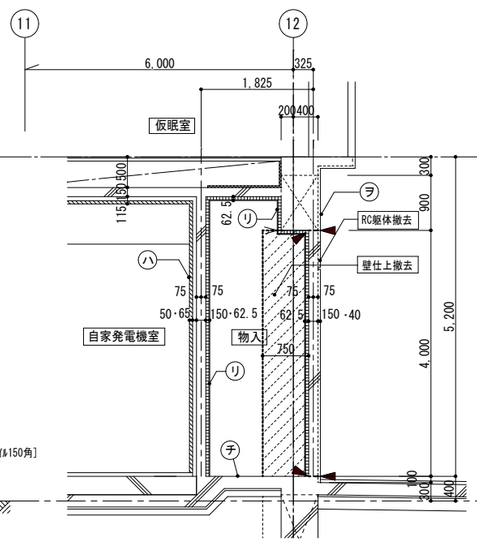
部位	符号	仕　上
床	ホ	コンクリート直均し　ウレタン系塗床 ｱ2.0 (ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ工法)
巾木	ロ	H=60　ステンレス巾木　ｱ2.0 HL
壁	ヘ	石綿セメント板 ｱ6 目透シ貼　弾性吹付タイル (ＬＧＳ下地)
天井	ト	石綿セメント板 ｱ6 目透シ貼　ＶＰ　(ＬＧＳ下地)

物入(既存仕上)　直天井

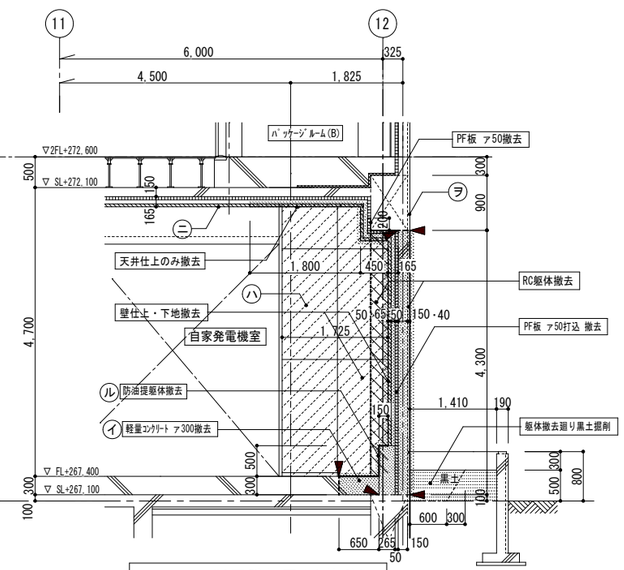
部位	符号	仕　上
床	チ	コンクリート直均し
巾木	――	――――
壁	リ	PF複合板 ｱ62.5打込
天井	リ	PF複合板 ｱ62.5打込



Ｂ－Ｂ 断面詳細図(改修前)



Ｃ－Ｃ 断面詳細図(改修前)



Ｄ－Ｄ 断面詳細図(改修前)

【注記】

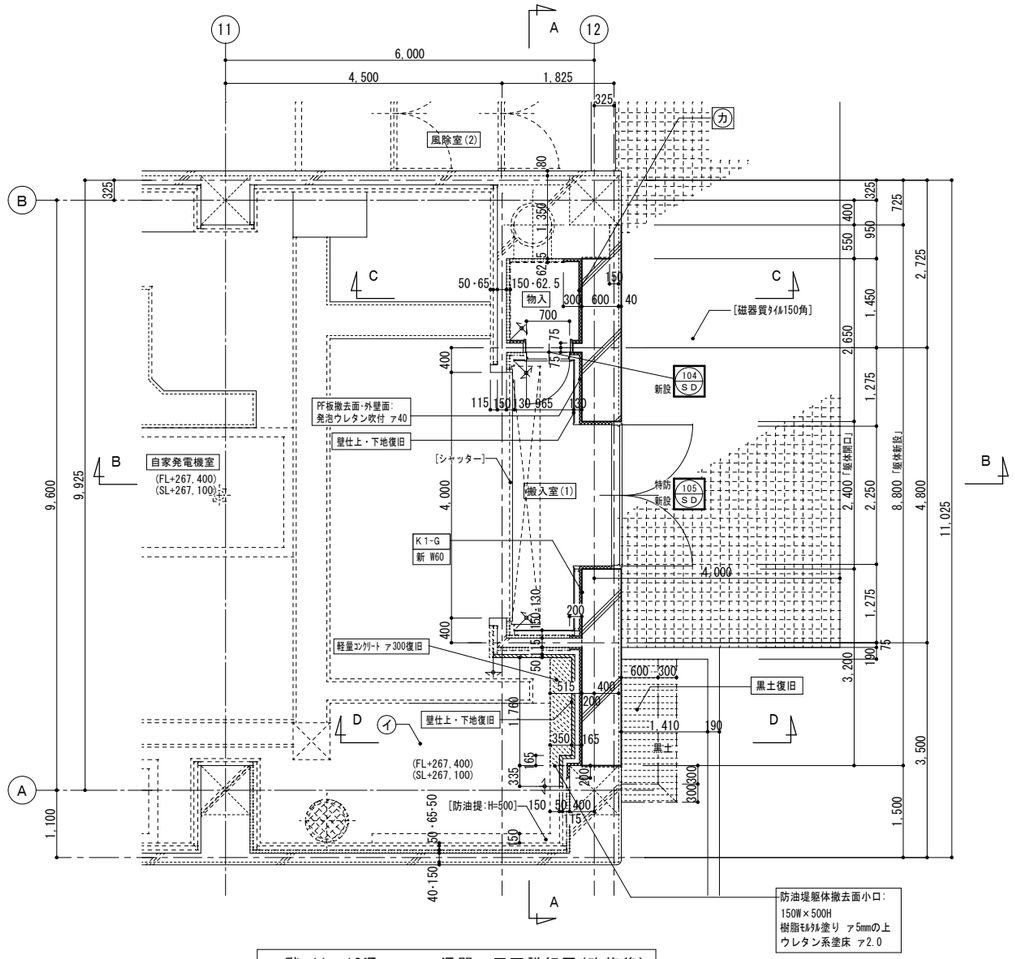
・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

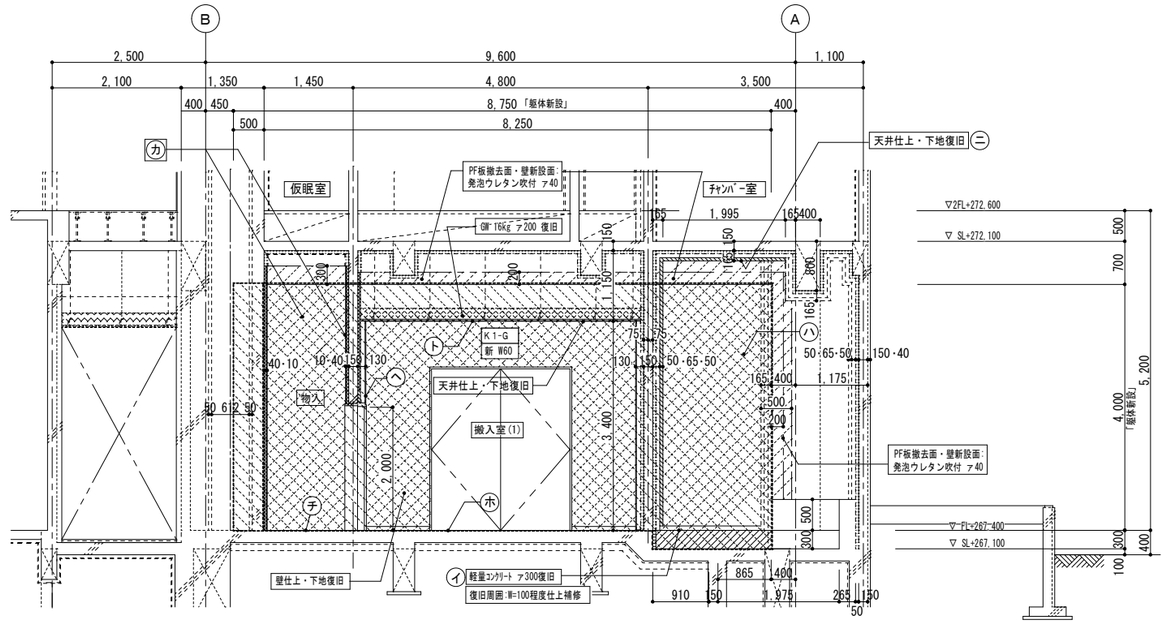
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名　称	K1-G(1)(改修前)						
縮　尺	A1:1/50					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図　番	A-32

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団

K１－G	１階 12通り　Ａ－Ｂ通り間(改修後)



１階 11－12通 Ａ－Ｂ通間　平面詳細図(改修後)



Ａ－Ａ 断面詳細図(改修後)

外部(既存・改修仕上)

部位	符号	仕　上
外壁	ヲ	コンクリート打放し目地切仕上 弾性吹付タイル
腰壁	ワ	コンクリート打放し

自家発電機室(既存・改修仕上)　直天井

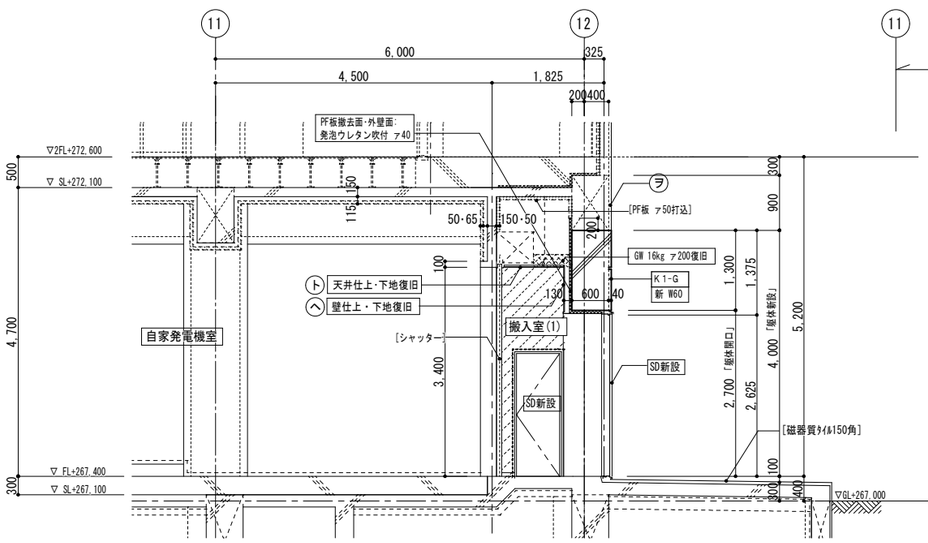
部位	符号	仕　上
床	イ	軽量コンクリート ｱ300直均し ウレタン系塗床 ｱ2.0(ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ工法)
巾木	ロ	H=60　ステンレス巾木　ｱ2.0 HL
壁	ハ	グラスウール吸音材(96K)ガラスクロス仕上 ｱ50 (ＬＧＳ下地)
天井	ニ	グラスウール吸音材(96K)ガラスクロス仕上 ｱ50 (ＬＧＳ下地)※復旧部は既存下地利用
防液提	ル	立上り：壁打放し・天端直均しの上 ウレタン系塗床 ｱ2.0

搬入室(1)(既存・改修仕上)　CH=3,400

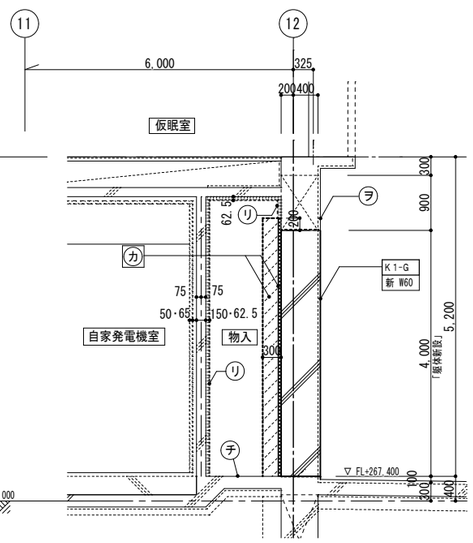
部位	符号	仕　上
床	ホ	コンクリート直均し　ウレタン系塗床 ｱ2.0 (ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ工法)
巾木	ロ	H=60　ステンレス巾木　ｱ2.0 HL
壁	ヘ	石綿セメント板 ｱ6 目透シ貼　複層塗材(E) (ＬＧＳ下地)
天井	ト	石綿セメント板 ｱ6 目透シ貼　ＮＡＤ　(ＬＧＳ下地)

物入(既存・改修仕上)　直天井

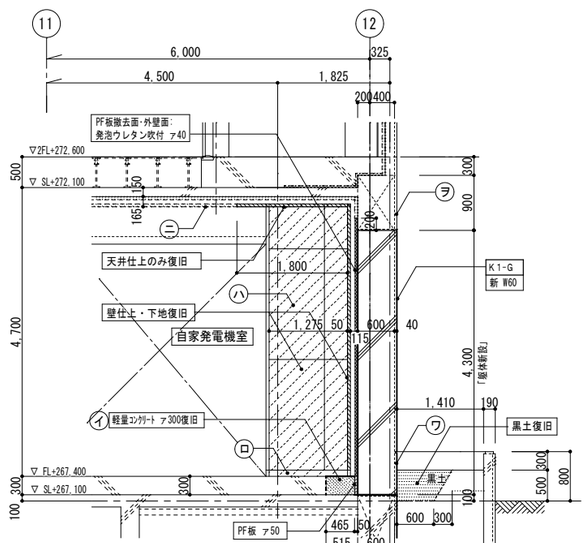
部位	符号	仕　上
床	チ	コンクリート直均し
巾木	――	――――
壁	リ	PF複合板 ｱ62.5打込
	カ	複合板撤去部・新規躯体外壁面: 発泡ウレタン吹付 ｱ40の上 不燃現場吹付 ｱ10
天井	リ	PF複合板 ｱ62.5打込



Ｂ－Ｂ 断面詳細図(改修後)



Ｃ－Ｃ 断面詳細図(改修後)



Ｄ－Ｄ 断面詳細図(改修後)

【注記】

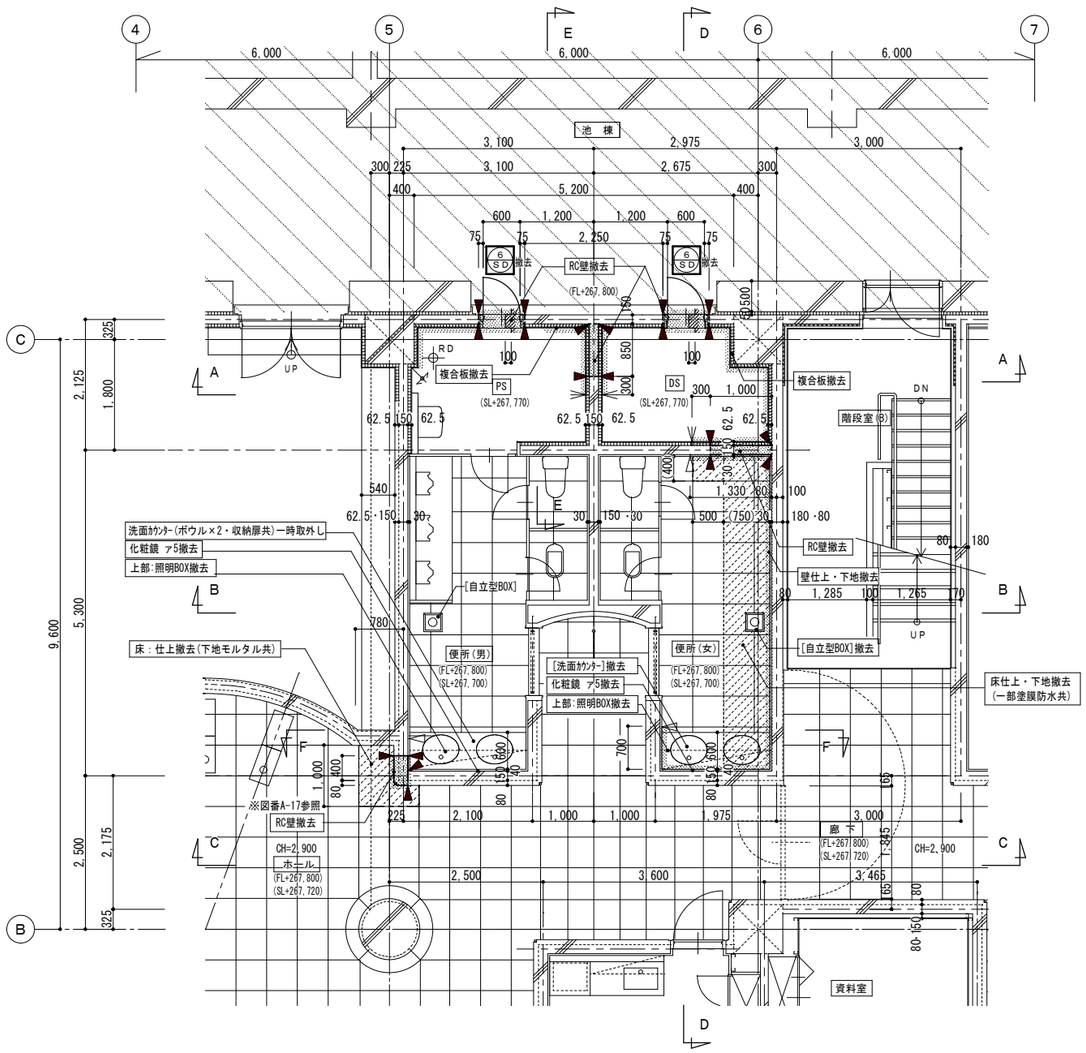
・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

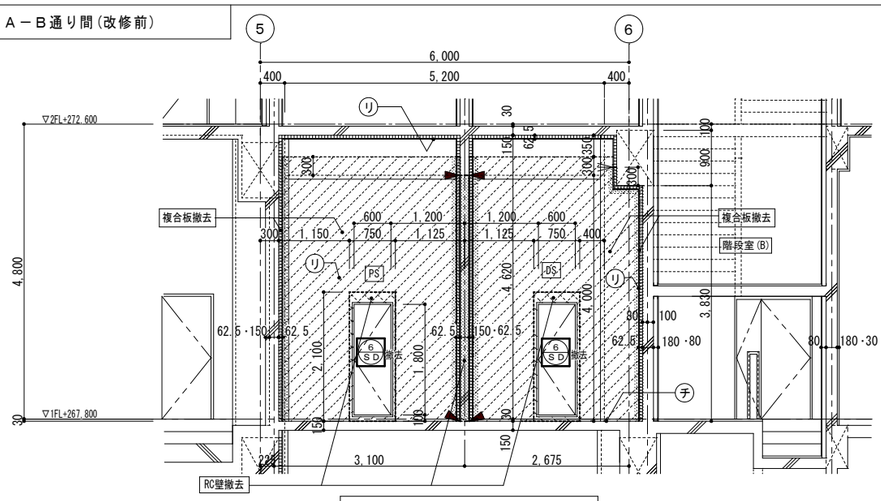
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名　称	K1-G(2)(改修後)						
縮　尺	A1:1/50					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図　番	A-33

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団

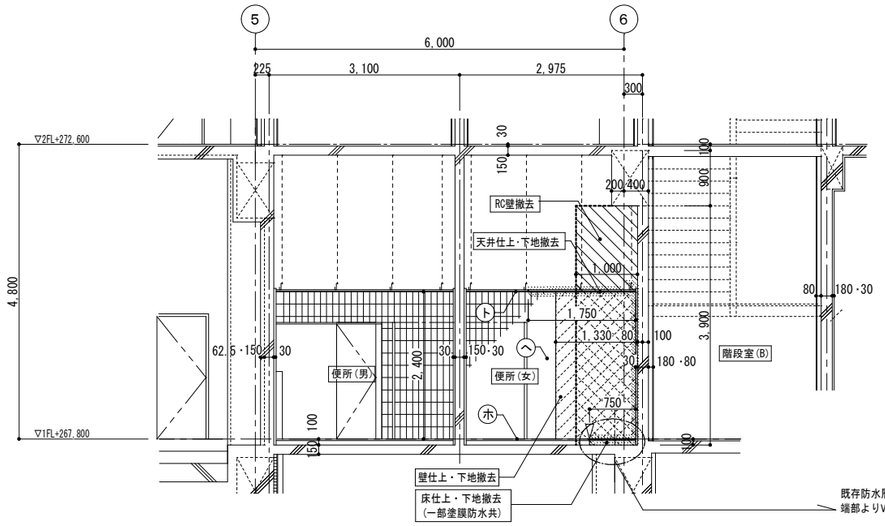
K1－E	1階 6通り Ｂ－Ｃ通り間(改修前)	K1－10	1階 C通り 5－6通り間(改修前)	K1－D	1階 5通り Ａ－Ｂ通り間(改修前)



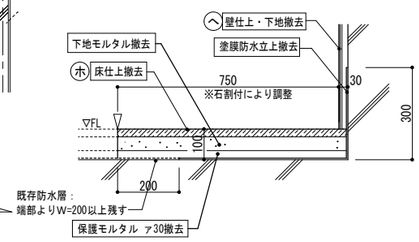
1階 5－6通 Ｂ－Ｃ通間 平面詳細図(改修前)



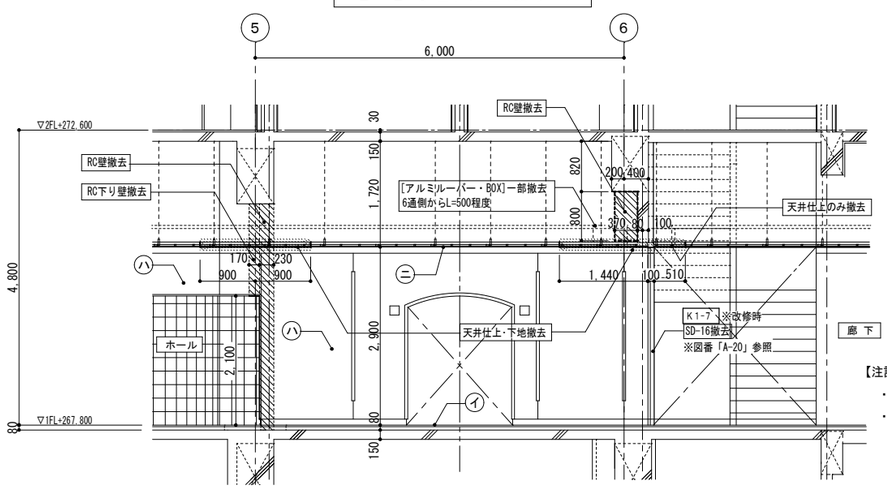
Ａ－Ａ 断面詳細図(改修前)



Ｂ－Ｂ 断面詳細図(改修前)



床防水層廻り撤去詳細図 S=1/10(A1)



Ｃ－Ｃ 断面詳細図(改修前)

ホール・廊下(既存仕上) CH=2,900

部位	符号	仕 上
床	(イ)	花崗岩 ｱ25 本磨き (モルタル下地)
巾木 ﾎﾞｰﾀﾞｰ	(ロ)	H=100 コンクリート打放し UE
壁	(ハ)	コンクリート打放しの上 石調デザイン吹付
天井	(ニ)	GB ｱ9捨張、DR ｱ19(リブ) LGS下地
備考		

便所(男・女)(既存仕上) CH=2,400

部位	符号	仕 上
床	(ホ)	花崗岩 ｱ25 本磨き (モルタル下地) 塗膜防水下地
巾木	—	————
壁	(ヘ)	陶器質タイル 100×200 (モルタル下地)
天井	(ト)	石綿セメント板 ｱ6 スチップル仕上 (LGS下地)
備考		女: 洗面ｶｳﾝﾀｰ撤去(ボウル×2) 化粧鏡 ｱ5撤去 照明BOX撤去 自立型BOX(RC下地 花崗岩 ｱ25貼)撤去 男: 洗面ｶｳﾝﾀｰ一時取外し(ボウル×2) 化粧鏡 ｱ5撤去 照明BOX撤去

ＤＳ・ＰＳ(既存仕上) 直天井

部位	符号	仕 上
床	(チ)	コンクリート直均し
巾木	—	————
壁	(リ)	PF複合板 ｱ62.5打込
天井	(リ)	PF複合板 ｱ62.5打込
備考		

水呑コーナー(既存仕上) CH=2,600

部位	符号	仕 上
床	(イ)	花崗岩 ｱ25 本磨き (モルタル下地)
巾木	—	————
壁	(カ)	デザインタイル貼 (モルタル下地)
天井	(ヨ)	GB ｱ9捨張、ダークミラー ｱ5 マット貼 LGS下地
備考		水呑器(RC躯体 花崗岩 ｱ20貼)×3台

【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

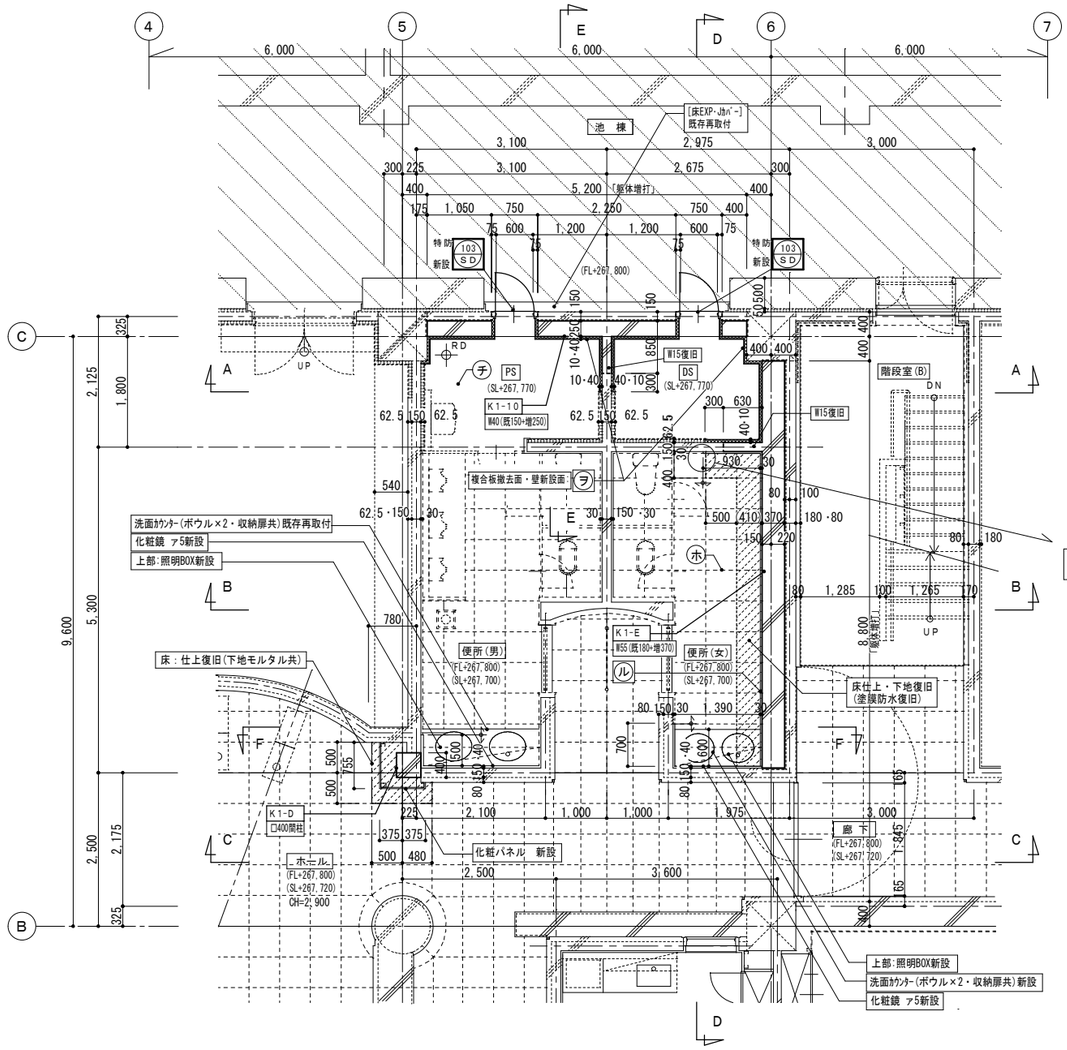
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名 称	K1-E、K1-10(1)(改修前)
縮 尺	A1:1/50
製作年月日	
設計番号	
図 番	A-34

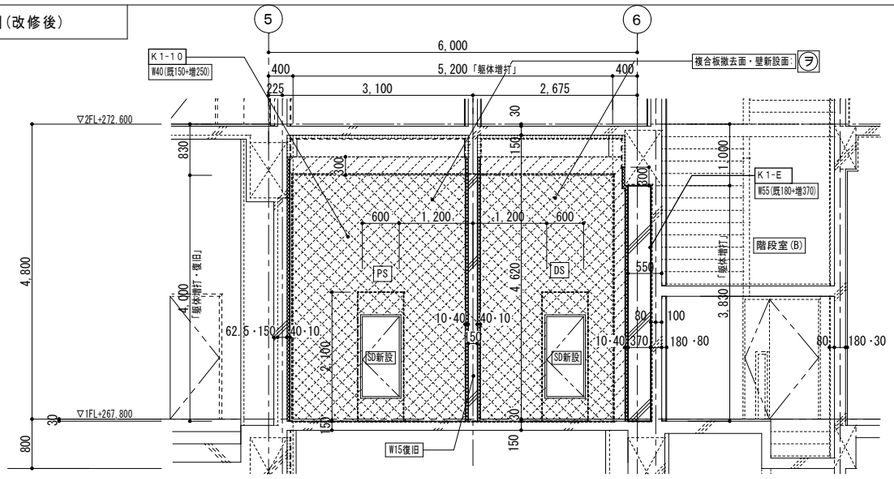
承認印	局長	次長	課長	係長	係

十勝中部広域水道企業団

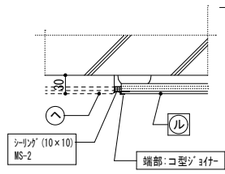
K1－E	1階 6通り Ｂ－Ｃ通り間(改修後)	K1－10	1階 Ｃ通り ５－６通り間(改修後)	K1－D	1階 ５通り Ａ－Ｂ通り間(改修後)



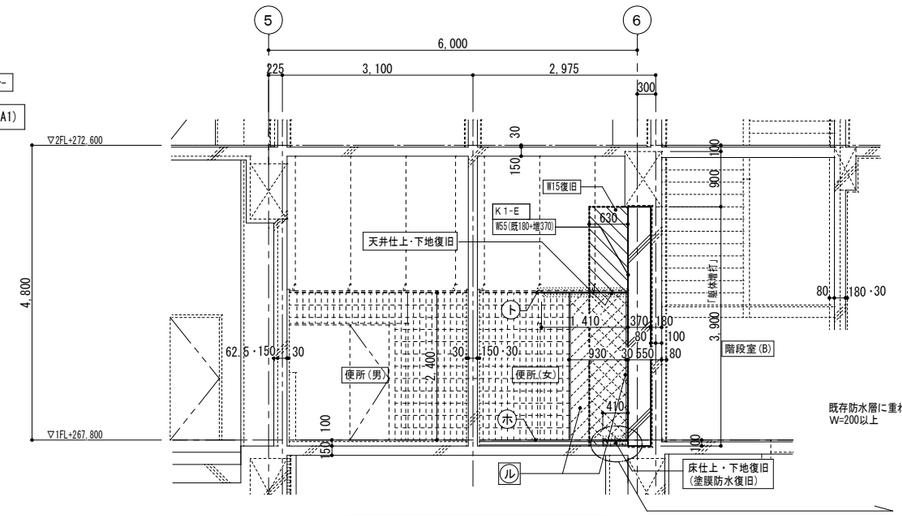
１階 ５－６通 Ｂ－Ｃ通間 平面詳細図(改修後)



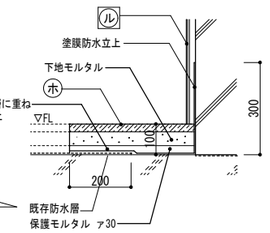
Ａ－Ａ 断面詳細図(改修後)



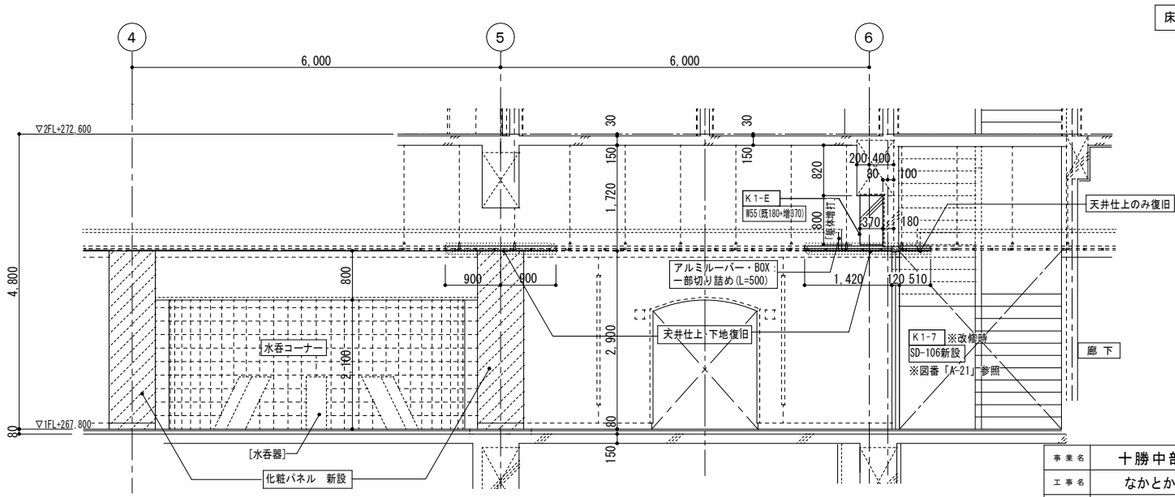
壁仕上取合い詳細図 S=1/5(A1)



Ｂ－Ｂ 断面詳細図(改修後)



床防水層廻り詳細図 S=1/10(A1)



Ｃ－Ｃ 断面詳細図(改修後)

ホール・廊下(既存・改修仕上) CH=2,900

部位	符号	仕 上
床	(イ)	花崗岩 ｱ25 本磨き (モルタル下地)
巾木 ﾎﾞｰﾀﾞｰ	(ロ)	H=100 コンクリート打放し ＮＡＤ
壁	(ハ)	コンクリート打放しの上 石調デザイン吹付
天井	(ニ)	ＧＢ ｱ9.5捨張、ＤＲ ｱ19(リブ) ＬＧＳ下地
備考		

便所(男・女)(既存・改修仕上) CH=2,400

部位	符号	仕 上
床	(ホ)	花崗岩 ｱ25 本磨き (モルタル下地) 塗膜防水下地
巾木	—	————
壁	(ヌ)	ビニル巾木：H=60
	(ヘ)	陶器質タイル 100×200 (モルタル下地)
	(ル)	GB-S ｱ12.5捨張(直張り) 着色ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ ｱ4 (ｼﾞｮｲﾅｰ併用)
天井	(ト)	石綿セメント板 ｱ6 スチップル仕上 (ＬＧＳ下地)
備考	女: 洗面ｶｳﾝﾀｰ新設(ボウル×2) 化粧鏡 ｱ5新設 照明BOX新設 男: 洗面ｶｳﾝﾀｰ既存再取付(ボウル×2) 化粧鏡 ｱ5新設 照明BOX新設	

ＤＳ・ＰＳ(既存・改修仕上) 直天井

部位	符号	仕 上
床	(チ)	コンクリート直均し
巾木	—	————
壁	(リ)	PF複合板 ｱ62.5打込
	(ヲ)	発泡ウレタン吹付 ｱ40の上 不燃現場吹付材 ｱ10
	(ワ)	池棟側：コンクリート打放し
天井	(リ)	PF複合板 ｱ62.5打込
備考	既存EXP・Jカバー(床+壁W=50用)再取付	

水呑コーナー(既存・改修仕上) CH=2,600

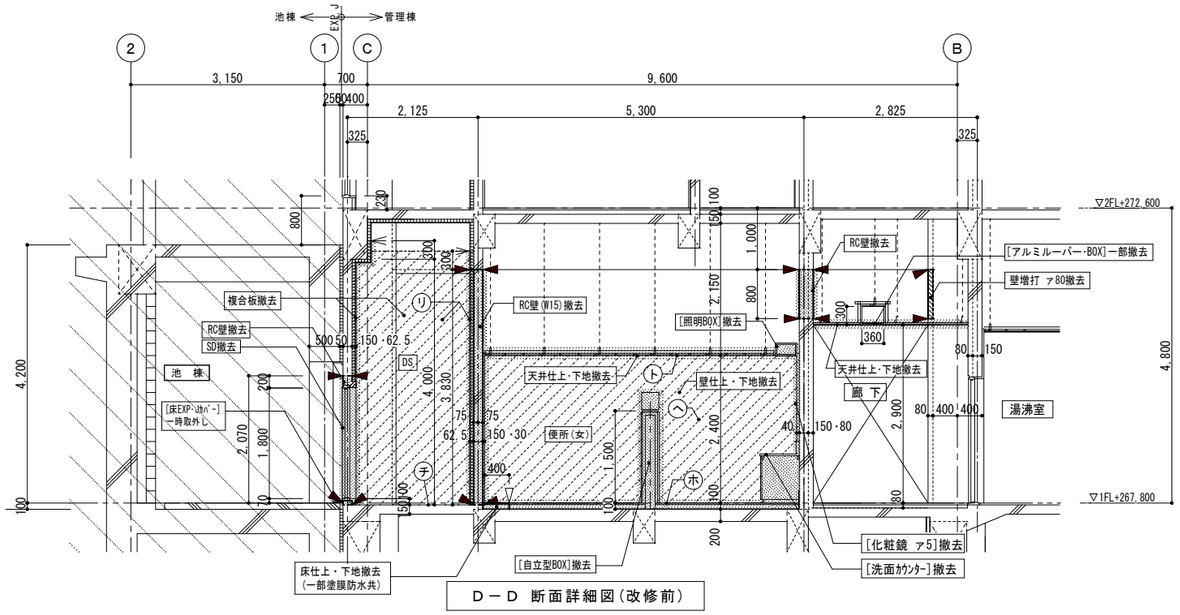
部位	符号	仕 上
床	(イ)	花崗岩 ｱ25 本磨き (モルタル下地)
巾木	—	————
壁	(カ)	デザインタイル貼 (モルタル下地)
天井	(ヨ)	ＧＢ ｱ9.5捨張、ダークミラー ｱ5 マット貼 ＬＧＳ下地
備考	水呑器(RC躯体 花崗岩 ｱ20貼)×3台	

【注記】
・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

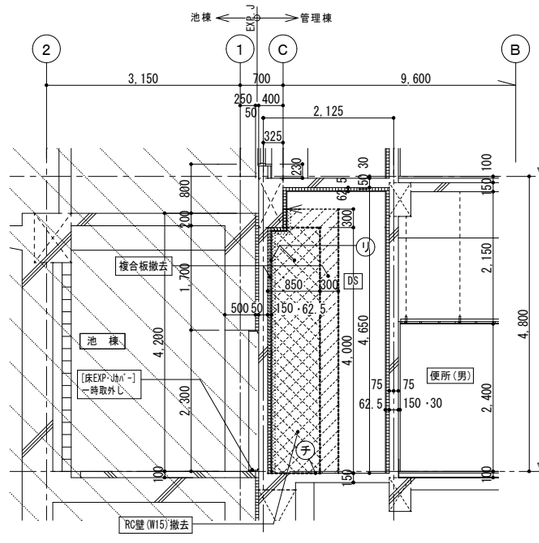
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名 称	K1-E、K1-10(2)(改修後)						
縮 尺	A1:1/50					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図 番	A-35

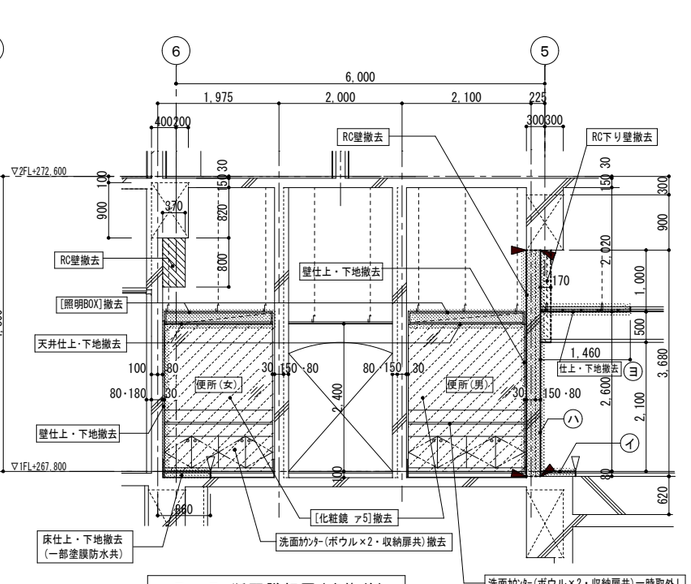
十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団

K１－E	１階 ６通り Ｂ－Ｃ通り間(改修前)	K１－１０	１階 Ｃ通り ５－６通り間(改修前)
K１－D	１階 ５通り Ａ－Ｂ通り間(改修前)		



Ｄ－Ｄ 断面詳細図(改修前)

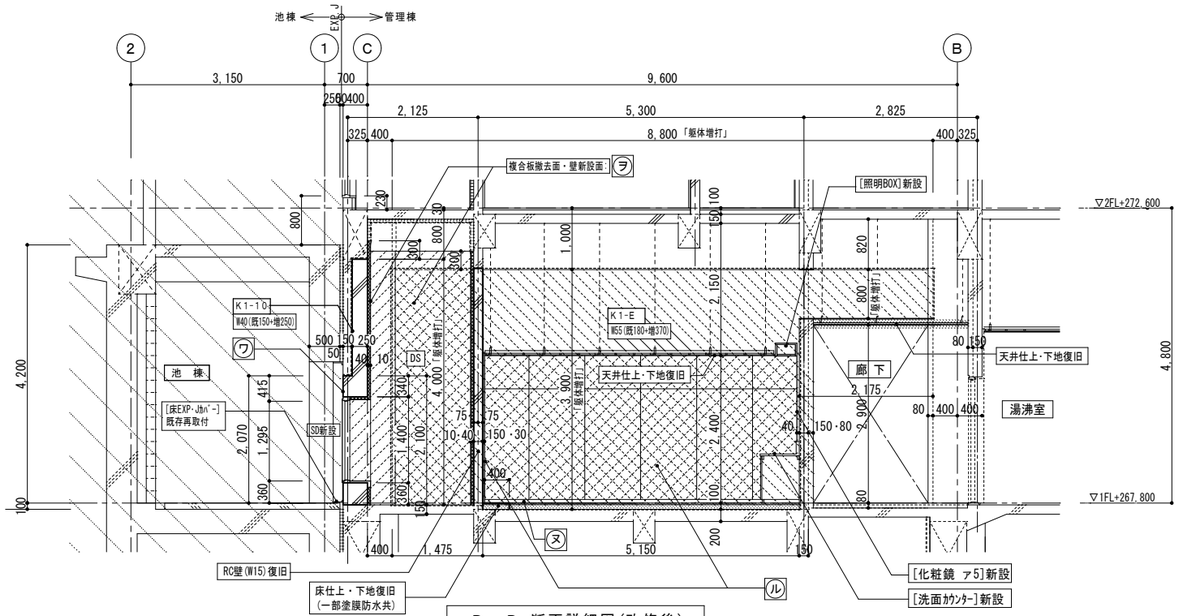




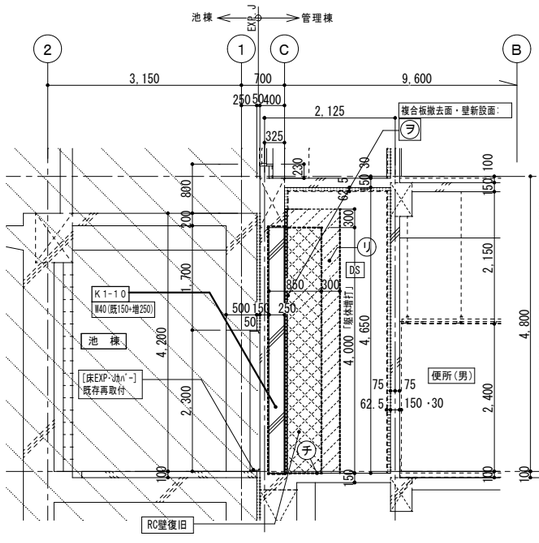
Ｅ－Ｅ 断面詳細図(改修前)

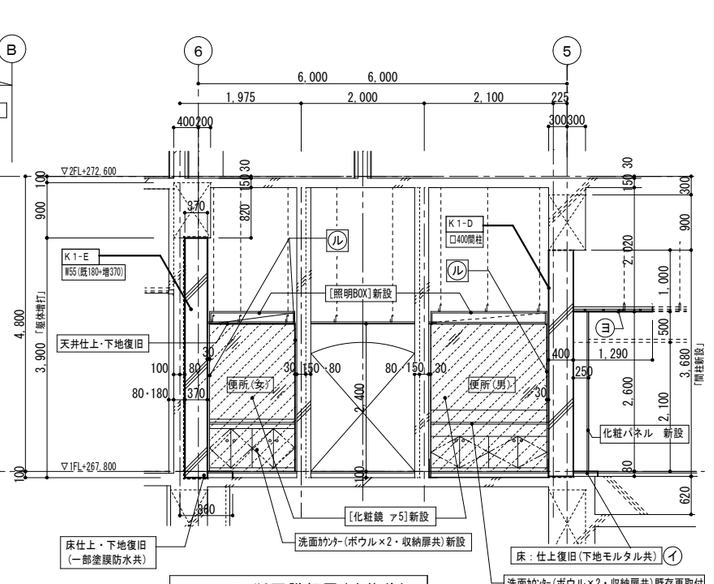
Ｆ－Ｆ 断面詳細図(改修前)

K１－E	１階 ６通り Ｂ－Ｃ通り間(改修後)	K１－１０	１階 Ｃ通り ５－６通り間(改修後)
K１－D	１階 ５通り Ａ－Ｂ通り間(改修後)		



Ｄ－Ｄ 断面詳細図(改修後)





Ｅ－Ｅ 断面詳細図(改修後)

Ｆ－Ｆ 断面詳細図(改修後)

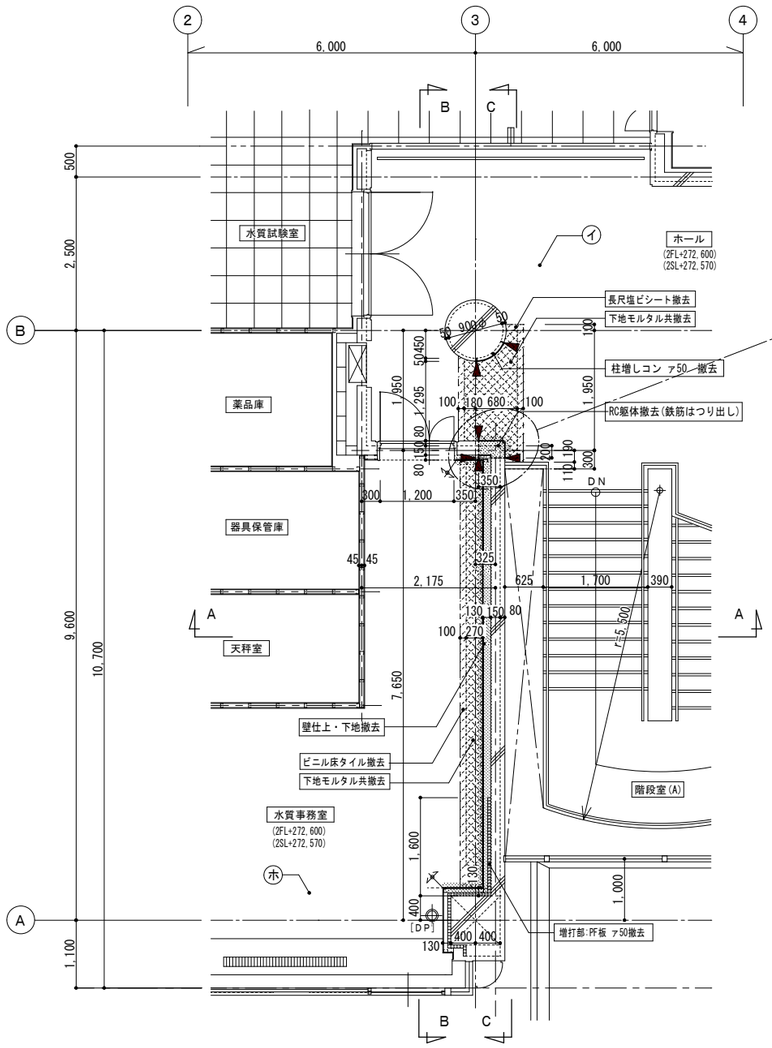
【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

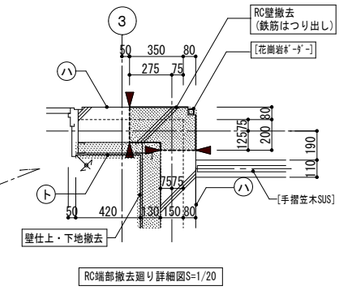
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	K1-E、K1-10(3)(改修前・後)							
縮尺	A1:1/50						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	A-36
十勝中部広域水道企業団								

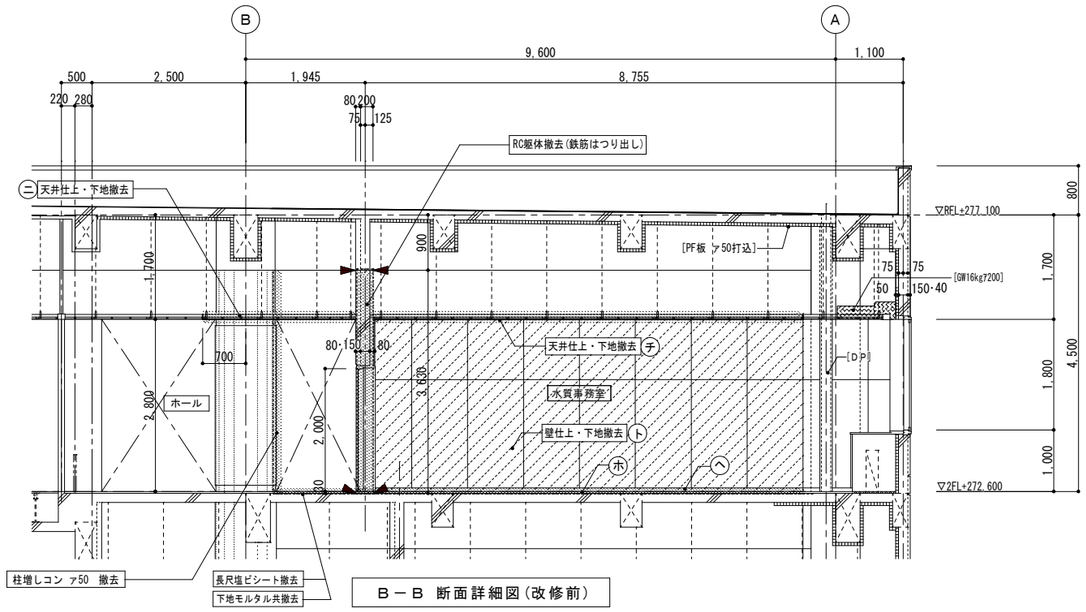
K２－A　２階　３通り　Ａ－Ｂ通り間(改修前)



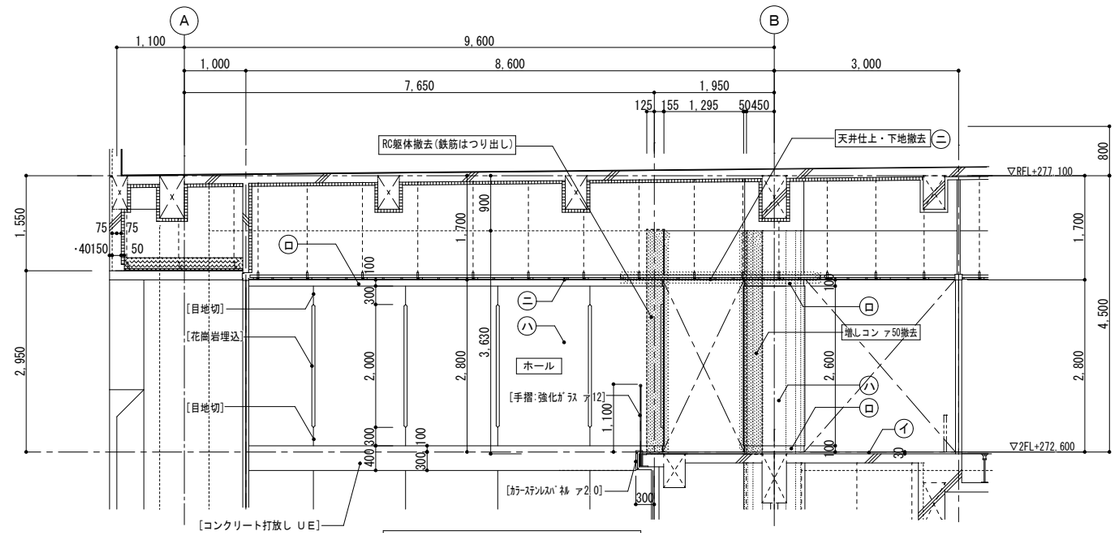
２階　３通　Ａ－Ｂ通間　平面詳細図(改修前)



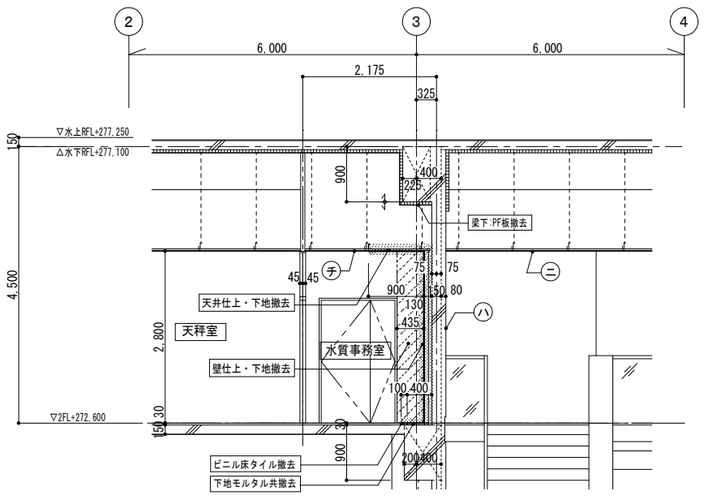
RC端部撤去廻り詳細図S=1/20



Ｂ－Ｂ　断面詳細図(改修前)



Ｃ－Ｃ　断面詳細図(改修前)



Ａ－Ａ　断面詳細図(改修前)

ホール(既存仕上)　CH=2,800(2FLﾖﾘ)

部位	符号	仕　上
床	(イ)	長尺塩ビシート ァ2.5(モルタル下地)
巾木 ﾎﾞｰﾀﾞｰ	(ロ)	H=100　コンクリート打放し UE
壁	(ハ)	コンクリート打放し目地切の上 石調デザイン吹付
天井	(ニ)	GB ァ9捨張、DR ァ19(リブ)　LGS下地

水質事務室(既存仕上)　CH=2,800

部位	符号	仕　上
床	(ホ)	ビニル床タイル ァ2.0(モルタル下地)
巾木	(ヘ)	H=60　ビニール巾木
壁	(ト)	石綿セメント板 ァ6 目透し貼　EP(LGS下地)
天井	(チ)	GB ァ9捨張、DR ァ9　LGS下地

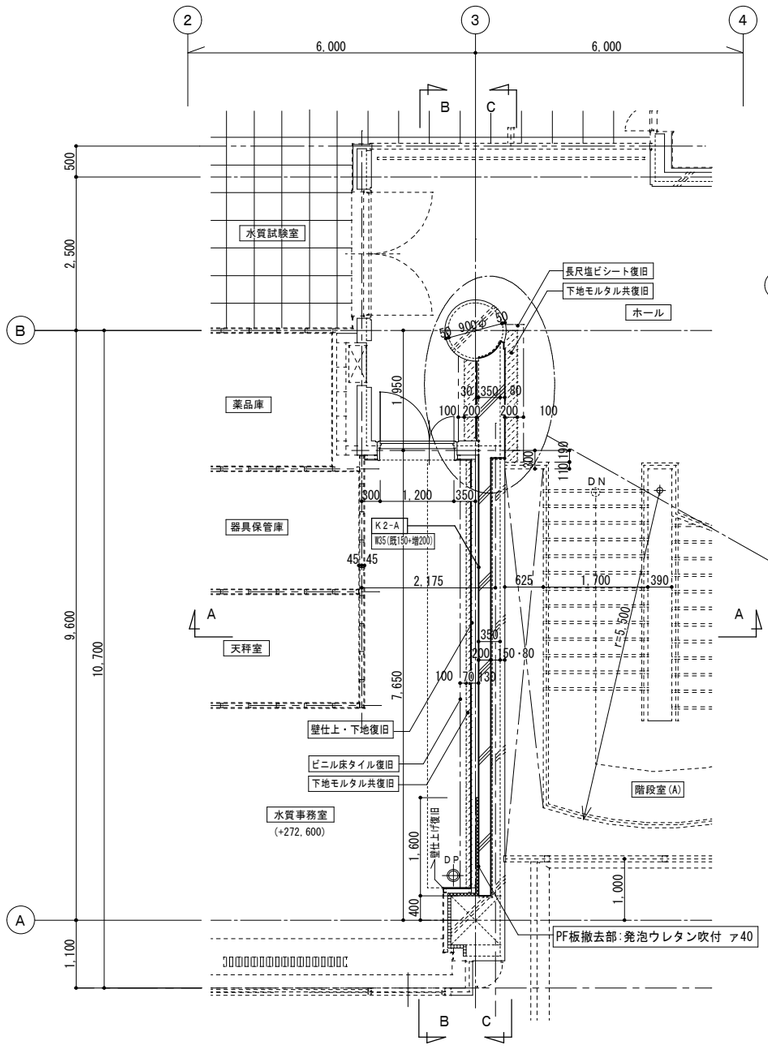
【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

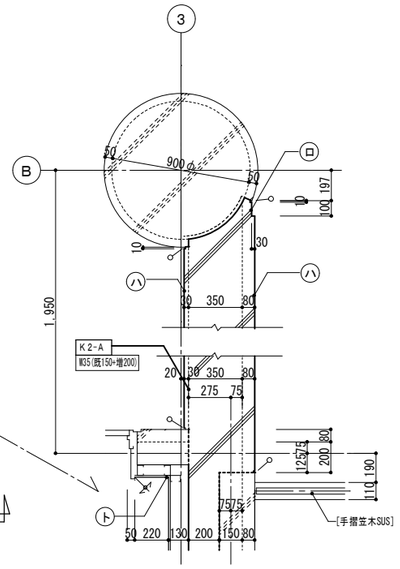
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名　称	K2-A(1)(改修前)							
縮　尺	A1:1/50						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図　番	A-37
十勝中部広域水道企業団								

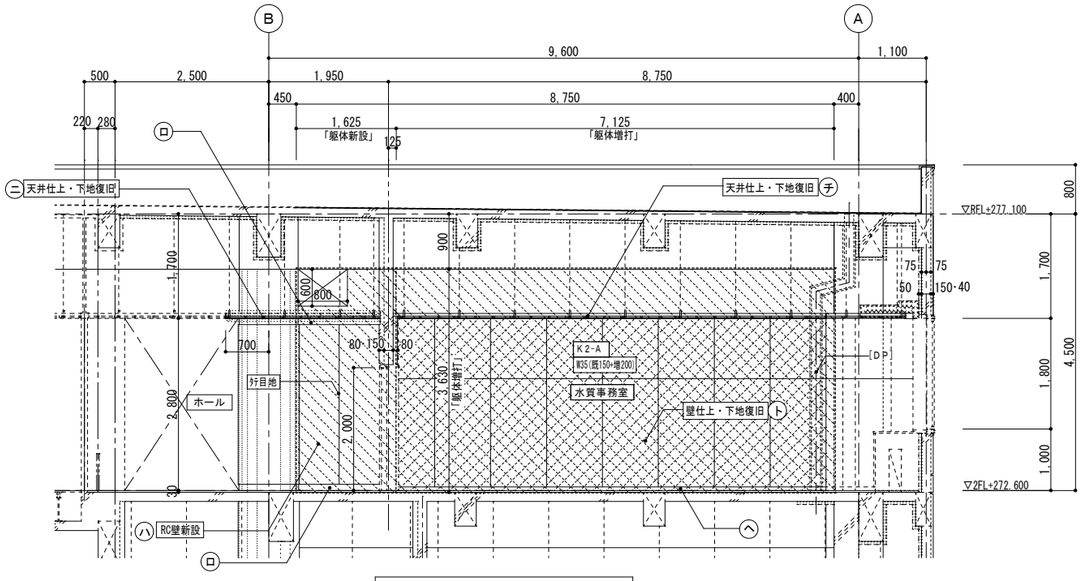
K２－A	２階　３通り　A－B通り間(改修後)



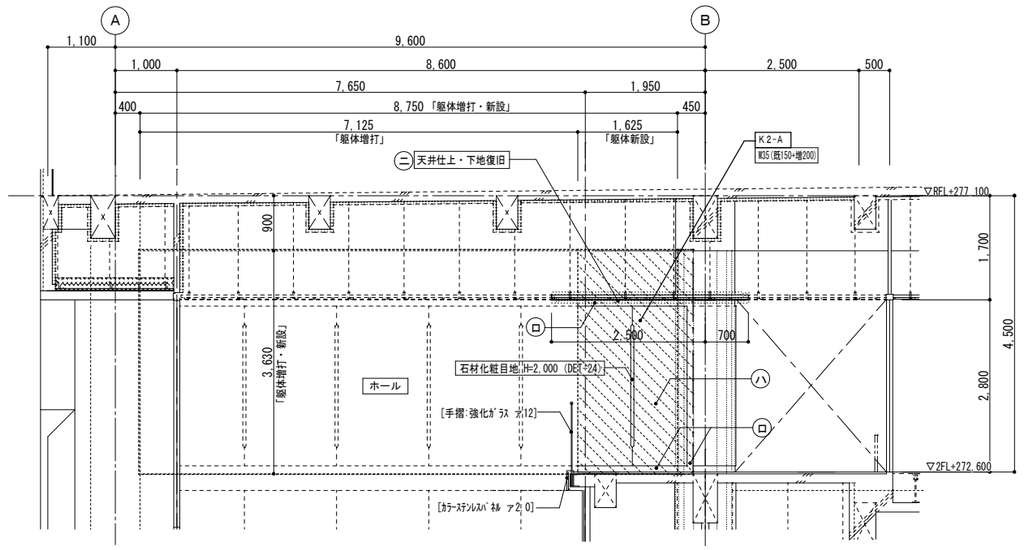
２階　３通　A－B通間　平面詳細図(改修後)



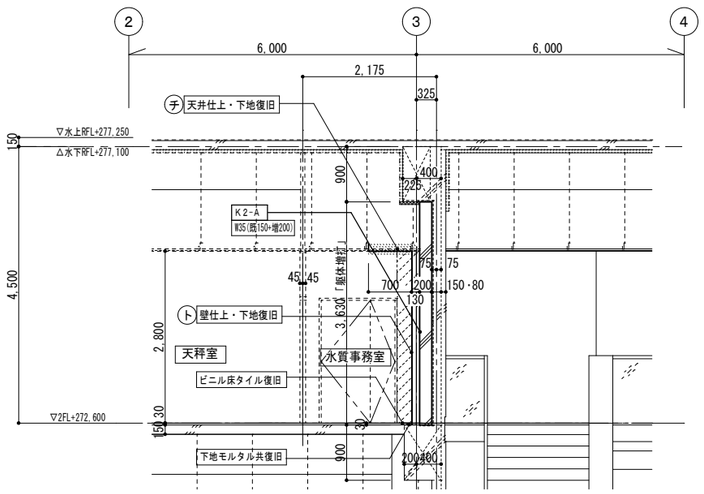
RC壁新設廻り詳細図S=1/20



B－B　断面詳細図(改修後)



C－C　断面詳細図(改修後)



Ａ－Ａ　断面詳細図(改修後)

ホール(既存・改修仕上)　CH=2,800(2FLヨリ)

部位	符号	仕　上
床	(イ)	長尺塩ビシート ァ2.5(既存モルタル下地) 一部:新設モルタル下地
巾木ﾎﾞｰﾄﾞ	(ロ)	H=100　コンクリート打放し　NAD
壁	(ハ)	コンクリート打放し目地切の上 石調デザイン吹付
天井	(ニ)	GB ァ9.5捨張、DR ァ19(リブ)　LGS下地

水質事務室(既存・改修仕上)　CH=2,800

部位	符号	仕　上
床	(ホ)	ビニル床タイル ァ2.0(モルタル下地)
巾木	(ヘ)	H=60　ビニール巾木
壁	(ト)	石綿セメント板 ァ6 目透し貼　EP(LGS下地)
天井	(チ)	GB ァ9.5捨張、DR ァ9　LGS下地

【注記】

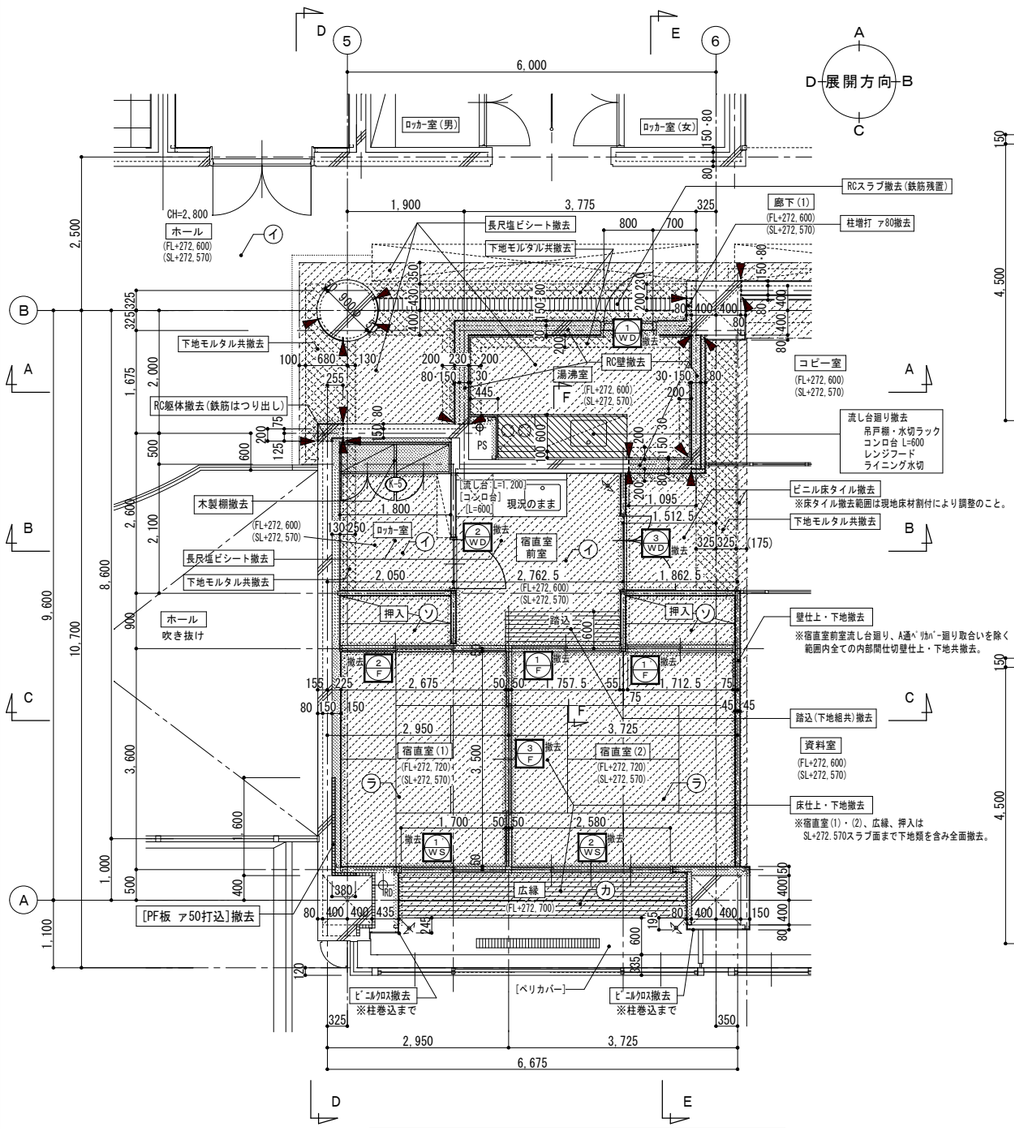
・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

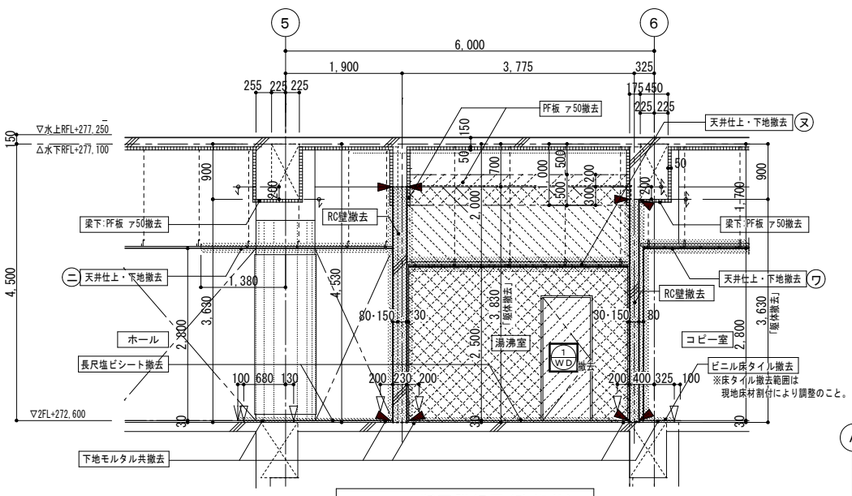
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	K2-A(2)(改修後)							
縮尺	A1:1/50						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	A-38

十勝中部広域水道企業団

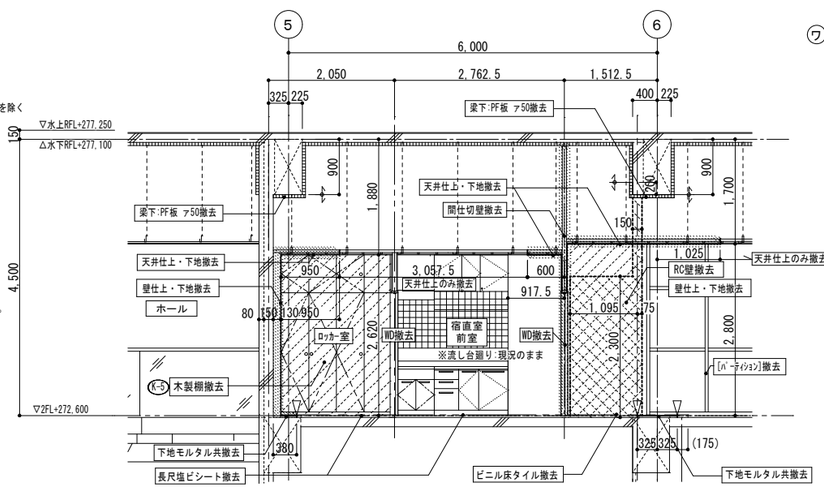
K２－B	２階　５通り　Ａ－Ｂり通間(改修前)	K２－D	２階　６通り　Ａ－Ｂ通り間(改修前)	K２－３	２階　Ｂ通り　５－６通り間(改修前)



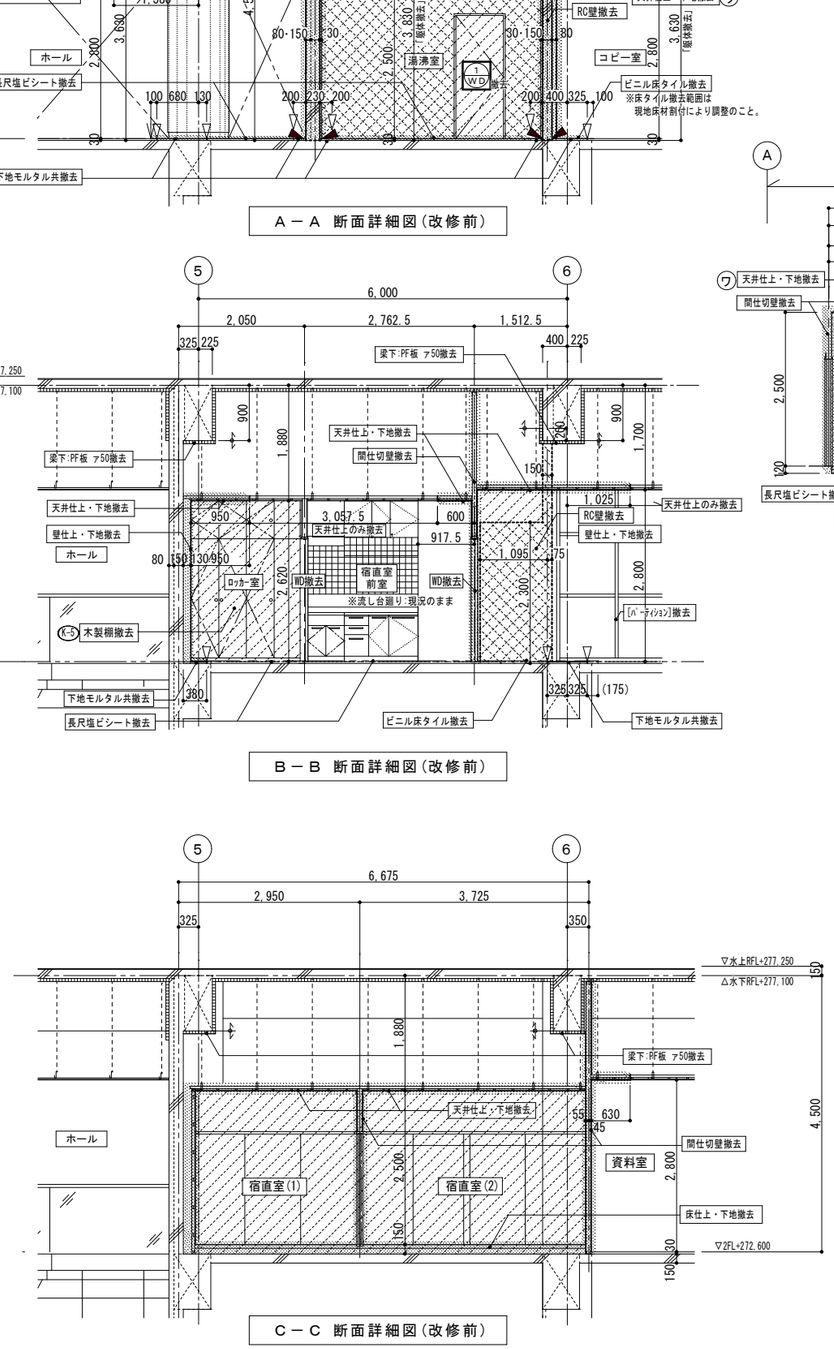
２階　５－６通　Ａ－Ｂ通間　平面詳細図(改修前)



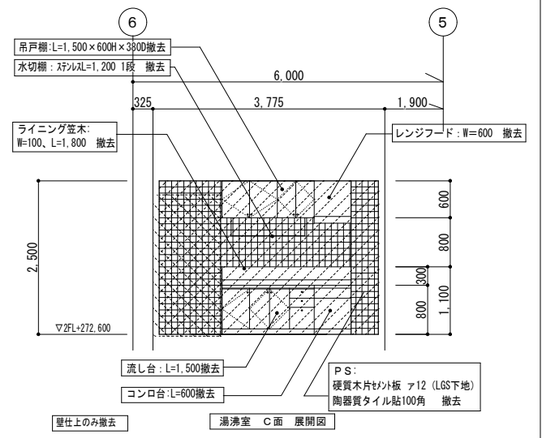
Ａ－Ａ　断面詳細図(改修前)

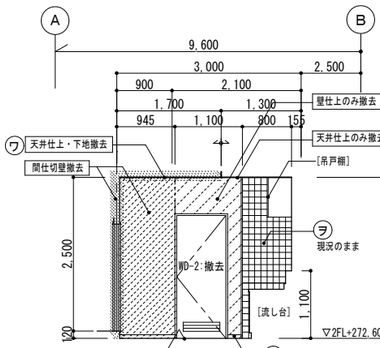


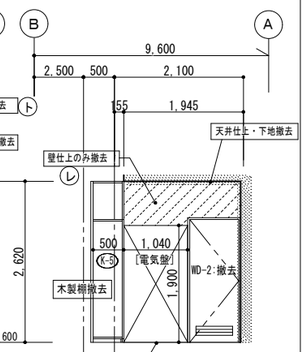
Ｂ－Ｂ　断面詳細図(改修前)



Ｃ－Ｃ　断面詳細図(改修前)







ロッカー室（既存仕上）　CH=2,620

部位	符号	仕　上
床	㋑	長尺塩ビシート ｱ2.5(モルタル下地)
巾木	㋠	H=60 ビニール巾木
壁	㋬	ＪＴＢ ｱ12 ＥＰ
天井	㋥	石綿セメント板 ｱ6 目透し貼 ＶＰ(ＬＧＳ下地)
備考	Ⓚ-⑤	木製棚 撤去

押入（既存仕上）　CH=2,500

部位	符号	仕　上
床	㋮	シナベニヤ ｱ9（木下地組）
巾木	㋷	雑巾摺
壁	㋲	ＧＢ ｱ9　ＬＧＳ下地
天井	㋦	ＧＢ ｱ9　木下地

コピー室・資料室（既存仕上）　CH=2,800

部位	符号	仕　上
床	㋣	ホモジニアスビニル床タイル ｱ2.0(モルタル下地)
巾木	㋠	H=60 ビニール巾木
壁	㋬	ＪＴＢ ｱ12 ビニルクロス貼
天井	㋡	ＧＢ ｱ9捨張、ＤＲ ｱ9　ＬＧＳ下地

ホール(2F)（既存仕上）　CH=2,800

部位	符号	仕　上
床	㋑	長尺塩ビシート ｱ2.5(モルタル下地)
巾木	Ⓡ	H=100 コンクリート打放し ＵＥ
壁	Ⓗ	コンクリート打放し目地切の上 石調デザイン吹付
	Ⓑ	コンクリート打放し目地切の上 弾性吹付タイル
天井	Ⓝ	ＧＢ ｱ9捨張、ＤＲ ｱ19(リブ)　ＬＧＳ下地

湯沸室(既存仕上)　CH=2,500

部位	符号	仕　上
床	㋑	長尺塩ビシート ｱ2.5(モルタル下地)
巾木	—	————
壁	㋕	磁器質タイル貼　100口　(モルタル下地) ＰＳ:硬質木片セメント板 ｱ12　陶器質タイル貼100角
天井	㋥	石綿セメント板 ｱ6 目透し貼　ＶＰ(ＬＧＳ下地)
備考		流し台：L=1,500撤去　　レンジフード：W=600　撤去 コンロ台:L=600撤去 吊戸棚:L=1,500×600H×380D撤去 水切棚：ｽﾃﾝﾚｽL=1,200 1段　撤去 ライニング笠木:W=100、L=1,800　撤去

廊下(1)（既存仕上）　CH=2,800

部位	符号	仕　上
床	㋑	長尺塩ビシート ｱ2.5(モルタル下地)
巾木	Ⓡ	H=100 コンクリート打放し ＵＥ
壁	Ⓗ	コンクリート打放し目地切の上 弾性吹付タイル
天井	Ⓝ	ＧＢ ｱ9捨張、ＤＲ ｱ19(リブ)　ＬＧＳ下地

宿直室前室（既存仕上）　CH=2,620

部位	符号	仕　上
床	㋑	長尺塩ビシート ｱ2.5(モルタル下地)
巾木	㋠	H=60 ビニール巾木
壁	㋬	ＪＴＢ ｱ12 ビニルクロス貼
	㋶	流し前:硬質木片セメント板 ｱ12 陶器質タイル貼100角
天井	㋡	ＧＢ ｱ9捨張、ＤＲ ｱ9　ＬＧＳ下地
備考		踏込(木下地組):L=1,860×600D×130H　撤去 流し台：L=1,200、コンロ台:L=600、吊戸棚:L=1,200 水切棚：ｽﾃﾝﾚｽL=900 1段、ライニング笠木:W=100、L=1,　800 レンジフード:W=600　　現況のまま

宿直室(1)、(2)（既存仕上）　CH=2,500

部位	符号	仕　上
床	㋶	タタミ敷(均しﾓﾙﾀﾙ ｱ40の上 PF板 ｱ50敷下地)
巾木	㋓	タタミ寄
壁	㋬	ＪＴＢ ｱ12　ビニルクロス貼
天井	㋜	ＧＢ(Ｗ)杉柾　ＬＧＳ下地

広縁（既存仕上）　CH=2,720

部位	符号	仕　上
床	㋕	ヒバ縁甲板 ｱ12.5張　ＰＵＣ　(木下地組)
巾木	㋷	雑巾摺
壁	㋬	ＪＴＢ ｱ12　ビニルクロス貼
天井	㋟	ＧＢ ｱ9下地　ビニルクロス貼(網代柄)　木下地
備考		ベリカバー：ｽﾃｰﾙ製 ｱ1.6焼付塗装 D600×L,000H 現況のまま

【注記】

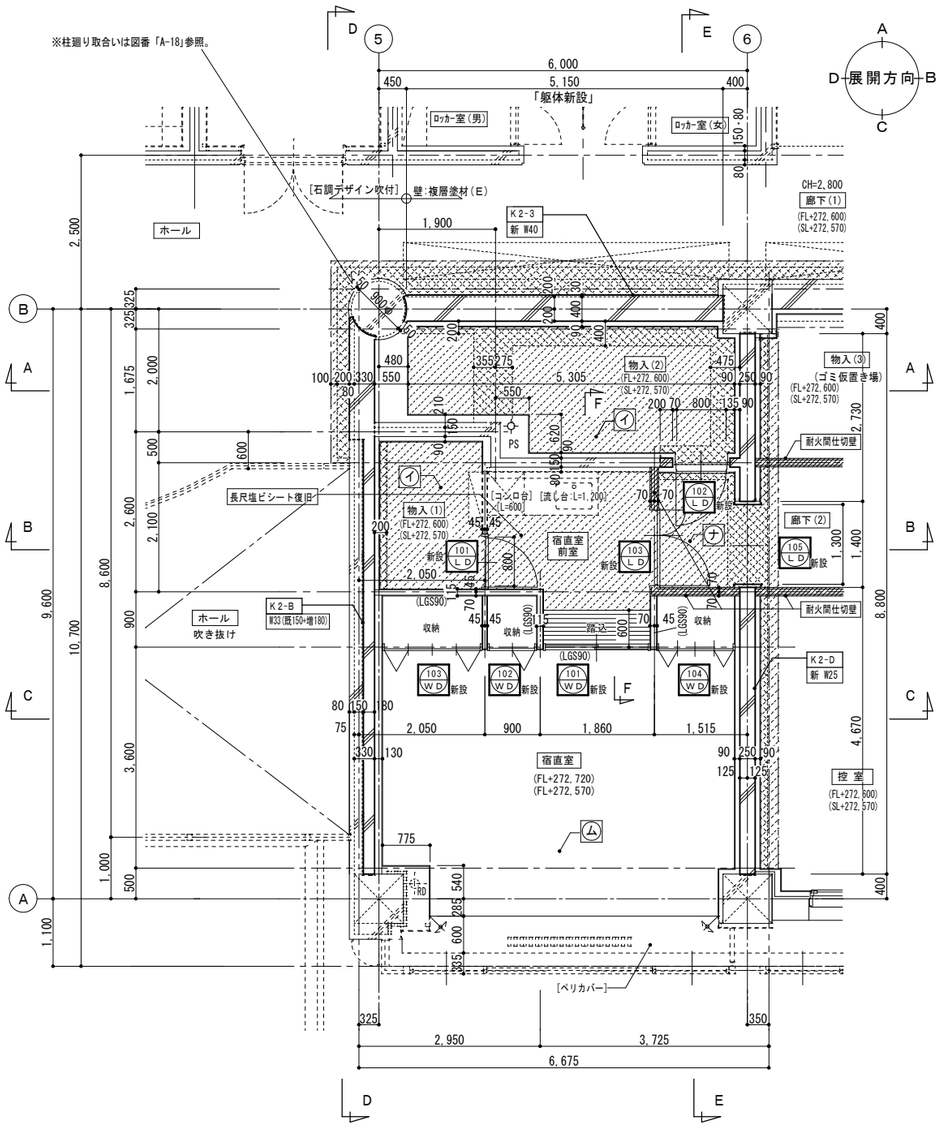
・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

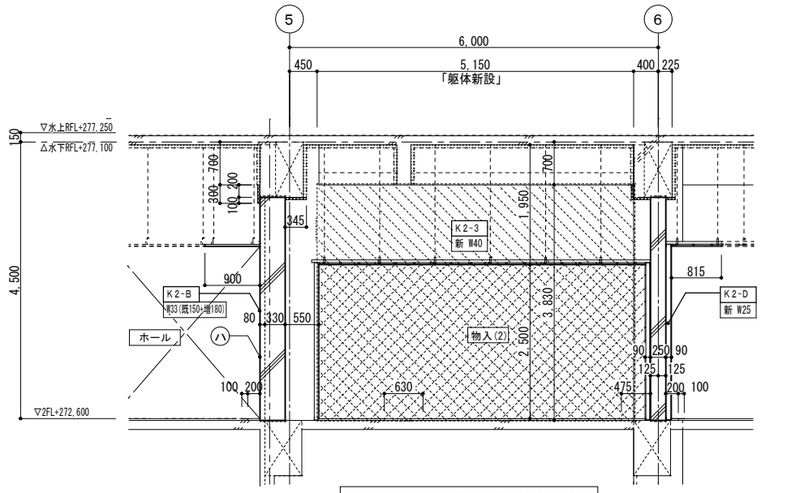
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名　称	K2-B、K2-D、K2-3(1)(改修前)						
縮　尺	A1:1/50					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図　番	A-39

十勝中部広域水道企業団

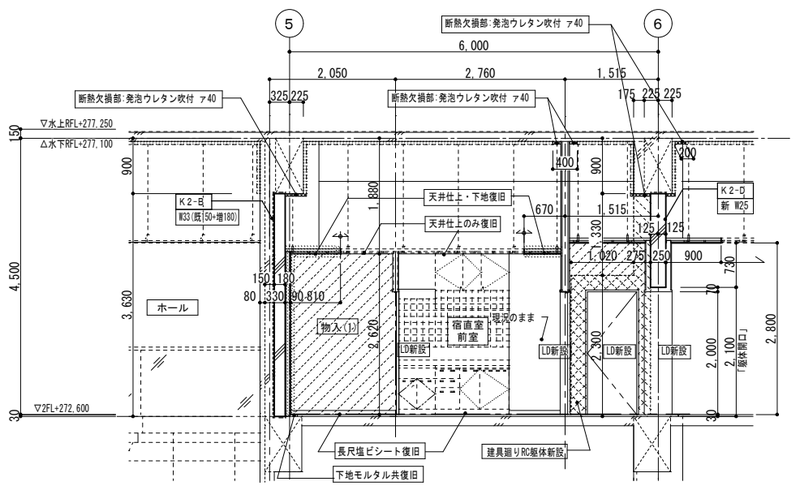
K２－B	２階　５通り　Ａ－Ｂり通間(改修後)	K２－D	２階　６通り　Ａ－Ｂ通り間(改修後)	K２－３	２階　Ｂ通り　５－６通り間(改修後)



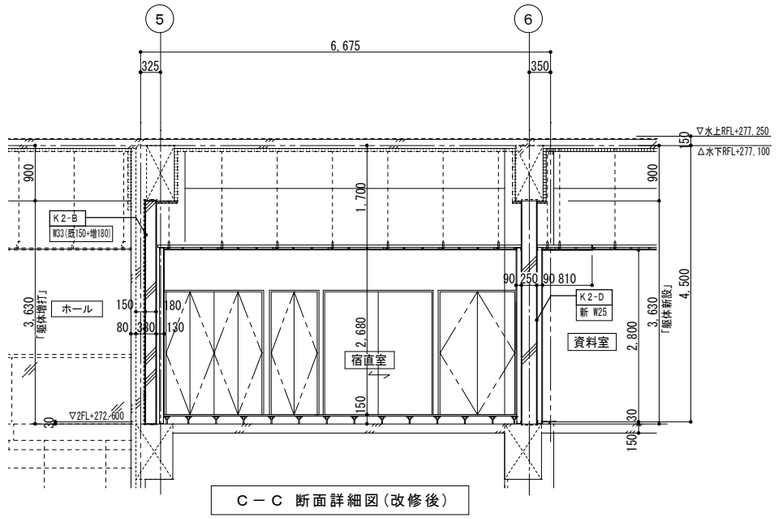
２階　５－６通　Ａ－Ｂ通間　平面詳細図(改修後)



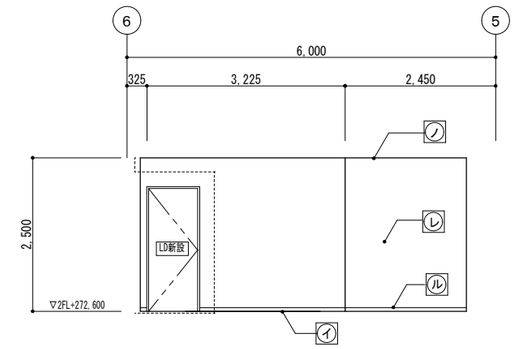
Ａ－Ａ　断面詳細図(改修後)



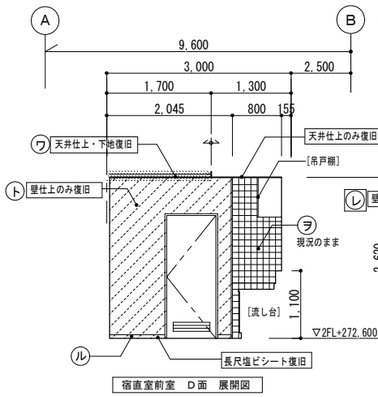
Ｂ－Ｂ　断面詳細図(改修後)



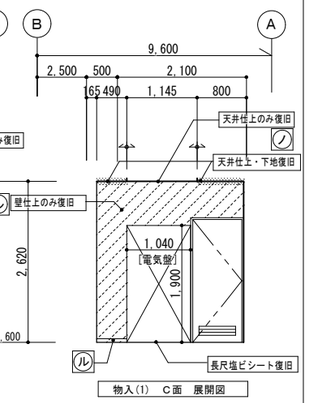
Ｃ－Ｃ　断面詳細図(改修後)



物入(2)　Ｃ面　展開図



宿直室前室　Ｄ面　展開図



物入(1)　Ｃ面　展開図

ホール(2F)(既存・改修仕上)　CH=2,800

部位	符号	仕　上
床	(イ)	長尺塩ビシート ｱ2.5(モルタル下地)
巾木	(ロ)	H=100　コンクリート打放し ＮＡＤ
壁	(ハ)	コンクリート打放し目地切の上 石調デザイン吹付
天井	(ニ)	ＧＢ ｱ9.5捨張、ＤＲ ｱ19(リブ)　ＬＧＳ下地

宿直室前室　(既存・改修仕上)　CH=2,620

部位	符号	仕　上
床	(イ)	長尺塩ビシート ｱ2.5(モルタル下地)
巾木	(ル)	H=60　ビニール巾木
壁	(ト)	ＪＴＢ ｱ12.5　ビニルクロス貼
	(ヲ)	流し前:硬質木片セメント板 ｱ12　陶器質タイル貼100角
天井	(ワ)	ＧＢ ｱ9.5捨張、ＤＲ ｱ9　ＬＧＳ下地

廊下(1)　(既存・改修仕上)　CH=2,800

部位	符号	仕　上
床	(イ)	長尺塩ビシート ｱ2.5(モルタル下地)
巾木	(ロ)	H=100　コンクリート打放し ＮＡＤ
壁	(ホ)	コンクリート打放し目地切の上 弾性吹付タイル
	(カ)	コンクリート打放し目地切の上 複層塗材(E)
天井	(ニ)	ＧＢ ｱ9.5捨張、ＤＲ ｱ19(リブ)　ＬＧＳ下地

収納(新規仕上)　CH=2,500

部位	符号	仕　上
床	(ソ)	シナベニヤ ｱ9
巾木	(ヨ)	雑巾摺
壁	(ツ)	ＧＢ ｱ12.5　ＬＧＳ下地
天井	(ネ)	ＧＢ ｱ9.5　ＬＧＳ下地

宿直室　(新規仕上)　CH=2,680

部位	符号	仕　上
床	(ム)	タイルカーペット敷　(二重床下地組 捨張合板 ｱ12) 踏込:複合フローリングボード ｱ12
巾木	(ル)	H=60　ビニール巾木
壁	(ト)	ＪＴＢ ｱ12.5　ビニルクロス貼
天井	(ワ)	ＧＢ ｱ9.5捨張、ＤＲ ｱ9　ＬＧＳ下地

物入(1):CH=2,620、物入(2):CH=2,500(新規仕上)

部位	符号	仕　上
床	(イ)	長尺塩ビシート ｱ2.5(既存モルタル下地) 一部、新設モルタル下地
巾木	(ル)	H=60　ビニール巾木
壁	(レ)	ＪＴＢ ｱ12.5　ＥＰ
天井	(ノ)	石綿セメント板 ｱ6 目透し貼　ＮＡＤ(ＬＧＳ下地) 一部、既存ＬＧＳ下地

物入(3)　(新規仕上)　CH=2,800

部位	符号	仕　上
床	(イ)	長尺塩ビシート ｱ2.5(既存モルタル下地) 一部、新設モルタル下地
巾木	(ル)	H=60　ビニール巾木
壁	(レ)	ＪＴＢ ｱ12.5　ＥＰ
天井	(ワ)	ＧＢ ｱ9.5捨張、ＤＲ ｱ9　ＬＧＳ下地

控室　(新規仕上)　CH=2,800

部位	符号	仕　上
床	(ナ)	ホモジニアスビニル床タイル ｱ2.0(既存モルタル下地) 一部、新設モルタル下地
巾木	(ル)	H=60　ビニール巾木
壁	(ト)	ＪＴＢ ｱ12.5　ビニルクロス貼
天井	(ワ)	ＧＢ ｱ9.5捨張、ＤＲ ｱ9　ＬＧＳ下地

廊下(2)　(新規仕上)　CH=2,800

部位	符号	仕　上
床	(ナ)	ホモジニアスビニル床タイル ｱ2.0(既存モルタル下地) 一部、新設モルタル下地
巾木	(ル)	H=60　ビニール巾木
壁	(ト)	ＪＴＢ ｱ12.5　ビニルクロス貼
天井	(ワ)	ＧＢ ｱ9.5捨張、ＤＲ ｱ9　ＬＧＳ下地

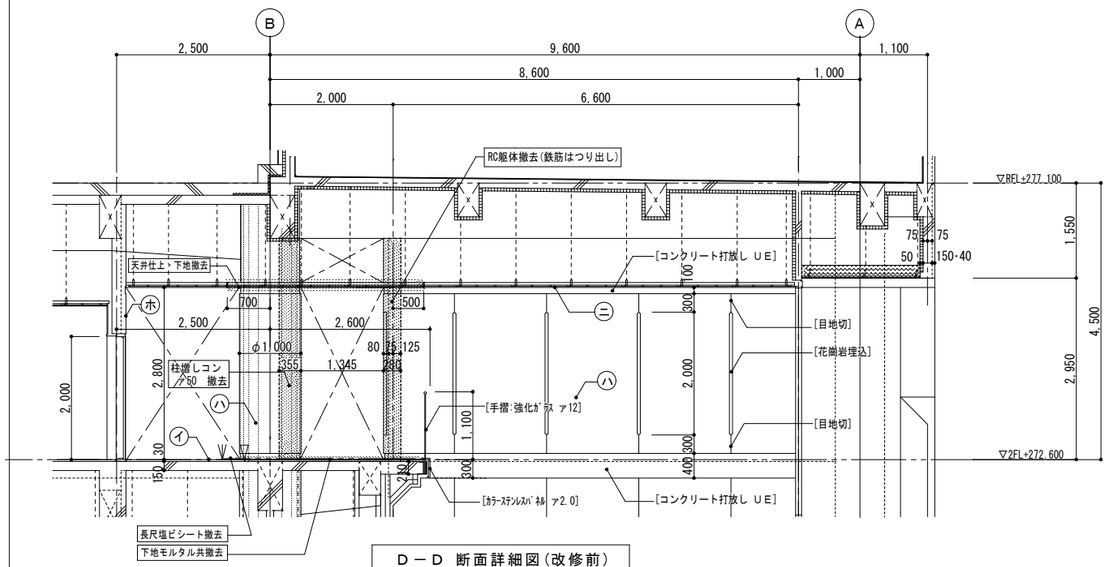
【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

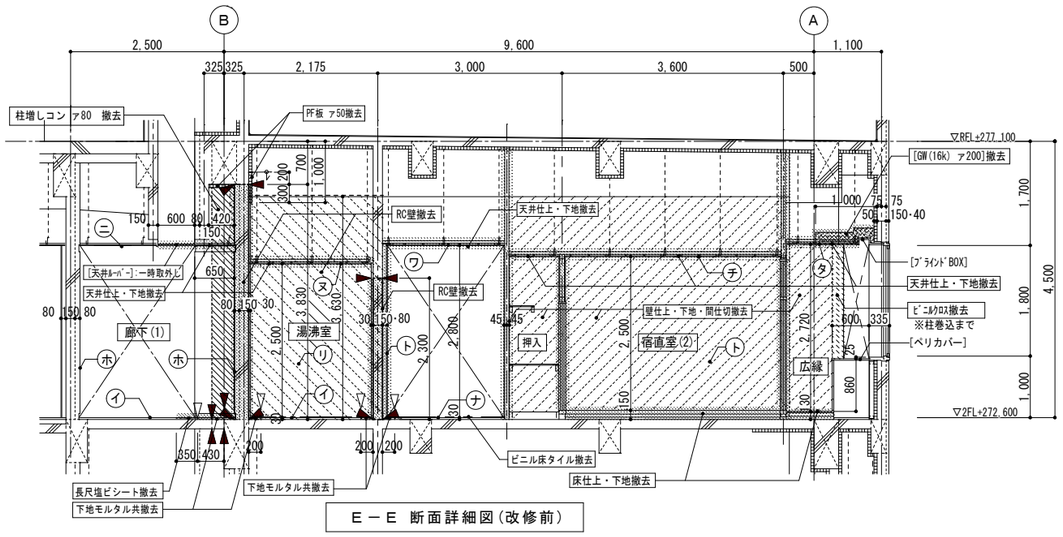
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名　称	K2-B、K2-D、K2-3(2)(改修後)						
縮　尺	A1:1/50					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図　番	A-40
十勝中部広域水道企業団							

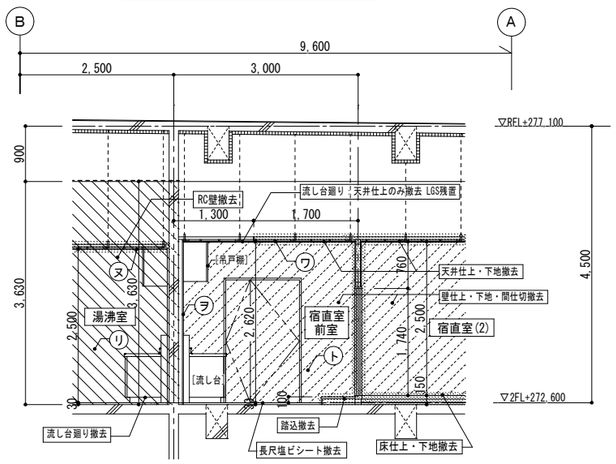
K２－B	２階 ５通り Ａ－Ｂり通(改修前)	K２－３	２階 Ｂ通り ５－６通り間(改修前)
K２－D	２階 ６通り Ａ－Ｂ通り間(改修前)		



Ｄ－Ｄ 断面詳細図(改修前)

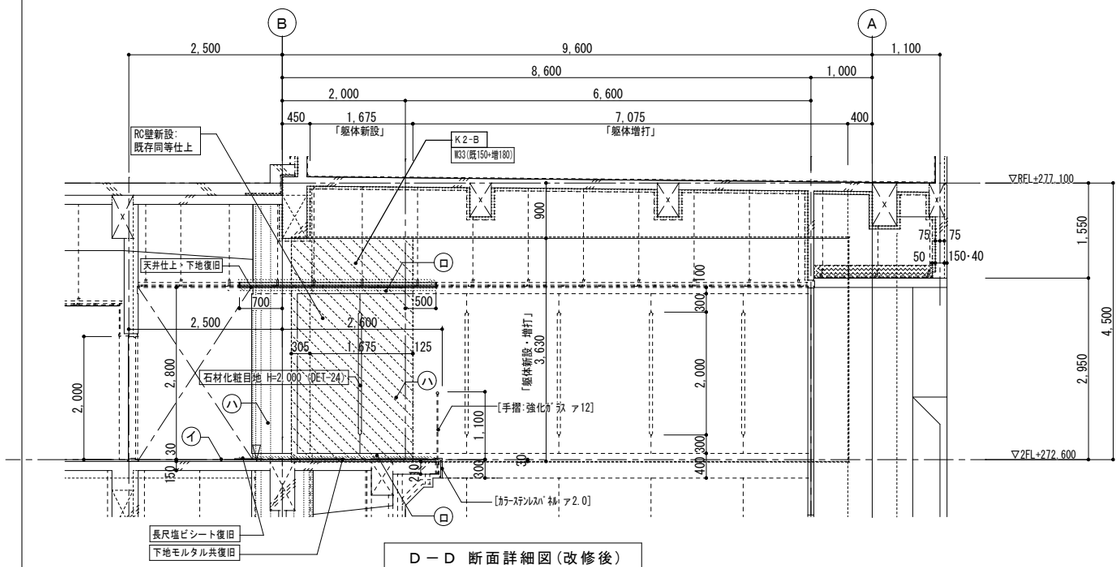


Ｅ－Ｅ 断面詳細図(改修前)

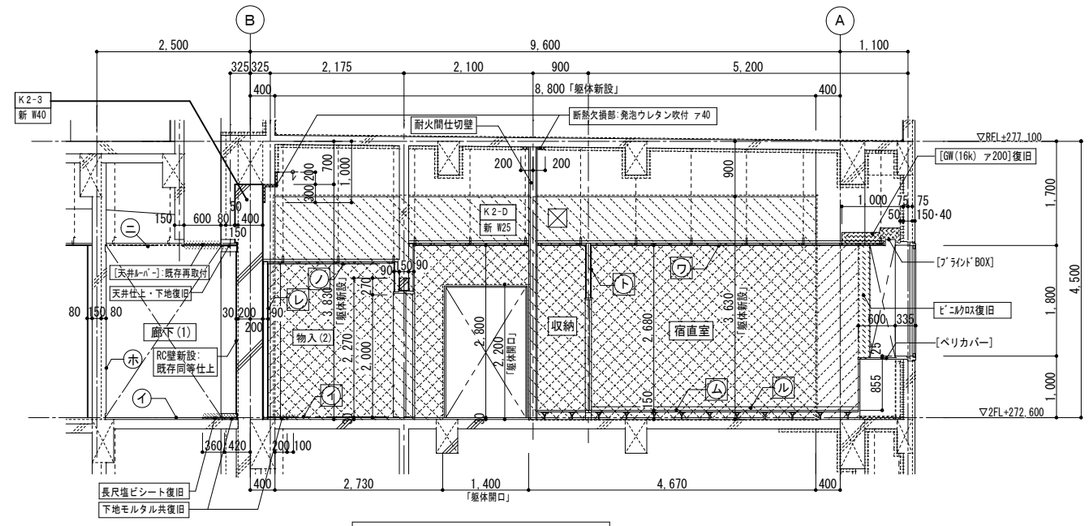


Ｆ－Ｆ 断面詳細図(改修前)

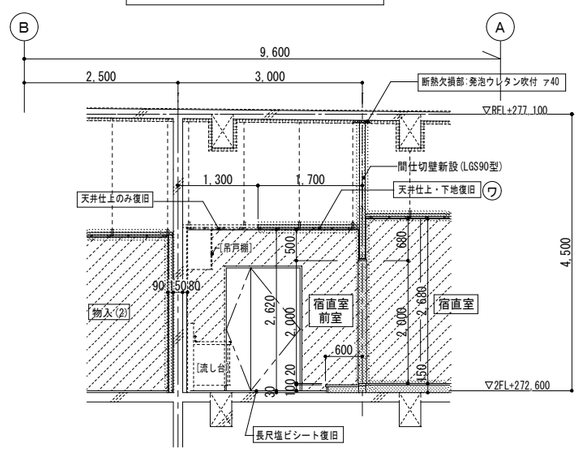
K２－B	２階 ５通り Ａ－Ｂり通(改修後)	K２－３	２階 Ｂ通り ５－６通り間(改修後)
K２－D	２階 ６通り Ａ－Ｂ通り間(改修後)		



Ｄ－Ｄ 断面詳細図(改修後)



Ｅ－Ｅ 断面詳細図(改修後)



Ｆ－Ｆ 断面詳細図(改修後)

【注記】

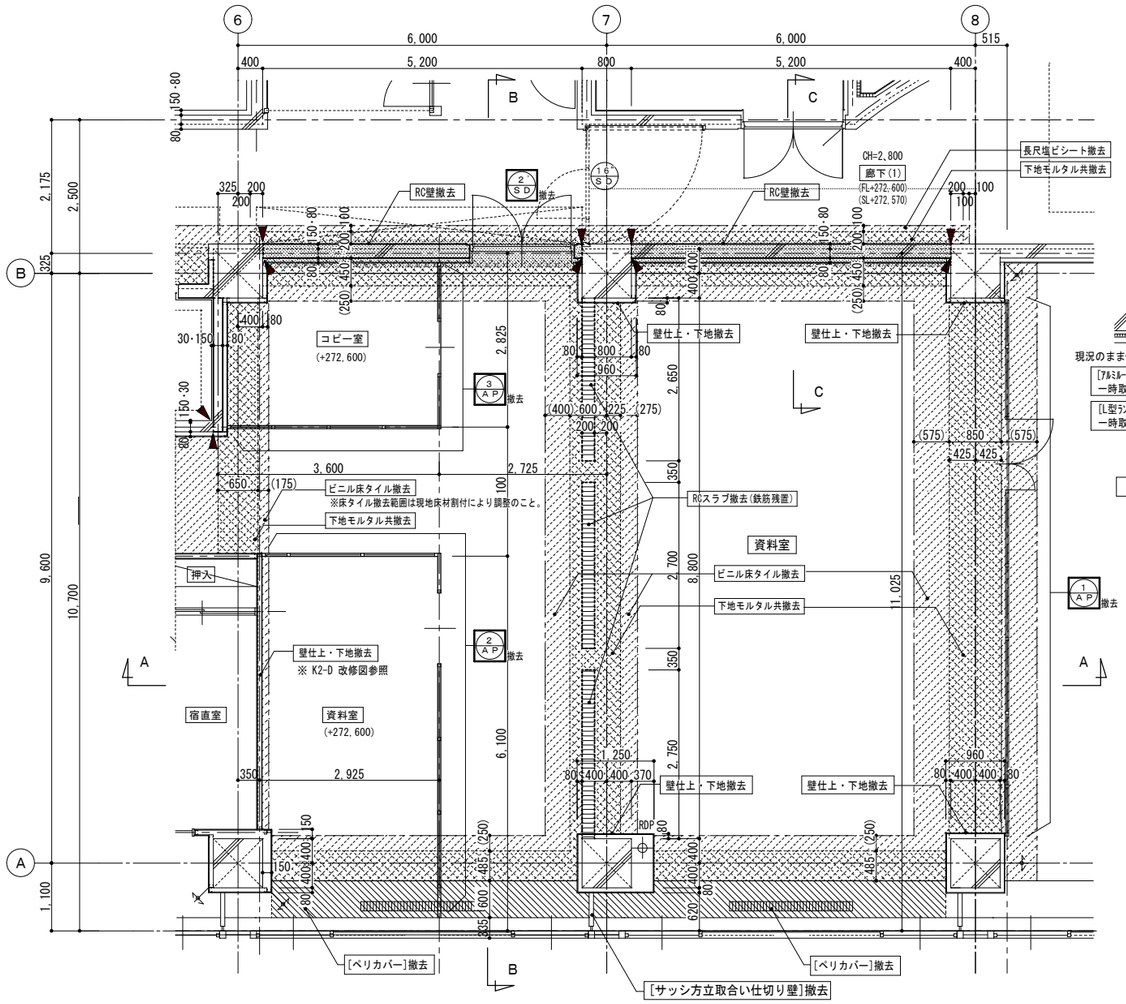
・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

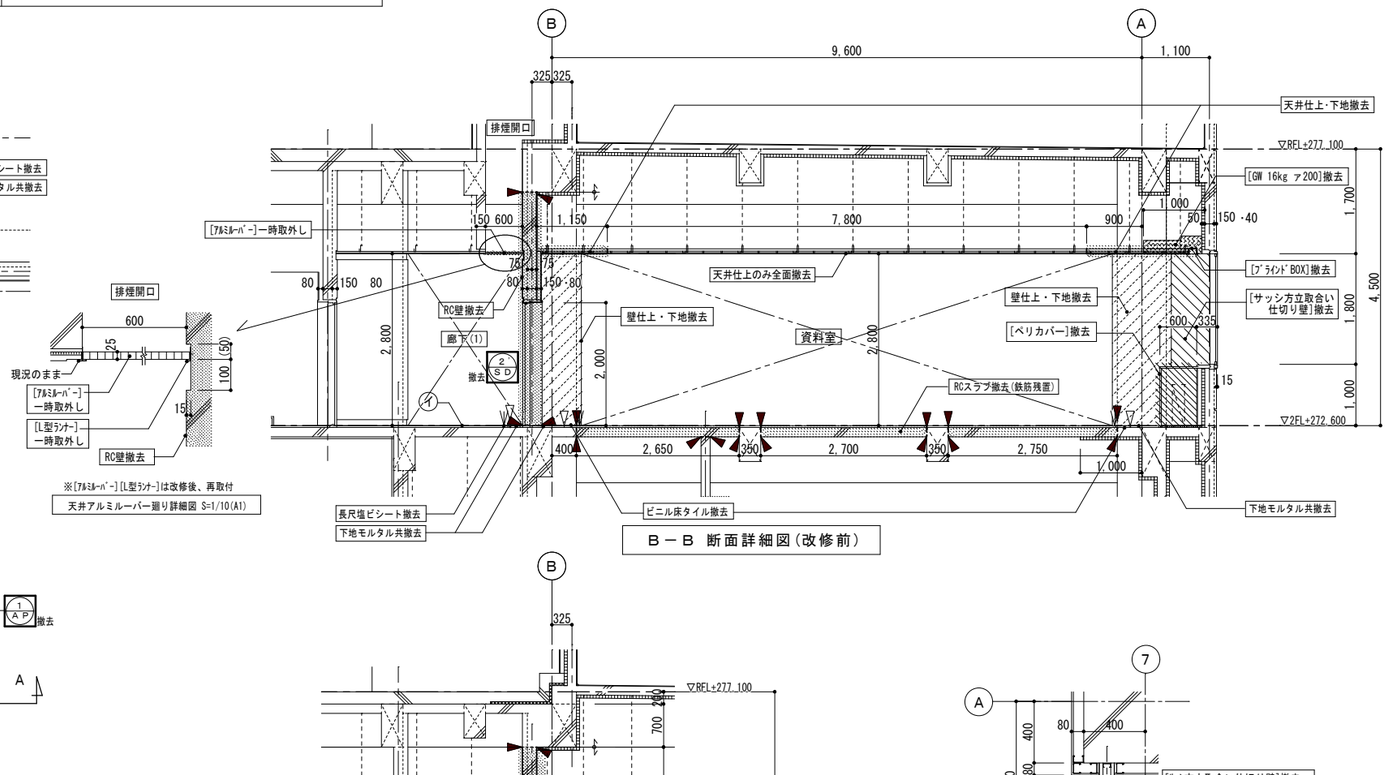
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	K2-B、K2-D、K2-3(3)(改修前・後)						
縮尺	A1:1/50					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-41

十勝中部広域水道企業団

K２－F	２階 ７通り　A－B通り間(改修前)	K２－H	２階 ８通り　A－B通り間(改修前)	K２－１	２階 A通り　６－７通り間(改修前)
K２－２	２階 A通り　７－８通り間(改修前)	K２－４	２階 B通り　６－７通り間(改修前)	K２－５	２階 B通り　７－８通り間(改修前)



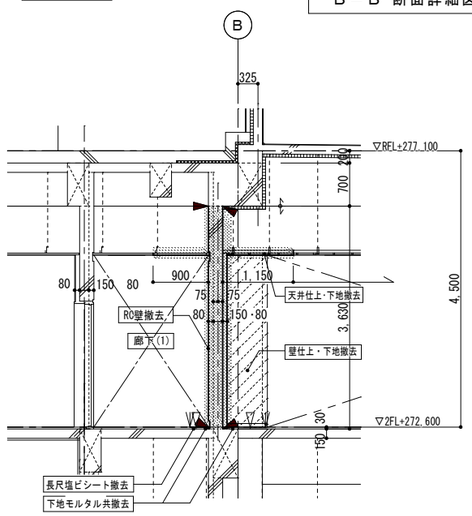
２階 ５－６通 A－B通間　平面詳細図(改修前)



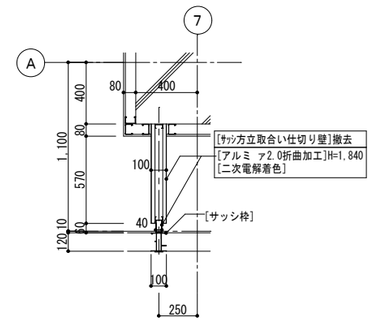
Ｂ－Ｂ 断面詳細図(改修前)

※[ｱﾙﾐﾙｰﾊﾞｰ]-[L型ﾗﾝﾅｰ]は改修後、再取付

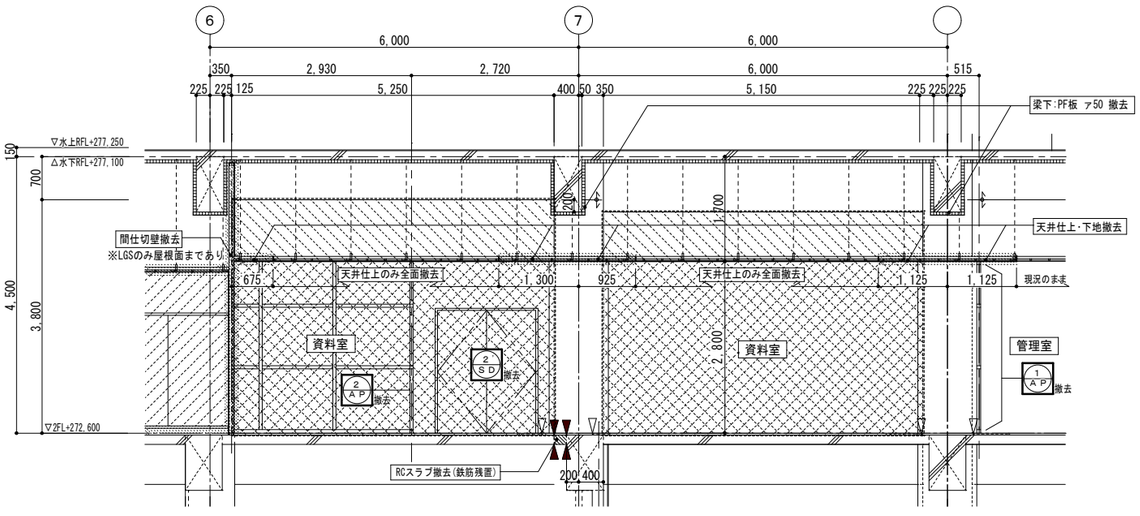
天井アルミルーバー廻り詳細図 S=1/10(A1)



Ｃ－Ｃ 断面詳細図(改修前)



[ｻｯｼ方立取合い仕切り壁]廻り詳細図 S=1/20(A1)



Ａ－Ａ 断面詳細図(改修前)

廊下(1)（既存仕上） CH=2,800

部位	符号	仕　上
床	(イ)	長尺塩ビシート ァ2.5(モルタル下地)
巾木ｷﾞｰﾀﾞｰ	(ロ)	H=100 コンクリート打放し ＵＥ
壁	(ハ)	コンクリート打放し目地切の上 弾性吹付タイル
天井	(ニ)	ＧＢ ァ9捨張、ＤＲ ァ19(リブ) ＬＧＳ下地

管理室・コピー室・資料室（既存仕上） CH=2,800

部位	符号	仕　上
床	(ホ)	ホモジニアスビニル床タイル ァ2.0(モルタル下地)
巾木	(ヘ)	H=60 ビニール巾木
壁	(ト)	ＪＴＢ ァ12 ビニルクロス貼
天井	(チ)	ＧＢ ァ9捨張、ＤＲ ァ9 ＬＧＳ下地

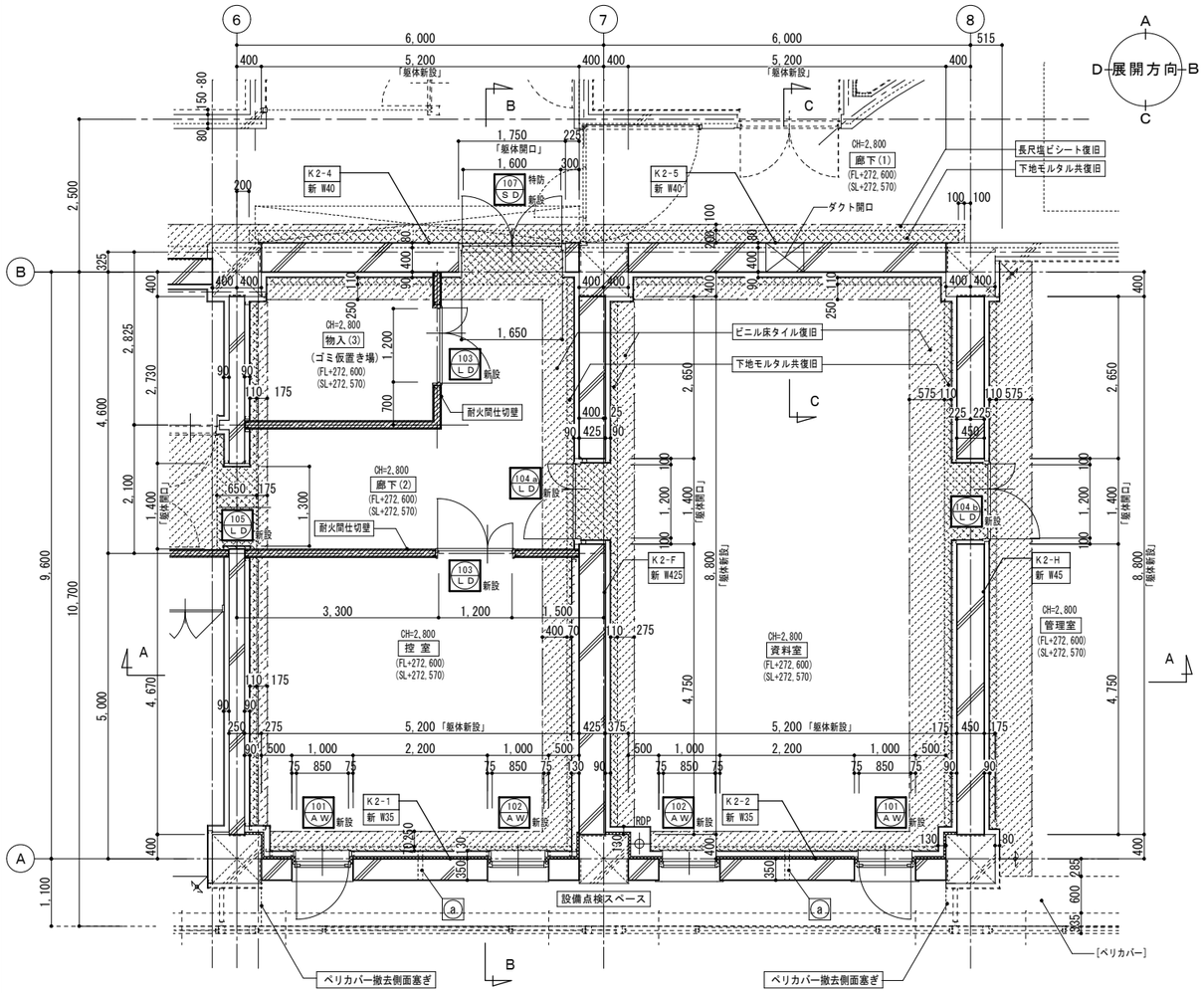
【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

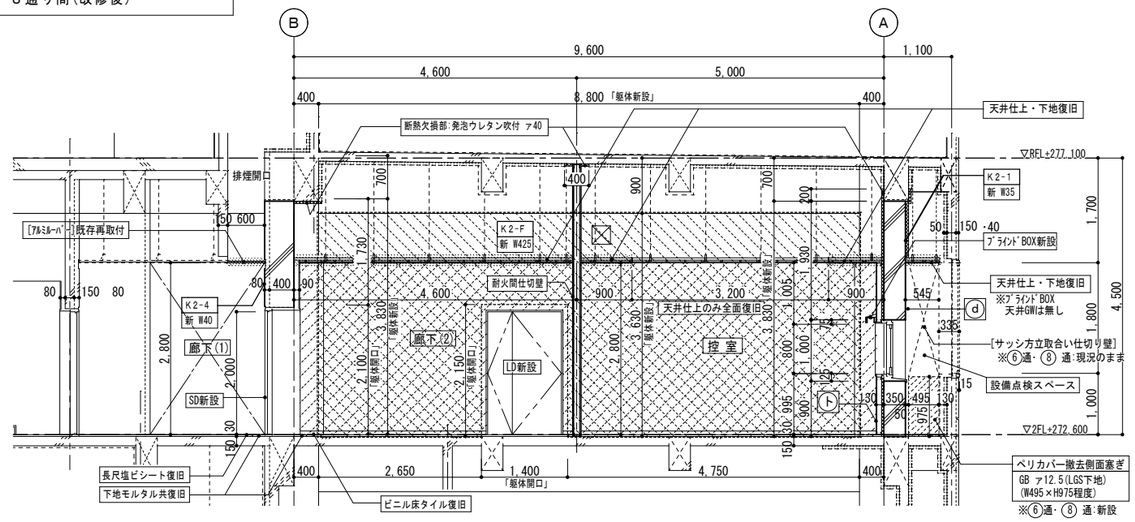
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名　称	K2-F、K2-H、K2-1、K2-2、K2-4、K2-5(1)(改修前)							
縮　尺	A1:1/50						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図　番	A-42
十勝中部広域水道企業団								

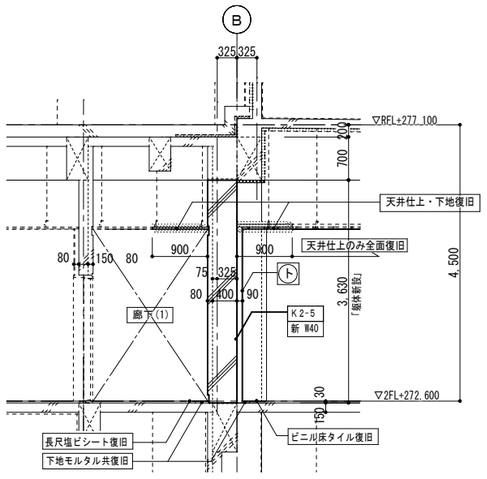
K2－F	2階 7通り Ａ－Ｂり通間(改修後)	K2－H	2階 8通り Ａ－Ｂ通り間(改修後)	K2－1	2階 Ａ通り 6－7通り間(改修後)
K2－2	2階 Ａ通り 7－8通り間(改修後)	K2－4	2階 Ｂ通り 6－7通り間(改修後)	K2－5	2階 Ｂ通り 7－8通り間(改修後)



２階 ５－６通 Ａ－Ｂ通間 平面詳細図(改修後)



Ｂ－Ｂ 断面詳細図(改修後)



Ｃ－Ｃ 断面詳細図(改修後)

資料室（新規仕上） CH=2,800

部位	符号	仕上
床	ホ	ホモジニアスビニル床タイル ァ2.0(既存モルタル下地) 一部、新設モルタル下地
巾木	ヘ	H=60 ビニール巾木
壁	ト	ＪＴＢ ァ12.5 ビニルクロス貼
天井	チ	ＧＢ ァ9.5捨張、ＤＲ ァ9 ＬＧＳ下地

廊下(1)（既存・改修仕上） CH=2,800

部位	符号	仕上
床	イ	長尺塩ビシート ァ2.5(既存モルタル下地) 一部、新設モルタル下地
巾木 ﾎﾞｰﾀﾞｰ	ロ	H=100 コンクリート打放し ＮＡＤ
壁	ハ	コンクリート打放し目地切の上 複層塗材(E)
天井	ニ	ＧＢ ァ9捨張、ＤＲ ァ19(リブ) ＬＧＳ下地

廊下(2)（新規仕上） CH=2,800

部位	符号	仕上
床	ホ	ホモジニアスビニル床タイル ァ2.0(既存モルタル下地) 一部、新設モルタル下地
巾木	ヘ	H=60 ビニール巾木
壁	ト	ＪＴＢ ァ12.5 ビニルクロス貼
	ヌ	両面GB-F ァ12.5×2枚貼の上 ビニルクロス貼 (耐火間仕切壁) (ＬＧＳ90型下地)
天井	チ	ＧＢ ァ9.5捨張、ＤＲ ァ9 ＬＧＳ下地

物入(3)（新規仕上） CH=2,800

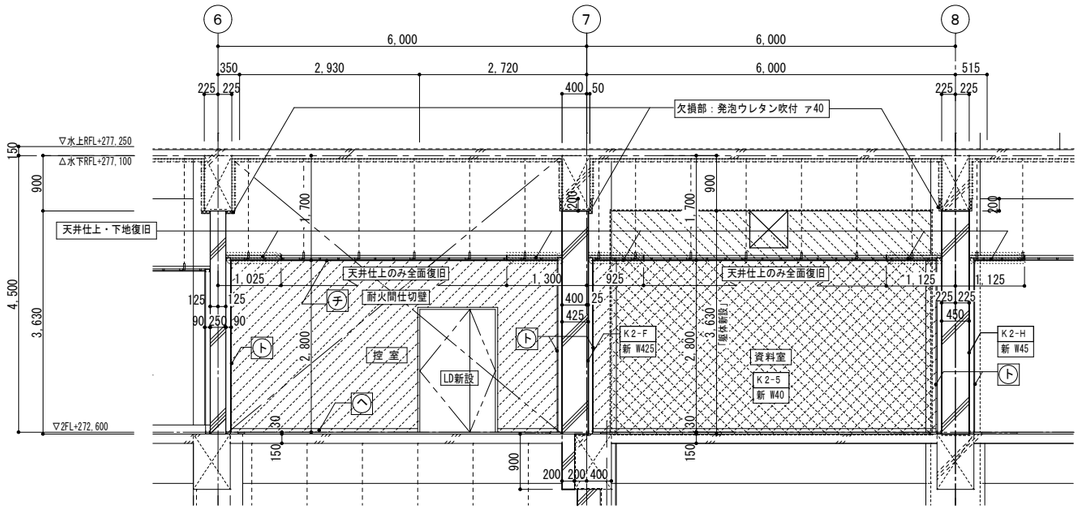
部位	符号	仕上
床	ホ	ホモジニアスビニル床タイル ァ2.0(既存モルタル下地) 一部、新設モルタル下地
巾木	ヘ	H=60 ビニール巾木
壁	リ	ＪＴＢ ァ12.5 ビニルクロス貼(ＬＧＳ下地)
	ヌ	両面GB-F ァ12.5×2枚貼の上 ビニルクロス貼 (耐火間仕切壁) (ＬＧＳ90型下地)
天井	チ	ＧＢ ァ9.5捨張、ＤＲ ァ9 ＬＧＳ下地

控室（新規仕上） CH=2,800

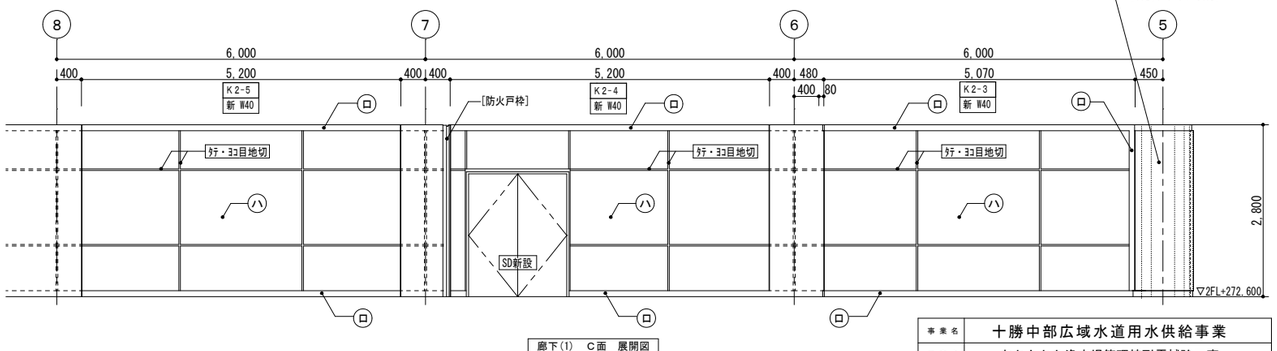
部位	符号	仕上
床	ホ	ホモジニアスビニル床タイル ァ2.0(既存モルタル下地) 一部、新設モルタル下地
巾木	ヘ	H=60 ビニール巾木
壁	ト	ＪＴＢ ァ12.5 ビニルクロス貼(ＬＧＳ下地)
	ヌ	両面GB-F ァ12.5×2枚貼の上 ビニルクロス貼 (耐火間仕切壁) (ＬＧＳ90型下地)
天井	チ	ＧＢ ァ9.5捨張、ＤＲ ァ9 ＬＧＳ下地

設備点検スペース（新規仕上）

部位	符号	仕上
壁	d	コンクリート打ち放し補修の上 EP-G
備考	a	レジスター・ガラリ (DET-26)



Ａ－Ａ 断面詳細図(改修後)



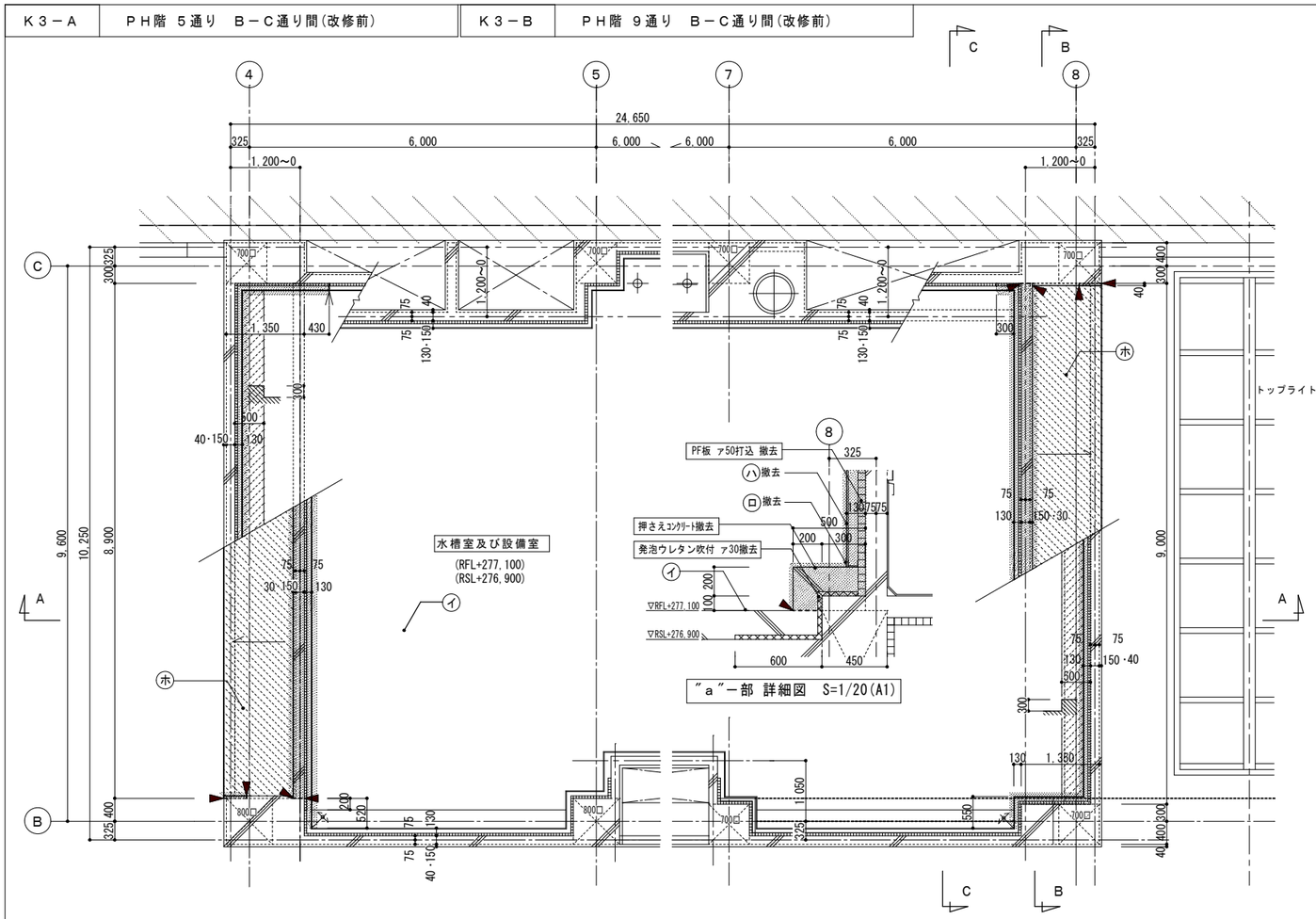
廊下(1) Ｃ面 展開図

【注記】
・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

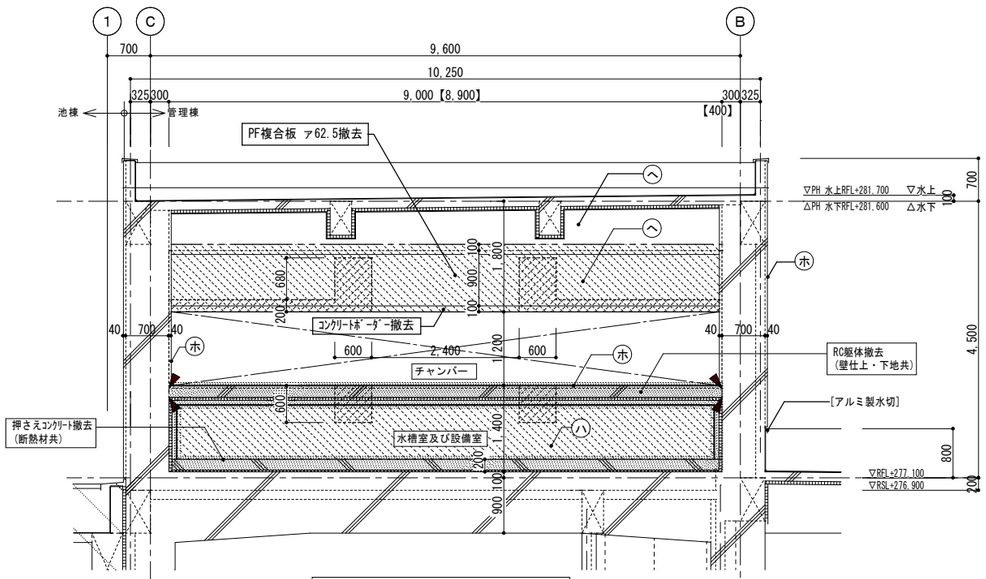
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	K2-F、K2-H、K2-1、K2-2、K2-4、K2-5(2)(改修後)						
縮尺	A1:1/50					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-43

十勝中部広域水道企業団

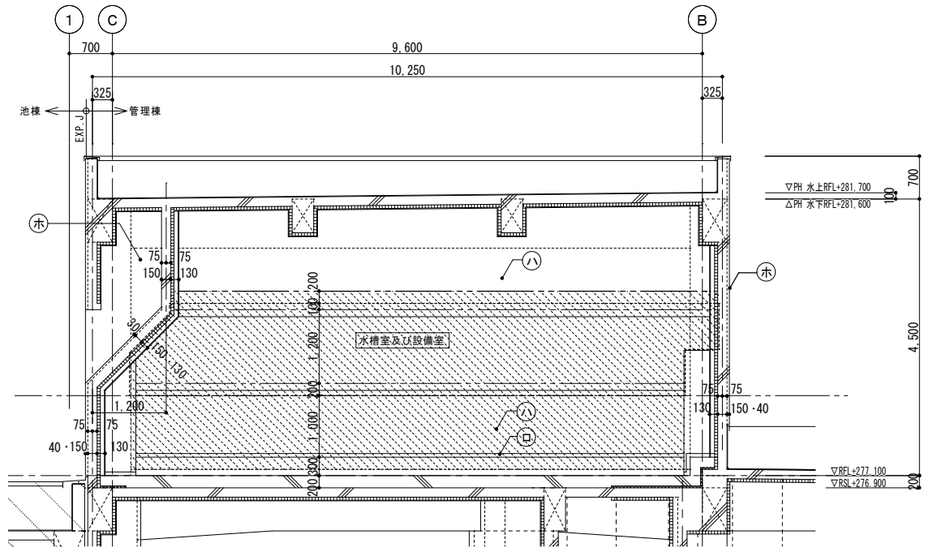
K３－A	ＰＨ階　５通り　Ｂ－Ｃ通り間(改修前)	K３－B	ＰＨ階　９通り　Ｂ－Ｃ通り間(改修前)



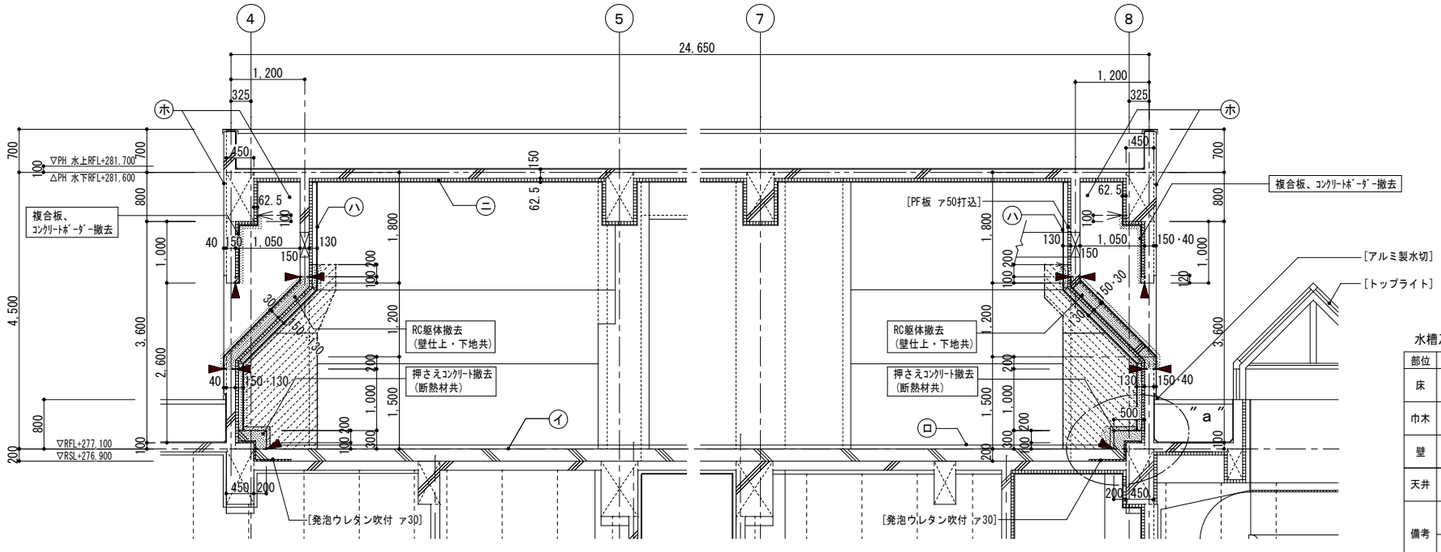
ＰＨ階　５－９通　Ｂ－Ｃ通間　平面詳細図(改修前)



Ｂ－Ｂ 断面詳細図(改修前)



Ｃ－Ｃ 断面詳細図(改修前)



Ａ－Ａ 断面詳細図(改修前)

水槽及び設備室(既存仕上)　直天井

部位	符号	仕上
床	イ	軽量コンクリート ｱ200直均し ウレタン系塗床 ｱ2.0(ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ工法)
巾木	ロ	H=60　ステンレス巾木　ｱ2.0 HL
壁	ハ	石綿セメント板 ｱ6 弾性吹付タイル　(ＬＧＳ下地)
天井	ニ	ＰＦ複合板 ｱ62.5打込の上 軽量骨材吹付 ｱ5
備考	ホ	ﾁｬﾝﾊﾞｰ内壁・周囲外壁・傾斜床: コンクリート打放しの上 弾性吹付タイル
	ヘ	ﾁｬﾝﾊﾞｰ内壁の内 外周部: ＰＦ複合板 ｱ62.5打込の上 弾性吹付タイル

※特記なきは (8) 通側　【 】内は (9) 通側を示す。

【注記】

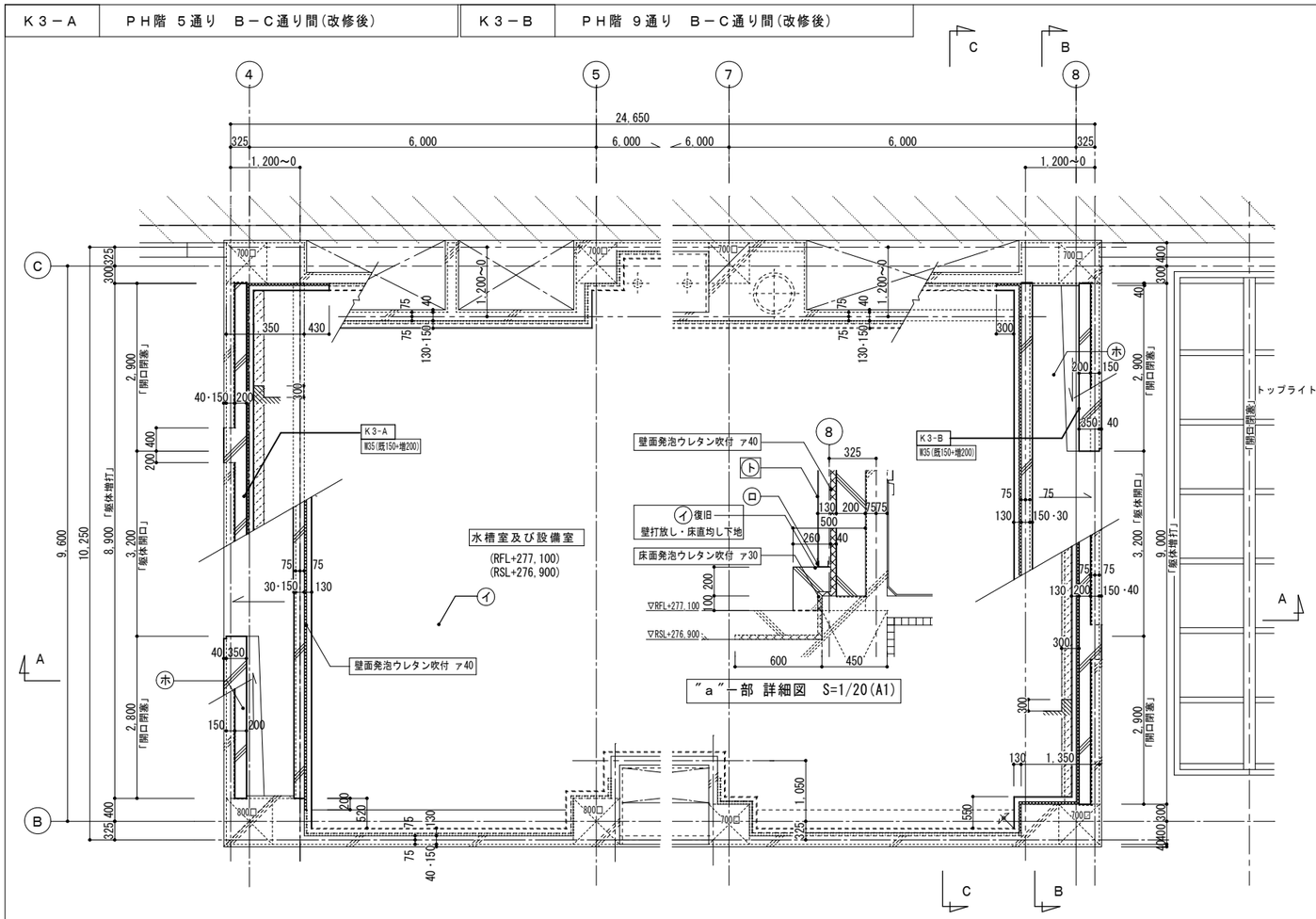
・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	K3-A、K3-B(1)(改修前)						
縮尺	A1:1/50					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-44

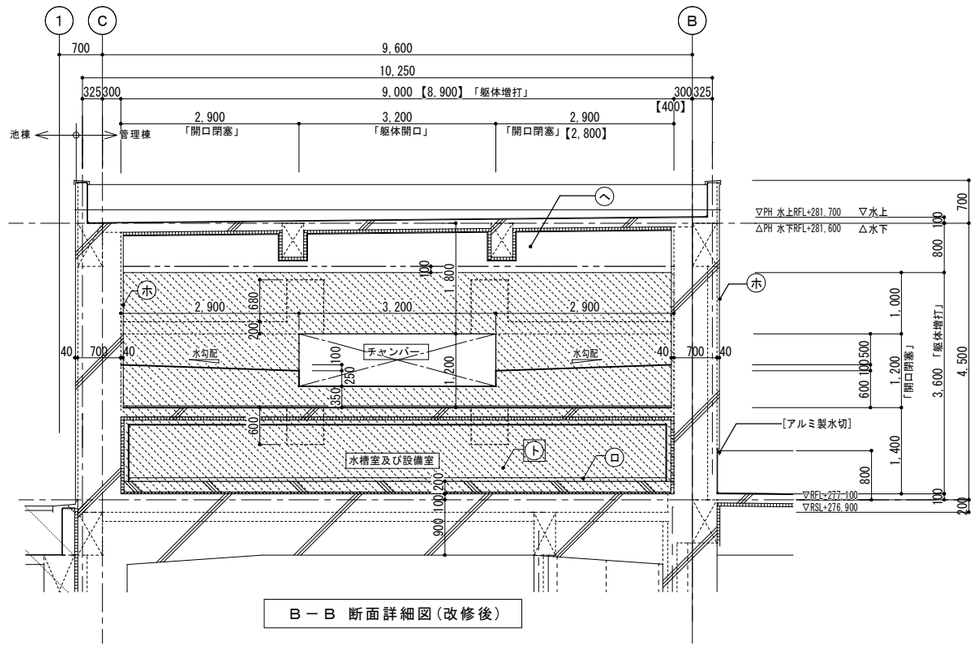
十勝中部広域水道企業団

K３－A	ＰＨ階 ５通り　Ｂ－Ｃ通り間(改修後)	K３－B	ＰＨ階 ９通り　Ｂ－Ｃ通り間(改修後)

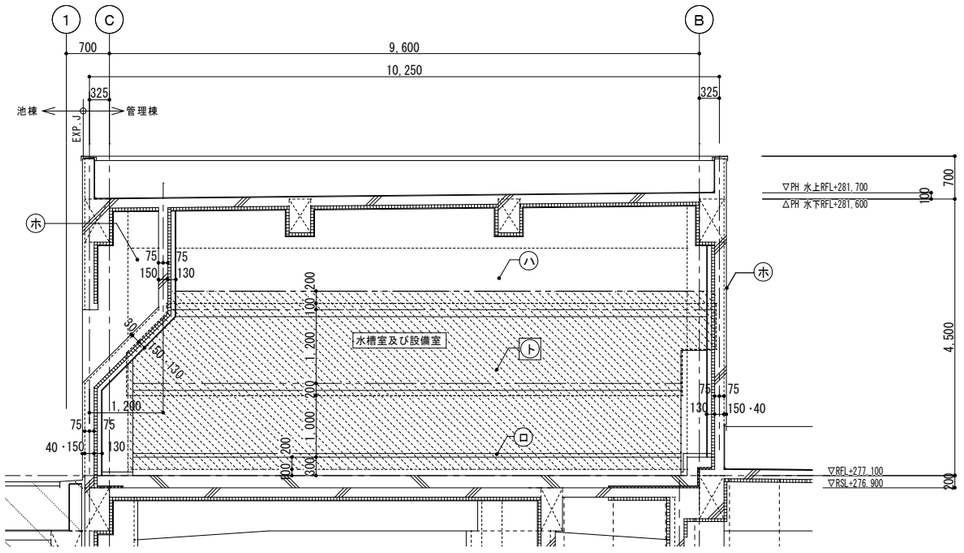


"a"一部 詳細図　S=1/20(A1)

ＰＨ階 ５－９通 Ｂ－Ｃ通間　平面詳細図(改修後)

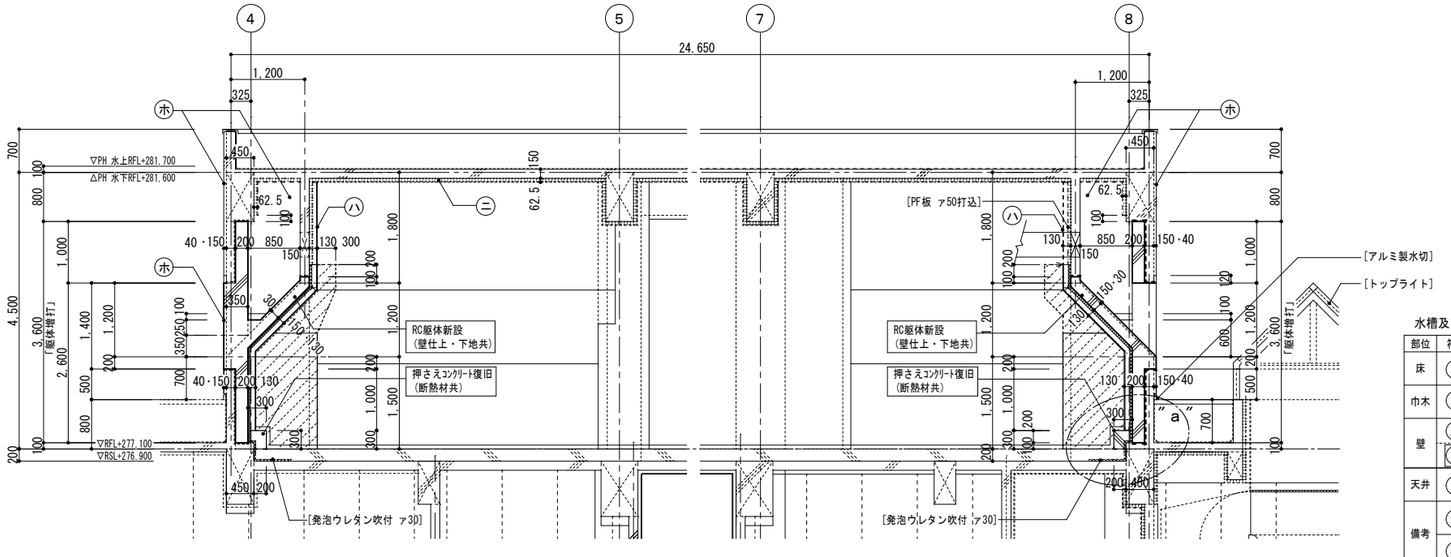


Ｂ－Ｂ 断面詳細図(改修後)



Ｃ－Ｃ 断面詳細図(改修後)

※特記なきはK3-B　【　】内はKS-Aを示す。



Ａ－Ａ 断面詳細図(改修後)

水槽及び設備室(既存・改修仕上)　直天井

部位	符号	仕　上
床	㋑	無筋コンクリート ｱ200直均し ウレタン系塗床 ｱ2.0(ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ工法)
巾木	㋺	H=60　ステンレス巾木　ｱ2.0 HL
壁	㋩	石綿セメント板 ｱ6 弾性吹付タイル　(ＬＧＳ下地)
	㋣	石綿セメント板 ｱ6 複層塗材(E)　(ＬＧＳ下地)
天井	㋭	ＰＦ複合板 ｱ62.5打込の上 軽量骨材吹付 ｱ5
備考	㋬	ﾁｬﾝﾊﾞｰ内壁・周囲外壁・傾斜床: コンクリート打放しの上 弾性吹付タイル
	㋷	ﾁｬﾝﾊﾞｰ内壁の内 外周部: ＰＦ複合板 ｱ62.5打込の上 弾性吹付タイル

【注記】

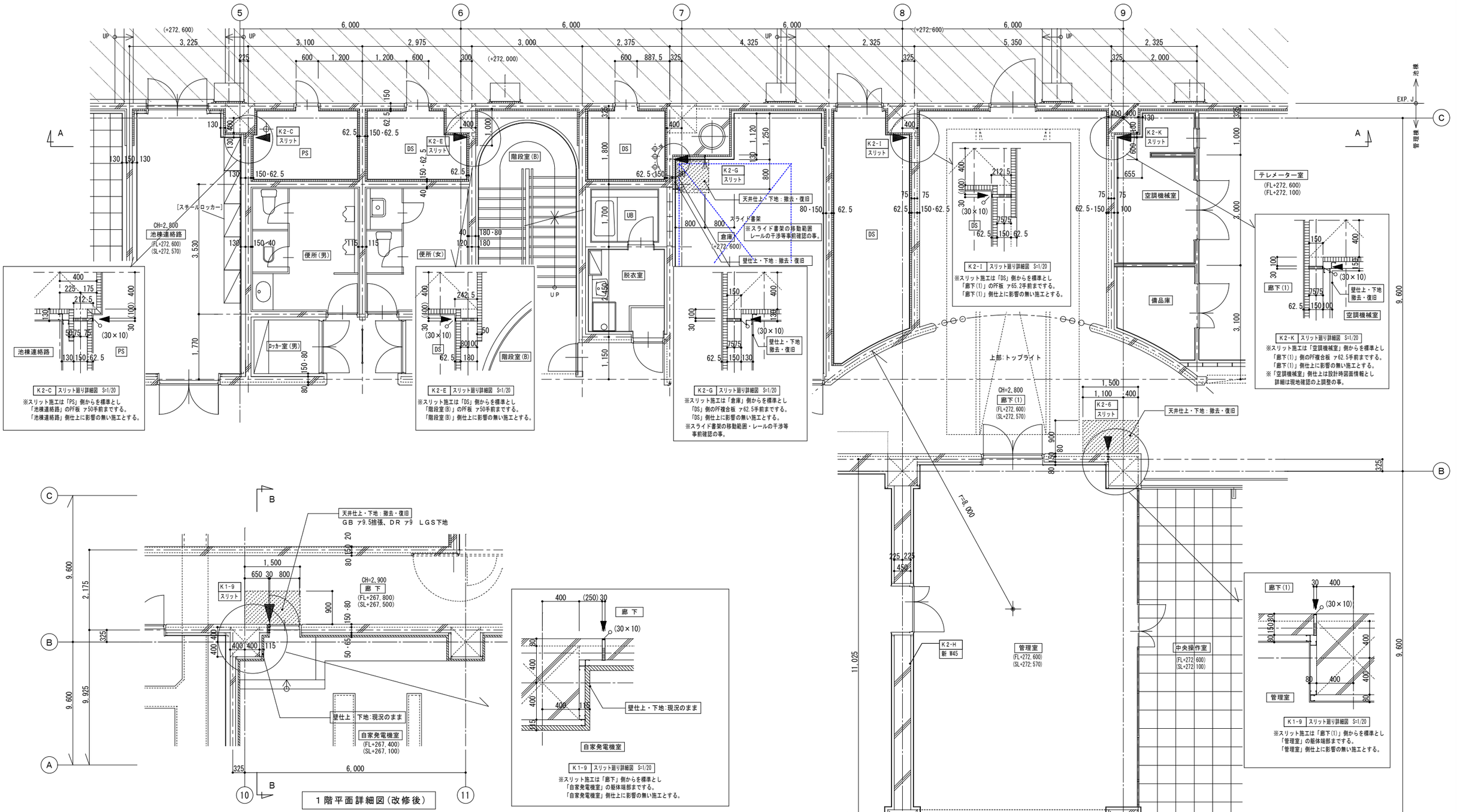
・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名　称	K3-A、K3-B(2)(改修後)						
縮　尺	A1:1/50					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図　番	A-45

十勝中部広域水道企業団

K1－9	1階 B通り 10通り側(改修後)	K2－C	2階 5通り C通り側(改修後)	K2－E	2階 6通り C通り側(改修後)	K2－G	2階 7通り C通り側(改修後)
K2－I	2階 8通り C通り側(改修後)	K2－K	2階 9通り C通り側(改修後)	K2－6	2階 B通り 9通り側(改修後)		



１階平面詳細図(改修後)

２階平面詳細図(改修後)

廊下(1) (既存・改修仕上) CH=2,800

部位	符号	仕 上
床	(イ)	長尺塩ビシート ァ2.5(モルタル下地)
巾木	(ロ)	H=100 コンクリート打放し UE
壁	(ハ)	コンクリート打放し目地切の上 弾性吹付タイル
	(ニ)	PF複合板 ァ62.5打込の上 弾性吹付タイル
天井	(ホ)	GB ァ9捨張、DR ァ19(リブ) LGS下地

池棟連絡通路(既存・改修仕上) CH=2,800(2FLヨリ)
倉庫(既存・改修仕上) CH=2,800(2FLヨリ)

部位	符号	仕 上
床	(イ)	長尺塩ビシート ァ2.5(モルタル下地)
巾木	(ヘ)	H=60 ビニル巾木
壁	(ト)	JTB ァ12.5 EP
天井	(チ)	GB ァ9.5 EP LGS下地

PS・DS(既存・改修仕上) 直天井

部位	符号	仕 上
床	(リ)	コンクリート直均し
巾木	——	———
壁	(ヌ)	PF複合板 ァ62.5打込
天井	(ヌ)	PF複合板 ァ62.5打込

空調機械室(既存・改修仕上) 直天井

部位	符号	仕 上
床	(ル)	ビニル床タイル ァ2.0(軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ ァ500)
巾木	(ヘ)	H=60 ビニル巾木
壁	(ヲ)	グラスウール吸音材(96K)ガラスクロス仕上 ァ25 LGS下地
天井	(ワ)	PF板 ァ50打込

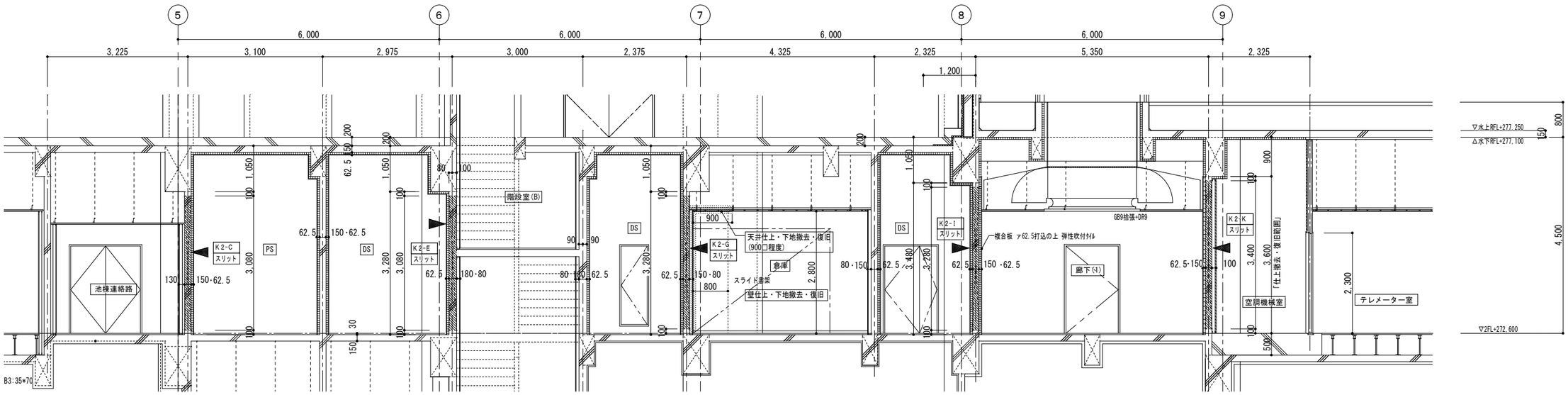
【注記】
・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	K1-9、K2-C、-E、-G、-I、-K、-6(1)(改修後)
縮尺	A1:1/50
製作年月日	
設計番号	
図番	A-46

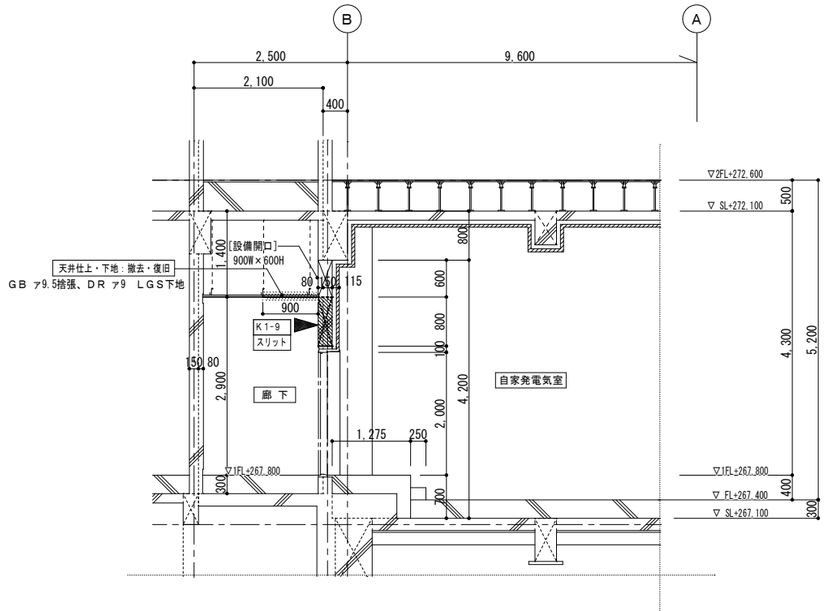
承認印	局長	次長	課長	係長	係

十勝中部広域水道企業団

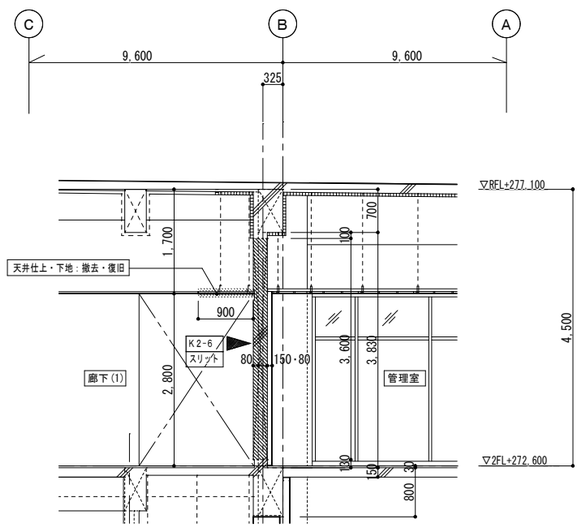
Ｋ１－９	１階 Ｂ通り　10通り側(改修後)	Ｋ２－Ｃ	２階 ５通り　Ｃ通り側(改修後)	Ｋ２－Ｅ	２階 ６通り　Ｃ通り側(改修後)	Ｋ２－Ｇ	２階 7通り　Ｃ通り側(改修後)	Ｋ２－Ｉ	２階 ８通り　Ｃ通り側(改修後)
Ｋ２－Ｋ	２階 ９通り　Ｃ通り側(改修後)	Ｋ２－６	２階 Ｂ通り　９通り側(改修後)						



Ａ－Ａ 断面詳細図(改修後)



Ｂ－Ｂ 断面詳細図(改修後)



Ｃ－Ｃ 断面詳細図(改修後)

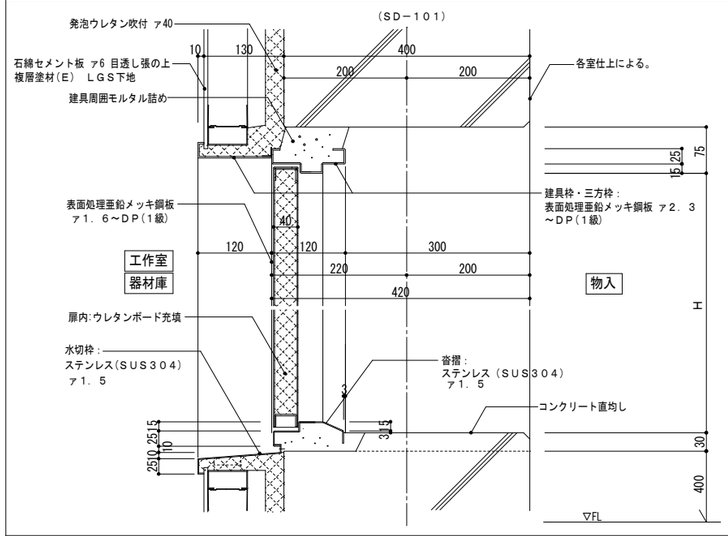
【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

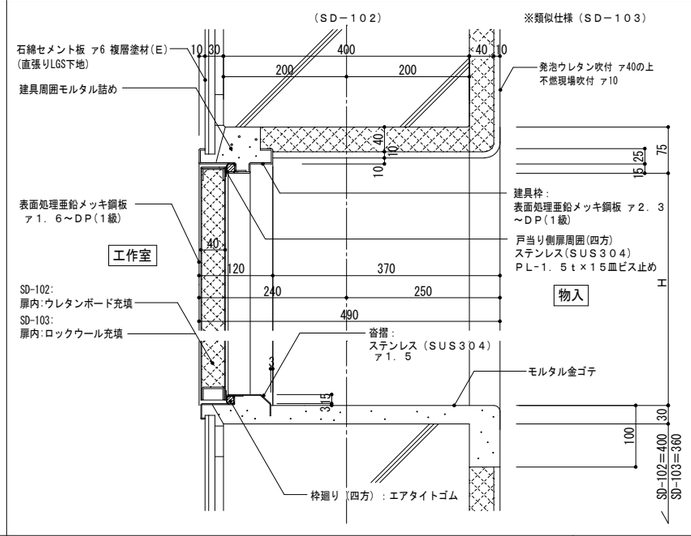
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

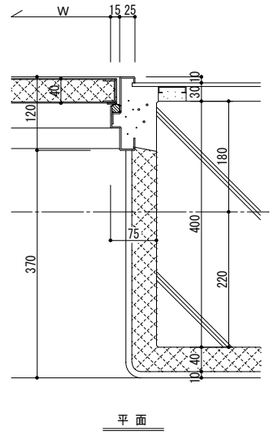
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業								
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事								
名　称	K1-9、K2-C、-E、-G、-I、-K、-6(2)(改修後)								
縮　尺	A1:1/50						製作年月日		
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号		
							図　番	A-47	
十勝中部広域水道企業団									

ＤＥＴ－１　鋼製建具（内部一般・断熱）　詳細図　SCALE 1/5 (A1)

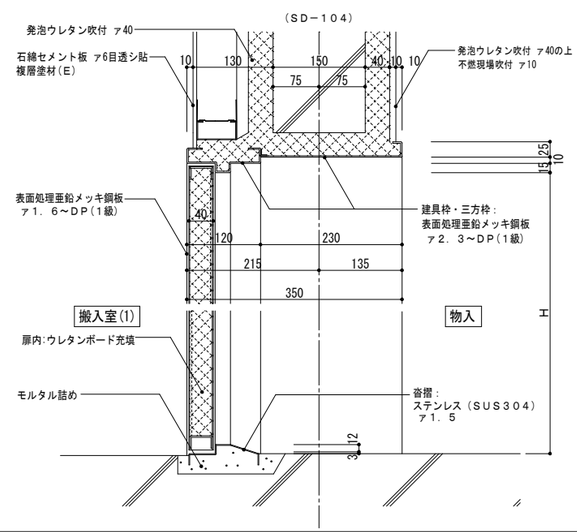


ＤＥＴ－２　鋼製建具（内部ＳＡＴ・断熱）　詳細図

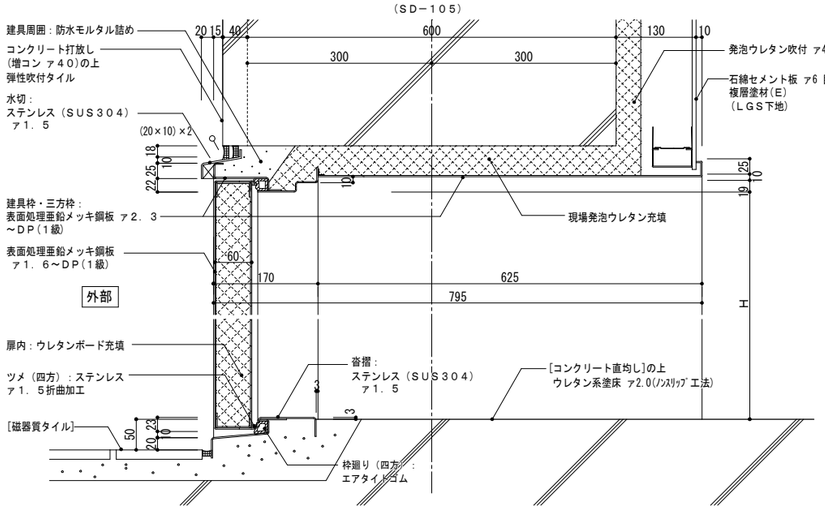


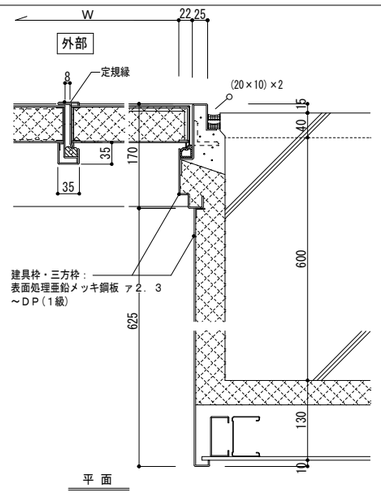


ＤＥＴ－３　鋼製建具（内部一般・断熱）　詳細図　SCALE 1/5 (A1)

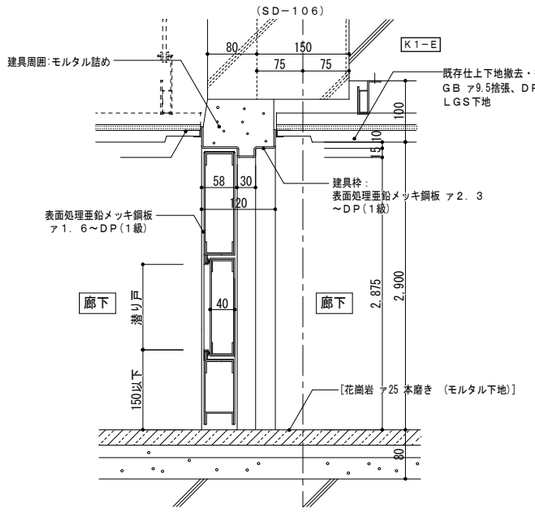


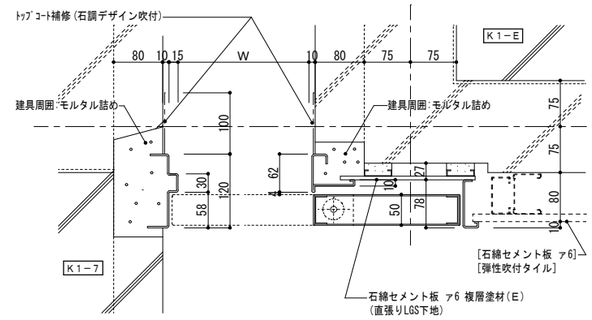
ＤＥＴ－４　鋼製建具（外部大型ＡＴ・断熱）　詳細図　S=1/5 (A1)



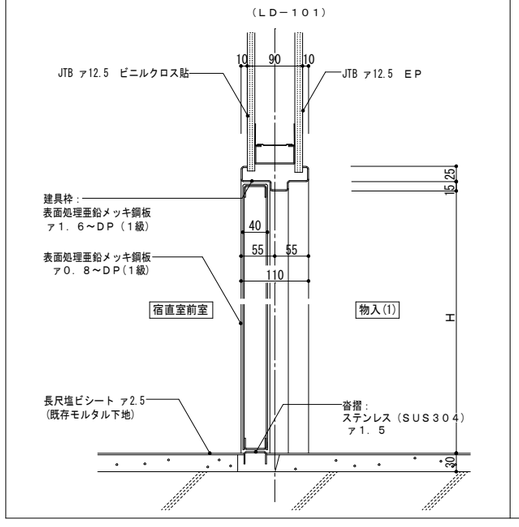


ＤＥＴ－５　鋼製建具（特定防火設備・随時閉鎖式）　詳細図　S=1/5 (A1)

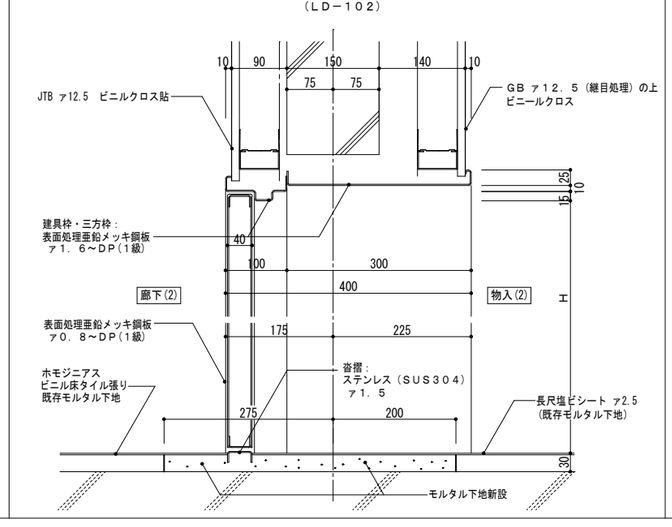




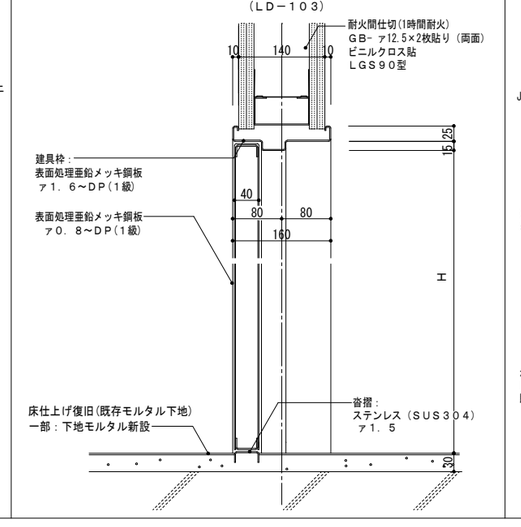
ＤＥＴ－６　軽量鋼製建具　詳細図（一般ドア）　S=1/5 (A1)



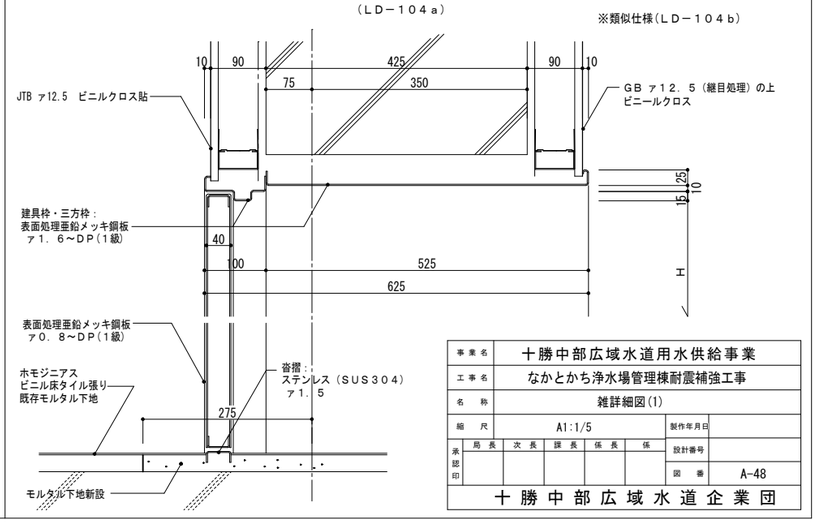
ＤＥＴ－７　軽量鋼製建具　詳細図（一般ドア）　S=1/5 (A1)



ＤＥＴ－８　軽量鋼製建具　詳細図（一般ドア）　S=1/5 (A1)



ＤＥＴ－９　軽量鋼製建具　詳細図（一般ドア）　S=1/5 (A1)

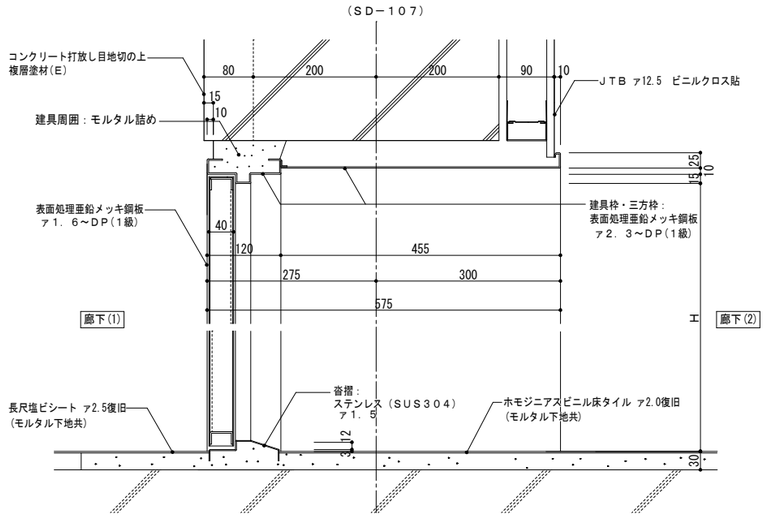


事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	雑詳細図(1)
縮尺	A1:1/5
製作年月日	
設計番号	
図番	A-48

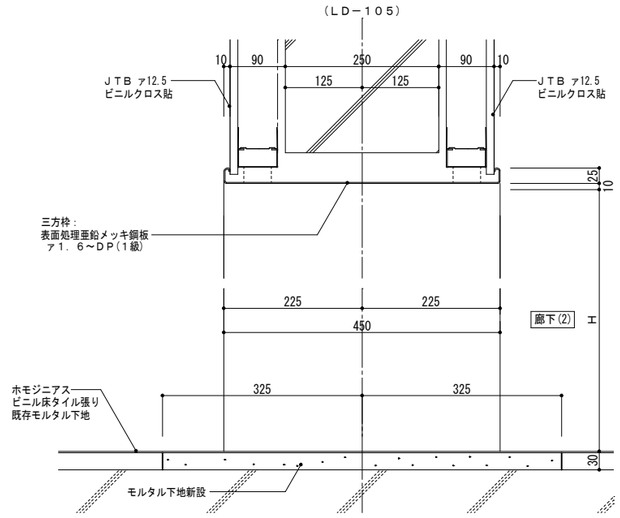
承認印	局長	次長	課長	係長	係

十勝中部広域水道企業団

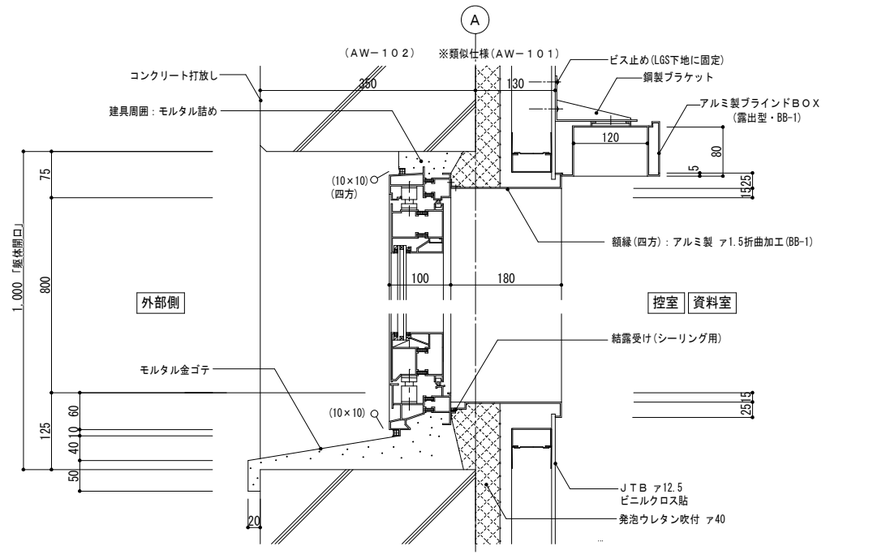
ＤＥＴ－１０　鋼製建具(内部一般・特定防火設備)　詳細図　S=1/5 (A1)



ＤＥＴ－１１　軽量鋼製建具　詳細図（三方枠）　S=1/5 (A1)



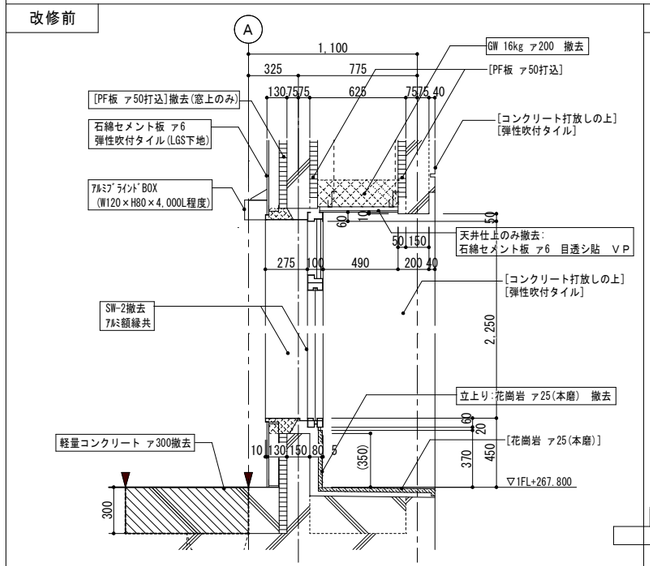
ＤＥＴ－１２　アルミ製建具　詳細図　S=1/5 (A1)



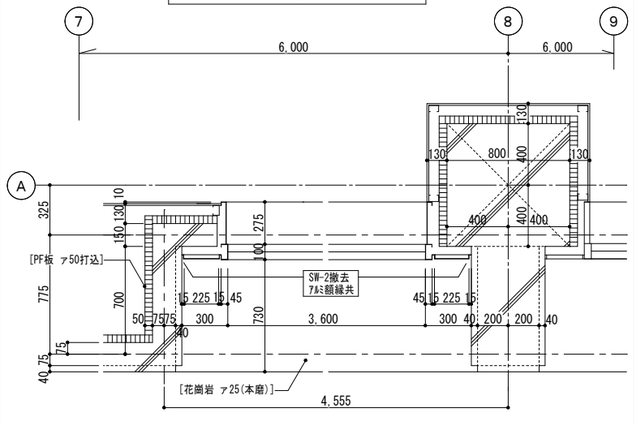
ＤＥＴ－１３

1階 Ⓐ通 ⑦～⑧通間　電気室外壁廻り改修詳細図　S=1/5、1/20 (A1)

改修前

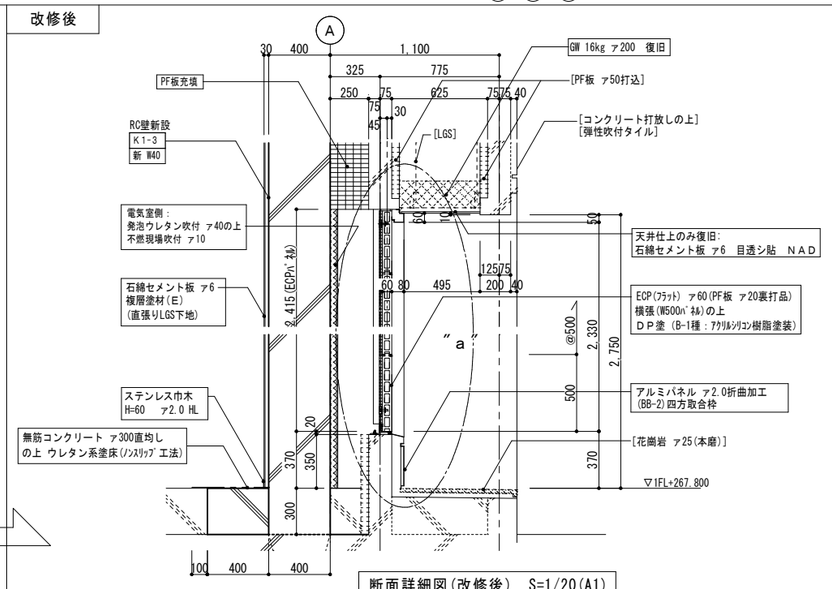


断面詳細図(改修前)　S=1/20(A1)

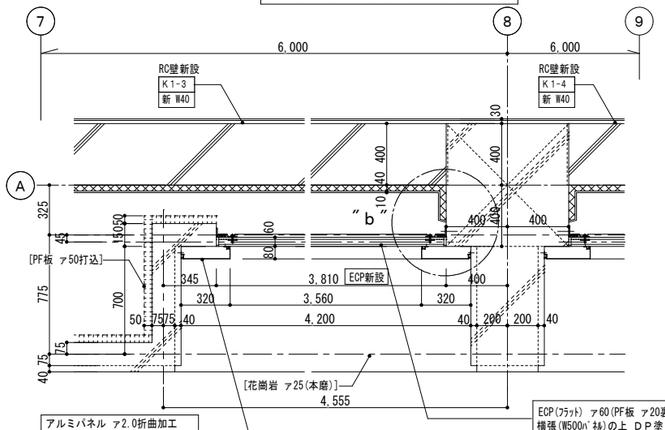


平面詳細図(改修前)　S=1/20(A1)

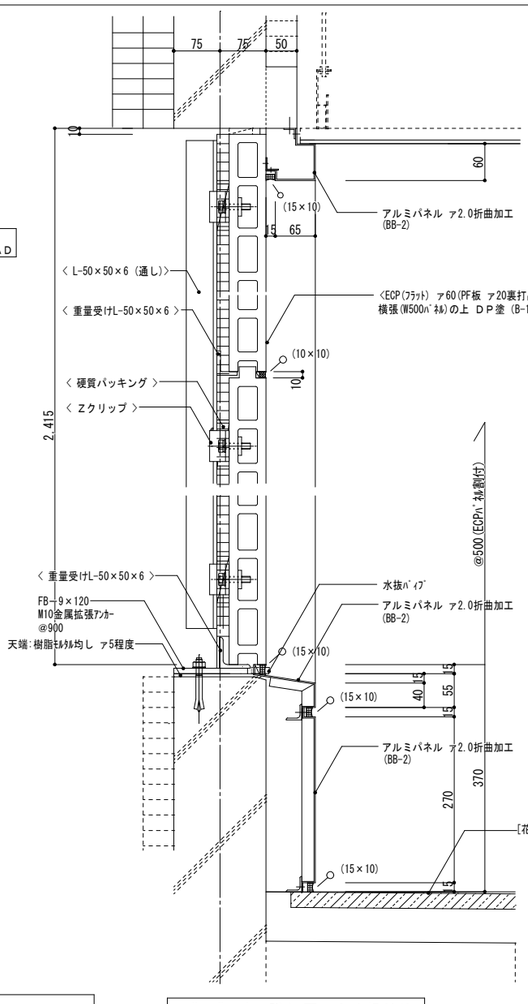
改修後



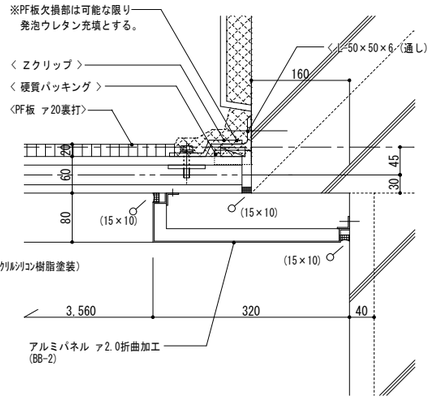
断面詳細図(改修後)　S=1/20(A1)



平面詳細図(改修後)　S=1/20(A1)



"a"一部 詳細図　S=1/5(A1)



"b"一部 詳細図　S=1/5(A1)

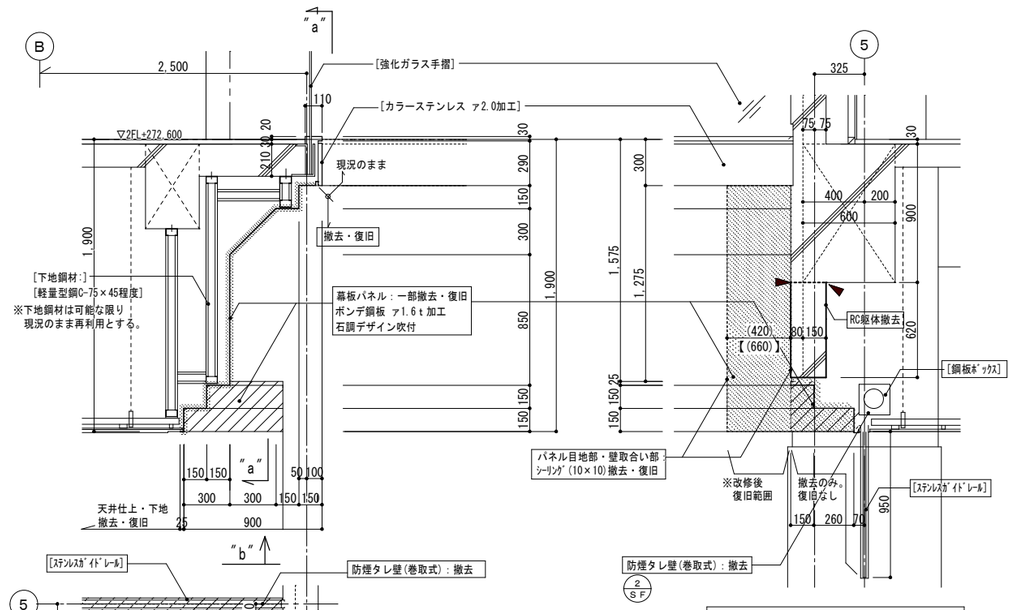
特記事項

・〈　　〉内はECPパネル工事範囲を示す。
・耐震補強壁施工のため、外部建具(SW-2)を取外し、耐震補強壁打設、断熱材施工後ECPパネル ァ60(PF板 ァ20裏打品)を外部から取付とする（※図中、支持金物は、内部施工用だが、本特記を優先する）。
　尚、外部施工のための製品の加工・後処理等は入念に打合せの事。
・ECPパネル取付時の断熱欠損部分等は、可能な限り現場発泡ウレタン等で充填とする
・本図内のシーリングは全てＭＳ－２とする。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	雑詳細図(2)							
縮尺	A1:1/5, 1/20						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	A-49

十勝中部広域水道企業団

DET－14　ホール幕板パネル撤去・復旧詳細図　S=1/20 (A1)



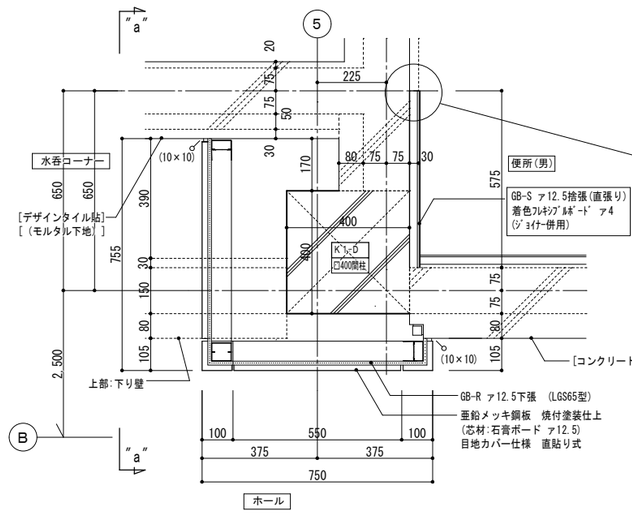
"ａ"－"ａ"断面詳細図

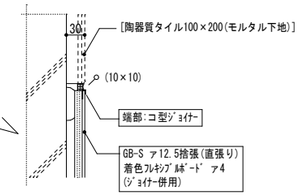
"ｂ"－見上げ

注 記

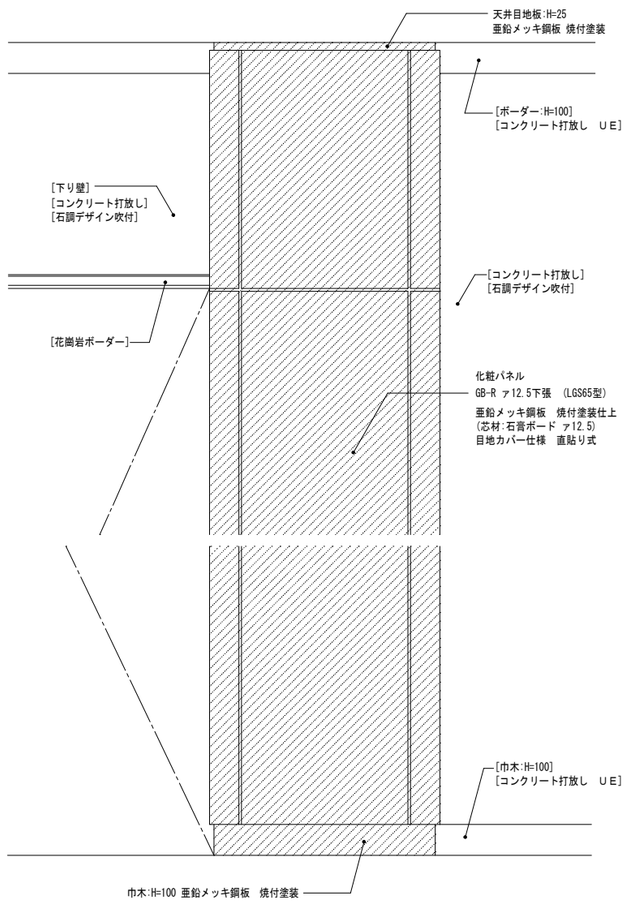
・③通側は本図の反転とし、【　】内寸法で示す。
　撤去幅寸法は参考とし、詳細はパネル割付を現地確認の上調整の事。
・幕板パネルは撤去後同等仕様にて復旧とする。
　ただし、▨斜線範囲は、改修後RC壁打設となるので、復旧不要。
・復旧に当たり、切断・加工等により既存幕板パネルの再利用を検討の事。
・その他改修後状況は図番「A-15」・「A-18」参照の事。

DET－15　ホール　化粧パネル廻り詳細図　S=1/5、1/20 (A1)

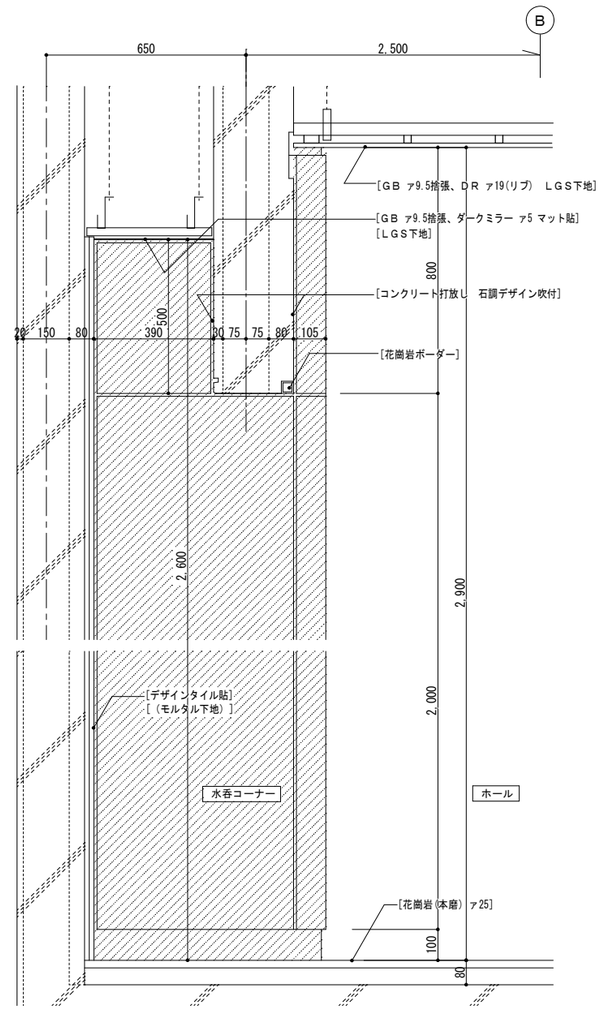




壁仕上取合い詳細図　S=1/5(A1)

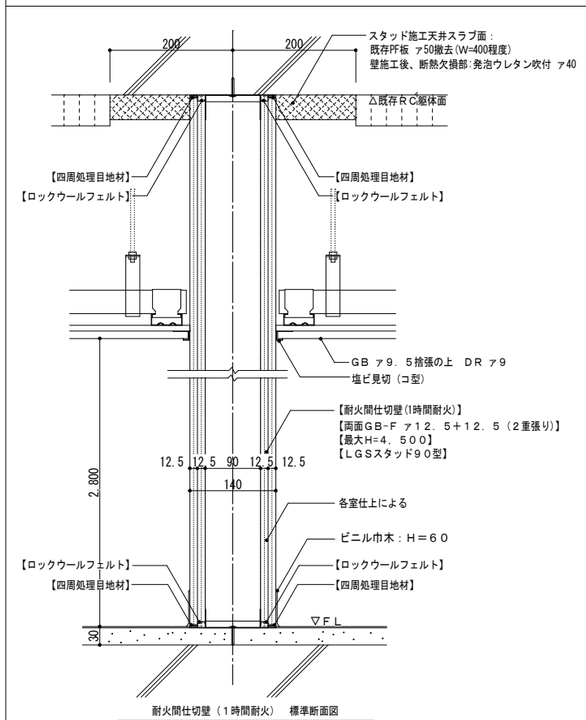


正面姿図



"ａ"－"ａ"断面詳細図

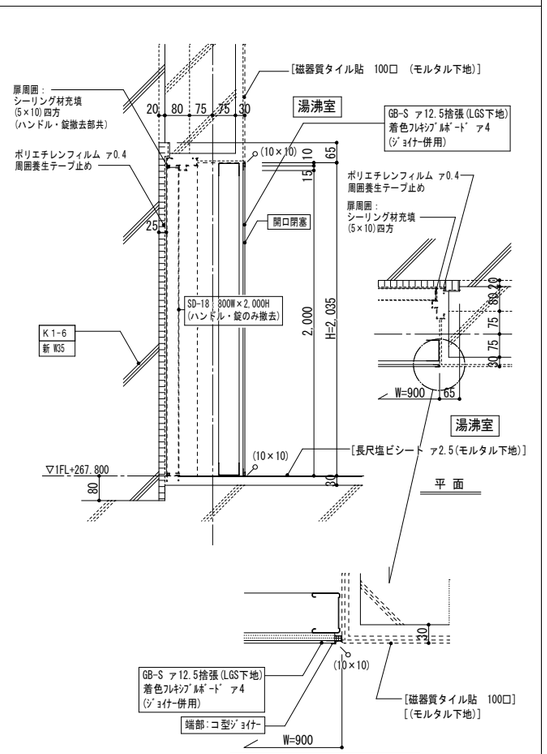
DET－16　耐火間仕切壁　取合い詳細図　S=1/10 (A1)



耐火間仕切壁（１時間耐火）　標準断面図

※【　　】内は耐火間仕切壁工事範囲に含む。
※本図は標準的納まりを示し、詳細は各耐火間仕切壁仕様により確認・調整の事。
※１時間耐火構造　国土交通大臣認定　ＦＰ０６０ＮＰ－０４８３（１）
　吉野耐火システム　Ｓ１２　同等品以上

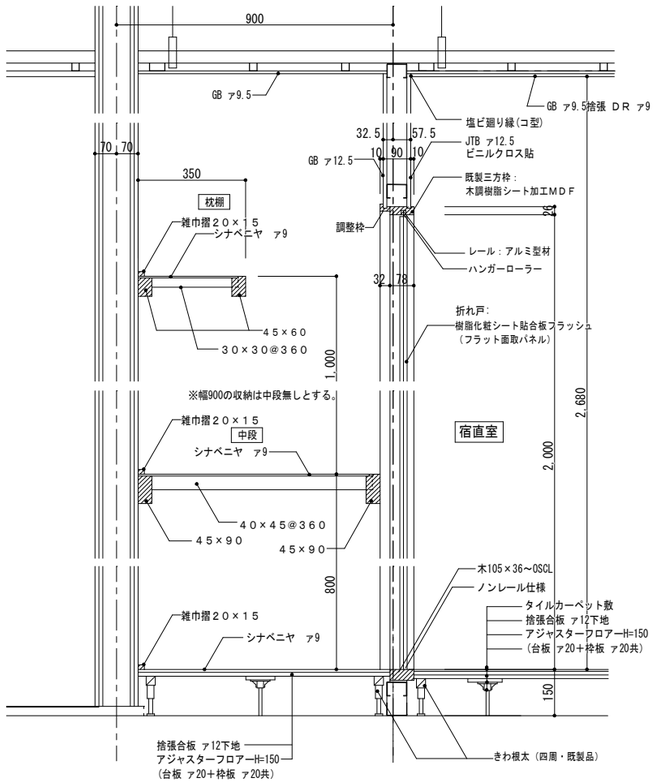
DET－17　１階　湯沸室　ドア(SD-18)開口閉塞詳細図　S=1/10 (A1)



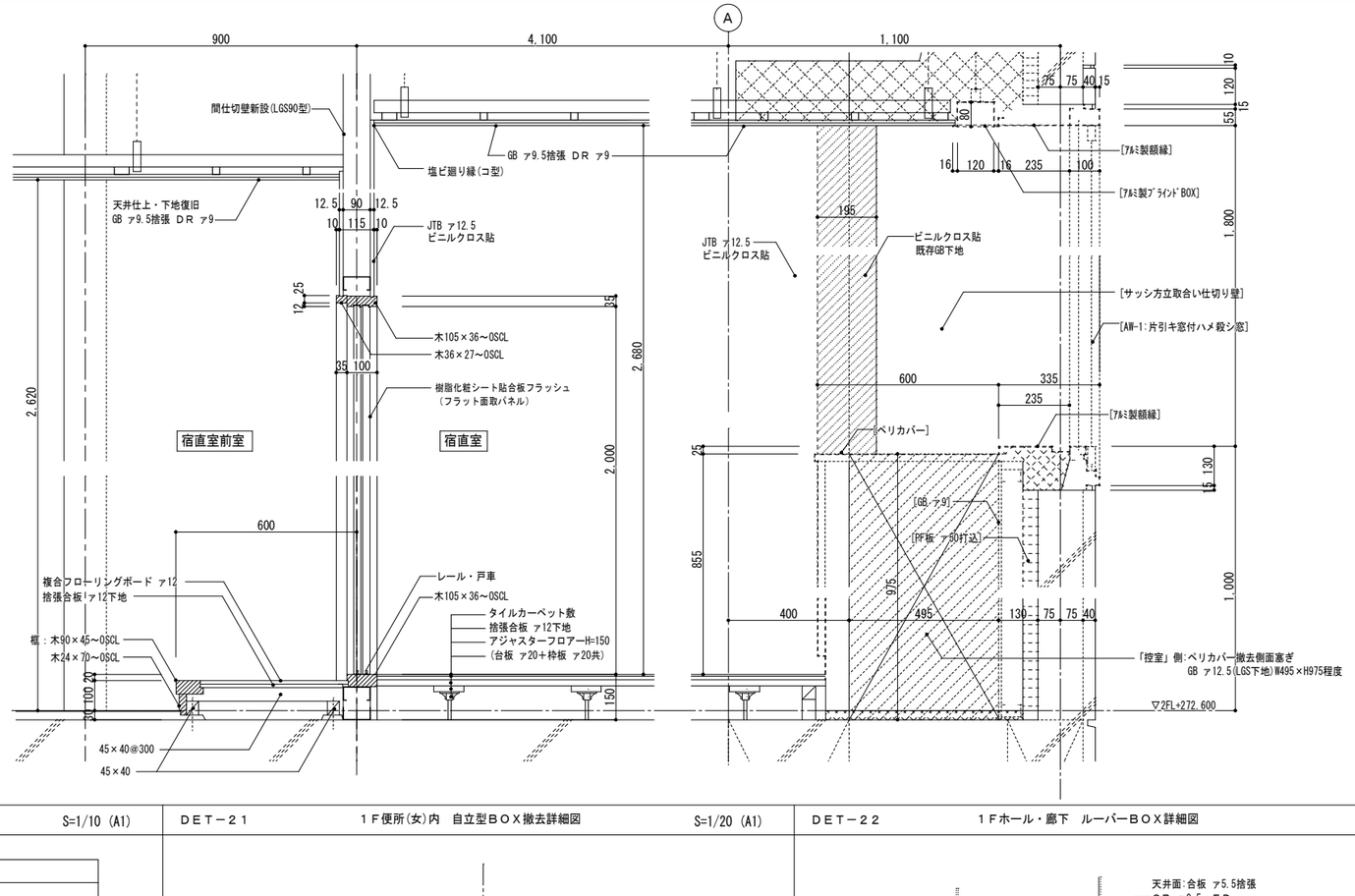
壁仕上取合い詳細図　S=1/5(A1)

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名　称	雑詳細図(3)						
縮　尺	A1:1/5, 1/20					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図　番	A-50
十勝中部広域水道企業団							

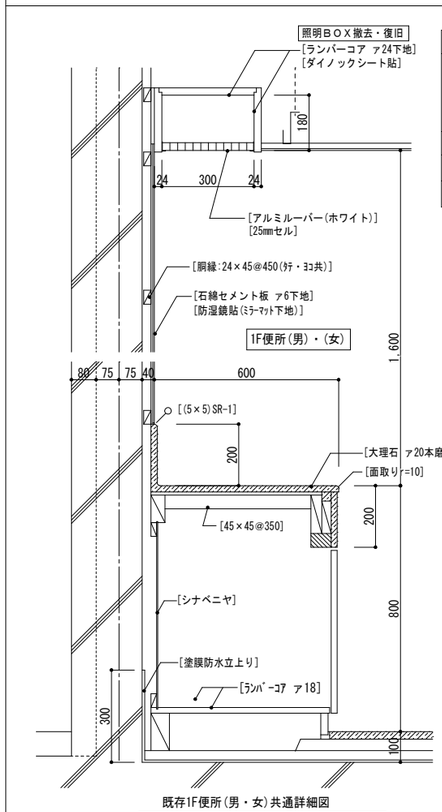
ＤＥＴ－１８　宿直室　収納廻り詳細図　S=1/20 (A1)



ＤＥＴ－１９　宿直室前室～宿直室廻り詳細図　S=1/20 (A1)



ＤＥＴ－２０　１Ｆ便所(男・女)内　洗面カウンター廻り詳細図　S=1/10 (A1)



既存1F便所(男・女)共通詳細図

便所(男)

既存一時取外しの上 再取付
洗面カウンター　600W×1,890L 大理石 ァ20本磨　立上H=200、ｴﾌﾟﾛﾝH=200 埋込式ボウル×2 収納扉、床板、側板、背板共
既存撤去の上　復旧（既存同等新設）
防湿鏡 ァ5　1,890W×1,400H(下地共)
照明ＢＯＸ　300W×180H×1、890Ｌ　ｱﾙﾐﾙｰﾊﾞｰ共

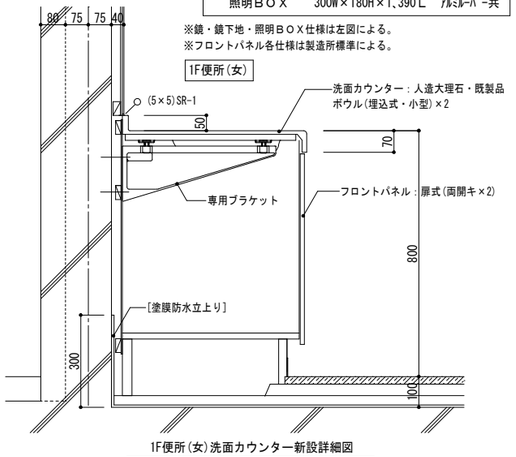
便所(女)

既存撤去
洗面カウンター　600W×1,760L 大理石 ァ20本磨　立上H=200、ｴﾌﾟﾛﾝH=200 埋込式ボウル×2 収納扉、床板、側板、背板共
防湿鏡 ァ5　1,760W×1,400H(下地共)
照明ＢＯＸ　300W×180H×1、760Ｌ　ｱﾙﾐﾙｰﾊﾞｰ共

新設
洗面カウンター　600W×1,390L 人造大理石・既製品　立上H=50、ｴﾌﾟﾛﾝH=70 埋込式ボウル×2 収納扉、床板、側板、背板共
防湿鏡 ァ5　1,390W×1,550H(下地共)

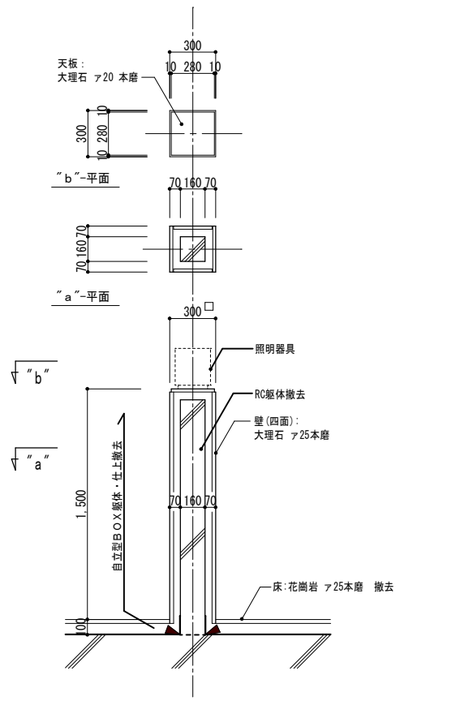
既存改修
照明ＢＯＸ　300W×180H×1、390Ｌ　ｱﾙﾐﾙｰﾊﾞｰ共

※鏡・鏡下地・照明ＢＯＸ仕様は左図による。
※フロントパネル各仕様は製造所標準による。



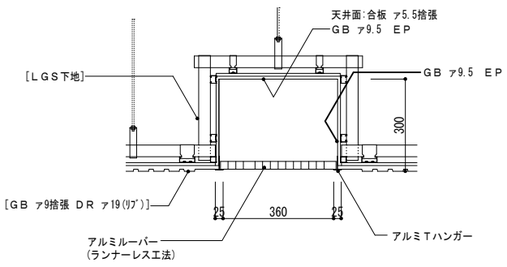
1F便所(女)洗面カウンター新設詳細図

ＤＥＴ－２１　１Ｆ便所(女)内　自立型ＢＯＸ撤去詳細図　S=1/20 (A1)

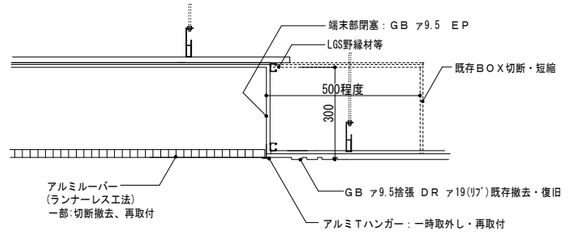


※照明器具・電気配線等の処理は、電気工事範囲とする。

ＤＥＴ－２２　１Ｆホール・廊下　ルーバーＢＯＸ詳細図　S=1/10 (A1)



1階ホール・廊下天井面：ルーバーＢＯＸ断面図



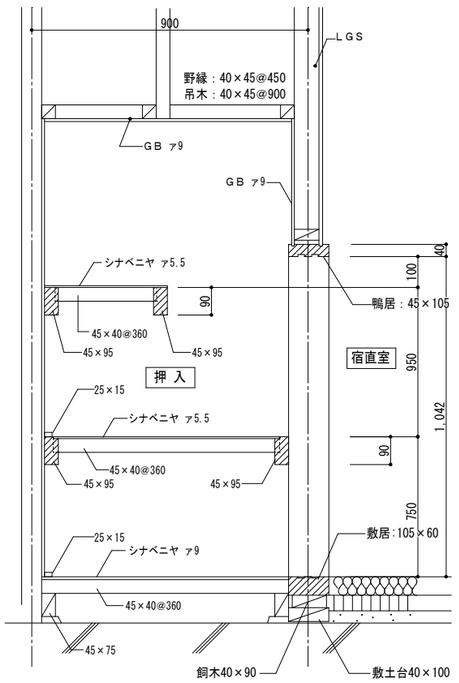
長手方向断面(切断・短縮時)

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	雑詳細図(4)							
縮尺	A1:1/10, 1/20						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	A-51

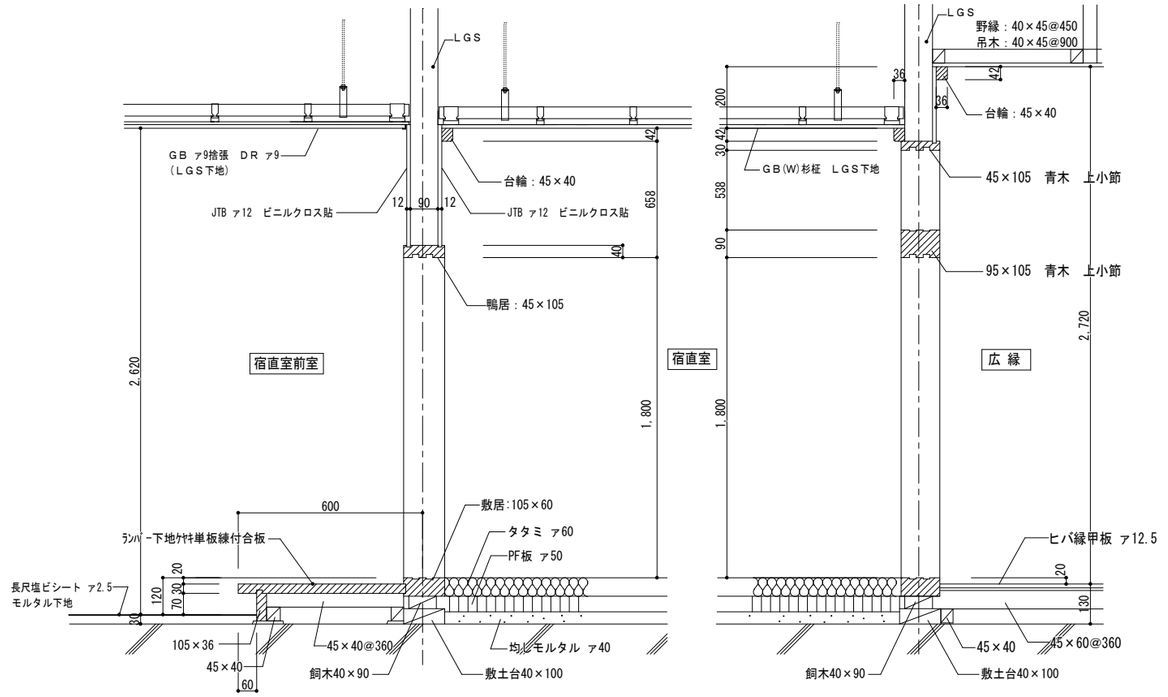
十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団

DET－23　改修前　2階　宿直室・宿直室前室・広縁廻り詳細図　S=1/10 (A1)

※改修前の２階宿直室廻り各部詳細を示す。「宿直室前室」の一部及び「広縁」の一部を除き全て仕上・下地・間仕切共撤去対象とする。撤去範囲・改修範囲は各部詳細図による。

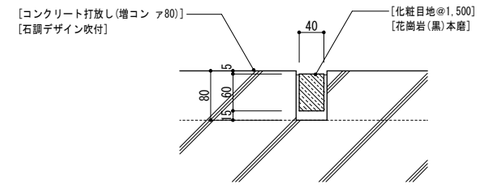


押入廻り

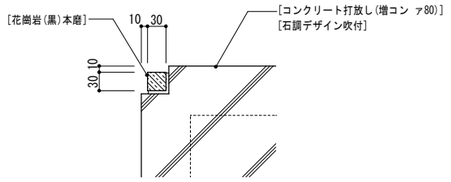


宿直室前室～宿直室～広縁

DET－24　ホール・廊下　石材化粧目地詳細図　S=1/5 (A1)



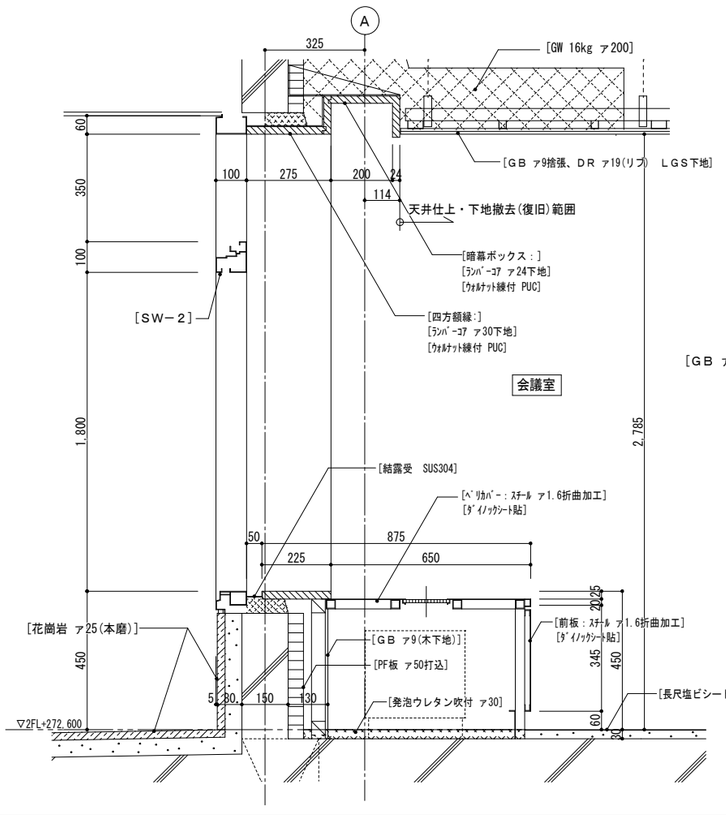
壁面タテボーダー詳細図

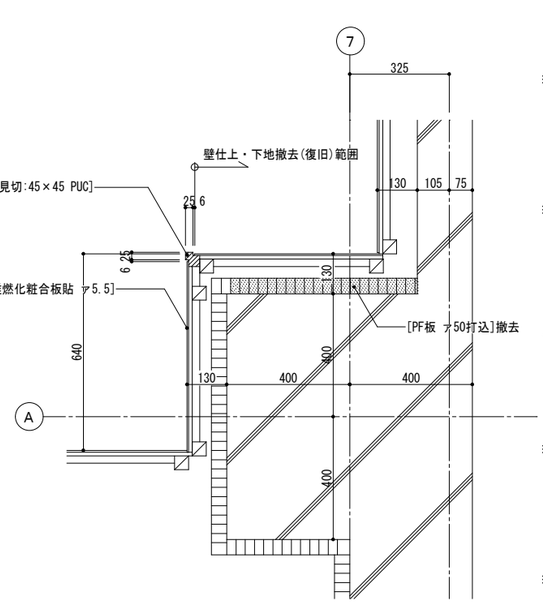


壁面出隅・下り壁見切ボーダー詳細図

DET－25　改修前　1階　会議室廻り詳細図　S=1/10 (A1)

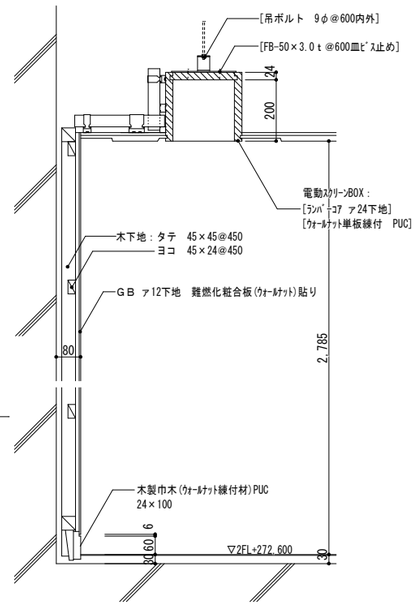
※改修前の１階会議室廻り各部詳細を示す。撤去範囲・改修範囲は各部詳細図による。





柱コーナー部　詳細図

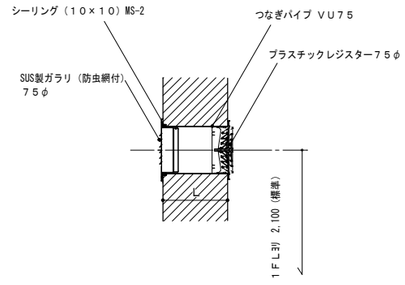
※既存部壁下地は木下地組、復旧部はLGS下地を標準とする。



壁断面・スクリーンＢＯＸ詳細

※既存部壁下地は木下地組、復旧部はLGS下地を標準とする。

DET－26　レジスター・ガラリ　詳細図　S=1/5 (A1)



室　名	L	ヶ処
1階：物入（A）	５３０	2
1階：物入（B）	５３０	2
1階：物入（C）	４８０	2
1階：物入（D）	４８０	2
2階：設備点検スペース	４８０	2

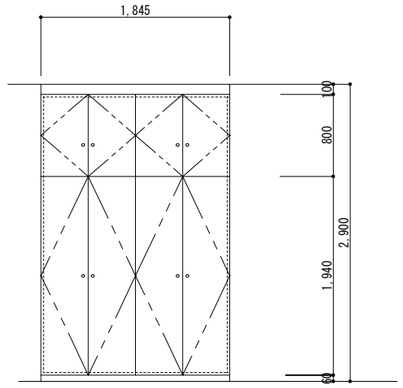
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名　称	雑詳細図(5)						
縮　尺	A1:1/5、1/10					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図　番	A-52
十勝中部広域水道企業団							

DET－27

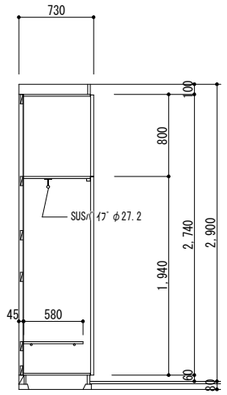
壁面収納棚　詳細図

S=1/30 (A1)

K－1　1階　会議室前廊下　全面撤去

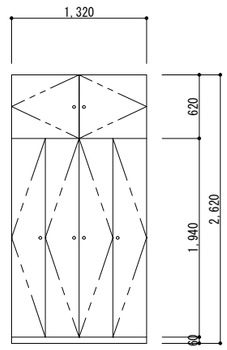


正面(姿図)



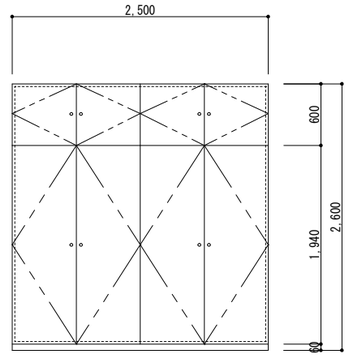
断面図

K－3　1階　資料室　現況のまま(参考)

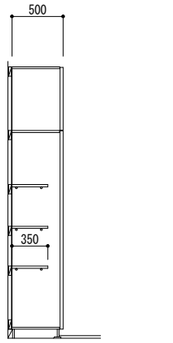


正面(姿図)

K－4　1階　工作室　一時移設・再配置



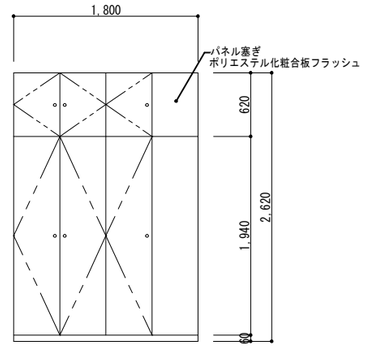
正面(姿図)



断面図

K－3 ・ K－4 ・ K－5 共通

K－5　2階　ロッカー室　全面撤去



正面(姿図)

撤去・移設棚　共通仕様

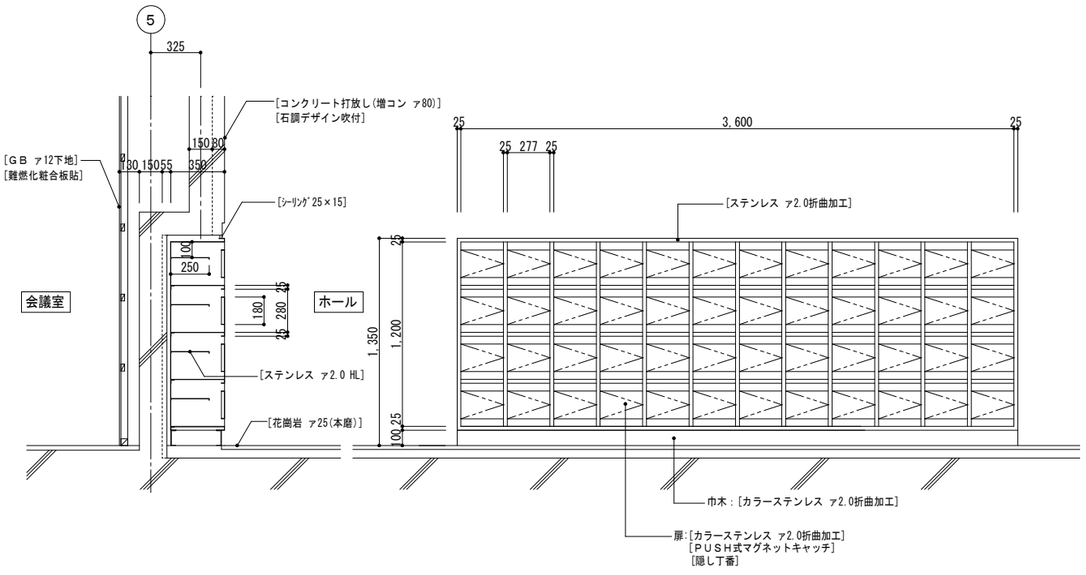
扉	シナベニヤ　フラッシュ　ポリエステル化粧合板貼(見掛り、小口共) ｱ2.7
丁番	隠し丁番、マグネットキャッチ(上下共)
つまみ	マリブ2号(中)、中棚受け：ステンレスダボ
内部	シナランバー ｱ18素地　棚　　背板：シナベニヤ ｱ5.5

DET－28

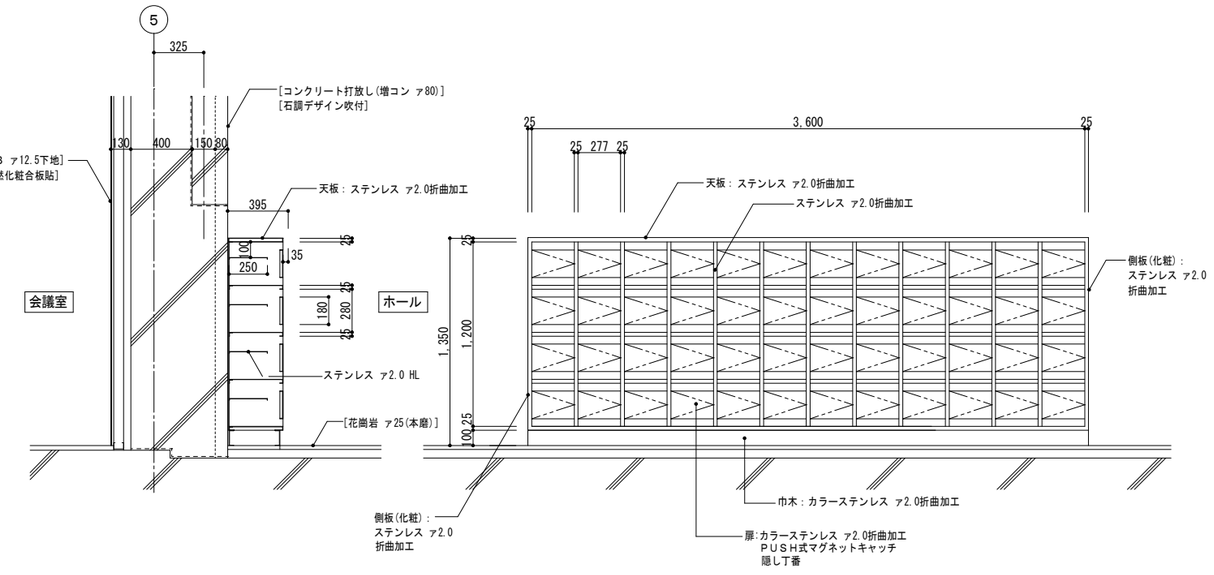
1Ｆ玄関ホール　下足棚撤去・復旧　詳細図

S=1/20 (A1)

改修前



改修後

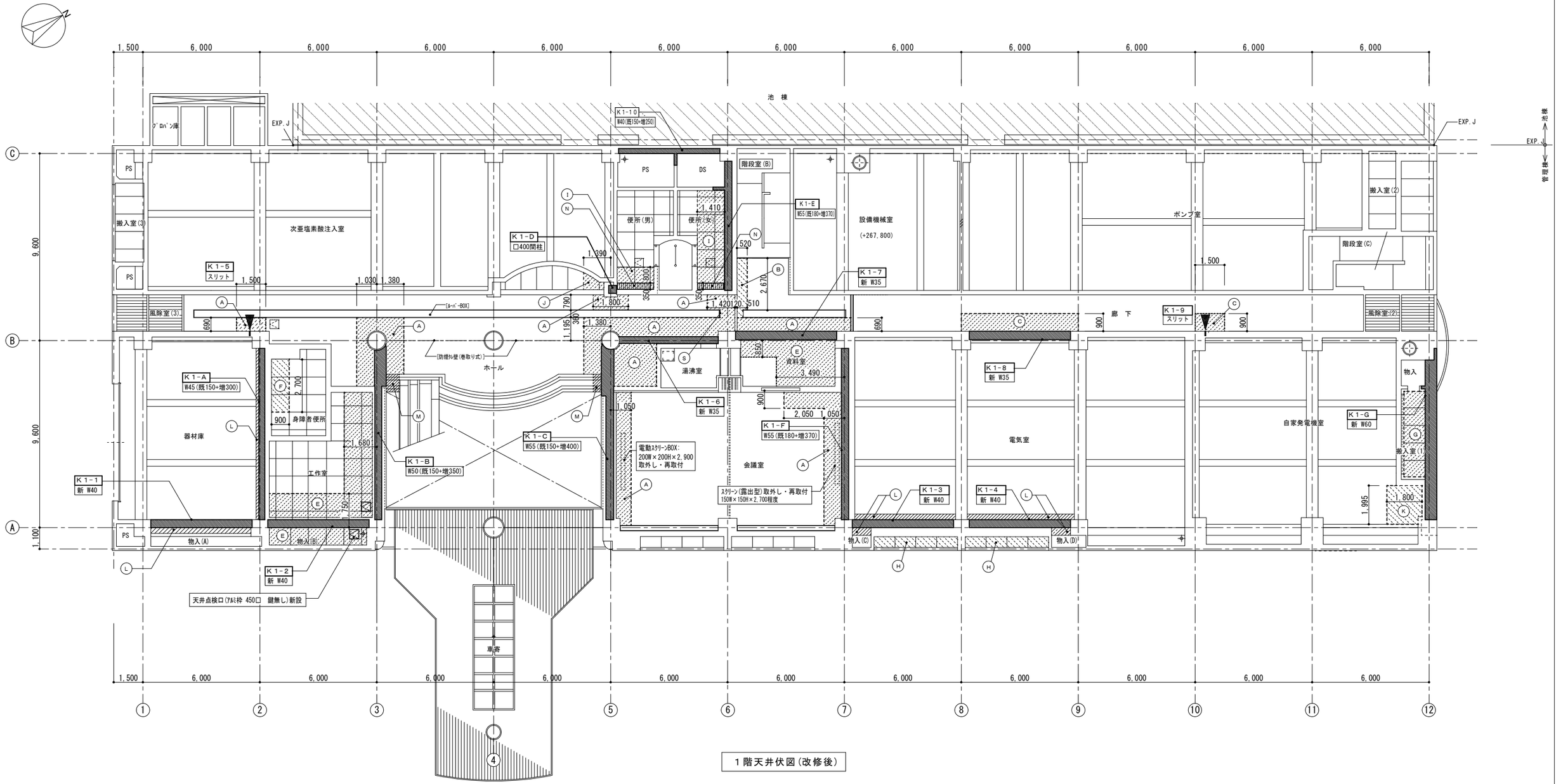


注記

- 「改修前」と「改修後」の棚仕様は、段数、列数、サイズ、材質等　全て同等品とする。
- 「改修前」は、躯体内に埋込仕様だったが、「改修後」は壁前に露出仕様とする。
  そのため、「改修後」仕様には、天板及び側板(化粧)を追加とする。
- 事前に現地調査の上、下足棚を損傷なく取外し可能な場合は、再利用を含め検討の事。
  またその可否を含め、工事監督員に報告・調整・確認の事。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	雑詳細図(6)						
縮尺	A1：1/20、1/30					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-53

十勝中部広域水道企業団



1階天井伏図(改修後)

凡 例　※改修後、対象範囲のみ表示　仕上・下地(LGS)共復旧　仕上のみ復旧　断熱撤去面復旧　ルーバー復旧

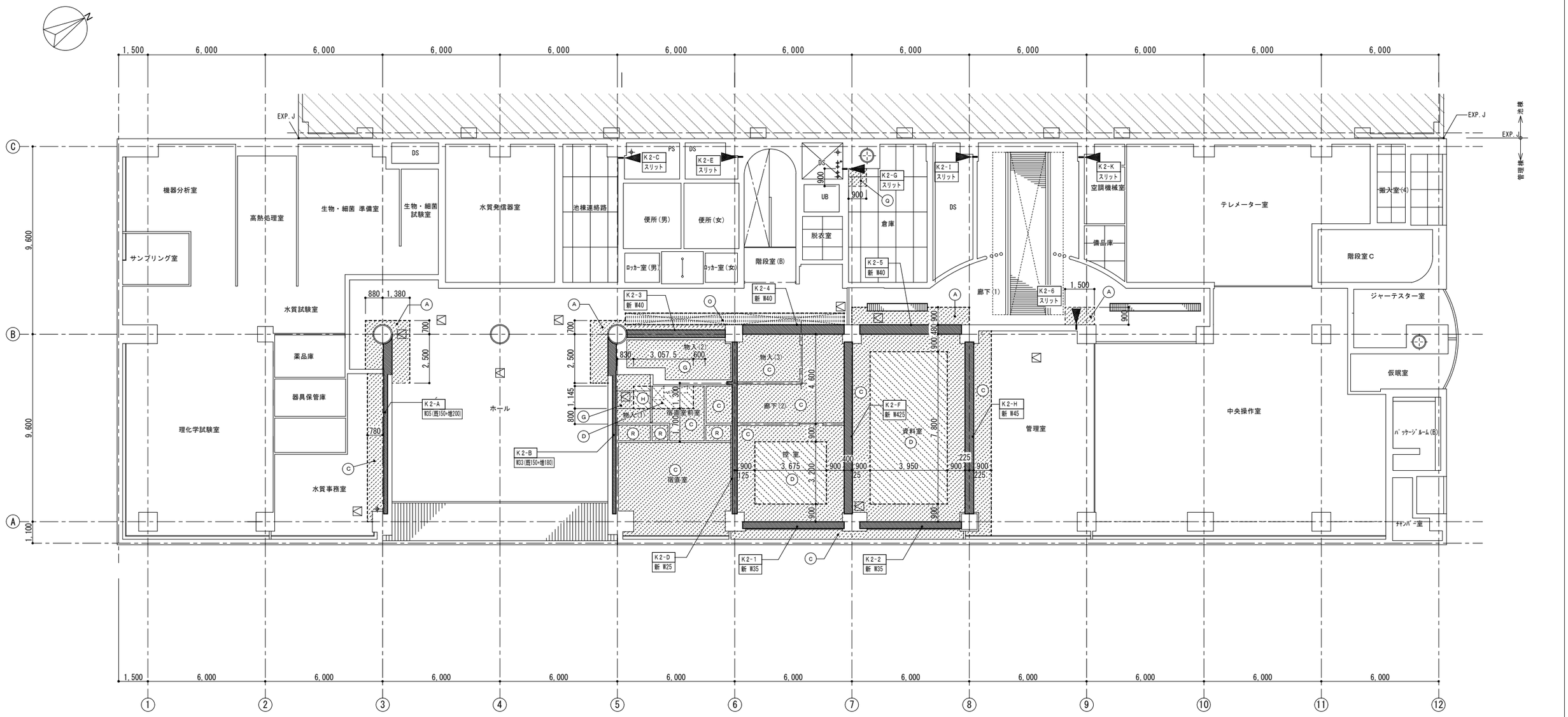
Ⓐ	GB ｱ9.5捨張、DR ｱ19(リブ) (LGS下地共)	Ⓗ	石綿セメント板 ｱ6 目透し貼 NAD 仕上のみ	Ⓞ	排煙口：アルミルーバー:一時取外し・再取付(一部ランナー共)
Ⓑ	GB ｱ9.5捨張、DR ｱ19(リブ) 仕上のみ	Ⓘ	石綿セメント板 ｱ6 スチップル仕上 (LGS下地共)	Ⓠ	GB ｱ9.5 EP (LGS下地共)
Ⓒ	GB ｱ9.5捨張、DR ｱ9 (LGS下地共)	Ⓙ	GB ｱ9.5捨張 ダークミラー ｱ5 マット貼 (LGS下地共)	Ⓡ	GB ｱ9.5 (LGS下地共)
Ⓓ	GB ｱ9.5捨張、DR ｱ9 仕上のみ	Ⓚ	グラスウール吸音材(96K) ガラスクロス仕上 ｱ50 仕上のみ	Ⓢ	ルーバーBOX(アルミルーバー共)一部切断撤去(L=500程度)・側面修復
Ⓔ	石綿セメント板 ｱ6 目透し貼 EP(LGS下地共)	Ⓛ	PF複合板撤去面：発泡ウレタン吹付 ｱ40の上 不燃現場吹付材 ｱ10		
Ⓕ	石綿セメント板 ｱ6 目透し貼 EP 既存仕上のみ一時取外し・再取付 (900□×3枚程度)周囲塗装補修共	Ⓜ	幕板パネル：ボンデ鋼板 ｱ1.6～石調デザイン吹付 復旧		
Ⓖ	石綿セメント板 ｱ6 目透し貼 NAD(LGS下地共)	Ⓝ	照明ボックス(ルーバー共) 復旧		天井点検口 (アルミ枠 450□ 鍵無し) ※範囲内のみLGS下地共復旧

【注記】

・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。
・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。
・図中、天井仕上改修部のうち、凡例A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、Qは、塩ビ製廻り縁新設を見込むこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	1階天井伏図(改修後)						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-54

十勝中部広域水道企業団



2階天井伏図(改修後)

凡 例　※改修後、対象範囲のみ表示　仕上・下地(LGS)共復旧　仕上のみ復旧　断熱撤去面復旧　ルーバー復旧

A	GB ァ9.5捨張、DR ァ19(リブ) (LGS下地共)	H	石綿セメント板 ァ6 目透し貼 NAD 仕上のみ	O	排煙口：アルミルーバー:一時取外し・再取付(一部ランナー共)
B	GB ァ9.5捨張、DR ァ19(リブ) 仕上のみ	I	石綿セメント板 ァ6 スチップル仕上 (LGS下地共)	Q	GB ァ9.5 EP (LGS下地共)
C	GB ァ9.5捨張、DR ァ9 (LGS下地共)	J	GB ァ9.5捨張 ダークミラー ァ5 マット貼 (LGS下地共)	R	GB ァ9.5 (LGS下地共)
D	GB ァ9.5捨張、DR ァ9 仕上のみ	K	グラスウール吸音材(96K) ガラスクロス仕上 ァ50 仕上のみ	S	ルーバーBOX(アルミルーバー共)一部切断撤去(L=500程度)・側面修復
E	石綿セメント板 ァ6 目透し貼 EP(LGS下地共)	L	PF複合板撤去面：発泡ウレタン吹付 ァ40の上 不燃現場吹付材 ァ10		
F	石綿セメント板 ァ6 目透し貼 EP 既存仕上のみ一時取外し・再取付(900□×3枚程度)周囲塗装補修共	M	幕板パネル：ボンデ鋼板 ァ1.6~石調デザイン吹付 復旧		
G	石綿セメント板 ァ6 目透し貼 NAD(LGS下地共)	N	照明ボックス(ルーバー共) 復旧		天井点検口 (アルミ枠 450□ 鍵無し) ※範囲内のみLGS下地共復旧

【注記】

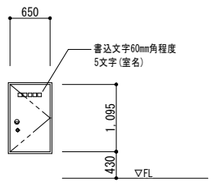
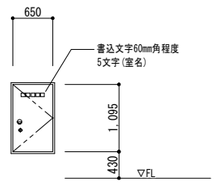
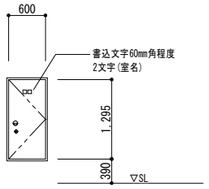
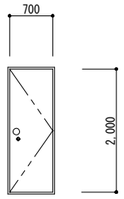
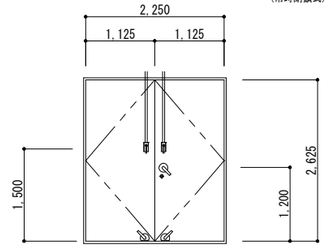
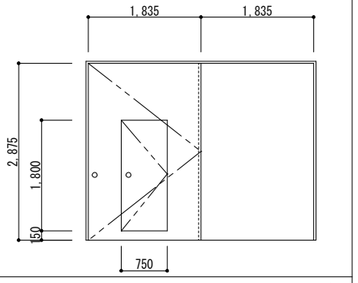
・図中の仕上特記、凡例は、別図「一般共通事項」によること。

・アスベスト含有建材について、別図「一般共通事項」を参照のこと。

・図中、天井仕上改修部のうち、凡例A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、Qは、塩ビ製廻り縁新設を見込むこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	2階天井伏図(改修後)						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-55
十勝中部広域水道企業団							

建　具　表　SCALE 1:50

番号・形式	101 SD 鋼製 片開キフラッシュドア （断熱）	102 SD 鋼製 片開キフラッシュドア SAT（断熱）	103 SD 鋼製 片開キフラッシュドア SAT（防音）	104 SD 鋼製 片開キフラッシュドア （断熱）	105 SD 鋼製 両開キフラッシュドア AT（防音）	106 SD 鋼製片開きフラッシュドア（くぐり戸付）
姿図			特定防火設備 		特定防火設備 （常時閉鎖式）  ※外部側ハンドル無し	特定防火設備（随時閉鎖式） 
取付箇所・数量	物入(A)・(B) 2ケ処	物入(C)・(D) 2ケ処	PS・DS 2ケ処	物入(搬入室1) 1ケ処	搬入室1 1ケ処	廊下 1ケ処
材質・仕上	表面処理亜鉛メッキ鋼板 ァ1．6加工～DP(1級)（SS枠：ァ2．3～DP(1級)）	表面処理亜鉛メッキ鋼板 ァ1．6加工～DP(1級)（SS枠：ァ2．3～DP(1級)）	表面処理亜鉛メッキ鋼板 ァ1．6加工～DP(1級)（SS枠：ァ2．3～DP(1級)）	表面処理亜鉛メッキ鋼板 ァ1．6加工～DP(1級)（SS枠：ァ2．3～DP(1級)）	表面処理亜鉛メッキ鋼板 ァ1．6加工～DP(1級)（SS枠：ァ2．3～DP(1級)）	表面処理亜鉛メッキ鋼板 ァ1．6加工～DP(1級)（SS枠：ァ2．3～DP(1級)）
建具見込(枠見込)	40（120）	40（120）	40（120）	40（120）	60（170）	50（120）
硝子					扉内：ロックウール充填	
附属金物	ピボットヒンジ，ケースハンドル、シリンダー本締錠 ドアチェック	ピボットヒンジ，ケースハンドル、シリンダー本締錠 ドアチェック	ピボットヒンジ，ケースハンドル、シリンダー本締錠 ドアチェック(ストッパーなし)	ピボットヒンジ，握り玉、シリンダー本締錠 ドアチェック、戸当り	大型丁番(5管6枚)，片面締りハンドル×3、大型上げ落し×2、シリンダー本締り錠 ドアチェック(ストッパーなし)、順位調整器、大型あおり止め付戸当り	オートヒンジ（ストッパーなし）、ケースハンドル 附属金物一式
備考	沓摺C、SS三方枠：W=120、SUS水切:W=120 扉内:ウレタンボード充填	沓摺 B 扉内：ウレタンボード充填	沓摺 B 扉内：ロックウール充填	沓摺 C、SS三方枠:W=230 扉内：ウレタンボード充填	沓摺A、SS三方枠:W=625、SUS上水切：W=65	煙感知器連動自動閉鎖装置、SS三方枠:W=90
番号・形式	107 SD 鋼製 両開キフラッシュドア			101 AW アルミ製 外開キ窓 （断熱サッシ）	102 AW アルミ製 ハメ殺シ窓 （断熱サッシ）	
姿図	特定防火設備 （常時閉鎖式） 					
取付箇所・数量	廊下(2) 1ケ処			控室・資料室 2ケ処	控室・資料室 2ケ処	
材質・仕上	表面処理亜鉛メッキ鋼板 ァ1．6加工～DP(1級)（SS枠：ァ2．3～DP(1級)）			アルミ製（BB－1）	アルミ製（BB－1）	
建具見込(枠見込)	40（120）			100	100	
硝子				FL5－A12－FL5	FL5－A12－FL5	
附属金物	ピボットヒンジ，レバーハンドル、シリンダー本締錠、フランス落し ドアチェック(ストッパーなし)、順位調整器、戸当り			カムラッチハンドル、附属金物一式	附属金物一式	
備考	沓摺C、SS三方枠:W=455			AL額縁（四方）:W=130	AL額縁（四方）:W=130	

共通事項

・ドア取手高さは特記無き限り，FL＋1000とする．

・外気に接する建具の枠廻りは，発泡ウレタン充填とする．

・ドアチェックは特記無き限りパラレル型とする．（防火戸は，ストッパーなしとする。）

・丁番・錠・フランス落し・戸当り・沓摺は，ステンレス製とする．

・ステンレスはSUS304とする．

・鋼製建具の両開キ戸には，定規縁をつける．但し，防火戸は除く．

・外気に面するガラリ戸に付く防虫網はガラス繊維ネット　線径0．25㎜程度，18メッシュとする．

・結露受は，シーリング止め用とする．

・硝子は全て，シーリング止めとする．（木製建具を除く）

・シリンダー本締り錠は，特記なき限り，内部サムターン付とする．

・大型気密建具は「下水道事業団」仕様に準ずる。

・エアタイト（AT）仕様，又はセミエアタイト（SAT）仕様概略は以下による。

・AT（エアタイト）建具は扉にゴム押え金物（つめ有）を設け、枠にクロロプレンスポンジゴムを貼り付けたものをいい、SAT（セミエアタイト）建具は扉にゴム押え金物（つめ無）を設け、枠にクロロプレンスポンジゴムを貼り付けたものをいう。
扉内充填材との組み合わせによる仕様・略号は以下による。

略号	ゴム押え金物	扉内充填材料	クロロプレンスポンジゴム
AT（断熱）	つめ有	発泡ウレタン充填	有
AT（防音）	つめ有	ロックウール充填	有
SAT（断熱）	つめ無	発泡ウレタン充填	有
SAT（断熱防火）	つめ無	ロックウール充填	有
SAT（気密）	つめ無	なし	有

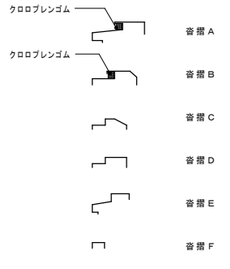
・備考欄において AL はアルミ製・SUS はステンレス製・SS はスチール製を示す．

・表中，Fixはハメ殺シガラス部分を示し，Pはパネル部分を示す．

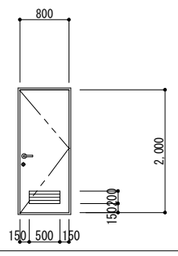
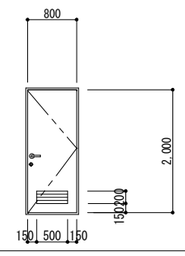
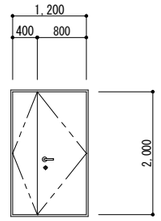
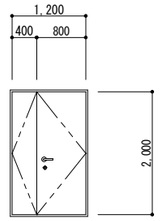
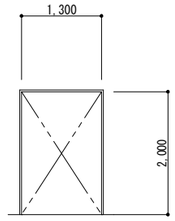
・その他の記号・略号は以下による．

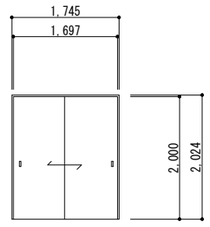
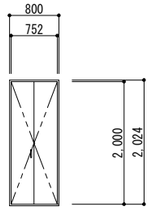
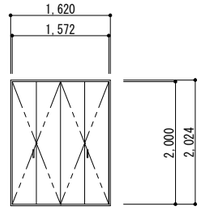
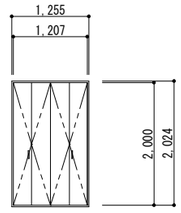
種別		記号・略号	種別		記号・略号
アルミ製	窓	AW	木製	窓	WW
	戸	AD		戸	WD
	ガラリ	AG		ふすま	H
	シャッター	AS	その他	トイレブース	TB
	ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ枠	GB			
	パーティション	AP	硝子	フロート板ガラス	FL
鋼製	戸	SD		型板ガラス	F
	窓	SW		網入りみがき板ガラス	PW
	シャッター	SS		網入型板ガラス	FW
軽量鋼製	戸	LD		強化ガラス	TP
	窓	LW			
ステンレス製	戸	STD			
	シャッター	STS			

・沓摺は全て SUS304 ァ2．0 HL仕上とし，形状は下図による．

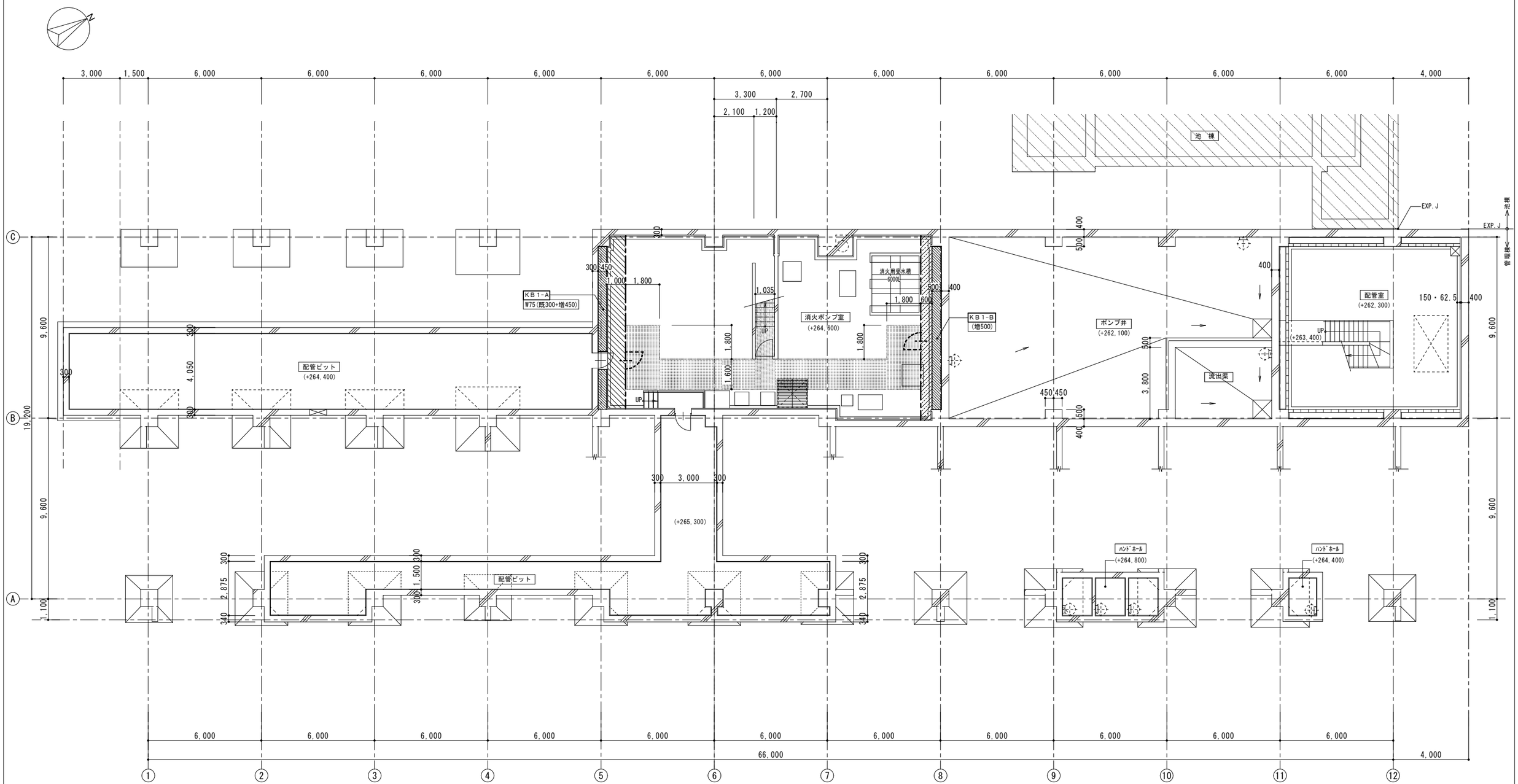


事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	建具表(1)						
縮尺	A1:1/50					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-56
十勝中部広域水道企業団							

番号・形式	101 LD 鋼製軽量 片開キフラッシュドア	102 LD 鋼製軽量 片開キフラッシュドア	103 LD 鋼製軽量 親子開キフラッシュドア	104a LD 104b LD 鋼製軽量 親子開キフラッシュドア	105 LD 三方枠	
姿図						
取付箇所・数量	物入(1) 1ヶ処	物入(2) 1ヶ処	宿直室前室、控室、物入(3) 3ヶ処	資料室 SD-104ａ×１ヶ処 管理室 SD-104ｂ×１ヶ処	資料室 1ヶ処	
材質・仕上	表面処理亜鉛メッキ鋼板 ァ０．８加工～ＤＰ(1級)（枠：ァ１．６～ＤＰ(1級)）	表面処理亜鉛メッキ鋼板 ァ０．８加工～ＤＰ(1級)（枠：ァ１．６～ＤＰ(1級)）	表面処理亜鉛メッキ鋼板 ァ０．８加工～ＤＰ(1級)（枠：ァ１．６～ＤＰ(1級)）	表面処理亜鉛メッキ鋼板 ァ０．８加工～ＤＰ(1級)（枠：ァ１．６～ＤＰ(1級)）	表面処理亜鉛メッキ鋼板 ァ０．８加工～ＤＰ(1級)（枠：ァ１．６～ＤＰ(1級)）	
建具見込(枠見込)	４０（１１０）	４０（１００）	４０（１６０）	４０（１００）	（４５０）	
硝子						
附属金物	ピボットヒンジ，レバーハンドル、シリンダー錠	ピボットヒンジ，レバーハンドル、シリンダー錠	ピボットヒンジ，レバーハンドル、シリンダー錠、フランス落し	ピボットヒンジ，レバーハンドル、シリンダー錠、フランス落し		
	ドアチェック，戸当り	ドアチェック，戸当り	ドアチェック，戸当り	ドアチェック，戸当り		
備考	沓摺 Ｆ、固定ガラリ	沓摺 Ｆ、固定ガラリ、SS三方枠:W=３００	沓摺 Ｆ	沓摺 Ｆ SS三方枠:SD-104ａ W=５２５ SS三方枠:SD-104ｂ W=５５０		

番号・形式	101 WD 木製 引違イ戸	102 WD 木製 折れ戸（クローゼットドア）	103 WD 木製 折れ戸（クローゼットドア）	104 WD 木製 折れ戸（クローゼットドア）		
姿図						
取付箇所・数量	宿直室 1ヶ所	収納(宿直室) 1ヶ処	収納(宿直室) 1ヶ処	収納(宿直室) 1ヶ処		
材質・仕上	樹脂化粧シート貼合板フラッシュ	樹脂化粧シート貼合板フラッシュ（フラット面取パネル）	樹脂化粧シート貼合板フラッシュ（フラット面取パネル）	樹脂化粧シート貼合板フラッシュ（フラット面取パネル）		
建具見込(枠見込)	２４	２４（７７）	２４（７７）	２４（７７）		
硝子						
附属金物	掴込引手、レール、戸車	レール、ハンガーローラー、ハンドル、折戸金物一式	レール、ハンガーローラー、ハンドル、折戸金物一式	レール、ハンガーローラー、ハンドル、折戸金物一式		
		既製三方枠＋調整枠、下枠ノンレール仕様	既製三方枠＋調整枠、下枠ノンレール仕様	既製三方枠＋調整枠、下枠ノンレール仕様		
備考						

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	建具表(2)					
縮尺	A1:1/50				製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号
						図番 A-57
十勝中部広域水道企業団						



仮設間仕切 凡例

- ：仮設間仕切(一般) (B種(片面)石膏ボード)
- ：仮設間仕切(電気室) (B種(片面)石膏ボード+養生シート)
- ：仮設間仕切部片開き戸(木製 W800×H1,800)
- ▽：通常時解放不可ドア(非常時用)を示す。
- ：枠組足場(建枠６００)
- ：単管本足場
- ：工事用作業動線(通路養生範囲)

注記

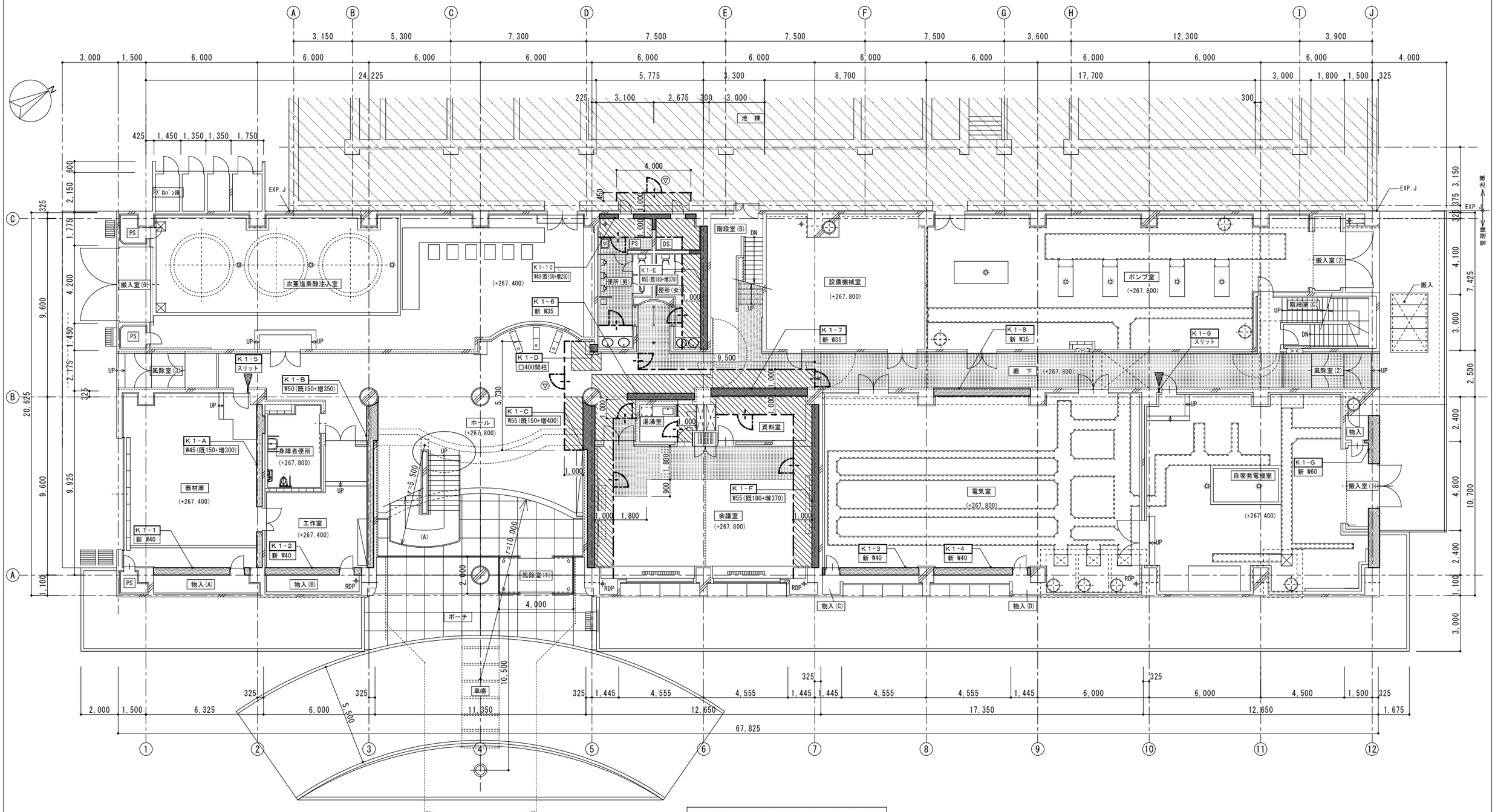
・工事作業区域は粉塵等の飛散を防止する為、仮間仕切壁にて養生とする。
・特記なき仮設間仕切壁は(一般用)とし、B種(片面石膏ボード)を標準とする。
ただし電気室においては特に粉塵に対する気密処理を重視した仕様とする。
その詳細は別記による。
・設置時、また撤去時においても、その位置・範囲及び時期・工法は工事監督員の了承を得ること。
・工事作業員、資材、廃材の作業区域への出入、搬出入経路は養生シート敷きとし作業区域を除く他室内への出入りは原則禁止とする。
特に図中 ▽ 表示戸は「通常使用禁止」とし、建具面に明示するものとする。
・図示 仮設計画は参考図とする。 実際の設置にあたっては、各機器の作動状況設備配管、ケーブルラック等支障物を現地確認の上、仮設計画を作成し、事前に工事監督員の承諾を得ること。

工区案１ Ｂ１階 仮設間仕切(参考図)

凡 例

・[ ]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
・K＊－＊ は耐震改修部位符号を示す。
・W75(既300+増450) 既存RC壁 ｱ300＋増打RC壁 ｱ450＝総厚750mmを示す
・新W40 新設RC壁W40＝400mmを示す。
・ 躯体補強部位を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	工区案１ Ｂ１階仮設間仕切(参考図)						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-58
十勝中部広域水道企業団							



工区案１　１階 仮設間仕切(参考図)

仮設間仕切 凡例

- ：仮設間仕切(一般)　(Ｂ種(片面)石膏ボード)
- ：仮設間仕切(電気室)　(Ｂ種(片面)石膏ボード＋養生シート)
- ：仮設間仕切部片開き戸(木製 W800×H1,800)
- ▽：通常時解放不可ドア(非常時用)を示す。
- ：枠組足場(建枠６００)
- ：単管本足場
- ：工事用作業動線(通路養生範囲)

注記

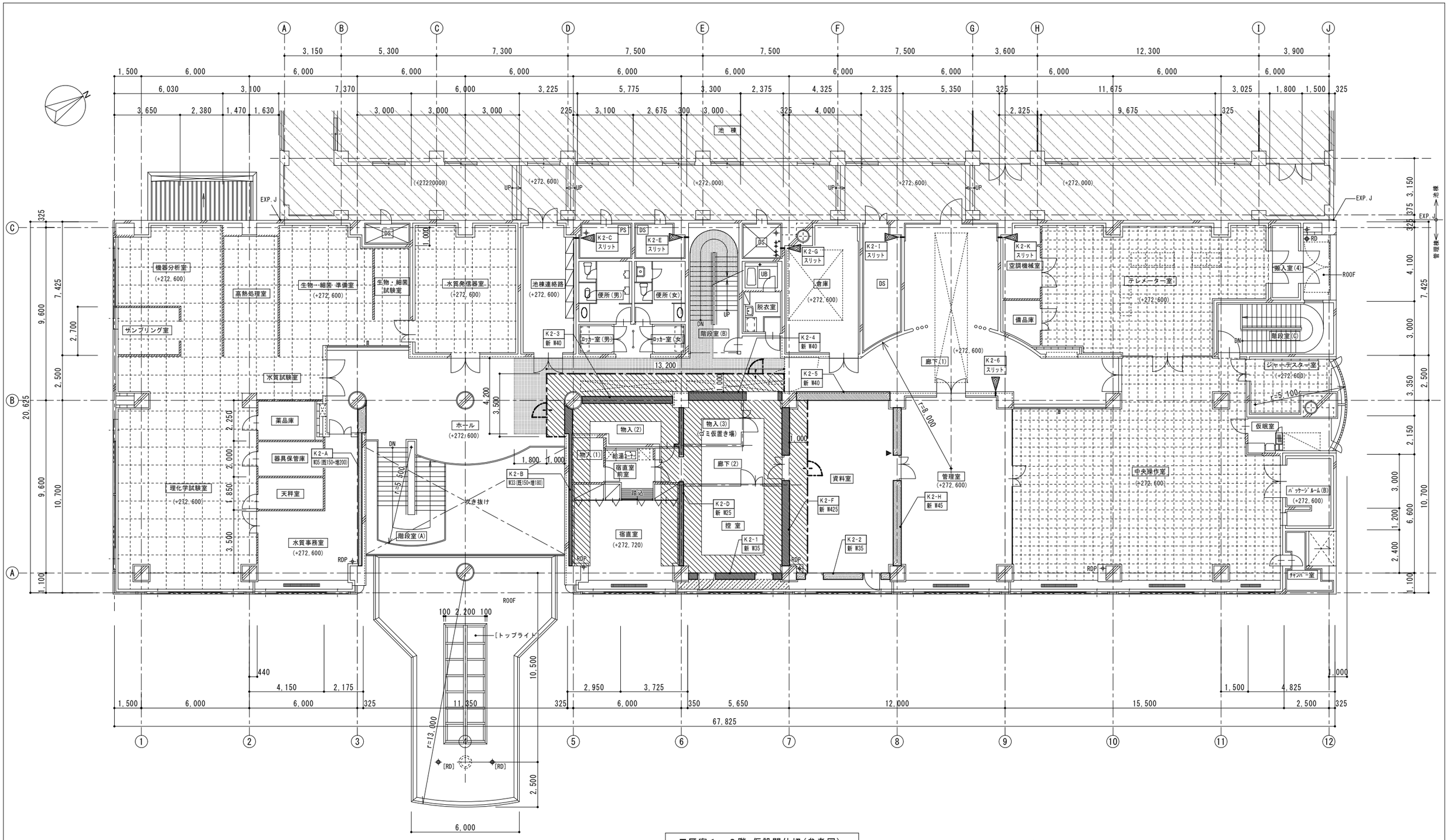
・工事作業区域は粉塵等の飛散を防止する為、仮間仕切壁にて養生とする。
・特記なき仮設間仕切壁は(一般用)とし、Ｂ種(片面石膏ボード)を標準とする。
ただし電気室においては特に粉塵に対する気密処理を重視した仕様とする。
その詳細は別記による。
・設置時、また撤去時においても、その位置・範囲及び時期・工法は工事監督員の了承を得ること。
・工事作業員、資材、廃材の作業区域への出入、搬出入経路は養生シート敷きとし作業区域を除く他室内への出入りは原則禁止とする。
特に図中 ▽ 表示戸は「通常使用禁止」とし、建具面に明示するものとする。
・図示 仮設計画は参考図とする。　実際の設置にあたっては、各機器の作動状況設備配管、ケーブルラック等支障物を現地確認の上、仮設計画を作成し、事前に工事監督員の承諾を得ること。

凡 例

・[　　]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
・K＊－＊ は耐震改修部位符号を示す。
・W75(既300+増450) 既存RC壁 ｱ300＋増打RC壁 ｱ450＝総厚750mmを示す。
・新W40 新設RC壁W40＝400mmを示す。
・ 躯体補強部位を示す。
・ スリット施工部位を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	工区案１　１階仮設間仕切(参考図)							
縮尺	A1:1/100						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	A-59

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団



仮設間仕切 凡例

- ：仮設間仕切(一般) （B種(片面)石膏ボード）
- ：仮設間仕切(電気室) （B種(片面)石膏ボード＋養生シート）
- ：仮設間仕切部片開き戸(木製 W800×H1,800)
- ▽：通常時解放不可ドア(非常時用)を示す。
- ：枠組足場(建枠６００)
- ：単管本足場
- ：工事用作業動線(通路養生範囲)

注記

・工事作業区域は粉塵等の飛散を防止する為、仮間仕切壁にて養生とする。
・特記なき仮設間仕切壁は(一般用)とし、B種(片面石膏ボード)を標準とする。
ただし電気室においては特に粉塵に対する気密処理を重視した仕様とする。
その詳細は別記による。
・設置時、また撤去時においても、その位置・範囲及び時期・工法は工事監督員の了承を得ること。
・工事作業員、資材、廃材の作業区域への出入、搬出入経路は養生シート敷きとし作業区域を除く他室内への出入りは原則禁止とする。
特に図中 ▽ 表示戸は「通常使用禁止」とし、建具面に明示するものとする。
・図示 仮設計画は参考図とする。 実際の設置にあたっては、各機器の作動状況設備配管、ケーブルラック等支障物を現地確認の上、仮設計画を作成し、事前に工事監督員の承諾を得ること。

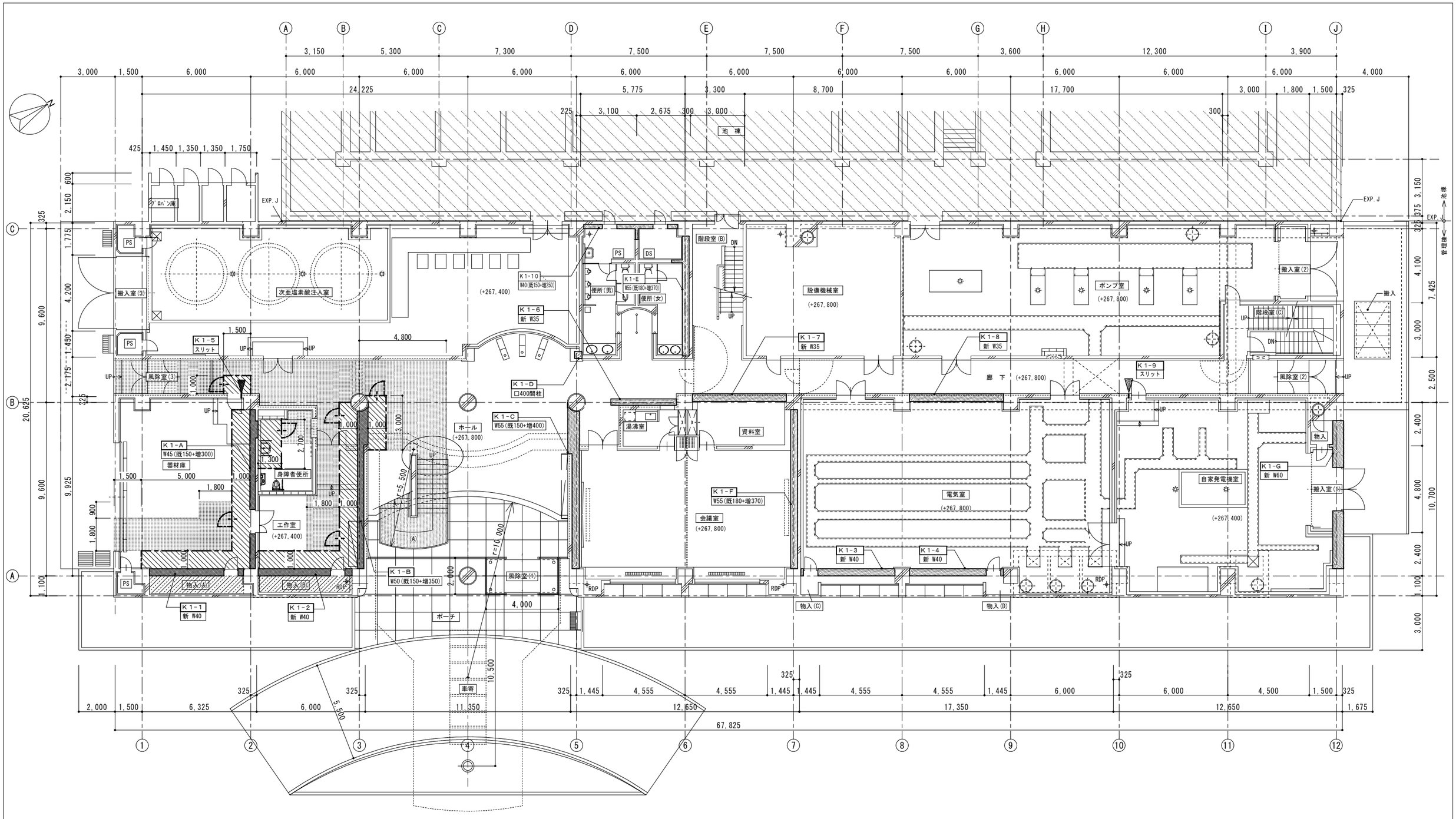
工区案１ ２階 仮設間仕切(参考図)

凡 例

・[ ]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
・K＊－＊ は耐震改修部位符号を示す。
W75(既300+増450) 既存RC壁 ｱ300＋増打RC壁 ｱ450＝総厚750mmを示す。
新W40 新設RC壁W40＝400mmを示す。
・ 躯体補強部位を示す。
・ スリット施工部位を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	工区案１ ２階仮設間仕切(参考図)						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	A-60

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団



工区案２　１階 仮設間仕切(参考図)

仮設間仕切 凡例

- ：仮設間仕切(一般)　(Ｂ種(片面)石膏ボード)
- ：仮設間仕切(電気室)　(Ｂ種(片面)石膏ボード＋養生シート)
- ：仮設間仕切部片開き戸(木製 W800×H1,800)
- ▽：通常時解放不可ドア(非常時用)を示す。
- ：枠組足場(建枠６００)
- ：単管本足場
- ：工事用作業動線(通路養生範囲)

注記

・工事作業区域は粉塵等の飛散を防止する為、仮間仕切壁にて養生とする。

・特記なき仮設間仕切壁は(一般用)とし、Ｂ種(片面石膏ボード)を標準とする。
ただし電気室においては特に粉塵に対する気密処理を重視した仕様とする。
その詳細は別記による。

・設置時、また撤去時においても、その位置・範囲及び時期・工法は工事監督員の了承を得ること。

・工事作業員、資材、廃材の作業区域への出入、搬出入経路は養生シート敷きとし作業区域を除く他室内への出入りは原則禁止とする。
特に図中 ▽ 表示戸は「通常使用禁止」とし、建具面に明示するものとする。

・図示 仮設計画は参考図とする。　実際の設置にあたっては、各機器の作動状況設備配管、ケーブルラック等支障物を現地確認の上、仮設計画を作成し、事前に工事監督員の承諾を得ること。

凡 例

・[　]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。

・K＊－＊ は耐震改修部位符号を示す。

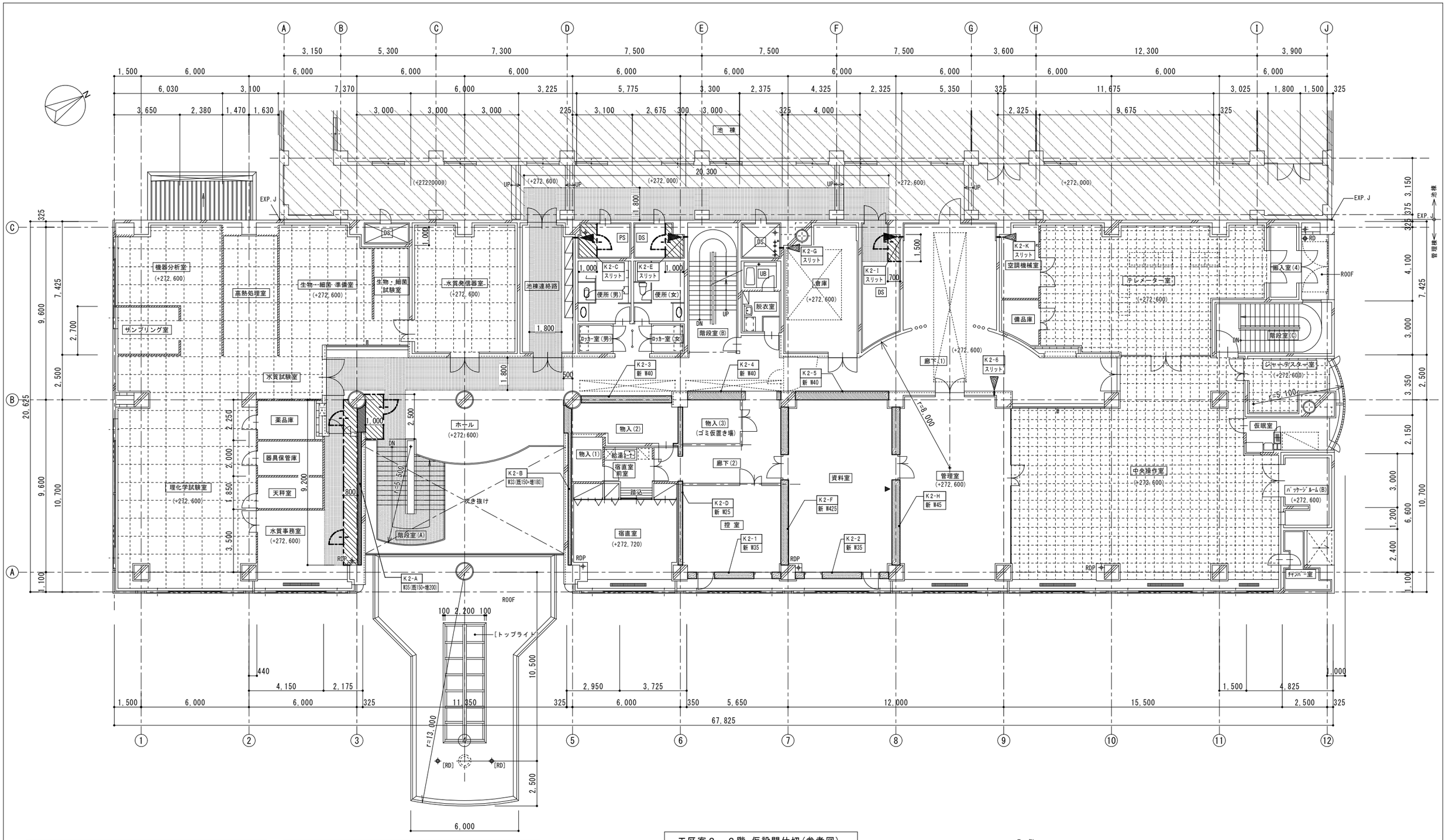
・W75(既300+増450) 既存RC壁 ｱ300＋増打RC壁 ｱ450＝総厚750mmを示す。

・新W40 新設RC壁W40＝400mmを示す。

・躯体補強部位を示す。

・スリット施工部位を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	工区案２　１階仮設間仕切(参考図)							
縮尺	A1:1/100						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	A-61
十勝中部広域水道企業団								



仮設間仕切 凡例

- ：仮設間仕切(一般) （Ｂ種(片面)石膏ボード）
- ：仮設間仕切(電気室) （Ｂ種(片面)石膏ボード＋養生シート）
- ：仮設間仕切部片開き戸(木製 W800×H1,800)
- ▽：通常時解放不可ドア(非常時用)を示す。
- ：枠組足場(建枠６００)
- ：単管本足場
- ：工事用作業動線(通路養生範囲)

注記

・工事作業区域は粉塵等の飛散を防止する為、仮間仕切壁にて養生とする。

・特記なき仮設間仕切壁は(一般用)とし、Ｂ種(片面石膏ボード)を標準とする。
ただし電気室においては特に粉塵に対する気密処理を重視した仕様とする。
その詳細は別記による。

・設置時、また撤去時においても、その位置・範囲及び時期・工法は工事監督員の了承を得ること。

・工事作業員、資材、廃材の作業区域への出入、搬出入経路は養生シート敷きとし作業区域を除く他室内への出入りは原則禁止とする。
特に図中 ▽ 表示戸は「通常使用禁止」とし、建具面に明示するものとする。

・図示 仮設計画は参考図とする。 実際の設置にあたっては、各機器の作動状況設備配管、ケーブルラック等支障物を現地確認の上、仮設計画を作成し、事前に工事監督員の承諾を得ること。

工区案２ ２階 仮設間仕切(参考図)

凡 例

・[ ]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。

・K＊－＊ は耐震改修部位符号を示す。

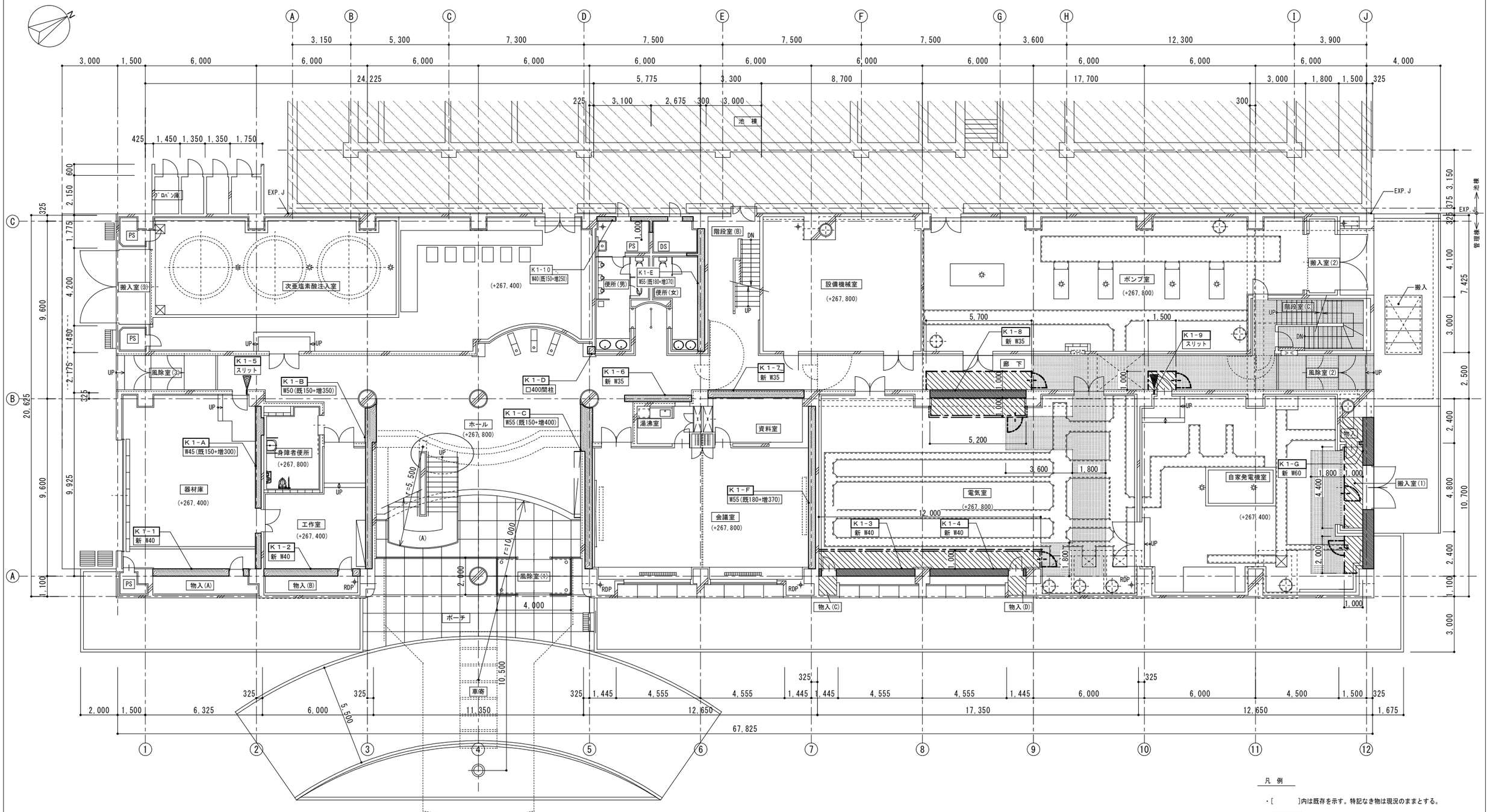
・W75(既300+増450) 既存RC壁 ｱ300＋増打RC壁 ｱ450＝総厚750mmを示す。

・新W40 新設RC壁W40＝400mmを示す。

・ 躯体補強部位を示す。

・ スリット施工部位を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	工区案２ ２階仮設間仕切(参考図)							
縮尺	A1:1/100						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	A-62
十勝中部広域水道企業団								



工区案３　１階 仮設間仕切(参考図)

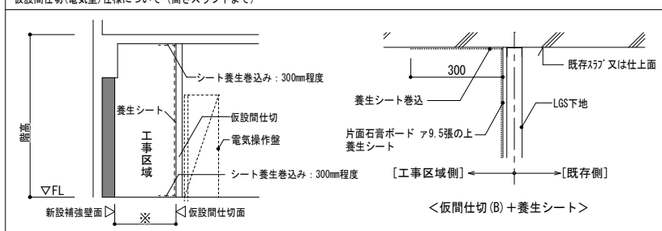
仮設間仕切 凡例

- ：仮設間仕切(一般)　(Ｂ種(片面)石膏ボード)
- ：仮設間仕切(電気室)　(Ｂ種(片面)石膏ボード＋養生シート)
- ：仮設間仕切部片開き戸(木製 W800×H1,800)
- ▽：通常時解放不可ドア(非常時用)を示す。
- ：枠組足場(建枠６００)
- ：単管本足場
- ：工事用作業動線(通路養生範囲)

注記

・工事作業区域は粉塵等の飛散を防止する為、仮間仕切壁にて養生とする。
・特記なき仮設間仕切壁は(一般用)とし、Ｂ種(片面石膏ボード)を標準とする。
ただし電気室においては特に粉塵に対する気密処理を重視した仕様とする。
その詳細は別記による。
・設置時、また撤去時においても、その位置・範囲及び時期・工法は工事監督員の了承を得ること。
・工事作業員、資材、廃材の作業区域への出入、搬出入経路は養生シート敷きとし作業区域を除く他室内への出入りは原則禁止とする。
特に図中 ▽ 表示戸は「通常使用禁止」とし、建具面に明示するものとする。
・図示 仮設計画は参考図とする。　実際の設置にあたっては、各機器の作動状況設備配管、ケーブルラック等支障物を現地確認の上、仮設計画を作成し、事前に工事監督員の承諾を得ること。

仮設間仕切(電気室)仕様について（高さスラブ下まで）



＜仮間仕切(B)＋養生シート＞

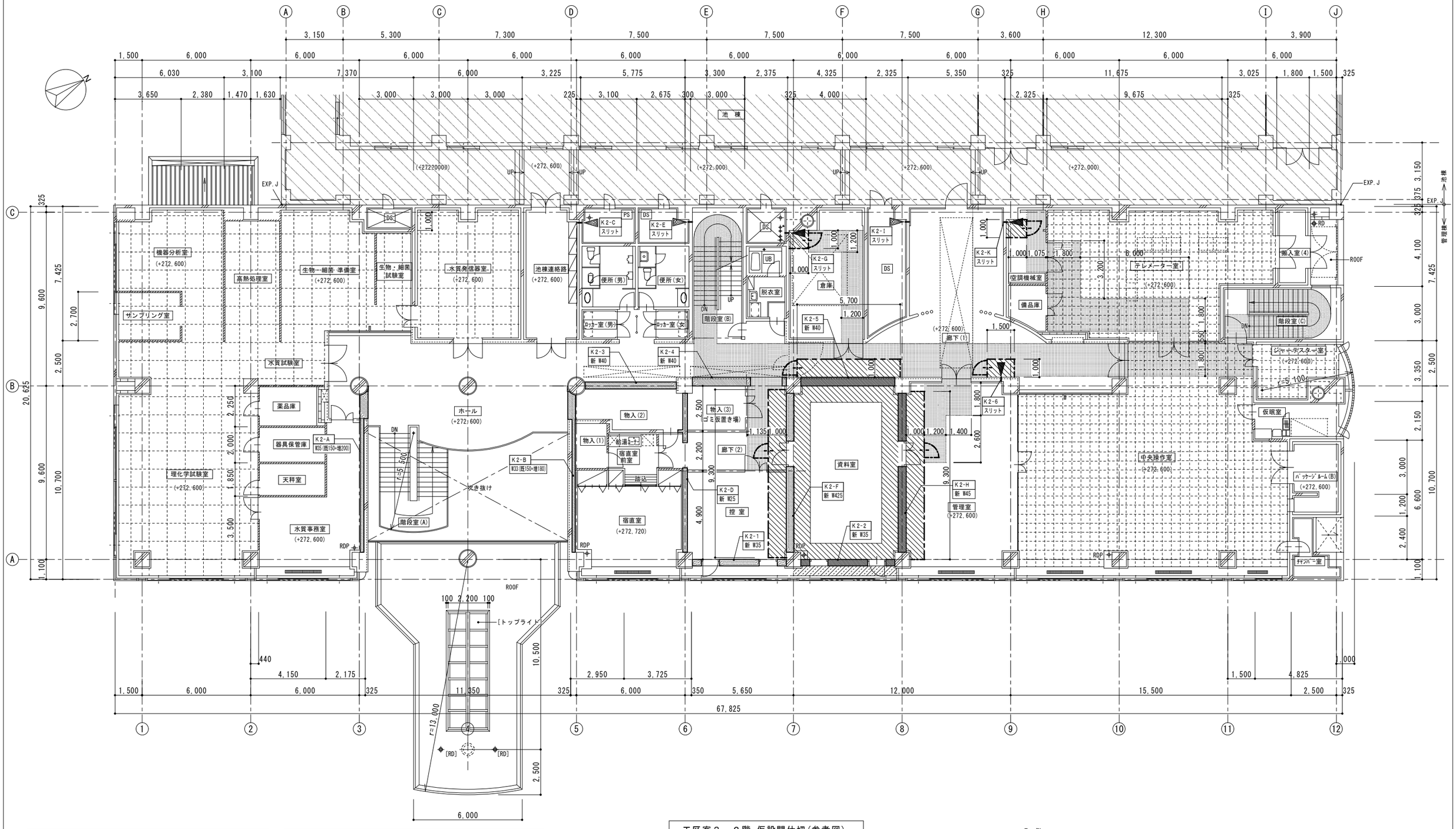
※ K１－３・４　施工側は電気操作盤と仮間仕切壁が近接するため運用上、工事期間中に緊急で電気操作盤の操作及び点検扉開放の必要がある場合を考慮し、部分的な仮設間仕切壁の撤去・取外しに対応可能な設置が望ましい。
対応が必要な範囲・その運用状況等は工事監督員及び施設職員と充分な協議及び承認を得た上、決定の事。

凡 例

・[　　]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
・K＊－＊　は耐震改修部位符号を示す。
・W75(既300+増450)　既存RC壁 ｱ300＋増打RC壁 ｱ450＝総厚750mmを示す。
・新W40　新設RC壁W40＝400mmを示す。
・　姫体補強部位を示す。
・　スリット施工部位を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業								
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事								
名称	工区案３　１階仮設間仕切(参考図)								
縮尺	A1:1/100							製作年月日	
承認印	局長		次長		課長		係長	係	設計番号	
									図番	A-63

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団



工区案３　２階 仮設間仕切(参考図)

仮設間仕切 凡例

- ：仮設間仕切(一般)　(Ｂ種(片面)石膏ボード)
- ：仮設間仕切(電気室)　(Ｂ種(片面)石膏ボード＋養生シート)
- ：仮設間仕切部片開き戸(木製 W800×H1,800)
- ▽：通常時解放不可ドア(非常時用)を示す。
- ：枠組足場(建枠６００)
- ：単管本足場
- ：工事用作業動線(通路養生範囲)

注記

・工事作業区域は粉塵等の飛散を防止する為、仮間仕切壁にて養生とする。

・特記なき仮設間仕切壁は(一般用)とし、Ｂ種(片面石膏ボード)を標準とする。
ただし電気室においては特に粉塵に対する気密処理を重視した仕様とする。
その詳細は別記による。

・設置時、また撤去時においても、その位置・範囲及び時期・工法は工事監督員の了承を得ること。

・工事作業員、資材、廃材の作業区域への出入、搬出入経路は養生シート敷きとし作業区域を除く他室内への出入りは原則禁止とする。
特に図中 ▽ 表示戸は「通常使用禁止」とし、建具面に明示するものとする。

・図示 仮設計画は参考図とする。　実際の設置にあたっては、各機器の作動状況設備配管、ケーブルラック等支障物を現地確認の上、仮設計画を作成し、事前に工事監督員の承諾を得ること。

凡 例

・[　　]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。

・K＊－＊　は耐震改修部位符号を示す。

・W75(既300+増450)　既存RC壁 ァ300＋増打RC壁 ァ450＝総厚750mmを示す。

・新W40　新設RC壁W40＝400mmを示す。

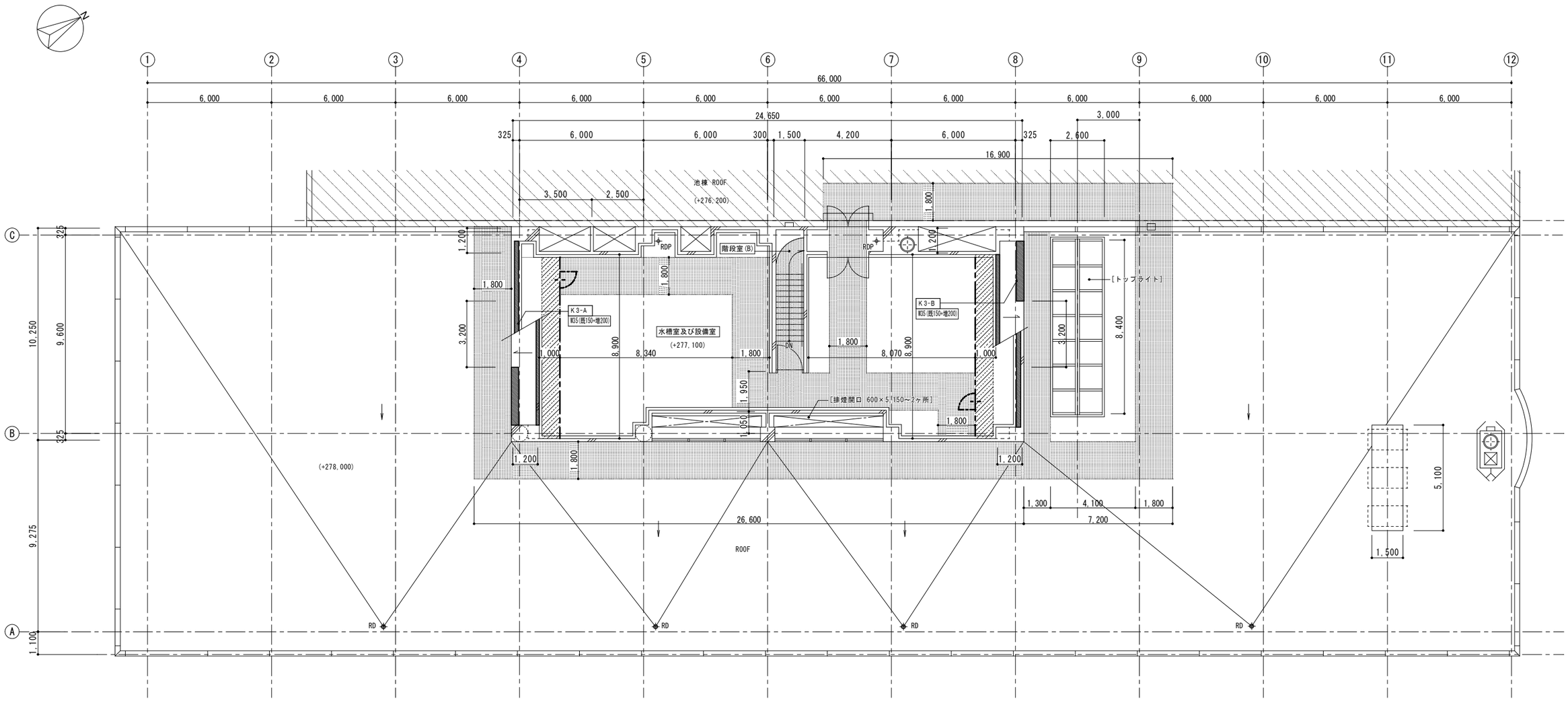
・　躯体補強部位を示す。

・　スリット施工部位を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	工区案３　２階仮設間仕切(参考図)
縮尺	A1:1/100
製作年月日	
設計番号	
図番	A-64

承認印	局長	次長	課長	係長	係

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団



工区案３　ＰＨ階 仮設間仕切(参考図)

仮設間仕切 凡例

- ：仮設間仕切(一般)　(Ｂ種(片面)石膏ボード)
- ：仮設間仕切(電気室)　(Ｂ種(片面)石膏ボード＋養生シート)
- ：仮設間仕切部片開き戸(木製 W800×H1,800)
- ▽：通常時解放不可ドア(非常時用)を示す。
- ：枠組足場(建枠６００)
- ：単管本足場
- ：工事用作業動線(通路養生範囲)

注記

・工事作業区域は粉塵等の飛散を防止する為、仮間仕切壁にて養生とする。

・特記なき仮設間仕切壁は(一般用)とし、Ｂ種(片面石膏ボード)を標準とする。
ただし電気室においては特に粉塵に対する気密処理を重視した仕様とする。
その詳細は別記による。

・設置時、また撤去時においても、その位置・範囲及び時期・工法は工事監督員の了承を得ること。

・工事作業員、資材、廃材の作業区域への出入、搬出入経路は養生シート敷きとし作業区域を除く他室内への出入りは原則禁止とする。
特に図中 ▽ 表示戸は「通常使用禁止」とし、建具面に明示するものとする。

・図示 仮設計画は参考図とする。　実際の設置にあたっては、各機器の作動状況設備配管、ケーブルラック等支障物を現地確認の上、仮設計画を作成し、事前に工事監督員の承諾を得ること。

凡 例

・[　　]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。

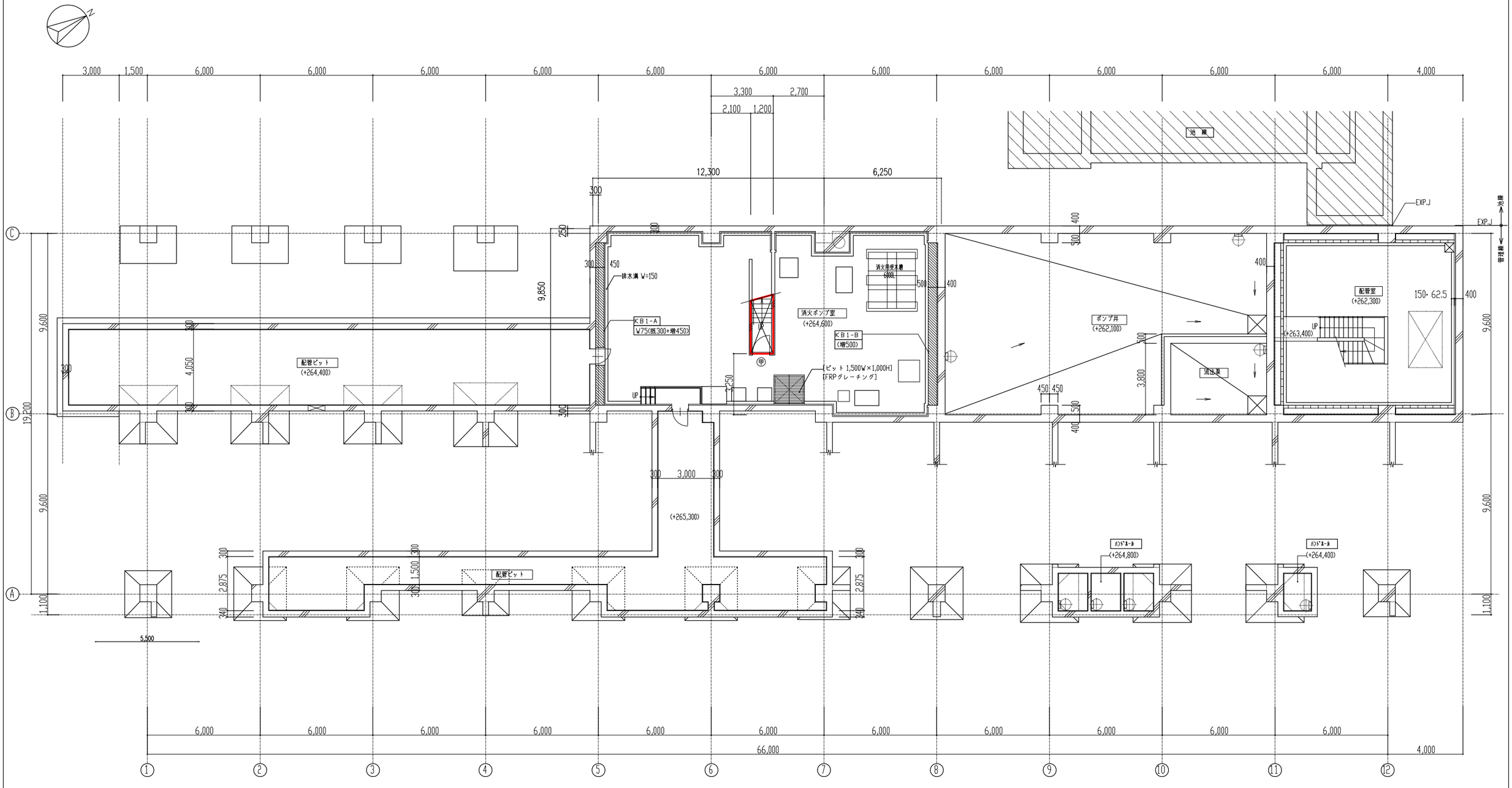
・K＊－＊　は耐震改修部位符号を示す。

・W75(既300+増450)　既存RC壁 ｱ300＋増打RC壁 ｱ450＝総厚750mmを示す

・新W40　新設RC壁W40＝400mmを示す。

・　躯体補強部位を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	工区案３　ＰＨ階仮設間仕切(参考図)							
縮尺	A1:1/100						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	A-65
十勝中部広域水道企業団								



B階平面図（改修後）

凡 例

- 防火区画
- タテ穴区画
- ㊍ 既存 甲種防火戸を示す。

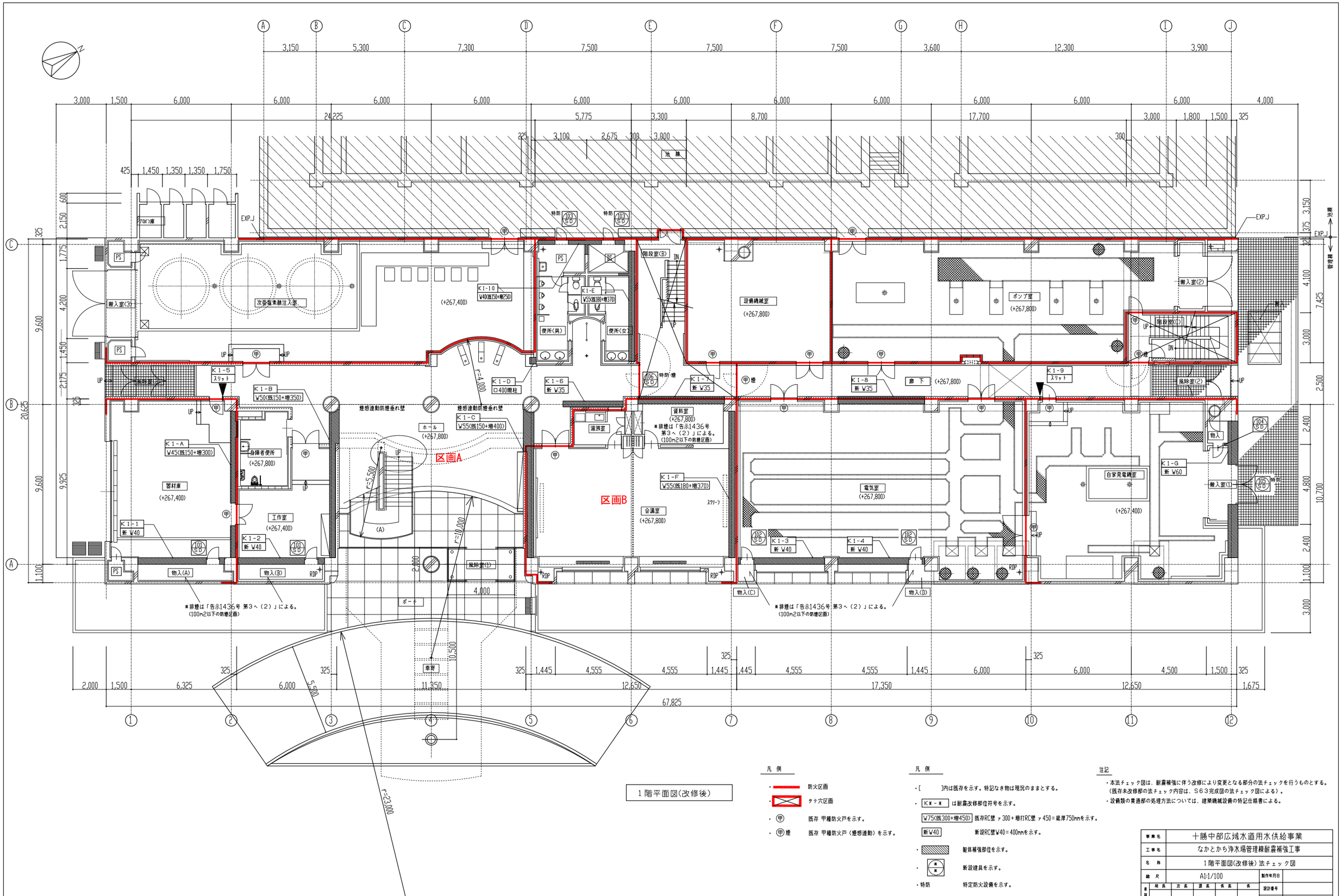
凡 例

- [ ]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
- K■-■ は耐震改修部位符号を示す。
- W75(既300+増450) 既存RC壁 ｔ300＋増打RC壁 ｔ450＝総厚750mmを示す
- 新W40 新設RC壁W40＝400mmを示す。
- 躯体補強部位を示す。
- 新設建具を示す。

注記

・本法チェック図は、耐震補強に伴う改修により変更となる部分の法チェックを行うものとする。
（既存未改修部の法チェック内容は、S63完成図の法チェック図による）。
・設備類の貫通部の処理方法については、建築機械設備の特記仕様書による。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名 称	B1階平面図(改修後) 法チェック図						
縮 尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計書号	
						図 番	A-66
十勝中部広域水道企業団							



1階平面図(改修後)

凡 例

- 防火区画
- タテ穴区画
- 甲 既存 甲種防火戸を示す。
- 甲 煙 既存 甲種防火戸（煙感連動）を示す。

凡 例

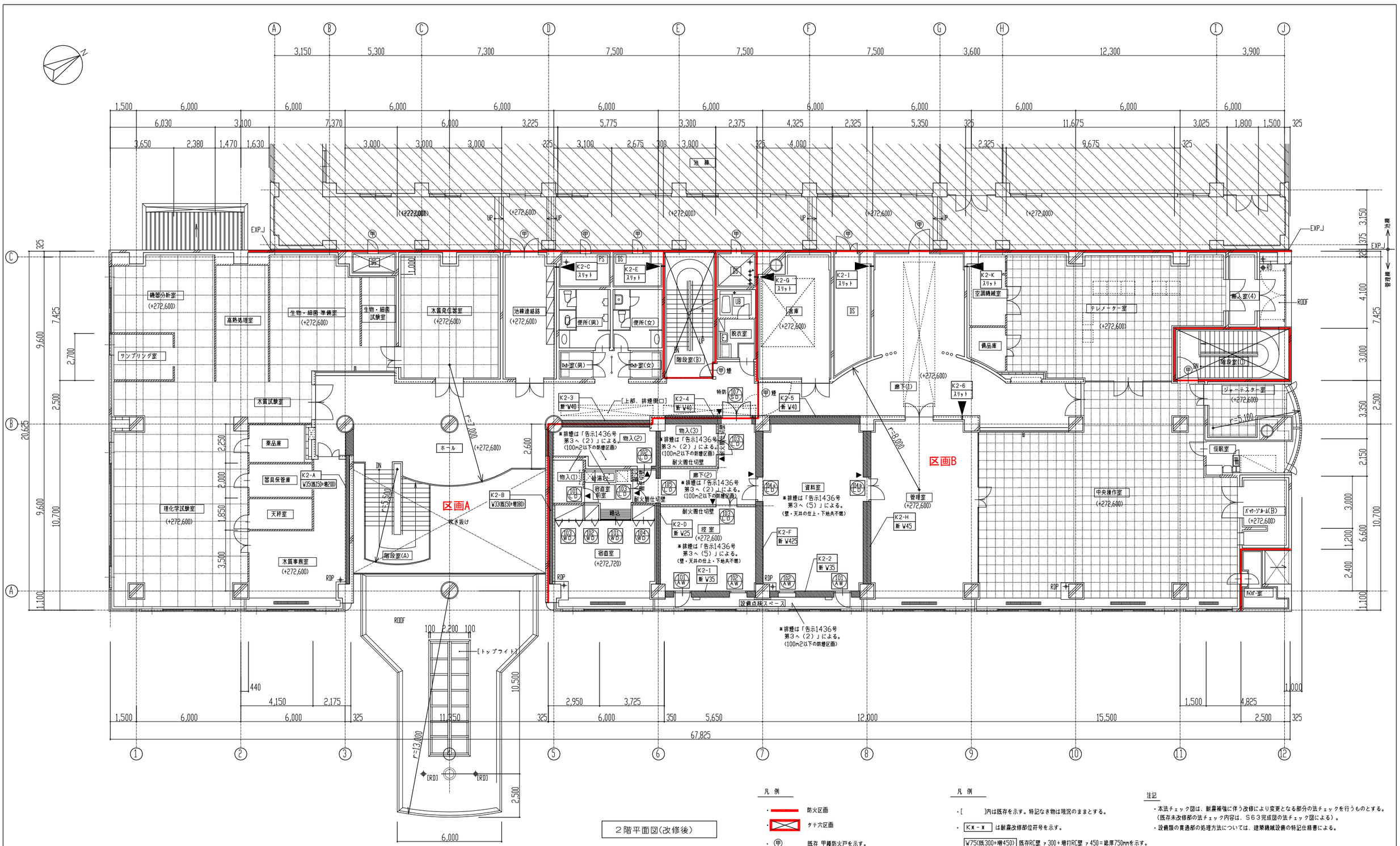
- [ ]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
- K＊－＊ は耐震改修部位符号を示す。
- W75(既300+増450) 既存RC壁 ヶ300＋増打RC壁 ヶ450＝壁厚750mmを示す。
- 新W40 新設RC壁W40＝400mmを示す。
- 躯体補強部位を示す。
- 新 新設建具を示す。
- 特防 特定防火設備を示す。
- 煙 煙感知器連動 を示す。
- スリット施工部位を示す。

注記

- 本法チェック図は、耐震補強に伴う改修により変更となる部分の法チェックを行うものとする。（既存未改修部の法チェック内容は、S63完成図の法チェック図による）。
- 設備類の貫通部の処理方法については、建築機械設備の特記仕様書による。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名 称	1階平面図(改修後) 法チェック図							
縮 尺	A1:1/100						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図 番	A-67

十勝中部広域水道企業団



２階平面図(改修後)

凡 例

- 防火区画
- タテ穴区画
- (甲) 既存 甲種防火戸を示す。
- (甲)煙 既存 甲種防火戸（煙感連動）を示す。
- 耐火間仕切壁 1時間耐火構造 国土交通大臣認定 FP060NP-0483（1）同等品以上

凡 例

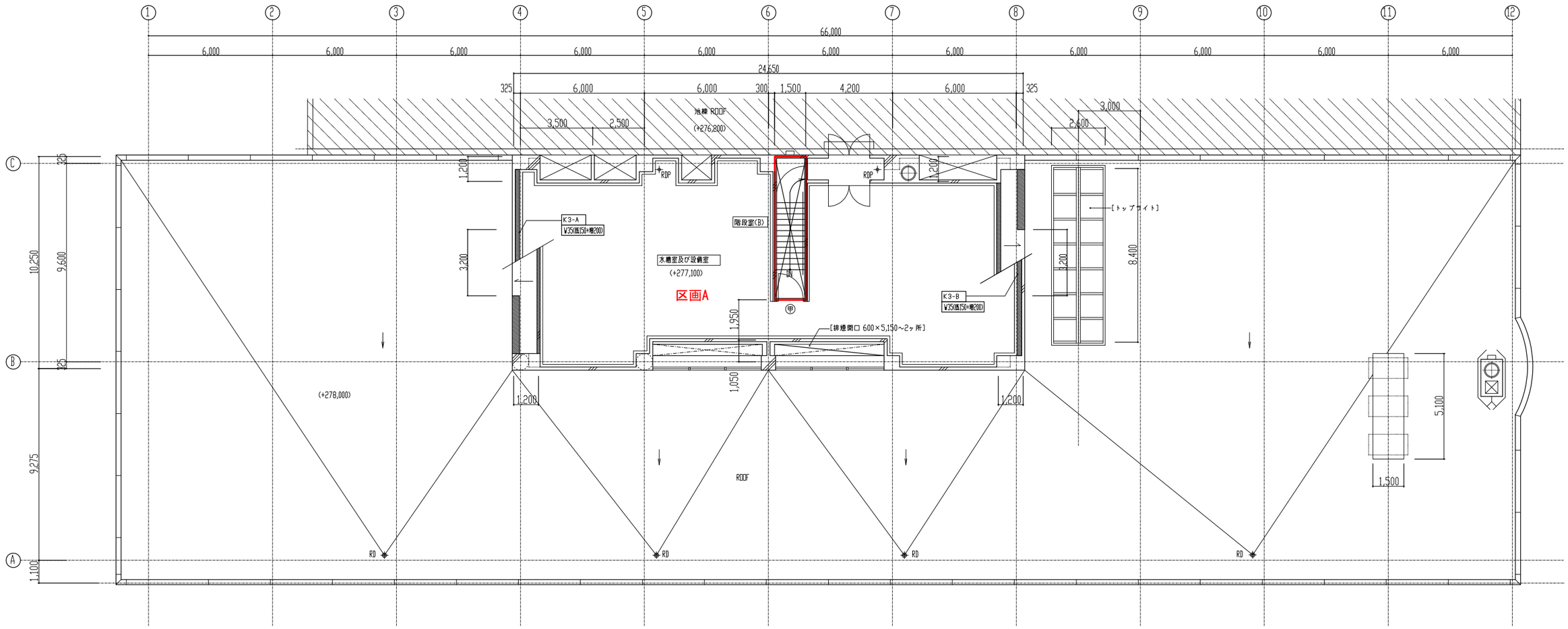
- [ ]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
- K※－※ は耐震改修部位符号を示す。
- W75(既300+増450) 既存RC壁 ｧ300＋増打RC壁 ｧ450＝総厚750mmを示す。
- 新W40 新設RC壁W40＝400mmを示す。
- 躯体補強部位を示す。
- 新設建具を示す。
- 特防 特定防火設備を示す。
- 煙 煙感知器連動 を示す。
- スリット施工部位を示す。
- 室名札(ステンレス製)

注記

- 本法チェック図は、耐震補強に伴う改修により変更となる部分の法チェックを行うものとする。（既存未改修部の法チェック内容は、S63完成図の法チェック図による）。
- 設備類の貫通部の処理方法については、建築機械設備の特記仕様書による。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名 称	２階平面図(改修後) 法チェック図
縮 尺	A1:1/100
製作年月日	
設計者印	局長 / 次長 / 課長 / 係長 / 係
設計番号	
図 番	A-68

十勝中部広域水道企業団



ＰＨ階平面図(改修後)

区画面積表

	区画A (m2)	区画B (m2)
PH階	239.92	——
2階	522.71	732.50
1階	307.32	121.86
合計	1,069.95	854.36

1,500m2以下のため□K

凡 例

- 防火区画
- ケテ穴区画
- (甲) 既存 甲種防火戸を示す。

凡 例

- [ ]内は既存を示す。特記なき物は現況のままとする。
- K■－■ は耐震改修部位符号を示す。
- W75(既300+増450) 既存RC壁 ｱ300＋増打RC壁 ｱ450＝総厚750mmを示す
- 新W40 新設RC壁W40＝400mmを示す。
- 躯体補強部位を示す。
- (新/既) 新設建具を示す。

注記

・本法チェック図は、耐震補強に伴う改修により変更となる部分の法チェックを行うものとする。
（既存未改修部の法チェック内容は、Ｓ６３完成図の法チェック図による）。
・設備類の貫通部の処理方法については、建築機械設備の特記仕様書による。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名 称	ＰＨ階平面図（改修後）法チェック図							
縮 尺	A1:1/100						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計書号	
							図 番	A-69
十勝中部広域水道企業団								

十 勝 中 部 広 域 水 道 用 水 供 給 事 業

なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事

構造図

図 番	図 面 名 称	縮 尺	図 番	図 面 名 称	縮 尺
S-1	構造細目共通図 (1)	NONE	S-21	補強詳細図（６）	1/30
S-2	構造細目共通図 (2)	NONE	S-22	補強詳細図（７）	1/30
S-3	構造細目共通図 (3)	NONE	S-23	補強詳細図（８）	1/30
S-4	構造細目共通図 (4)	NONE	S-24	補強詳細図（９）	1/30
S-5	構造細目共通図 (5)	NONE	S-25	補強詳細図（１０）	1/30
S-6	構造細目共通図 (6)	NONE	S-26	補強詳細図（１１）	1/30
S-7	補強標準図	NONE	S-27	補強詳細図（１２）	1/30
S-8	B1階 伏図	1/100	S-28	補強詳細図（１３）	1/30
S-9	1階 伏図	1/100	S-29	補強詳細図（１４）	1/30
S-10	2階、PH階 伏図	1/100	S-30	補強詳細図（１５）	1/30
S-11	軸組図 A, B通り	1/100	S-31	補強詳細図（１６）	1/30
S-12	軸組図 C通り	1/100	S-32	補強詳細図（１７）	1/30
S-13	軸組図 1, 2, 3, 4通り	1/100	S-33	補強詳細図（１８）	1/30
S-14	軸組図 5, 6, 7, 8通り	1/100	S-34	補強詳細図（１９）	1/30
S-15	軸組図 9, 10, 11, 12通り	1/100	S-35	補強詳細図（２０）	1/30
S-16	補強詳細図（１）	1/30	S-36	補強詳細図（２１）	1/30
S-17	補強詳細図（２）	1/30	S-37	補強詳細図（２２）	1/30
S-18	補強詳細図（３）	1/30	S-38	補強詳細図（２３）	1/30
S-19	補強詳細図（４）	1/30	S-39	補強詳細図（２４）	1/30
S-20	補強詳細図（５）	1/30	S-40	補強詳細図（２５）	1/30

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団

構 造 細 目 共 通 図（建築構造物）

＜ 令和４年版 ＞

※本図面は（一社）全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。
使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。
枠外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。

1　特記事項

1．1　適用範囲

（1）本構造細目共通図は水道施設におけるポンプ場の建築構造物に適用する。
（2）図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1）建築工事特記仕様書 2）公共建築工事標準仕様書（建築工事編）　国土交通省大臣官房官庁営繕部	（別紙による。） （令和 7 年版）

（3）項目は、⊙印のついたものを適用する。○印のない場合は、※ 印のあるものを適用する。○印と ※印のある場合は、共に適用する。

1．2　鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は、1．1表による。

1．1表　鉄筋の種類及び継手

	種　別	径
鉄筋の種類	SD 295	既存：D19以下 補強：D16以下
	SD 345	既存：D22以上 補強：D19以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	ガス圧接	既存：D19以上の柱、梁主筋 補強：無し
	機械式継手	※図示による。

1．3　コンクリートの仕様

コンクリートの仕様は、1．2表による。

1．2表　コンクリートの仕様

分　類		コンクリート種別	設計基準強度（N/mm²）	スランプ（cm）	セメントの種類
鉄筋コンクリート	地上	※普通コンクリート	※21	※18	※普通ポルトランドセメント
	地下 基礎、基礎梁	※普通コンクリート	※21	※15	※普通ポルトランドセメント
無筋コンクリート		※普通コンクリート	※18	※15	※ 普通ポルトランドセメント

注1：無筋コンクリートには捨てコンクリートを含む。

1．4　砕石及び捨てコンクリート

砕石及び捨てコンクリートの厚さは、特記がなければ1．3表による。

1．3表　砕石及び捨てコンクリートの仕様

種　別	厚さ（mm）
砂利または砕石	※ 60
捨てコンクリート	※ 50

2　共通事項

2．1　記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2．1表及び2．2表を標準とする。

2．1表　鉄筋の断面表示

径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記　号	•	×	⌀	◉	○	◉	⊠	⦿

2．2表　一般凡例

記　号 ・ 符　号	内　容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※　番号
※1C※2	柱断面種別	※1　階数 ※2　その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1　階数，地中大梁はFとする ※2　その階の番号 X方向1，2，3－－－－ Y方向A，B，C－－－－
CG※	片持大梁断面種別	※　番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1　地中小梁のみFとする。 ※2　階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※　番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1　E：耐震壁，K：階段壁 D：土圧、水圧を受ける壁 ※2　階別区分はしない 壁厚（cm）
※1S※2※3	床版配筋種別	※1　片持床版のみCとする ※2　床版厚（cm） ※3　配筋種別（英大文字） 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1　A：片持床版形 B：二辺固定床版形 ※2　配筋種別（数字） 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※　壁厚（cm）
	打ち増し範囲	
	梁・床版の上がり下がり	一般には基準ＦＬよりの＋、－に応じた凡例により表示
（※）	床用積載荷重	積載荷重の値（kN/m²）
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、底版

2．2　一般注意事項

（1）設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。
変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

3　鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、3．1表を標準とする。
（1）Dは、折曲げ内法直径を示す。
（2）dは、鉄筋直径（呼び名）を示す。

3．1表　鉄筋の折曲げ形状及び寸法（末端部）

曲げ角度	折　曲　げ　図	折曲げ内法直径（D） SD295 SD345 D16以下	折曲げ内法直径（D） SD295 SD345 D19～D38	使　用　箇　所
180°	d, D 4d以上	3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°	d, D 6d以上	3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
90°	d, D 8d以上	3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°	d, D 4d以上 d, D 4d以上	3d以上	4d以上	90° 135° 幅止め筋

（注）1．片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。
2．90°未満の折曲げの内法直径は図面による。

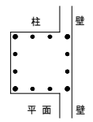
4　異形鉄筋の末端部

4．1　フックを設ける位置

異形鉄筋の末端部には、4．1表によりフックを設ける。

4．1表　フックを設ける位置

部　位		継手方式 重ね継手	継手方式 圧接継手	備　考
柱	四隅の主筋	——	1）最上階の柱頭部	4．1図の ●印 8．1図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	——	1）下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部	4．1図の ●印 8．2図参照
	帯筋（HOOP）	1）末端部 2）継手部	1）末端部	9．1図参照
梁	あばら筋（STP）	1）末端部 2）継手部	1）末端部	11．1図参照
杭基礎	独立フーチング基礎の底盤筋	1）末端部 2）継手部	1）末端部	20．1図参照
煙突の鉄筋		1）末端部 2）継手部	1）末端部	壁の一部となる場合を含む
幅止め筋		——	——	3．1表参照

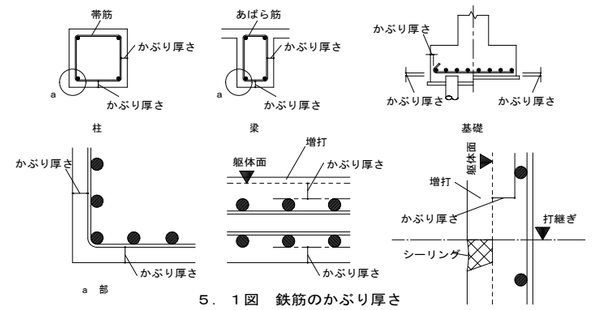


4．1図　異形鉄筋の末端部

5　鉄筋のかぶり及び間隔

5．1　かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋（幅止め筋、組立筋を除く）の外面から躯体面までの距離（5．1図）をいう。
鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10㎜を加えた厚さ以内に納めるものとする。



5．1図　鉄筋のかぶり厚さ

5．2　最小かぶり厚さ

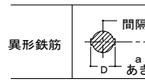
最小かぶり厚さは、5．1表による。
（1）床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
（2）柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1．5倍以上として最小かぶり厚さを定める。
（3）溶接金網にも適用する。

5．1表　鉄筋の最小かぶり厚さ（㎜）

構造部分の種別 ＼ 塩害区分		※ 通常の施工の場合	・ 塩害対策を必要とする場合
一　般	床、耐力壁以外の壁	30	40
	柱、梁、耐力壁	40	50
	底版	40	50
土、水に接する部分	柱、梁、床、壁	40	50
	底版、基礎	60	70
煙突等高熱を受ける部分		60	70
1：打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。 2：杭基礎の場合の最小かぶり厚さは、杭天端からとし、「21 杭基礎の補強」を参照。 3：仕上なしの場合を標準とする。			

5．3　鉄筋相互のあき及び間隔

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手の場合のあきは図面による。
（1）粗骨材の最大寸法の1．25倍
（2）最小のあき25㎜
（3）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1．5倍



（注）D：鉄筋の最外径
d：鉄筋直径（呼び名）

5．2図　鉄筋相互のあき及び間隔

5．2表　鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径（㎜） d	最外径 D	鉄筋相互のあき：a （1）粗骨材径×1.25	（2）最小あき	（3）鉄筋径×1.5	最小鉄筋芯間隔 a＋D
D10	11	32㎜［粗骨材最大径25㎜の場合］	25㎜	15㎜	43㎜
D13	14			20㎜	46㎜
D16	18			24㎜	50㎜
D19	21			29㎜	53㎜
D22	25			33㎜	58㎜
D25	28			38㎜	66㎜
D29	33			44㎜	77㎜

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	構造細目共通図（1）					
縮尺	NS				製作年月日	
承認印 企業長	課長	係長	係		設計番号	
					図番	S-1
十勝中部広域水道企業団						

6　鉄筋の継手及び定着

6．1　継手及び定着

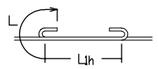
6．1．1　鉄筋の重ね継手

（1）鉄筋の重ね継手の長さは、6．1表による。
（2）径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
（3）主筋及び耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

6．1表　鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295	21	40d	30d
	24，27	35d	25d
	30	35d	25d
SD345	21	45d	30d
	24，27	40d	30d
	30	35d	25d

（注）1．L_1 、L_{1h}　：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2．フックありの場合のL　は、6．1図に示すようにフック部分Lを含まない。



6．1図

6．1．2　継手の特記事項

（1）　継手は、極力応力の小さい位置に設ける。

6．1．3　鉄筋の定着

（1）　鉄筋の定着の長さは、6．2表による。

6．2表　鉄筋の定着の長さ

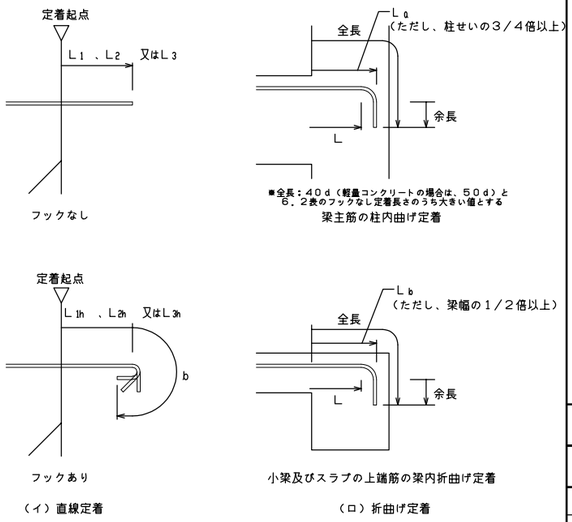
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	フックなし L1	フックなし L2	フックなし L3 小梁	フックなし L3 スラブ	フックあり L1h	フックあり L2h	フックあり L3h 小梁	フックあり L3h スラブ
SD295	21	40d	35d	20d	10d かつ150mm以上	30d	25d	10d	—
	24，27	35d	30d			25d	20d		
	30	35d	30d			25d	20d		
SD345	21	45d	35d			30d	25d		
	24，27	40d	35d			30d	25d		
	30	35d	30d			25d	20d		

（注）1．L_1 、L_{1h}　：2．以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ
2．L_2 、L_{2h}　：割裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3．L_3 ：小梁及びスラブの下端の直線定着の長さ（基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く）
なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
4．L_{3h}　：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5．フックあり定着の場合は、6．2図（イ）に示すようにフック部分bを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

6．1．4　定着の方法

定着の方法は6．2図による。
なお、(ロ)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、6．2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を6．2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを6．3表に示す長さをのみ込ませる。

（注）1．L_a 、L_b　は、6．3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記条件を満たすものとする。
・梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいの3／4倍以上
・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1／2倍以上
・スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1／2倍以上



6．2図　定着の方法

6．3表　鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	La	Lb
SD295	21	15d	15d
	24，27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	21	20d	20d
	24，27	20d	15d
	30	15d	15d

（注）1．L_a ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ちスラブを含む。）
2．L_b ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）

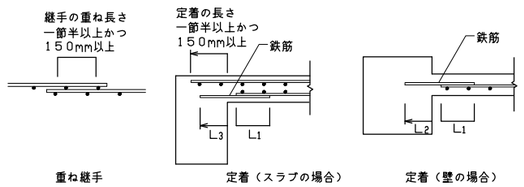
6．2　隣り合う継手の位置及び定着

（1）隣り合う継ぎ手の位置は、6．4表により、a寸法を守ること。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

6．4表　隣り合う継手の位置

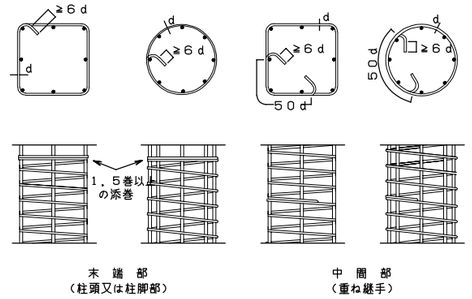
重ね継手	フック有りの場合	a＝0．5Lih	a≧0．5Lih
	フックなしの場合	a＝0．5L1	a≧0．5L1
圧接継手	—		a≧400mm

（2）溶接金網の継手及び定着は、6．3図による。



6．3図　溶接金網の継手及び定着要領

（3）スパイラル筋の継手及び定着



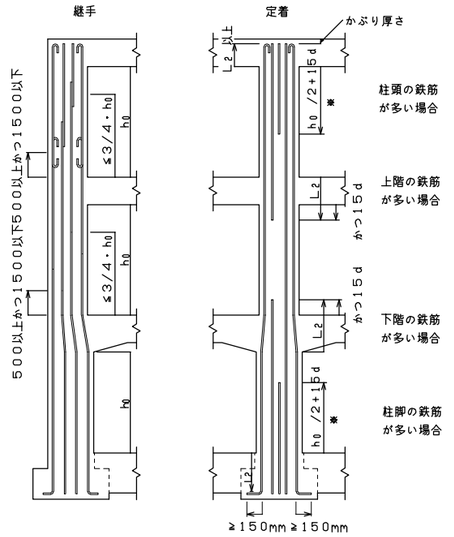
6．4図　スパイラル筋の継手及び定着要領

7　（欠番）

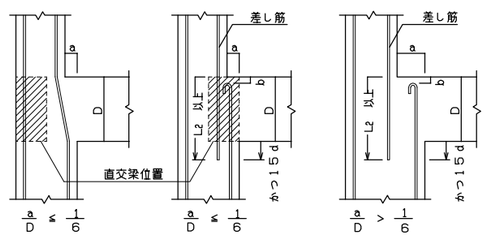
8　柱筋の継手及び定着

8．1　一般事項

（1）継手長さはL_1　とし、定着及び余長は、8．1図による。
（2）柱頭定着長さL_2　が確保出来ない場合は、図面による。
（3）上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、8．2図による。
（4）柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下かつ3／4h_0　（h_0　は柱の内法高さ）以下とする。
（5）※鉄筋のカットオフの位置及び長さは図面による。



8．1図　柱主筋の継手、定着及び余長



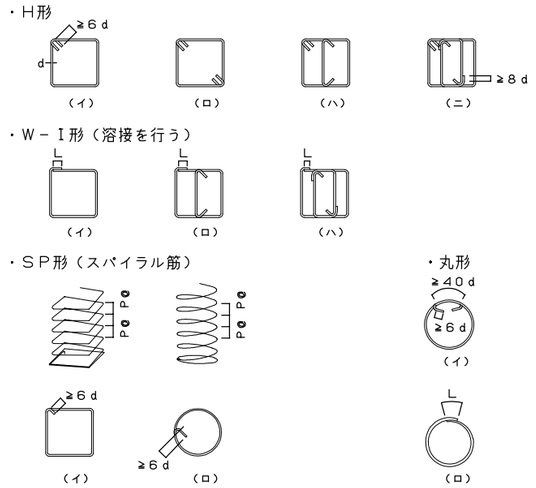
a：上下の柱幅の差（a≦150）
b：かぶり厚さ
D：梁のせい

8．2図　上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

9　帯筋

9．1　帯筋の形状

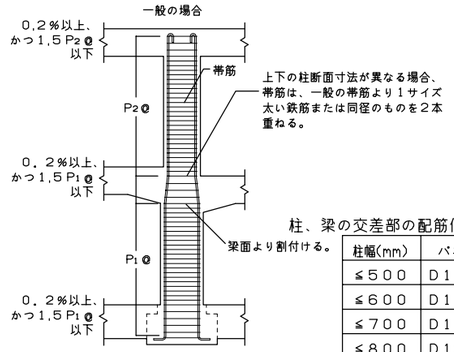
（1）帯筋の形状は、9．1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。
（a）H形を標準とする。
（b）H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W－I形とする。
（c）溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。
（d）SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1．5巻以上の添巻きを行う。



9．1図　帯筋組立の形

9．2　帯筋の割付け

（1）フック及び継手の位置は交互とする。
（2）帯筋の割付けは、9．2図による。ただし、図面にある場合はそれによる。
（3）柱、梁の交差部（パネルゾーン）の帯筋のせん断補強比は、0．2％以上を確保し、補強筋間隔　≦　1．5Pとする。



9．2図　帯筋の割付け

柱、梁の交差部の配筋例（0．2％確保）

柱幅(mm)	パネルゾーン
≦500	D10 @125
≦600	D10 @100
≦700	D10 @100
≦800	D13 @150
≦900	D13 @125
≦1000	D13 @125
≦1100	D13 @100
≦1200	D13 @100

※1，5P1 、1，5P2 のピッチは150mm以下とする。

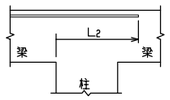
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	構造細目共通図（2）						
縮尺	NS					製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係		設計書号	
						図番	S-2
十勝中部広域水道企業団							

１０　大梁筋の継手及び定着

１０．１　大梁（基礎梁以外の大梁に限る）主筋の継手、定着及び余長

大梁主筋の継手及び定着の一般事項

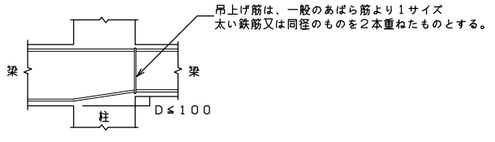
ａ．梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、ｂ．により柱内に定着することができる。
ただし、やむ得ず梁内に定着する場合は、１０．１図による。



１０．１図　梁主筋の梁内定着

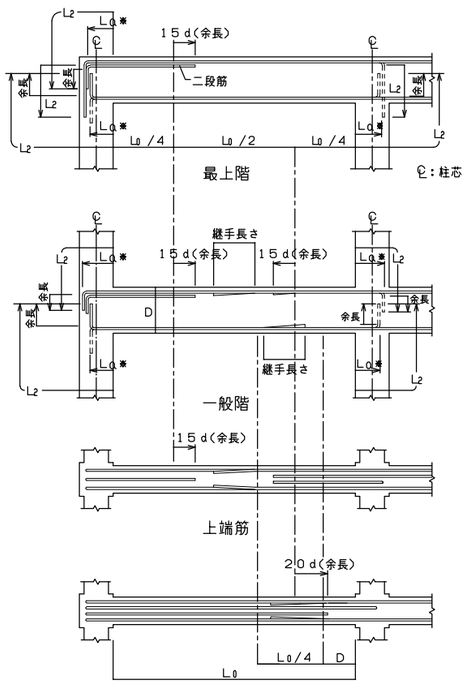
ｂ．梁主筋を、柱内に折曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は、６．１．４による。
上端筋：曲げ下ろす。
下端筋：原則として曲げ上げる。

ｃ．段違い梁は１０．２図による。



１０．２図　段違い梁

１０．２　ハンチのない場合

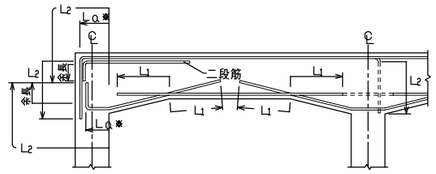


（注）１．継手中心位置は次による。
上端筋：中央Ｌ０／２以内
下端筋：柱面より梁せい（Ｄ）以上離し、Ｌ０／４を加えた範囲以内
２．４．異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。
３．　　印は、継手及び余長を示す。
４．破線は、柱内定着の場合を示す。
５．梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。
※　Ｌαの数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。

１０．３図　大梁の重ね継手、定着及び余長

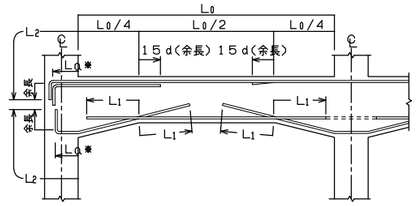
１０．３　ハンチのある場合

（１）最上階の場合



１０．４図　ハンチのある大梁の定着及び余長（最上階）

（２）一般階の場合

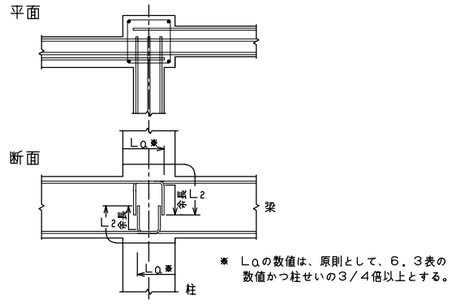


１０．５図　ハンチのある大梁の定着及び余長（一般階）

（注）１．４．異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。
２．　　印は、継手及び余長を示す。
３．梁内定着の端部下端筋が接近するときは、　　のように引き通すことができる。
４．破線は、梁内定着の場合を示す。
５．梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。
※　Ｌαの数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。

１０．４　水平段差のある場合

水平段差のある場合

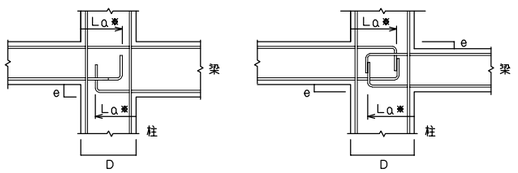


※　Ｌαの数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。

１０．６図　大梁の定着及び余長（水平段差のある場合）

１０．５　鉛直段差（ｅ）のある場合

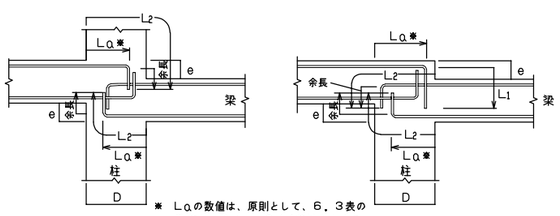
（１）ｅ／Ｄ≦１／６の場合



定着の長さは、１０．３図に準ずる
※　Ｌαの数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。

１０．７図　鉛直段差梁（その１）

（２）ｅ／Ｄ＞１／６の場合



１０．８図　鉛直段差梁（その２）

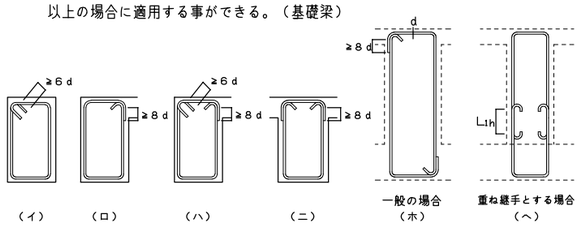
１１　梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

１１．１　一般事項

（１）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、１５０mm程度とする。
（２）壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、Ｌ　とする。
（３）土圧、水圧を受ける梁は、図面による。
（４）幅止め筋及び受け用幅止め筋は、Ｄ１０－１０００mmピッチ程度とする。

１１．２　あばら筋組立の形及びフックの位置

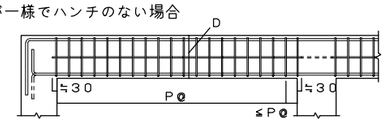
（１）形は、１１．１図（イ）を標準とする。
ただし、（イ）によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。
ａ．床版が片側に付く場合は、（ロ）又は（ハ）
ｂ．床版が両側に付く場合は、（ロ）～（ニ）
（２）フックの位置
ａ．（イ）の場合は交互とする。
ｂ．（ロ）の場合　床版が片側に付く場合は床版の付く側。床板が両側に付く場合は交互。
ｃ．（ハ）の場合は床版の付く側を９０°折曲げ、８ｄ確保する。
ｄ．（ホ）（ヘ）の場合は梁の上下にスラブが付く場合でかつ、梁せいが１．５ｍ以上の場合に適用する事ができる。（基礎梁）



１１．１図　あばら筋組立の形及びフックの位置

１１．３　あばら筋の割付け

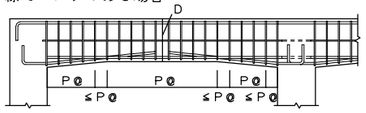
（１）間隔が一様でハンチのない場合



（注）１．あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
２．図中のＰ@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

１１．２図　あばら筋の割付け（その１）

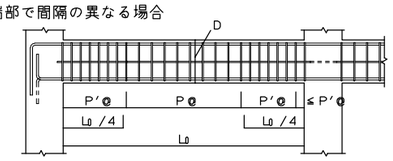
（２）間隔が一様でハンチのある場合



（注）１．あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割付ける。
２．図中のＰ@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

１１．３図　あばら筋の割付け（その２）

（３）梁の端部で間隔の異なる場合

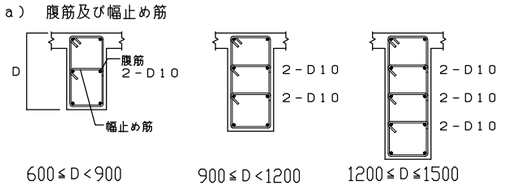


（注）１．あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
２．図中のＰ@、Ｐ'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

１１．４図　あばら筋の割付け（その３）

１１．４　腹筋及び幅止め筋

（１）一般の梁
ａ）　腹筋及び幅止め筋



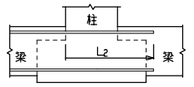
１１．５図　腹筋及び幅止め筋

（２）特殊な梁
腹筋及び幅止め筋は、図面による。

１２　基礎梁及び底版の継手及び定着

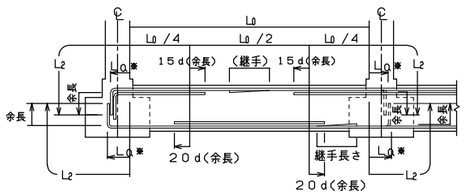
１２．１　基礎梁主筋の継手、定着及び余長

（１）一般事項
（ａ）梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、１２．１図による。
（ｂ）梁筋を柱内に定着する場合は１０．１（１）ｂによる。

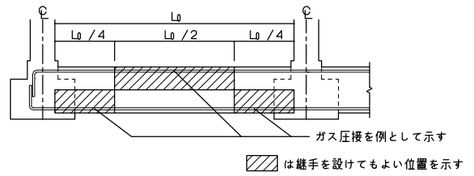


１２．１図　梁筋の基礎梁内への定着

（２）独立基礎で基礎梁（スラブなどの上載荷重を受ける場合）の主筋の継手、定着及び余長

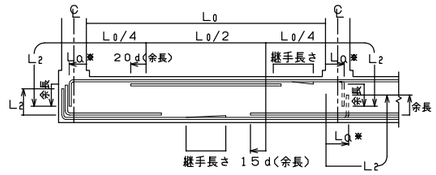


（注）１．図示のない事項は、１０．１による。
２．　　印は、継手及び余長位置を示す。
３．破線は、柱内定着の場合を示す。
※　Ｌαの数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。
４．基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。

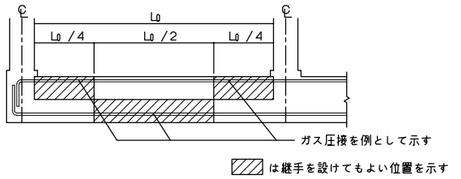


１２．２図　主筋の継手、定着及び余長（その１）

（３）連続基礎及びべた基礎の基礎梁（基礎梁の下方より地反力（杭反力）を受ける場合）の主筋の継手、定着及び余長



（注）１．図示のない事項は、１０．１による。
２．　　印は、継手及び余長位置を示す。
３．破線は、柱内定着の場合を示す。
※　Ｌαの数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。
４．基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。

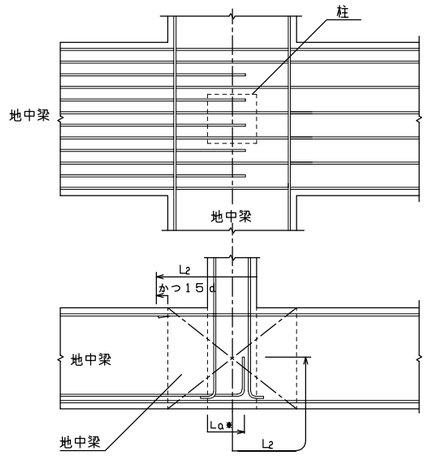


１２．３図　主筋の継手、定着及び余長（その２）

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	構造細目共通図（３）					
縮尺	NS				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-3
十勝中部広域水道企業団						

（４）柱幅＜梁幅の場合

（ａ）交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。



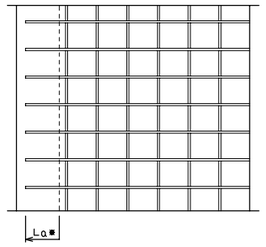
※ Laの数値は、原則として、６．３表の数値かつ柱せいの３／４倍以上とする。

１２．４図　主筋の継手、定着及び余長（その３）

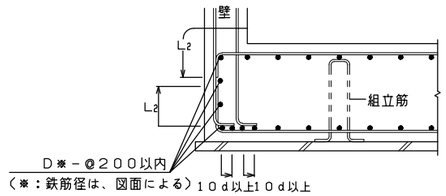
１２．４　梁形を設けない場合の基礎底版（オイルタンク等）

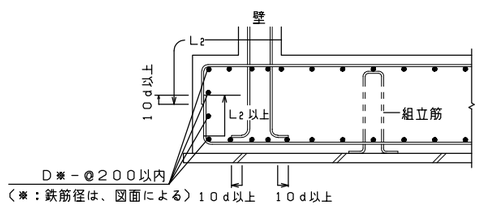
（１）定着の取り方は、壁の面からとする。

（２）途中で配筋が変わる場合の定着は、１２．２図のように
基礎底版筋を梁筋と読みかえる。



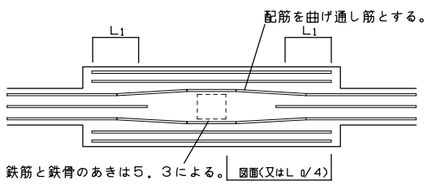
※ Laの数値は、原則として、柱せいの３／４倍以上とする。





１２．５図　主筋の継手、定着及び余長（その４）

（３）鉄骨造のＢＯＸ柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



１２．６図　主筋の継手、定着及び余長（その５）

１３　小梁及び片持梁の配筋要領

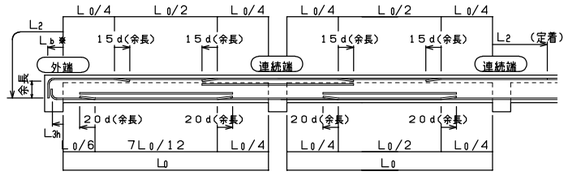
１３．１　一般事項

（１）図面にない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。

（２）　═══　　印は、継手及び余長を示す。

１３．２　小　梁

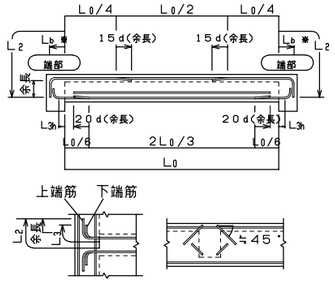
（１）連続小梁の場合



※　Ｌｂ　の数値は、原則として、６．３表の数値かつ梁幅の１／２倍以上とする。

１３．１図　小梁主筋の継手、定着及び余長（その１）

（２）単独小梁の場合



１３．２図　小梁主筋の継手、定着及び余長（その２）

（注）１．　═══　　印は、継手及び余長を示す。

２．梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。

３．図示のない事項は、１０．１及び１２．１に準ずる。

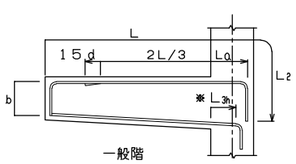
※　Ｌｂ　の数値は、原則として、６．３表の数値かつ梁幅の１／２倍以上とする。

１３．３　片持梁筋の定着

（１）先端に小梁のない場合

ａ．先端の折曲げの長さｂは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。

ｂ．梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、２本以上を柱に定着する。



※　Lan　をフックなしで定着させる場合は２５ｄとする。

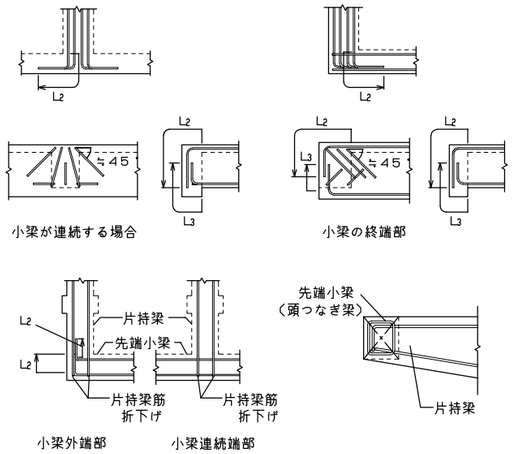
１３．３図　片持梁主筋の定着及び余長（先端に小梁のない場合）

（２）先端に小梁がある場合

ａ．上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。

ｂ．先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。

ｃ．先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。



１３．４図　片持梁主筋の定着

１４　壁の配筋要領

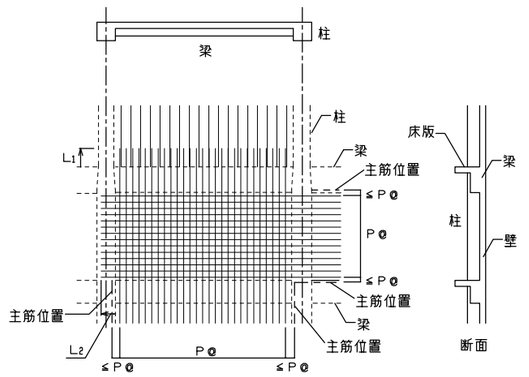
１４．１　一般事項

（１）一般壁配筋の重ね継手の長さはL1　とし、耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは４０ｄとする。ただし、SD390，SD490を使用する場合は特記による。
また、定着の長さはL　とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。

（２）幅止め筋は、縦、横ともＤ１０－@１０００を標準とする。

（３）打増し部分に、壁及びスラブ等が取りつく場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。

（４）土圧及び水圧などを受ける壁の配筋は、図面による。



（注）図中のＰ@は、図面の壁筋の間隔を示す

１４．１図　壁の配筋

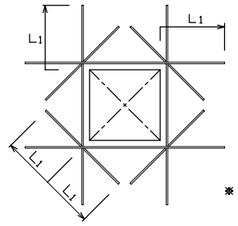
１４．２　耐震壁の開口

（１）耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。

（２）やむを得ず開口をあける場合は、H19国土交通省告示593号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

１４．３　壁開口部の補強

（１）壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、１４．３図を標準とする。



※：鉄筋径及び本数は、図面による

１４．３図　壁開口部の補強の定着長さ

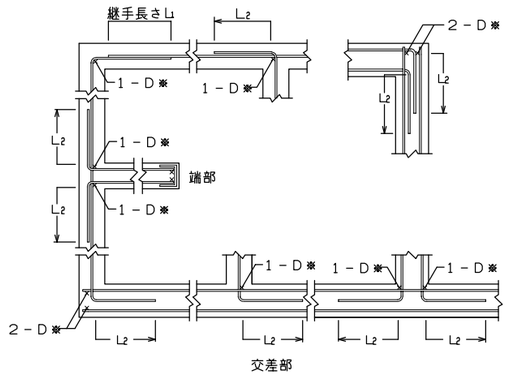
（２）開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

１４．４　壁の交差部及び端部

壁の交差部及び端部の交差部は、１４．４図による。

ａ．交差部補強筋Ｄ※はＤ１３以上、かつ壁主筋と同径とする。

ｂ．壁の端部にＵ型鉄筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び同間隔とする。



１４．４図　壁の交差部及び端部の配筋

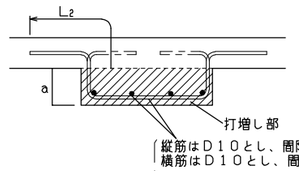
※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針・同解説」（日本建築学会）に基づき図面による。

１４．５　壁の打増し要領

コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、１４．５図による。

打増し厚さのａが５０mm以上、２００mm以下に適用する。

２００mmを越える場合は、特記による。



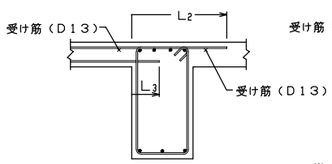
１４．５図　壁の打増し補強配筋

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	構造細目共通図（４）					
縮尺	NS				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-4
十勝中部広域水道企業団						

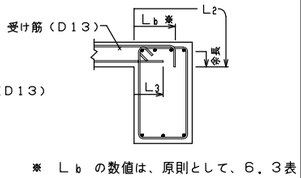
１５　床の配筋要領

１５．１　一般事項

（１）鉄筋の継手長さは、Ｌ１ とする。
（２）定着長さ及び受け筋は、１５．１図による。ただし、引き通すことができない場合は、１５．２図、１５．３図により梁内に定着する。
（３）基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。



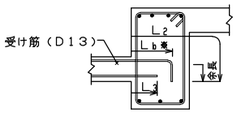
１５．１図

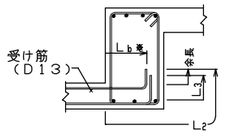


※　Ｌｂ の数値は、原則として、６．３表の数値かつ梁幅の１／２倍以上とする。

１５．２図

スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その１）スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その２）



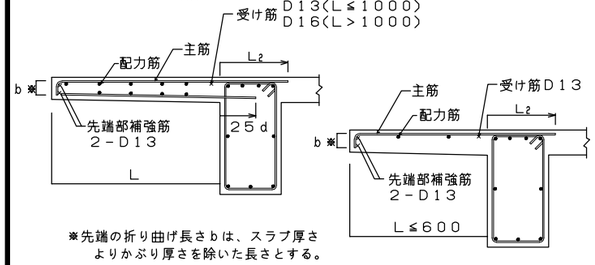


※　Ｌｂ の数値は、原則として、６．３表の数値かつ梁幅の１／２倍以上とする。

１５．３図　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その３）

１５．２　片持スラブ

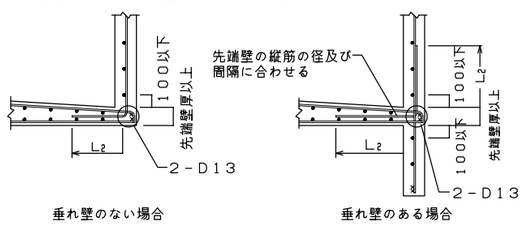
（１）片持スラブの配筋



※先端の折り曲げ長さｂは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

１５．４図　片持スラブの配筋

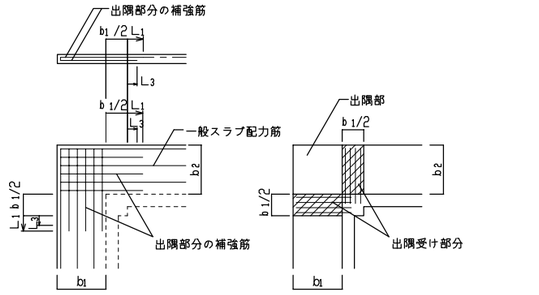
（２）先端に小梁がなく壁が取り付く場合



１５．５図　先端に壁が付く場合の配筋

１５．３　片持ちスラブ出隅部の補強配筋

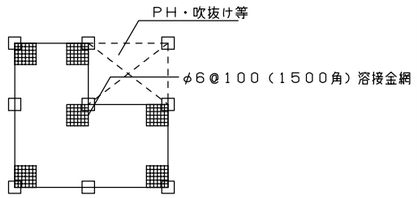
（１）出隅部の補強筋は図面により、配筋方法は、１５．６図による。
（２）出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面による。



１５．６図　片持スラブ出隅部の補強配筋

１５．４　地上部最上階の屋根床版

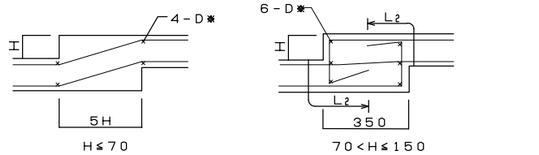
（１）出隅及び入隅部分には、１５．７図により、補強筋（溶接金網）を上端筋の下側に配筋する。
（２）陸屋根、勾配屋根共通とする。



１５．７図　出隅及び入隅部分の補強配筋

１５．５　段差床版の補強

同一床版に段差がある場合、１５．８図の補強を行う。ただし、Ｈ＞１５０の場合は、小梁を設ける事を原則とする。

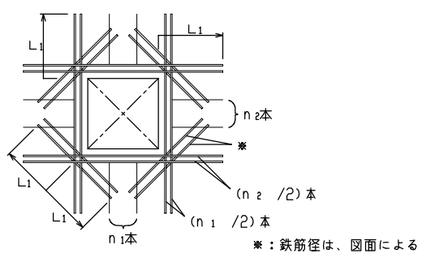


Ｄ※：鉄筋径は、図面による。

１５．８図　段差のある床版の補強配筋

１５．６　床版開口部の補強

（１）開口の最大径≦７００の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋２本を上下筋の内側に配筋する。（１５．９図）
開口の最大径＞７００の場合は図面による。



※：鉄筋径は、図面による

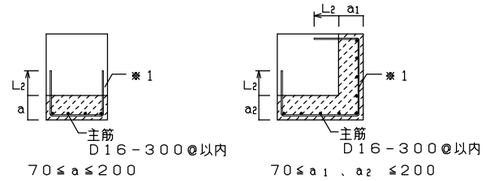
１５．９図　床版開口部の補強配筋

（２）床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる。

１６　柱及び梁の増し打ち要領

１６．１　柱

（１）増し打ちコンクリートの補強は、１６．１図による。
ただし、ａ＜７０㎜の場合、補強は行わない。２００㎜＜ａの場合は、図面による。



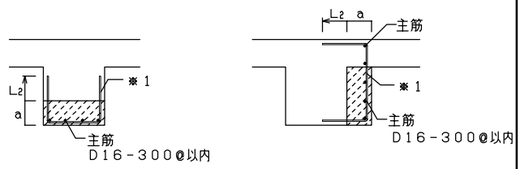
※１．帯筋と同径・同材質・同ピッチとする。

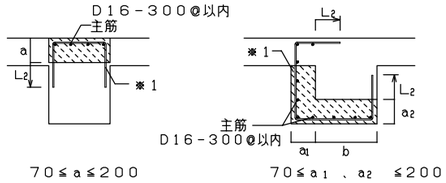
１６．１図　柱の増し打ち補強配筋

（２）増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。
（３）増し打ち部分の帯筋の定着長さは、Ｌ２ 以上とする。
（４）増し打ち部分主筋の定着，重ね長さは、柱の主筋による。

１６．２　梁

（１）増し打ちコンクリートの補強は、１６．２図による。
ａ＜７０㎜の場合、補強は行わない。２００㎜＜ａの場合は、図面による。

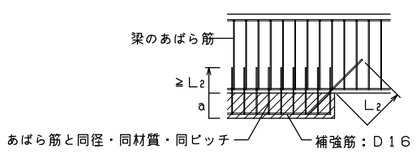




※１．あばら筋と同径・同材質・同ピッチとする。

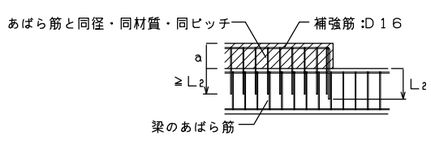
１６．２図　梁の増し打ち補強配筋

（２）増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。
（３）増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、Ｌ２ 以上とする。
（４）増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。
（５）梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合



１６．３図　梁の上下の増し打ち配筋補強（途中で終わる場合）

（６）梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合

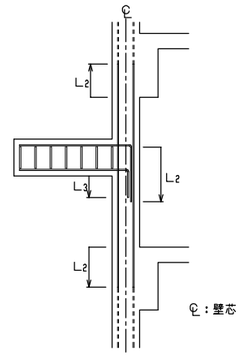


１６．４図　梁の側面の増し打ち補強配筋（途中で終わる場合）

１８　階段の配筋要領

１８．１　階段の配筋要領

（１）壁配筋は、図面による。
（２）階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ下ろす。



１８．１図　片持スラブ形階段配筋の定着

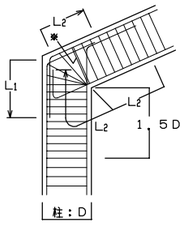
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	構造細目共通図（５）						
縮尺	NS					製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係		設計番号	
						図番	S-5
十勝中部広域水道企業団							

１９　勾配屋根の取り合い

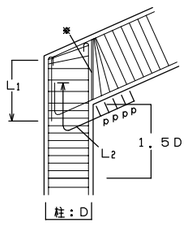
１９．１　斜め柱・斜め梁の取り合い

（１）※印の鉄筋は、同径以上とし、かつダブル巻きとする。
（２）１．５Ｄの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、またはダブル巻きとし@１００以下とする。
（３）柱の取合い部における斜め梁のせん断補強筋中心間隔は、当該梁部材のせん断補強筋中心間隔ｐ以下とする。

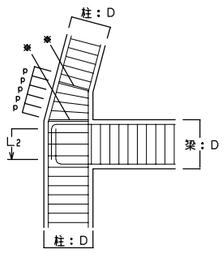
ａ）　柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一



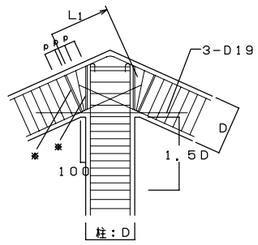
ｂ）　柱幅と斜材幅が異なる



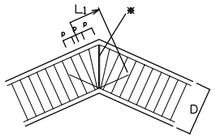
ｃ）　柱脚で斜材となる



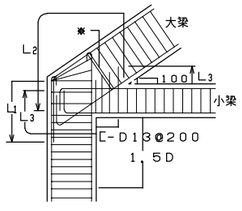
ｄ）　柱頭で斜材となる上端筋は、連続筋とする。



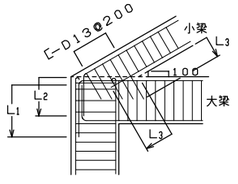
ｅ）　梁が斜材となる上端筋は、連続筋とする。



ｆ）　斜め大梁に小梁が接する場合
柱筋はａ），ｂ）に倣う。



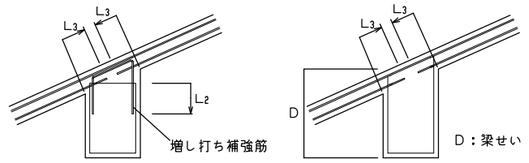
ｇ）　大梁に斜め小梁が接する場合



１９．１図　斜め柱・斜め梁の取り合い配筋

１９．２　梁と床版の取り合い

増し打ち補強要領は、１６．２による。

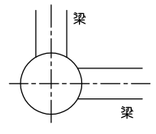


Ｔｙｐｅ Ａ　　Ｔｙｐｅ Ｂ

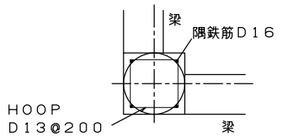
１９．２図　梁と床版の取り合い配筋

１９．３　円柱の取り合い

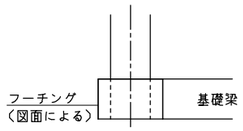
円柱と梁の取り合い



１）　柱頭部で柱芯に梁が取り付く場合



２）　柱頭部で柱外面に梁が取り付く場合



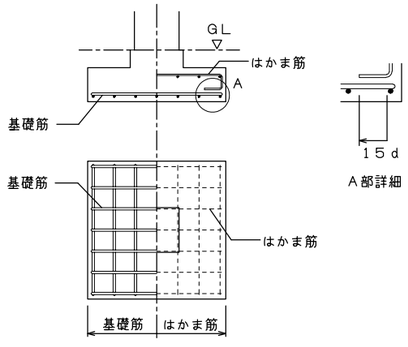
３）　柱脚部の円柱と基礎との取合い

１９．３図　円柱の取り合い配筋

２０　基礎及び基礎梁の配筋

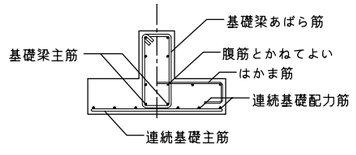
２０．１　直接基礎の配筋

（１）独立基礎



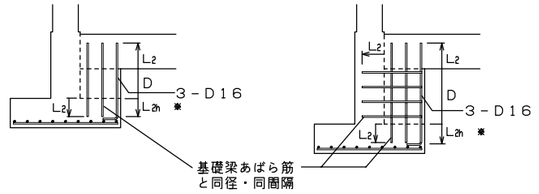
２０．１図　独立基礎の配筋

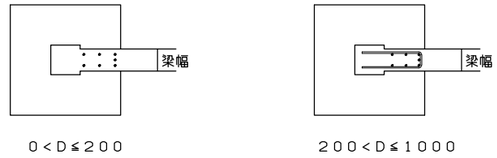
（２）連続基礎



２０．２図　連続基礎の配筋

２０．２　基礎接合部の補強配筋





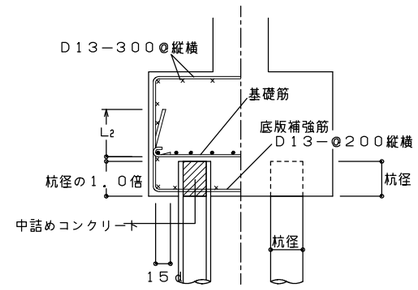
０＜Ｄ≦２００　　２００＜Ｄ≦１０００

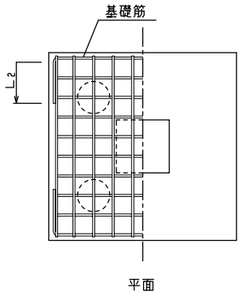
※Ｌａｈ を確保できない場合は、標仕（５．３．４（ｅ）（２））によることができる。

２１　杭基礎の補強

２１．１　杭基礎の配筋

（１）中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。
（２）既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。





平面

２１．１図　杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法

２１．２　基礎接合部の補強

基礎接合部の補強は、２０．２による。

２２　コンクリート及び型枠仕様

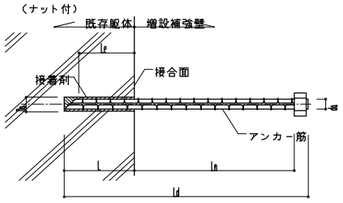
骨　材	砕石、砕砂、砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※Ａ・Ｂ　（ＪＩＳ　Ａ５３０８　（レディーミクストコンクリート）「付属書１（規定）レディーミクストコンクリート用骨材」による）
混和材料	混和剤の種類は、ＪＩＳ　Ａ６２０４（コンクリート用化学混和剤）によるＡＥ剤、ＡＥ減水剤又は高性能ＡＥ減水剤とする。
水	ＪＩＳ　Ａ５３０８　（レディーミクストコンクリート）の「付属書Ｃ（規定）レディーミクストコンクリートの練混ぜに用いる水」による）
コンクリート試験	公共建設工事標準仕様書（建築工事編）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）（令和４年度版）
型枠の存置期間及び取り外し	公共建設工事標準仕様書（建築工事編）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）（令和４年度版）

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	構造細目共通図（６）					
縮尺	NS				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-6
十勝中部広域水道企業団						

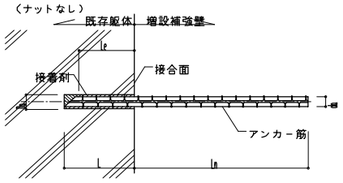
あと施工アンカー

(1) 接着系アンカー

(ナット付)



(ナットなし)



L ： コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ
Le ： アンカーの有効埋め込み長さ
Ld ： アンカー筋の全長
Ln ： 有効定着長さ
Da ： 既存コンクリート躯体への穿孔径
da ： アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名

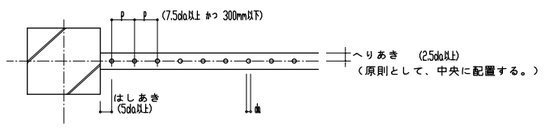
アンカー関係共通事項	
接着系アンカーの有効埋め込み長さ	一般部 ： Le=7da+ふかし寸法※ 開口補強筋： Le=10da+ふかし寸法※ RCブレース部 ： Le=12da+ふかし寸法※ ※ ふかし寸法は補強詳細図による
接着系アンカーの有効定着長さ	一般部 ： Ln=20da (ナット付) Ln=30da (ナットなし) 開口補強筋 ： Ln≧ 45da (=補強筋との重ね長さ+クリアランス) RCブレース部 ： Ln≧ 45da
アンカー筋形状	ナット付き異形棒鋼(開口補強筋用はナットなし)とし、ナットから ねじ山が2山以上でること。 また、先端形状は45°カットとする。

※L ≧40d

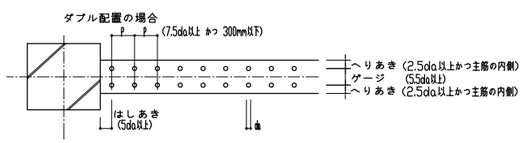
施工確認試験荷重	
アンカー筋呼び名 (da)	荷 重 (kN)
D13	25 kN
D16	39 kN
D19	66 kN
D22	89 kN
D25	116 kN

(2) あと施工アンカーの位置と間隔

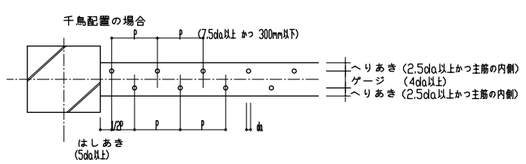
シングル配置の場合



ダブル配置の場合



千鳥配置の場合



割裂補強筋配筋要領

1. 割裂補強筋は、改修壁の柱・梁に接する面全てに配置する。
2. 割裂補強筋は、6φスパイラル型とし、ピッチ、スパイラル径は下記による。
3. 継手は、2巻以上の重ねとする。

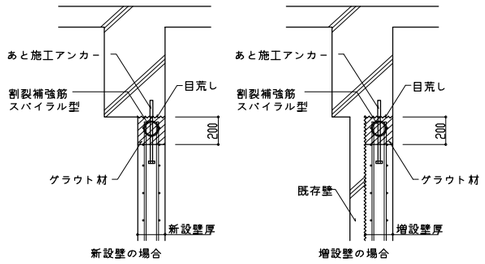
壁 厚	スパイラル径	割裂補強筋	備 考
150	75φ	6φ@50	
180	100φ	6φ@50	
200	100φ	6φ@50	
250	150φ	6φ@50	
300	150φ	6φ@50	
350	200φ	9φ@50	
400	200φ	9φ@50	

新設・増設壁上部グラウト要領

1. 特記なき新設・増設壁上部は、グラウトを行う。

グラウトモルタルの性質

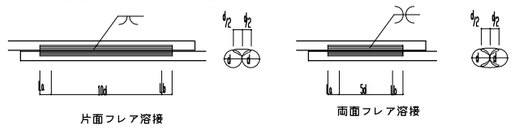
科目	コンシステンシー		圧縮強度	乾燥収縮
	スランプ(cm)	Jロート(秒)	(N/mm2)	(10^{-4})
品質	23 ～ 27	8 ± 2	30	0



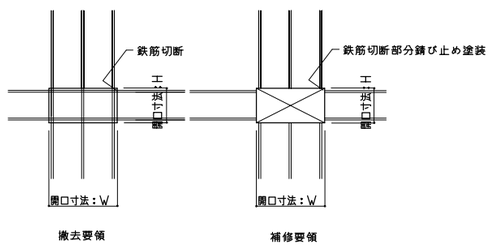
鉄筋フレア溶接要領

1．特記なき鉄筋のフレア溶接は、下図の片面または両面とする。

2．鉄筋のフレア溶接の溶接長さは、ビードの始点(La)及び、クレーター(Lb)を除いた部分の長さとする。但し、La 及び Lbは 2d以上とする。



○小開口部 ・適用は特記による。



壁端部筋・開口部端部筋

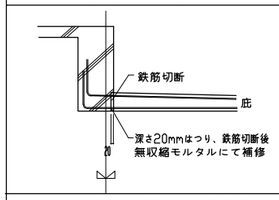
	コ型補強筋が外側の場合	コ型補強筋が内側の場合	壁筋にフックを設けた場合
断面	L2	L2	L

（注）1．コ型補強筋は壁筋と同径、同ピッチとする。
2．L寸法は構造図による。構造図に記載のない場合は15dかつ150mm以上とする。

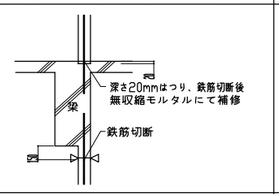
既存壁等撤去要領図 S=1/20

注記）特記なき壁等の撤去は下図による。
注記）◁ 印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30とする。
注記）鉄筋切断部には、錆止め塗装を行う。
注記）鉄筋はつり出しは、特記による。

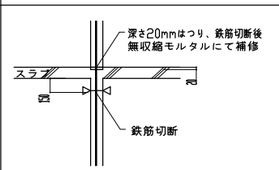
撤去庇ー梁 取合部



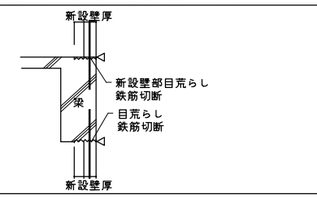
撤去壁ー梁 取合部（撤去のみの場合）



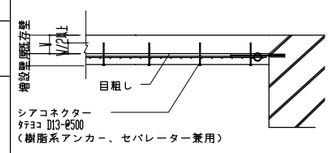
撤去壁ースラブ 取合部



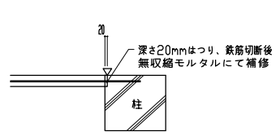
撤去壁ー梁 取合部（壁を新設する場合）



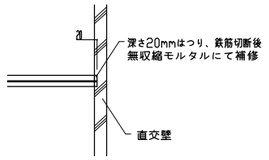
既存壁と増打ち壁接続部



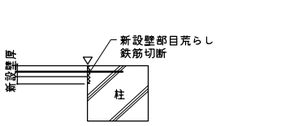
撤去壁ー柱 取合部（撤去のみの場合）



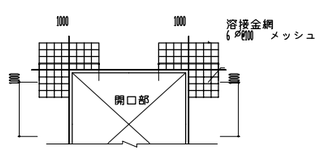
撤去壁ー直交壁 取合部



撤去壁ー柱 取合部（壁を新設する場合）

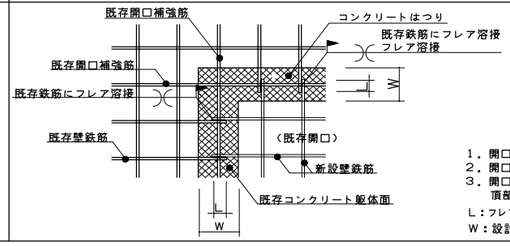


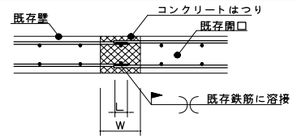
壁開口部の補強



（注）斜め補強筋の代わりに溶接金網を用いる。
2 枚を主筋の外側の被り部分に入れる。

既存開口閉塞要領

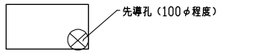




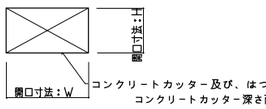
1．開口廻りの既存鉄筋をはつり出し新設壁筋を溶接する。
2．開口補強筋の取付けは詳細図による。
3．開口上部にたれ壁がなく既存壁に接着系アンカーを打つ場合、頂部は無収縮モルタル充填とし、補強壁新設に準じる物とする。
L：フレア溶接（片側10d以上、両側5d以上）
W：設計により決定。

新設壁開口配筋要領図

1.床・壁にコア抜きにより先導孔を開ける。

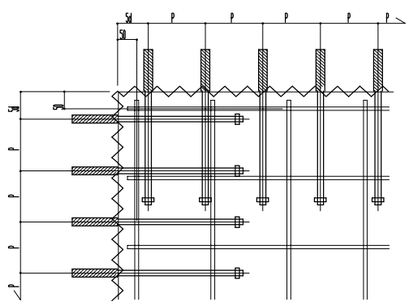


2.各開口寸法に合わせ、コンクリートカッター及び、はつり出しにより開口部を開ける。

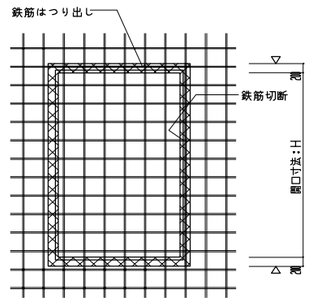


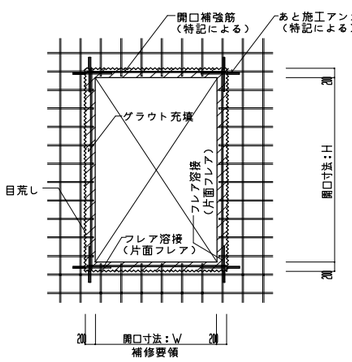
3.小開口部は切断面の補修（錆び止め塗装）を施す。
大開口部はあと施工アンカーにより、開口補強筋を設ける。
開口補強筋を取り付けた後、内型枠に合わせグラウト材を充填する。

アンカー筋ピッチ標準



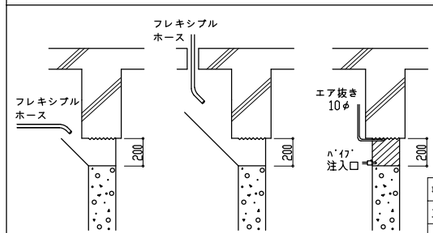
○大開口部 ・適用は特記による。





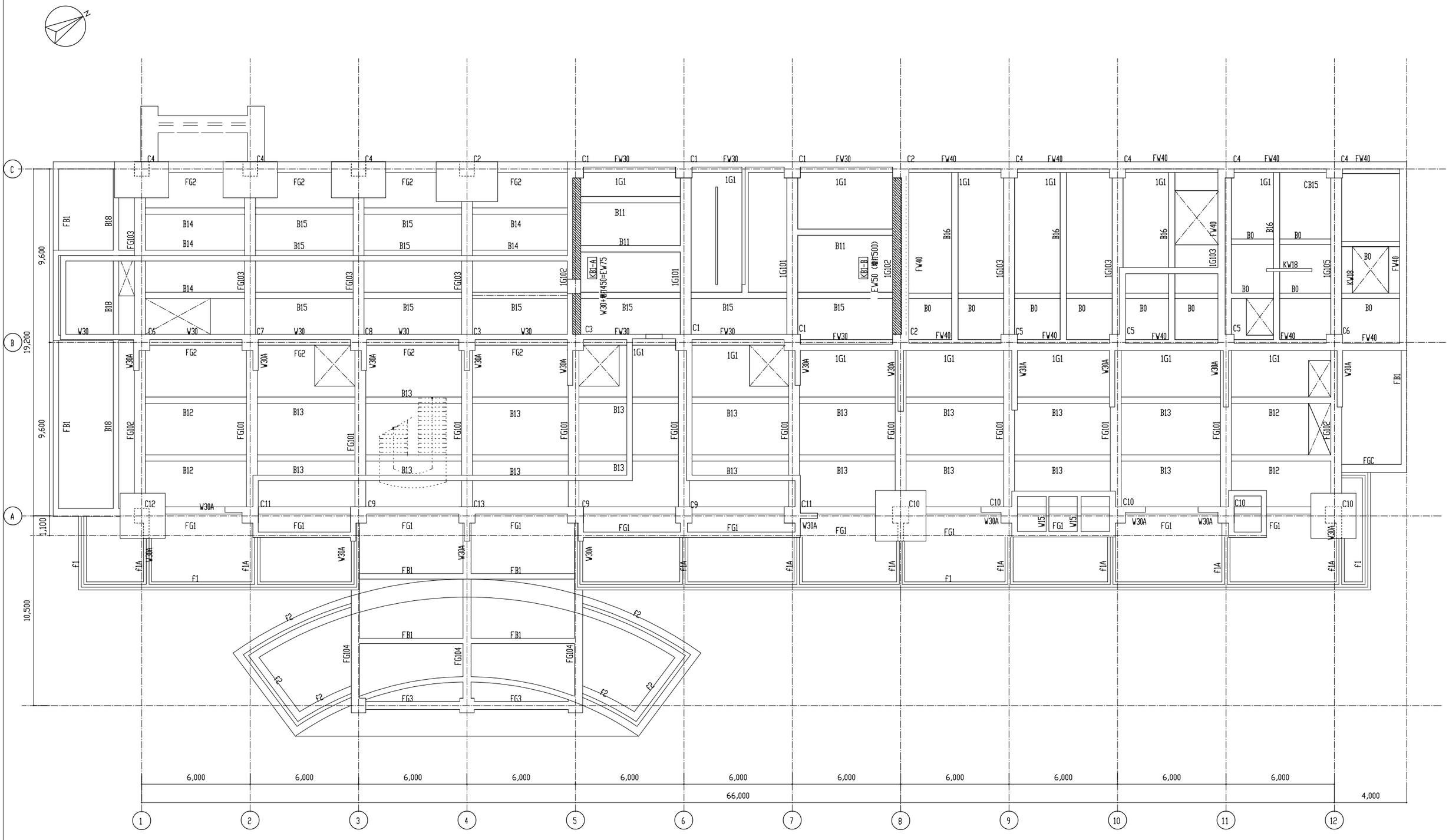
注記）◁ 印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30

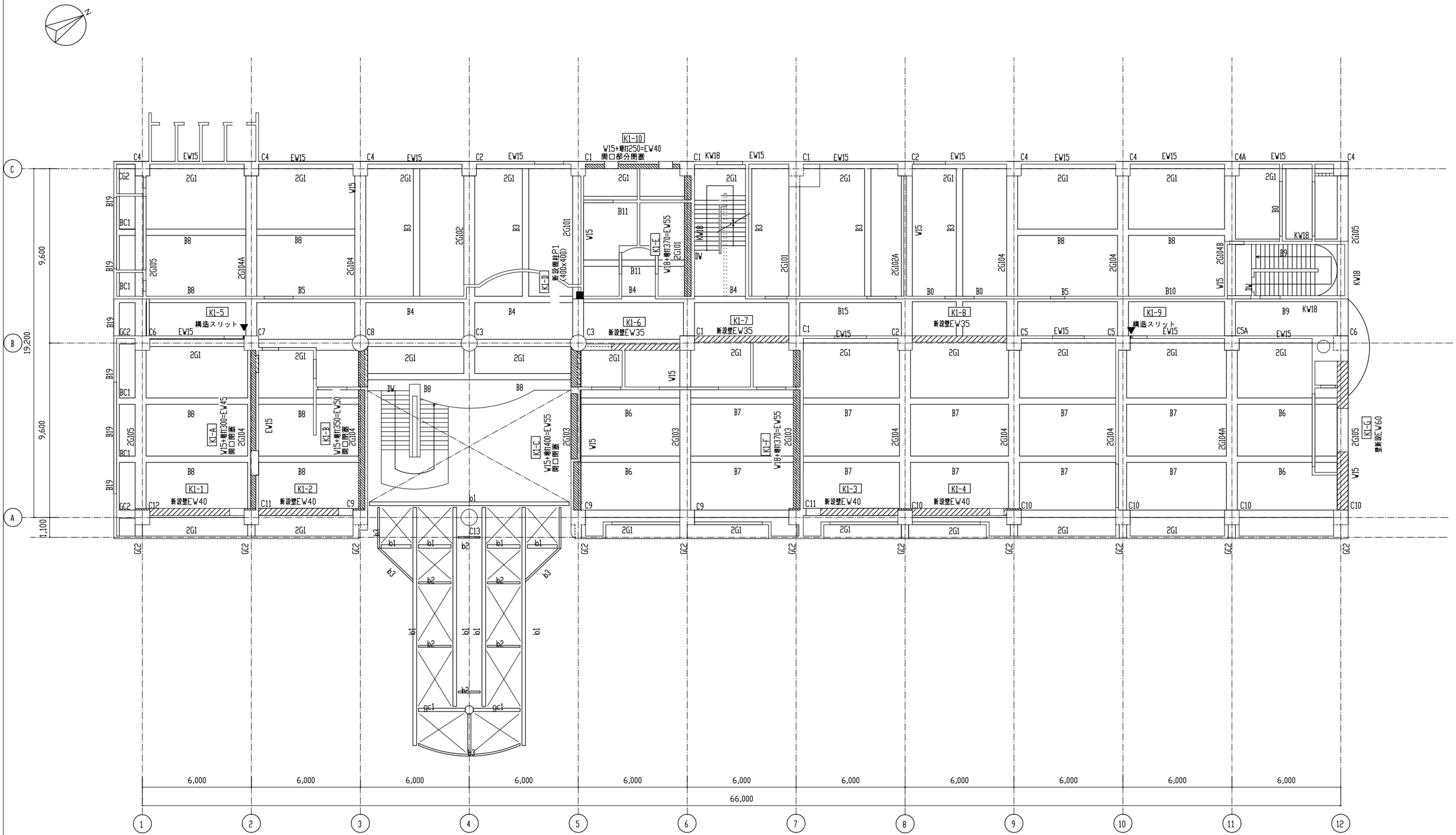
コンクリート打設方法



コンクリート流込み工法の例　　上部グラウト材圧入

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	補強標準図						
縮尺	NS					製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係		設計番号	
						図番	S-7
十勝中部広域水道企業団							


C
B
A
9,600
9,600
19,200
1,100
10,500
C4 C4 C4 C2 C1 FW30 C1 FW30 C1 FW30 C2 FW40 C4 FW40 C4 FW40 C4 FW40 C4 FW40
FG2 FG2 FG2 FG2
1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1 1G1
CB15
B11 B11 B11
KB1-A W30+補H450=FW75
KB1-B FW50 (補H500)
1G101 1G101 1G102 1G102 1G103 1G103 1G103 1G103 1G105
FW40 FW40 FW40 FW40 FW40
B16 B16 B16 B16 B16
KW18 KW18
B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0 B0
FB1 B18 FG103 B14 B15 B15 B14 B14 B15 B15 B14 B18 W30 C6 W30 C7 W30 C8 W30 C3 W30 C3 FW30 C1 FW30 C1 FW30 C2 FW40 C5 FW40 C5 FW40 C5 FW40 C6 FW40
W30A W30A W30A



1階壁2階床伏図　1/100

特記なき限り下記の通りとする。

壁符号は　W15　とする。

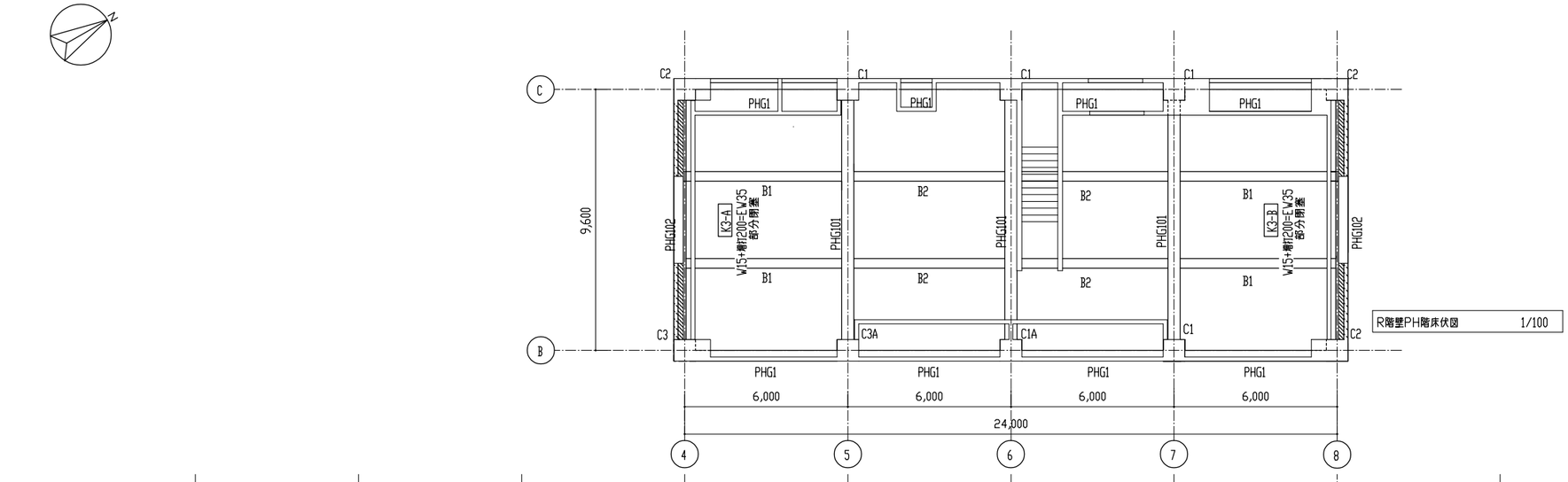
は新設壁を示す。

は壁増打ち部分を示す。

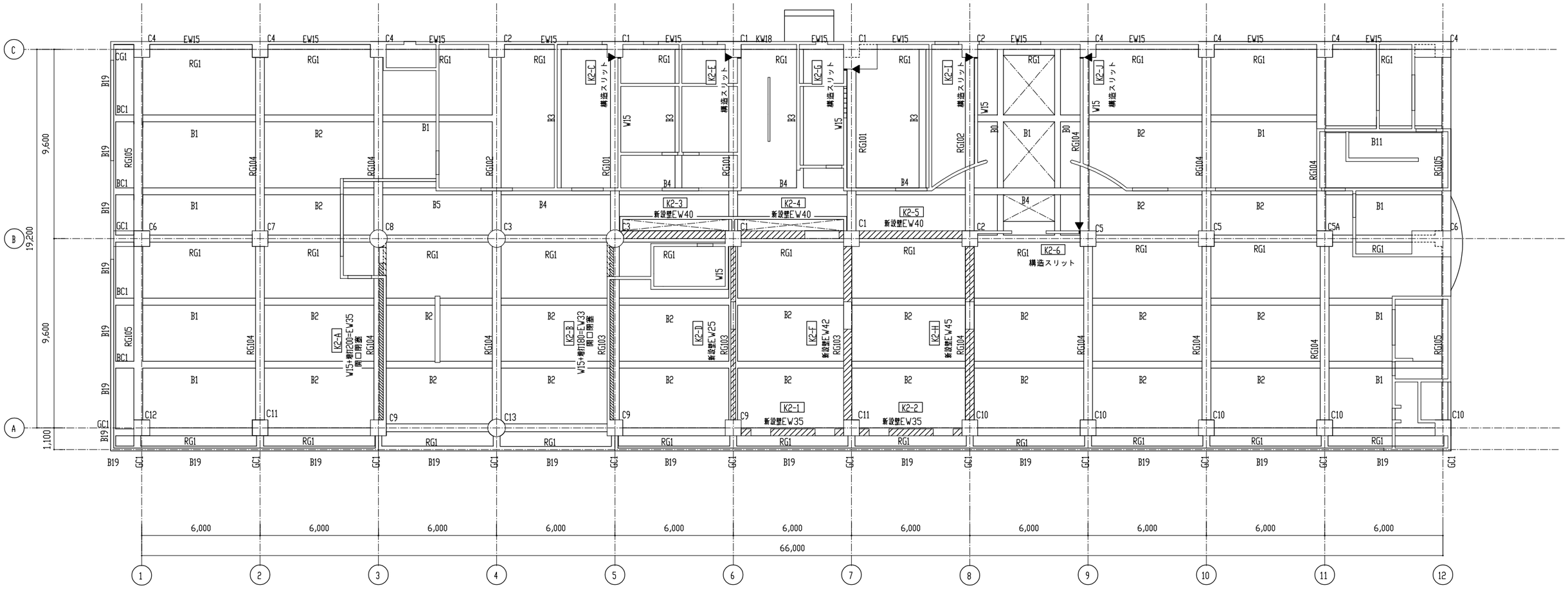
は開口閉塞部分を示す。

は既存の増打ちを示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	1階　伏図						
縮尺	1:100				製作年月日		
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号		
					図番	S-9	
十勝中部広域水道企業団							



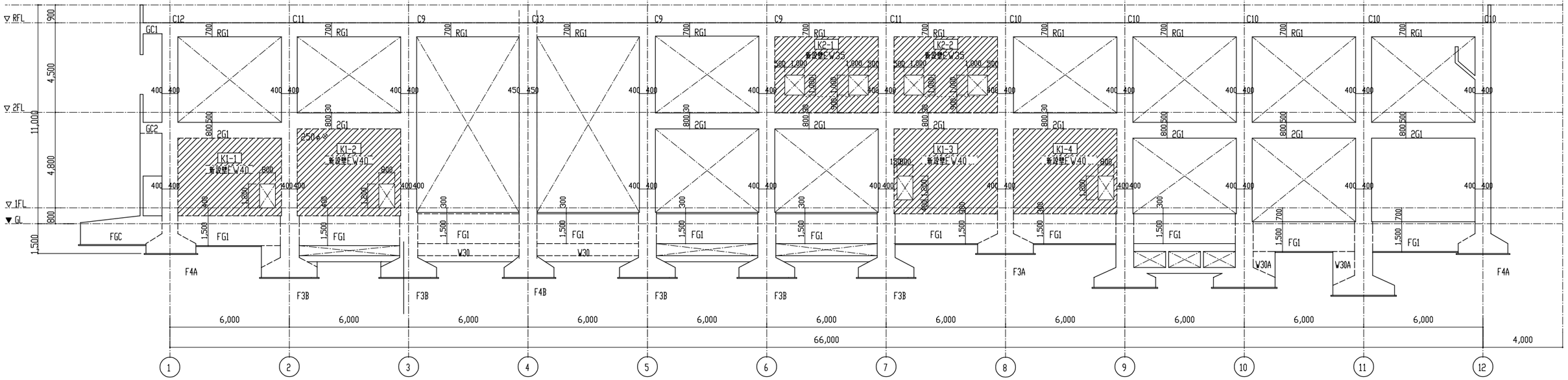
R階壁PH階床伏図　1/100



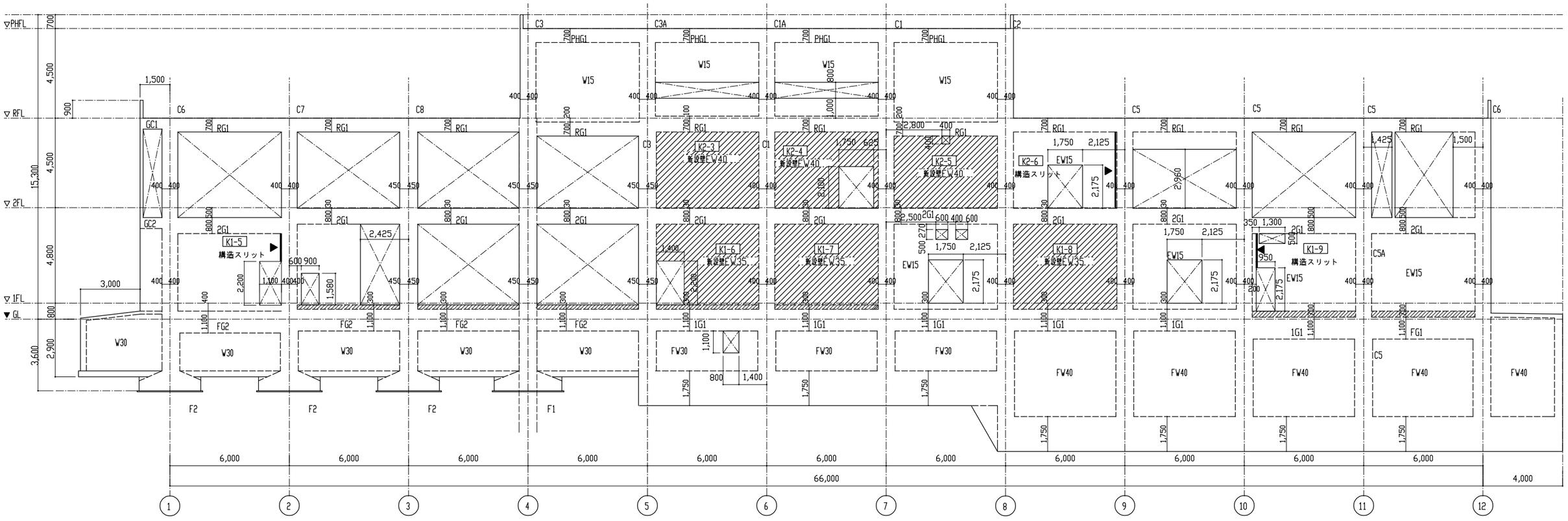
2階、PH階床伏図　1/100

特記なき限り下記の通りとする。
壁符号は　W15　とする。
は新設壁を示す。
は壁増打ち部分を示す。
は開口閉塞部分を示す。
は既存の増打ちを示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	2階、PH階　伏図					
縮尺	1:100				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-10
十勝中部広域水道企業団						



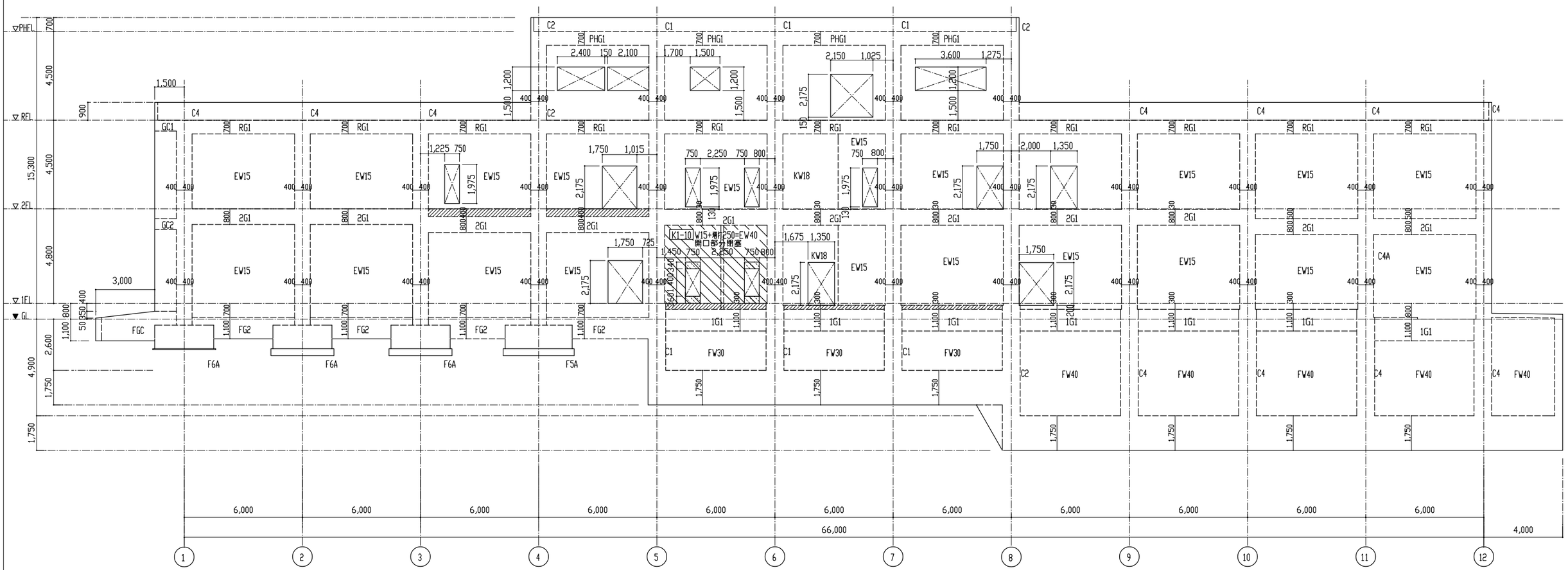
A通軸組図　1/100



B通軸組図　1/100

特記なき限り下記の通りとする。
壁符号は W15 とする。
は新設壁を示す。
は壁増打ち部分を示す。
は開口閉塞部分を示す。
は既存の増打ちを示す。

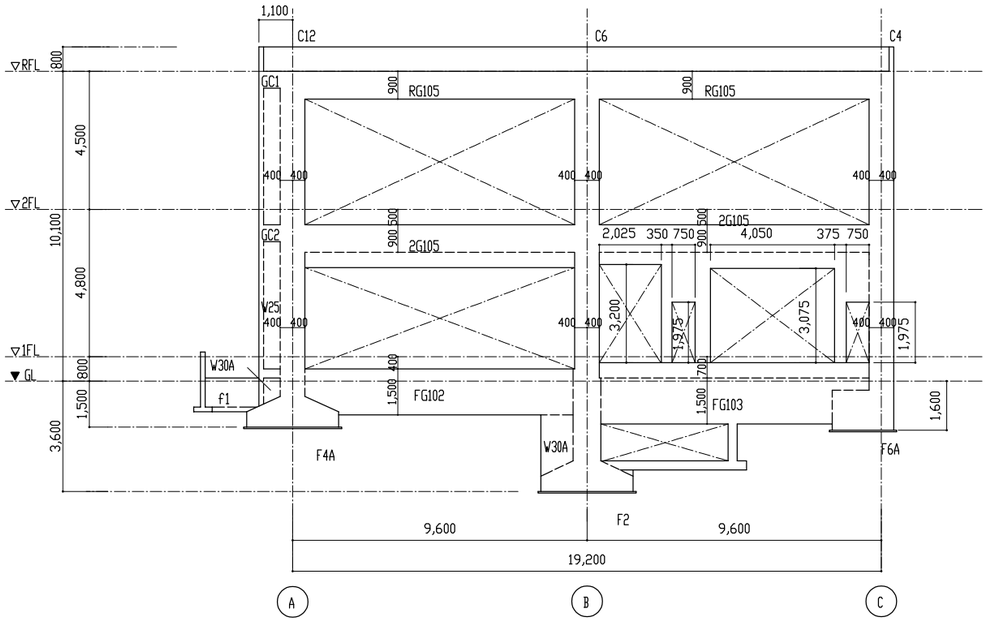
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	軸組図 A、B通り						
縮尺	1:100					製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係		設計番号	
						図番	S-11
十勝中部広域水道企業団							



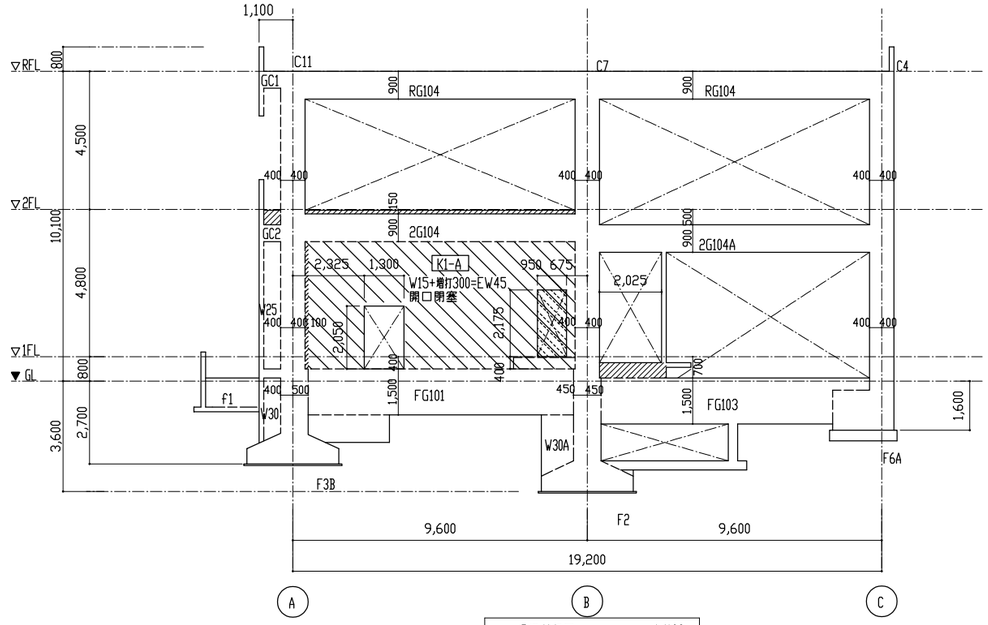
C通軸組図　1/100

特記なき限り下記の通りとする。
壁符号は W15 とする。
は新設壁を示す。
は壁増打ち部分を示す。
は開口閉塞部分を示す。
は既存の増打ちを示す。

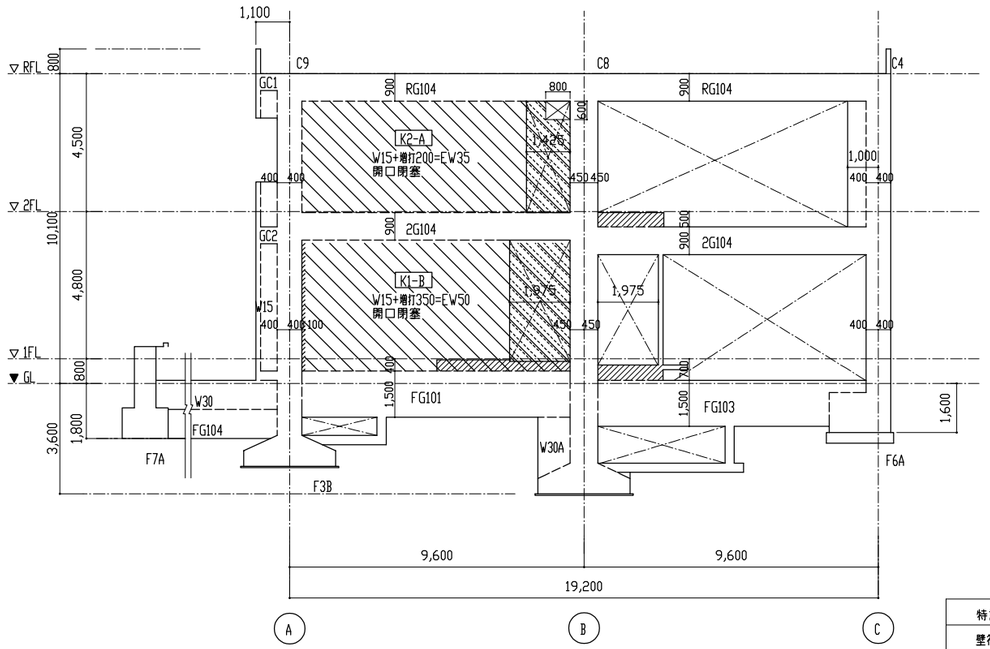
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	軸組図　C通り					
縮尺	1:100				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-12
十勝中部広域水道企業団						



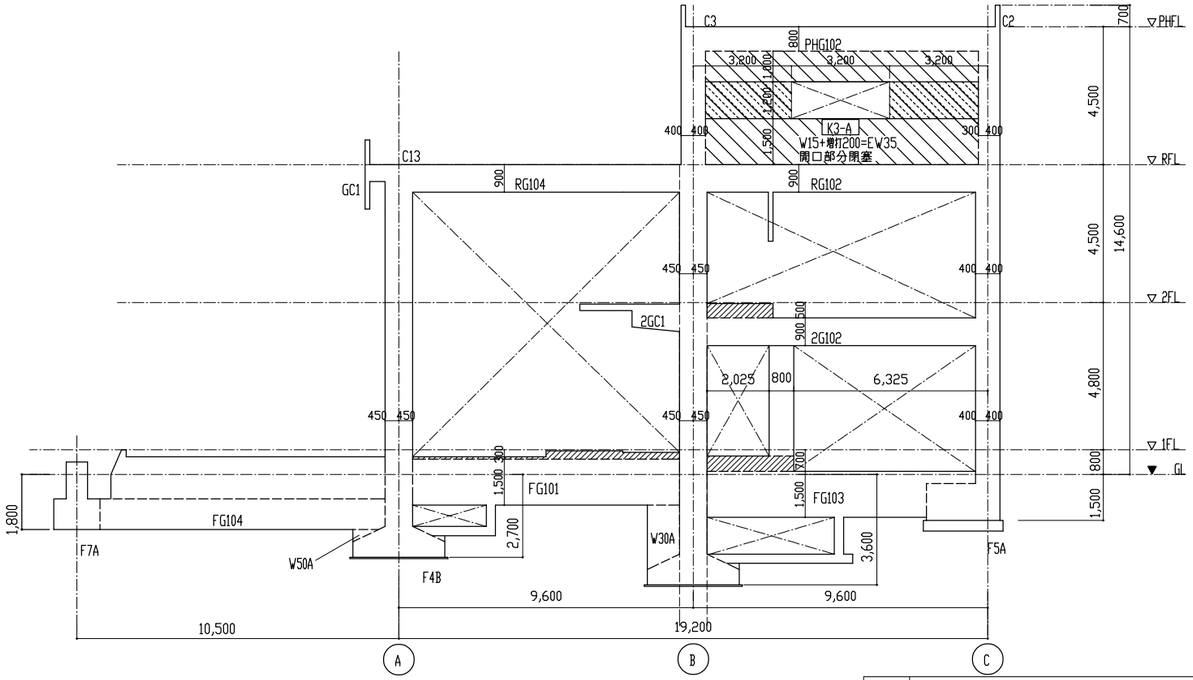
1通軸組図　1/100



2通軸組図　1/100



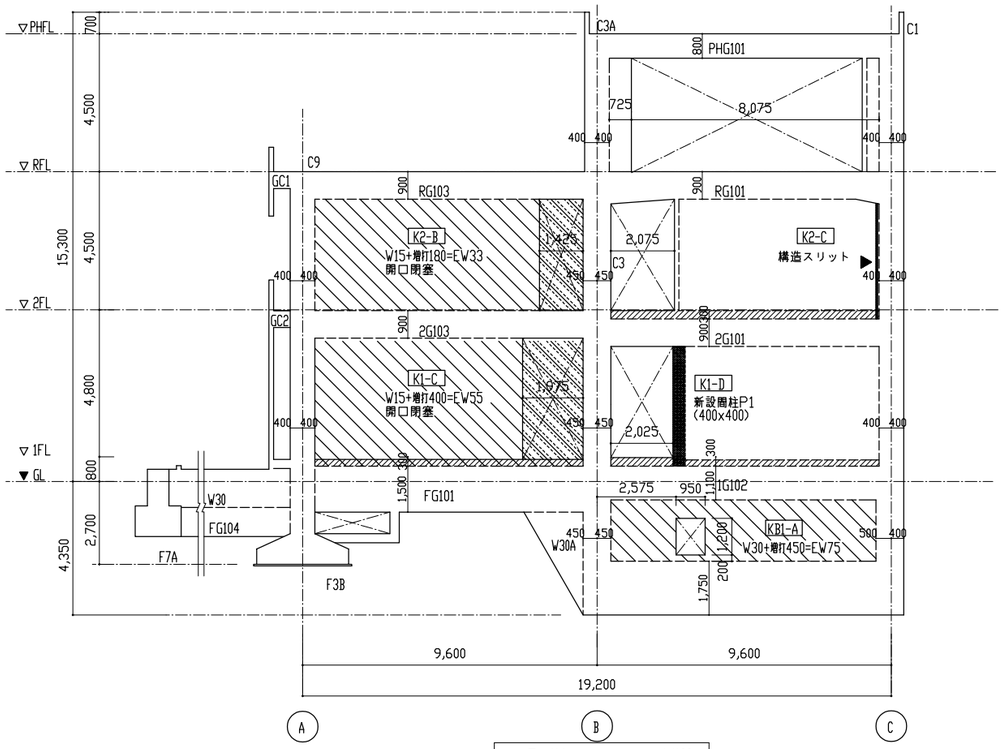
3通軸組図　1/100



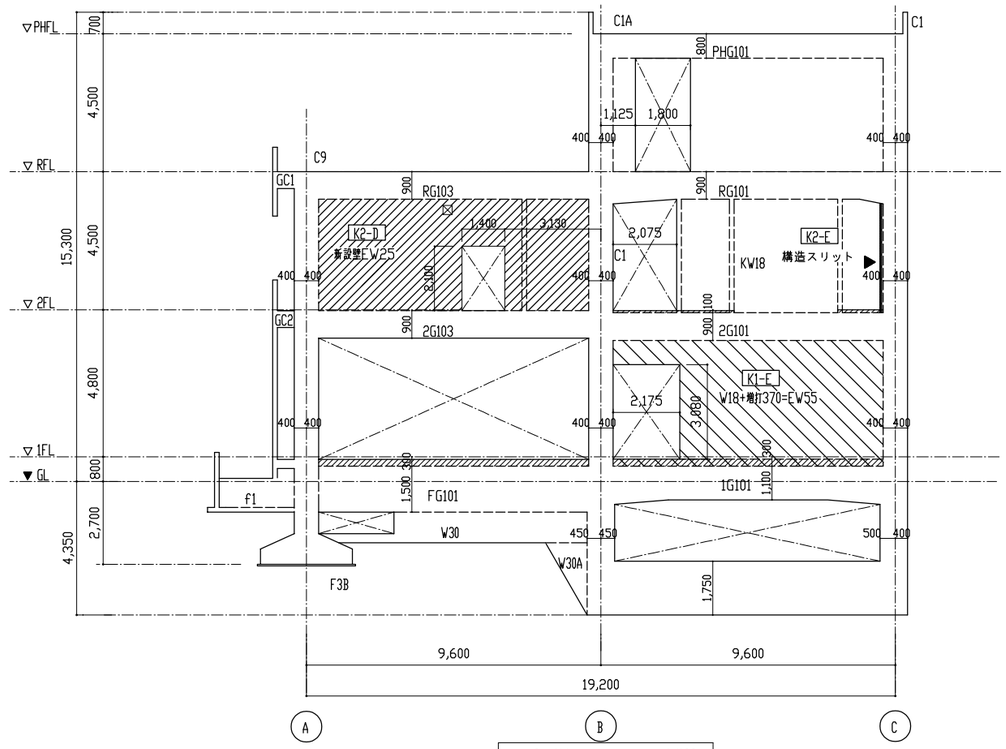
4通軸組図　1/100

特記なき限り下記の通りとする。
壁符号は　W15　とする。
▨ は新設壁を示す。
▨ は壁増打ち部分を示す。
▨ は開口閉塞部分を示す。
▨ は既存の増打ちを示す。

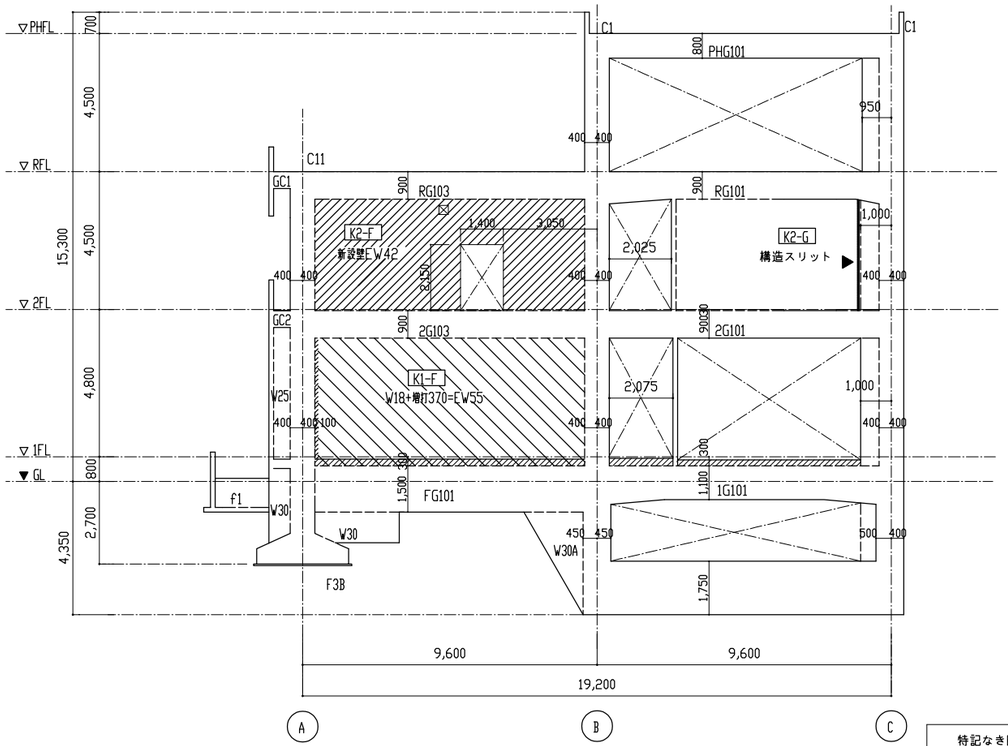
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	軸組図　1,2,3,4通り					
縮尺	1:100				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-13
十勝中部広域水道企業団						



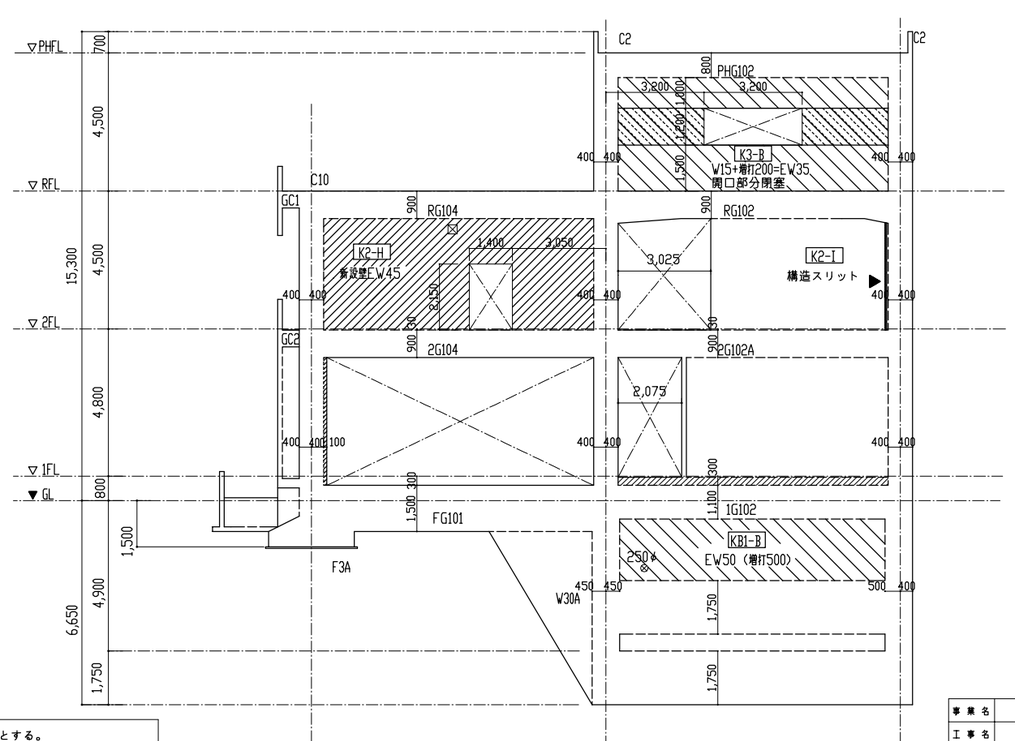
5通軸組図　1/100



6通軸組図　1/100



7通軸組図　1/100



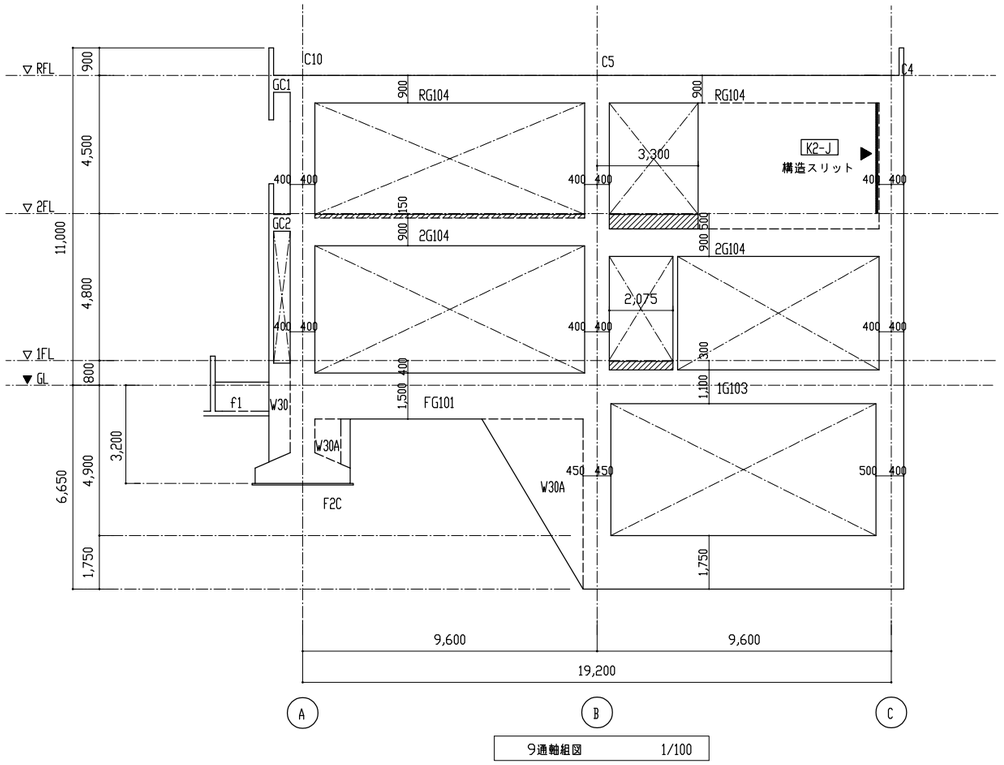
8通軸組図　1/100

特記なき限り下記の通りとする。
壁符号は　W15　とする。
は新設壁を示す。
は壁増打ち部分を示す。
は開口閉塞部分を示す。
は既存の増打ちを示す。

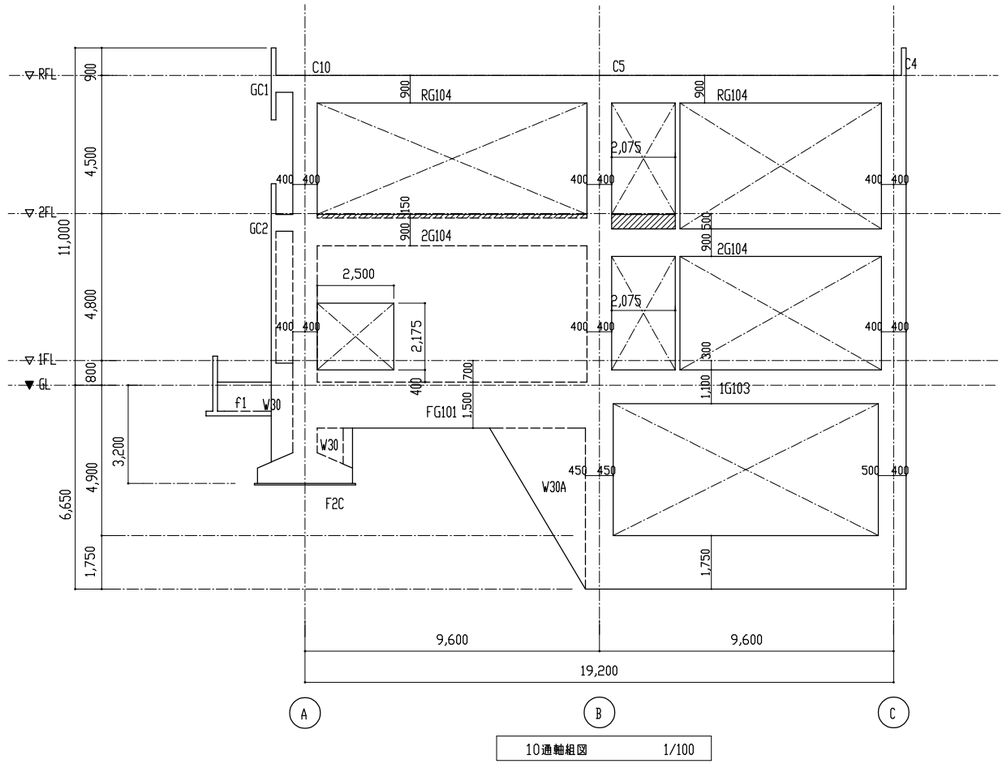
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	軸組図　5,6,7,8通り
縮尺	1:100
製作年月日	
設計番号	
図番	S-14

承認印	企業長	課長	係長	係

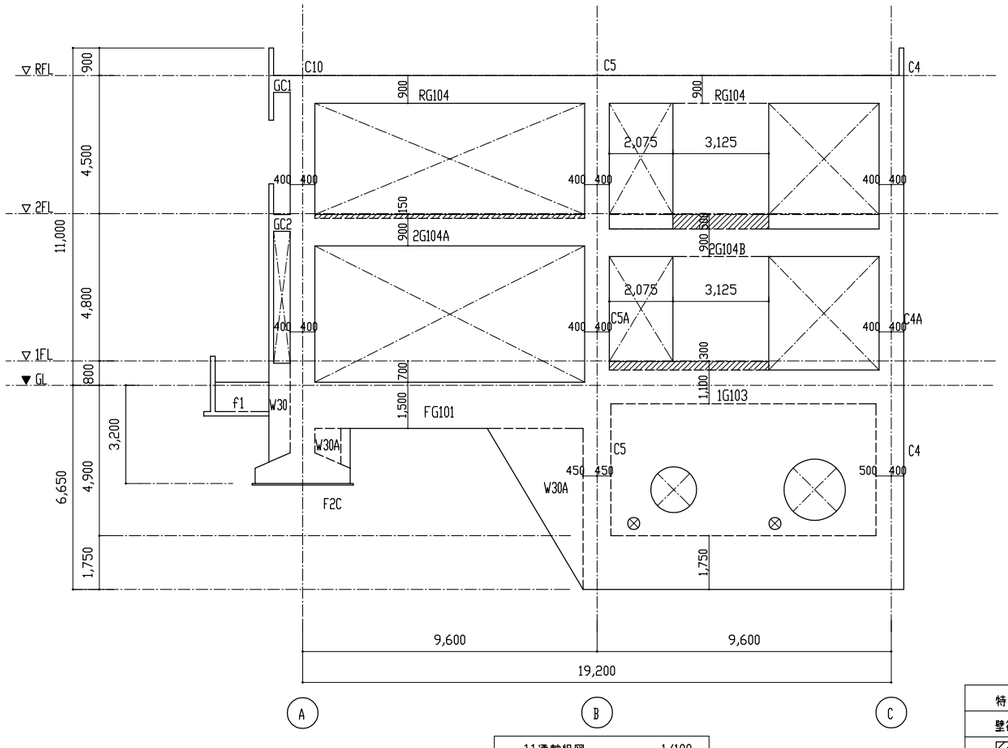
十勝中部広域水道企業団



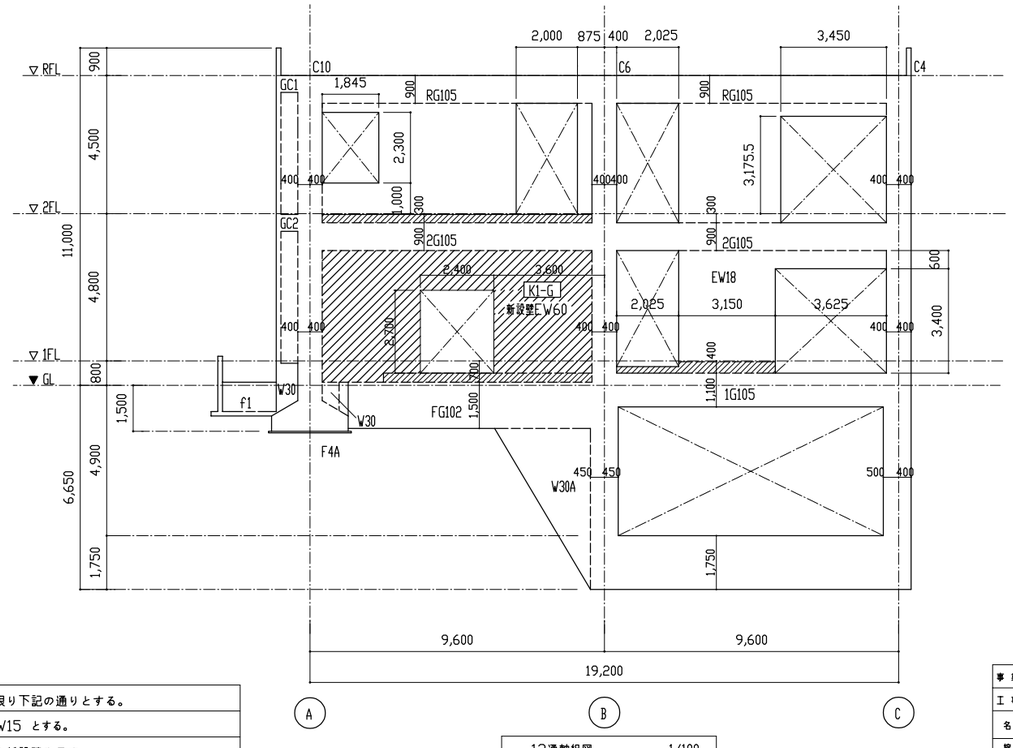
9通軸組図　1/100



10通軸組図　1/100



11通軸組図　1/100

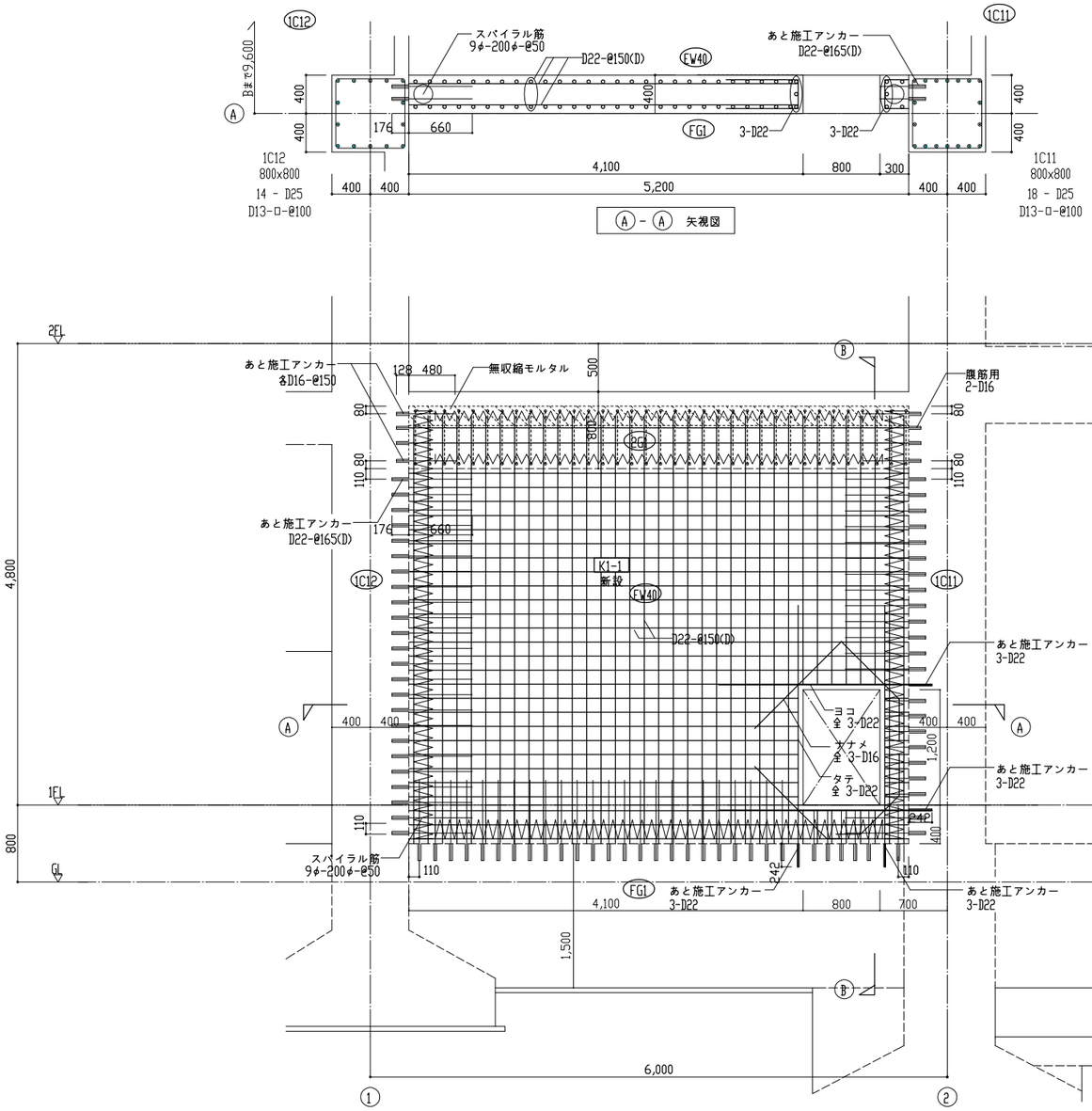


12通軸組図　1/100

特記なき限り下記の通りとする。
壁符号は　W15　とする。
は新設壁を示す。
は壁増打ち部分を示す。
は開口閉塞部分を示す。
は既存の増打ちを示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	軸組図　9,10,11,12通り						
縮尺	1:100				製作年月日		
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号		
					図番	S-15	
十勝中部広域水道企業団							

・ 新設壁に接する既存コンクリートの表面は必ず目粗しを行うこと。

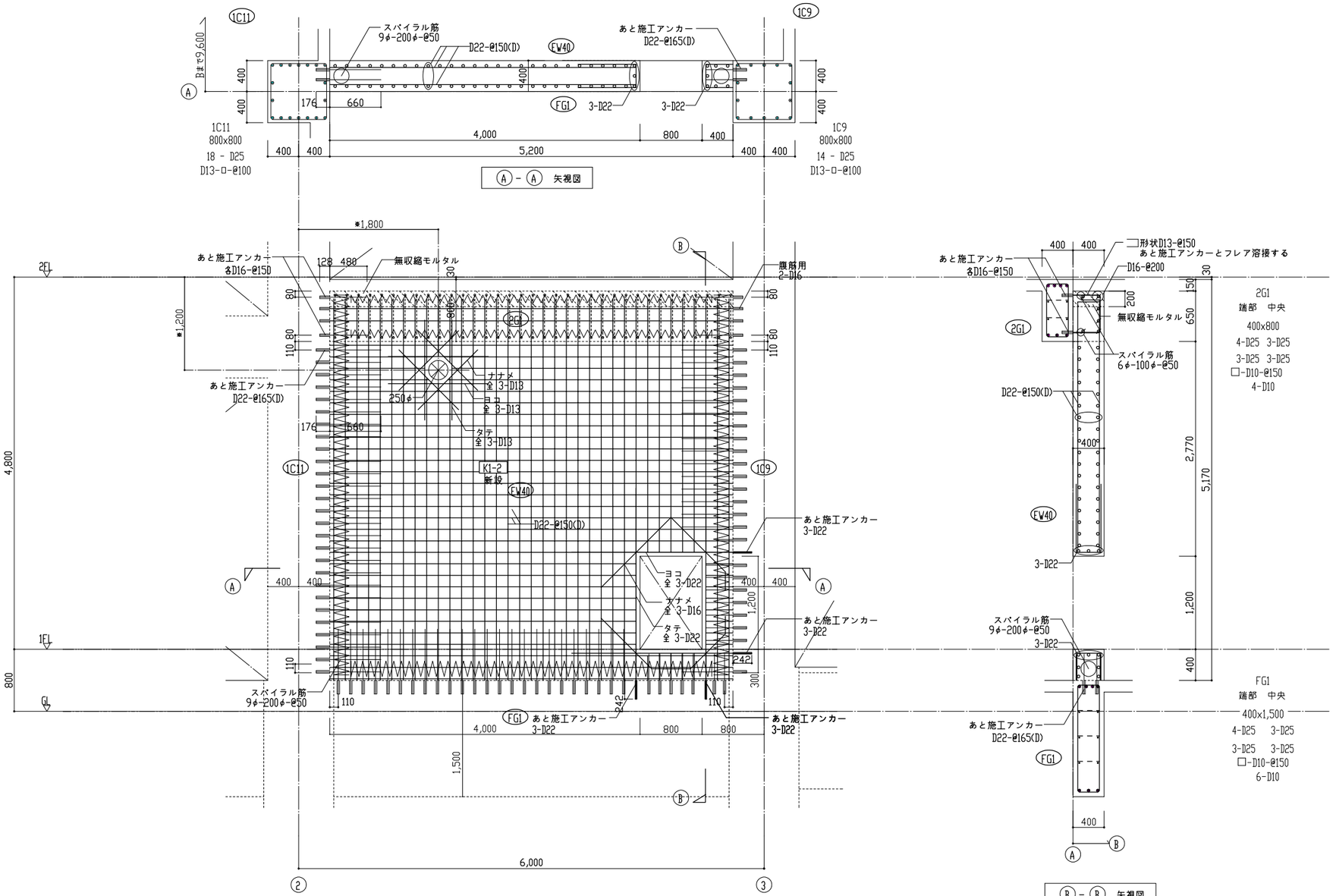


A通り新設壁　補強詳細図　1/30

注記）1．梁の側増し打ちは、コ型鉄筋をフレア溶接で
あと施工アンカーに溶接する。
2．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	補強詳細図（1）						
縮尺	1:30				製作年月日		
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号		
					図番	S-16	
十勝中部広域水道企業団							

・ 新設壁に接する既存コンクリートの表面は必ず目粗しを行うこと。

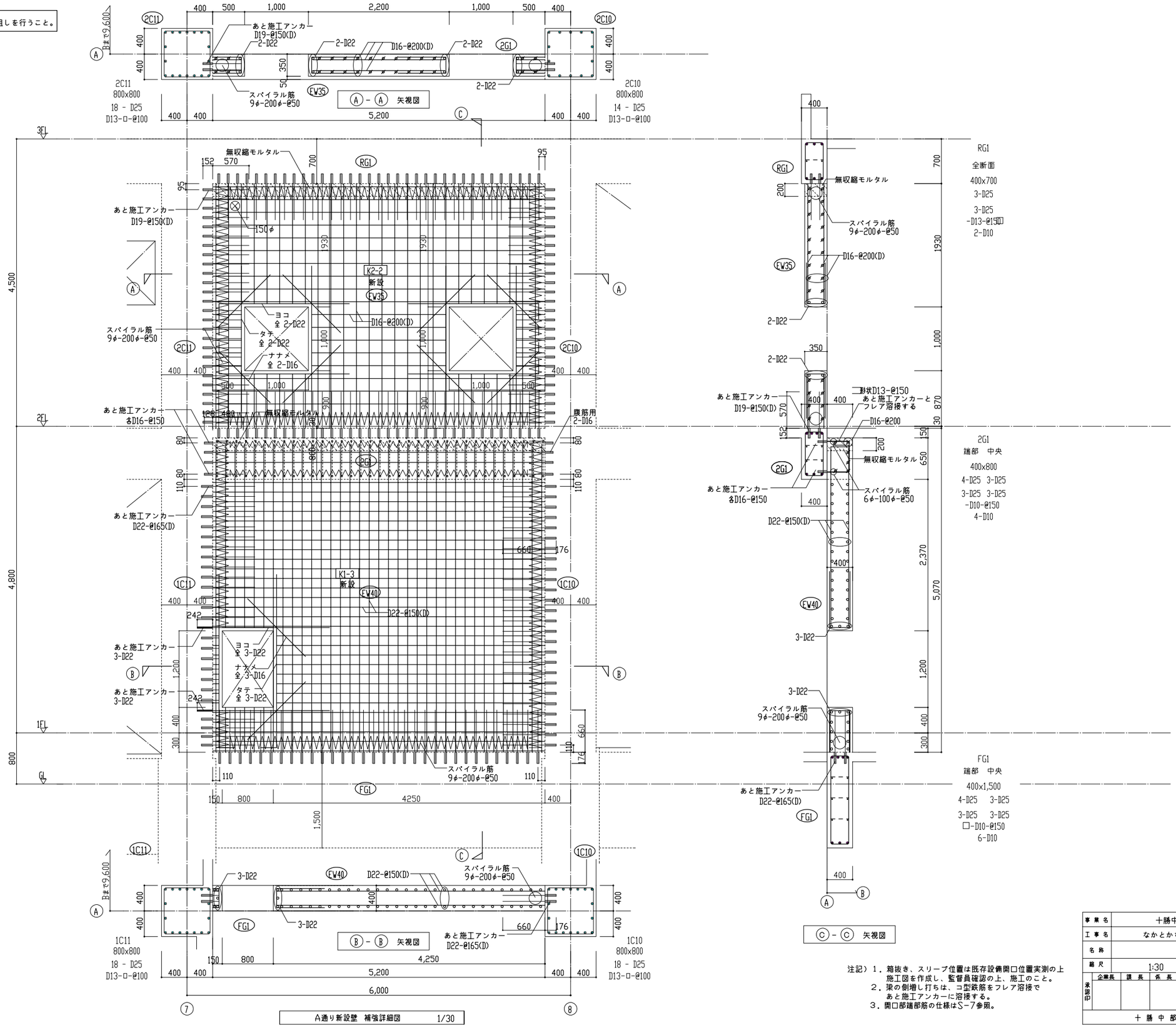


注記）1．箱抜き、スリーブ位置は既存設備開口位置実測の上施工図を作成し、監督員確認の上、施工のこと。
2．梁の側増し打ちは、コ型鉄筋をフレア溶接であと施工アンカーに溶接する。
3．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	補強詳細図（2）					
縮尺	1:30				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-17
十勝中部広域水道企業団						

補強部位　K1-3,K2-2（1,2階　A通り、7-8間）改修配筋図

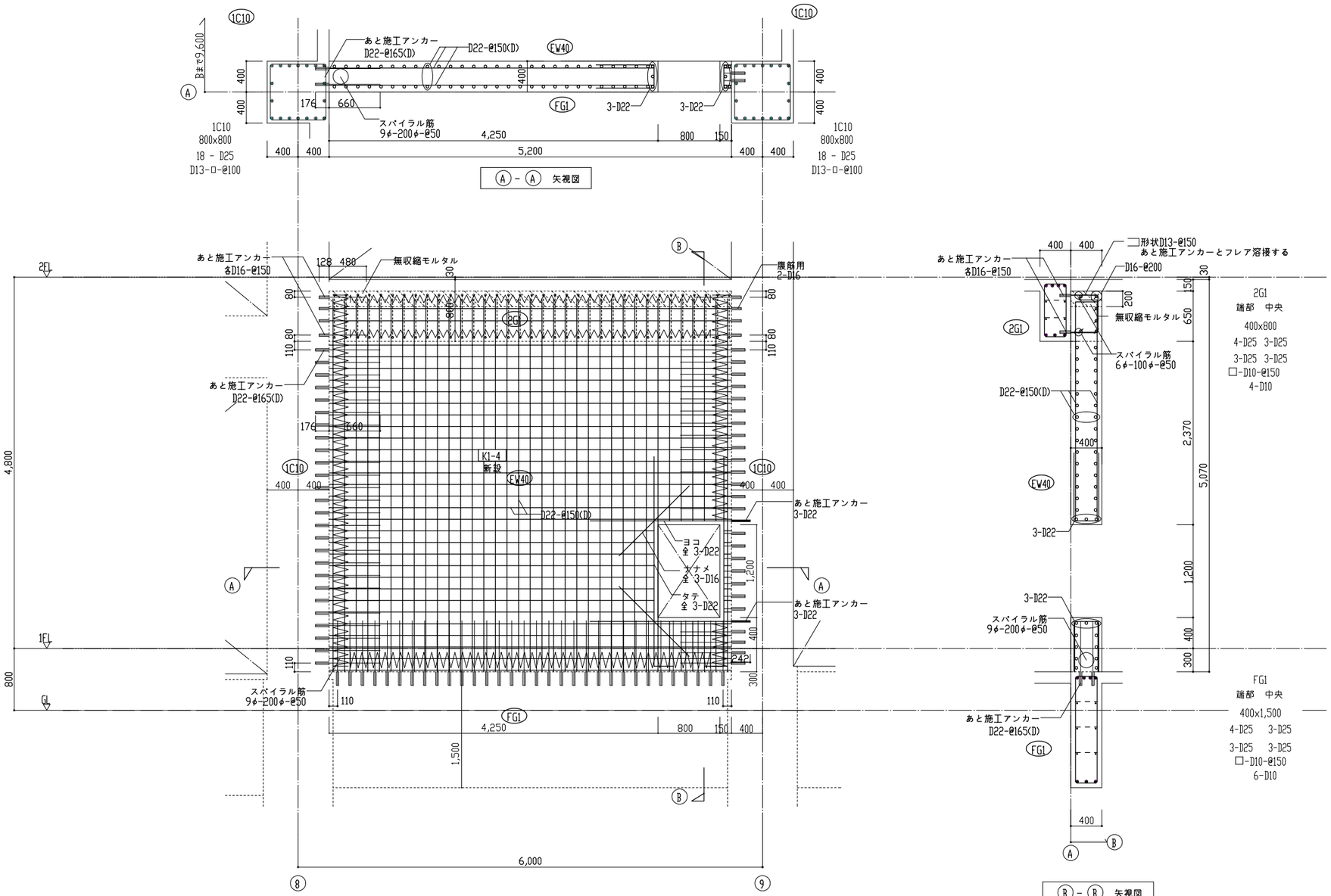
・ 新設壁に接する既存コンクリートの表面は必ず目粗しを行うこと。



注記）1．箱抜き、スリーブ位置は既存設備開口位置実測の上施工図を作成し、監督員確認の上、施工のこと。
2．梁の側増し打ちは、コ型鉄筋をフレア溶接であと施工アンカーに溶接する。
3．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	補強詳細図（3）					
縮尺	1:30				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-18
十勝中部広域水道企業団						

・ 新設壁に接する既存コンクリートの表面は必ず目粗しを行うこと。



A通り新設壁　補強詳細図　1/30

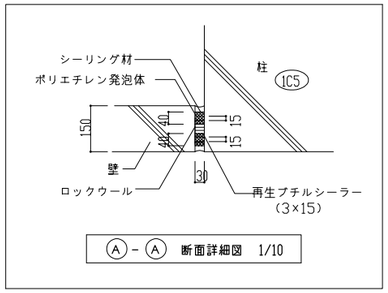
B - B 矢視図

注記）1．梁の側増し打ちは、コ型鉄筋をフレア溶接であと施工アンカーに溶接する。
2．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

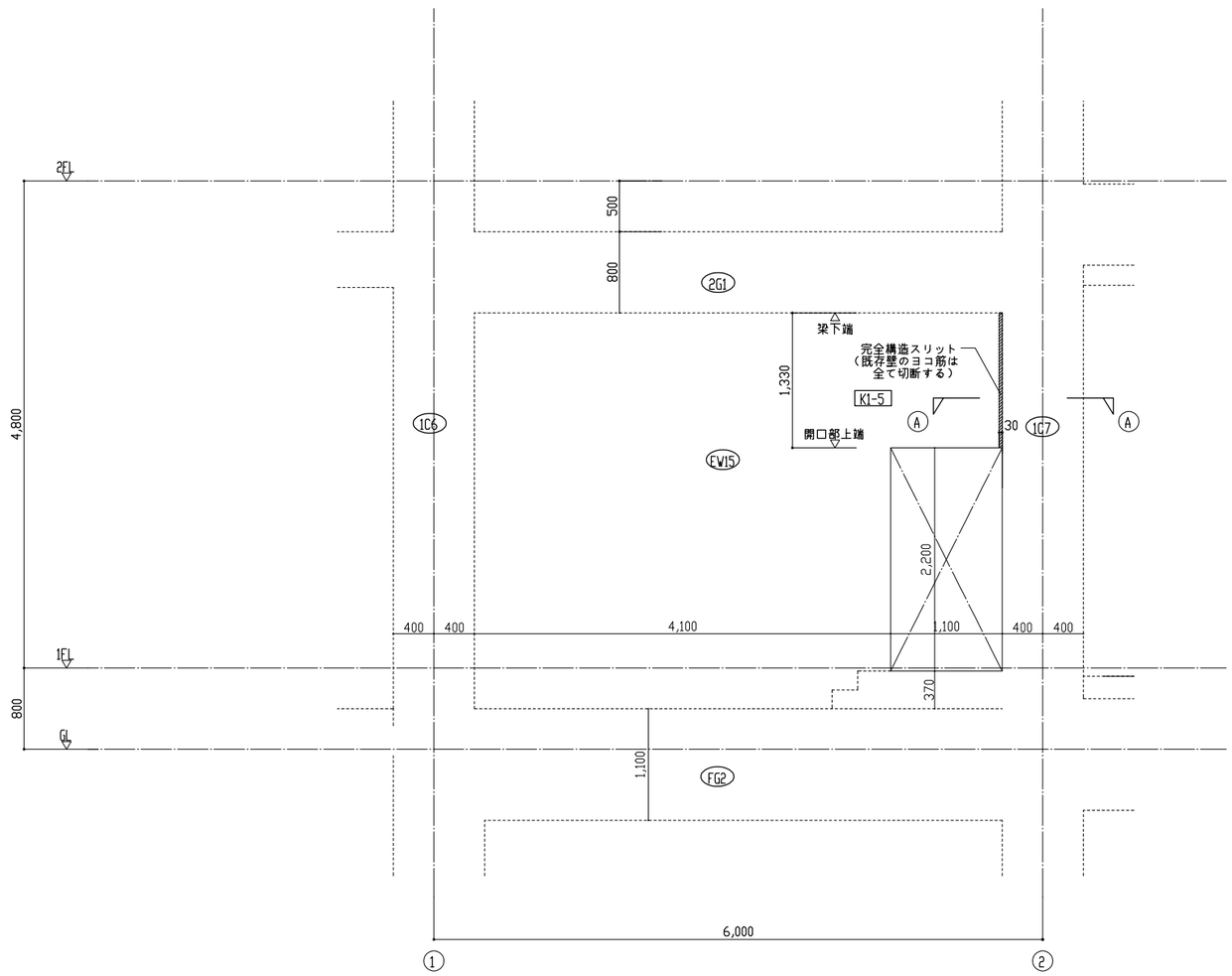
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	補強詳細図（4）					
縮尺	1:30				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-19
十勝中部広域水道企業団						

・スリット形式　　完全スリット
・スリット幅　　＊30mm以上
・スリット材の仕様　＊耐火性能及び止水機能を有する材料

・特記なき限り（共通事項）　端部補強筋は切断の事



Ⓐ－Ⓐ　断面詳細図　1/10

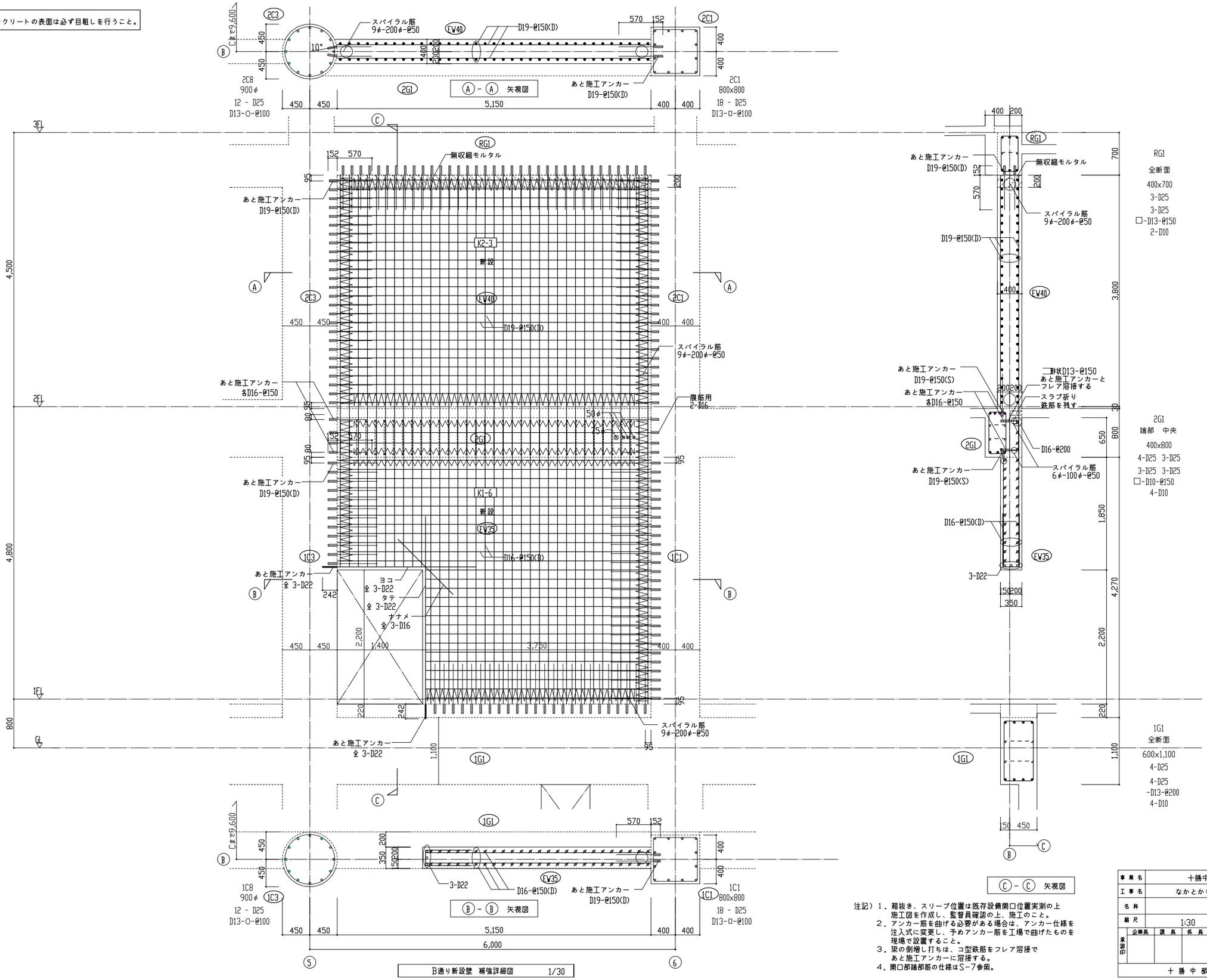


B通りスリット　補強詳細図　1/30

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	補強詳細図（５）						
縮尺	1:30				製作年月日		
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号		
					図番	S-20	
十勝中部広域水道企業団							

補強部位　K1-6，K2-3（1,2階　B通り、5-6間）改修配筋図

・ 新設壁に接する既存コンクリートの表面は必ず目粗しを行うこと。



注記）1．箱抜き、スリーブ位置は既存設備開口位置実測の上施工図を作成し、監督員確認の上、施工のこと。
2．アンカー筋を曲げる必要がある場合は、アンカー仕様を注入式に変更し、予めアンカー筋を工場で曲げたものを現場で設置すること。
3．梁の側増し打ちは、コ型鉄筋をフレア溶接であと施工アンカーに溶接する。
4．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

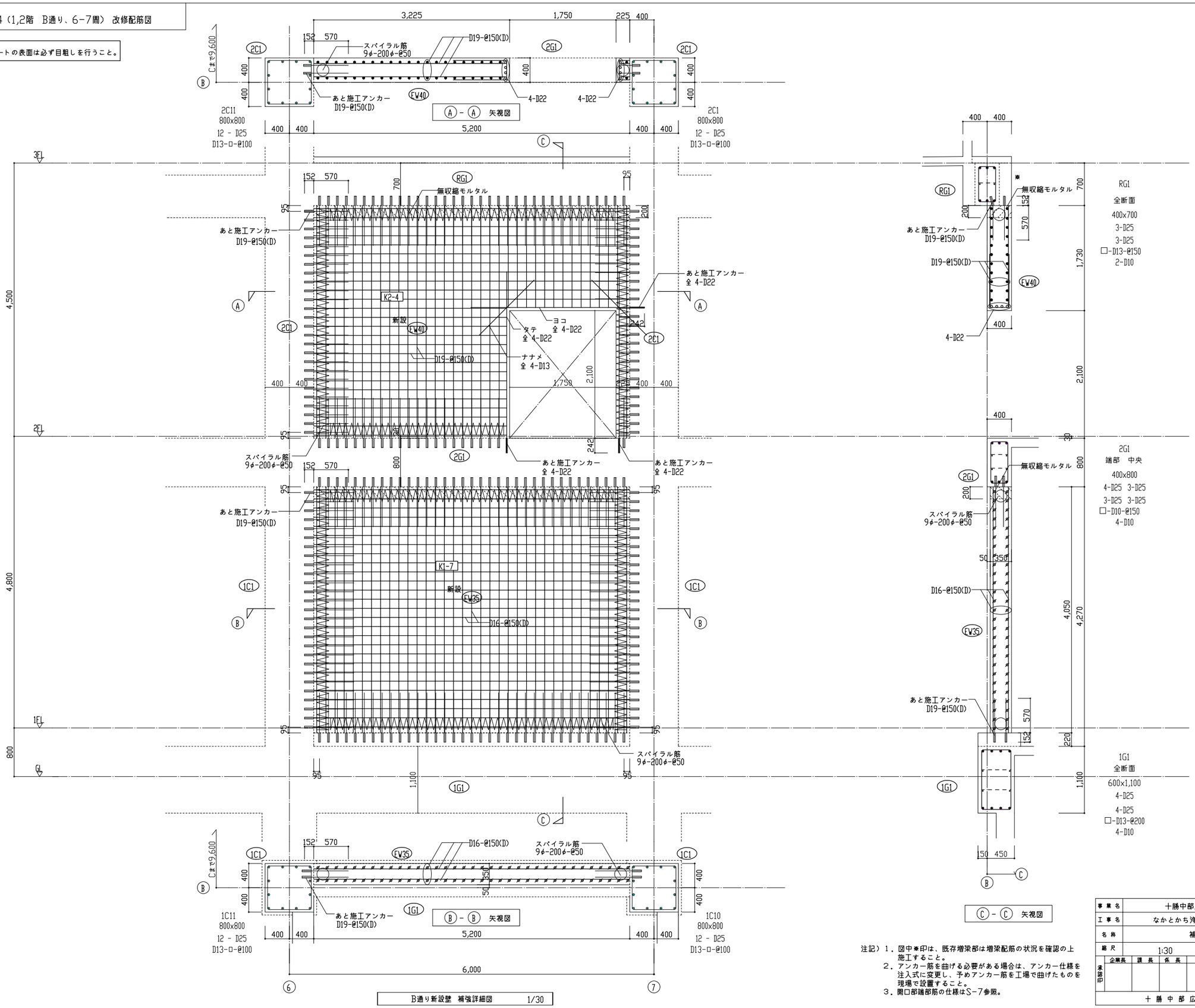
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	補強詳細図（6）
縮尺	1:30
製作年月日	
設計番号	
図番	S-21

承認印	企業長	課長	係長	係

十勝中部広域水道企業団

補強部位　K1-7, K2-4 (1,2階　B通り、6-7間) 改修配筋図

・ 新設壁に接する既存コンクリートの表面は必ず目粗しを行うこと。



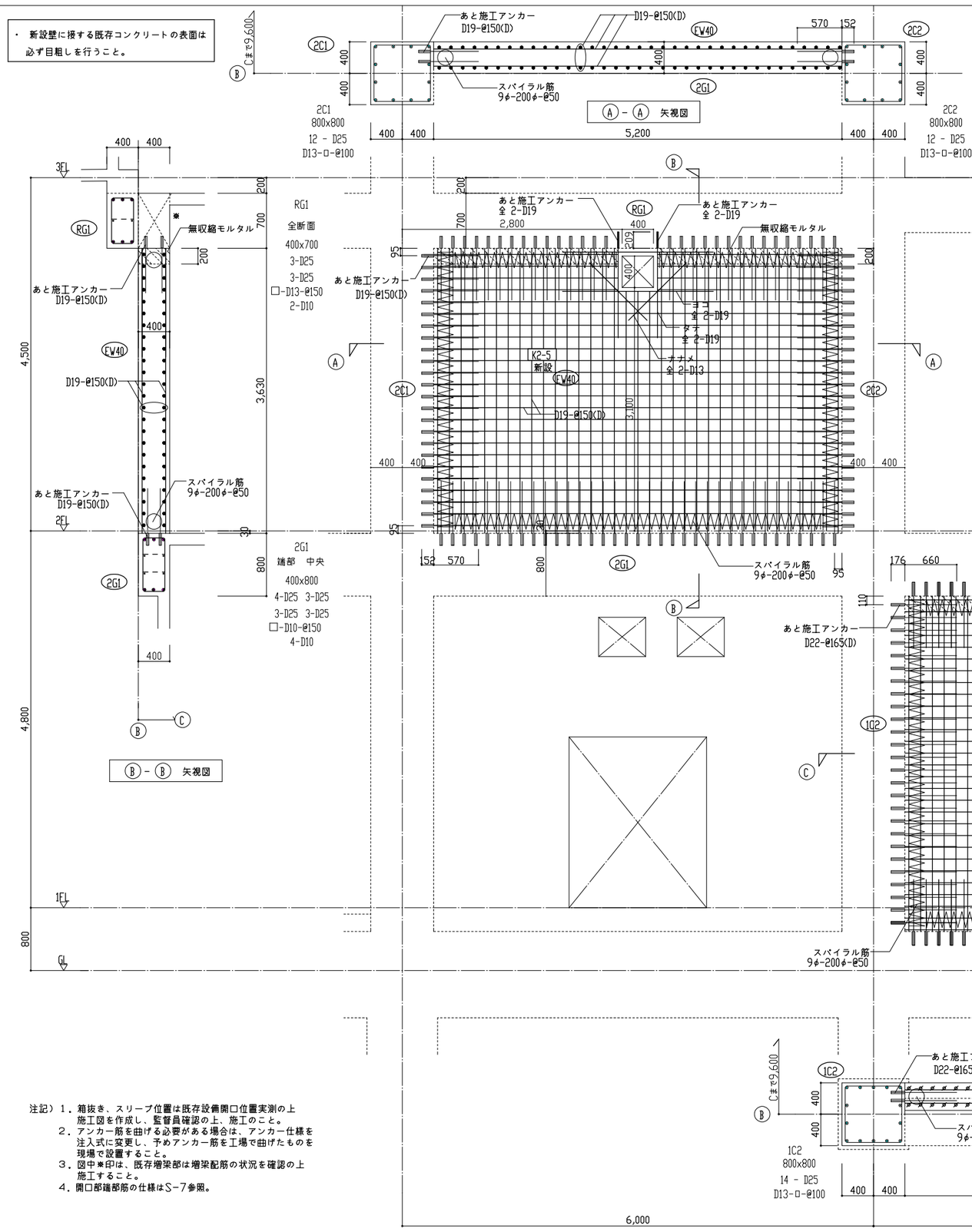
B通り新設壁　補強詳細図　1/30

注記）1．図中＊印は、既存増梁部は増梁配筋の状況を確認の上施工すること。
2．アンカー筋を曲げる必要がある場合は、アンカー仕様を注入式に変更し、予めアンカー筋を工場で曲げたものを現場で設置すること。
3．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	補強詳細図（7）					
縮尺	1:30				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-22
十勝中部広域水道企業団						

補強部位　K1-8,K2-5,K2-6（1,2階　B通り、7-8,8-9間）改修配筋図

・新設壁に接する既存コンクリートの表面は必ず目粗しを行うこと。



・スリット形式　完全スリット
・スリット幅　＊30mm以上
・スリット材の仕様　＊耐火性能及び止水機能を有する材料

・特記なき限り（共通事項）　端部補強筋は切断の事

注記）1．箱抜き、スリーブ位置は既存設備開口位置実測の上施工図を作成し、監督員確認の上、施工のこと。
2．アンカー筋を曲げる必要がある場合は、アンカー仕様を注入式に変更し、予めアンカー筋を工場で曲げたものを現場で設置すること。
3．図中＊印は、既存増築部は増築配筋の状況を確認の上施工すること。
4．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

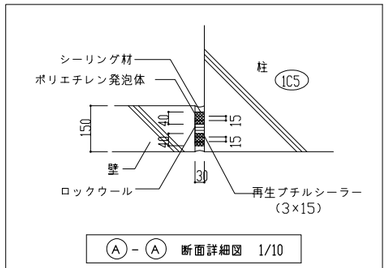
B通り新設壁、スリット　補強詳細図　1/30

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	補強詳細図（8）					
縮尺	1:30				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-23

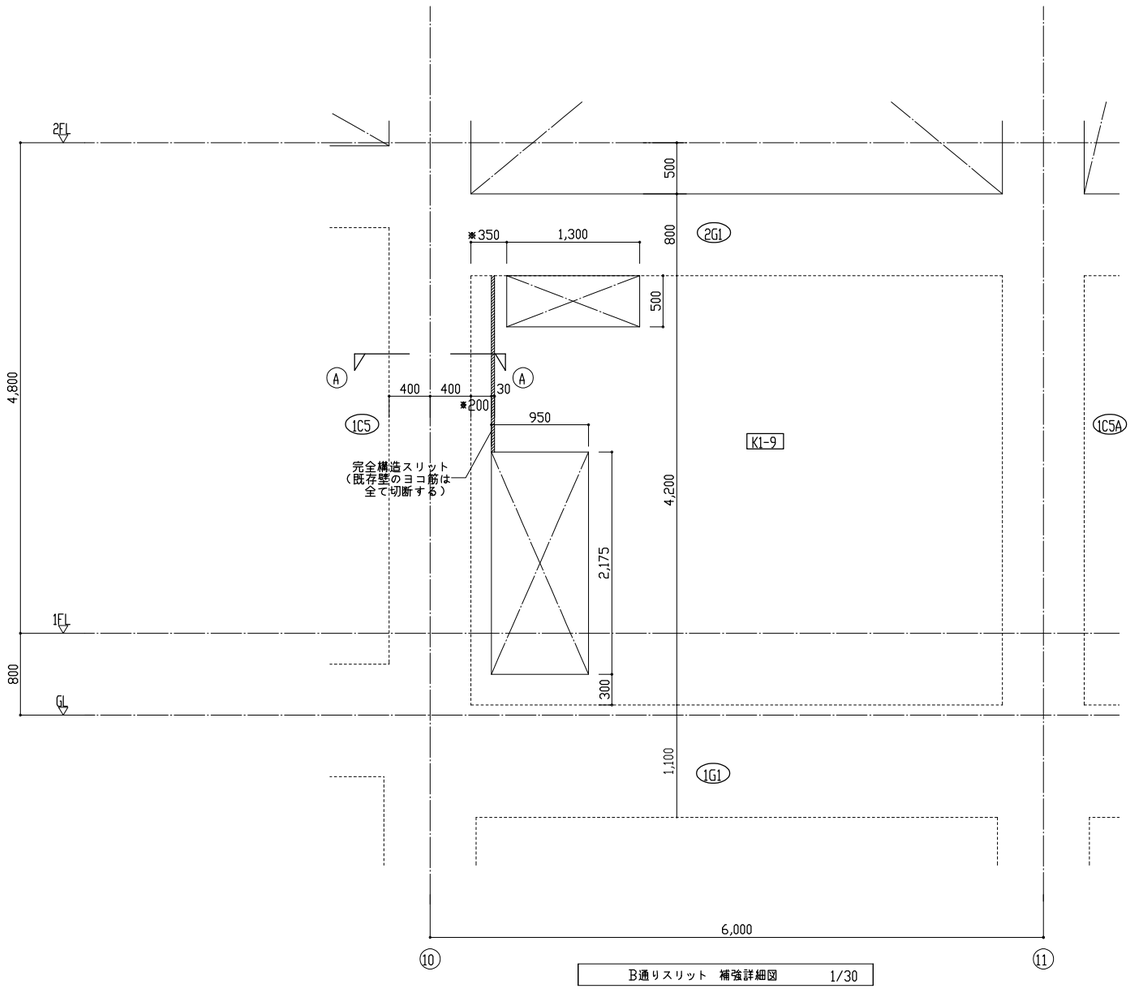
十勝中部広域水道企業団

・スリット形式　　完全スリット
・スリット幅　　※30mm以上
・スリット材の仕様　※耐火性能及び止水機能を有する材料

・特記なき限り（共通事項）　端部補強筋は切断の事



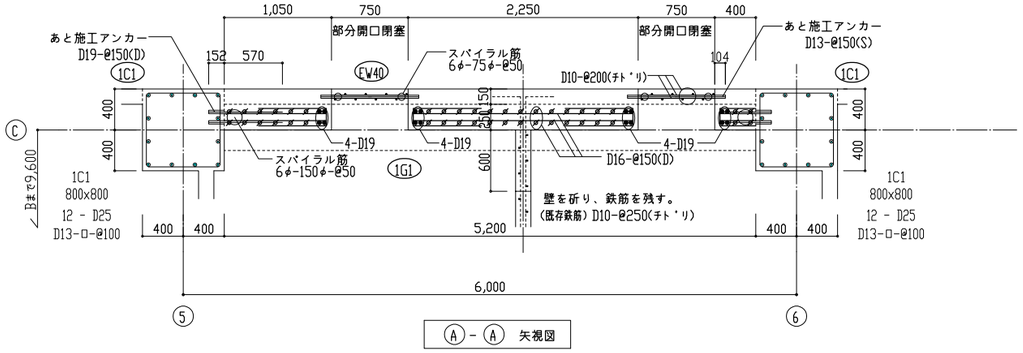
Ⓐ－Ⓐ　断面詳細図　1/10



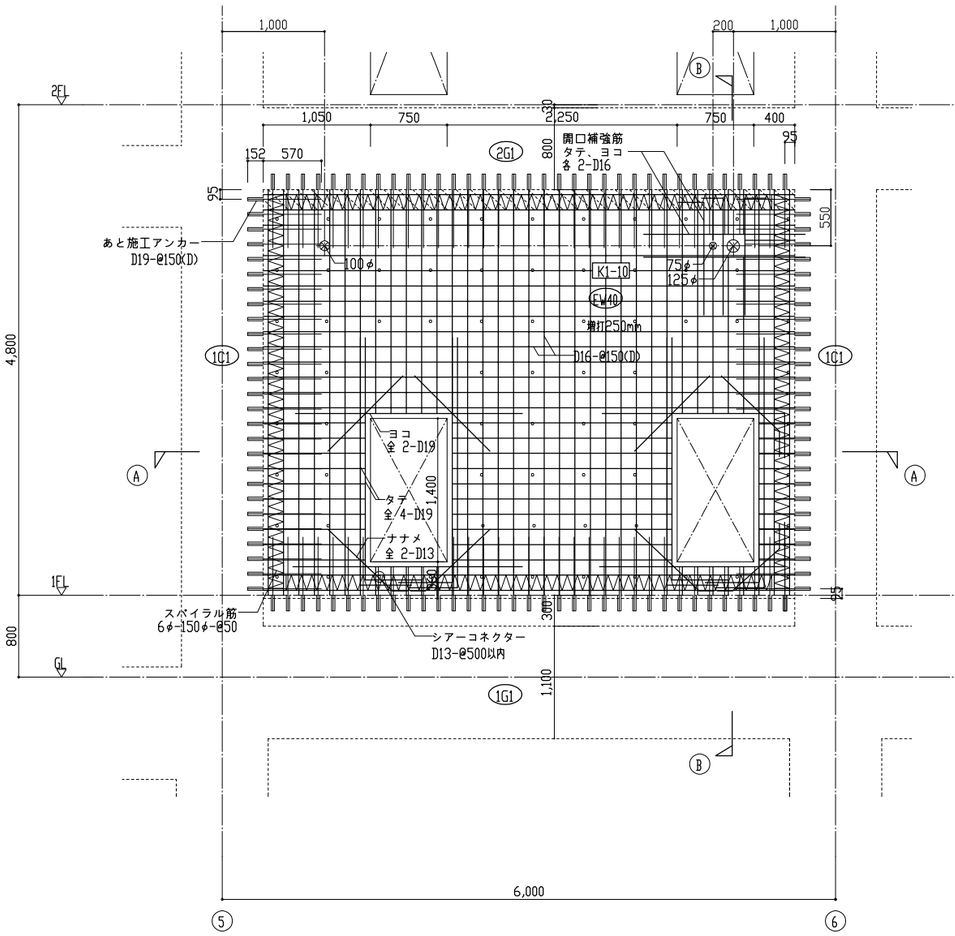
B通りスリット　補強詳細図　1/30

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	補強詳細図（９）						
縮尺	1:30				製作年月日		
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号		
					図番	S-24	
十勝中部広域水道企業団							

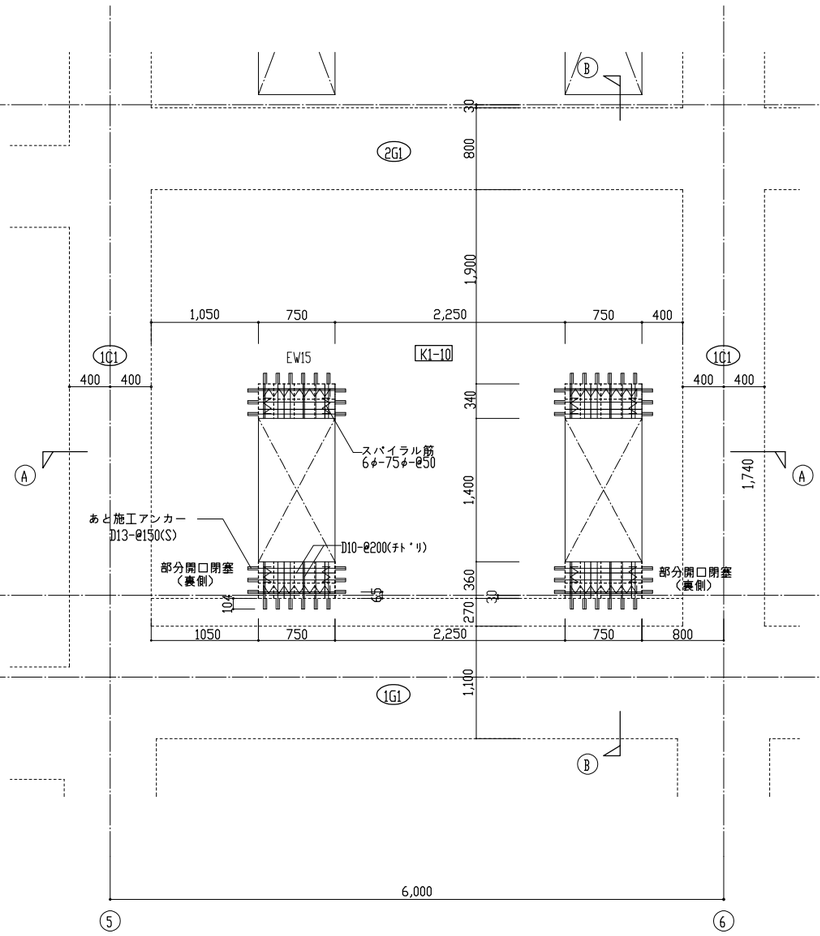
・ 既存壁の増打ち面は必ず目粗しを行うこと。



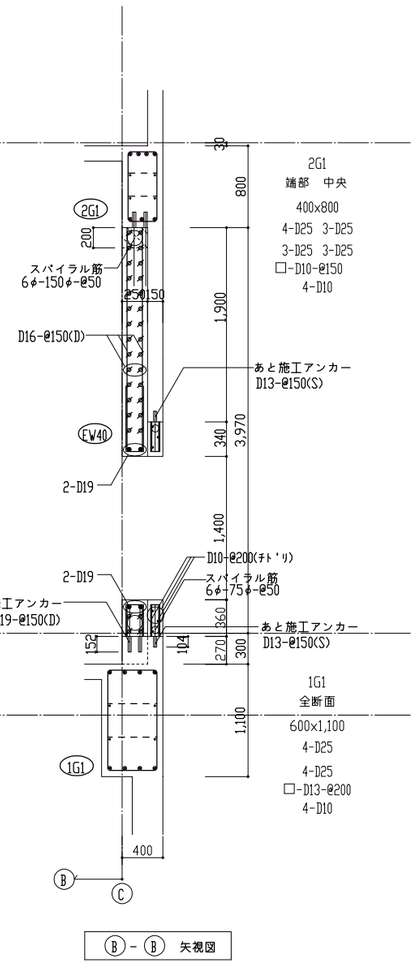
A - A 矢視図



C通り壁補強詳細図(増打ち部分)　1/30



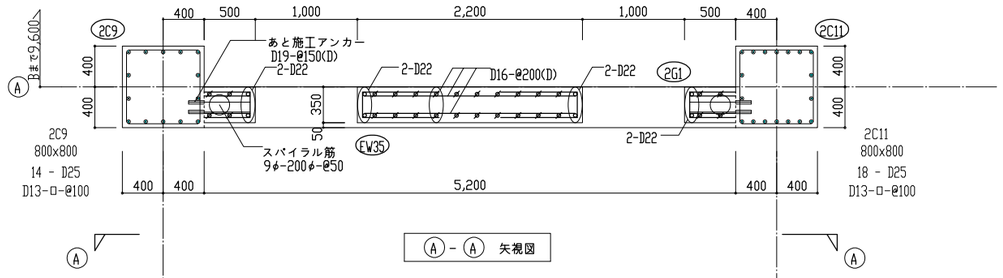
C通り壁補強詳細図(開口閉塞部分)　1/30

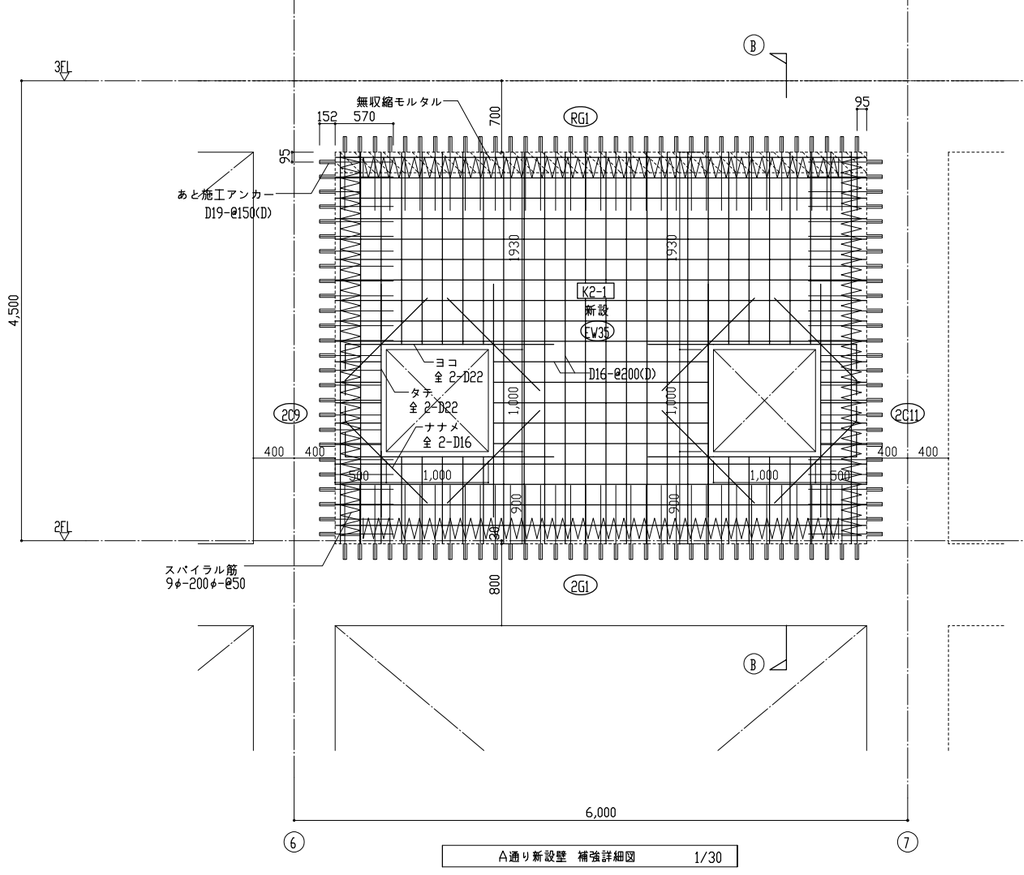


注記）1．箱抜き、スリーブ位置は既存設備開口位置実測の上施工図を作成し、監督員確認の上、施工のこと。
2．開口部補強筋の仕様はS-7参照。

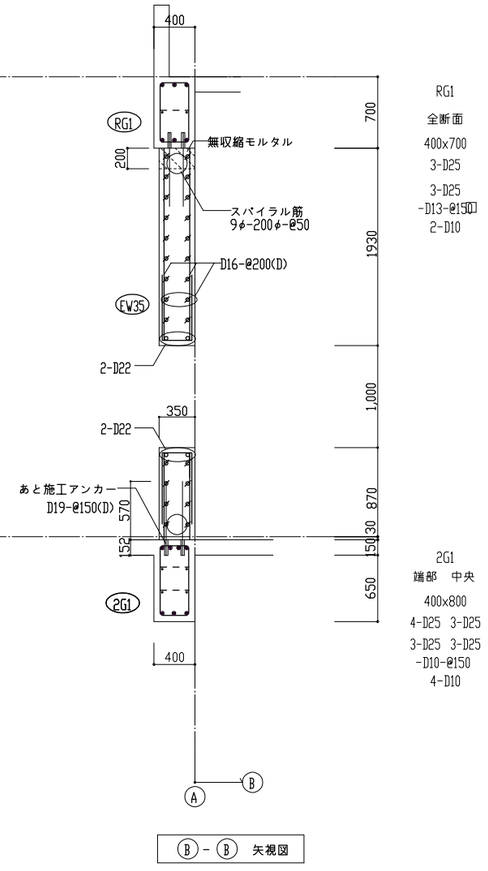
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	補強詳細図（１０）					
縮尺	1:30				製作年月日	
承認印 企業長	課長	係長	係		設計番号	
					図番	S-25
十勝中部広域水道企業団						

・ 新設壁に接する既存コンクリートの表面は必ず目粗しを行うこと。





A通り新設壁　補強詳細図　1/30



B - B 矢視図

RG1
全断面
400x700
3-D25
3-D25
-D13-@150□
2-D10

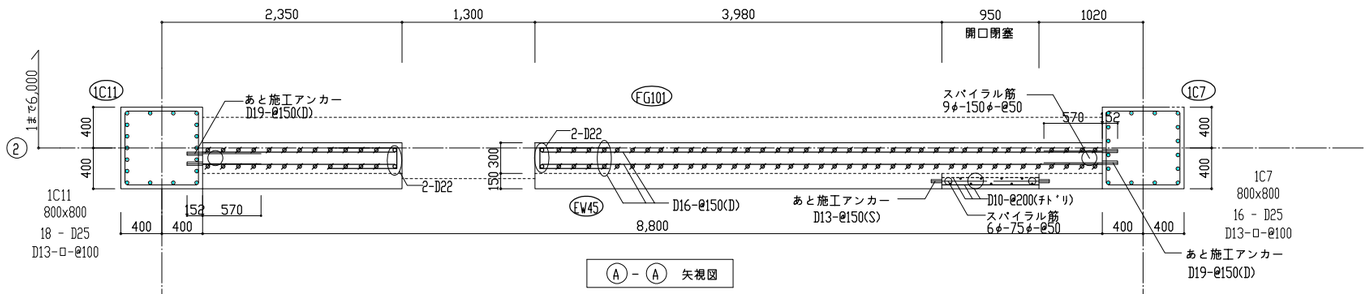
2G1
端部　中央
400x800
4-D25　3-D25
3-D25　3-D25
-D10-@150
4-D10

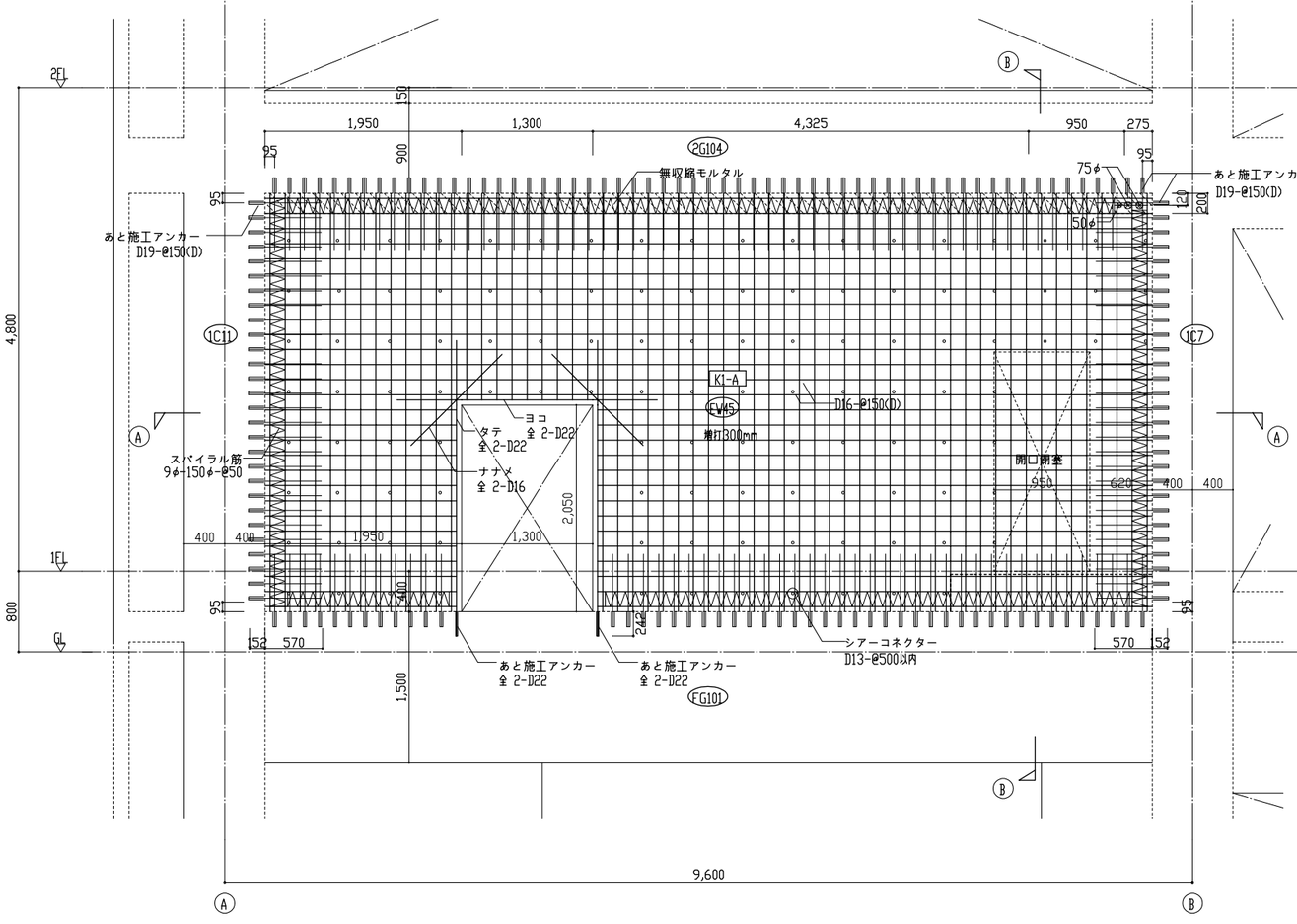
注記）1．箱抜き、スリーブ位置は既存設備開口位置実測の上施工図を作成し、監督員確認の上、施工のこと。
2．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	補強詳細図（11）					
縮尺	1:30				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-26
十勝中部広域水道企業団						

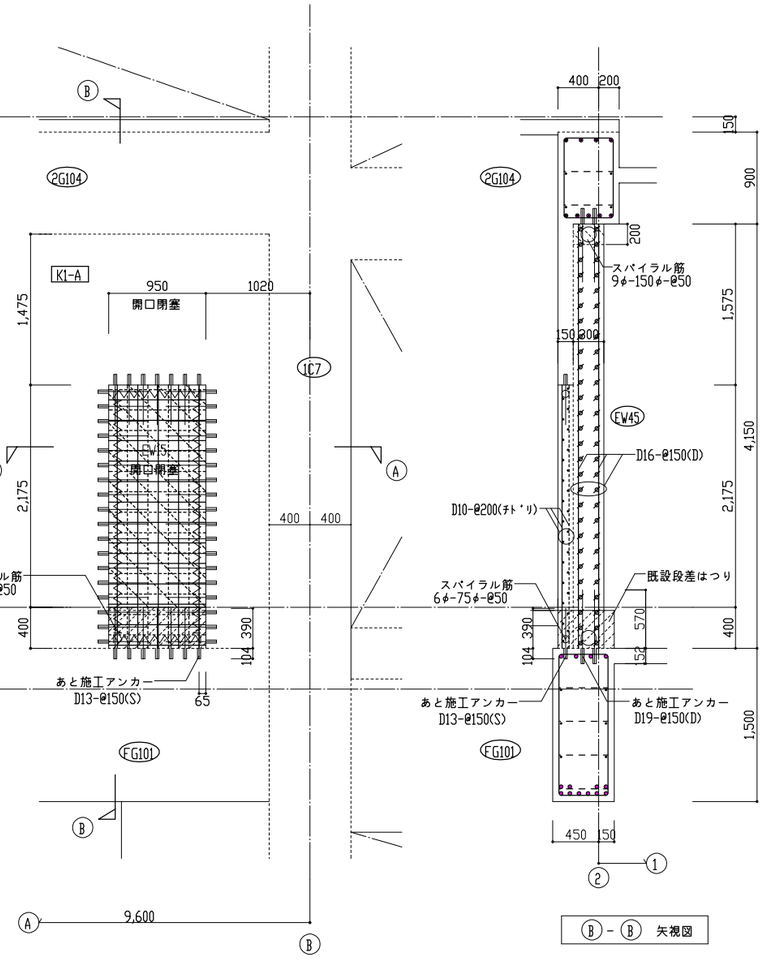
補強部位　K1-A（1階　2通り、A-B間） 改修配筋図

・ 既存壁の増打ち面は必ず目粗しを行うこと。

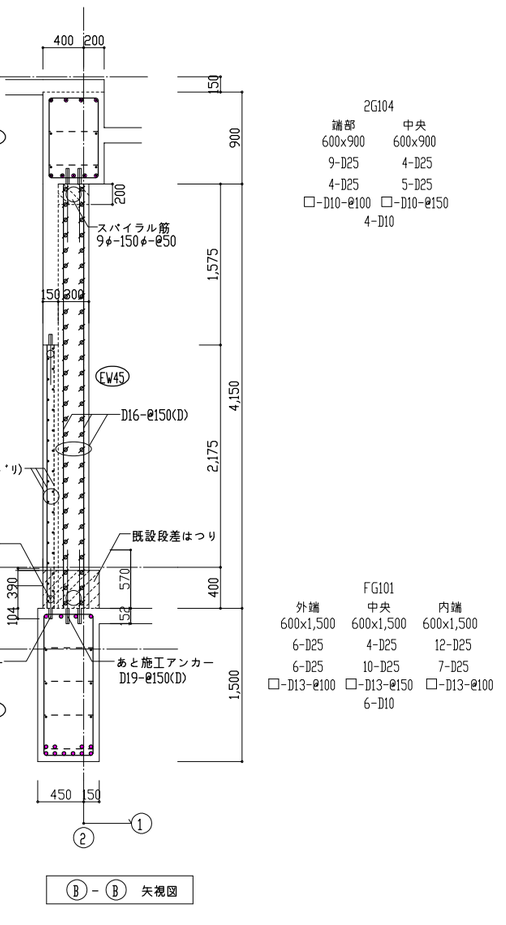




2通り壁補強詳細図（増打ち部分）　1/30



2通り壁補強詳細図（開口閉塞部分）　1/30



2G104

端部	中央
600x900	600x900
9-D25	4-D25
4-D25	5-D25
□-D10-@100	□-D10-@150
4-D10	

FG101

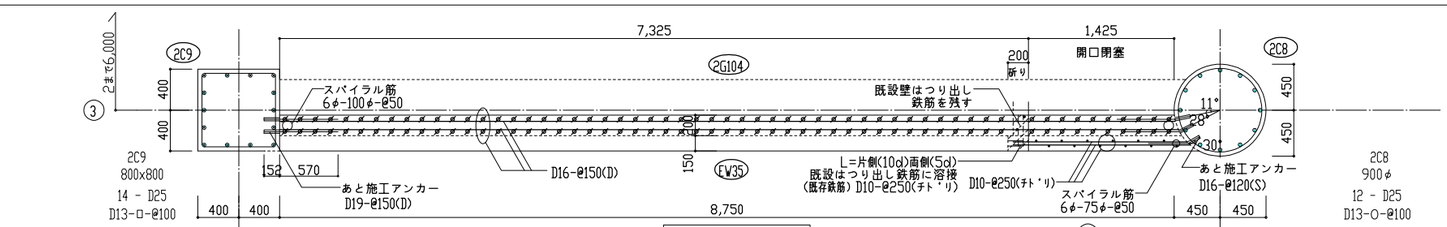
外端	中央	内端
600x1,500	600x1,500	600x1,500
6-D25	4-D25	12-D25
6-D25	10-D25	7-D25
□-D13-@100	□-D13-@150	□-D13-@100
	6-D10	

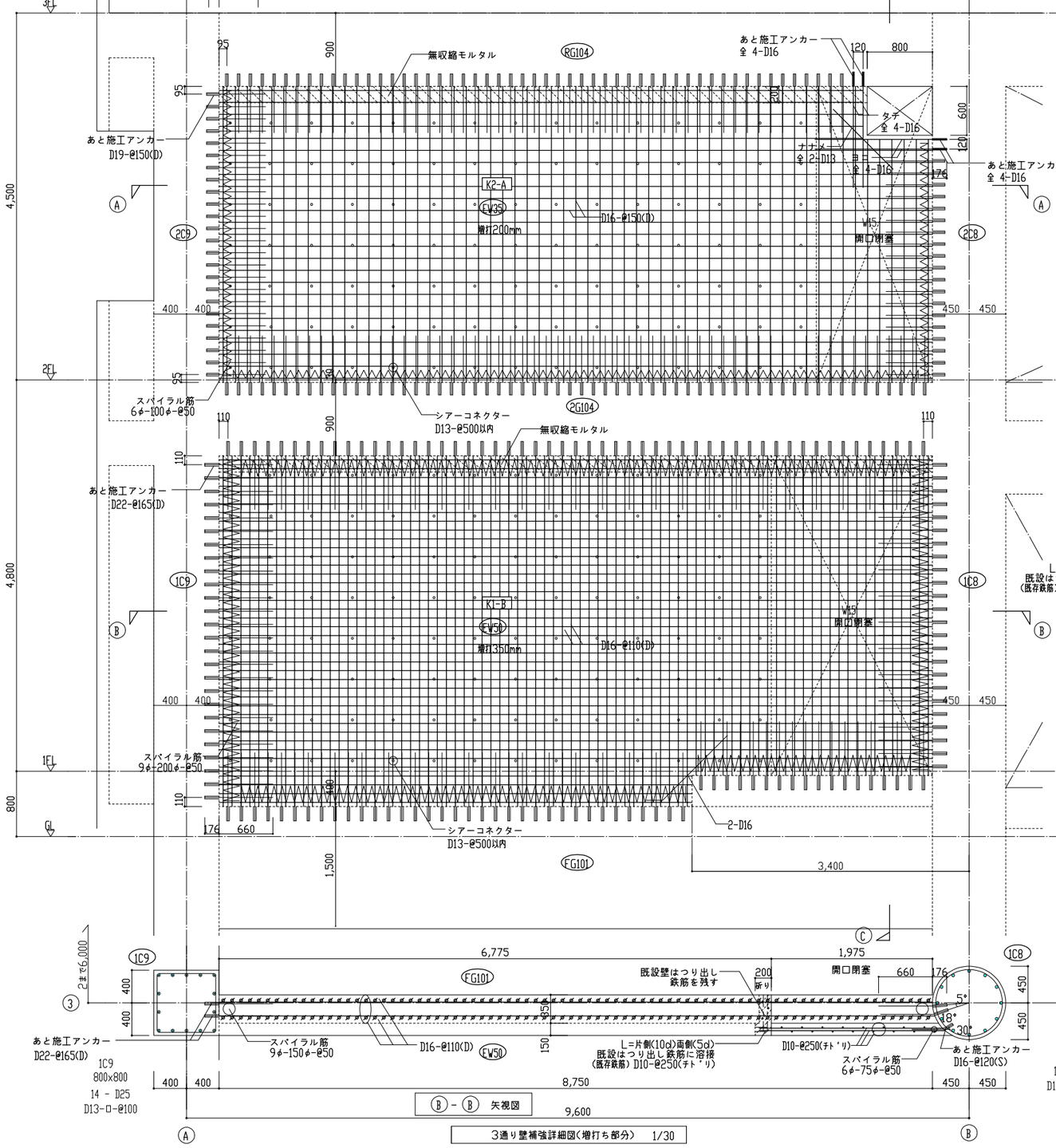
注記）1．箱抜き、スリーブ位置は既存設備開口位置実測の上施工図を作成し、監督員確認の上、施工のこと。
尚、図示スリーブは建築工事とする。
2．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

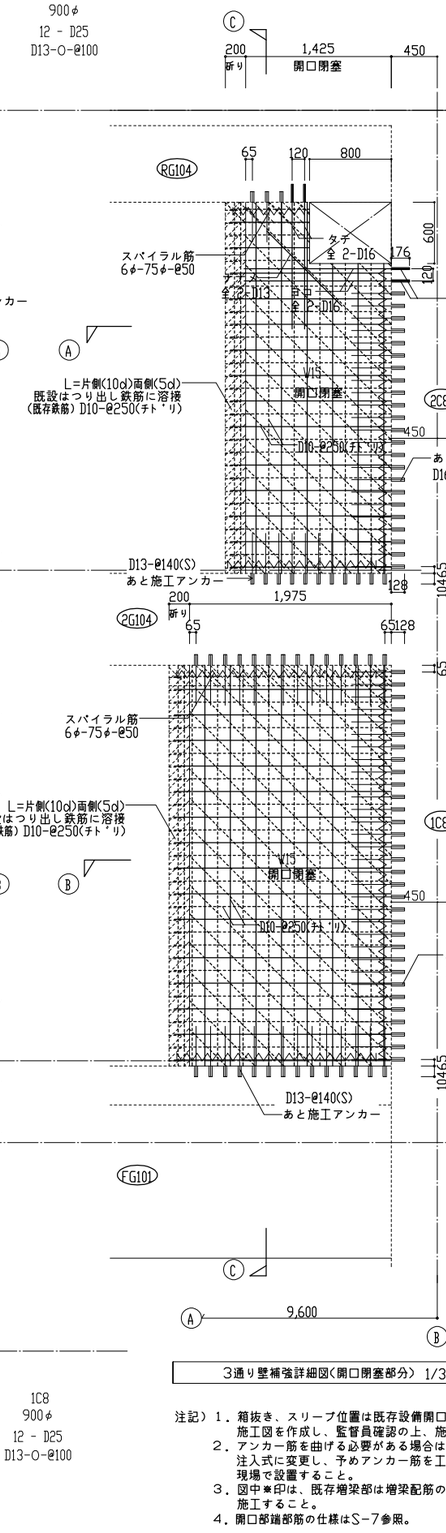
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	補強詳細図（１２）					
縮尺	1:30				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-27
十勝中部広域水道企業団						

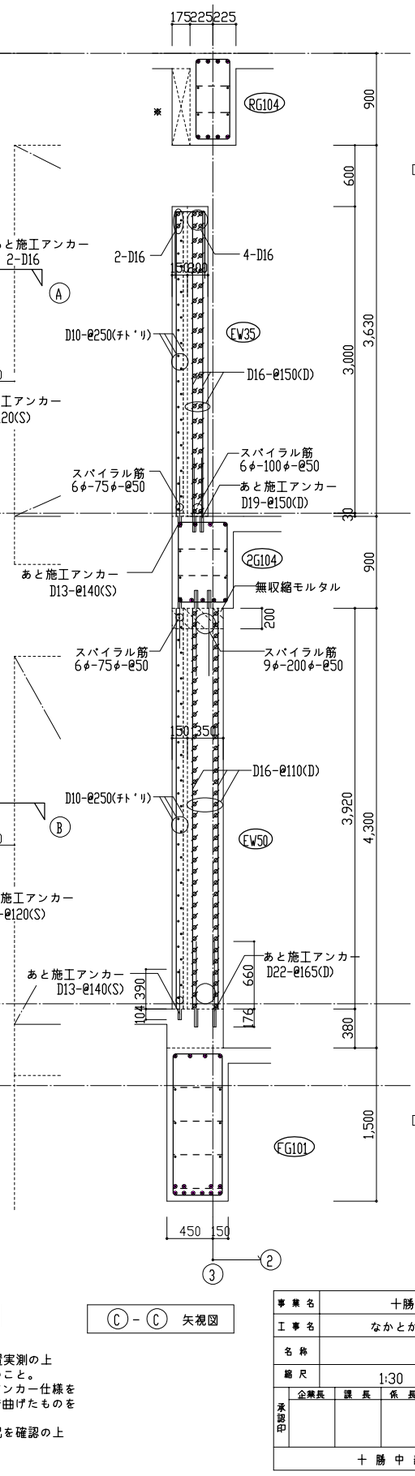
補強部位　K1-B, K2-A (1,2階　3通り、A-B間) 改修配筋図

・ 既存壁の増打ち面は必ず目粗しを行うこと。









RG104

外端	中央	内端
450x900	450x900	450x900
6-D25	4-D25	8-D25
4-D25	4-D25	8-D25
□-D10-@100	□-D10-@100	□-D10-@100
	4-D10	

2G104

端部	中央
600x900	600x900
9-D25	4-D25
4-D25	5-D25
□-D10-@100	□-D10-@150
4-D10	

FG101

外端	中央	内端
600x1,500	600x1,500	600x1,500
6-D25	4-D25	12-D25
6-D25	10-D25	7-D25
□-D13-@100	□-D13-@150	□-D13-@100
6-D10		

3通り壁補強詳細図(開口閉塞部分) 1/30

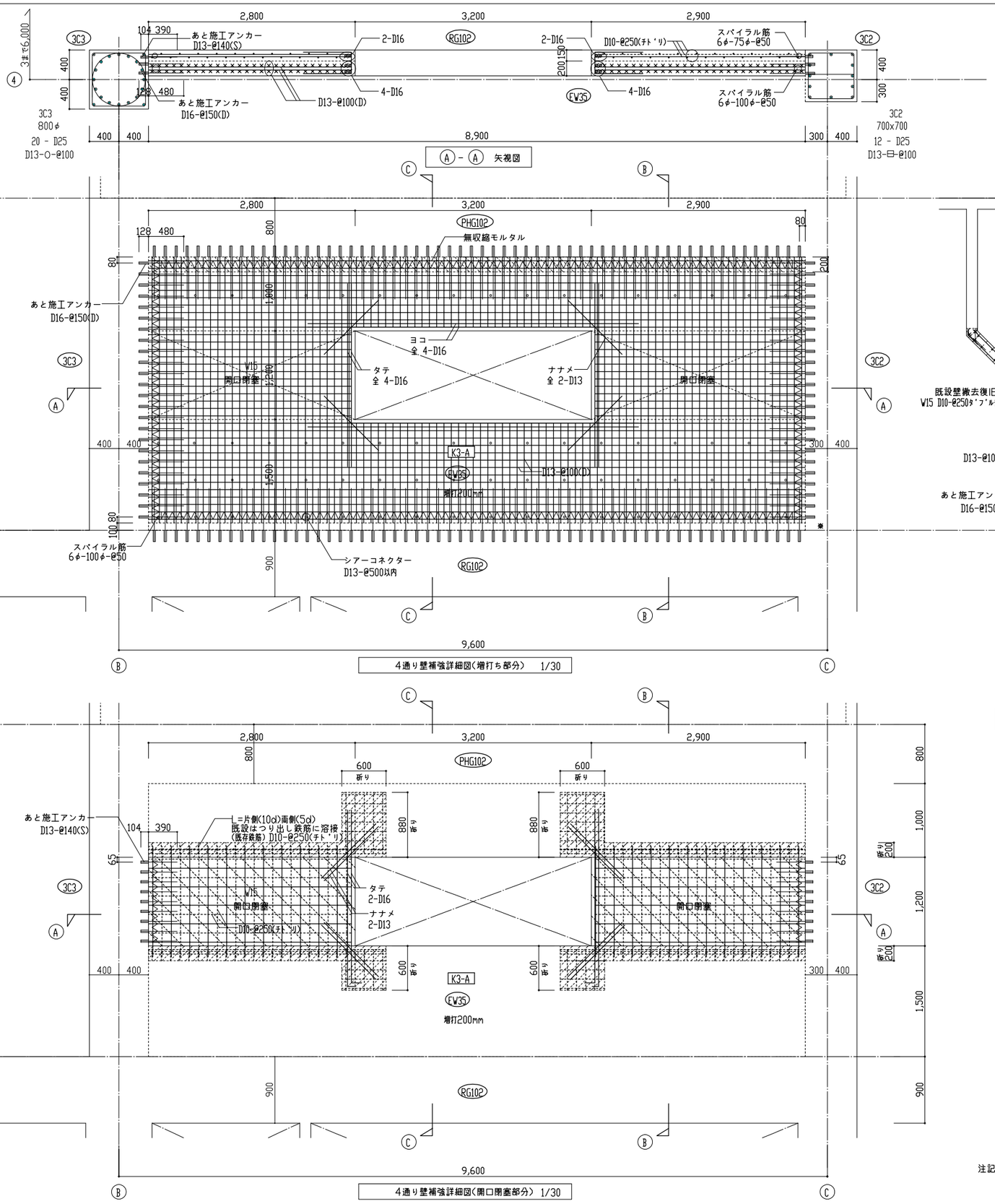
C - C 矢視図

注記）1．箱抜き、スリーブ位置は既存設備開口位置実測の上施工図を作成し、監督員確認の上、施工のこと。
2．アンカー筋を曲げる必要がある場合は、アンカー仕様を注入式に変更し、予めアンカー筋を工場で曲げたものを現場で設置すること。
3．図中※印は、既存増築部は増築配筋の状況を確認の上施工すること。
4．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

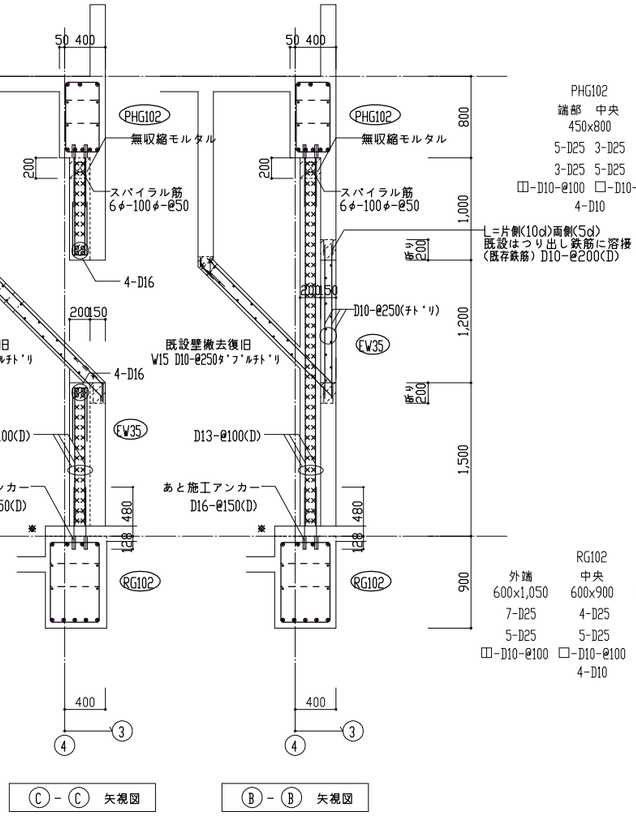
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	補強詳細図（１３）
縮尺	1:30
製作年月日	
承認印 企業長 / 課長 / 係長 / 係	
設計番号	
図番	S-28
十勝中部広域水道企業団	

補強部位　K3-A（3階　4通り、B-C間） 改修配筋図

・ 既存壁の増打ち面は必ず目粗しを行うこと。



4通り壁補強詳細図（増打ち部分）　1/30



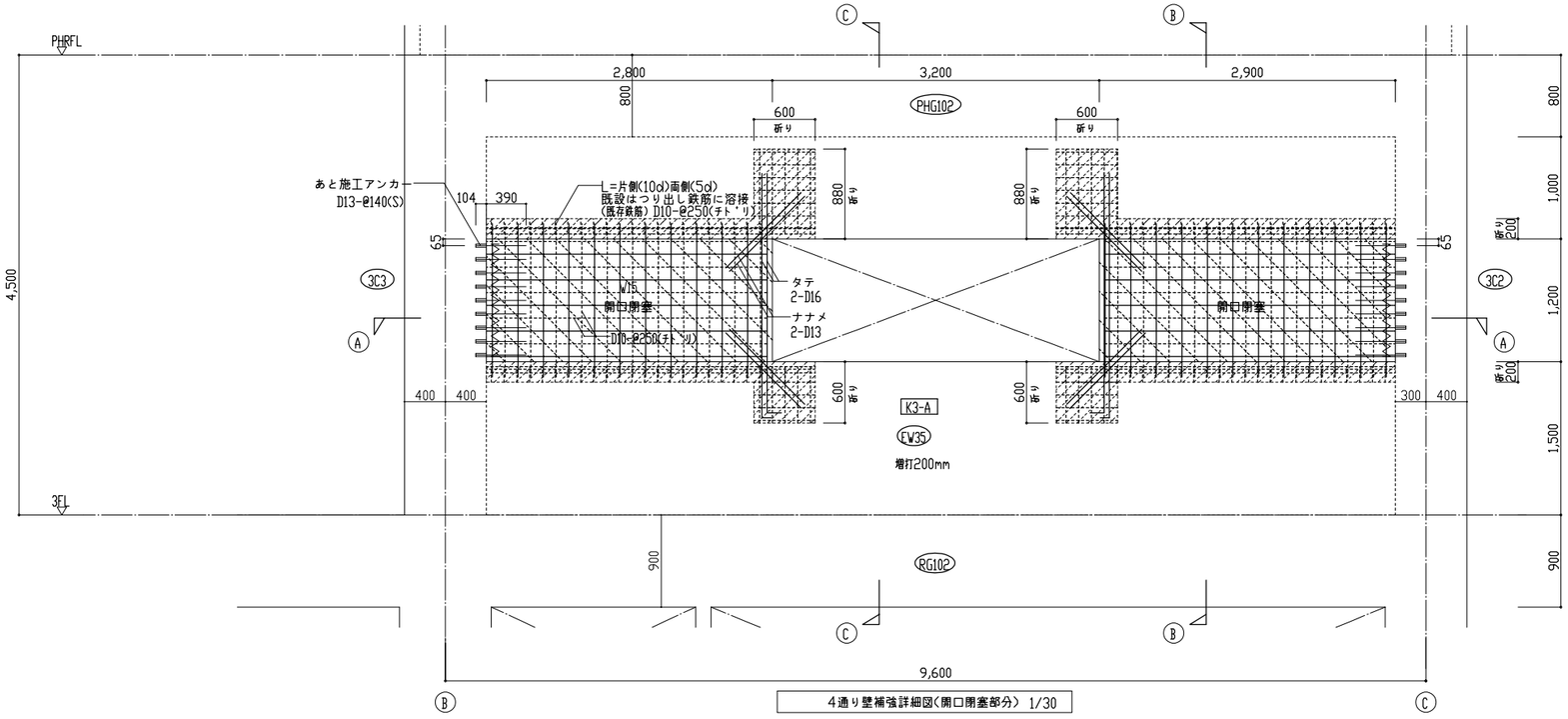
PHG102
端部　中央
450x800
5-D25　3-D25
3-D25　5-D25
□-D10-@100　□-D10-@100
4-D10

RG102

外端	中央	内端
600x1,050	600x900	600x1,050
7-D25	4-D25	9-D25
5-D25	5-D25	5-D25
□-D10-@100	□-D10-@100	□-D10-@100
4-D10		

Ⓒ - Ⓒ 矢視図

Ⓑ - Ⓑ 矢視図



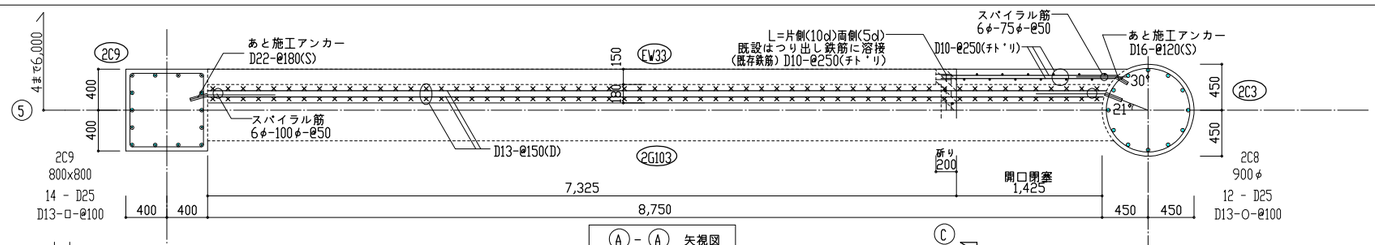
4通り壁補強詳細図（開口閉塞部分）　1/30

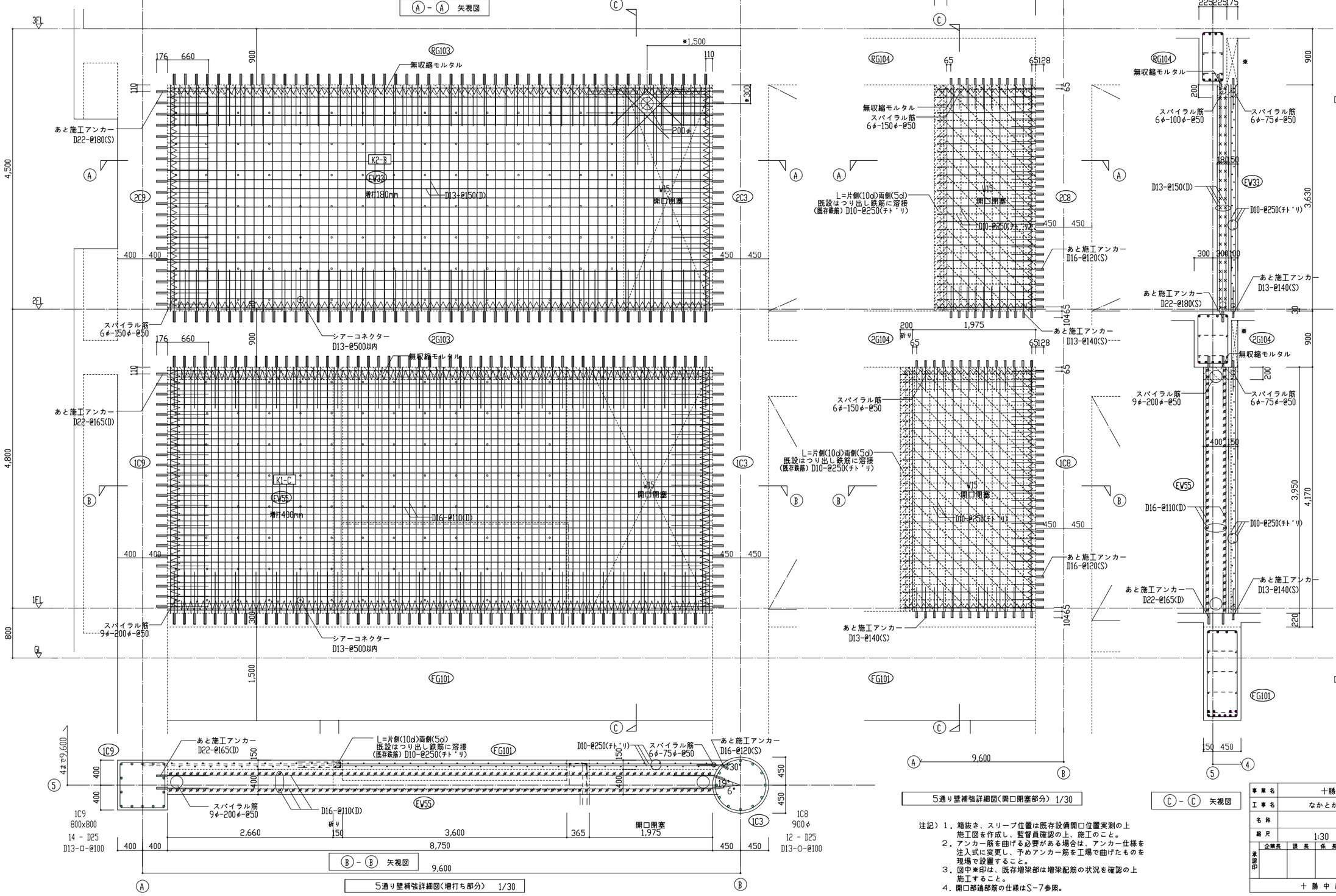
注記）1．図中＊印は、既存増築部は増築配筋の状況を確認の上施工すること。
　　2．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	補強詳細図（１４）					
縮尺	1:30				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-29
十勝中部広域水道企業団						

補強部位　K1-C,K2-B（1,2階　5通り、A-B間）　改修配筋図

・ 既存壁の増打ち面は必ず目粗しを行うこと。





5通り壁補強詳細図（増打ち部分）　1/30

5通り壁補強詳細図（開口閉塞部分）　1/30

C - C 矢視図

注記）1．箱抜き、スリーブ位置は既存設備開口位置実測の上施工図を作成し、監督員確認の上、施工のこと。
2．アンカー筋を曲げる必要がある場合は、アンカー仕様を注入式に変更し、予めアンカー筋を工場で曲げたものを現場で設置すること。
3．図中※印は、既存増築部は増築配筋の状況を確認の上施工すること。
4．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

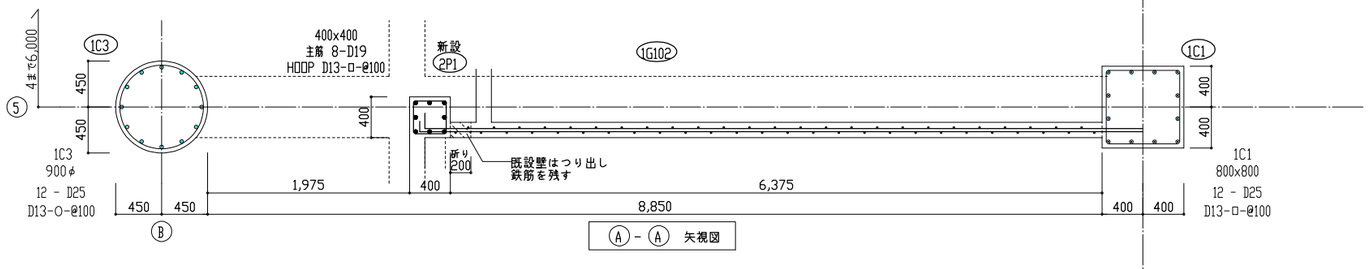
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	補強詳細図（１５）
縮尺	1:30
製作年月日	
設計番号	
図番	S-30

承認印：企業長 / 課長 / 係長 / 係

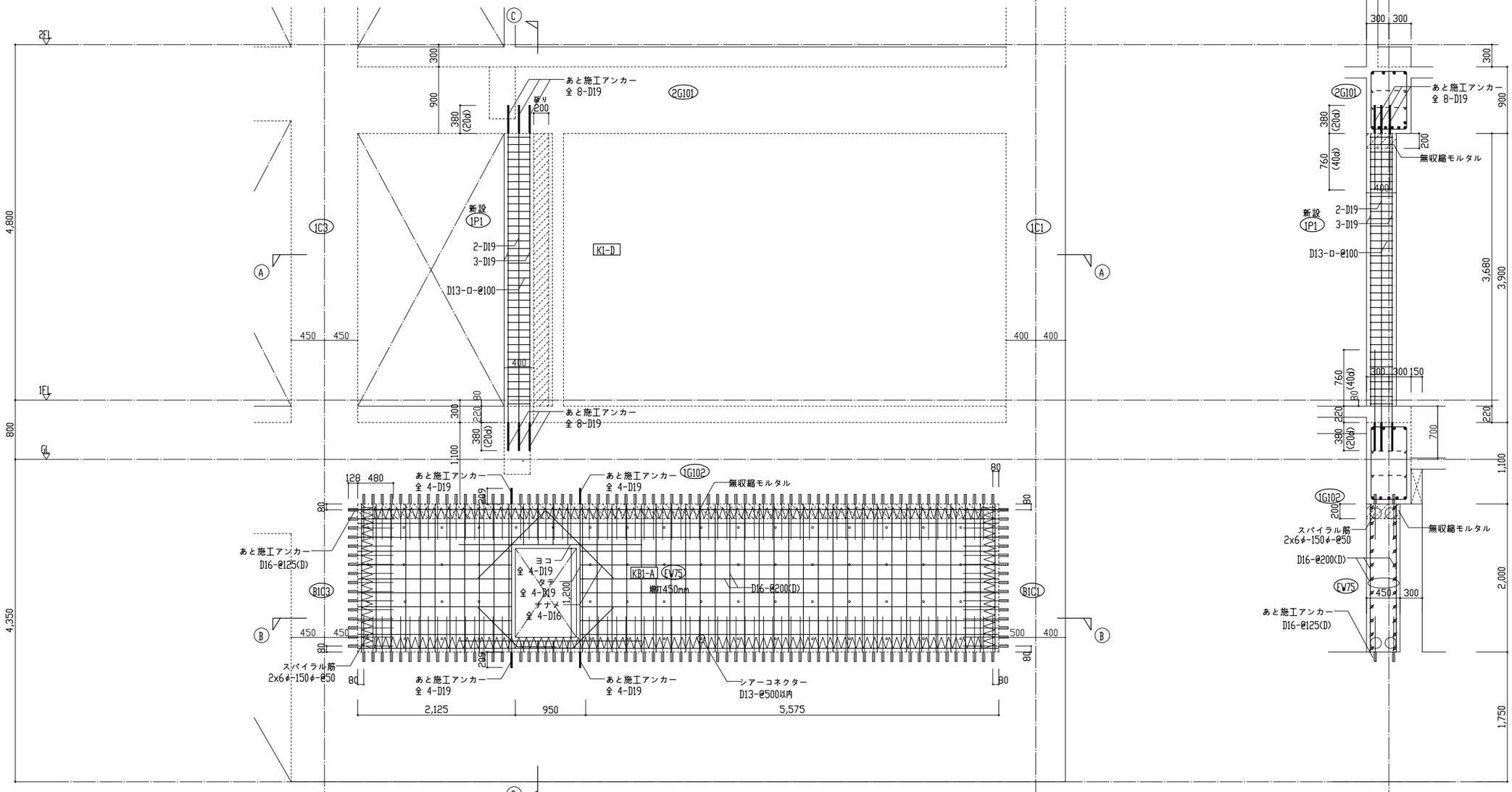
十勝中部広域水道企業団

補強部位　KB1-A,K1-D（B1,1階　5通り、B-C間）　改修配筋図

・ 既存壁の増打ち面は必ず目粗しを行うこと。



Ⓐ - Ⓐ 矢視図

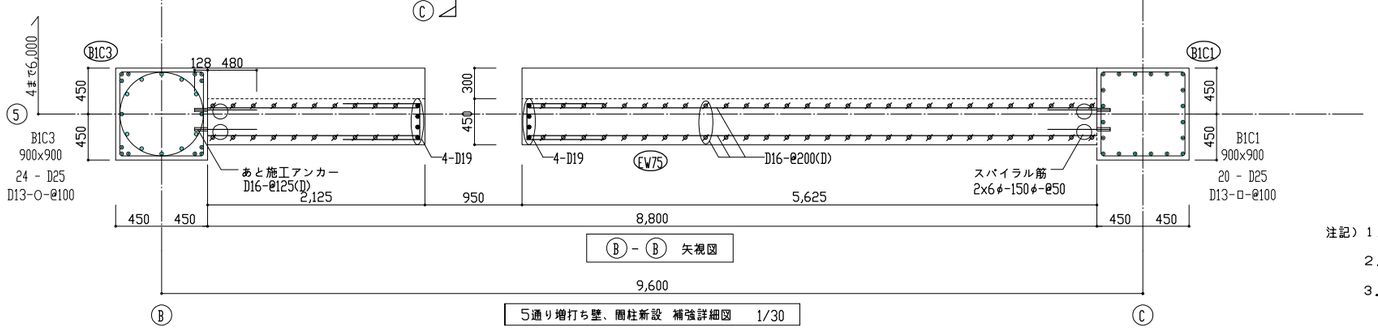


2G101

外端	中央	内端
600x900	600x900	600x900
10-D25	4-D25	12-D25
8-D25	7-D25	12-D25
□-D10-@100	□-D10-@100	□-D10-@100
	4-D10	

1G102

外端	中央	内端
600x1,100	600x1,100	600x1,100
6-D25	4-D25	10-D25
4-D25	5-D25	4-D25
□-D13-@100	□-D13-@100	□-D13-@100
	4-D10	



Ⓑ - Ⓑ 矢視図

Ⓒ - Ⓒ 矢視図

5通り増打ち壁、間柱新設　補強詳細図　1/30

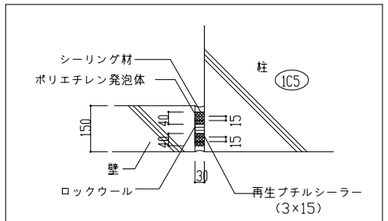
注記）1．箱抜き、スリーブ位置は既存設備開口位置実測の上施工図を作成し、監督員確認の上、施工のこと。
2．図中＊印は、既存増築部は増築配筋の状況を確認の上施工すること。
3．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	補強詳細図（１６）					
縮尺	1:30				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-31

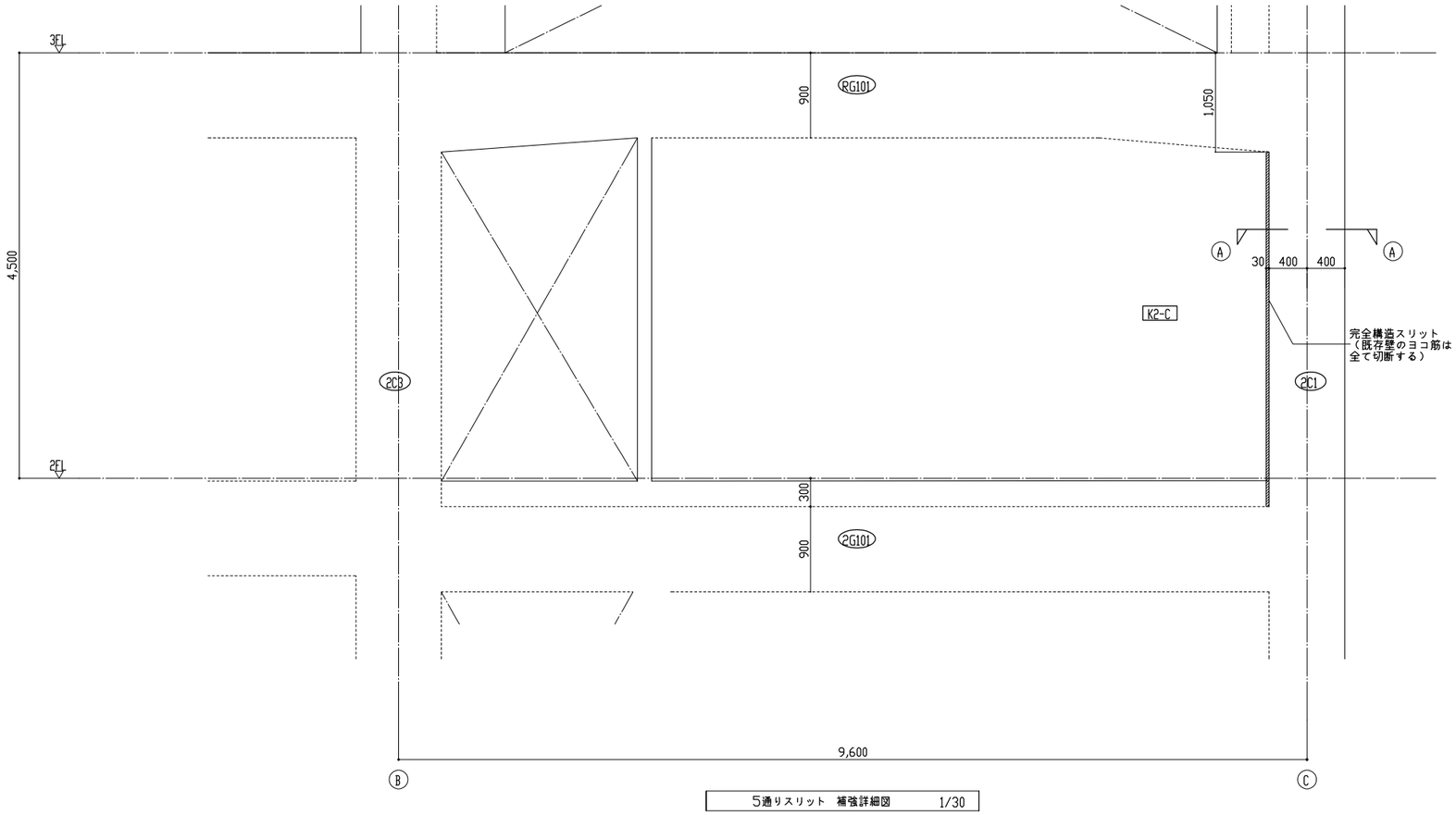
十勝中部広域水道企業団

・スリット形式　　完全スリット
・スリット幅　　＊30mm以上
・スリット材の仕様　＊耐火性能及び止水機能を有する材料

・特記なき限り（共通事項）　端部補強筋は切断の事



Ⓐ－Ⓐ　断面詳細図　1/10

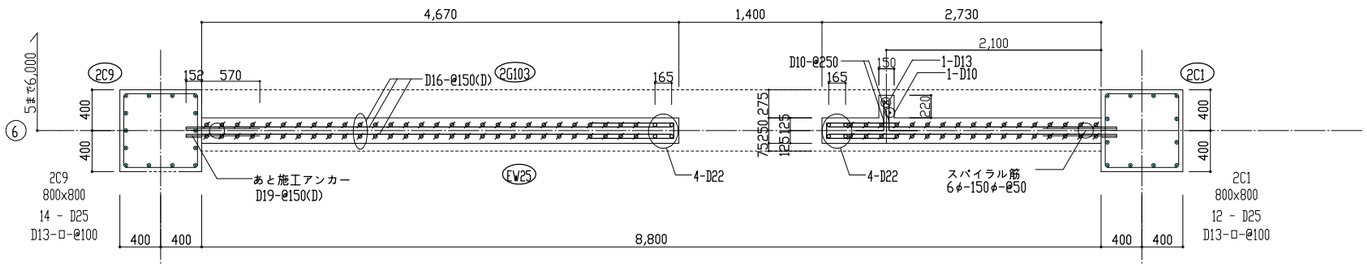


5通りスリット　補強詳細図　1/30

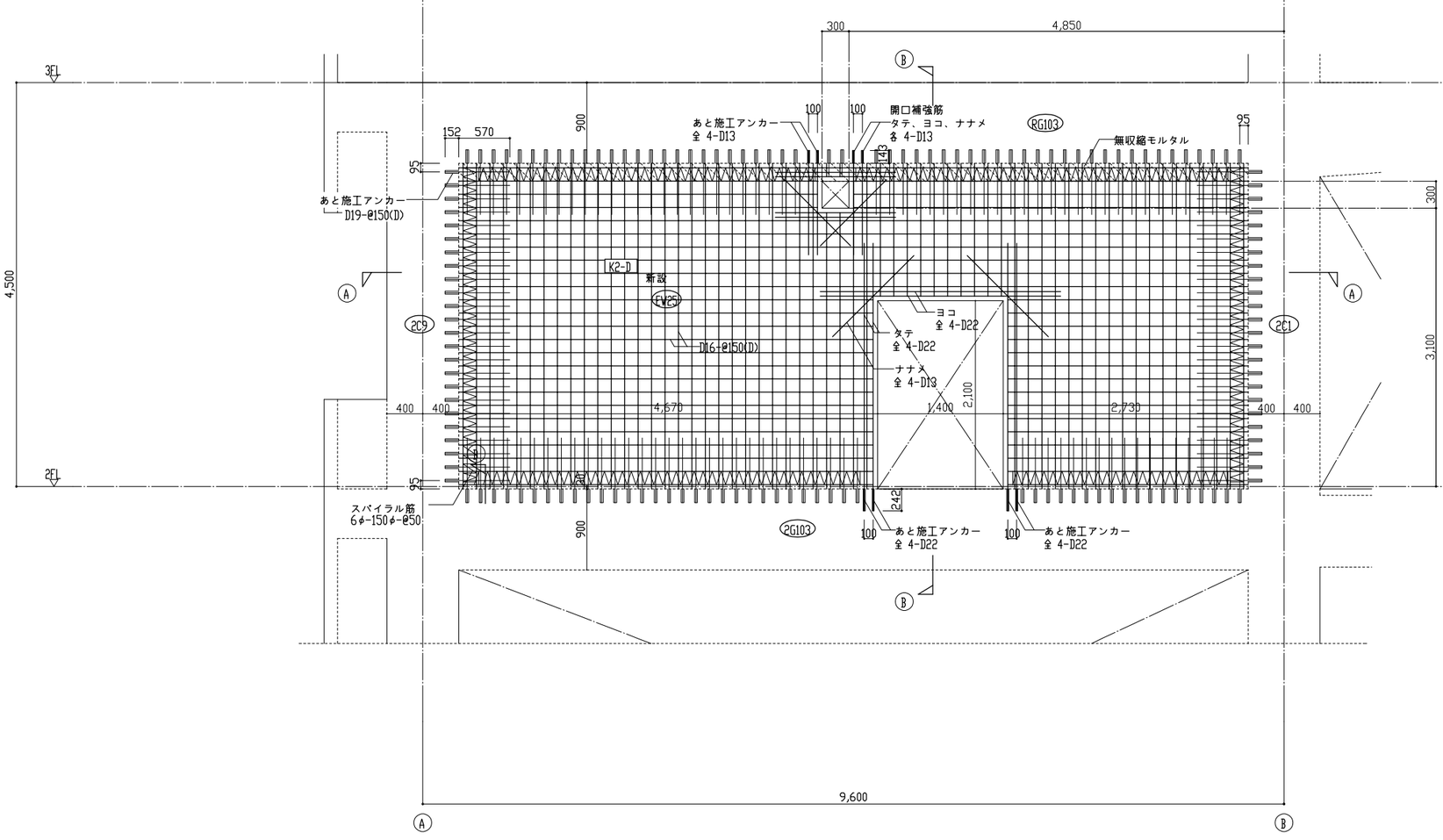
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	補強詳細図（１７）						
縮尺	1:30				製作年月日		
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号		
					図番	S-32	
十勝中部広域水道企業団							

補強部位　K2-D（2階　6通り、A-B間）改修配筋図

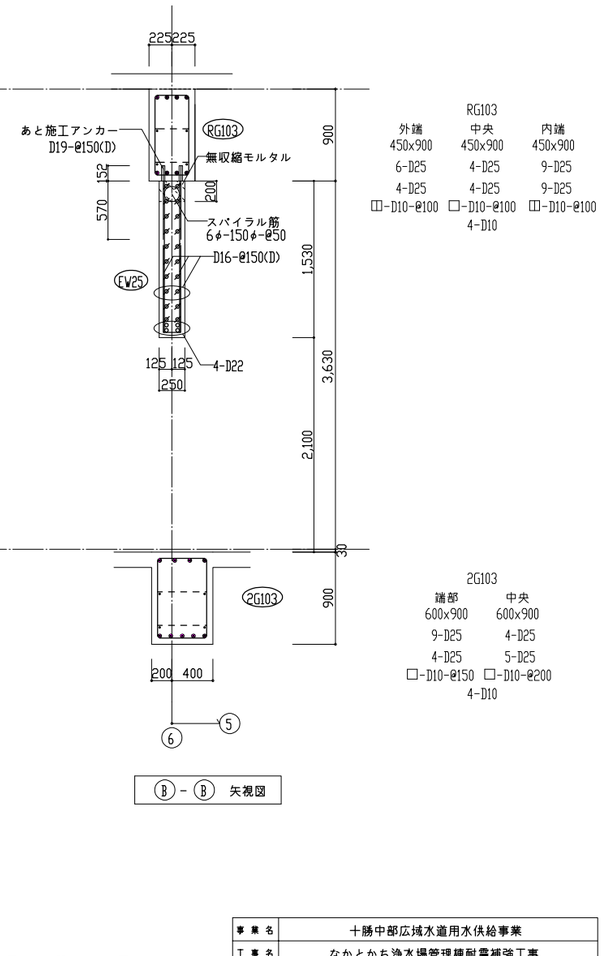
・ 新設壁に接する既存コンクリートの表面は必ず目粗しを行うこと。



A - A 矢視図



6通り新設壁　補強詳細図　1/30



B - B 矢視図

RG103

外端	中央	内端
450x900	450x900	450x900
6-D25	4-D25	9-D25
4-D25	4-D25	9-D25
□-D10-@100	□-D10-@100	□-D10-@100
	4-D10	

2G103

端部	中央
600x900	600x900
9-D25	4-D25
4-D25	5-D25
□-D10-@150	□-D10-@200
	4-D10

注記）1．箱抜き、スリーブ位置は既存設備開口位置実測の上施工図を作成し、監督員確認の上、施工のこと。
2．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

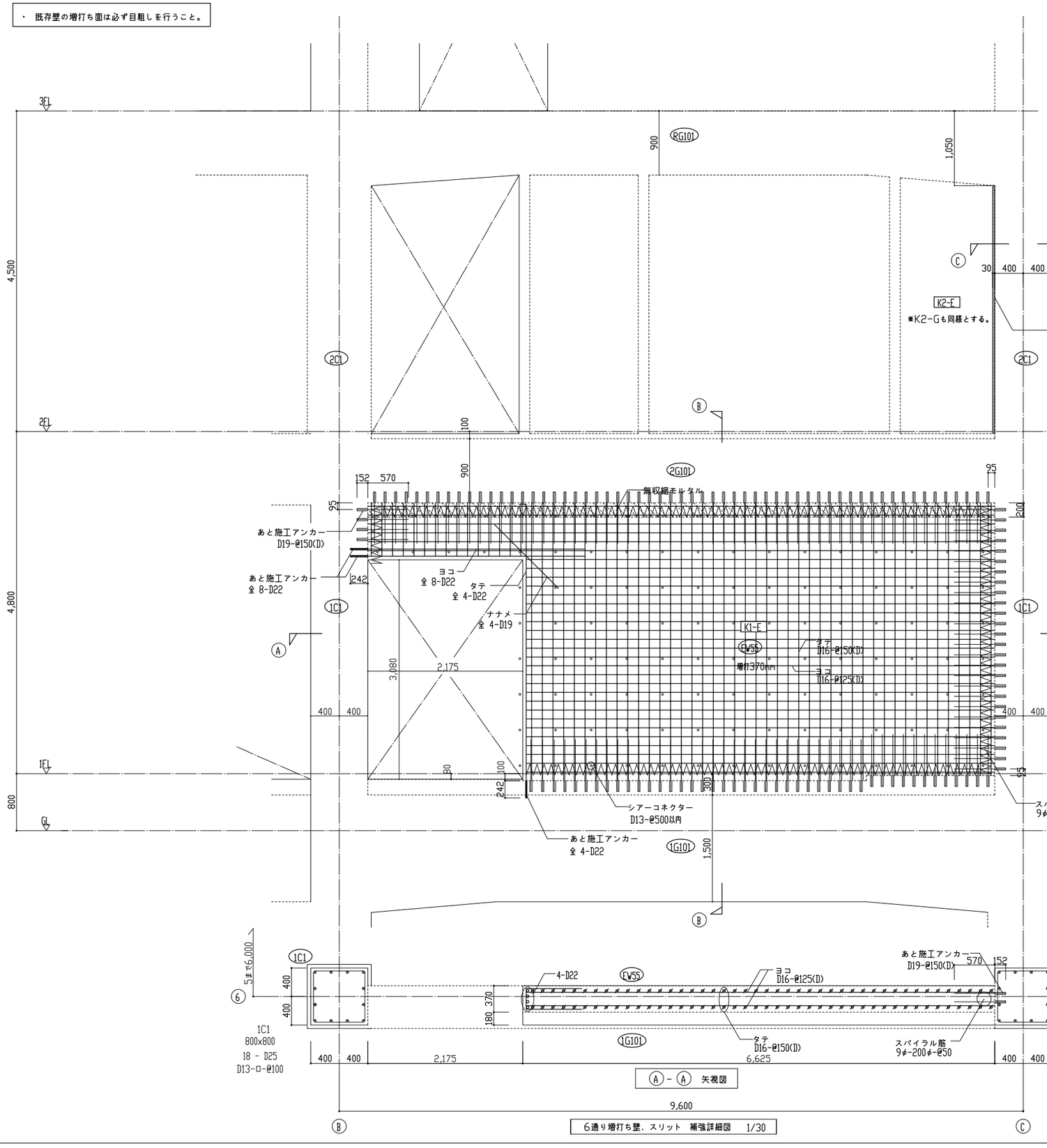
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	補強詳細図（18）					
縮尺	1:30				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-33
十勝中部広域水道企業団						

補強部位　K1-E,K2-E（1,2階　6通り、B-C間）改修配筋図　　※K2-G（2階　7通り、B-C間）も同様とする。

・既存壁の増打ち面は必ず目粗しを行うこと。

・スリット形式　　完全スリット
・スリット幅　　※30mm以上
・スリット材の仕様　※耐火性能及び止水機能を有する材料

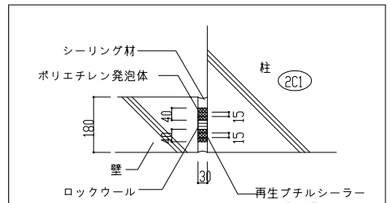
・特記なき限り（共通事項）　端部補強筋は切断の事



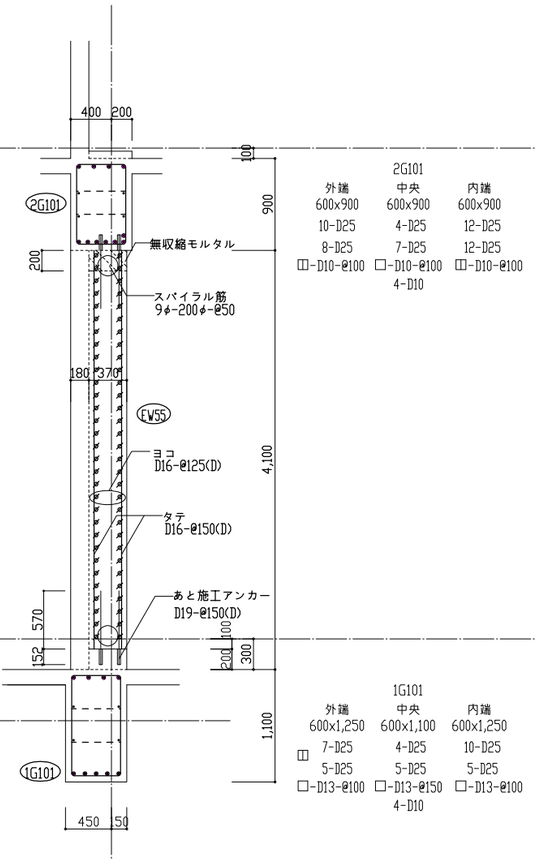
A－A　矢視図

B－B　矢視図

6通り増打ち壁、スリット　補強詳細図　1/30



C－C　断面詳細図　1/10



2G101

	外端	中央	内端
	600x900	600x900	600x900
	10-D25	4-D25	12-D25
	8-D25	7-D25	12-D25
	□-D10-@100	□-D10-@100	□-D10-@100
		4-D10	

1G101

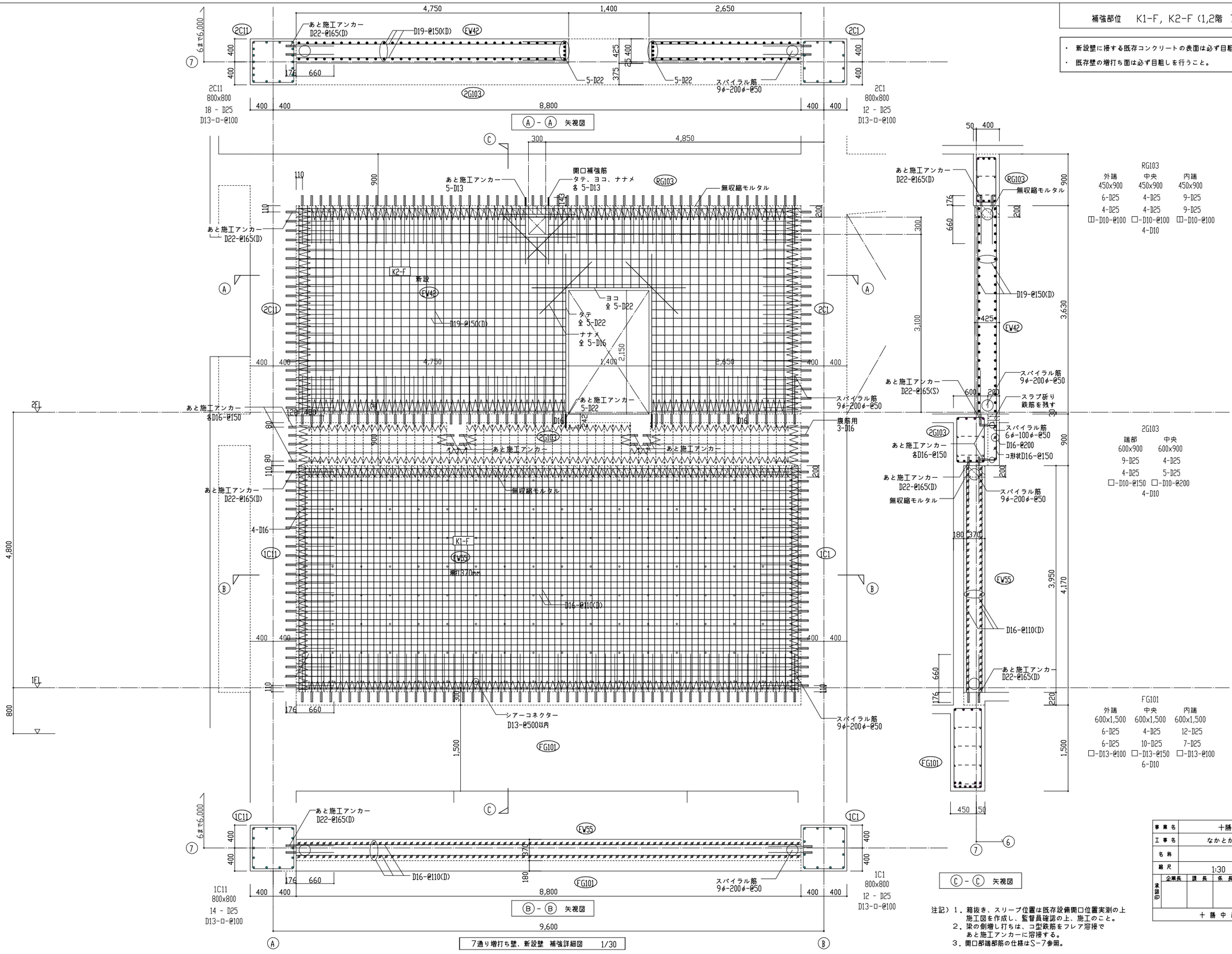
	外端	中央	内端
	600x1,250	600x1,100	600x1,250
口	7-D25	4-D25	10-D25
	5-D25	5-D25	5-D25
	□-D13-@100	□-D13-@150	□-D13-@100
		4-D10	

注記）1．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	補強詳細図（１９）					
縮尺	1:30				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-34
十勝中部広域水道企業団						

補強部位　K1-F，K2-F（1,2階　7通り、A-B間）改修配筋図

・新設壁に接する既存コンクリートの表面は必ず目粗しを行うこと。
・既存壁の増打ち面は必ず目粗しを行うこと。

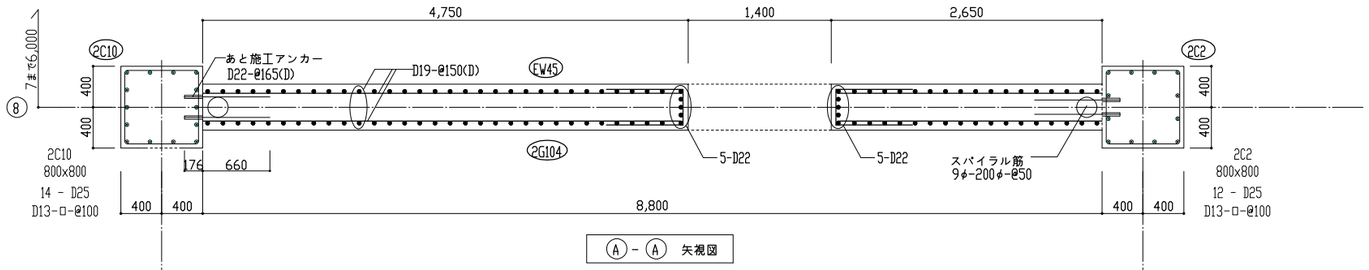


注記）1．箱抜き、スリーブ位置は既存設備開口位置実測の上施工図を作成し、監督員確認の上、施工のこと。
2．梁の側増し打ちは、コ型鉄筋をフレア溶接であと施工アンカーに溶接する。
3．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

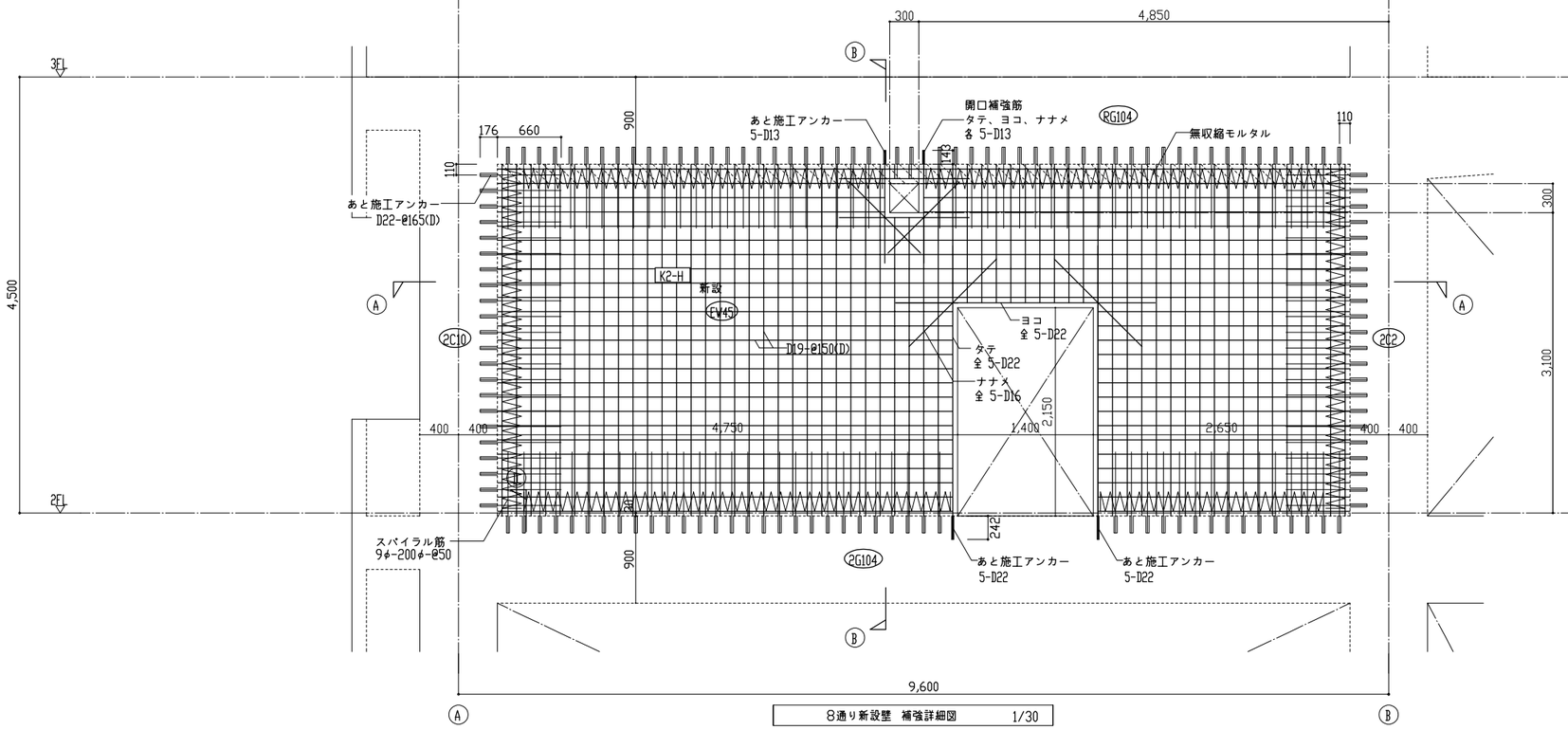
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	補強詳細図（２０）
縮尺	1:30
製作年月日	
承認印	企業長 / 課長 / 係長 / 係
設計番号	
図番	S-35

十勝中部広域水道企業団

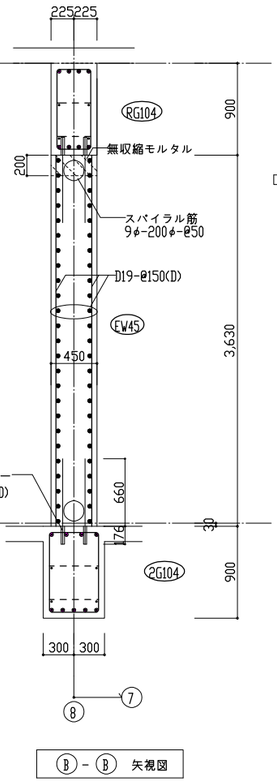
・新設壁に接する既存コンクリートの表面は必ず目粗しを行うこと。



A - A 矢視図



8通り新設壁　補強詳細図　1/30



B - B 矢視図

RG104

外端	中央	内端
450x900	450x900	450x900
6-D25	4-D25	8-D25
4-D25	4-D25	8-D25
□-D10-@100	□-D10-@100	□-D10-@100
4-D10		

2G104

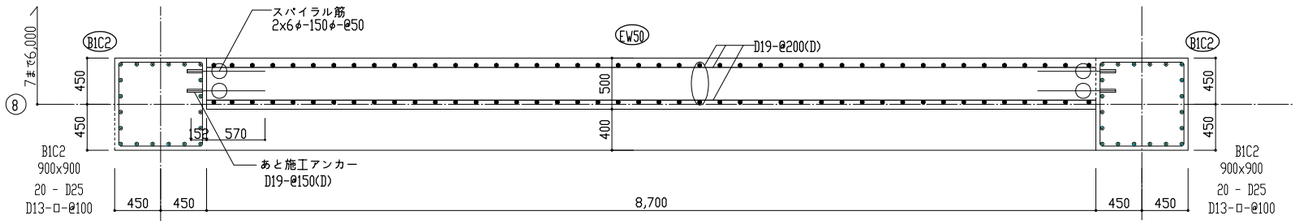
端部	中央
600x900	600x900
9-D25	4-D25
4-D25	5-D25
□-D10-@100	□-D10-@150
4-D10	

注記）1．箱抜き、スリーブ位置は既存設備開口位置実測の上
施工図を作成し、監督員確認の上、施工のこと。
2．開口部補部筋の仕様はS-7参照。

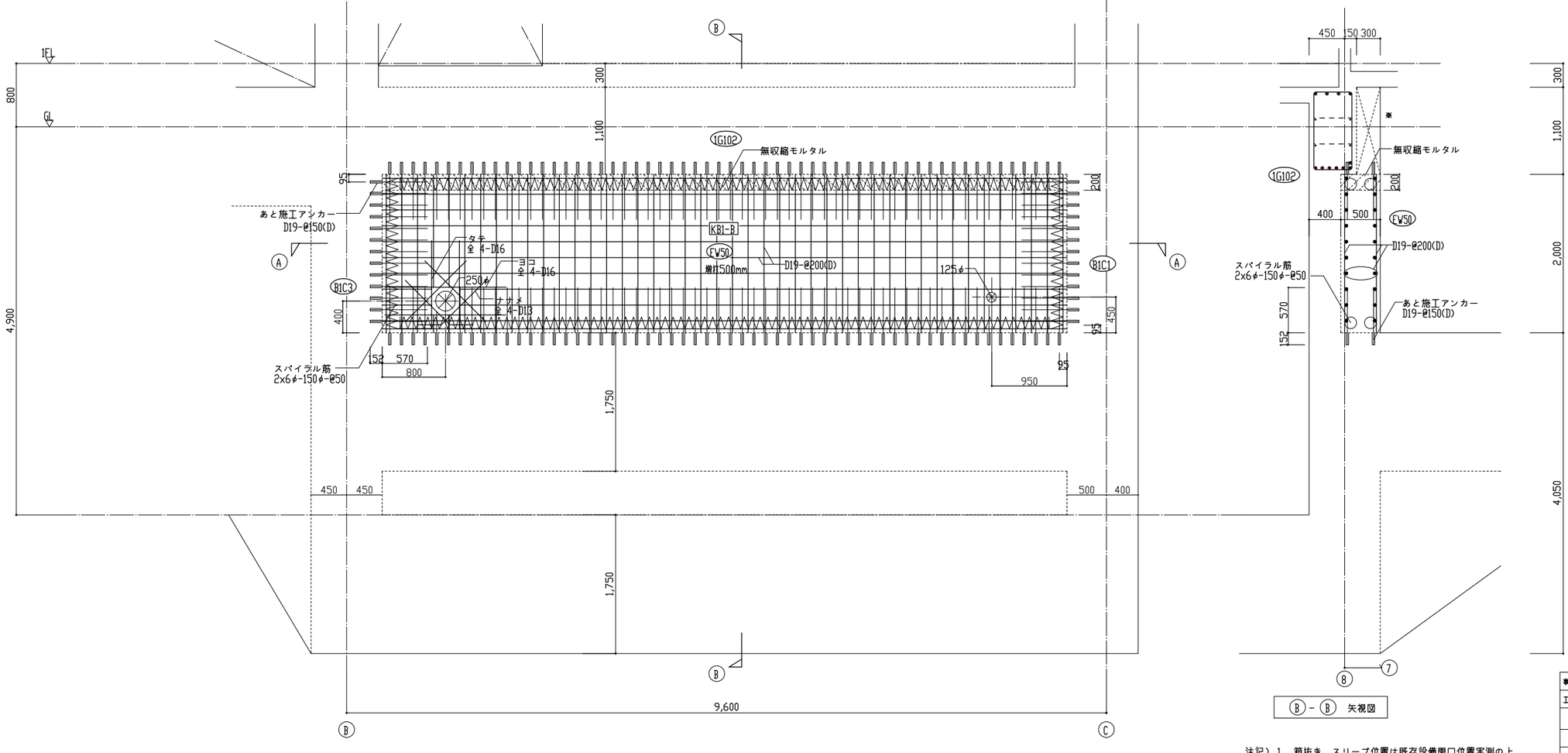
事業名	十勝中部広域水道用水供給事業				
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事				
名称	補強詳細図（２１）				
縮尺	1:30			製作年月日	
承認印 企業長	課長	係長	係	設計番号	
				図番	S-36
十勝中部広域水道企業団					

補強部位　KB1-B（B1階　8通り、B-C間）　改修配筋図

・ 補強壁に接する既存コンクリート（柱、梁、スラブ）の表面は必ず目粗しを行うこと。
既存壁に対し、シアーコネクターは無しで、目粗しも行わないこと。

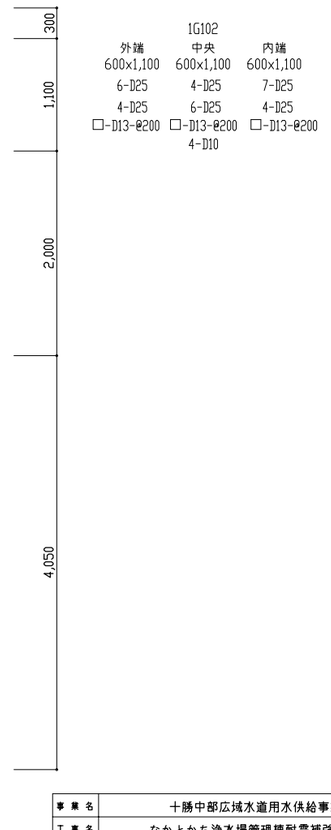


A - A 矢視図



8通り増打ち壁　補強詳細図　1/30

B - B 矢視図



1G102

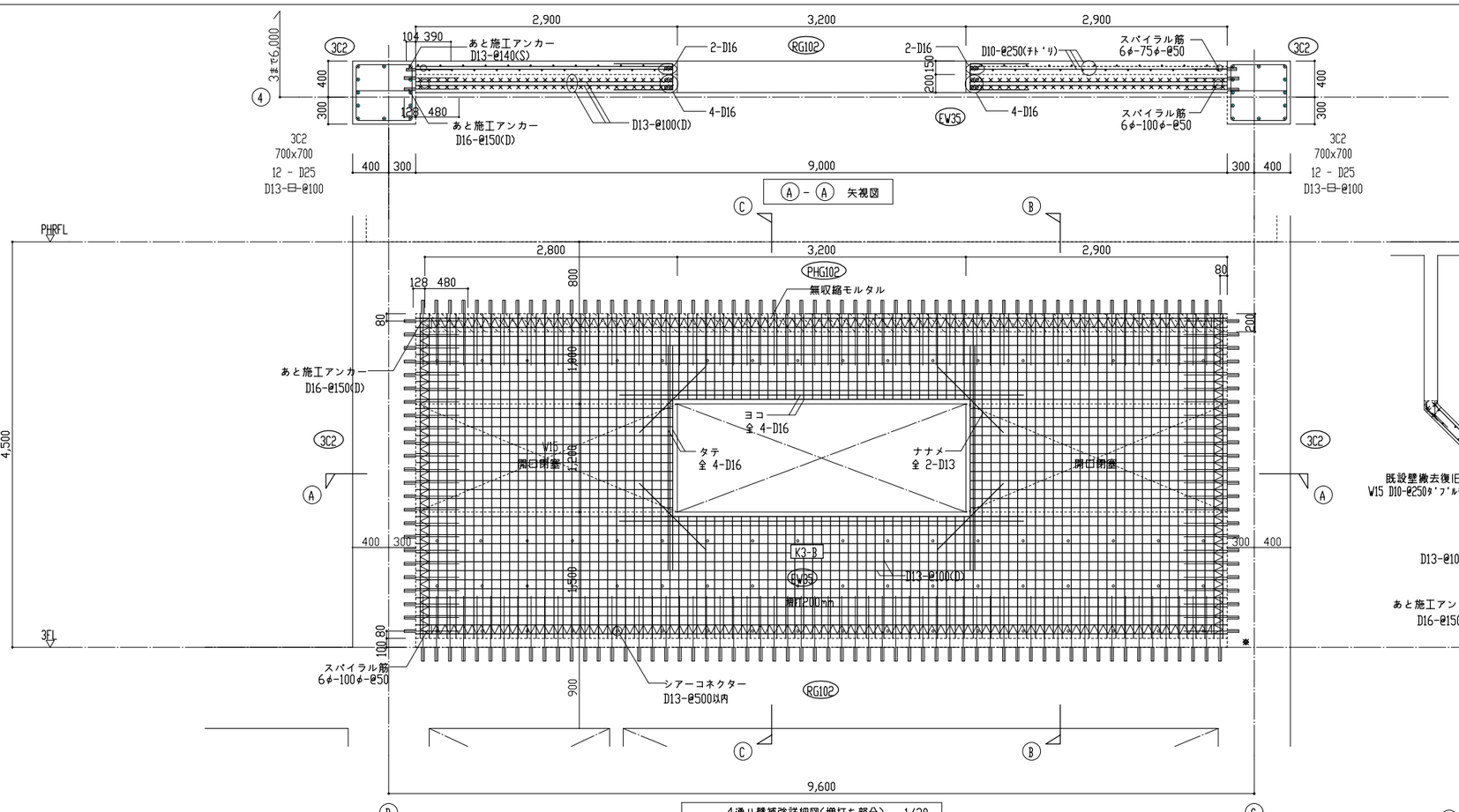
外端	中央	内端
600x1,100	600x1,100	600x1,100
6-D25	4-D25	7-D25
4-D25	6-D25	4-D25
□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200
	4-D10	

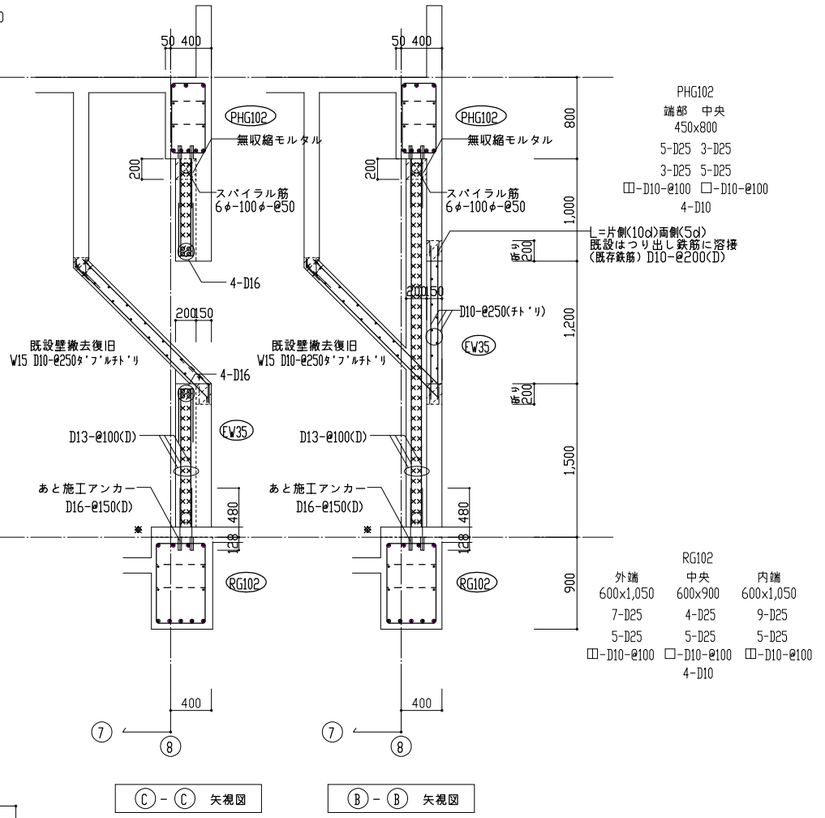
注記）1．箱抜き、スリーブ位置は既存設備開口位置実測の上施工図を作成し、監督員確認の上、施工のこと。
2．図中※印は、既存増築部は増築配筋の状況を確認の上施工すること。
3．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	補強詳細図（２２）						
縮尺	1:30				製作年月日		
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号		
					図番	S-37	
十勝中部広域水道企業団							

補強部位　K3-B（3階 8通り、B-C間） 改修配筋図

・ 既存壁の増打ち面は必ず目粗しを行うこと。



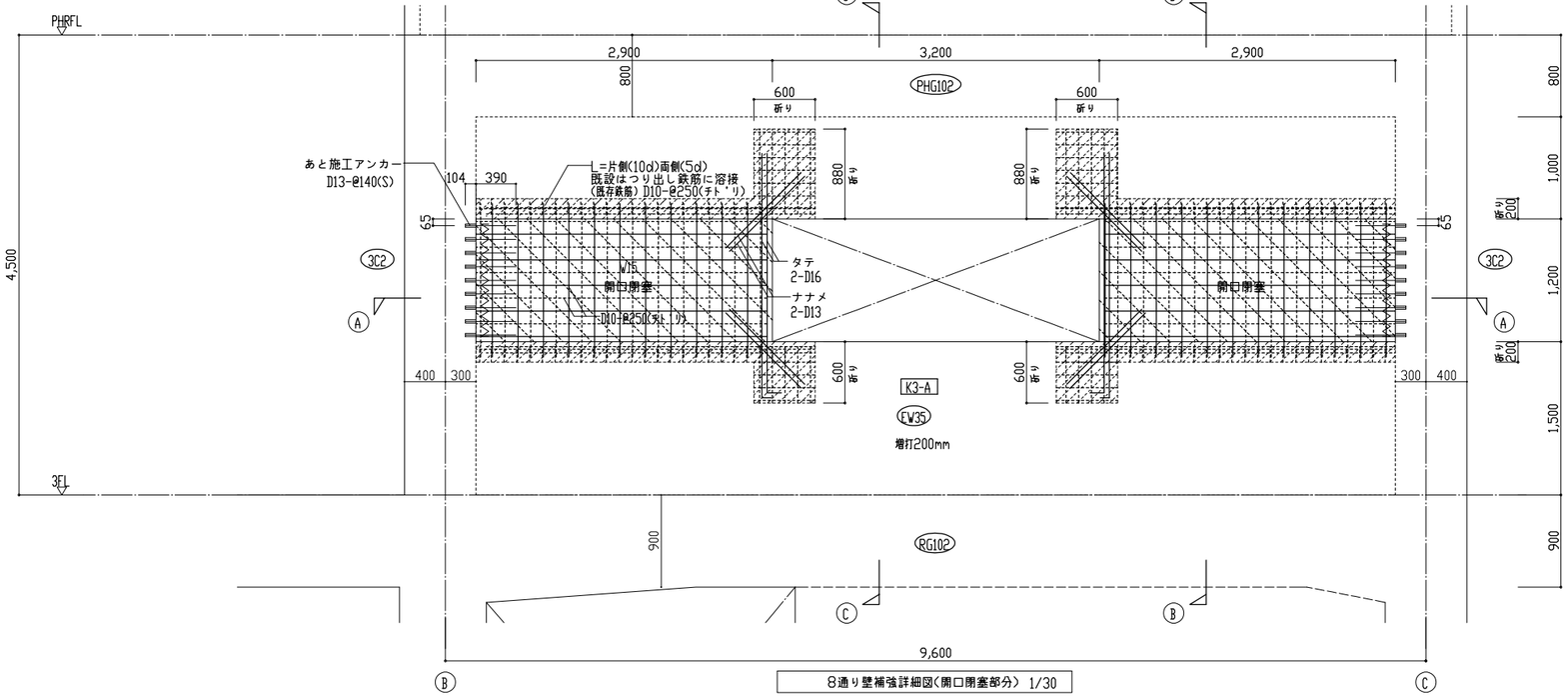


PHG102
端部　中央
450x800
5-D25　3-D25
3-D25　5-D25
□-D10-@100　□-D10-@100
4-D10

L=片側(10d)両側(5d)
既設はつり出し鉄筋に溶接
(既存鉄筋) D10-@200(D)

RG102

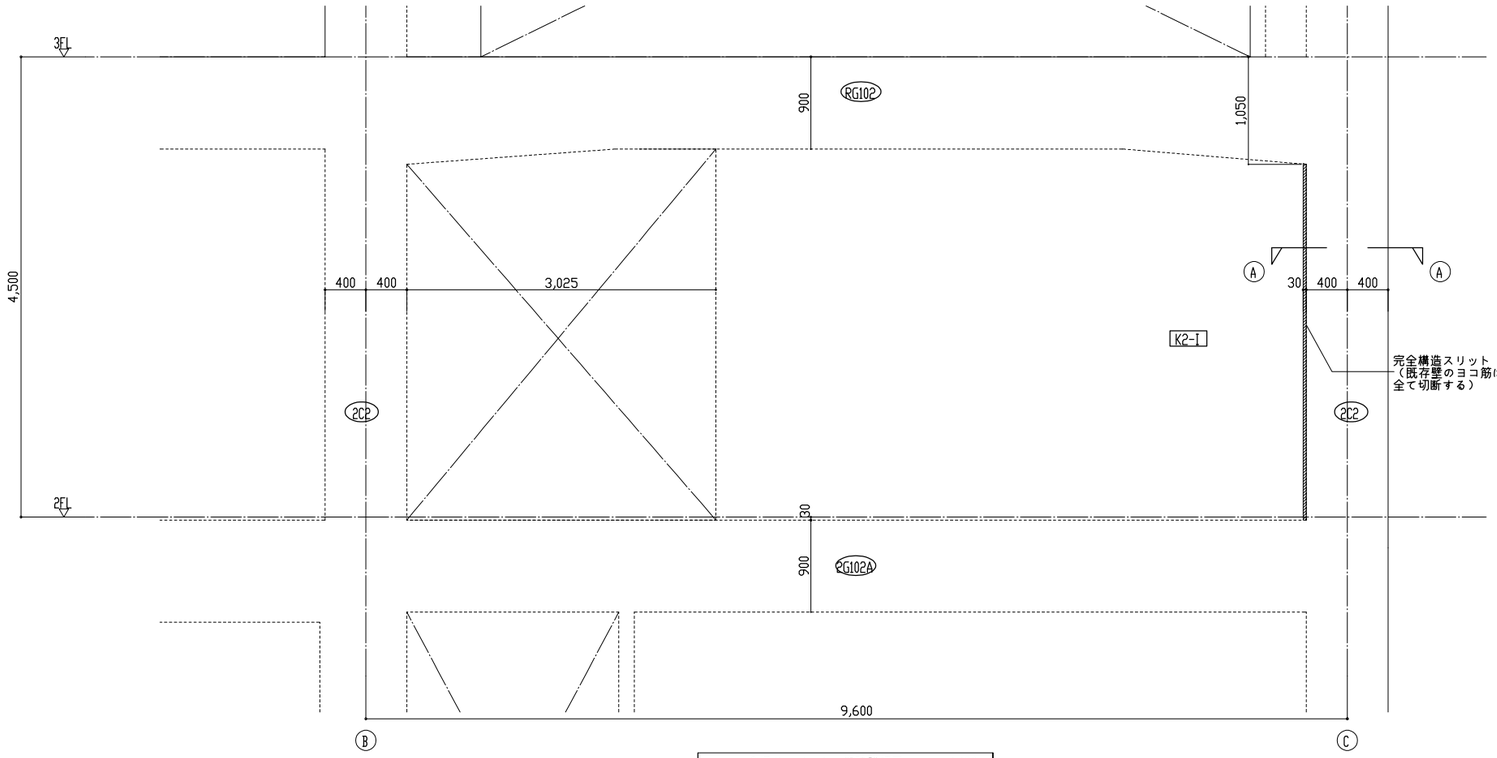
外端	中央	内端
600x1,050	600x900	600x1,050
7-D25	4-D25	9-D25
5-D25	5-D25	5-D25
□-D10-@100	□-D10-@100	□-D10-@100
4-D10		



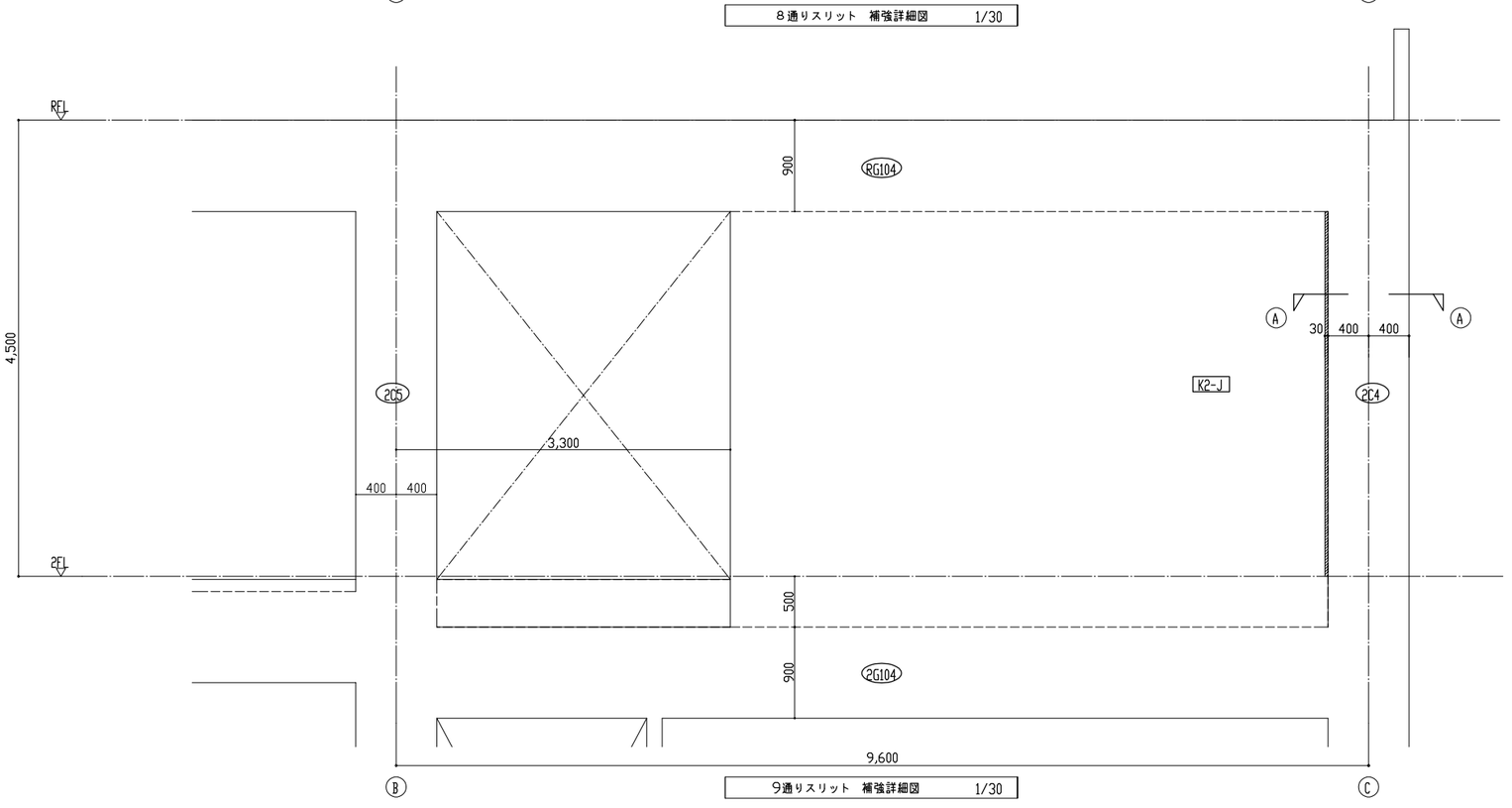
注記）1．図中＊印は、既存増築部は増築配筋の状況を確認の上施工すること。
2．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業					
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事					
名称	補強詳細図（２３）					
縮尺	1:30				製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号	
					図番	S-38
十勝中部広域水道企業団						

補強部位　K2-I,K2-J（2階　8通り、B-C間　9通り、B-C間）改修図



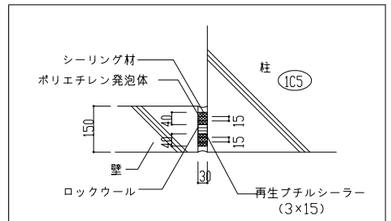
8通りスリット　補強詳細図　1/30



9通りスリット　補強詳細図　1/30

・スリット形式　　完全スリット
・スリット幅　　※30mm以上
・スリット材の仕様　※耐火性能及び止水機能を有する材料

・特記なき限り（共通事項）　端部補強筋は切断の事

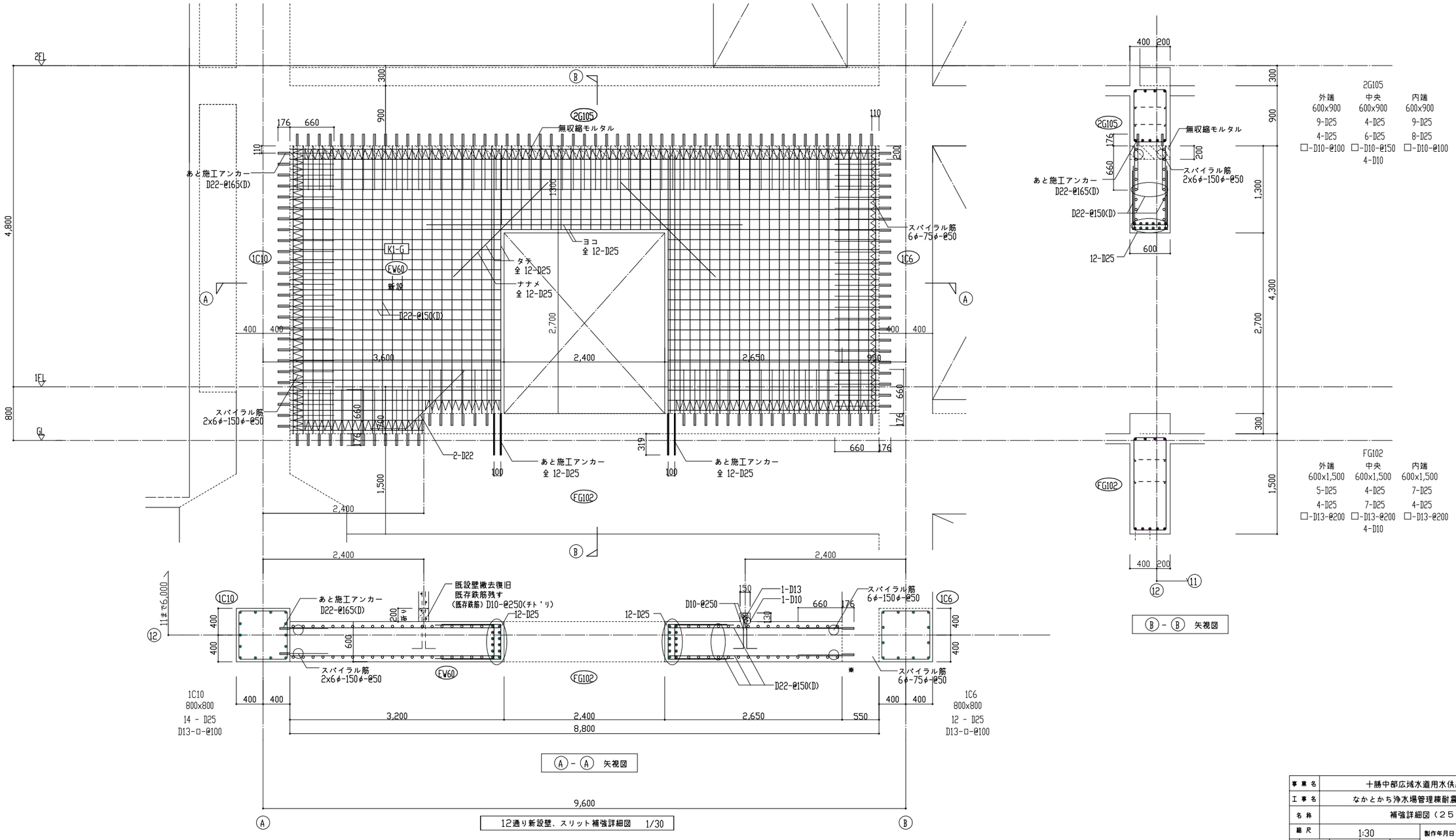


A - A　断面詳細図　1/10

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	補強詳細図（２４）						
縮尺	1:30				製作年月日		
承認印	企業長	課長	係長	係	設計番号		
					図番	S-39	
十勝中部広域水道企業団							

補強部位　K1-G（1階　12通り、A-B間）　改修配筋図

・ 新設壁に接する既存コンクリートの表面は必ず目粗しを行うこと。



注記）1．図中※印は、煙突部は、配筋の状況を確認の上施工を行うこと。
2．開口部端部筋の仕様はS-7参照。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	補強詳細図（２５）						
縮尺	1:30					製作年月日	
承認印	企業長	課長	係長	係		設計番号	
						図番	S-40
十勝中部広域水道企業団							

十 勝 中 部 広 域 水 道 用 水 供 給 事 業

なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事

建築機械設備図

図 番	図 面 名 称	縮 尺	図 番	図 面 名 称	縮 尺
-	機械設備特記仕様書	NONE	AM-9	暖房・換気・衛生設備　機器表(改修前)	NONE
AM-1	暖房・換気・衛生設備　機器表(改修後)	NONE	AM-10	暖房設備　B1階平面図(改修前)	1/100
AM-2	暖房設備　B1階平面図(改修後)	1/100	AM-11	暖房設備　1階平面図(改修前)	1/100
AM-3	暖房設備　1階平面図(改修後)	1/100	AM-12	暖房設備　2階平面図(改修前)	1/100
AM-4	暖房設備　2階平面図(改修後)	1/100	AM-13	換気設備　1階平面図(改修前)	1/100
AM-5	換気設備　1階平面図(改修後)	1/100	AM-14	換気設備　2階平面図(改修前)	1/100
AM-6	換気設備　2階平面図(改修後)	1/100	AM-15	衛生設備　1階平面図(改修前)	1/100
AM-7	衛生設備　1階平面図(改修後)	1/100	AM-16	衛生設備　2階平面図(改修前)	1/100
AM-8	衛生設備　2階平面図(改修後)	1/100			

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団

換気機器表[改修後]

記号	機器名称	仕様	電源(50Hz) φ	V	kW	台数	設置場所	備考
FE-22 (再取付)	天井換気扇 (排気)	低騒音形 100φ×120m3/h×40Pa	1	100	0.01	1	1F資料室	
FE-25 (再取付)	天井換気扇 (排気)	低騒音形 150φ×180m3/h×40Pa	1	100	0.01	1	2F物入れ(3)	
FS-52 (再取付)	斜流ファン (給気)	天吊形(消音ボックス付) 300φ×1800m3/h×200Pa	3	200	0.3	1	2Fホール	

暖房機器表[改修後]

記号	機器名称	形式	仕様	電源(50Hz) φ	V	kW	台数	設置場所	備考
FVC-3 (移設再使用)	ファンコンベクター	天井露出形	鋼板製・温水用 暖房能力:3.7kW 温水量:5.3L/min	1	100	0.05	2	1F器材庫	
FVF-10 (新設)	ファンコンベクター	床置露出形	鋼板製・温水用 暖房能力:4.6kW 温水量:7.0L/min BAV20×2	1	100	0.05	1	2F控室	
FVF-11 (新設)	ファンコンベクター	床置露出形	鋼板製・温水用 暖房能力:8.9kW 温水量:13.9L/min BAV20×2	1	100	0.06	1	2F資料室	DF-31W2相当
FVF-9 (移設再使用)	ファンコンベクター	床置露出形	鋼板製・温水用 暖房能力:7.2kW 温水量:10.3L/min	1	100	0.08	1	1F工作室	DF-41W2相当
AWC-1 (再取付)	加熱コイル	横形フラット型 温水コイル	暖房能力:5480kcal/h 温水量:9.2L/min 送風量:1800m3/h	1			1	2Fホール	

衛生器具表[改修後]

名称	記号	仕様	1F便所(女)	1F身障者便所	数	備考
洗面器	TOTO :L532	アンダーカウンター式洗面器,シングルレバー混合水栓	2		2	
(新設)	LIXIL:L-2295	水石鹸入れ,Pトラップ,他付属金具共				
ペーパーホルダー		プラスチック製	1	1	2	
(再取付)						
洗面器		洗面器、電気温水器		1	1	
(再取付)						
大形鏡		建築工事	−		−	

注記　国土交通省記号以外は参考品番とする。

凡　例

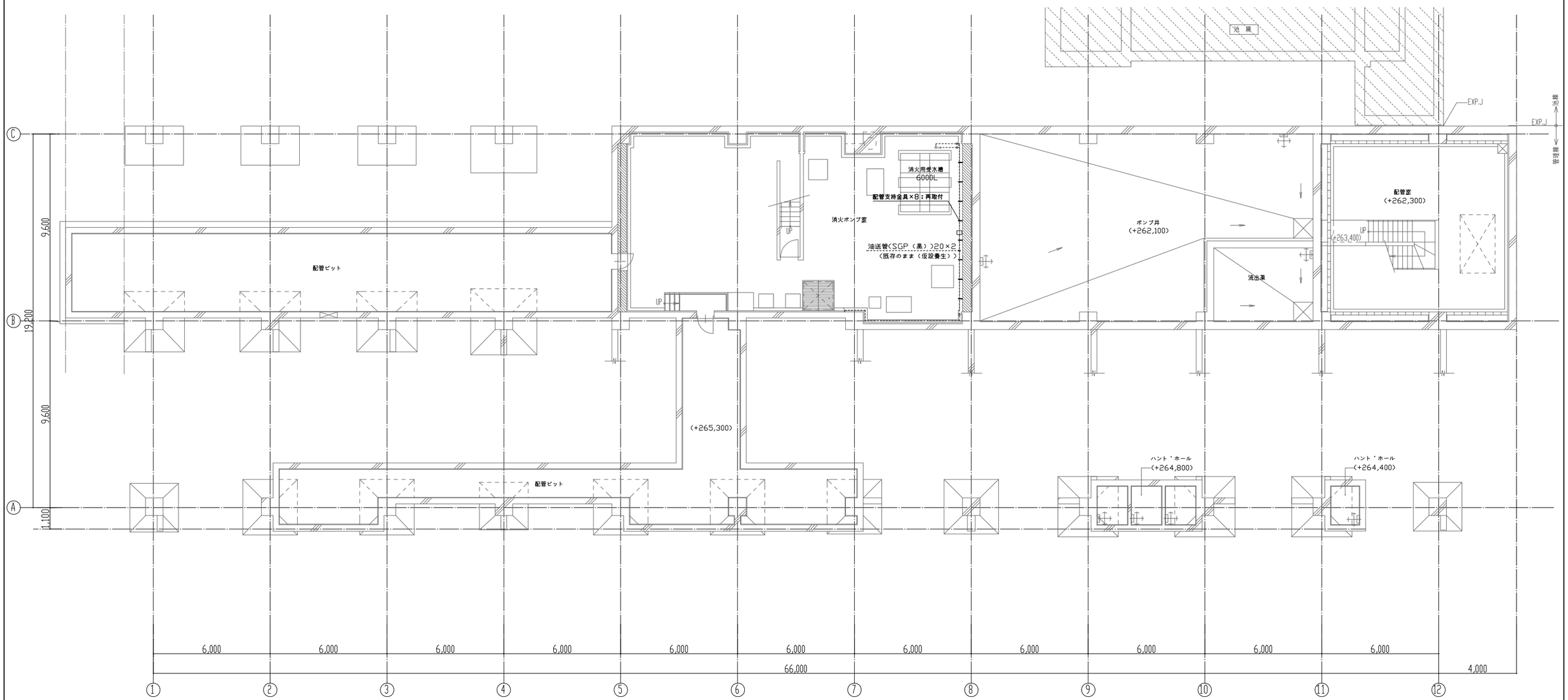
記　号	名　称	仕　様	保温 屋内露出	天井隠蔽	ピット内
――――-―――	給水管	塩ビライニング鋼管(VB)	○	○	○
―――――――	排水管	配管用炭素鋼鋼管(白)			
– – – – – – – – –	通気管	配管用炭素鋼鋼管(白)			
――I――II――	給湯管	耐熱性ライニング鋼管	○	○	○
―――G―――	ガス管	配管用炭素鋼鋼管(白)			
―――RD―――	雨水管	配管用炭素鋼鋼管(白)	○		
―HS―HR―	温水管	配管用炭素鋼鋼管(白)	○	○	

保温の仕様は「標準仕様書　第2編　3.1.5」による。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	暖房・換気・衛生設備　機器表(改修後)
縮尺	-
製作年月日	
設計番号	
図番	AM-1

決裁印: 局長 / 次長 / 課長 / 係長 / 係

十勝中部広域水道企業団

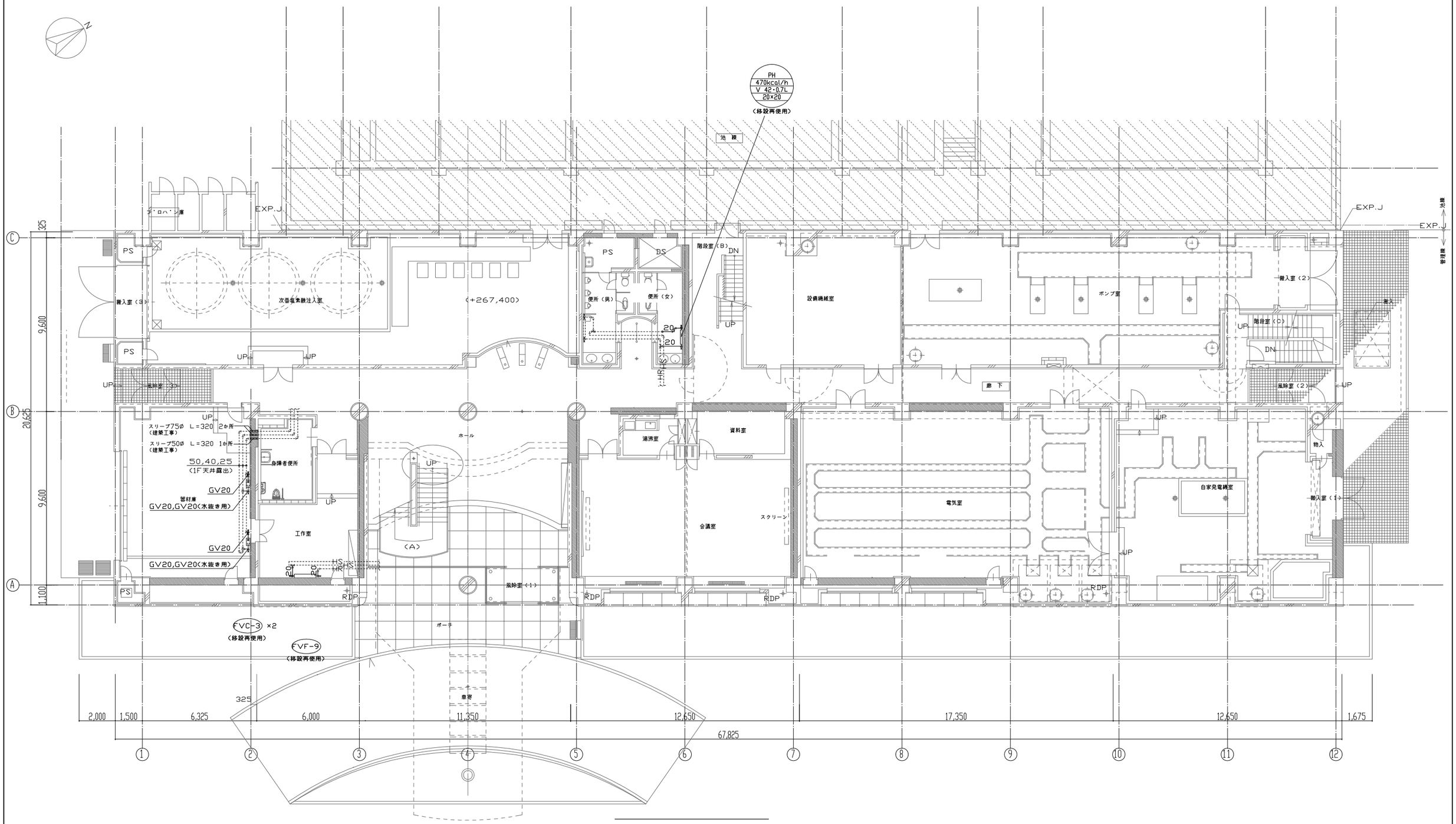


B1階平面図〈改修後〉　S=1:100

---------- 点線部分は既設箇所を示す。
———— 実線部分は再取付箇所を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	暖房設備　B１階平面図（改修後）						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
決裁印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	AM-2

十勝中部広域水道企業団



1階平面図（改修後） S=1:100

注記）

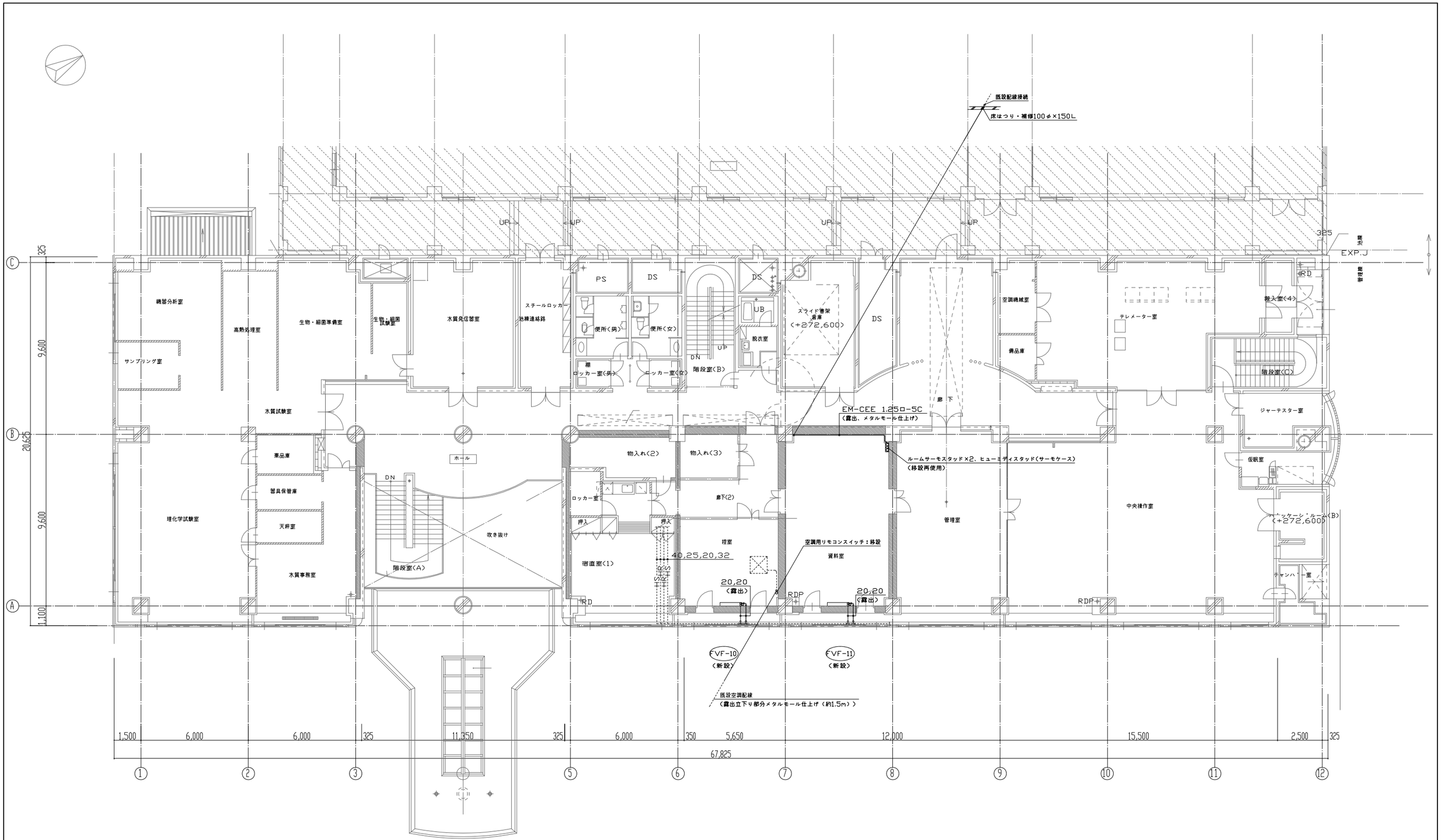
---------- 点線部分は既設箇所を示す。

———— 実線部分は新設箇所を示す。

・特記なき限り、設備配管の新設躯体貫通部のスリーブは建築機械設備工事とする。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	暖房設備 1階平面図（改修後）						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
決裁印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	AM-3

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団



2階平面図(改修後)　　S=1:100

注記)

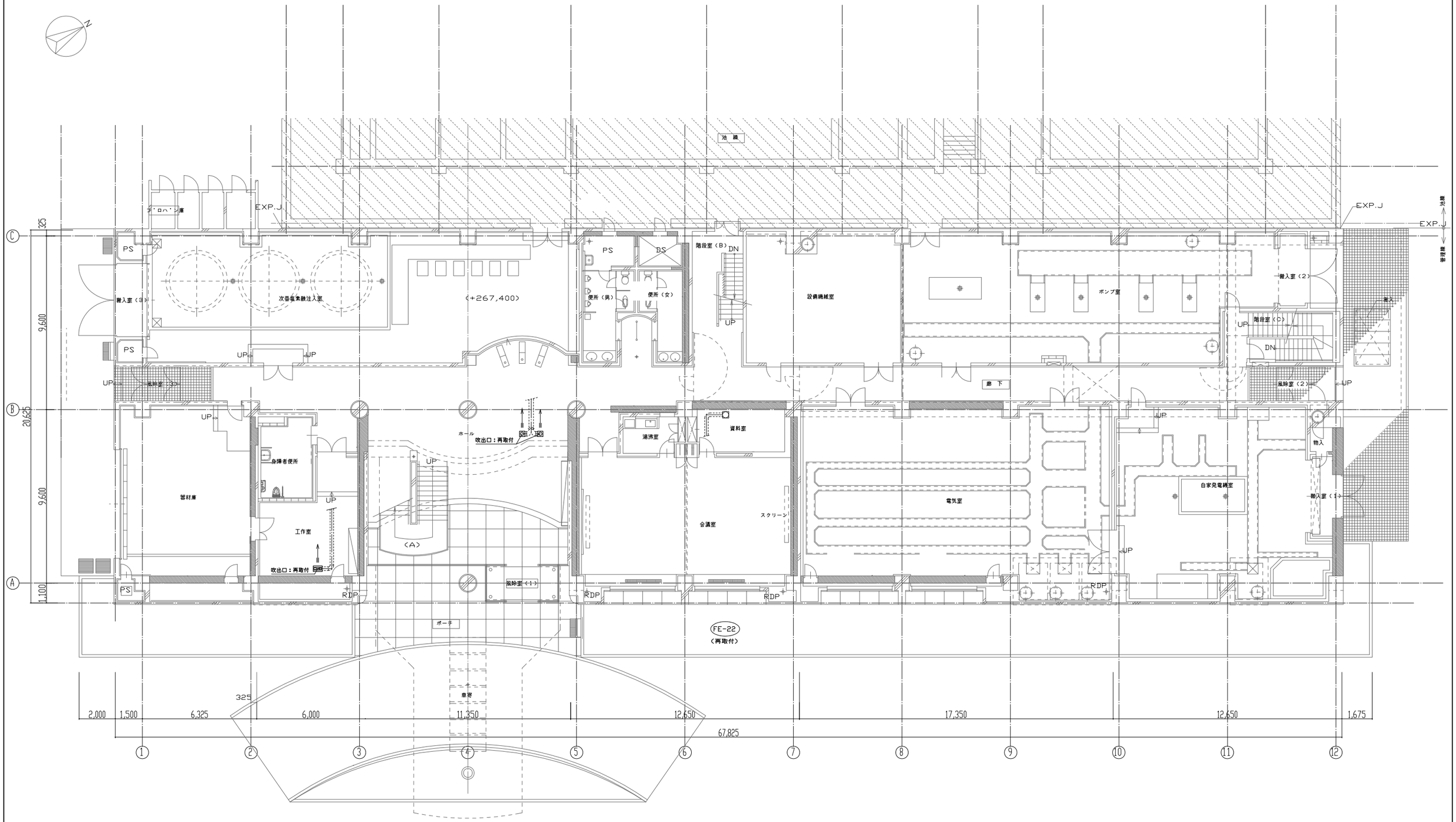
---------- 点線部分は既設箇所を示す。

———— 実線部分は新設箇所を示す。

・特記なき限り、設備配管の新設躯体貫通部のスリーブは建築機械設備工事とする。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	暖房設備　2階平面図(改修後)							
縮尺	A1:1/100						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	AM-4

十勝中部広域水道企業団



（再取付）
工作室
吹出口:VHS400×150
SA:360m3/h
×1

（再取付）
ホール
吹出口:ノズル200φ
SA:200m3/h
×2

1階平面図（改修後）　S=1:100

注記）

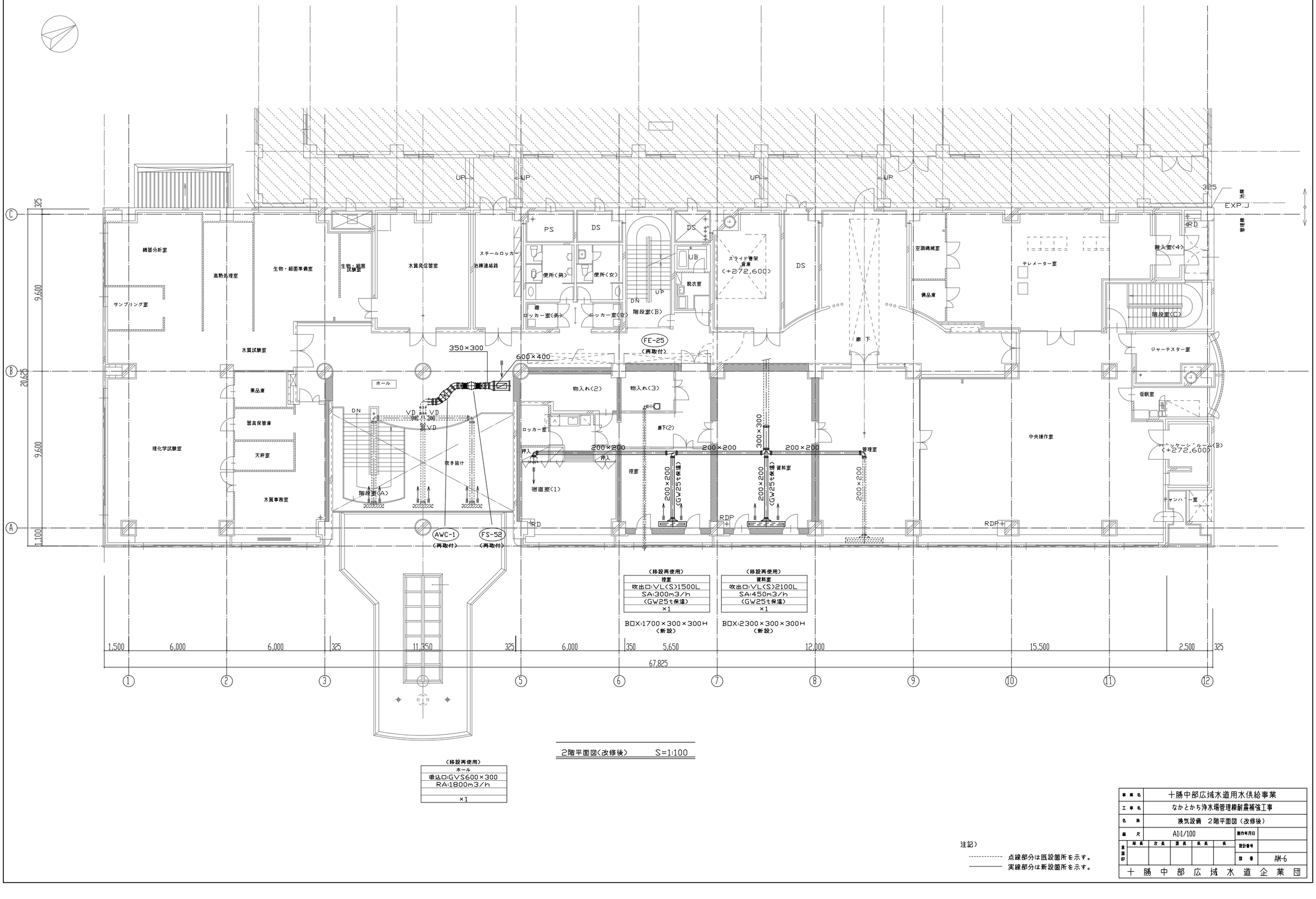
---------- 点線部分は既設箇所を示す。

―――――― 実線部分は新設箇所を示す。

・特記なき限り、設備配管の新設躯体貫通部のスリーブは建築機械設備工事とする。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	換気設備　1階平面図（改修後）						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
決裁印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	AM-5

十勝中部広域水道企業団



2階平面図〈改修後〉　S=1:100

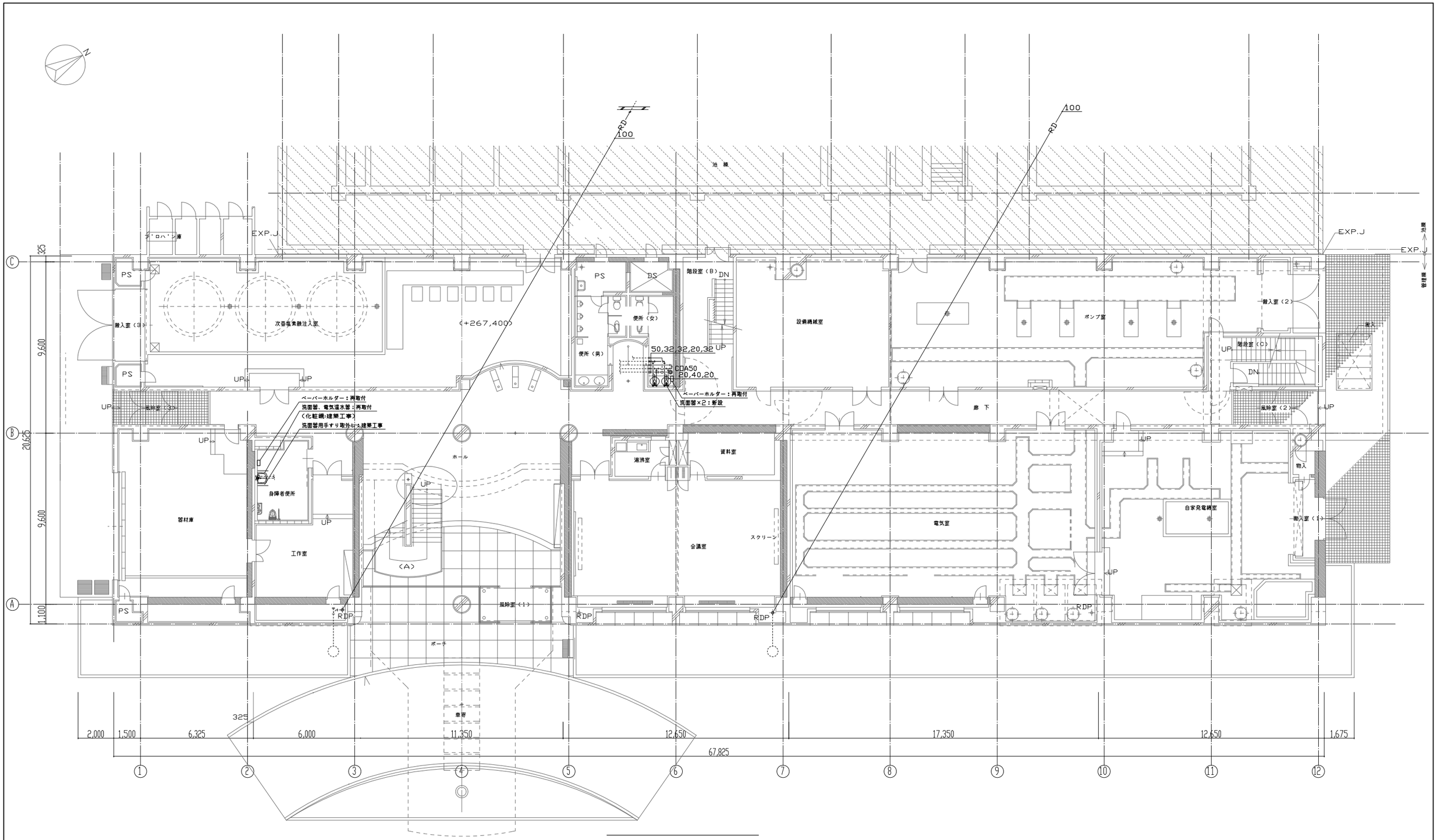
注記）

---------- 点線部分は既設箇所を示す。

———— 実線部分は新設箇所を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	換気設備　2階平面図（改修後）						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	AM-6

十　勝　中　部　広　域　水　道　企　業　団



1階平面図（改修後）　　S=1:100

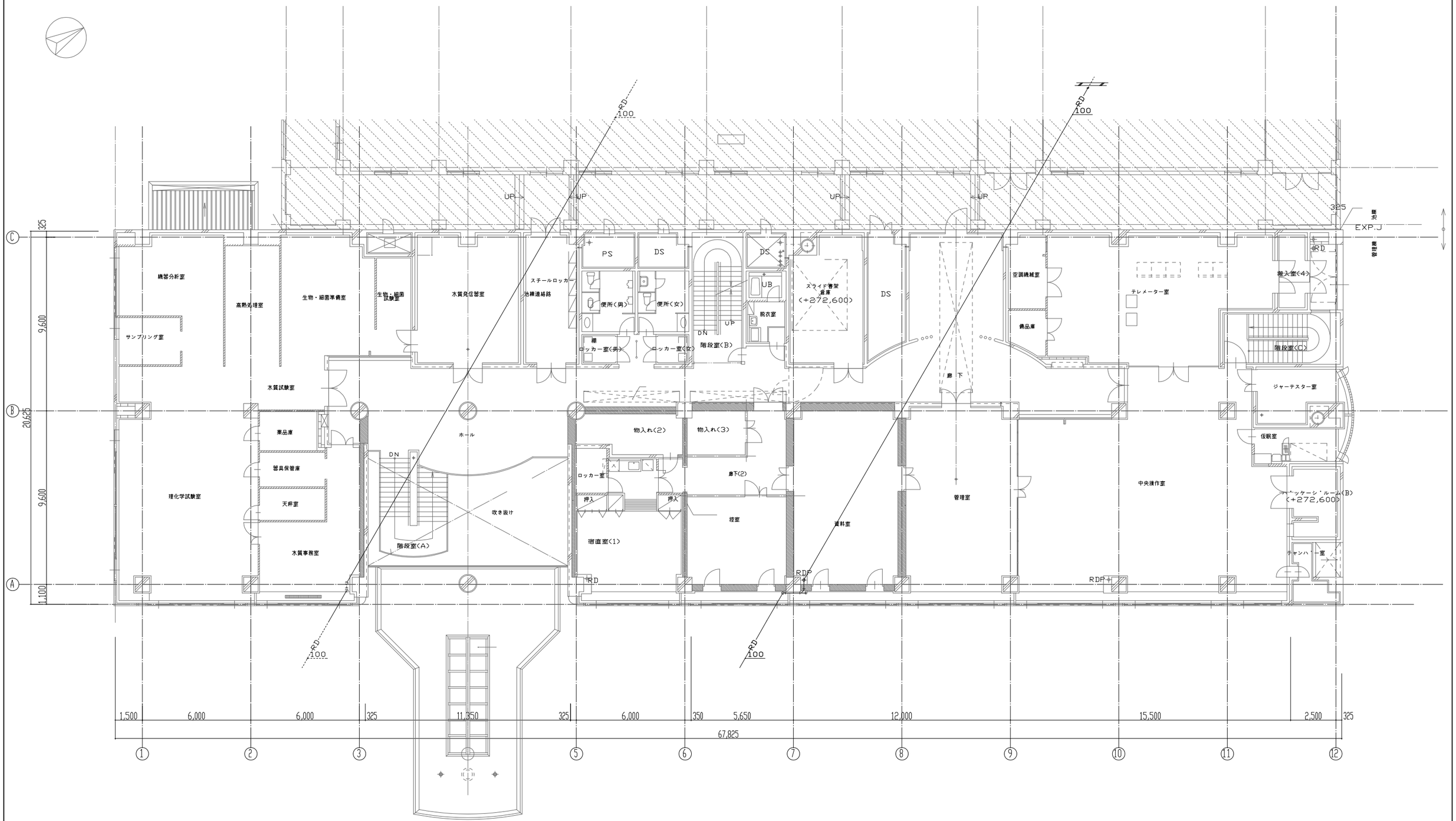
注記）

---------- 点線部分は既設箇所を示す。

———— 実線部分は新設箇所を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	衛生設備　1階平面図（改修後）						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	AM-7

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団



2階平面図(改修後)　　S=1:100

注記)

---------- 点線部分は既設箇所を示す。

———— 実線部分は新設箇所を示す。

・特記なき限り、設備配管の新設躯体貫通部のスリーブは建築機械設備工事とする。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	衛生設備　2階平面図（改修後）							
縮尺	A1:1/100					製作年月日		
決裁印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号		
						図番	AM-8	
十勝中部広域水道企業団								

換気機器表[改修前]

記号	機器名称	仕様	電源〈50Hz〉			台数	設置場所	備　考
			φ	V	kW〈W〉			
FE-24 〈撤去〉	レンジフードファン 〈排気〉	深形形 390m3/h × 60Pa SUS製排気フード150φ	1	100	0.1	1	2F湯沸室	約600×500×300H 約20kg
FE-22 〈取外し〉	天井換気扇 〈排気〉	低騒音形 100φ×120m3/h×40Pa	1	100	0.01	1	1F資料室	
FE-25 〈取外し〉	天井換気扇 〈排気〉	低騒音形 150φ×180m3/h×40Pa	1	100	0.01	1	2Fコピー室	
FS-52 〈取外し〉	斜流ファン 〈給気〉	天吊形〈消音ボックス付〉 300φ×1800m3/h×200Pa	3	200	0.3	1	2Fホール	

暖房機器表[改修前]

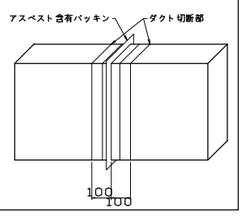
記号	機器名称	形式	仕様	電源〈50Hz〉			台数	設置場所	備考
				φ	V	kW			
FVC-3 〈移設再使用〉	ファンコンベクター	天井隠蔽形	鋼板製・温水用 暖房能力:3.7kW 温水量：5.3L/min	1	100	0.05	2	1F器材庫	
FVF-5 〈撤去〉	ファンコンベクター	床置隠蔽形	鋼板製・温水用 暖房能力:5.0kW 温水量：8.7L/min BAV20×2	1	100	0.08	1	2F資料室	約1200×250×650H 約30kg
FVF-6 〈撤去〉	ファンコンベクター	床置隠蔽形	鋼板製・温水用 暖房能力:8.2kW 温水量：11.9L/min BAV20×2	1	100	0.08	1	2F管理室	約1300×250×650H 約35kg
FVF-9 〈移設再使用〉	ファンコンベクター	床置露出形	鋼板製・温水用 暖房能力:7.2kW 温水量：10.3L/min	1	100	0.08	1	1F工作室	
PH 〈移設再使用〉	温水パネルヒーター	壁掛形	鋼板製・温水用 暖房能力:0.5kW 温水量：0.7L/min				1	1F女子トイレ	
AWC-1 〈取外し〉	加熱コイル	横形フラット型 温水コイル	暖房能力：5480kcal/h 温水量：9.2L/min 送風量：1800m3/h				1	2Fホール	

衛生器具表[改修前]

名称	記号	仕様	1F 女子便所	2F 湯沸室	数量	備考
洗面器 〈撤去〉	L-525C	アンダーカウンター用洗面器,2ハンドル混合水栓,Pトラップ,石鹸入れ,他付属金具共	2		2	外形寸法:約500W×400D×200H 重量:約10kg 洗面器カウンター撤去：建築工事 大形鏡撤去：建築工事 ペーパーホルダー：取外し
混合水栓 〈撤去〉		壁付シングルレバー混合水栓		1	1	外形寸法:約200W×150D×200H 重量:約1kg

アスベスト含有ダクトフランジ部分切断撤去要領図

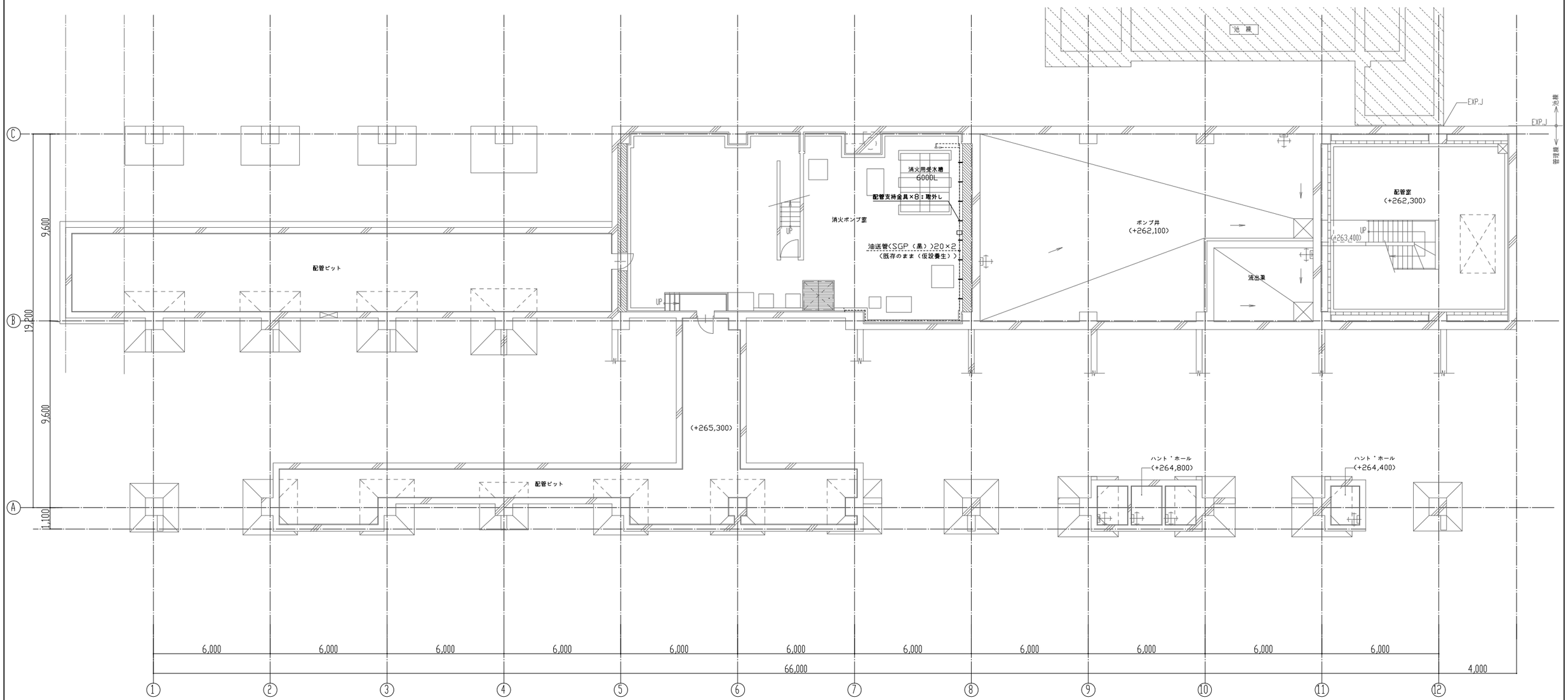
1．ダクトフランジ部分（アスベスト含有パッキン）を図示の通り
　フランジ部前後100mmにて切断する。
2．切断したダクトフランジ部分（アスベスト含有パッキン）は
　処理場に引渡しとする。



ダクトフランジ切断箇所

ダクトサイズ ＼ 切断箇所	2F	小計
200×200	51	51
300×200	2	2
350×300	16	16
330φ	4	4
600×200	2	2
600×400	2	2
合計		77

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名　称	暖房・換気・衛生設備　機器表（改修前）						
縮　尺	-					製作年月日	
決裁印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図　番	AM-9
十　勝　中　部　広　域　水　道　企　業　団							



B1階平面図(改修前)　　S=1:100

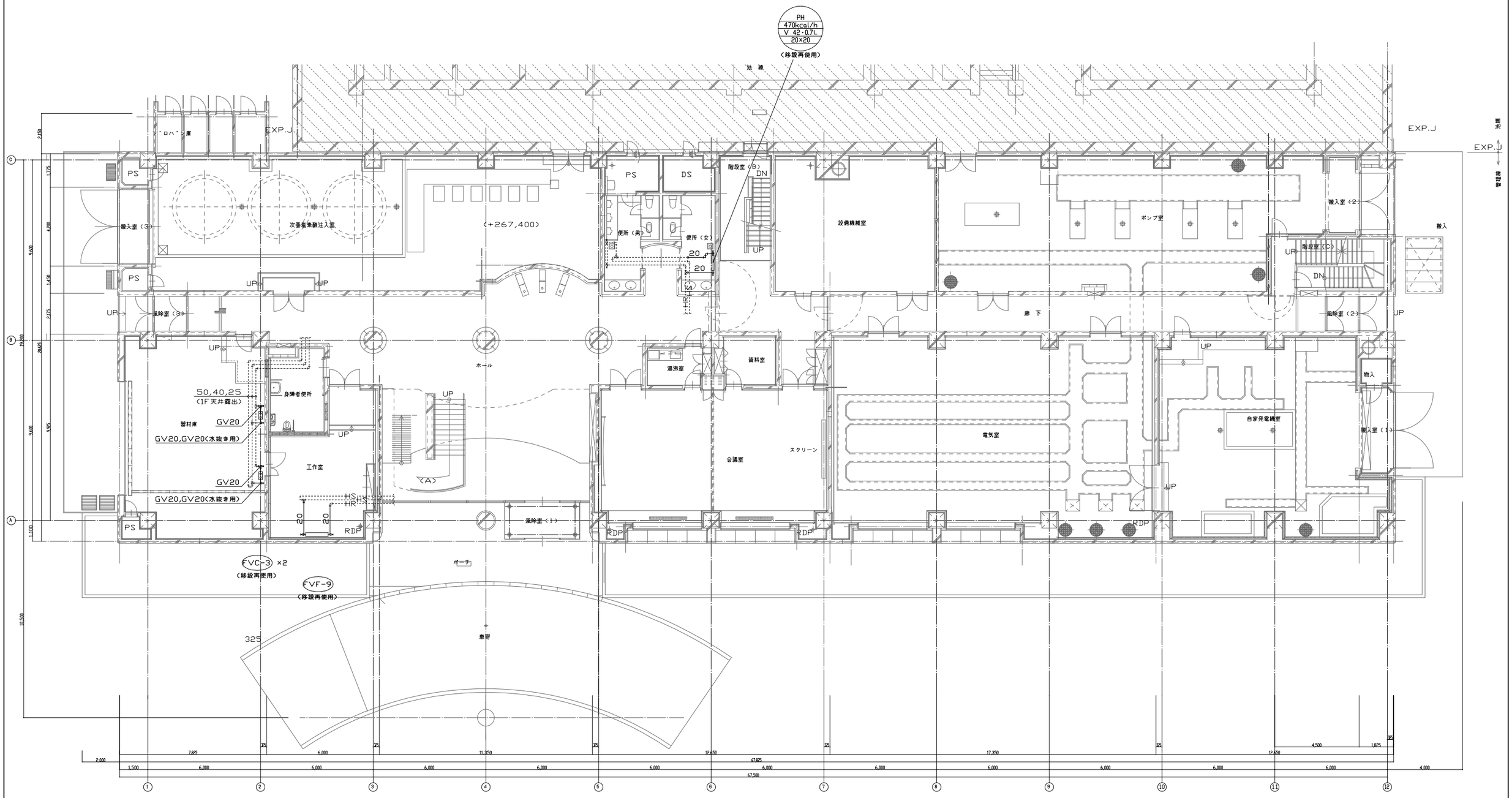
注記）

---------- 点線部分は既設箇所を示す。

———— 実線部分は取外し箇所を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとから浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	暖房設備　B1階平面図（改修前）							
縮尺	A1:1/100						製作年月日	
決裁印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	AM-10

十　勝　中　部　広　域　水　道　企　業　団



1階平面図（改修前）　S=1:100

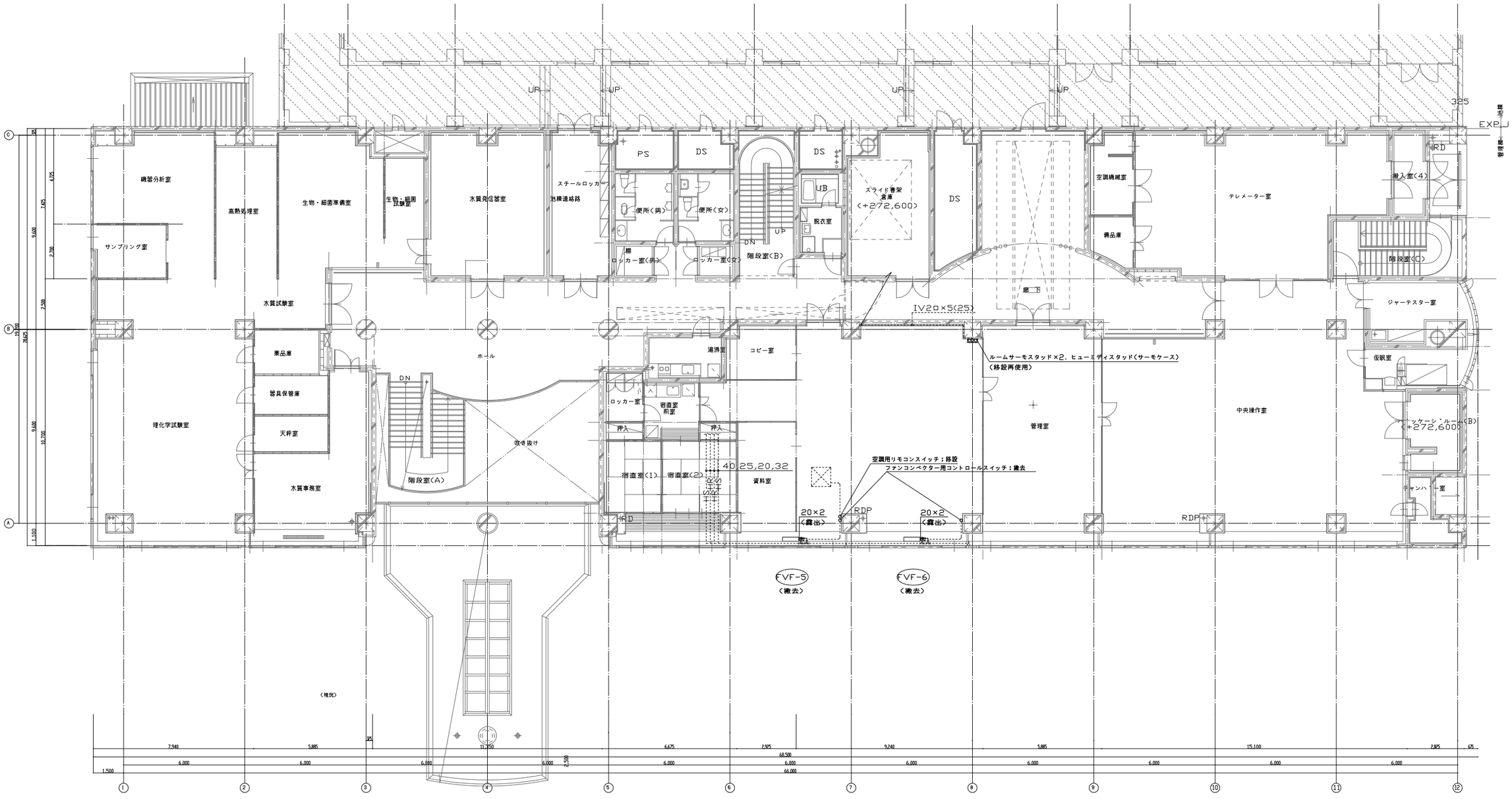
注記）

---------- 点線部分は既設箇所を示す。

———— 実線部分は撤去箇所を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	暖房設備　1階平面図（改修前）						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
決裁印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	AM-11

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団



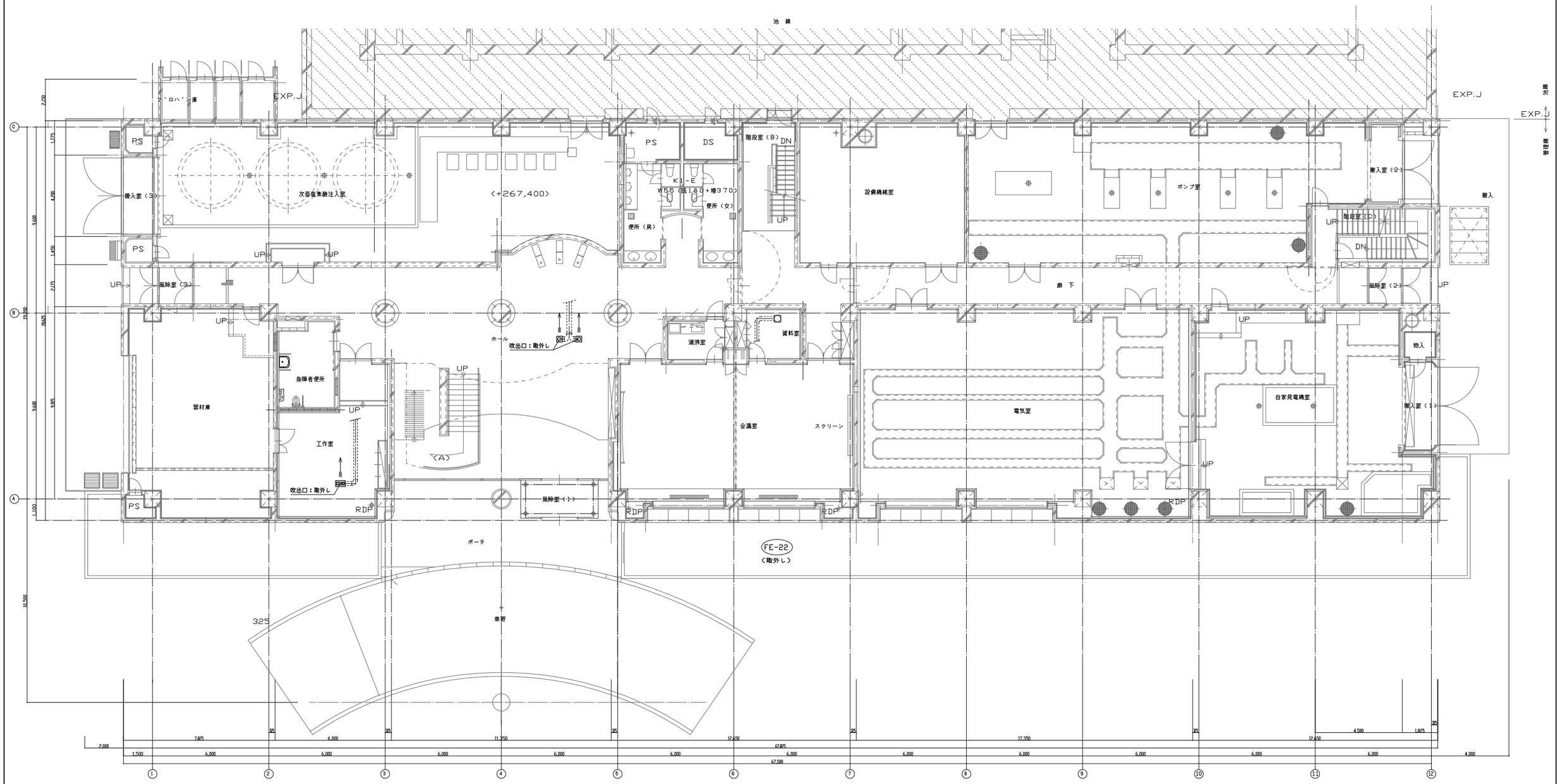
2階平面図〈改修前〉　S=1:100

注記）

---------- 点線部分は既設箇所を示す。

———— 実線部分は取外し箇所を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	暖房設備　2階平面図（改修前）						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	AM-12
十勝中部広域水道企業団							



（取外し）

工作室
吹出口:VHS400×150
SA:360m3/h
×1

（取外し）

ホール
吹出口:ノズル200φ
SA:200m3/h
×2

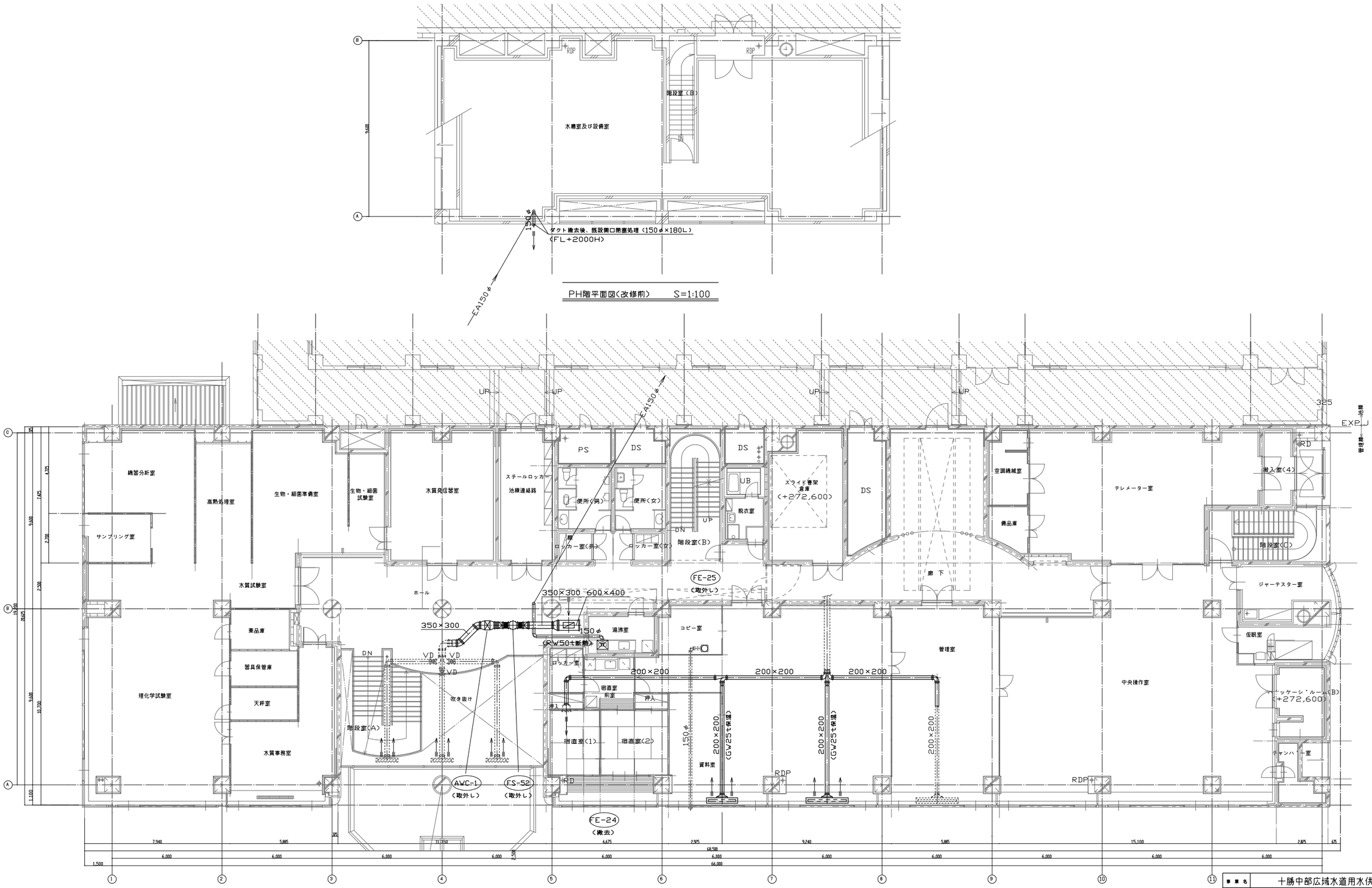
1階平面図（改修前）　S=1:100

注記）

---------- 点線部分は既設箇所を示す。

———— 実線部分は撤去箇所を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	換気設備　1階平面図（改修前）							
縮尺	A1:1/100						製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	AM-13
十勝中部広域水道企業団								



PH階平面図（改修前）　S=1:100

2階平面図（改修前）　S=1:100

〈移設再使用〉
ホール
吸込口：GVS600×300
RA：1800m3/h
×1

〈移設再使用〉
資料室
吹出口：VL(S)1500L
SA：300m3/h
（GW25t保温）
×1
BOX：1700×300×300H
（撤去）

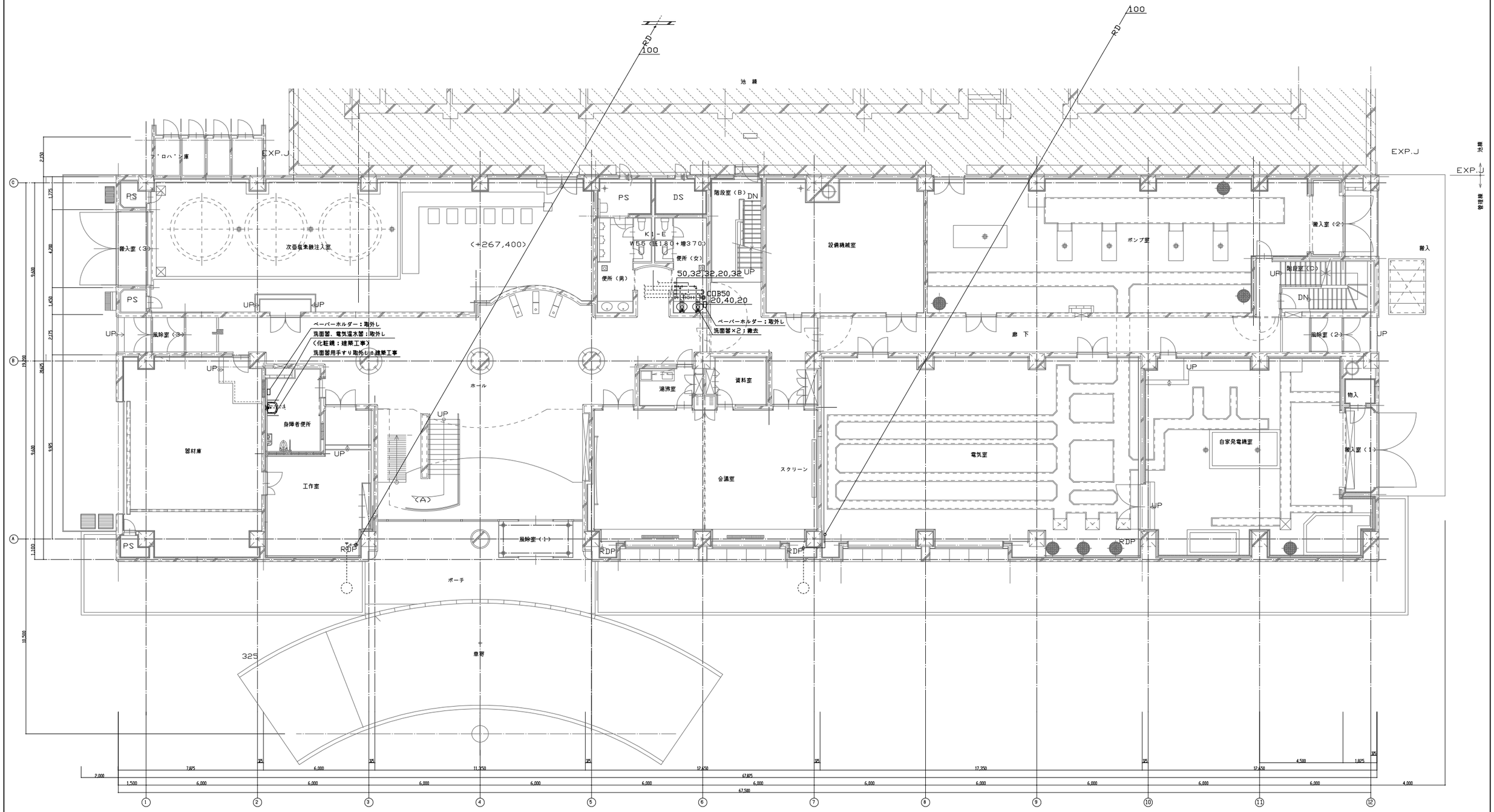
〈移設再使用〉
管理室
吹出口：VL(S)2100L
SA：450m3/h
（GW25t保温）
×1
BOX：2300×300×300H
（撤去）

注記）
---------- 点線部分は既設箇所を示す。
———— 実線部分は取外し箇所を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	換気設備　2階平面図（改修前）
縮尺	A1:1/100
製作年月日	
設計番号	
図番	AM-14

承認印	局長	次長	課長	係長	係

十勝中部広域水道企業団



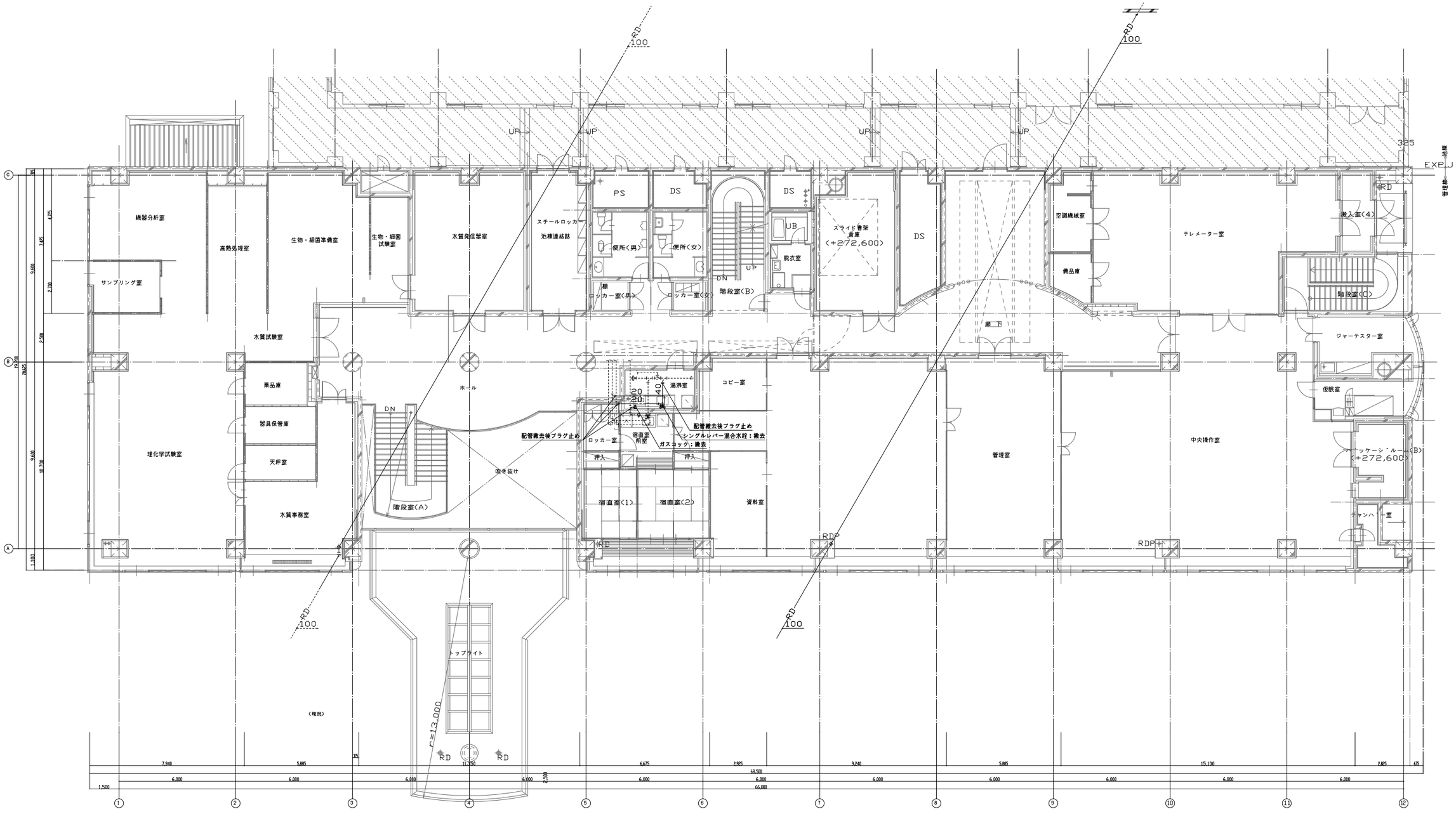
1階平面図〈改修前〉　　S=1:100

注記）

---------- 点線部分は既設箇所を示す。

―――― 実線部分は取外し箇所を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	衛生設備　1階平面図（改修前）							
縮尺	A1:1/100					製作年月日		
決裁印	場長	次長	課長	係長	係	設計番号		
						図番	AM-15	
十勝中部広域水道企業団								



2階平面図(改修前)　　S=1:100

注記)

---------- 点線部分は既設箇所を示す。

———— 実線部分は取外し箇所を示す。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	衛生設備　2階平面図（改修前）						
縮尺	A1:1/100					製作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	AM-16
十勝中部広域水道企業団							

十 勝 中 部 広 域 水 道 用 水 供 給 事 業

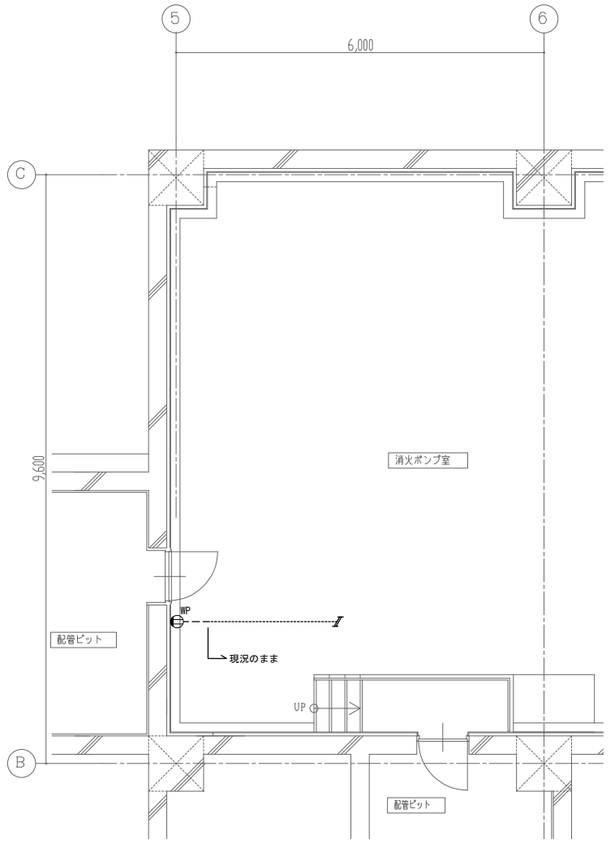
なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事

建築電気設備図

図 番	図 面 名 称	縮 尺	図 番	図 面 名 称	縮 尺
-	建築電気設備　特記仕様書	NONE	AE-7	２階 弱電・火報設備平面図(改修後)	1/100
AE-1	KB1-A(改修前・後)建築電気	1/50	AE-8	１階 照明設備平面図(改修前)	1/100
AE-2	１階 照明設備平面図(改修後)	1/100	AE-9	２階 照明設備平面図(改修前)	1/100
AE-3	２階 照明設備平面図(改修後)	1/100	AE-10	１階 コンセント設備平面図(改修前)	1/100
AE-4	１階 コンセント設備平面図(改修後)	1/100	AE-11	２階 コンセント設備平面図(改修前)	1/100
AE-5	２階 コンセント設備平面図(改修後)	1/100	AE-12	１階 弱電・火報設備平面図(改修前)	1/100
AE-6	１階 弱電・火報設備平面図(改修後)	1/100	AE-13	２階 弱電・火報設備平面図(改修前)	1/100

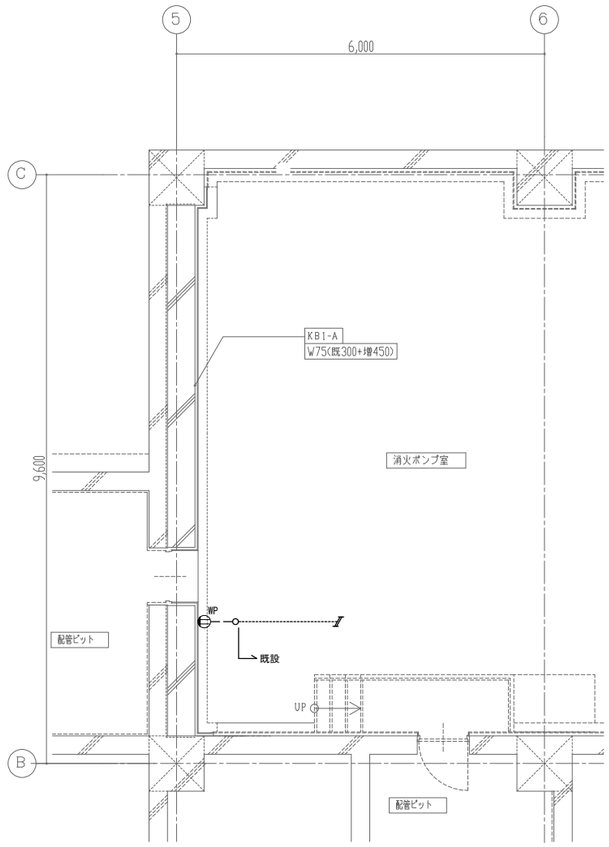
十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団

KB１－A　B１階 ５通り　B－C通り間(改修前)



B１階 ５－６通 B－C間　平面詳細図(改修前)

KB１－A　B１階 ５通り　B－C通り間(改修後)

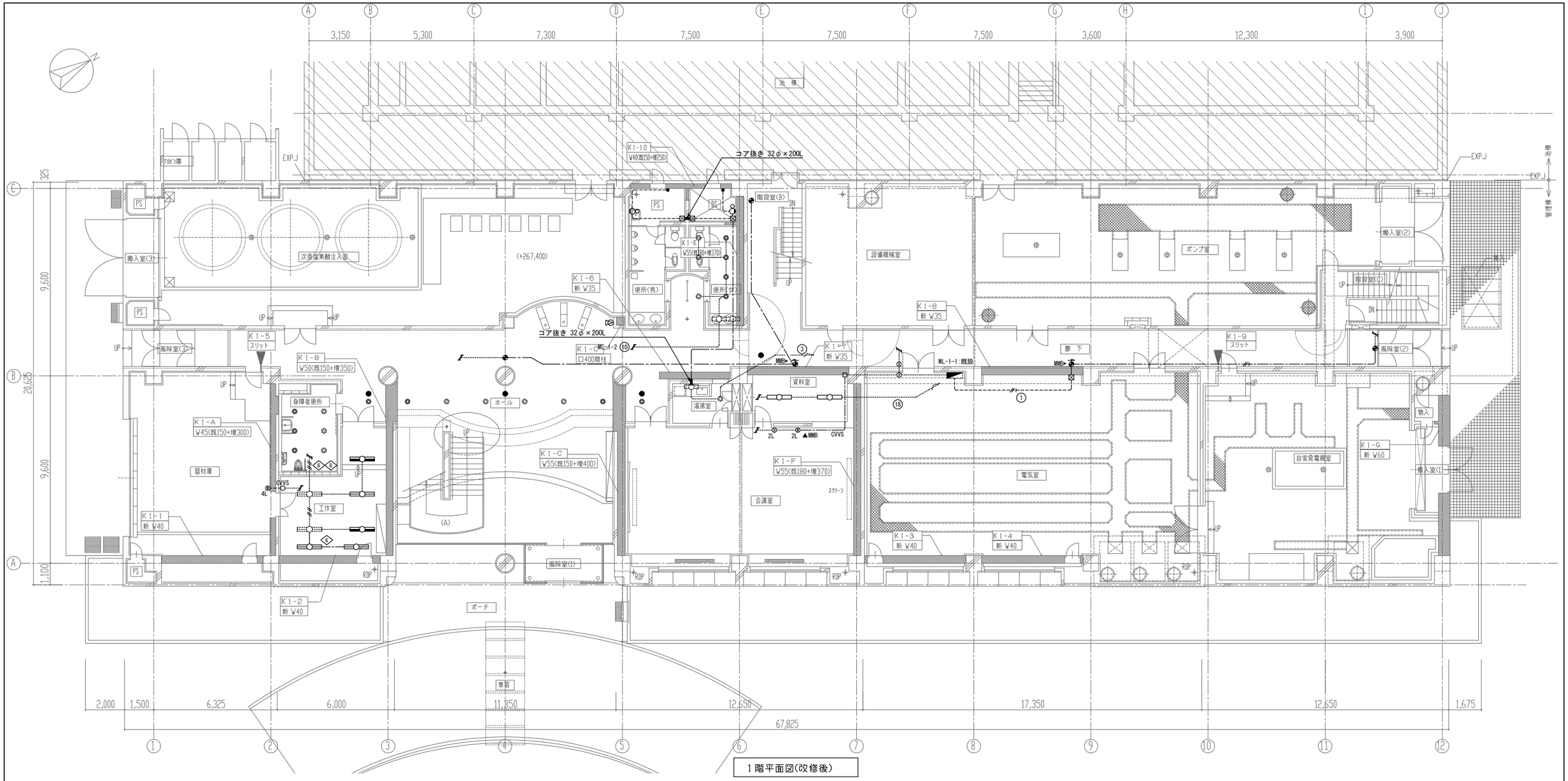


B１階 ５－６通 B－C間　平面詳細図(改修後)

記号	既設		改修		備考
	名称	区分	名称	区分	
WP	コンセント　2P15A×1　防雨プレート付	取外し	コンセント　2P15A×1　防雨プレート付	再取付	----------
--------	配線路　2.0×2　E19　露出配管	撤去	配線路　IE 2.0×2　E19　露出配管	新設	
—o—			露出ボックス 金属製	新設	

注記1.　---------- 点線表示の配管配線・器具類は既設現況のままとする。
注記2.　工事完了時に回路のチェック及び回路、機器等の絶縁測定を行うこと。
注記3.　撤去工事に際し事前調査を行い安全確認の上、施工を行うこと。
注記4.　相違部分に於いては監督員と協議の上、決定の事。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	KB1-A(改修前・後)建築電気						
縮尺	1/50					制作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	AE－1
十勝中部広域水道企業団							



1階平面図(改修後)

階	室 名	記 号	台数	改修 仕 様	改修 区 分	備 考
1F	器材庫	⊗ 4L	1 個	リモコンスイッチ 4L 金属プレート付	再取付	
	工作室		3 台	照明器具 FL40W×2 埋込型	再取付	
			2 台	非常用照明器具 FL40W×2 埋込型	再取付	
	身障者便所	◎	3 台	ダウンライト	再取付	
	ホール		1 台	スポットライト	再取付	
		◎	4 台	ダウンライト	再取付	
		●	2 台	非常灯 ハロゲン23W 埋込型	再取付	
		◕	1 台	避難口誘導灯 10W	再取付	
	便所(女子)	◎	4 台	ダウンライト	再取付	

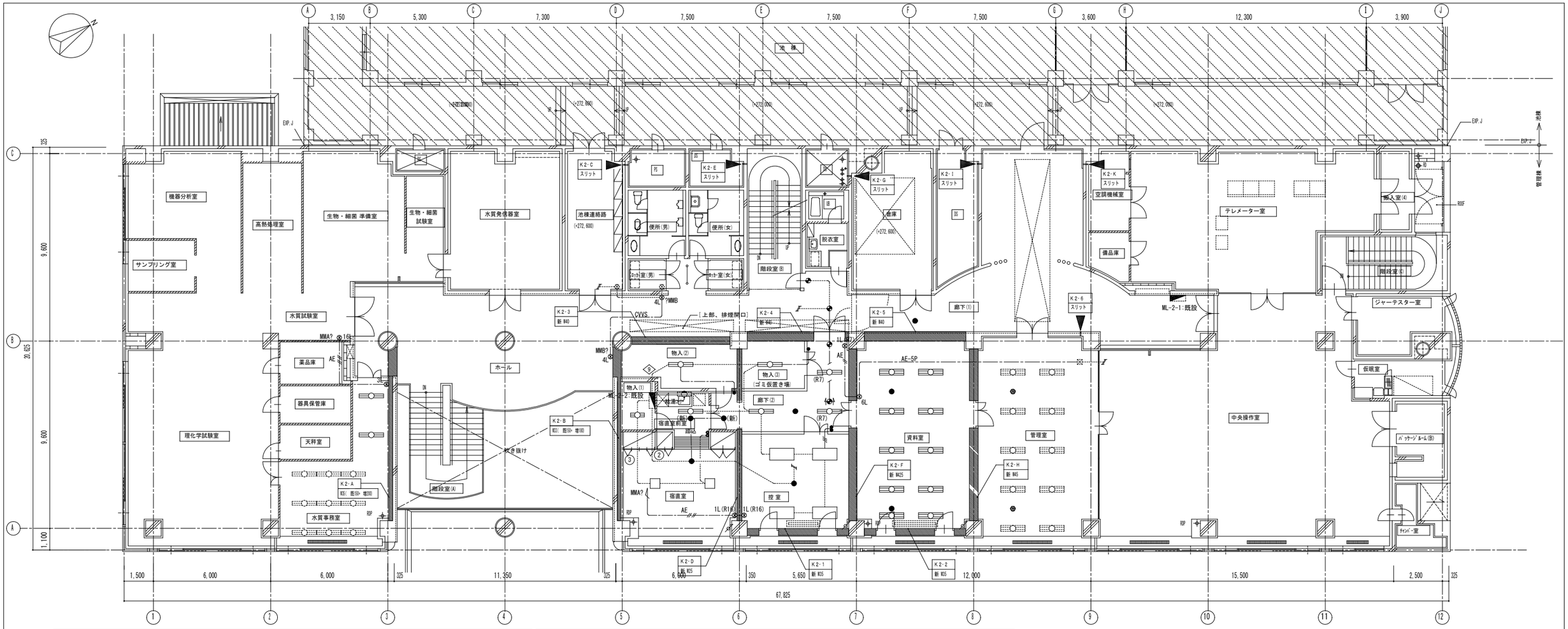
階	室 名	記 号	台数	改修 仕 様	改修 区 分	備 考
1F	資料室		2 台	LED照明器具 露出型 LSS9-4-37	新 設	
	会議室	⊗ 2L	2 個	リモコンスイッチ 4L	再取付	
	廊 下		2 台	通路誘導灯 ST1-FBF22-C	新 設	
		◕	1 台	避難口誘導灯 10W	再取付	
		●	1 台	非常灯 ハロゲン23W 埋込型	再取付	
	階段室(B)	◕	1 台	通路誘導灯 10W 埋込型	再取付	
	PS・DS	○	2 台	ブラケット IL40W 露出型	再取付	
		•	2 個	スイッチ 1P15A×1 金属プレート付	再取付	

＜配管配線凡例＞

——-——-——	EEF-2.0-2C	天井内ころがし(保護管PFS22)
——-—//—-——	EEF-2.0-3C(1C7ｰｽ)	天井内ころがし(保護管PFS22)
----------	IE 2.0×2 E2.0 (E19)	露出配管
CVVS -——-——	CEES 1.25sq-2C	天井内ころがし(保護管PFS22)
CVVS ----------	CEES 1.25sq-2C (E25)	露出配管
MMB▼-——-——	立下げ部メタルモールB型(天井面にコーナーBOX取付)	
—□—	O.BOX 樹脂製	
—○—	露出ボックス 金属製	
⊠	P.BOX 150×150×100(錆止め)	

注記1. ---------- 点線表示の配管配線・器具類は既設現況のままとする。
注記2. 工事完了時に回路のチェック及び回路、機器等の絶縁測定を行うこと。
注記3. 相違部分に於いては監督員と協議の上、決定の事。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名 称	1階 照明設備平面図(改修後)						
縮 尺	1/100					制作年月日	
承認印	局 長	次 長	課 長	係 長	係	設計番号	
						図 番	AE - 2
十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団							



2階平面図(改修後)

階	室 名	記 号	台数	改修 仕様	改修 区分	備 考
2F	水質事務室	⊗ 3L	1 個	リモコンスイッチ 3L 金属プレート付	再取付	
		⊗ 16L	1 個	リモコンスイッチ 16L 金属プレート付	再取付	
			2 台	照明器具 FL40W×2 埋込型	再取付	
	ホール	⊗ 4L	2 個	リモコンスイッチ 4L 金属プレート付	再取付	
			1 台	誘導灯 FL10W	再取付	
	物入(2)		1 台	照明器具 FL40W×2 埋込型	再取付	
		●	1 個	スイッチ 1P15A×1 金属プレート付	再取付	
	物入(1)		1 台	照明器具 FL20W×2 露出型	再取付	
	宿直室 宿直室前室	□	2 台	LED照明器具 LSS15-4-80	新 設	
			1 台	照明器具 FL40W×2 埋込型	再取付	
		●	1 台	非常灯 ミニハロゲン23W 埋込型	再取付	
		⊗ 1L	1 個	リモコンスイッチ 1L 金属プレート付	再取付	ファンコン用
			1 個	電動ブラインドスイッチ 金属プレート付	再取付	
		● (新)	1 台	非常灯 K1-LRS11-1 埋込型	新 設	
2F	物入(3)		1 台	照明器具 FL40W×2 埋込型	再取付	
		●	1 個	スイッチ 1P15A×1 金属プレート付	新 設	

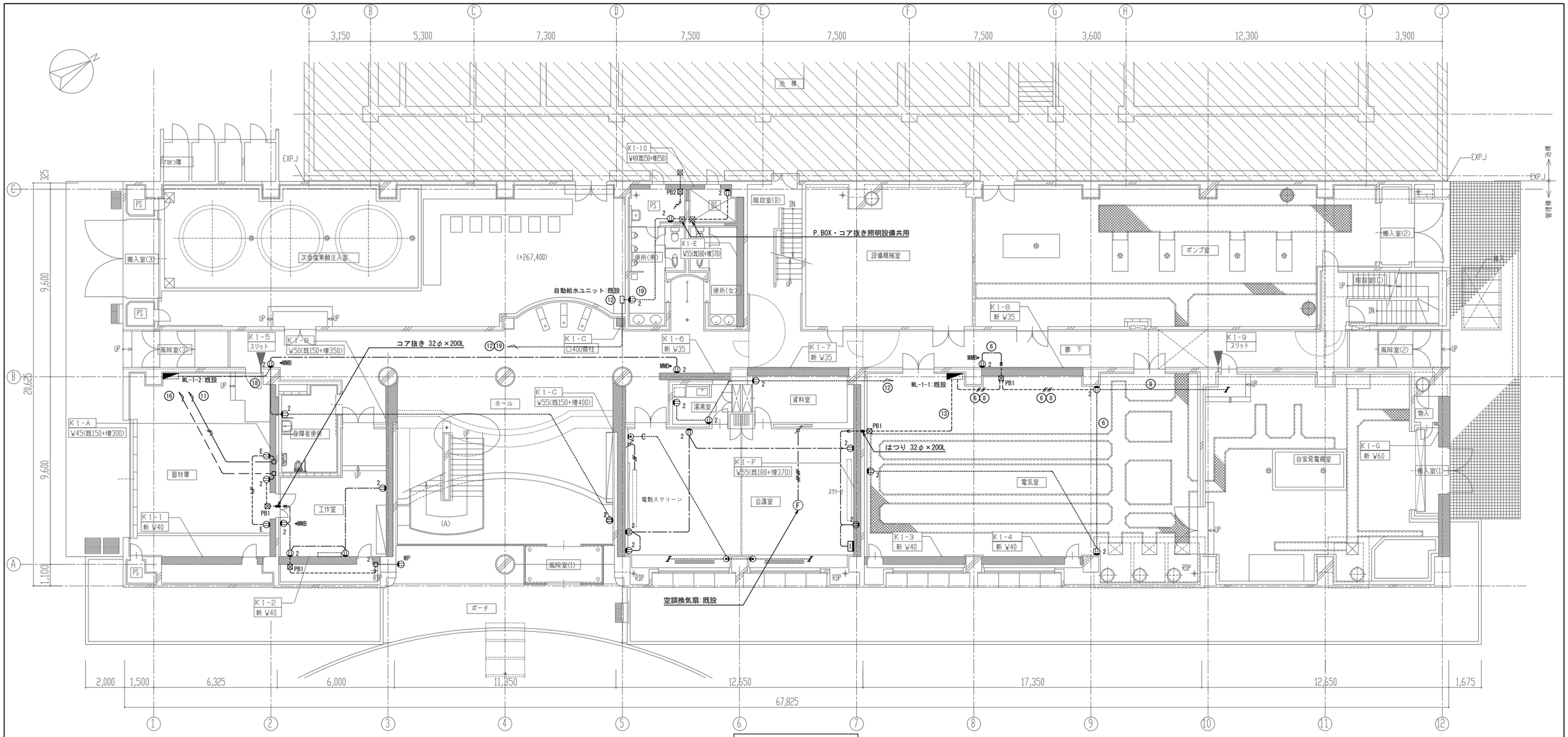
階	室 名	記 号	台数	改修 仕様	改修 区分	備 考
2F	控 室		4 台	照明器具 FL40W×4 埋込型 ルーバ付	再取付	
		●	1 台	非常灯 ミニハロゲン23W 埋込型	再取付	
			1 個	スイッチ 1P15A×2 金属プレート付	新 設	
		⊗ 1L	1 個	リモコンスイッチ 1L 金属プレート付	再取付	ファンコン用
			1 個	電動ブラインドスイッチ 金属プレート付	再取付	
	資料室		10 台	照明器具 FL40W×3 埋込型 ルーバ付	再取付	
		⊗ 6L	1 個	リモコンスイッチ 6L 金属プレート付	再取付	
			1 個	電動ブラインドスイッチ 金属プレート付	再取付	
		●	2 台	非常灯 ミニハロゲン23W 埋込型	再取付	
	管理室		2 台	非常灯 ミニハロゲン23W 埋込型	現況のまま	
	廊下(2)		3 台	照明器具 FL40W×2 埋込型	再取付	
			1 台	誘導灯 ST1-FSF23-C	新 設	
			1 台	誘導灯 SH1-FSF20-C	新 設	
		⊗ 1L	1 個	リモコンスイッチ 1L 金属プレート付	新 設	
		●	1 台	非常灯 ミニハロゲン23W 埋込型	再取付	
	廊下(2) 物入(2)入口前	● (新)	1 台	非常灯 K1-LRS11-1 埋込型	新 設	

＜配管配線凡例＞

——-——-——	EEF-2.0-2C	天井内ころがし(保護管PFS22)
——-//-——-——	EEF-2.0-3C	天井内ころがし(保護管PFS22)
AE-5P ——-——-——	EM-AE 0.9-5P	天井内ころがし(保護管PFS22)
AE ——-//-——-——	EM-AE 0.9-2C	天井内ころがし(保護管PFS22)
AE ——-///-——-——	EM-AE 0.9-4C	天井内ころがし(保護管PFS22)
CVVS ——-——-——	CEES 1.25sq-2C	天井内ころがし(保護管PFS22)
MMA▼ ——-——-——		立下げ部メタルモールA型(天井面にコーナーBOX取付)
MMB▼ ——-——-——		立下げ部メタルモールB型(天井面にコーナーBOX取付)

注記1. ---------- 点線表示の配管配線・器具類は既設現況のままとする。
注記2. 工事完了時に回路のチェック及び回路、機器等の絶縁測定を行うこと。
注記3. 相違部分に於いては監督員と協議の上、決定の事。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	2階 照明設備平面図(改修後)						
縮尺	1/100	制作年月日					
決裁日	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	AE - 3
十勝中部広域水道企業団							



1階平面図(改修後)

階	室 名	記 号	台数	改修 仕様	改修 区分	備 考
1F	器材庫	⊕2	1 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	再取付	
		⊕E	2 個	コンセント 2P15A×1 接地付 金属プレート付	再取付	ユニットヒーター用
	工作室	⊕	1 個	コンセント 2P15A×1 金属プレート付	再取付	
		⊕2	3 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	再取付	
	ホール	⊕2	3 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	再取付	
	会議室	⊕2	5 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	再取付	
		⊙	1 枚	フラッシュプレート 金属プレート付	再取付	
		∅	1 個	空調換気扇スイッチ 金属プレート付	再取付	
		∅	1 個	電動スクリーンスイッチ 金属プレート付	再取付	
		▭	1 面	弱電接続端子盤 別図による。		

階	室 名	記 号	台数	改修 仕様	改修 区分	備 考
1F	資料室	⊕2	1 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	**再取付**	
	廊 下	⊕2	1 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	**再取付**	
	電気室	⊕2	1 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	**再取付**	
	PS・DS	⊕2	2 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	再取付	

＜配管配線凡例＞

——-——-——	EEF-2.0-2C	天井内ころがし(保護管PFS22)
——-—///—-——	EEF-2.0-3C	天井内ころがし(保護管PFS22)
——-///-——	EEF-2.0-3C×2	天井内ころがし(保護管PFS28)
----------	IE 2.0×2 (E19)	露出配管
-----///-----	IE 2.0×4 (E25)	露出配管
------//------	IE 2.0×3 E2.0 (E19)	露出配管
———//———	IE 2.0×3 E2.0 ((19))	埋込配管
— — — —	IE 2.0×2 ((19))	床埋込配管
MMB▼-——-——	立下げ部メタルモールB型(天井面にコーナーBOX取付)	
——□——	O.BOX 樹脂製	
——○——	露出ボックス 金属製	
⊠ PB1	P.BOX 150×150×100(錆止め)	
⊠ PB2	P.BOX 200×200×200(錆止め)	

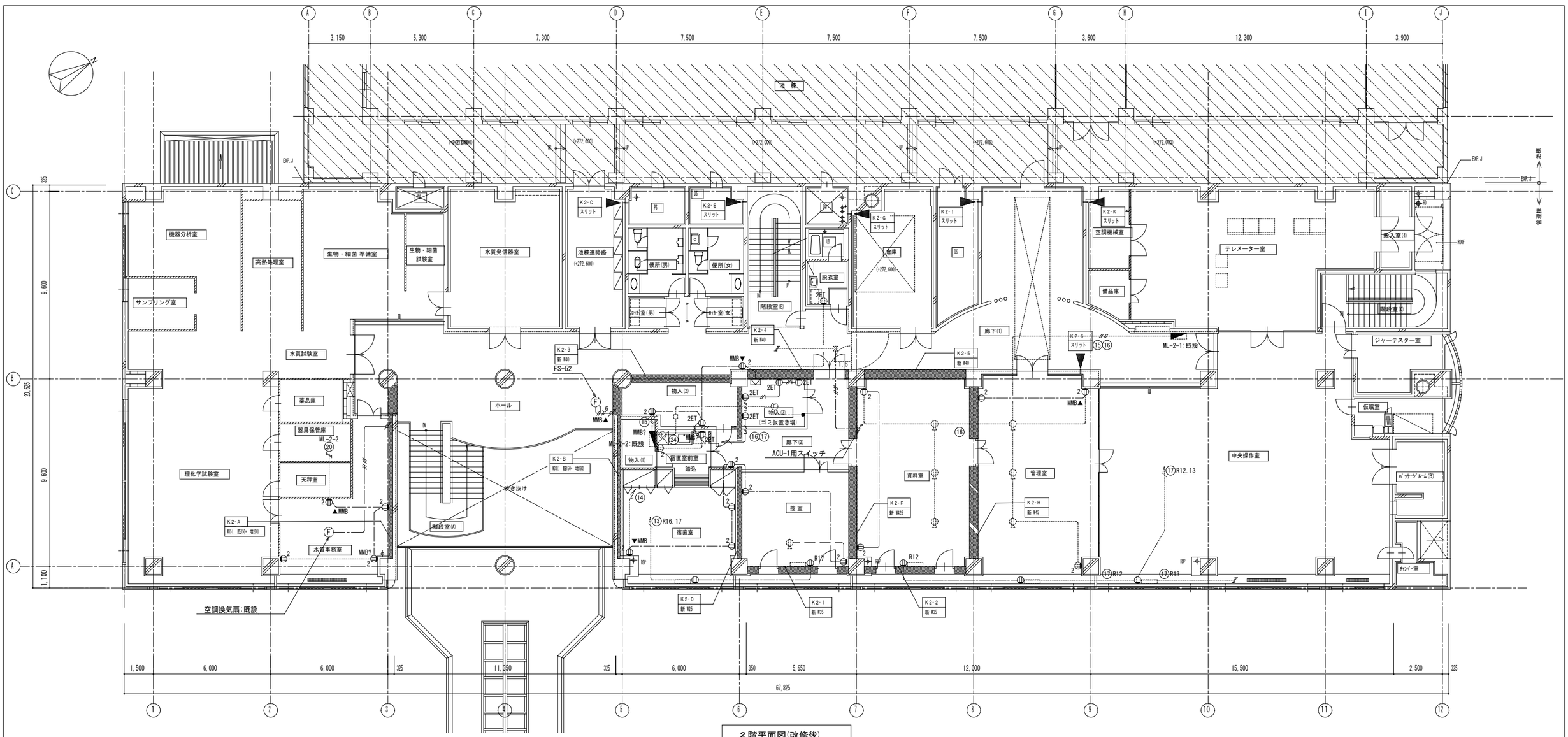
※ (( ))表記の配管は既設流用とする。

注記1. ---------- 点線表示の配管配線・器具類は既設現況のままとする。
注記2. 工事完了時に回路のチェック及び回路、機器等の絶縁測定を行うこと。
注記3. 相違部分に於いては監督員と協議の上、決定の事。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	1階 コンセント設備平面図(改修後)
縮尺	1/100
制作年月日	
設計番号	
図番	AE - 4

承認印	局長	次長	課長	係長	係

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団



２階平面図(改修後)

階	室 名	記 号	台数	改修 仕様	改修 区分	備 考
2F	水質事務室	⓫ 2	3 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	再取付	
		⌀	1 個	空調換気扇スイッチ 金属プレート付	再取付	
	ホール	⓫ 2	1 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	再取付	
		⌀	1 個	給気ファンスイッチ 金属プレート付	再取付	
	物入(2)	⓫ 2	1 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	再取付	
		⓫ 2ET	1 個	コンセント 2P15A×2 接地端子付 金属プレート付	再取付	
	物入(3)	⓫ 2ET	4 個	コンセント 2P15A×2 接地端子付 金属プレート付	再取付	
		●	1 個	スイッチ 1P L 15A×1 ON表示 金属プレート付	新 設	
		⊠	1 面	テレビ機器収納盤 別図による。	再取付	
	宿直室 宿直室前室	⓫	1 個	コンセント 2P15A×1 金属プレート付	再取付	ファンコン用
		⓫ 2	3 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	再取付	
		⓫ 2ET	1 個	コンセント 2P15A×2 接地端子付 金属プレート付	再取付	

階	室 名	記 号	台数	改修 仕様	改修 区分	備 考
2F	控 室	⓫	1 個	コンセント 2P15A×1 金属プレート付	再取付	ファンコン用
		⓫ 2	2 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	**再取付**	
	廊下(2)	⓫ 2	1 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	**再取付**	
	資料室	⓫	1 個	コンセント 2P15A×1 金属プレート付	再取付	ファンコン用
		⓫ 2	2 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	**再取付**	
		⌀	1 個	外調機(ACU-1)スイッチ 金属プレート付	再取付	
	管理室	⓫	1 個	コンセント 2P15A×1 金属プレート付	再取付	ファンコン用
		⓫ 2	2 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	**再取付**	

<配管配線凡例>

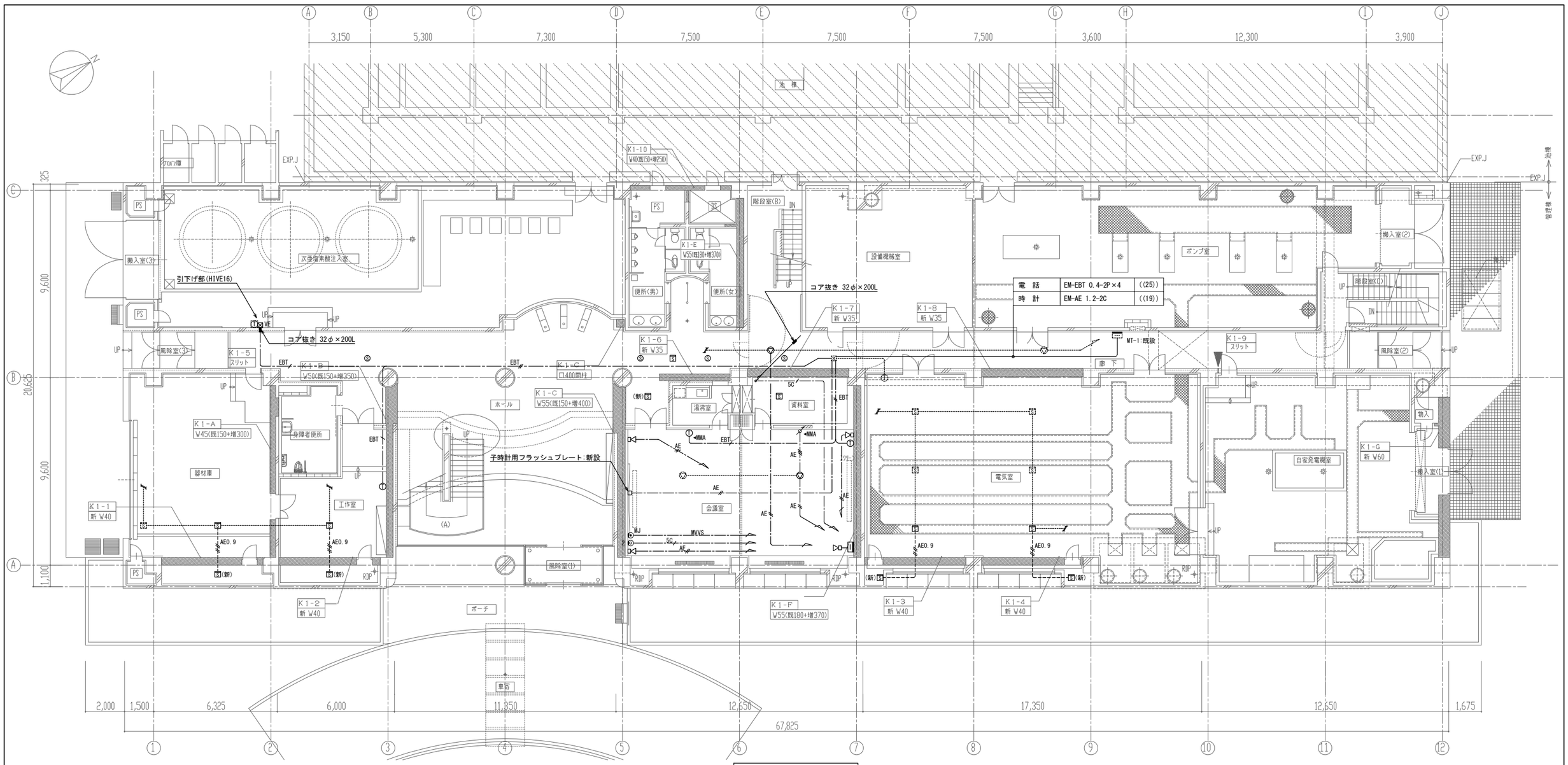
——-—-——	EEF-2.0-2C	天井内ころがし(保護管PFS22)
——-#-——	EEF-2.0-3C×2	天井内ころがし(保護管PFS28)
——-#-——	EEF-2.0-3C(1C7-ｽ)	天井内ころがし(保護管PFS22)
——-#-——	EEF-2.0-2C+3C(1C7-ｽ)	天井内ころがし(保護管PFS28)
1.6 ——-#-——	EEF-1.6-2C×2	天井内ころがし(保護管PFS22)
— — — —	IE 2.0×2 ((19))	床埋込配管
MMB▼——-——	立下げ部メタルモールB型(天井面にコーナーBOX取付)	

※ (( ))表記の配管は既設流用とする。

注記1. ---------- 点線表示の配管配線・器具類は既設現況のままとする。
注記2. 工事完了時に回路のチェック及び回路、機器等の絶縁測定を行うこと。
注記3. 相違部分に於いては監督員と協議の上、決定の事。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名 称	２階 コンセント設備平面図(改修後)
縮 尺	1/100
制作年月日	
決裁日	局長 / 次長 / 課長 / 係長 / 係
設計番号	
図 番	AE - 5

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団



1階平面図(改修後)

階	室 名	記 号	台数	改修 仕様	改修 区分	備 考
1F	器材庫	S	1 個	煙感知器 2種 露出型	再取付	
		S(新)	1 個	煙感知器 2種 露出型	新 設	
	工作室	T	1 個	電話機 壁付型	再取付	
		S	1 個	煙感知器 2種 露出型	再取付	
		S(新)	1 個	煙感知器 2種 露出型	新 設	
	会議室	T	2 個	電話機 壁付型	再取付	
		▽	1 個	天井スピーカー 埋込型	再取付	
		⊠	4 個	スピーカー 壁掛型	再取付	
		⊘	1 個	アッテネーター 金属プレート付	再取付	
		◉MJ	1 個	マイクジャック 金属プレート付	再取付	

階	室 名	記 号	台数	改修 仕様	改修 区分	備 考
1F	会議室	◎2	1 個	テレビジャック×2 金属プレート付	再取付	
		▭	1 面	弱電接続端子盤 埋込型	再取付	
	ホール	S	1 個	煙感知器 2種 露出型	再取付	
		⑤	3 個	煙感知器 3種 露出型	再取付	
	廊 下	▽	1 個	天井スピーカー 埋込型	再取付	
		⑤	1 個	煙感知器 3種 露出型	再取付	
	電気室	S	2 個	煙感知器 2種 露出型	再取付	
		S(新)	2 個	煙感知器 2種 露出型	新 設	
	資料室	S	1 個	煙感知器 2種 露出型	再取付	
	廊 下 (会議室入り口前)	S(新)	1 個	煙感知器 2種 露出型	新 設	

＜配管配線凡例＞

AE	EM-AE 1.2-2C	天井内ころがし(保護管PFS16)	
AE	EM-AE 1.2-2C	天井内ころがし	
EBT	EM-EBT 0.4-2P	天井内ころがし(保護管PFS16)	
EBT	EM-EBT 0.4-2P×2	天井内ころがし(保護管PFS16)	
5C	EM-5C-2E	天井内ころがし(保護管PFS16)	
MVVS	EM-MEES 0.75-2C	天井内ころがし(保護管PFS16)	
AE0.9	EM-AE 0.9-4C	(E19)	露出配管
EBT	EM-EBT 0.4-2P	(HIVE16)	露出配管
5C	EM-5C-2E	((19))	埋込配管
MMA▼	立下げ部メタルモールA型(天井面にコーナーBOX取付)		
	0.BOX 樹脂製		

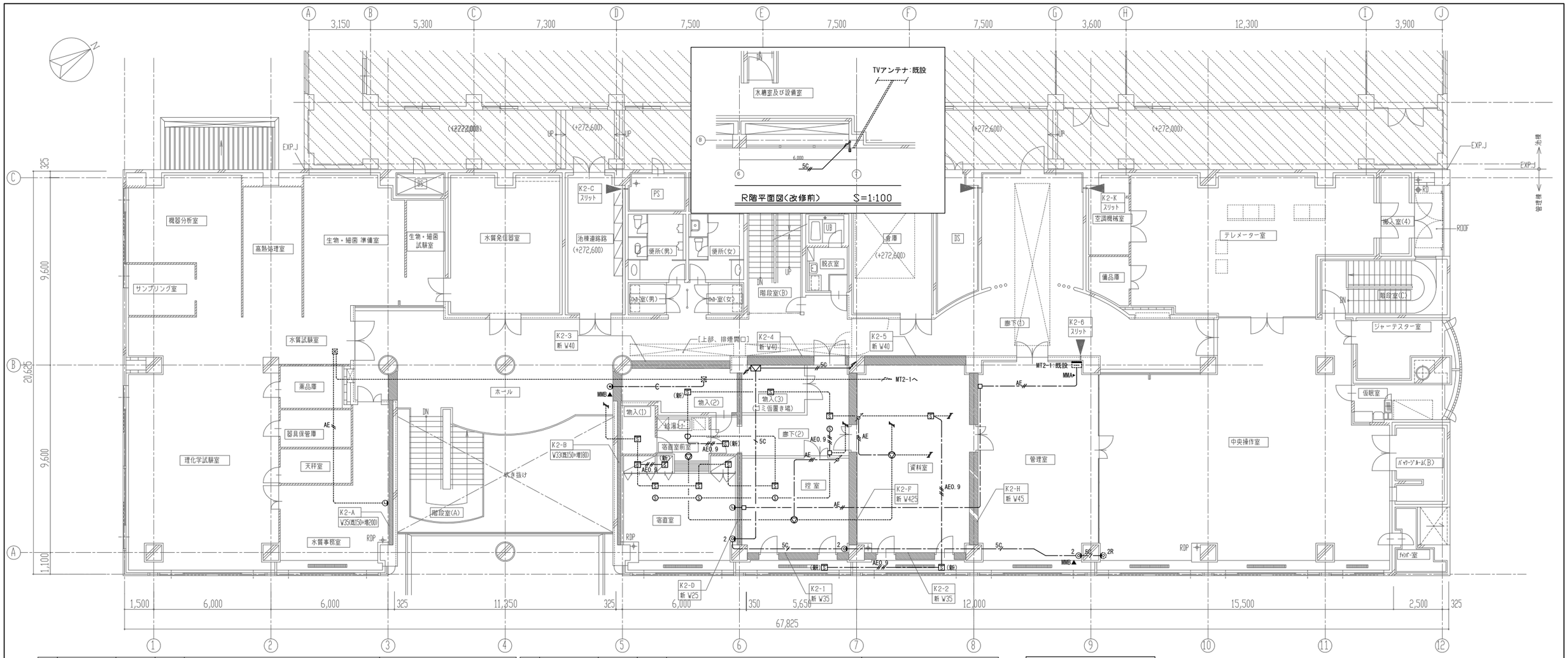
※ (( ))表記の配管は既設流用とする。

注記1. ---------- 点線表示の配管配線・器具類は既設現況のままとする。
注記2. 工事完了時に回路のチェック及び回路、機器等の絶縁測定を行うこと。
注記3. 相違部分に於いては監督員と協議の上、決定の事。
注記4. 自動火災報知設備は消防と事前協議を行うこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	1階 弱電・火報設備平面図(改修後)
縮尺	1/100
制作年月日	
設計番号	
図番	AE－6

承認印: 局長 / 次長 / 課長 / 係長 / 係

十勝中部広域水道企業団



階	室 名	記 号	台数	改修 仕様	改修 区分	備考
2F	水質事務室	⏲	1 個	子時計　露出型	再取付	
	ホール	◉	1 個	ノズルプレート　金属製	再取付	
	物入(2)	S(新)	1 個	煙感知器　2種　露出型	新　設	
	物入(3)	▽	1 面	テレビ機器収納盤	再取付	
		S	1 個	煙感知器　2種　露出型	再取付	
	宿直室 宿直室前室	⏲	1 個	子時計　露出型	再取付	
		◎2	1 個	テレビジャック×2 金属プレート付	再取付	
		▽	1 個	天井スピーカー　埋込型	再取付	
		S	4 個	煙感知器　2種　露出型	再取付	
		S	2 個	煙感知器　3種　露出型	再取付	
		Φ	1 個	定温式感知器　1種　露出型	再取付	
		S(新)	1 個	煙感知器　2種　露出型	新　設	
	物入(1)	S	1 個	煙感知器　2種　露出型	再取付	
	廊下(2)	S	1 個	煙感知器　2種　露出型	再取付	
		S	1 個	煙感知器　3種　露出型	再取付	
		S(新)	1 個	煙感知器　2種　露出型	新　設	

階	室 名	記 号	台数	改修 仕様	改修 区分	備考
2F	控 室	▽	1 個	天井スピーカー　埋込型	再取付	
		✎	1 個	アッテネーター 金属プレート付	再取付	
		◎2	1 個	テレビジャック×2 金属プレート付	再取付	
		□	1 個	フラッシュプレート　金属製	新　設	
		S	1 個	煙感知器　2種　露出型	再取付	
		S	1 個	煙感知器　3種　露出型	再取付	
		S(新)	1 個	煙感知器　2種　露出型	新　設	
	資料室	▽	1 個	天井スピーカー　埋込型	再取付	
		✎	1 個	アッテネーター 金属プレート付	再取付	
		S	1 個	煙感知器　2種　露出型	再取付	
		S(新)	1 個	煙感知器　2種　露出型	新　設	
	管理室	◎2	1 個	テレビジャック×2 金属プレート付	再取付	
		□	1 個	フラッシュプレート　金属製	新　設	

2階平面図(改修後)

＜配管配線凡例＞

AE	EM-AE 1.2-2C	天井内ころがし(保護管PFS16)
AE	EM-AE 1.2-2C	天井内ころがし
AE0.9	EM-AE 0.9-4C	天井内ころがし
5C	EM-5C-2E	天井内ころがし(保護管PFS16)
5C	EM-5C-2E×2	((25))　埋込配管
MMA▼	立下げ部メタルモールA型(天井面にコーナーBOX取付)	
MMB▼	立下げ部メタルモールB型(天井面にコーナーBOX取付)	
C	C (PFS16)	天井内インペイ
□	0.BOX 樹脂製	

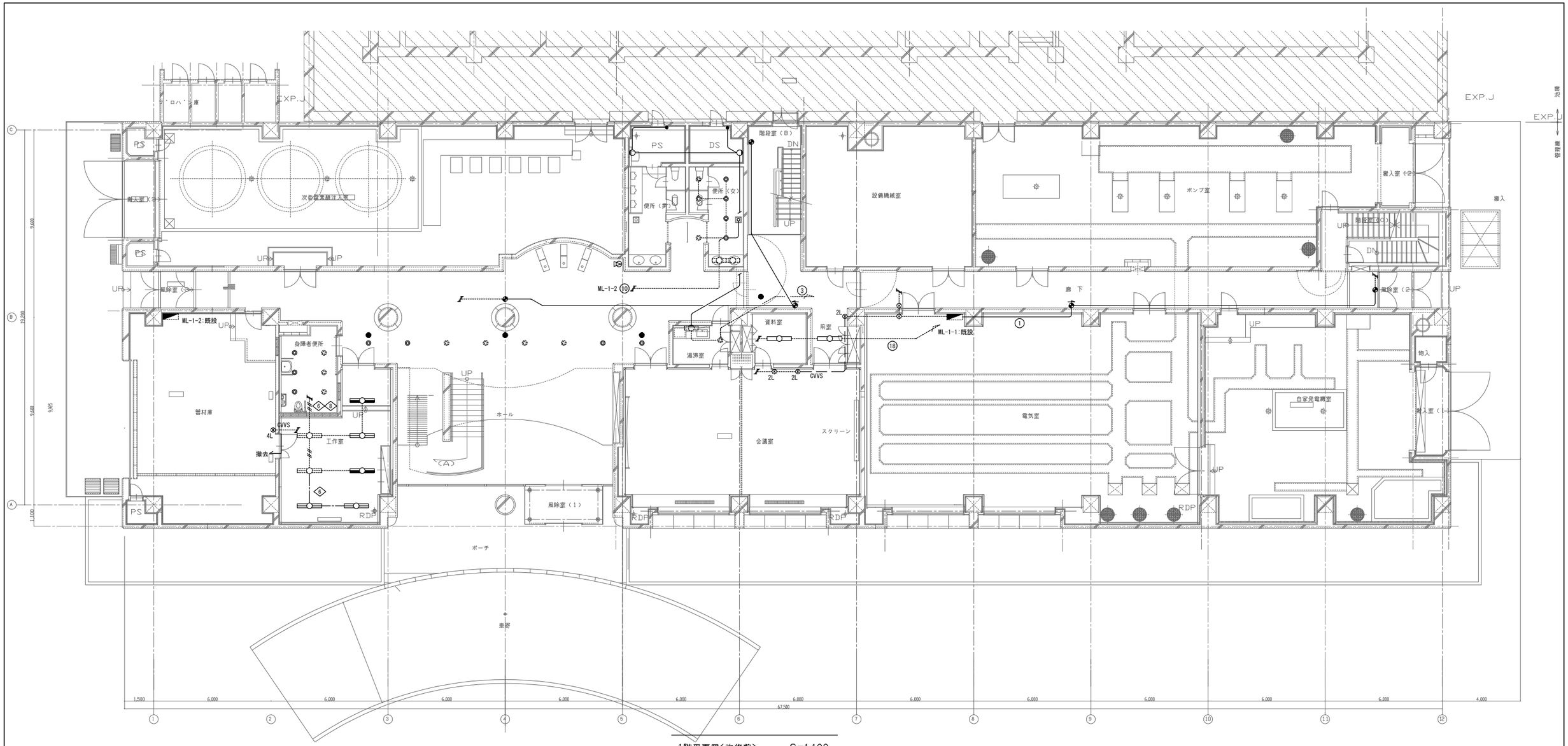
※　(( ))表記の配管は既設流用とする。

注記1.　---------- 点線表示の配管配線・器具類は既設現況のままとする。
注記2.　工事完了時に回路のチェック及び回路、機器等の絶縁測定を行うこと。
注記3.　相違部分に於いては監督員と協議の上、決定の事。
注記4.　自動火災報知設備は消防と事前協議を行うこと。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	2階 弱電・火報設備平面図(改修後)
縮尺	1/100
制作年月日	
設計番号	
図番	AE - 7

承認印	局長	次長	課長	係長	係

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団



1階平面図(改修前)　　S=1:100

階	室 名	記 号	台数	既設 仕様	既設 区分	備 考
1F	器材庫	⑧ 4L	1 個	リモコンスイッチ 4L 金属プレート付	取外し	
	工作室		3 台	照明器具 FL40W×2 埋込型	取外し	
			2 台	非常用照明器具 FL40W×2 埋込型	取外し	
	身障者便所	◎	3 台	ダウンライト	取外し	
	ホール		1 台	スポットライト	取外し	
		◎	4 台	ダウンライト	取外し	
		●	2 台	非常灯 ハロゲン23W 埋込型	取外し	
			1 台	避難口誘導灯 10W 露出型	取外し	
	便所(女子)	◎	4 台	ダウンライト	取外し	
		○	1 台	照明器具 IL40W ガラスカバー付	撤 去	

階	室 名	記 号	台数	既設 仕様	既設 区分	備 考
1F	資料室		1 台	照明器具 FL40W×1 V型 露出	撤 去	
	会議室	⑧ 2L	1 個	リモコンスイッチ 4L	取外し	
	前 室		1 台	照明器具 FL40W×1 埋込型	撤 去	
		⑧ 2L	1 個	リモコンスイッチ 2L 金属プレート付	撤 去	
	廊 下		2 台	通路誘導灯 10W 埋込型	撤 去	
			1 台	通路誘導灯 10W	取外し	
		●	1 台	非常灯 ハロゲン23W 埋込型	取外し	
	階段室(B)		1 台	通路誘導灯 10W	取外し	
	PS・DS		2 台	ブラケット IL40W 露出型	取外し	
		●	2 個	スイッチ 1P15A×1 金属プレート付	取外し	

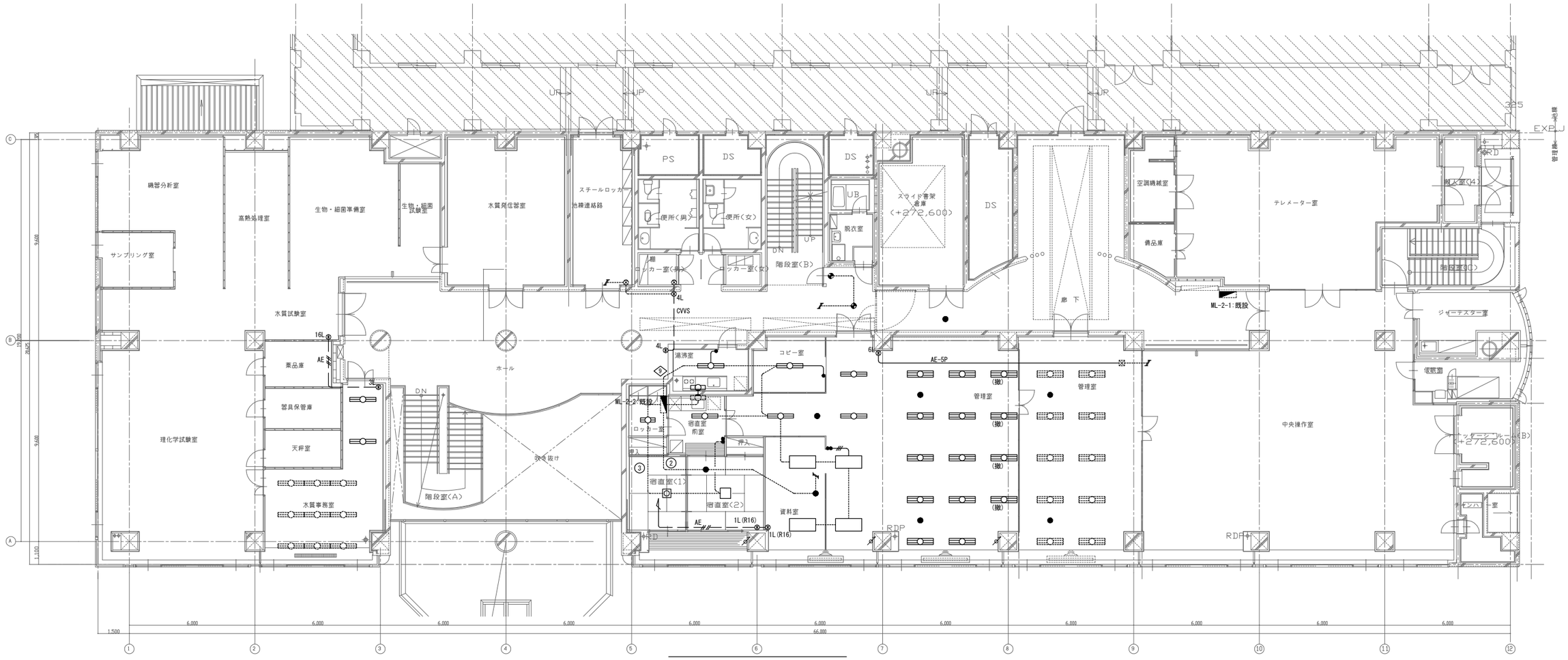
<配管配線凡例>

——-——-——	IV 2.0×2	(19)	インペイ	撤 去
————————	IV 2.0×2	((19))	埋込配管	撤 去
CVVS ----------	CVVS 1.25sq-2C	(25)	露出配管	撤 去
CVVS ————————	CVVS 1.25sq-2C	((25))	埋込配管	撤 去
CVVS __ __ __	CVVS 1.25sq-2C	((25))	床埋込配管	撤 去

※ (( ))表記の配管は現況のままとする。

注記1. ---------- 点線表示の配管配線・器具類は既設現況のままとする。
注記2. 撤去工事に際し事前調査を行い安全確認の上、施工を行うこと。
注記3. 相違部分に於いては監督員と協議の上、決定の事。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	1階 照明設備平面図(改修前)						
縮尺	1/100					制作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	AE－8
十勝中部広域水道企業団							



2階平面図(改修前)　　S=1:100

階	室名	記号	台数	既設 仕様	既設 区分	備考
2F	水質事務室	⊛ 3L	1 個	リモコンスイッチ 3L 金属プレート付	取外し	
		⊛ 16L	1 個	リモコンスイッチ 16L 金属プレート付	取外し	
		═○═	2 台	照明器具 FL40W×2 埋込型	取外し	
	ホール	⊛ 4L	2 個	リモコンスイッチ 4L 金属プレート付	取外し	
		◕	1 台	誘導灯 FL10W	取外し	
	湯沸室	═○═	1 台	照明器具 FL40W×2 埋込型	取外し	
		⊏○⊐	1 台	照明器具 FL20W×1 露出型	撤 去	
		●	1 個	スイッチ 1P15A×1 金属プレート付	取外し	
	ロッカー室	⊏○⊐	1 台	照明器具 FL20W×2 露出型	取外し	
	宿直室(1)(2) 宿直室前室	◎	1 台	照明器具 FCL30W+40W 露出型	撤 去	
		□	1 台	照明器具 FL20W×5 FSF4A-205 露出型	撤 去	
		═○═	1 台	照明器具 FL40W×2 埋込型	取外し	
		●	1 台	非常灯 ミニハロゲン23W 埋込型	取外し	
		⊛ 1L	1 個	リモコンスイッチ 1L 金属プレート付	取外し	ファンコン用
		⊀	1 個	電動ブラインドスイッチ 金属プレート付	取外し	

階	室名	記号	台数	既設 仕様	既設 区分	備考
2F	コピー室	═○═	1 台	照明器具 FL40W×2 埋込型	取外し	
		●	1 個	スイッチ(パーティション用) 1P15A×1 金属プレート付	撤 去	
	資料室	▭	2 台	照明器具 FL40W×4 埋込型 ルーバ付	取外し	
		●	1 台	非常灯 ミニハロゲン23W 埋込型	取外し	
		●●	1 個	スイッチ(パーティション用) 1P15A×2 金属プレート付	撤 去	
		⊛ 1L	1 個	リモコンスイッチ 1L 金属プレート付	取外し	ファンコン用
	管理室	═○═	10 台	照明器具 FL40W×3 埋込型 ルーバ付	取外し	
		═○═ (撤)	4 台	照明器具 FL40W×3 埋込型 ルーバ付	撤 去	
		▭	2 台	照明器具 FL40W×4 埋込型 ルーバ付	取外し	
		═○═	3 台	照明器具 FL40W×2 埋込型	取外し	
		⊛ 6L	1 個	リモコンスイッチ 6L 金属プレート付	取外し	
		⊀	2 個	電動ブラインドスイッチ 金属プレート付	取外し	
		●	2 台	非常灯 ミニハロゲン23W 埋込型	現況のまま	
		●	3 台	非常灯 ミニハロゲン23W 埋込型	取外し	
	廊 下	●	1 台	非常灯 ミニハロゲン23W 埋込型	取外し	

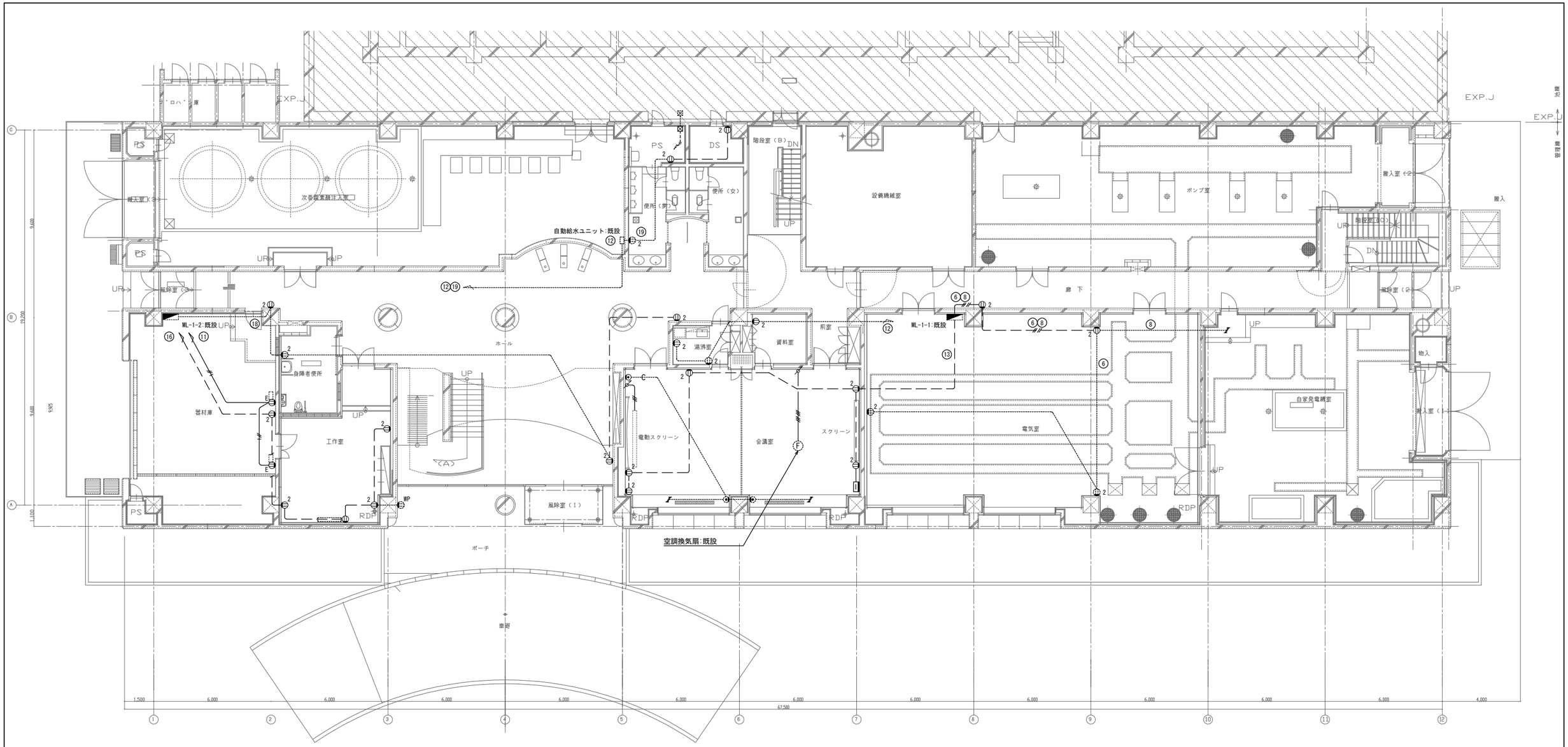
<配管配線凡例>

———	IV 2.0×2	(19)	インペイ	撤 去
———//———	IV 2.0×3	((19))	埋込配管	撤 去
AE-5P ———	AE 0.9-5P	((19))	埋込配管	撤 去
AE ———//———	AE 0.9-4C	((19))	埋込配管	撤 去
CVVS — — —	CVVS 1.25sq-2C	((25))	床埋込配管	撤 去

※ (( ))表記の配管は現況のままとする。

注記1. ---------- 点線表示の配管配線・器具類は既設現況のままとする。
注記2. 撤去工事に際し事前調査を行い安全確認の上、施工を行うこと。
注記3. 相違部分に於いては監督員と協議の上、決定の事。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	2階 照明設備平面図(改修前)							
縮尺	1/100						制作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	AE - 9
十勝中部広域水道企業団								



1階平面図（改修前）　S=1:100

階	室 名	記 号	台数	既設 仕様	既設 区分	備 考
1F	器材庫	◍2	1 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	取外し	
		◍E	2 個	コンセント 2P15A×1 接地付 金属プレート付	取外し	ユニットヒーター用
	工作室	◍	1 個	コンセント 2P15A×1 金属プレート付	取外し	
		◍2	3 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	取外し	
	ホール	◍2	3 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	取外し	
	会議室	◍2	5 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	取外し	
		◉	1 枚	フラッシュプレート 金属プレート付	取外し	
		✐	1 個	空調換気扇スイッチ 金属プレート付	取外し	
		✐	1 個	電動スクリーンスイッチ 金属プレート付	取外し	
		▭	1 面	弱電接続端子盤 別図による。		

階	室 名	記 号	台数	既設 仕様	既設 区分	備 考
1F	資料室	◍2	1 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	**取外し**	
	廊 下	◍2	1 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	**取外し**	
	電気室	◍2	1 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	**取外し**	
	PS・DS	◍2	2 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	取外し	

＜配管配線凡例＞

———	IV 2.0×2	((19))	埋込配管	撤 去
———////	IV 2.0×6	((25))	埋込配管	撤 去
———//1	IV 2.0×2 E2.0	((19))	埋込配管	撤 去
— — — —	IV 2.0×2	((19))	床埋込配管	撤 去
— —//— —	IV 2.0×4	((25))	床埋込配管	撤 去
———///	IV 1.2×3	((19))	埋込配管	撤 去
⊠	P.BOX 250×250×200(鋼板製)			撤 去

※ (( ))表記の配管は現況のままとする。

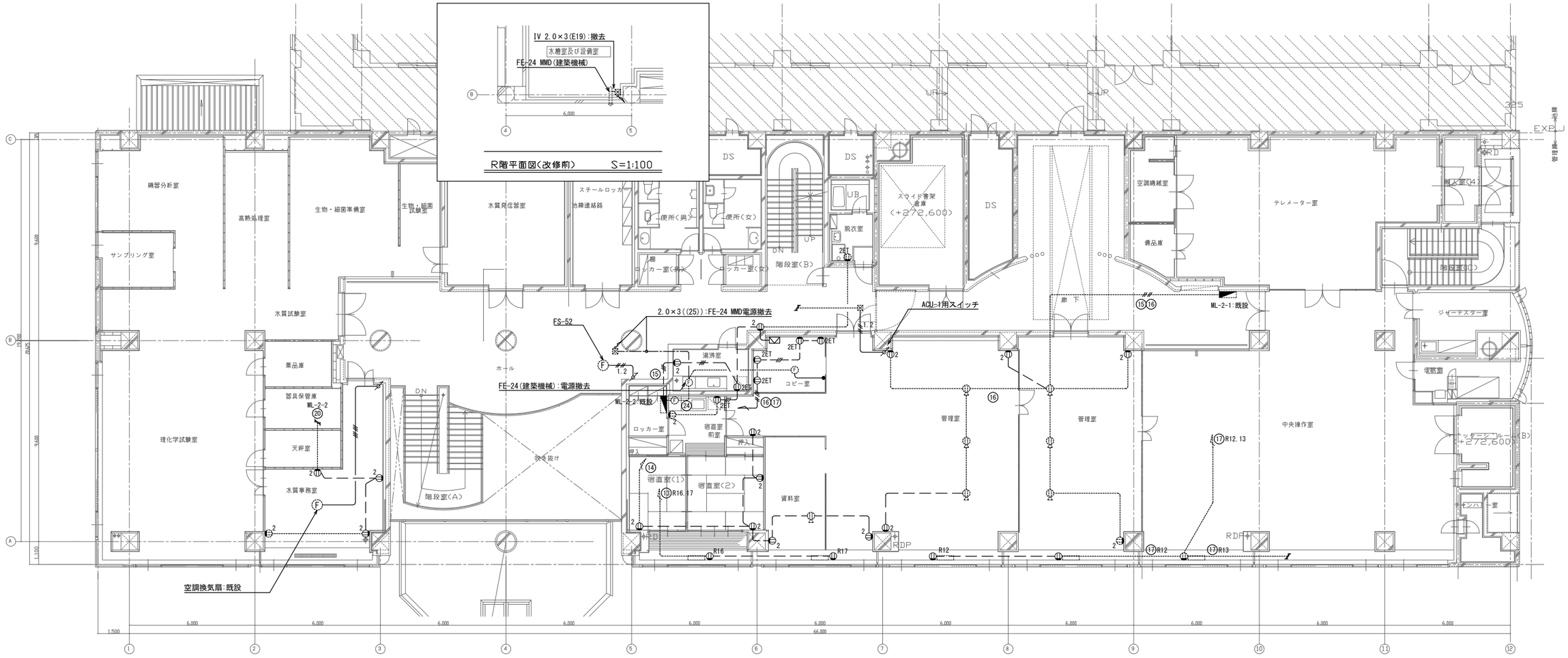
注記1. ---------- 点線表示の配管配線・器具類は既設現況のままとする。
注記2. 撤去工事に際し事前調査を行い安全確認の上、施工を行うこと。
注記3. 相違部分に於いては監督員と協議の上、決定の事。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	1階 コンセント設備平面図(改修前)
縮尺	1/100
制作年月日	
設計番号	
図番	AE－10

承認印	局長	次長	課長	係長	係

十 勝 中 部 広 域 水 道 企 業 団

R階平面図(改修前)　S=1:100



2階平面図(改修前)　S=1:100

階	室名	記号	台数	既設 仕様	既設 区分	備考
2F	水質事務室	⊕2	3 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	取外し	
		✓	1 個	空調換気扇スイッチ 金属プレート付	取外し	
	ホール	⊕2	1 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	取外し	
		✓	1 個	給気ファンスイッチ 金属プレート付	取外し	
	湯沸室	⊕2	1 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	取外し	
		⊕2ET	1 個	コンセント 2P15A×2 接地端子付 金属プレート付	取外し	
	コピー室	⊕2ET	4 個	コンセント 2P15A×2 接地端子付 金属プレート付	取外し	
		●	1 個	スイッチ(パーティション用) 1P15A×1 金属プレート付	撤去	
		⊠	1 面	テレビ機器収納盤 別図による。	取外し	
	宿直室(1)(2) 宿直室前室	⊕	1 個	コンセント 2P15A×1 金属プレート付	取外し	ファンコン用
		⊕2	3 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	取外し	
		⊕2ET	1 個	コンセント 2P15A×2 接地端子付 金属プレート付	取外し	

階	室名	記号	台数	既設 仕様	既設 区分	備考
2F	資料室	⊕2	1 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	**取外し**	
	管理室	⊕	3 個	コンセント 2P15A×1 金属プレート付	**取外し**	ファンコン用
		⊕2	6 個	コンセント 2P15A×2 金属プレート付	**取外し**	
		✓	1 個	外調機(ACU-1)スイッチ 金属プレート付	取外し	

<配管配線凡例>

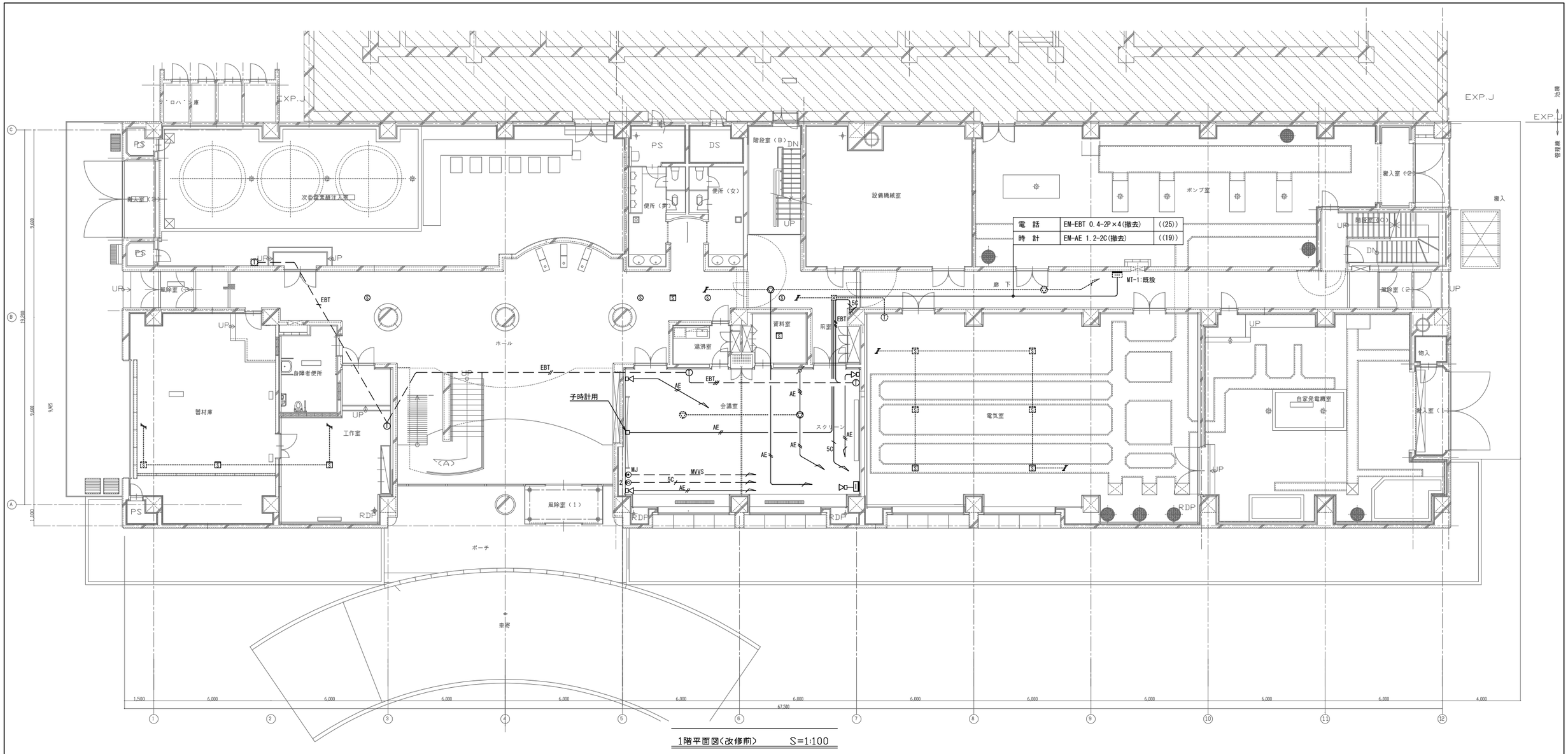
———	IV 2.0×2	((19))	埋込配管	撤去
———//———	IV 2.0×6	((25))	埋込配管	撤去
— — — —	IV 2.0×2	((19))	床埋込配管	撤去
— —//— —	IV 2.0×3	((19))	床埋込配管	撤去
— —//—//— —	IV 2.0×5	((25))	床埋込配管	撤去
1.2 ———	IV 1.2×4	((25))	埋込配管	撤去

※　(( ))表記の配管は現況のままとする。

注記1.　---------- 点線表示の配管配線・器具類は既設現況のままとする。
注記2.　撤去工事に際し事前調査を行い安全確認の上、施工を行うこと。
注記3.　相違部分に於いては監督員と協議の上、決定の事。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業						
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事						
名称	2階 コンセント設備平面図(改修前)						
縮尺	1/100					制作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係	設計番号	
						図番	AE－11

十勝中部広域水道企業団



1階平面図(改修前)　　S=1:100

階	室名	記号	台数	既設 仕様	既設 区分	備考
1F	器材庫	S	1 個	煙感知器 2種 露出型	取外し	
	工作室	T	1 個	電話機 壁付型	取外し	
		S	1 個	煙感知器 2種 露出型	取外し	
	会議室	T	2 個	電話機 壁付型	取外し	
		▽	1 個	天井スピーカー 埋込型	取外し	
		▷◁	4 個	スピーカー 壁掛型	取外し	
		⌀	1 個	アッテネーター 金属プレート付	取外し	
		MJ	1 個	マイクジャック 金属プレート付	取外し	
		2	1 個	テレビジャック×2 金属プレート付	取外し	
		□	1 個	子時計用BOX	撤去	
		▭	1 面	弱電接続端子盤 埋込型	取外し	

階	室名	記号	台数	既設 仕様	既設 区分	備考
1F	ホール	S	1 個	煙感知器 2種 露出型	取外し	
		S	3 個	煙感知器 3種 露出型	取外し	
	廊下	▽	1 個	天井スピーカー 埋込型	**取外し**	
		S	1 個	煙感知器 3種 露出型	取外し	
	電気室	S	2 個	煙感知器 2種 露出型	取外し	
	資料室	S	1 個	煙感知器 2種 露出型	取外し	

＜配管配線凡例＞

AE	AE 1.2-2C	((19))	埋込配管	撤去
AE	AE 1.2-3C	((19))	埋込配管	撤去
AE	AE 1.2-4C	((19))	埋込配管	撤去
EBT	EBT 0.4-2P×4	((25))	埋込配管	撤去
5C	5C-2V	((19))	埋込配管	撤去
EBT	EBT 0.4-2P	((19))	床埋込配管	撤去
EBT	EBT 0.4-2P×2	((19))	床埋込配管	撤去
EBT	EBT 0.4-2P×3	((25))	床埋込配管	撤去
5C	5C-2V	((19))	床埋込配管	撤去
MVVS	MVVS 0.75-2C	((19))	埋込配管	撤去

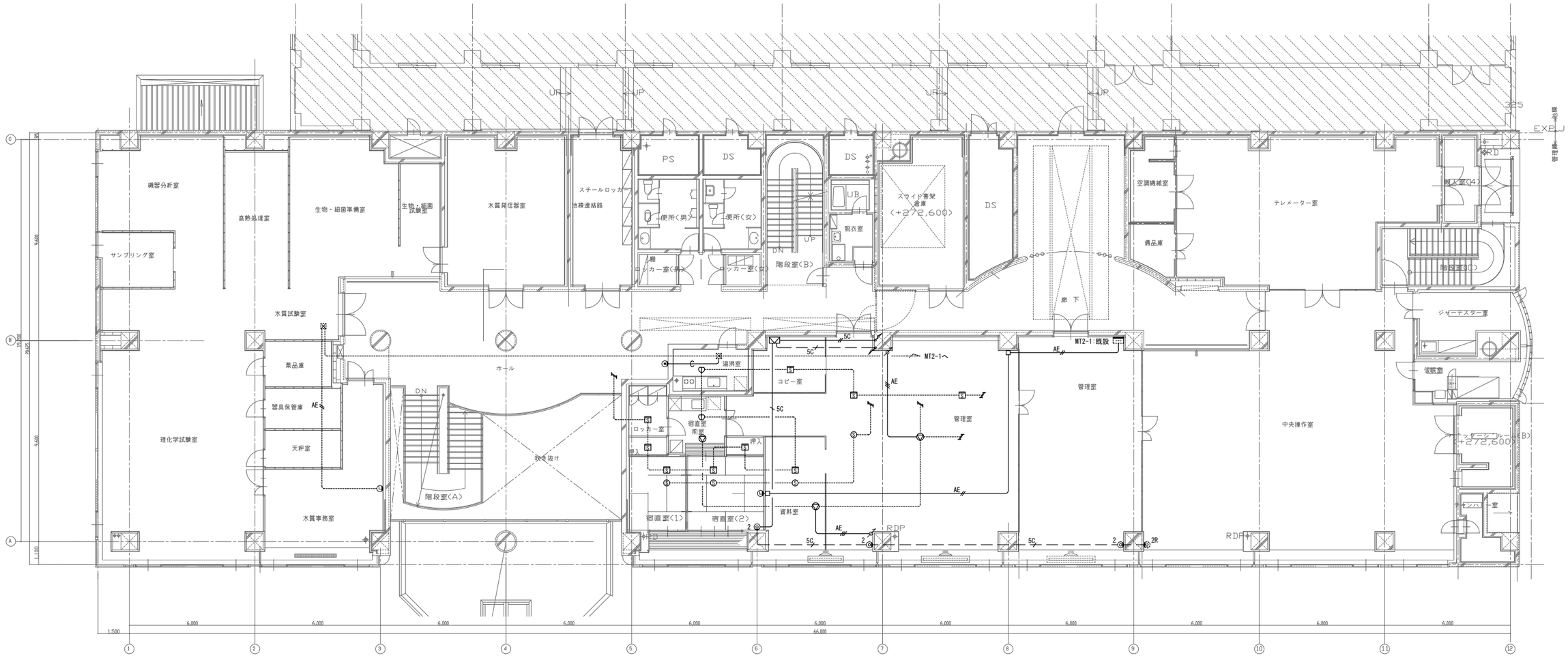
※ (( ))表記の配管は現況のままとする。

注記1. ---------- 点線表示の配管配線・器具類は既設現況のままとする。
注記2. 撤去工事に際し事前調査を行い安全確認の上、施工を行うこと。
注記3. 相違部分に於いては監督員と協議の上、決定の事。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事
名称	1階 弱電・火報設備平面図(改修前)
縮尺	1/100
制作年月日	
設計番号	
図番	AE－12

承認印	局長	次長	課長	係長	係

十勝中部広域水道企業団



2階平面図(改修前)　　S=1:100

階	室名	記号	台数	既設 仕様	既設 区分	備考
2F	水質事務室	⏲	1 個	子時計　露出型	取外し	
	ホール	◉	1 個	ノズルプレート　金属製	取外し	
	湯沸室	Ⓓ	1 個	定温式感知器　1種　防水	撤　去	
	コピー室	▽	1 面	テレビ機器収納盤	取外し	
		Ⓢ	1 個	煙感知器　2種　露出型	取外し	
	宿直室(1)(2) 宿直室前室	⏲	1 個	子時計　露出型	取外し	
		◎2	1 個	テレビジャック×2 金属プレート付	取外し	
		▽	1 個	天井スピーカー　埋込型	取外し	
		Ⓓ	1 個	定温式感知器　1種　防水	取外し	
		Ⓢ	4 個	煙感知器　2種　露出型	取外し	
		Ⓢ	2 個	煙感知器　3種　露出型	取外し	
	ロッカー室	Ⓢ	1 個	煙感知器　2種　露出型	取外し	

階	室名	記号	台数	既設 仕様	既設 区分	備考
2F	資料室	▽	1 個	天井スピーカー　埋込型	取外し	
		□	1 個	子時計用BOX	撤　去	
		Ⓢ	1 個	煙感知器　2種　露出型	取外し	
		Ⓢ	1 個	煙感知器　3種　露出型	取外し	
	管理室	▽	1 個	天井スピーカー　埋込型	**取外し**	
		✓	2 個	アッテネーター 金属プレート付	**取外し**	
		◎2	2 個	テレビジャック×2 金属プレート付	**取外し**	
		Ⓢ	2 個	煙感知器　2種　露出型	取外し	
		Ⓢ	1 個	煙感知器　3種　露出型	取外し	
		□	1 個	子時計用BOX	撤　去	

＜配管配線凡例＞

AE	AE 1.2-2C	((19))	埋込配管	撤　去
AE	AE 1.2-3C	((19))	埋込配管	撤　去
5C	5C-2V	((19))	埋込配管	撤　去
5C	5C-2V×2	((25))	埋込配管	撤　去
5C	5C-2V	((19))	床埋込配管	撤　去
C	C	(19)	埋込配管	躯体共に撤去

※　(( ))表記の配管は現況のままとする。

注記1.　---------- 点線表示の配管配線・器具類は既設現況のままとする。
注記2.　撤去工事に際し事前調査を行い安全確認の上、施工を行うこと。
注記3.　相違部分に於いては監督員と協議の上、決定の事。

事業名	十勝中部広域水道用水供給事業							
工事名	なかとかち浄水場管理棟耐震補強工事							
名称	2階 弱電・火報設備平面図(改修前)							
縮尺	1/100						制作年月日	
承認印	局長	次長	課長	係長	係		設計番号	
							図番	AE－13
十勝中部広域水道企業団								